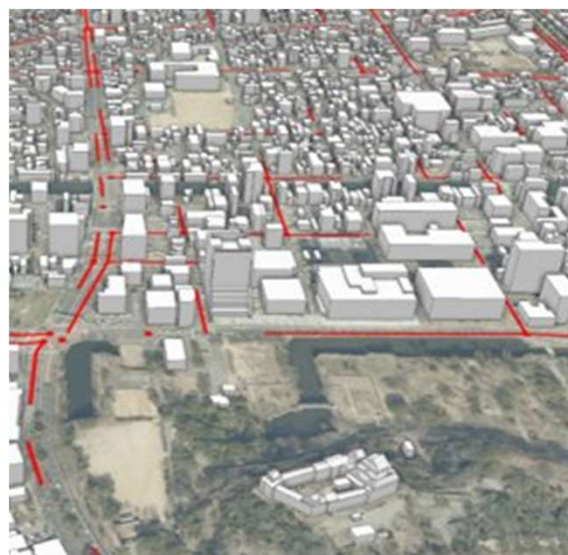
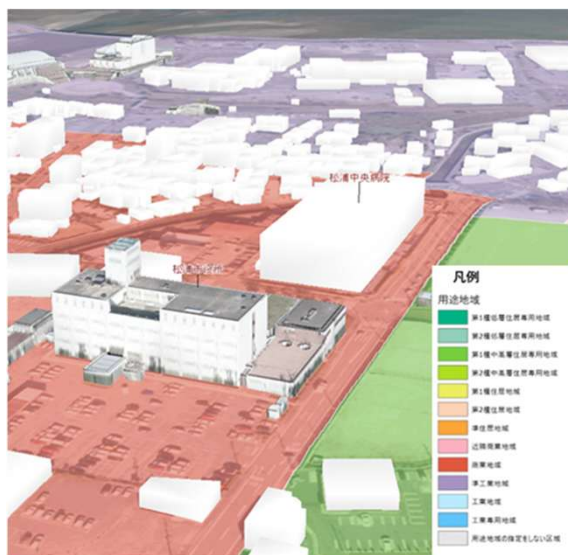
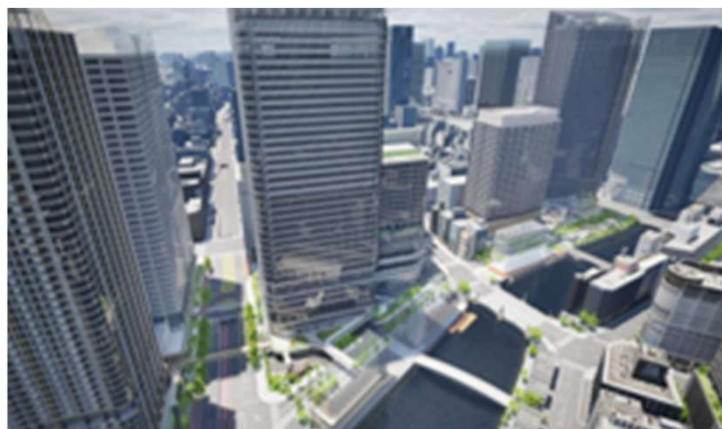


# 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業） 取組事例集（令和6年度）



Copyright © 2024 by MLIT. All rights reserved.

# 目次

## I. Project PLATEAUについて

- 1. Project PLATEAUとは ————— 2
- 2. 3D都市モデルとは ————— 3
- 3. 整備都市 ————— 4

## II. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）の概要

- 1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）とは ————— 6

## III. 令和6年度採択団体別事業内容

- 1. 採択団体一覧 ————— 8
- 2. 団体別事業内容 ————— 14

## IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

- 1. 採択団体一覧 ————— 240
- 2. 団体別事業内容 ————— 241



# I. Project PLATEAUについて

## 1. Project PLATEAUとは

- **Project PLATEAU（プラトー）** は、スマートシティをはじめとしたまちづくりのデジタルトランスフォーメーションを進めるため、そのデジタル・インフラとなる **3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を推進する国土交通省のプロジェクト**。
- 国の取組として **標準データモデルの策定や先進技術を活用したユースケース開発**を進めるとともに、**地方公共団体におけるデータ整備やユースケースの社会実装を支援**。

2020FY-2021FYの取組	2022FY-2023FYの取組	2024FYの取組
<b>標準データモデルの開発/オープンデータ化</b> <p>3D都市モデルは、建物等の三次元形状と用途や構造等の属性情報をパッケージでデータ化することで都市空間のデジタルツインを実現する技術。</p>  <p>3D都市モデル（札幌駅周辺）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 国際標準に基づくオープンフォーマットを日本データモデルとして採用し、オープンな活用が可能。</li> <li>➢ プロトタイプとしてこれまで約60都市のデータを整備し、オープンデータ化。</li> </ul>	<b>国による技術開発/リーディングケース創出</b> <p>標準データモデルの拡張、先進的なユースケースの技術検証、民間市場形成支援等を国のプロジェクトとして実施。</p>  <p>2022FYリリースのCityGML3.0</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ データ整備の効率化・高度化 最新の国際標準の取込み/効率的な更新スキーム確立</li> <li>➢ 先進的なユースケース開発 先進技術を取り入れたユースケース開発</li> <li>➢ データ・カバレッジの拡大 リーガル面の課題整理/人材育成プログラム開発 等</li> </ul>	<b>データ・カバレッジの拡大/ベストプラクティスケース開発</b> <p>データ整備の高度化・効率化、ユースケースのベストプラクティス開発、民間市場形成支援等を国のプロジェクトとして実施。</p>  <p>EBPMを促進する公園管理DX v2.0 ユースケース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ データ整備の高度化・効率化 標準データモデルの拡張や最新技術を取り込んだデータ整備手法の開発を実施。</li> <li>➢ ユースケースのベストプラクティス創出 先進的な技術分野と連携し、ユースケースのベストプラクティスを創出するためのPoCを実施。</li> <li>➢ 民間市場形成支援 各地で開催されたアイデアソン、ハッカソン等にて、PLATEAUの可能性を訴求。</li> </ul>
<b>プロトタイプとなるユースケース開発</b> <p>防災、環境、まちづくり、モビリティなどの分野で3D都市モデルの政策活用や民間サービス創出の手法を開発し、ユースケースの社会実装フェーズを準備。</p>   <ul style="list-style-type: none"> <li>● 三次元リスク分析を踏まえた防災計画（郡山市） ✓ 災害リスクを3次元化し、建物データ合わせて分析することで、「垂直避難可能な建物」を特定し、防災計画立案に活用。</li> <li>● 太陽光発電ポテンシャルのシミュレーション（石川町） ✓ 建物ごとの屋根形状を解析し、都市全体の太陽光発電ポテンシャルをシミュレーション。地域の脱炭素政策に活用。</li> </ul>	<b>地方公共団体による3D都市モデルの社会実装</b> <p>地方自治体によるデータ整備・更新、ユースケース開発、オープンデータ化等の3D都市モデルの社会実装を支援。</p> <p>➢ 全国198都市でデータ整備、ユースケース開発等を実施。</p>    <p>インフラマネジメント効率化 災害リスクマッピングへの活用 防犯カメラ有効範囲の可視化</p>	<b>オープン・イノベーション創出/地域の社会実装</b> <p>情報発信・コミュニティ形成、地方自治体による社会実装の拡大等を国のプロジェクトとして実施。</p>  <p>自治体交流会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 新たに26都市、令和6年までに222都市でデータ整備、ユースケース開発等を実施。</li> <li>➢ 地方公共団体向けのPLATEAU交流イベント「PLATEAUサミット 2024（自治体交流会）in 広島」や3D都市モデルの操作等を学ぶ出前講座を開催。</li> </ul>

# I. Project PLATEAUについて

## 2. 3D都市モデルとは

- 3D都市モデルとは、国土交通省都市局の標準に則って作成された、建築物、道路、土木構造物等の**現実の都市に存在する様々なオブジェクトの三次元形状と意味情報をパッケージとして記述した地理空間データ**。
- これまでの三次元データとは異なり、①建築物の用途や建築年といった**意味情報を保持可能**、② **データ連携やソフトウェア連携が円滑**、③地方公共団体の**保有データから効率的に整備可能**、④地域の課題に応じて**保持情報をカスタマイズ可能**。

### ① 3D都市モデルの整備

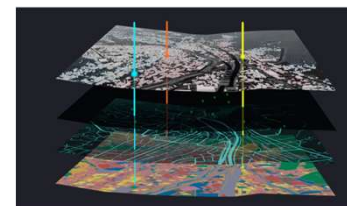
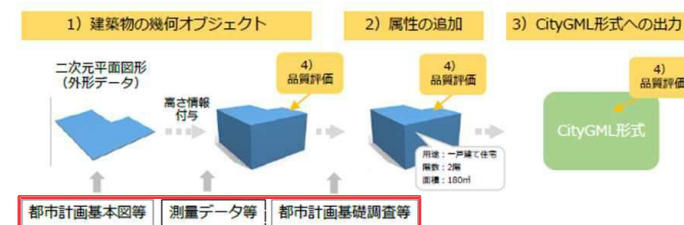
- 3D都市モデルの基本的なデータソースは①都市計画基本図（基盤地図情報）、②都市計画基礎調査、③公共測量成果（航空写真又はLP）の「3点セット」。
- いずれも3D都市モデルの有無に関わらず、地方公共団体が定期的に収集・作成しているデータから整備することが可能（追加のデータ取得費用は不要）。

### ② 3D都市モデルの活用

- 3D都市モデルの「形状」の情報や用途、地区年数、行政計画などの「意味」の情報を活用することで、様々な分野でのシミュレーション、分析に活用可能。
- 3D都市モデルは、特定のソフトウェアに依存しない、国際標準かつオープンな規格によって記述されたデータであるため、GIS（地理空間情報システム）やゲームエンジン、CG、CAD、BIMソフトなど、多様な分野のソフトウェアで利用可能。

### ③ 3D都市モデルのオープンデータ化

- 3D都市モデルは多様かつ豊富な情報量を持つデータであるため、民間や大学など様々な主体が利用可能な形で公開することで、多様な領域におけるオープンイノベーションの創出が期待される。
- そのためProject PLATEAUでは、二次利用・商用利用可能な形でオープンデータ化すること（CCBY4.0）を基本としている。その際、オープンデータ化に支障のある情報項目等については除いた形でオープン化することも可能であるが、補助事業を活用する際は、プロジェクトの趣旨に鑑みて、可能な限りオープンデータ化することとなっている。



長野県茅野市  
開発許可のDX





PLATEAU  
by MLIT

# I. Project PLATEAUについて

## 3. 整備都市

- 令和6年度末までに、**全国約250都市の3D都市モデルを整備**。
- 整備したデータは一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会が運用する「**G空間情報センター**」において**ダウンロードが可能**。

地方公共団体名		地方公共団体名		地方公共団体名		地方公共団体名		地方公共団体名		地方公共団体名		地方公共団体名		地方公共団体名	
北海道	札幌市	埼玉県	春日部市	東京都	調布市	神奈川県	厚木市	静岡県	静岡市	愛知県	名古屋	鳥取県	鳥取市	福岡県	北九州市
	室蘭市		越谷市		町田市		箱根町		浜松市		岡崎市		米子市		福岡市
	更別村		蕨市		小金井市		新潟市		沼津市		豊橋市		境港市		大牟田市
青森県	むつ市		戸田市		小平市	熱海市	三島市		日吉津村	久留米市					
岩手県	盛岡市		志木市		日野市	長岡市	富士宮市		春日井市	飯塚市					
宮城県	宮古市		新座市		東村山市	加茂市	伊東市		豊川市	宗像市					
宮城県	仙台市		久喜市		国分寺市	上越市	島田市		津島市	古賀市					
秋田県	大館市		八潮市		国立市	高岡市	安城市		豊田市	うきは市					
福島県	福島市		富士見市		福生市	氷見市※	日進市		岡崎市	筑前町					
	郡山市		三郷市		狛江市	射水市	磐田市		倉敷市	鳥栖市					
	いわき市	蓮田市	東大和市	金沢市	焼津市	備前町	武雄市								
	白河市	吉川市	清瀬市	七尾市 ※	掛川市	早島町	小城市								
	相馬市	幸手町	東久留米市	輪島市※	藤枝市	広島市	大町町								
	南相馬市	鶴ヶ島市	武蔵村山市	珠洲市※	御殿場市	呉市	江北町								
茨城県	つくば市	伊奈町	多摩市	羽咋市※	袋井市	福山市	白石町								
	鉾田市	白岡市	稲城市	かほく市※	下田市	府中市	佐世保市								
	境町	三芳町	羽村市	津幡町※	裾野市	三次市	松浦市								
栃木県	宇都宮市	毛呂山町	あきる野市	内灘町※	湖西市	海田町	波佐見町								
群馬県	前橋市	上里町	西東京市	志賀町※	伊豆市	豊中市	周南市	熊本市							
	桐生市	宮代町	瑞穂町	宝達志水町※	御前崎市	池田市	徳島市	荒尾市							
	館林市	杉戸町	日の出町	中能登町※	菊川市	高槻市	高松市	玉名市							
埼玉県	さいたま市	松伏町	檜原村	穴水町※	伊豆の国市	河内長野市	さぬき市	宇城市							
	熊谷市	千葉市	奥多摩町	能登町※	牧之原市	和泉市	松山市	益城町							
	川口市	木更津市	大島町	山梨県	東伊豆町	摂津市	東温市	日田市							
	所沢市	茂原市	利島村	長野県	河津町	東大阪市	高知市	臼杵市							
	鴻巣市	柏市	新島村		南伊豆町	忠岡町	安芸市	延岡市							
東京都	加須市	八千代市	神津島村	諏訪市	松崎町	姫路市	香南市	鹿児島県	南さつま市						
		特別区(23区)	三宅村	伊那市	西伊豆町	加古川市	いの町	沖縄県	那覇市						
		八王子市	御蔵島村	茅野市	函南町	三木市									
		立川市	八丈町	茅野市	清水町	朝来市									
		武蔵野市	青ヶ島村	佐久市	長泉町	たつの市									
		三鷹市	横浜市	安曇野市	小山町	奈良市									
		青梅市	川崎市	岐阜市	吉田町	香芝市									
		府中市	相模原市	岐阜県	川根本町	和歌山市									
		昭島市	横須賀市	岐阜県	森町	田辺市									
			鎌倉市			すさみ町									
						太地町									

Open Dataサイトリンク :

G空間情報センターサイトリンク :

令和7年3月時点 (うち赤字は令和6年度新規整備都市)

※付きの地方公共団体はサンプルデータのため、G空間情報センターでのダウンロードは不可

Open Dataサイトリンク：  
➡ <https://www.mlit.go.jp/plateau/open-data/>

G空間情報センターサイトリンク：  
➡ <https://www.geospatial.jp/ckan/dataset/plateau>

令和7年3月時点（うち赤字は令和6年度新規整備都市）  
※付きの地方公共団体はサンプルデータのため、  
G空間情報センターでのダウンロードは不可

Copyright © 2024 by MLIT. All rights reserved.

# 目次

## I. Project PLATEAUについて

- 1. Project PLATEAUとは ————— 2
- 2. 3D都市モデルとは ————— 3
- 3. 整備都市 ————— 4

## II. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）の概要

- 1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）とは ————— 6

## III. 令和6年度採択団体別事業内容

- 1. 採択団体一覧 ————— 8
- 2. 団体別事業内容 ————— 14

## IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

- 1. 採択団体一覧 ————— 240
- 2. 団体別事業内容 ————— 241



## Ⅱ. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）の概要

### 1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）とは

- 地方公共団体における3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を推進するため、令和4年度に「都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）」を新たに創設。（初年度である令和4年度は37団体、令和5年度は48団体、令和6年度は57団体（当初）が本補助事業を活用）
- 地方公共団体ご担当者様及び受託事業者様に向けて「都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）ポータル」を開設。
- 本制度の交付要綱、モデル発注仕様書、地方公共団体による活用事例の紹介など、「都市空間情報デジタル基盤構築支援事業」への参画に役立つ情報や資料の入手が可能。（詳細は、補助ポータルを参照）
- 令和7年度より広域連合、間接補助が支援可能。（ほかに民間直轄ユースケースがある）

#### 3D都市モデル整備・活用に係る補助対象及び補助要件

##### 補助対象：

- (1) 3D都市モデルの整備に関する事業
- (2) 3D都市モデルの活用に関する事業
- (3) 3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化推進事業

#### 通常タイプ

##### 支援内容：

- 補助対象：都道府県、市区町村
- 補助率：1/2

##### 補助要件：

- ユースケースがあること  
注）原則、単年度で3D都市モデルの整備とユースケース開発を行うこととしている。  
ユースケース開発の場合のみの場合も原則として、単年度で成果を報告すること。
- 国が定める標準仕様書及び標準作業手順書に基づく国際標準規格であるCityGML形式でデータを作成すること
- 整備した3D都市モデルをG空間情報センター等にてオープンデータ化すること
- 整備した3D都市モデルを維持管理・更新すること

#### 早期実装タイプ（令和5年度創設）

##### 支援内容：

- 補助対象：都道府県、市区町村
- 補助率：補助率：10/10（上限1,000万円までの定額補助）※1,000万円を超える事業費は地方公共団体負担となる

##### 補助要件：

- 通常タイプの要件を満たすこと
- 事業計画の初年度の事業に限る（以降は通常タイプでの採択となる）
- 早期に課題解決や新たな価値創造が図られること（当該年度の事業において3D都市モデルの活用を達成すること）

#### 令和6年度採択団体一覧

岩手県	盛岡市	長野県	安曇野市	岡山県	岡山市
	宮古市	富山県	高岡市		倉敷市※
宮城県	仙台市	岐阜県	岐阜市		広島県
秋田県	大館市※		大垣市※		海田町※
福島県	福島市	静岡県	静岡市		竹原市
栃木県	宇都宮市	愛知県	豊橋市	山口県	周南市
群馬県	前橋市		四日市市	香川県	さぬき市
	埼玉県	三重県	伊勢市※	愛媛県	東温町
埼玉県	さいたま市	滋賀県	滋賀市※	高知県	いの町※
	熊谷市	京都府	京都市		福岡市
千葉県	千葉市		大阪市	福岡県	古賀市
	東京都		堺市		うきは市
	中央区	大阪府	池田市	佐賀県	鳥栖市
	台東区		河内長野市	長崎県	松浦市※
	板橋区		東大阪市		波佐見町
	八王子市※	和歌山県	和歌山市	熊本県	玉名市
	東村山市	鳥取県	米子市	鹿児島県	南さつま市※
	狛江市		松江市		
	相模原市	島根県	益田市※		
神奈川県	鎌倉市		隠岐の島町※		

※早期実装タイプ

# 目次

## I. Project PLATEAUについて

- 1. Project PLATEAUとは ————— 2
- 2. 3D都市モデルとは ————— 3
- 3. 整備都市 ————— 4

## II. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）の概要

- 1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）とは ————— 6

## III. 令和6年度採択団体別事業内容

- 1. 採択団体一覧 ————— 8
- 2. 団体別事業内容 ————— 14

## IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

- 1. 採択団体一覧 ————— 240
- 2. 団体別事業内容 ————— 241



# V. 令和6年度採択団体別事業内容

## 1. 採択団体一覧

番号	地域	地方公共団体名	担当部署	掲載ページ
01	東北	岩手県盛岡市	都市整備部都市計画課	P14
02	東北	岩手県宮古市	都市整備部都市計画課	P18
03	東北	宮城県仙台市	都市整備局計画部都市計画課	P21
04	東北	秋田県大館市	総務部危機管理課	P25
05	東北	福島県福島市	都市政策部都市計画課	P28
06	関東	栃木県宇都宮市	都市整備部都市計画課都市計画グループ	P31
07	関東	群馬県前橋市	都市計画部都市計画課	P35
08	関東	埼玉県	都市整備部都市計画課	P38
09	関東	埼玉県さいたま市	都市局都市計画部都市計画課	P42
10	関東	埼玉県熊谷市	都市整備部都市計画課	P49
11	関東	千葉県千葉市	都市部都市計画課	P55
12	関東	東京都	都市整備局都市づくり政策部広域調整課 総務局総合防災部防災管理課	P58
13	関東	東京都中央区	都市整備部都心再生推進課都心再生推進係	P63
14	関東	東京都台東区	都市づくり部都市計画課	P68
15	関東	東京都板橋区	都市整備部都市計画課	P72
16	関東	東京都八王子市	都市計画部土地利用計画課	P76
17	関東	東京都東村山市	経営政策部経営改革課	P79
18	関東	東京都狛江市	環境部環境政策課	P83
19	関東	神奈川県相模原市	都市建設局まちづくり推進部都市計画課	P86
20	関東	神奈川県鎌倉市	まちづくり計画部都市計画課	P90
21	中部	長野県安曇野市	都市建設部都市計画課	P93
22	中部	富山県高岡市	都市創造部都市計画課	P98
23	中部	岐阜県岐阜市	都市建設部都市計画課	P101
24	中部	岐阜県大垣市	企画部情報企画課	P106
25	中部	静岡県	交通基盤部都市計画課	P109
26	中部	愛知県豊橋市	都市計画部都市計画課	P116
27	近畿	三重県四日市市	シティプロモーション部文化課	P119
28	近畿	三重県伊勢市	都市整備部都市計画課	P123
29	近畿	滋賀県	土木交通部都市計画課	P126

番号	地域	地方公共団体名	担当部署	掲載ページ
30	近畿	京都府京都市	都市計画局まち再生・創造推進室	P129
31	近畿	大阪府大阪市	計画部都市計画課	P133
32	近畿	大阪府堺市	都市計画課	P136
33	近畿	大阪府池田市	まちづくり環境部都市政策課	P140
34	近畿	大阪府河内長野市	都市づくり部都市計画課	P143
35	近畿	大阪府東大阪市	危機管理室	P148
36	近畿	和歌山県和歌山市	都市計画部都市計画課	P151
37	中国	鳥取県米子市	総合政策部都市創造課	P155
38	中国	島根県松江市	都市整備部都市政策課	P163
39	中国	島根県益田市	建設部都市整備課	P168
40	中国	島根県隠岐の島町	都市計画課	P173
41	中国	岡山県岡山市	都市整備局 都市・交通部 都市計画課	P176
42	中国	岡山県倉敷市	建設局都市計画部都市計画課都市景観室	P179
43	中国	広島県	土木建築局都市計画課	P182
44	中国	広島県竹原市	建設部都市整備課	P187
45	中国	広島県海田町	建設部都市整備課	P190
46	中国	山口県周南市	都市整備部都市政策課	P193
47	四国	香川県さぬき市	建設経済部都市整備課	P199
48	四国	愛媛県東温市	産業建設部都市整備課	P202
49	四国	高知県いの町	土木課	P206
50	九州	福岡県福岡市	防災・危機管理部防災推進課	P209
51	九州	福岡県古賀市	建設産業部古賀駅周辺開発推進課	P212
52	九州	福岡県うきは市	都市計画準備課	P216
53	九州	佐賀県鳥栖市	政策部総合政策課	P221
54	九州	長崎県松浦市	都市計画課	P224
55	九州	長崎県波佐見町	総務課 生活安全班	P227
56	九州	熊本県玉名市	建設部都市整備課	P230
57	九州	鹿児島県南さつま市	建設部都市整備課	P234

## V. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

### ① 3D都市モデルの整備状況

番号	地方公共団体	新規整備	追加	更新	追加・更新	活用のみ
01	岩手県盛岡市			●		
02	岩手県宮古市	●				
03	宮城県仙台市	●			●	
04	秋田県大館市	●				
05	福島県福島市	●				
06	栃木県宇都宮市					●
07	群馬県前橋市					●
08	埼玉県	●				
09	埼玉県さいたま市			●		
10	埼玉県熊谷市					●
11	千葉県千葉市	●				
12	東京都	●				
13	東京都中央区					●
14	東京都台東区	●				
15	東京都板橋区					●
16	東京都八王子市					●
17	東京都東村山市		●			
18	東京都狛江市					●
19	神奈川県相模原市	●	●	●		
20	神奈川県鎌倉市	●				
21	長野県安曇野市	●				
22	富山県高岡市	●				
23	岐阜県岐阜市		●	●		
24	岐阜県大垣市	●				
25	静岡県					●
26	愛知県豊橋市		●			
27	三重県四日市市					●
28	三重県伊勢市	●				
29	滋賀県	●				

番号	地方公共団体	新規整備	追加	更新	追加・更新	活用のみ
30	京都府京都市	●		●		
31	大阪府大阪市	●				
32	大阪府堺市	●		●		
33	大阪府池田市	●		●		
34	大阪府河内長野市	●		●		
35	大阪府東大阪市	●				
36	和歌山県和歌山市					●
37	鳥取県米子市		●			
38	島根県松江市	●				
39	島根県益田市	●				
40	島根県隠岐の島町	●				
41	岡山県岡山市	●				
42	岡山県倉敷市	●				
43	広島県					●
44	広島県竹原市	●				
45	広島県海田町					●
46	山口県周南市	●				
47	香川県さぬき市			●		
48	愛媛県東温市					●
49	高知県いの町	●				
50	福岡県福岡市		●			
51	福岡県古賀市	●				
52	福岡県うきは市	●				
53	佐賀県鳥栖市	●				
54	長崎県松浦市	●				
55	長崎県波佐見町	●				
56	熊本県玉名市		●	●		
57	鹿児島県南さつま市	●				



## V. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

### ②ユースケース分野別 逆引き索引

番号	地方公共団体	都市計画 ・まちづくり	防災 ・防犯	地域活性化・観 光・コンテンツ	環境・ エネルギー	交通・物流・ モビリティ	住民参加	その他
01	岩手県盛岡市		●					
02	岩手県宮古市	●						
03	宮城県仙台市	●						
04	秋田県大館市		●					
05	福島県福島市		●					
06	栃木県宇都宮市	●		●				
07	群馬県前橋市	●						
08	埼玉県		●					
09	埼玉県さいたま市	●		●		●	●	
10	埼玉県熊谷市	●	●	●				
11	千葉県千葉市	●						
12	東京都		●					●
13	東京都中央区	●						
14	東京都台東区	●					●	●
15	東京都板橋区	●						
16	東京都八王子市	●					●	●
17	東京都東村山市		●					
18	東京都狛江市				●			
19	神奈川県相模原市	●	●					
20	神奈川県鎌倉市	●						
21	長野県安曇野市	●	●					
22	富山県高岡市				●			
23	岐阜県岐阜市		●			●		
24	岐阜県大垣市	●		●			●	
25	静岡県	●	●					
26	愛知県豊橋市	●						
27	三重県四日市市							●
28	三重県伊勢市		●					
29	滋賀県		●					

番号	地方公共団体	都市計画 ・まちづくり	防災 ・防犯	地域活性化・観 光・コンテンツ	環境・ エネルギー	交通・物流・ モビリティ	住民参加	その他
30	京都府京都市	●						
31	大阪府大阪市				●			
32	大阪府堺市							●
33	大阪府池田市	●						
34	大阪府河内長野市		●			●		
35	大阪府東大阪市		●					
36	和歌山県和歌山市					●		●
37	鳥取県米子市	●	●					
38	島根県松江市	●						
39	島根県益田市	●		●				
40	島根県隠岐の島町		●				●	
41	岡山県岡山市	●						
42	岡山県倉敷市	●						
43	広島県			●				●
44	広島県竹原市	●						
45	広島県海田町	●	●					
46	山口県周南市	●						
47	香川県さぬき市	●						
48	愛媛県東温市	●						
49	高知県いの町		●					
50	福岡県福岡市		●					
51	福岡県古賀市	●						
52	福岡県うきは市	●						
53	佐賀県鳥栖市		●					
54	長崎県松浦市	●						
55	長崎県波佐見町		●					
56	熊本県玉名市			●				
57	鹿児島県南さつま市	●	●					

※インデックス凡例は、左から順に【街】【防】【活】【環】【交】【住】【他】とした。



PLATEAU  
by MLIT

## V. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

### ③人口規模別 逆引き索引

カテゴリー	番号	地方公共団体	人口（万人）※
15.0万人以上 (右につづく)	12	東京都	1,384.2
	08	埼玉県	738.1
	25	静岡県	363.4
	43	広島県	277.1
	31	大阪府大阪市	274.2
	50	福岡県福岡市	158.1
	29	滋賀県	141.4
	30	京都府京都市	138.5
	09	埼玉県さいたま市	133.9
	03	宮城県仙台市	106.7
	11	千葉県千葉市	97.7
	32	大阪府堺市	82.1
	19	神奈川県相模原市	71.9
	41	岡山県岡山市	70.2
	15	東京都板橋区	56.8
	16	東京都八王子市	56.2
	06	栃木県宇都宮市	51.7
	35	大阪府東大阪市	48.0
	42	岡山県倉敷市	47.8
	23	岐阜県岐阜市	40.2
	26	愛知県豊橋市	37.1
	36	和歌山県和歌山市	36.0
	07	群馬県前橋市	33.2

カテゴリー	番号	地方公共団体	人口（万人）※
15.0万人以上 (左よりづく)	27	三重県四日市市	31.0
	01	岩手県盛岡市	28.3
	05	福島県福島市	27.1
	14	東京都台東区	20.7
	38	島根県松江市	19.8
	10	埼玉県熊谷市	19.3
	20	神奈川県鎌倉市	17.6
	13	東京都中央区	17.4
	22	富山県高岡市	16.6
	24	岐阜県大垣市	15.9
	17	東京都東村山市	15.2
5.0万人～15.0万人	37	鳥取県米子市	14.6
	46	山口県周南市	13.8
	28	三重県伊勢市	12.2
	33	大阪府池田市	10.3
	34	大阪府河内長野市	10.0
	21	長野県安曇野市	9.7
	18	東京都狛江市	8.3
	53	佐賀県鳥栖市	7.5
	04	秋田県大館市	6.8
	56	熊本県玉名市	6.4
3.0万人～5.0万人	51	福岡県古賀市	5.9
	02	岩手県宮古市	4.8
	47	香川県さぬき市	4.6

カテゴリー	番号	地方公共団体	人口（万人）※
1.0万人～3.0万人	39	島根県益田市	4.4
	48	愛媛県東温市	3.3
	57	鹿児島県南さつま市	3.2
	45	広島県海田町	3.1
	52	福岡県うきは市	2.8
	44	広島県竹原市	2.4
	49	高知県いの町	2.2
	54	長崎県松浦市	2.1
	55	長崎県波佐見町	1.4
	40	島根県隠岐の島町	1.4

※人口は百人以下四捨五入

※総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査（R4/1/1時点）

※人口規模は当該団体のものであり、整備範囲とは一致しない



PLATEAU  
by MLIT

## V. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

### ④ 面積規模別 逆引き索引

カテゴリー	番号	地方公共団体	面積 (km <sup>2</sup> ) ※
500km <sup>2</sup> 以上	43	広島県	8,479
	25	静岡県	7,777
	29	滋賀県	4,017
	08	埼玉県	3,798
	12	東京都	2,194
	02	岩手県宮古市	1,259
	04	秋田県大館市	913
	01	岩手県盛岡市	886
	30	京都府京都市	828
	41	岡山県岡山市	790
	03	宮城県仙台市	786
	05	福島県福島市	768
	39	島根県益田市	733
	46	山口県周南市	656
	38	島根県松江市	573
	49	高知県いの町	471
	06	栃木県宇都宮市	417
200km <sup>2</sup> ～500km <sup>2</sup>	42	岡山県倉敷市	356
	50	福岡県福岡市	343
	21	長野県安曇野市	332
	19	神奈川県相模原市	329
	07	群馬県前橋市	312
	57	鹿児島県南さつま市	284
	11	千葉県千葉市	272
	26	愛知県豊橋市	262
	40	島根県隠岐の島町	243
	31	大阪府大阪市	225
	09	埼玉県さいたま市	217

カテゴリー	番号	地方公共団体	面積 (km <sup>2</sup> ) ※
200km <sup>2</sup> ～500km <sup>2</sup>	48	愛媛県東温市	211
	22	富山県高岡市	210
	36	和歌山県和歌山市	209
	28	三重県伊勢市	208
	24	岐阜県大垣市	207
	27	三重県四日市市	207
	23	岐阜県岐阜市	204
100km <sup>2</sup> ～200km <sup>2</sup>	16	東京都八王子市	186
	10	埼玉県熊谷市	160
	47	香川県さぬき市	159
	56	熊本県玉名市	153
	32	大阪府堺市	150
	37	鳥取県米子市	132
	54	長崎県松浦市	131
	44	広島県竹原市	118
	52	福岡県うきは市	117
	34	大阪府河内長野市	110
	53	佐賀県鳥栖市	72
	35	大阪府東大阪市	62
50km <sup>2</sup> ～100km <sup>2</sup>	55	長崎県波佐見町	56
	51	福岡県古賀市	42
50km <sup>2</sup> 未満	20	神奈川県鎌倉市	40
	15	東京都板橋区	32
	33	大阪府池田市	22
	17	東京都東村山市	17
	45	広島県海田町	14
	13	東京都中央区	10
	14	東京都台東区	10
	18	東京都狛江市	6

※面積は小数点以下四捨五入

※国土地理院 全国都道府県市区町村別面積調(R4/10/1時点)

※面積規模は当該団体のものであり、整備範囲とは一致しない



PLATEAU  
by MLIT

## V. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

### ⑤ 令和6年度予算規模別 逆引き索引

カテゴリー	番号	地方公共団体	事業費計（万円）	カテゴリー	番号	地方公共団体	事業費計（万円）	カテゴリー	番号	地方公共団体	事業費計（万円）
1,000万円未満	51	福岡県古賀市	215	2,000万円～3,000万円	49	高知県の町	2,046	5,000万円～1億円	23	岐阜県岐阜市	5,220
	50	福岡県福岡市	411		32	大阪府堺市	2,300		5	福島県福島市	5,400
	44	広島県竹原市	700		48	愛媛県東温市	2,300		56	熊本県玉名市	6,000
	27	三重県四日市市	726		35	大阪府東大阪市	2,310		22	富山県高岡市	6,500
	16	東京都八王子市	792		11	千葉県千葉市	2,400		9	埼玉県さいたま市	7,486.6
	1	岩手県盛岡市	800		14	東京都台東区	2,400		19	神奈川県相模原市	8,998
	33	大阪府池田市	800		3	宮城県仙台市	2,418		25	静岡県	9,000
	36	和歌山県和歌山市	990		46	山口県周南市	2,510		38	島根県松江市	9,999.8
1,000万円～2,000万円	29	滋賀県	1,000		52	福岡県うきは市	2,650	1億円以上	8	埼玉県	12,000
	40	島根県隠岐の島町	1,000	3,000万円～5,000万円	7	群馬県前橋市	3,000		41	岡山県岡山市	28,100
	43	広島県	1,000		21	長野県安曇野市	3,000		12	東京都	33,600
	45	広島県海田町	1,000		2	岩手県宮古市	3,086				
	57	鹿児島県南さつま市	1,000		53	佐賀県鳥栖市	3,200				
	39	島根県益田市	1,005		10	埼玉県熊谷市	3,300				
	17	東京都東村山市	1,050		55	長崎県波佐見町	3,300				
	54	長崎県松浦市	1,089		30	京都府京都市	3,680				
	28	三重県伊勢市	1,260		6	栃木県宇都宮市	3,757				
	24	岐阜県大垣市	1,274		20	神奈川県鎌倉市	4,400				
	15	東京都板橋区	1,328		37	鳥取県米子市	4,527				
	13	東京都中央区	1,353		31	大阪府大阪市	4,955.5				
	26	愛知県豊橋市	1,380								
	18	東京都狛江市	1,547								
	47	香川県さぬき市	1,651								
	34	大阪府河内長野市	1,711								
	42	岡山県倉敷市	1,886								
	4	秋田県大館市	1,980								

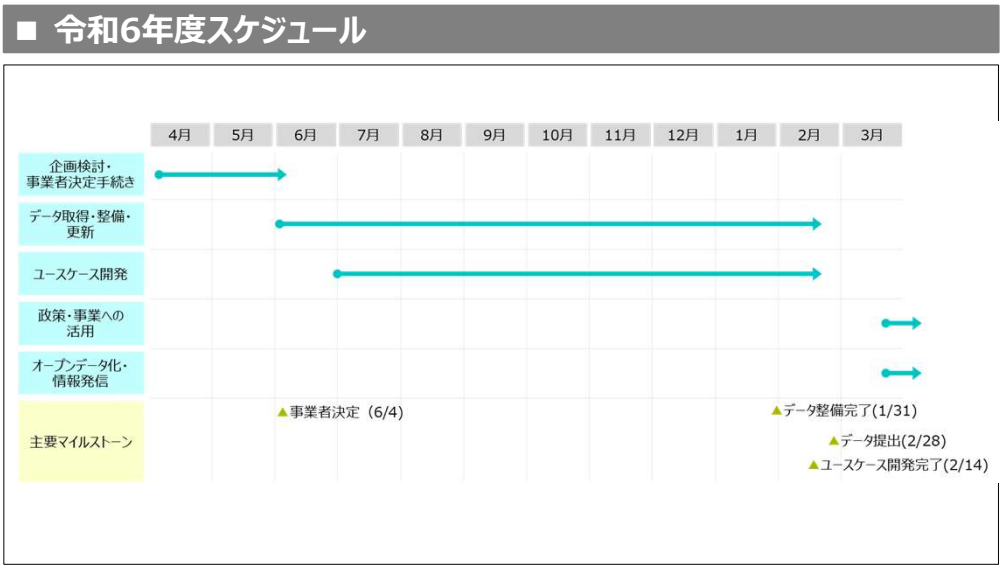
※事業費は千円以下四捨五入



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

1.岩手県盛岡市

団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	約28万人（令和7年1月末時点）
市域全域面積	886.47km <sup>2</sup> （令和7年2月時点）
主な産業 地域課題等	<p>岩手県の内陸やや北西部に位置する中核市であり、県庁所在地である。第3次産業の従事者が80%を占める商業・消費都市で、盛岡城跡公園を含む内丸地区を中心とした既存市街地と盛岡駅から南西部にわたる新市街地により都市軸を形成している。人口は約28万人である。</p> <p>人口減少、少子化・高齢化、災害の頻発化・激甚化など、本市を取り巻く大きな変化への対応が求められており、今後の20年の計画期間を見据え、特に重点的に取り組む必要があると考えられるまちづくりの3つの視点として、市街化調整区域における土地利用のあり方、中心市街地のまちづくりの方向性、災害に強いまちづくりを掲げている。</p>



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	1千未満

担当部局	都市計画課
------	-------

補助事業実施項目	
目標	3D都市モデルを活用した内丸地区再整備等計画立案活用及び災害リスクの可視化
課題	<p>主要な都市機能が集積している内丸地区において、建物群の老朽化が進んでおり、地区の再整備の検討を進める必要がある。（R5年度実施事業関連）</p> <p>市内中心部付近で、一級河川北上川、雫石川及び中津川の3川が合流している地理的状況により、洪水浸水想定区域が既存市街地に広範囲に及んでいることから、市民の防災意識の更なる向上を目指す必要がある。</p>
創出価値	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルを活用した都市計画基礎調査情報により建物の経過年数を可視化し、低未利用土地の活用などによる地区の再整備に関するシミュレーションを行い、次世代に繋ぐ新たな内丸地区を目指すための整備手法の理解度を高めるとともに地区内関係者の合意形成を図る。（R5年度実施事業関連）</li><li>洪水浸水想定区域を3D都市モデルに重ね合わせ、浸水深や浸水継続時間を可視化することにより、リスクの高い場所を周知し、避難行動を促すなど、市民の防災意識の向上を図る。</li></ul>

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	・ 3D都市モデル整備（LOD1都市計画決定情報（立地適正化計画））
ユースケース開発	・ 3D都市モデルを活用した水災害リスク可視化事業
推進事業	—

総事業費（予定）	4,308.7（万円） ※うちR6年度759（万円）
R6年度補助額	379.5（万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】</li><li>PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ】</li><li>盛岡市オープンデータサイト 【3D都市モデル】</li></ul>
-------------------	--

R6年度委託事業者	国際航業株式会社
-----------	----------



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

1.岩手県盛岡市

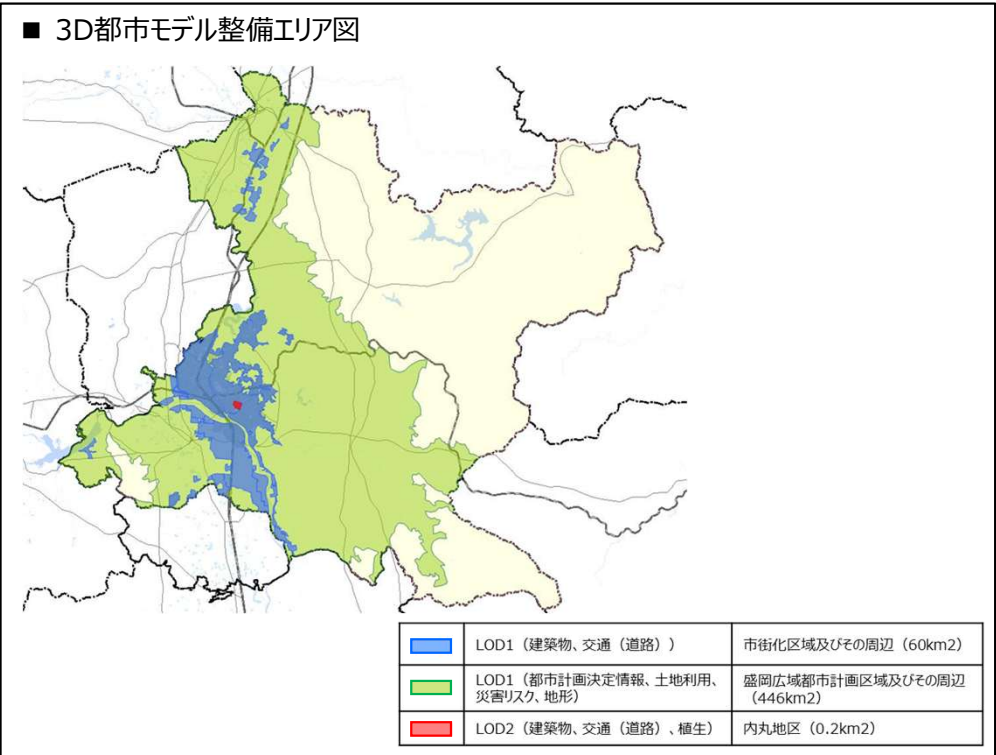
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	市街化区域及びその周辺	60.00km <sup>2</sup>	R4年度整備済
		内丸地区	0.2km <sup>2</sup>	R5年度整備済
	交通	市街化区域及びその周辺	60.00km <sup>2</sup>	R4年度整備済
		盛岡広域都市計画区域及びその周辺	446.00km <sup>2</sup>	R4年度整備済
	都市計画決定情報	市街化区域及びその周辺	60.00km <sup>2</sup>	R6年度整備
	土地利用 地形	盛岡広域都市計画区域及びその周辺	446.00km <sup>2</sup>	R4年度整備済
LOD2	災害リスク	盛岡広域都市計画区域及びその周辺	446.00km <sup>2</sup>	R5年度整備済
		盛岡広域都市計画区域及びその周辺	446.00km <sup>2</sup>	R4年度整備済
	地形	盛岡広域都市計画区域及びその周辺	446.00km <sup>2</sup>	R4年度整備済
LOD2	建築物	内丸地区	0.2km <sup>2</sup>	R5年度整備済

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2	交通（道路） 植生	内丸地区	0.2km <sup>2</sup>	R5年度整備済

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	1千未満



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	H26年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	H26年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（修正）	H27・28年度	—
	盛岡市立地適正化計画	R4年度	—

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

1.岩手県盛岡市

■ ユースケース概要			
分野	防災・防犯		
目的	災害リスクの高い場所を周知し避難行動を促すなど、市民の防災意識の向上を図る。		
取組内容	<p>多くの都市機能が集積している市内の中心部や市南部の北上川右岸は、浸水深が深く、浸水継続時間が比較的長い洪水浸水想定区域となっていることを踏まえ、災害リスク情報の3次元表示を行い、リスクを可視化する。</p> <p>これを用いて住民への災害リスクの高い場所を周知し、避難行動を促すなど、市民の防災意識の向上を図る。</p>		

■ システム構成図			
<pre>graph TD     A["3D都市モデル 【建築物、道路、都市計画決定情報、 土地利用、災害リスク、地形】 (CityGML)"] --&gt; B["建物モデル入力"]     C["国土地理院「浸水ナビ」の 浸水シミュレーションデータ (shape, csv)"] --&gt; D["諸元入力"]     B --&gt; E["垂直避難可能建物 シミュレーション"]     D --&gt; E     E --&gt; F["可視化"]     E --&gt; G["可視化"]     F --- H["SonicWeb-3Dviewer"]     G --- I["PLATEAU VIEW (洪水浸水想定区域の 時系列データ)"]     subgraph Legend [凡例]         J[データ]         K[処理]         L[活用・開発した ソフトウェア]     end</pre>			

■ ユースケース開発方法			
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1及びLOD2（名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、浸水ランク）</li><li>都市計画決定情報LOD1（都市計画区域、区域区分、用途地域、立地適正化計画）</li><li>土地利用LOD1（土地利用区分）</li><li>災害リスクLOD1（洪水浸水想定区域）</li></ul>		
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>時系列浸水データ（破堤点名、破堤点の位置、破堤点の緯度、破堤点の経度、降雨規模、河川名等）</li></ul>		
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域等の災害リスク情報を3D都市モデルデータに変換し、3D都市モデルに重ね合わせる。建築物モデルに浸水ランクを付与し、建物単位でのリスクを可視化。（R5年度整備済）</li><li>浸水洪水想定区域の時系列データを3次元化することにより、垂直避難が可能な建築物や浸水の時間経過を明らかにして、避難行動における課題の抽出を行う。</li><li>洪水浸水想定区域図等の災害リスク情報と建築物モデルの高さ及び浸水深との差から、災害時に「緊急的な垂直避難の可能性を有する建築物」をピックアップする。</li><li>市HP等への掲載により災害リスクの高い場所を周知し、住民と災害リスク及び適切な避難行動のイメージを共有する。</li></ul>		
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>時系列による洪水浸水想定区域及び緊急的な垂直避難の可能性を有する建築物の可視化。</li><li>市民に対する災害時の避難行動のイメージの共有し、防災意識の向上を図る。</li><li>災害リスク分析及び住民の避難行動を踏まえ、地域防災計画等の検討への活用。</li></ul>		
オープンデータ化 情報発信	盛岡市オープンデータサイト 【 <a href="https://www.city.morioka.iwate.jp/shisei/johokokai/1024522/index.html">https://www.city.morioka.iwate.jp/shisei/johokokai/1024522/index.html</a> 】		

■ KPI		
KPI	目標設定	達成状況
危機管理部署等における3D都市モデルが災害リスクの可視化に有効だと思う割合（アンケート）	80% (R6年度)	100% (R6年度)

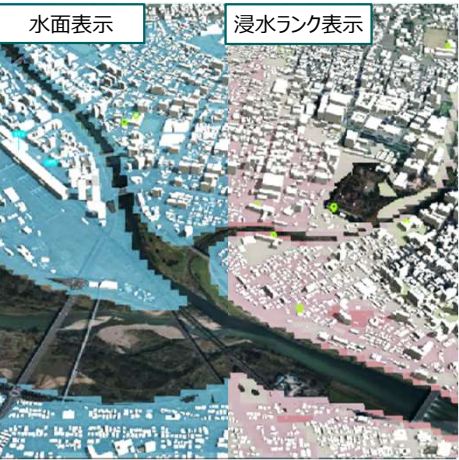
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 1.岩手県盛岡市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	1千未満

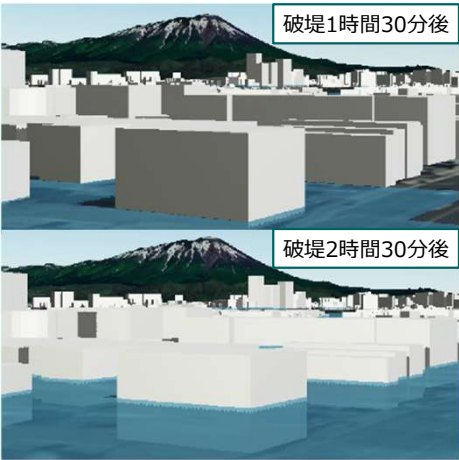


■ ユースケース開発成果イメージ図



洪水浸水想定区域の時系列表示  
(水面表示/浸水ランク表示)

市内を流れる3河川(5破堤点)について、時間経過による破堤点毎の浸水状況を2種類の表示方法で可視化。



(国管理) 北上川 破堤点BP457

3D都市モデルに重畳することで、時間経過により浸水深さ等の浸水状況が変化していく様子を分かりやすく再現。

■ 今後の展望

3D都市モデルを活用して災害リスク情報を分かりやすく可視化することにより、盛岡市立地適正化計画の居住誘導区域を主対象として、市民等へ災害リスクの高い場所を周知し、避難行動を促すために活用していく。



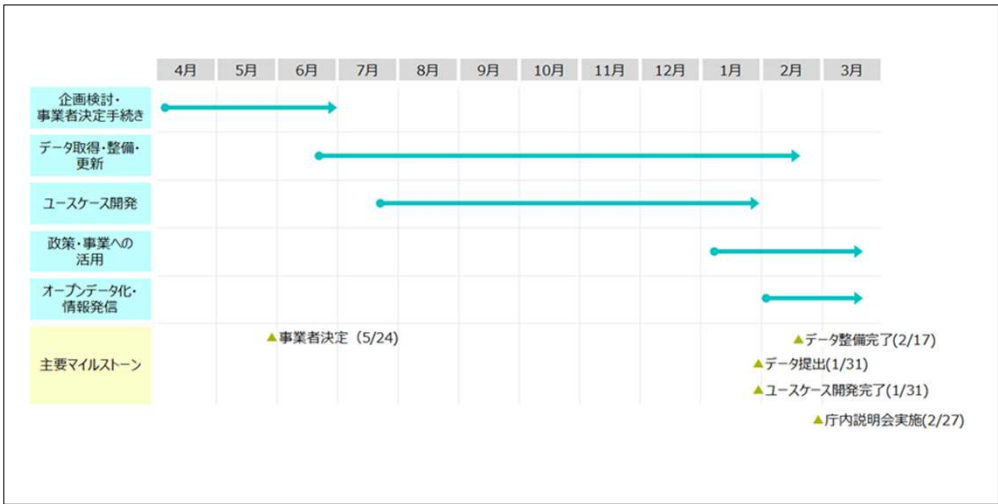
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

## 2.岩手県宮古市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約5万人（令和7年2月時点）
市域全域面積	1,259.18km <sup>2</sup> （令和7年2月時点）
主な産業 地域課題等	岩手県の沿岸部、三陸沿岸のほぼ中央に位置し、「森・川・海」の地域資源を活用した多様な産業が形成する都市。 東日本大震災では津波により大きな被害を受け、「津波防災都市」宣言のもと復興に取り組んだ。宮古盛岡横断道路や三陸沿岸道路などの道路網が整備され、災害時の支援拠点の役割や物流・観光の拠点としての機能を果たしている。市の将来像「“森・川・海”とひとが調和共生するやすらぎのまち」の実現に向け、「地域脱炭素の実現」や「宮古駅前再開発」と「賑わいのある中心市街地の形成」のための「立地適正化計画の策定」、「市道末広町線無電柱化工事」等に取り組んでいる。

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	3-5万	500以上	3-5千

担当部局	都市計画課
------	-------

■ 補助事業実施項目

目標	森・川・海の自然と共生し、活力に満ちた交流拠点都市の実現
課題	宮古駅周辺地区のまちの中心拠点としての、賑わい・交流機能や各種生活サービス等の強化、魅力ある景観形成、まちなかの回遊・滞留性の高い拠点形成 東日本大震災からの希望ある復興を契機とした災害に強い安全・安心な都市づくりを推進し、定住環境の充実 ハード・ソフト両面からの市民参画と協働の取り組みを推進するとともに、さまざまなまちづくりの活動についての適切な情報提供や人材育成等の支援
創出価値	・ 都市計画用途地域・土地利用・都市計画区域等を3D化し、都市の利用状況をわかりやすく可視化することで、都市計画にかかる庁内業務の効率化や住民との合意形成の円滑化を推進する。

事前調査等	3D都市モデルの整備範囲や整備内容の検討
3D都市モデル整備・更新	・ 3D都市モデルの整備のための都市計画基本図更新 ・ 3D都市モデル整備（LOD1・LOD2）
ユースケース開発	・ 3D都市モデルを活用したまちづくり都市計画立案への活用事業
推進事業	—

総事業費（予定）	5,786（万円） ※うちR6年度3,806（万円）
R6年度補助額	1,903（万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】
-------------------	---

R6年度委託事業者	国際航業株式会社
-----------	----------

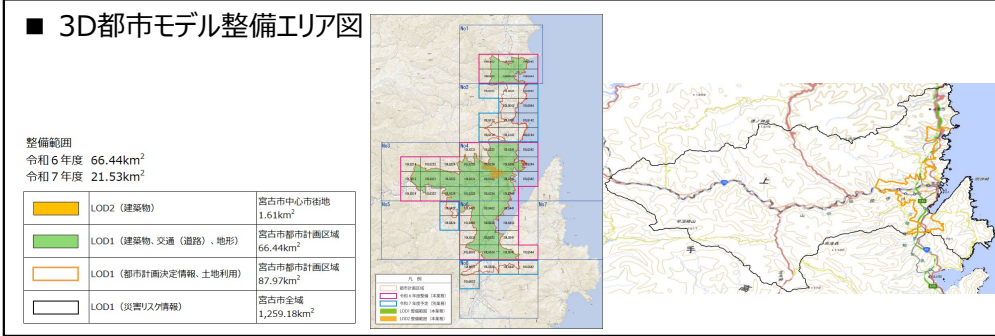


Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 2.岩手県宮古市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	宮古市都市計画区域	66.44km <sup>2</sup>	R6年度整備
	交通(道路)、地形	宮古市都市計画区域	21.53km <sup>2</sup>	R7年度整備
	都市計画決定情報	宮古市都市計画区域	87.97km <sup>2</sup>	R6年度整備
	土地利用	宮古市都市計画区域	87.97km <sup>2</sup>	R6年度整備
	災害リスク(土砂災害)	宮古市都市計画区域	87.97km <sup>2</sup>	R7年度更新
	災害リスク(洪水・内水・津波)	宮古市全域	1,259.18km <sup>2</sup>	R6年度整備
		宮古市全域	1,259.18km <sup>2</sup>	R7年度整備
LOD2	建築物	宮古市中心市街地	1.61km <sup>2</sup>	R6年度整備



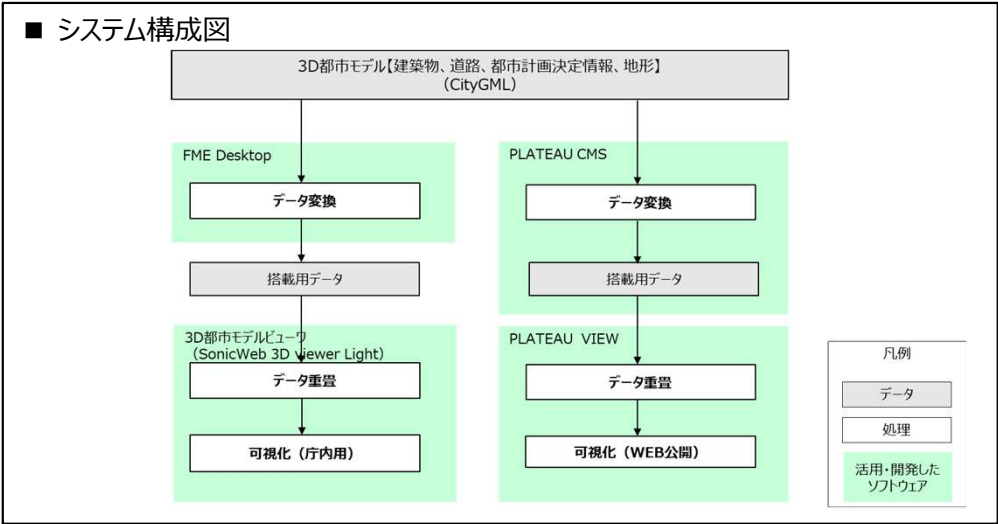
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図(修正)	R5年度	2,500
	都市計画基本図(修正)	R6年度	2,500
測量成果	既存資料(航空写真)	R5年度	2,500
	建築物写真(現地写真)	R6年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査(既存)	H28年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	3-5万	500以上	3-5千



■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	都市計画立案の効率化
取組内容	<p>建物利用現況を属性情報として付与した3D都市モデルLOD1及びLOD2（宮古駅周辺）と都市計画情報（用途地域ほか）を重ね合わせ、都市の利用状況をわかりやすく可視化する。</p> <p>この結果を踏まえ、まちづくり都市計画に向けた検討資料として庁内で、または住民との合意形成に活用する。</p> <p>3D都市モデル（LOD1及びLOD2）によって街のイメージを可視化し、市街地再開発や無電柱化に合わせた歩行者空間整備の庁内検討及び住民との合意形成に活用する。</p>





Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 2.岩手県宮古市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1,LOD2 (建物名称、区分、用途、地上階数、構造種別等)</li><li>道路LOD1 (名称、機能、用途等)</li><li>都市計画決定情報LOD1 (名称、区域の種類、告示番号、告示日、決定者等)</li><li>土地利用LOD1 (土地利用区分、面積等)</li><li>災害リスク (土砂災害警戒区域) LOD1 (災害種別、区域番号、区域名等)</li><li>地形LOD1 (詳細度)</li></ul>
活用データ (上記以外)	—
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>PLATEAU VIEW及び構築する3Dビューワ (SonicWeb-3DViewer Light) で都市計画情報を他の3D都市モデルと重ね合わせ、これらの情報を分かり易く可視化する。</li><li>3D都市モデルと都市計画情報を重ね合わせたデータを用い、まちづくり都市計画に向けた検討資料として庁内で、または住民との合意形成に活用する。</li></ul>
政策・事業での 活用	都市の利用状況をわかりやすく可視化することで、都市計画にかかる庁内業務の効率化や住民との合意形成の円滑化を推進する。
オープンデータ化 情報発信	—

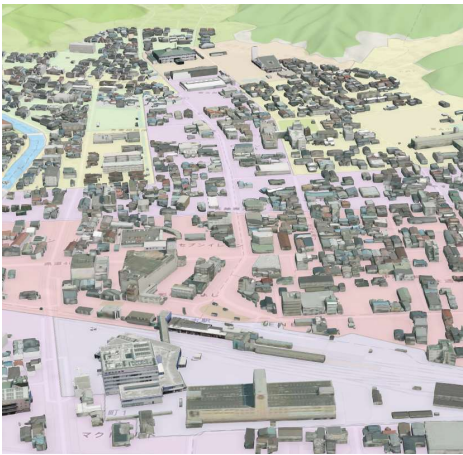
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
都市計画にかかる庁内業務が効率化したと感じる人の割合 (%)	100% (R6年度)	100% (R6年度)
説明会等の資料作成業務が効率化したと感じる人の割合 (%)	100% (R6年度)	100% (R6年度)

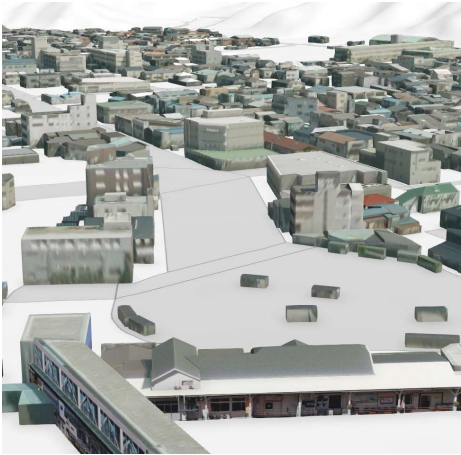
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	3-5万	500以上	3-5千



■ ユースケース開発成果イメージ図



**建築物と都市計画情報の重ね合わせ**  
建築物と都市計画情報を重畳し、都市の利用状況をわかりやすく可視化する。まちづくり都市計画に向けた検討資料として、庁内や住民との合意形成に活用



**庁内検討資料として活用**  
建築物モデルによって街のイメージを可視化し、市街地再開発や無電柱化に合わせた歩行者空間整備の庁内検討及び住民との合意形成に活用

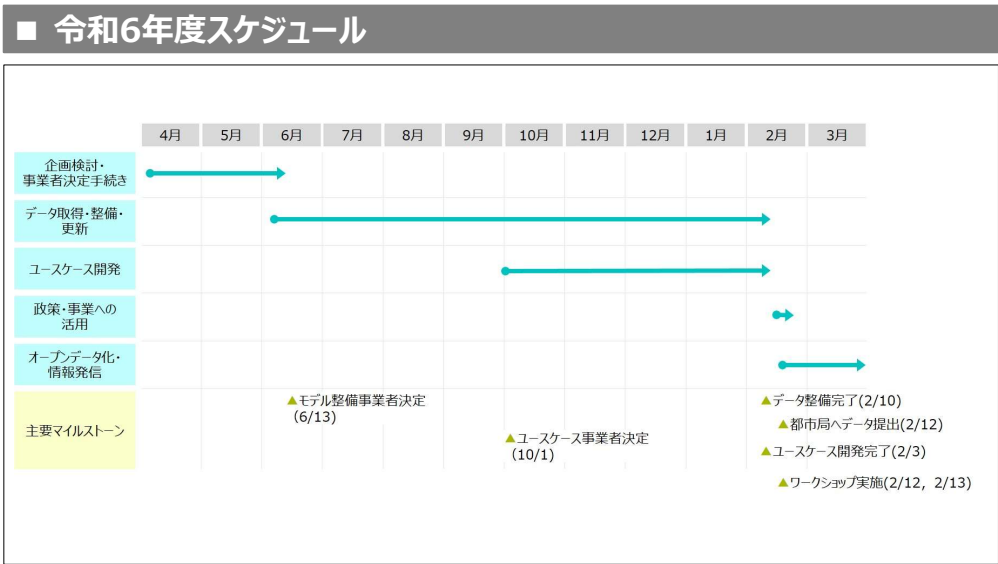
■ 今後の展望

今回は都市計画情報の可視化のユースケースにとどまっているが、庁内で3D都市モデルの説明会を開催して、3D都市モデルの周知を行うとともに、3D都市モデルを活用する機運を醸成したい。  
来年度は、洪水浸水範囲などの災害リスク情報を可視化するとともに、それらを活用した防災・減災のユースケースを庁内で検討したい。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

3.宮城県仙台市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	約110万人（R5年9月時点）
市域全域面積	786.35km <sup>2</sup> （R5年12月時点）
主な産業 地域課題等	<p>仙台市は東北地方のほぼ中央に位置し、市域は西の奥羽山脈、東の太平洋に挟まれている。</p> <p>仙台市は、豊かな自然環境と都市機能が調和した「杜の都」と称される都市空間を有し、利便性が高く環境にやさしい鉄道を中心としたまとまりのある機能集約型の都市づくりを進めている。</p> <p>仙台市では基本計画の中で目指すべき都市の姿の実現に向けて取り組む「チャレンジプロジェクト」を掲げ、仙台の強みや現状を踏まえて官民が知恵や技術を持ち寄りながら挑戦を続けることとしている。</p>



分野

人口規模

面積規模

予算規模

街

15万以上

500以上

2－3千

担当部局

都市計画課・都心まちづくり課

■ 補助事業実施項目

目標	仙台都心部におけるまちの回遊性向上・都心の賑わい創出 オープンイノベーションの創出による、地域課題の解決、地域経済の成長		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まちづくりは官民がビジョンを共有し、連携して取り組む必要があるため、共通理解を深めながら合意形成を図る必要があるが、相当の時間を要している。</li> <li>・ オープンイノベーションの創出に向けては、まず市民や企業等の3D都市モデルの理解の醸成を図る必要がある。</li> </ul>		
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まちづくりの先にある将来の姿の見える化は、関係者にまちづくりの実感を与え、ビジョンの共通認識の深化、合意形成の加速化が図られ、ひいては、仙台都心部における回遊性の向上、賑わい創出につながることが期待できる。</li> <li>・ 市の保有するデータを共有し、市民のまちづくり活動、事業者による新たなサービスの開発、学術機関による研究を後押しすることで、地域の個性を生かした課題の解決や魅力向上による地域経済の成長が期待できる。</li> </ul>		
事前調査等	—		
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3D都市モデル整備（LOD3）</li> </ul>		
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3D都市モデルを活用した中心部まちづくり方針の意見聴取及び合意形成</li> </ul>		
推進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アイデアソン事業</li> </ul>		
総事業費（予定）	8,005（万円） ※うちR6年度2,418（万円）		
R6年度補助額	1,209（万円）		
補助対象外の関連事業	—		
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ】</li> <li>・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ】</li> </ul>		
R6年度委託事業者	株式会社バスコ（3D都市モデル整備(LOD3)）		
	インフォ・ラウンジ株式会社（ユースケース開発）		
	仙台市都市計画課（3D都市モデルのオープンデータ活用アイデアソン事業）		

PLATEA

by MLIT

Ⅲ. 令和 6 年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 3.宮城県仙台市

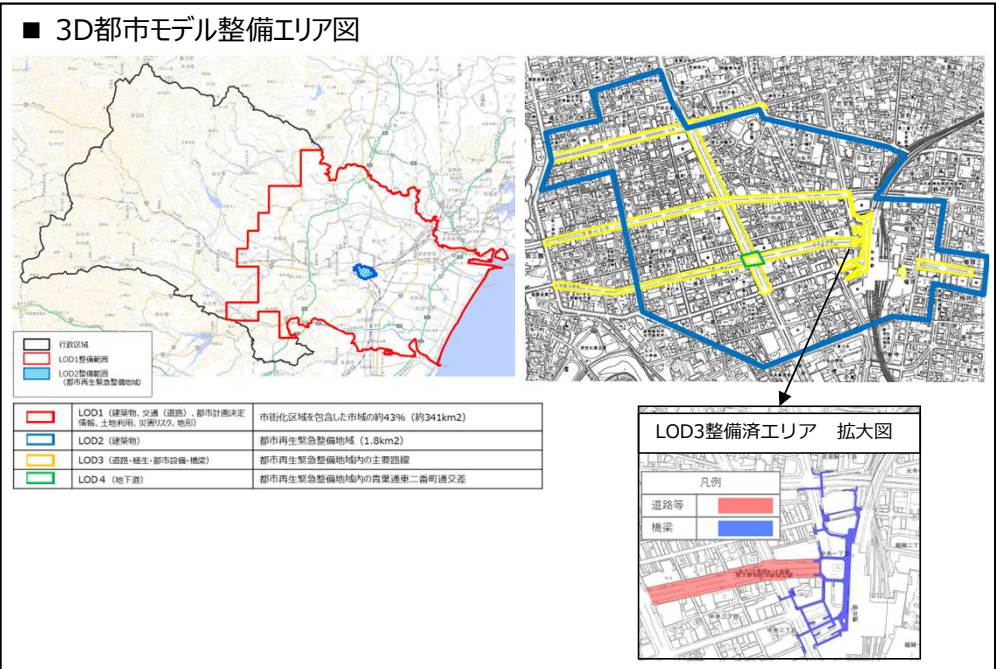
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定 情報 土地利用 災害リスク 地形	市街化区域を包含した 市域の約43%	約341km <sup>2</sup>	R4年度整備済
LOD2	建築物	都市再生整備地域	1.8km <sup>2</sup>	R4年度整備済

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD3	交通（道路） 植生 都市設備	都市再生緊急整備地域 のうち青葉通駅前エリア 都市再生緊急整備地域 のうち東二番丁通等の主 要路線	0.026km <sup>2</sup>	R6年度整備
	橋梁	都市再生緊急整備地域 のうち仙台駅前ペデスト リデッキ	0.218km <sup>2</sup>	R8年度以降整備
LOD4	地下道	都市再生緊急整備地域 のうち青葉通東二番丁 通交差点	0.02km <sup>2</sup>	R6年度整備
			0.001km <sup>2</sup>	R8年度以降整備

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	2－3千



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	・都市計画基本図 ・道路台帳図	H28年度 R5年度	2,500 500
測量成果	5.その他 (新規測量(MMS、バックパック型レーザ))	R6年度	500
属性情報	・新規測量(MMS、バックパック型レーザ) ・各種管理台帳（都市公園台帳管理（地図）システム）	R6年度 －	500 －

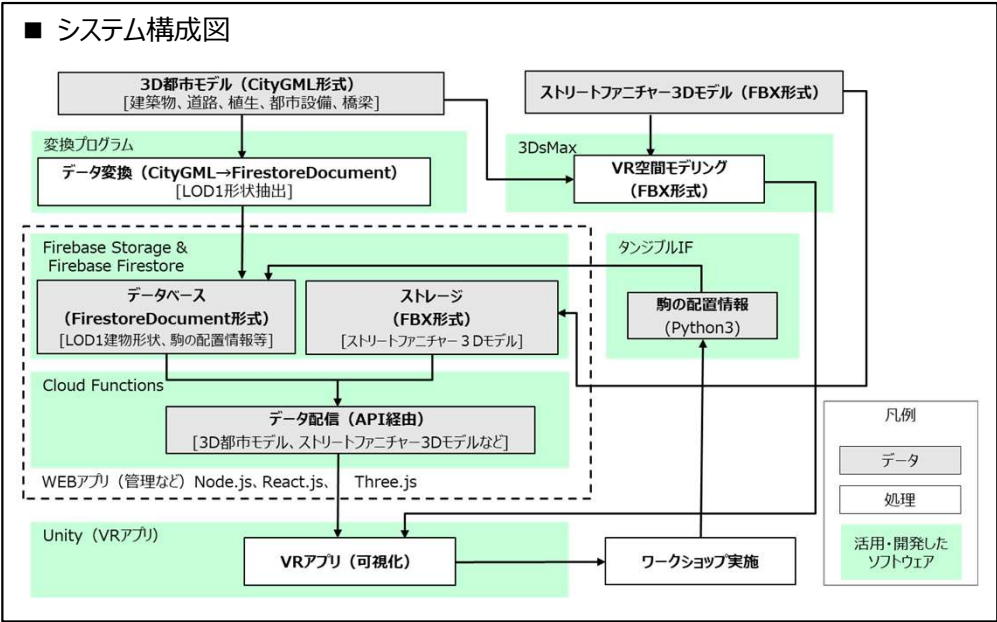


Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 3.宮城県仙台市

■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	青葉通駅前エリアにおける将来イメージの可視化
取組内容	青葉通駅前エリアの公共空間の利活用方法について、3D都市モデルを活用したワークショップを開催する。ワークショップを通して、関係者や市民からの意見聴取、当該エリアのまちづくりへの機運醸成を図る。



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	2-3千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD2</li><li>交通（道路）LOD3</li><li>植生LOD3</li><li>都市整備LOD3</li><li>橋梁（ベDESTリアンデッキ）LOD3</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>ストリートファニチャー（人物やベンチ等の3Dモデル）</li></ul>
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>公共空間の利活用方法についてシミュレーションモデルの形状や必要となるストリートファニチャーを検討する。</li><li>3D都市モデルをタンジブルインターフェースに活用できるデータに変換する。</li><li>ストリートファニチャーの3Dモデル及び模型の作成、タンジブルインターフェースの設定を実施する。</li><li>タンジブルインターフェースを用いたワークショップを開催し、公共空間の将来のあり方について参加者からの意見を聴取する。</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>タンジブルインターフェースを活用したワークショップを開催し、公共空間の利活用方法のイメージの可視化を行い、参加者からの意見聴取とまちづくりへの関心度の向上を図る。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	ホームページに掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
青葉通駅前エリアの将来イメージの可視化によるこのエリアのまちづくりに関するワークショップ参加者の関心度（アンケート）	70% (R6年度)	92%

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

3.宮城県仙台市

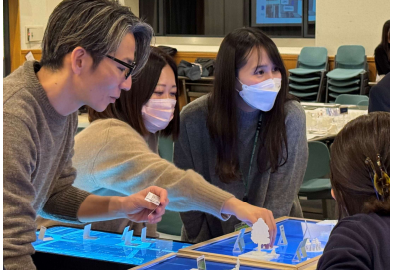
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	2－3千



■ ユースケース開発成果イメージ図



公共空間の利活用方法の  
シミュレーションに用いる  
ストリートファニチャーの3Dモデル等の作成



タンジブルインターフェースを  
活用したワークショップの開催

■ 今後の展望

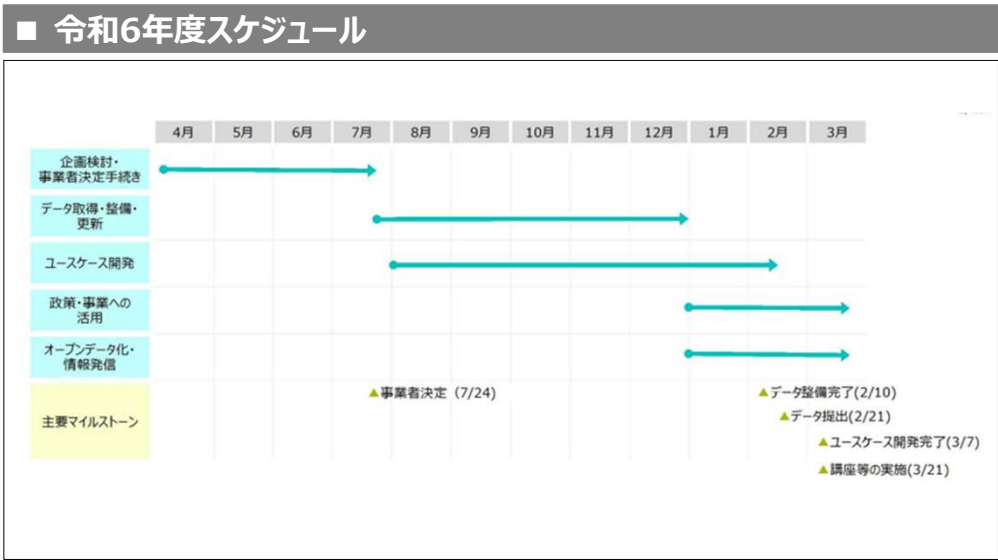
3D都市モデルを活用したワークショップでは、公共空間の利活用方法を可視化することで、関係者とイメージの共有を図ることができた。  
今後は、回遊性向上の観点から連続するエリアにおいても同様の取組みを実施していきたい。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

4.秋田県大館市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	約6.5万人（令和7年2月時点）
市域全域面積	913.22km <sup>2</sup> （令和7年2月時点）
主な産業 地域課題等	<p>秋田県の北東部に位置するとともに、北東北の中心に存する一般市。長木川両岸の南北に、中心市街地を形成する地方都市。</p> <p>かつて鉱山で栄えた精錬技術を活用した「資源リサイクル産業」や、大手医療機器メーカーが進出したことによる「医療・医薬品産業」を核として、誇りと宝を力にかえていく「未来創造都市」を目指している。</p> <p>また、持続可能な社会の構築を推進するため、新エネルギー産業などの育成を目指すとともに、歴史まちづくり法に基づく認定を受けた計画を進め、市民が愛着と誇りを持てるまちづくりの推進や、秋田犬を基軸とした観光振興による交流人口、関係性人口の拡大に力を注いでおり、これらの取り組みを進めながら都市基盤の確立と強化に努めるとともに、「ふるさとキャリア教育」「大館版リカレント教育」などによるひとづくりや、「バリアフリーまちづくり」「共生社会の形成」「ゼロカーボンシティ」などによる暮らしづくりを推進し、さらなる発展を目指している。</p>



分野

人口規模

面積規模

予算規模

防

5－15万

500以上

1－2千

担当部局

危機管理課

PLATEAU

by MLIT

■ 補助事業実施項目

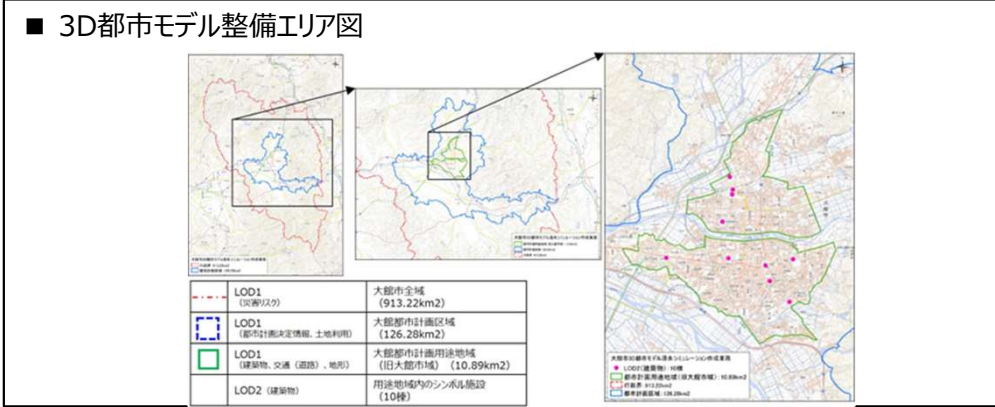
目標	大館市中心市街地における浸水災害のリスク軽減に向けたまちづくり
課題	近年多発する河川氾濫を伴う豪雨災害に対応した自主的な避難に向けた意識醸成 少子高齢化のため担い手不足に陥っている町内会組織に対応した効果的な防災教育の実施
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデルを活用し、災害リスクをわかりやすく示すことで市民の被災リスクの理解や浸水等への防災意識が向上する。</li> <li>防災講座の実施について、3D都市モデルを活用することで効果的な防災教育を実施することができる。</li> </ul>
事前調査等	－
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>数値図化</li> <li>3D都市モデル整備（LOD1,LOD2）</li> </ul>
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業</li> </ul>
推進事業	－
総事業費（予定）	1,927.2（万円）
R6年度補助額	1,000（万円）
補助対象外の関連事業	－
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ】</li> <li>PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ】</li> <li>大館市ホームページに掲載 【浸水シミュレーション動画】</li> </ul>
R6年度委託事業者	株式会社パスコ

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

4.秋田県大館市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 地形	都市計画用途地域 (旧大館市域)	10.89km <sup>2</sup>	R6年度整備
	都市計画決定情報 土地利用	都市計画区域全域	126.28km <sup>2</sup>	
	災害リスク	市全域	913.22km <sup>2</sup>	
LOD2	建築物	用途区域内のシンボル施設	10棟	R6年度整備



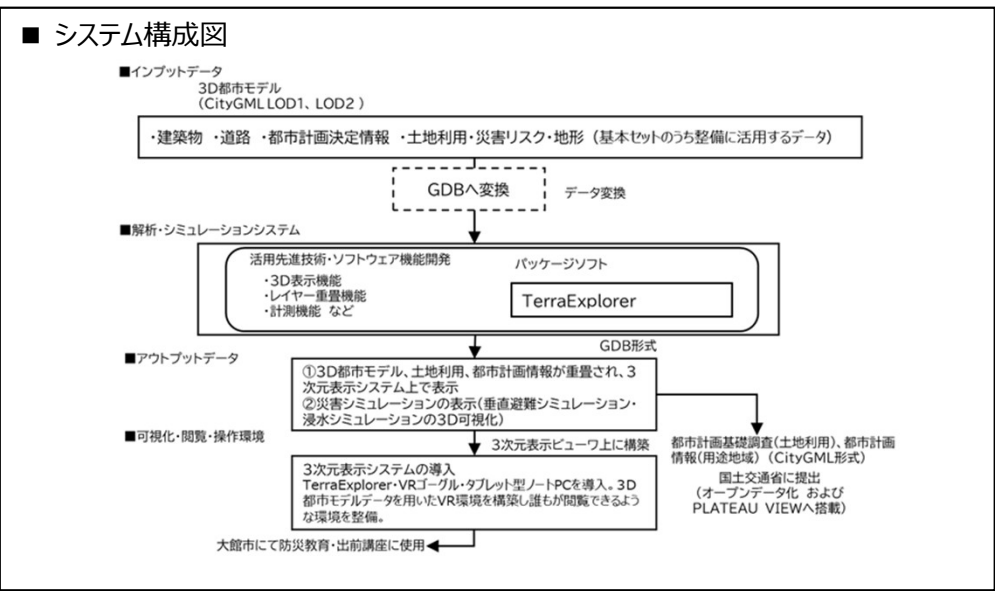
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	1.都市計画基本図（新規）	R6年度	2,500
測量成果	1.新規測量（航空写真）	R6年度	1,000
属性情報	1.都市計画基礎調査（既存）	R5年度	2,500

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5-15万	500以上	1-2千



■ ユースケース概要

分野	防災・防犯
目的	浸水シミュレーション結果の3D表示およびアニメーション動画作成、垂直避難シミュレーションを行い、可視化することで、住民の防災意識向上、災害発生時の被害低減を目指す。
取組内容	3D都市モデル及び3次元化した大館市の長木川両岸中心区域のデータを画面上に重ねあわせ、想定破堤箇所からの浸水氾濫の進行状況を時刻歴で表示することによって、災害リスクをわかりやすく可視化する。可視化した浸水シミュレーションを活用して、住民の防災意識向上のための講座を実施し、そこで得られた意見等を避難経路の設定に活用する。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

4.秋田県大館市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1,LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年)</li><li>都市計画決定情報LOD1 (建築物、道路、都市計画決定情報、土地利用)</li><li>災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、起こりうる災害の内容)</li><li>地形LOD1</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>浸水ナビデータ</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデル及び3次元化した大館市の長木川両岸中心区域の想定破堤箇所からの浸水想定区域の災害リスク情報を重畳しリスクを可視化する。</li><li>用途地域内のシンボル施設を地図上に表示することで、住民の自宅・勤務先・外出先からの災害時の避難先の直感的な把握を可能とする。</li><li>想定破堤箇所からの浸水氾濫の進行状況を時刻歴で表示することにより、災害リスクをわかりやすく可視化する。</li><li>VRゴーグルを活用した浸水シミュレーションの体感、避難先の3D可視化、避難シミュレーションを可視化する。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>可視化した浸水シミュレーションを活用して、住民の防災意識向上のための講座を実施し、そこで得られた意見等を避難経路の設定に活用する。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	浸水シミュレーション結果のアニメーション動画作成を大館市ホームページに掲載。浸水シミュレーションの時系列データはPLATEAU VIEWを用いて表現するとともに、大館市ホームページに掲載。

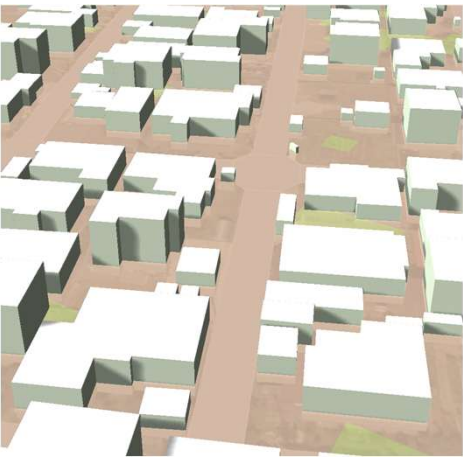
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
市民向けの世論調査（抽出調査）における消防・救急・防災に対する施策に対する満足度（5点満点）	3.51点 (R6年度)	R8年度計測予定 (R9年度)
市民向けの各町内会等に出向いて行う出前講座（大館市の防災）の内容を分かりやすく理解できたと回答した参加者の割合（%）	80% (R6年度)	86.4% (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5-15万	500以上	1-2千

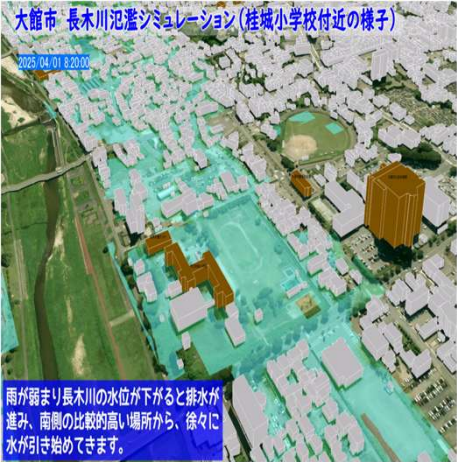


■ ユースケース開発成果イメージ図



浸水状況の可視化

建物モデルに浸水想定区域等を重畳することで、災害リスクを可視化し、災害リスクの認知性向上と防災施策検討の効率化を図る。



浸水シミュレーション

アニメーション動画により浸水が進行していく様子を確認しながら、避難施設配置検討や避難経路検討、被災予測を検討可能な基盤情報を構築する。

■ 今後の展望

今回は防災のユースケースにとどまっているが、3D都市モデルを活用した政策、施策展開につなげていきたい。

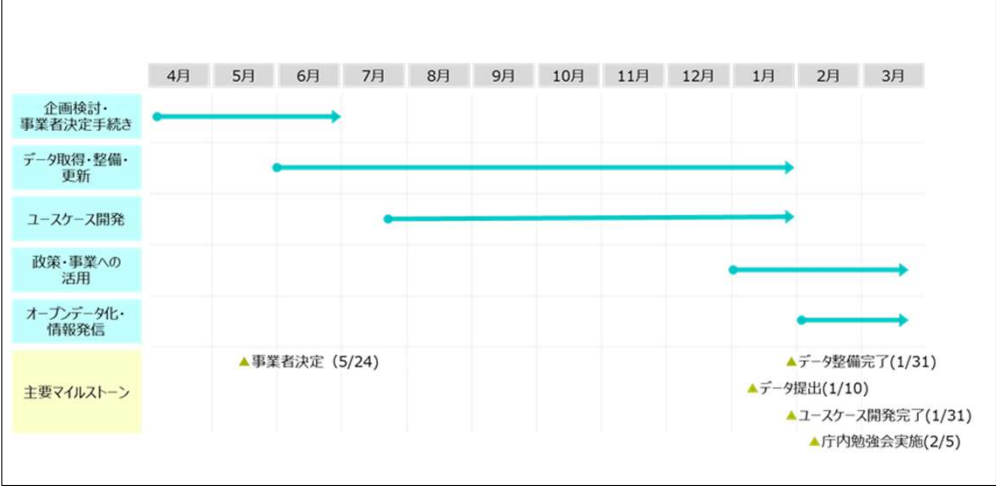
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

5.福島県福島市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	26.4万人（令和7年1月時点）
市域全域面積	767.72km <sup>2</sup> （令和7年1月時点）
主な産業 地域課題等	<p>本市は、福島県の北部に位置し、南北には東北新幹線、東北自動車道が走り接続して東北中央自動車道の米沢市・相馬市の中間点にあり3つの名湯温泉（飯坂・高湯・土湯）や写真家の故・秋山庄太郎氏が「福島に桃源郷あり」と称賛した花見山とまちの中心部に開園150周年を迎える信夫山があるほか、日本を代表する作曲家でNHKテレビ小説で放映された「エール」の主人公である古閑裕而のまちづくりを進めており、人口27万人の県庁所在地である。</p> <p>中心市街地は、中心拠点として高次都市機能を集積するほか、地域拠点は各地の人口集積地の生活機能や産業機能を集積し、これらを交通ネットワークで連携させる「コンパクトネットワーク」のまちづくりを進めるほか、街なか賑わい創出プロジェクト、昨年過去最高の移住となった定住人口の推進、豊かな自然と農産物のPRのため、旬の果物をまとめたF-BOXの販売や高付加価値からあづま山麓酒蔵の観光ツーリズム、ゼロカーボンの最先端都市として国の削減目標（30%）以上の55%を定め達成できるよう取り組んでいる。</p>

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	5-10千

担当部局	都市計画課
------	-------

■ 補助事業実施項目

目標	災害に強い安全で安心な地域づくり
課題	水害等による要水平避難者への理解促進
創出価値	3D都市モデルを活用し、災害リスクをわかりやすく示すことで市民の危機管理に対する意識が向上する。

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	・ 都市計画基本図作成/更新 ・ 3D都市モデル整備（LOD1,LOD2）
ユースケース開発	・ 3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化 ・ 3Dビューワ構築事業
推進事業	—

総事業費（予定）	21,200（万円） ※うちR6年度5,400（万円）
R6年度補助額	2,700（万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】
-------------------	---

R6年度委託事業者	国際航業株式会社（3D都市モデル整備都市計画基本図修正）
	国際航業株式会社（3D都市モデル整備（LOD1・LOD2））
	国際航業株式会社（ユースケース開発）

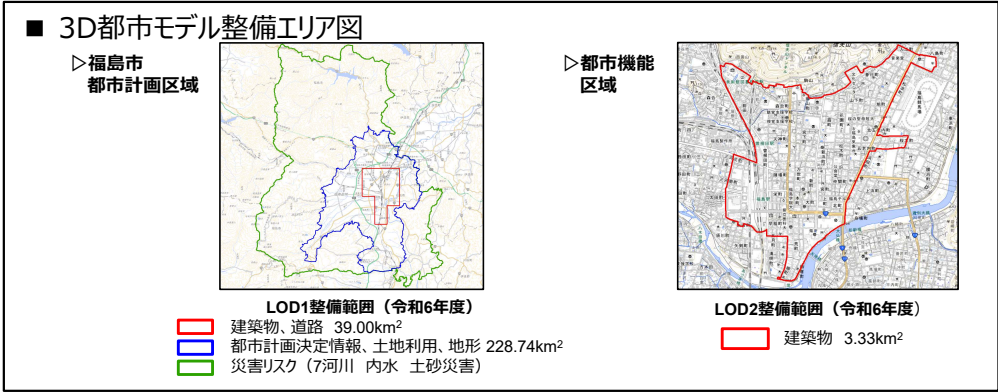


Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

5.福島県福島市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路)	都市計画区域の一部 都市計画区域の一部 都市計画区域の一部	39.00km <sup>2</sup> 116.70km <sup>2</sup> 73.00km <sup>2</sup>	R6年度整備 R7年度整備 R8年度整備
	都市計画決定情報 土地利用 地形	都市計画区域	228.74km <sup>2</sup>	R6年度整備
	災害リスク	阿武隈川水系7河川 阿武隈川水系5河川	-	R6年度整備 R7年度整備
LOD2	建築物	都市機能区域	3.33km <sup>2</sup>	R6年度整備



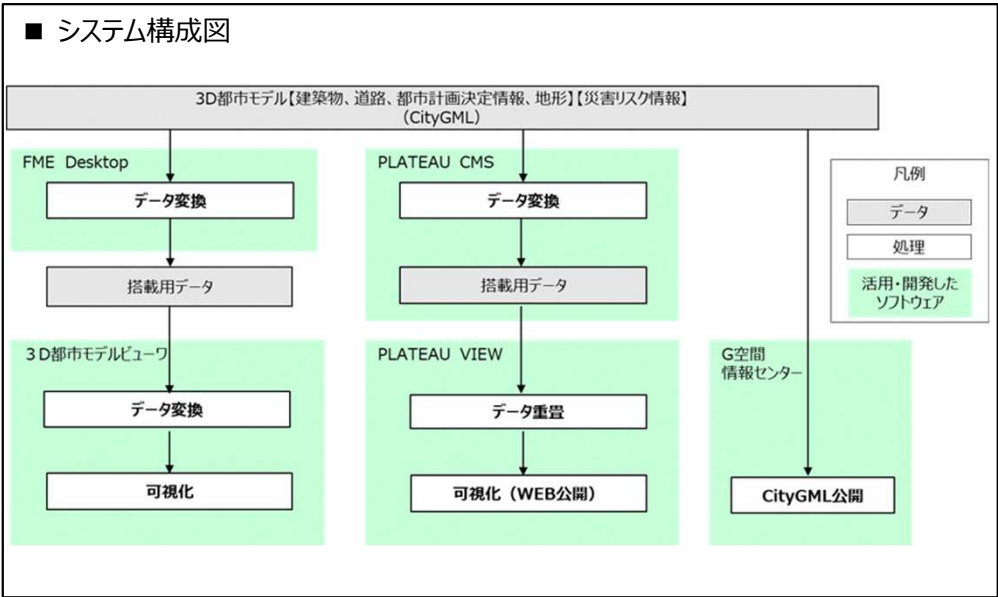
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R6年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R4年度	2,500
	新規撮影（航空写真）	R6年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（修正）	R5年度	2,500

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	5-10千



■ ユースケース概要

分野	防災・防犯
目的	災害に強い安全で安心な地域づくり
取組内容	洪水の浸水想定区域等を3D都市モデル化し、水害等による災害リスクをわかりやすく可視化することで、効率的な住民避難の対策を計画し、地域住民の防災意識の向上を目指す。





Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

5.福島県福島市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1,LOD2（建物名称、敷地・延床・図形（建築物の水平投影）面積、構造種別等）</li><li>道路LOD1（名称、機能、用途）</li><li>都市計画決定情報LOD1（名称、分類、決定日、決定主体、公称面積、市区町村等、指定建蔽率、指定容積率、建築物の高さの限度等）</li><li>土地利用LOD1（分類、公称面積、所有者区分、所有者、面積等）</li><li>地形LOD1（名称、詳細度）</li><li>災害リスク情報LOD1（洪水浸水想定区域、内水浸水想定区域、土砂災害警戒区域及び特別警戒区域）</li></ul>
活用データ (上記以外)	—
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>洪水浸水想定区域、津波浸水想定区域、内水浸水想定区域、土砂災害警戒区域及び特別計画区域のデータをCityGML形式で作成する。</li><li>上記で作成したデータを活用し、庁内勉強会を実施する。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>災害リスク情報（洪水、内水、土砂）を可視化することで、以下を実現する。<ul style="list-style-type: none"><li>→ 住民避難対策計画及び地域住民の防災意識の向上。</li><li>→ 庁内の災害・防災分野における政策検討への活用。</li></ul></li></ul>
オープンデータ化 情報発信	—

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
システムの利用に関する肯定的な意見数 (人)	参加者の半数 (R6年度)	18/32人 56% (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	5-10千



■ ユースケース開発成果イメージ図



**災害リスク情報（洪水浸水想定区域）**  
災害リスク情報（洪水浸水想定区域）を可視化して、建築物モデルと重畳することで、着目する建築物がどの程度浸水するかが視覚的に把握できる。



**災害リスク情報（土砂災害警戒区域）**  
災害リスク情報（土砂災害警戒区域）を可視化して、建築物モデルと重畳することで、避難確保計画の作成及び避難訓練の実施等に寄与される。

■ 今後の展望

今年度は、災害リスク情報を活用した防災のユースケースにとどまっているが、来年度は洪水浸水シミュレーションにより、堤防破堤後の浸水範囲が広がる様子を可視化し、住民避難対策計画及び地域住民の防災意識の向上につなげたい。  
また、今後は人流データを活用した中心市街地活性化にも活用したい。

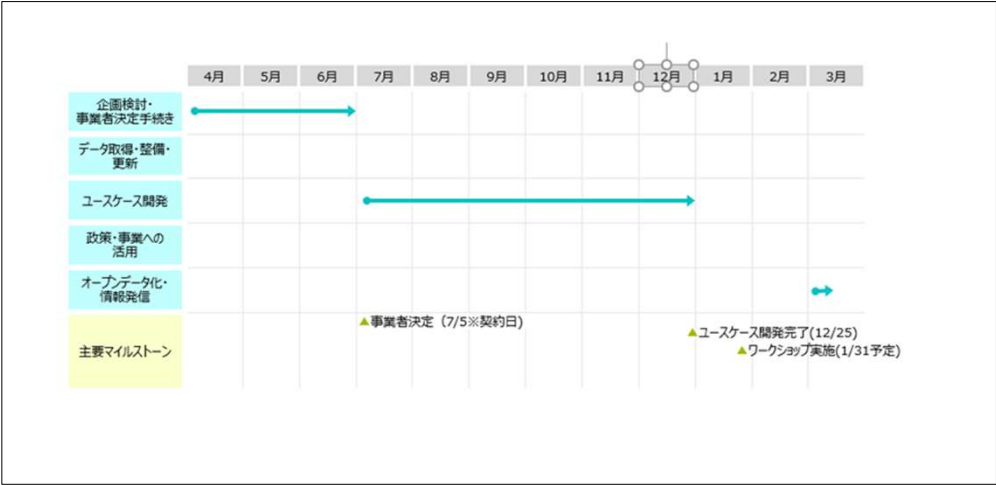
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 6. 栃木県宇都宮市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約52万人（令和6年12月時点）
市域全域面積	416.85km <sup>2</sup> （令和6年12月時点）
主な産業 地域課題等	<p>本市は、栃木県のほぼ中央、東京から北に約100kmの距離に位置し、面積は416.85km<sup>2</sup>で、県土の約6.5%を占めている。人口は約52万人。</p> <p>本市の市域を超えた広域的な経済や生活、交流などの拠点として、圏域の発展をリードする役割を担う。</p> <p>南北には東北新幹線、東北自動車道、国道4号が、東西には北関東自動車道が市内を貫くなど、主要な交通が交差する要衝にある。</p> <p>豊かな自然環境や高度な都市機能など商工農がバランスよく調和した都市。</p> <p>都市全体の課題は、人口減少・少子高齢化、デジタル化の急速な進展への対応、脱炭素社会の構築。</p> <p>「ネットワーク型コンパクトシティ」（NCC）を土台に「地域経済循環社会」「地域共生社会」「脱炭素社会」の3つの社会が人づくりの取り組みやデジタル技術の活用によって発展する「夢や希望がかなうまち」の実現を目指している。</p>

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活	15万以上	200-500	3-5千

担当部局	都市計画課
------	-------



■ 補助事業実施項目

目標	都心部における人中心のウォーカブルなまちの実現に向けた緑豊かで魅力ある都市空間の創出（まちづくりの市民理解促進コンテンツ作成事業）
課題	JR宇都宮駅西側の大通りを中心とした都心部においては、ライトラインを基軸とした公共交通と一体となった魅力ある都心部の将来像実現に向け、市民や事業者が主体となったウォーカブルなまちづくりを更に推進するため、まちなかの空間や市民等の移動や滞在の仕方が、どのように変化するか共有する必要がある。 ライトライン導入や緑豊かで魅力ある景観の形成に関する事業など、大通りを中心とした空間形成や、人や自動車の誘導策など、将来像実現に向けた計画や施策の効果等について、関係者や地元への説明時等に、わかりやすく示す必要がある。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルを活用し、将来の空間イメージや取組の共有を円滑に進められる。</li><li>まちづくりにおける合意形成や関係者の意見の吸い上げに効果的である。</li></ul>

事前調査等	—
3D都市モデル 整備・更新	—
ユースケース 開発	・ 都心部まちづくり市民理解促進コンテンツ作成業務
推進事業	—

総事業費（予定）	5,328（万円） ※うちR6年度3,757（万円）
R6年度補助額	1,540（万円）
補助対象外の 関連事業	—

オープンデータ化・ 可視化・情報発信	・ 市ホームページ上での公開
-----------------------	----------------

R6年度 委託事業者	森ビル株式会社（都心部まちづくりの市民理解促進コンテンツ作成業務）
---------------	-----------------------------------

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 6. 栃木県宇都宮市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	宇都宮市全域	416.85km <sup>2</sup>	R2年度整備済
	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	宇都宮市全域	416.85km <sup>2</sup>	R5年度整備済
LOD2	建築物	高次都市機能誘導区域	3km <sup>2</sup>	R2年度整備済
		高次都市機能誘導区域	3km <sup>2</sup>	R5年度整備済

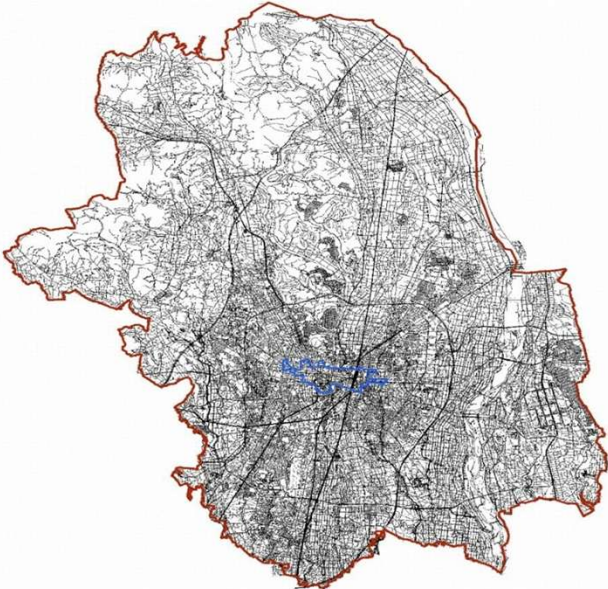
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	都市機能誘導区域	都市機能誘導区域	17.33km <sup>2</sup>	R5年度整備済
	居住誘導区域	居住誘導区域	46.72km <sup>2</sup>	R5年度整備済

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活	15万以上	200～500	3～5千



■ 3D都市モデル整備エリア図



	LOD1（建築物、交通（道路）、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形）	宇都宮市全域（416.85km <sup>2</sup> ）
	LOD2（建築物）	高次都市機能誘導区域（3km <sup>2</sup> ）

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R2年度	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	R2年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R3年度	—

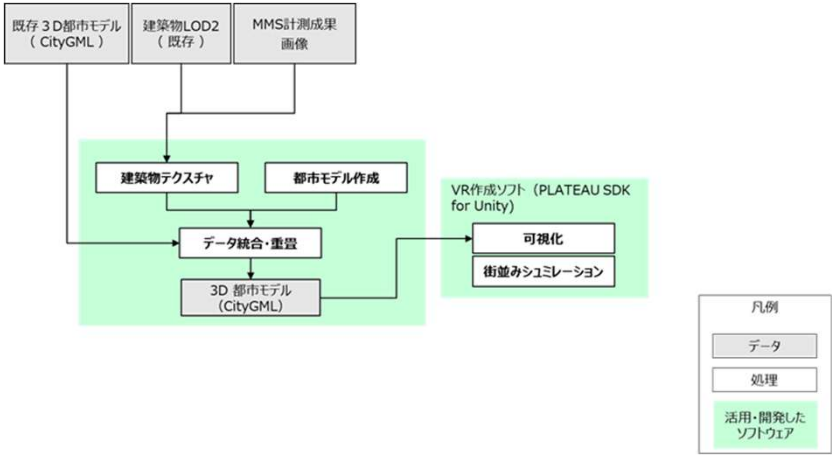
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 6. 栃木県宇都宮市

■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり・地域活性化
目的	都心部の将来像実現を官民協働で取り組むため、市民や事業者に対し、様々な機会を通じて、都心部におけるウォーカブルなまちづくり等の取組に関する市民理解の促進を図る。
取組内容	都心部の東西都心軸となる大通り沿線において、ビジョンが描くまちの変化を共有しながら、ライトライン導入の検討や緑豊かで魅力ある景観の形成に関する事業などの大通りを中心とした空間形成、人や自動車の誘導策など、将来像実現に向けた計画案や施策の効果等について、仮想現実空間でシミュレーションなどが可能なコミュニケーションツールを作成し、空間形成に関する合意形成の円滑化を図る。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活	15万以上	200-500	3-5千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1, LOD2 (名称, 分類 (業務施設や商業施設, 文教厚生施設など), 用途, 建築年, 計測高さ, 地上/地下階数, 住所, 建築/図上面積 (上から見た建築物の面積), 構造種別, 調査年, 規模 (敷地面積) 等)</li><li>道路LOD1 (道路区分, 道路構造, 作成日)</li></ul>
活用データ (上記以外)	-
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>R4年度において、可視化事業の検討を進めるため、3D表示が可能な都市計画情報管理システム (行政内利用) を本課へ導入。</li><li>R3年度に都市計画基礎調査 (市全域)、R2年度に都市計画基本図 (市南部) のデータが新たに作成されているため、R5年度に3D都市モデルを既存データから最新データに更新を行い整備された。</li><li>作成した都市計画3次元データを活用し、人の回遊・滞在で使う空間をVR化し、沿道建築の撮影した写真 (MMS計測) を貼付け、宇都宮駅西側へのライトライン延伸や建物の移動や色彩の変更等を行ったり、ストリートファニチャーなどを配置することなど、整備前後の街並みイメージの比較を行う。</li><li>計画案や施策の効果等を分かりやすく関係者や地元への説明する際の、コミュニケーションツールとして活用する。</li><li>街なかの空間について、現状と将来のイメージを比較しながら、景観形成に関する事業など人中心のウォーカブルなまちづくりに必要な取組の具体案を官民一体で検討する。</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>R6年度にユースケース開発で整備予定のシステム公開。</li><li>目指す将来のまちイメージについて、計画案・施策の効果・整備前後の比較などを分かりやすく関係者や地元民への説明する際のコミュニケーションツールとして活用し、合意形成を図る。</li></ul>
オープンデータ化情報発信	市ホームページ上での公開

■ KPI

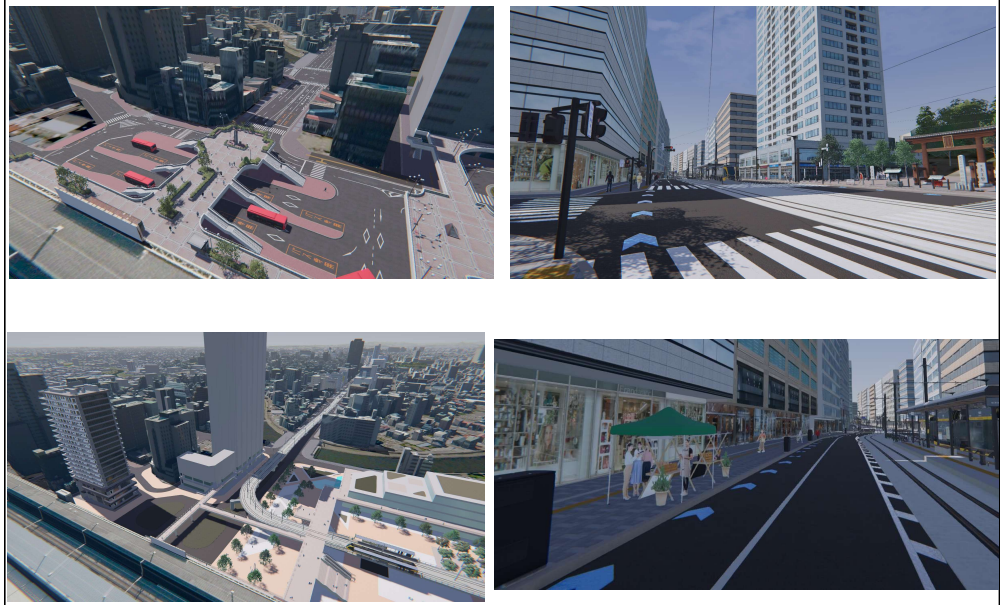
KPI	目標設定	達成状況
関係者協議や説明会などにおいて、目指す将来のまちの姿のイメージをビジュアル的に理解を深めることができた人 (人)	肯定的評価6割以上 (R6年度)	R7年度計測予定



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 6. 栃木県宇都宮市

■ ユースケース開発成果イメージ図



**【現況と将来計画イメージの比較】**  
現況の街並みと将来計画の街並みを再現したVRを活用し、様々な視点で瞬時に切り替えながら街の変化を確認できる。

**【居心地の良いウォークアブルな空間づくりのシミュレーション】**  
壁面後退された沿道間において、どのような空間が人が居心地のよいものであるか、任意のツールを配置してシミュレーションが可能。

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活	15万以上	200-500	3-5千

■ 今後の展望

今後、VRを活用したライトライン駅西側延伸の市民理解促進を加速化していくため、将来の街なかをライトラインに乗車した目線でツアー体験できる機能等や、意見交換を活発に行えるよう人や車の流れなど描画するツールを追加したい。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

7.群馬県前橋市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	約33万人（令和6年4月時点）
市域全域面積	311.59km <sup>2</sup> （令和6年4月時点）
主な産業 地域課題等	群馬県の中央に位置する中核市。市街地は、土地区画整理を基盤に発展した。産業は、サービス、卸売・小売、製造業を中心に構成。農業産出額は全国有数、首都圏への供給地。市域は、赤城山の南に広がり、中心部に利根川が流れており、都市的土地利用と自然的土地利用が調和した景観が広がっている。 まちづくりにおいては、「ウォーカブル推進都市」や「官民連携まちづくり」を積極的に推進しており、近年では歴史まちづくり法に基づく歴史的風致維持向上計画の認定を受け、景観・歴史的資源を活かしたまちづくりがスタートしている。 人口減少・高齢化が進行している状況にあり、今後も更なる進行が予測されている一方で、市街地の郊外化が進行。 コンパクトなまちづくりや景観保全への影響が懸念される。 また、一人当たりの自動車保有台数は全国トップクラスであり、過度な自家用車依存が課題となっている。 人口減少や高齢化に対応した持続可能な公共交通ネットワークの再構築が必要。
■ 令和6年度スケジュール	
<div><div>2024年9月10月11月12月2025年1月2月3月4月5月6月7月8月</div><div><div>企画検討・事業者決定手続き</div><div>データ取得・整備・更新</div><div>ユースケース開発</div><div>政策・事業への活用</div><div>オープンデータ化・情報発信</div><div>主要マイルストーン</div></div><div><div>▲事業者決定（11/5）</div><div>▲データ整備完了（4/25）</div><div>▲ユースケース開発完了（5/13）</div><div>▲ワークショップ実施（5~6月中）</div></div></div>	

分野

人口規模

面積規模

予算規模

街

15万以上

200－500

2－3千

担当部局

都市計画課

■ 補助事業実施項目

目標	人口減少社会に対応した持続可能なまちづくりの実現		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民の災害リスクへの理解と防災意識の向上</li> <li>まちづくりにおけるデジタル技術の活用。多様な主体がデータを共有、活用することによるまちづくりの効率化・高度化</li> <li>持続可能でコンパクトなまちづくりと公共交通を中心とした交通ネットワークの構築</li> </ul>		
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデルを活用し、災害リスクをわかりやすく明示することによる市民の防災意識の向上</li> <li>オープンデータ化の推進による課題解決に向けた民間レベルでの新たな取り組みの創出</li> <li>3D都市モデルを活用し、まちづくり施策の効果を可視化することによる市民への理解の促進</li> </ul>		
事前調査等	3D都市モデルの整備範囲や整備内容の検討		
3D都市モデル整備・更新	－		
ユースケース開発	3D都市モデルを活用したデジタルツイン環境構築事業		
推進事業	－		
総事業費（予定）	6,750（万円） ※うちR6年度3,000（万円）		
R6年度補助額	1,500（万円）		
補助対象外の関連事業	－		
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】</li> <li>PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】</li> <li>前橋市ホームページに掲載 【ユースケース動画等】</li> </ul>		
R6年度委託事業者	シナスタジア/パスココンソーシアム（3D都市モデルの整備範囲や整備内容の検討、3D都市モデルを活用したデジタルツイン環境構築事業）		

PLATEAU

by MLIT



PLATEAU  
by MLIT

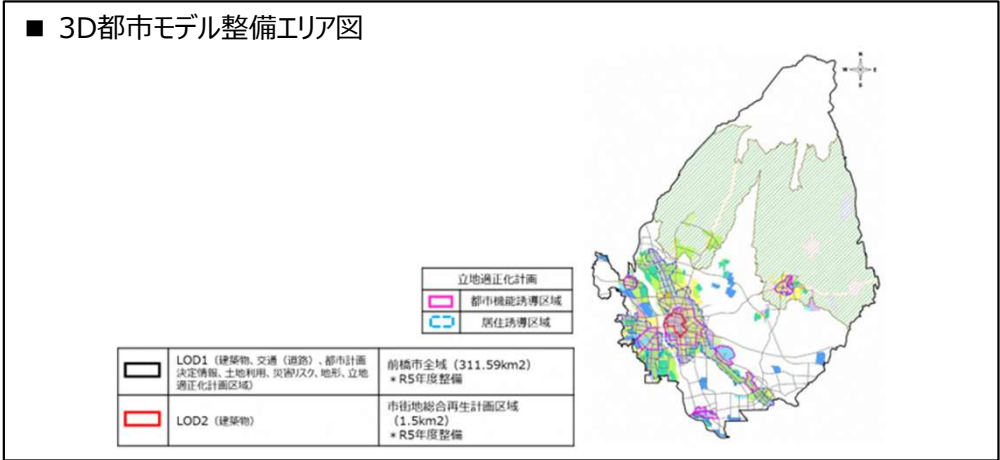


Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

7.群馬県前橋市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	前橋市全域	311.59km <sup>2</sup>	R5年度整備済
LOD2	建築物	前橋市市街地総合再生計画区域	1.5km <sup>2</sup>	R5年度整備済



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
測量成果	3.既存資料（航空写真）	R4年度	2,500
	前橋市3D都市モデル	R5年度	2,500

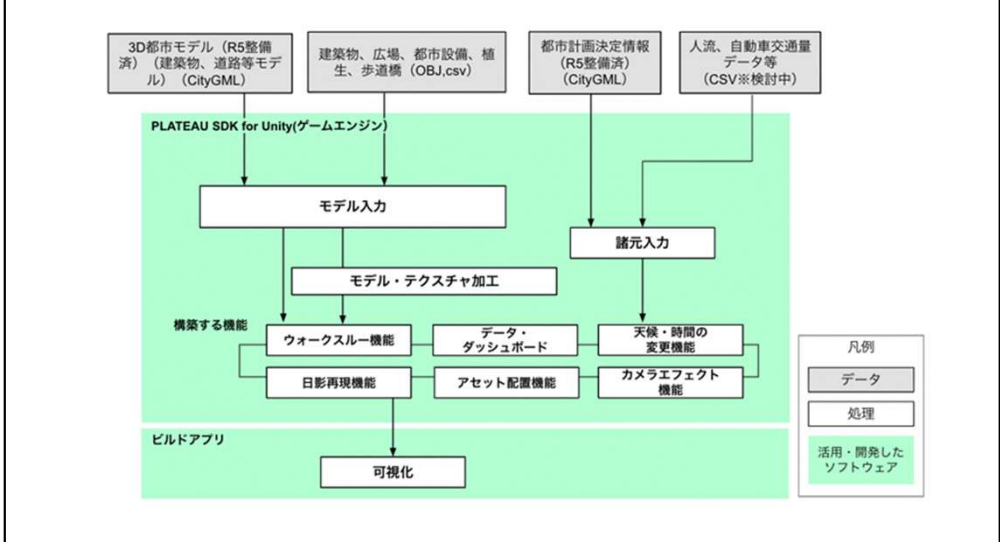
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200-500	2-3千



■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	地域の課題解決や政策立案に向けて多様な主体がデータを共有・活用し、まちづくりに参画できるデジタルツイン環境を構築する。
取組内容	様々なデータを一元的に可視化、重畳化して表示することができるダッシュボードを作成することで、多様な主体がデータを活用し、課題解決や政策立案につなげる環境を構築する。 都市デザインや公共交通と連携したまちづくりに向けたシミュレーション用のモデルとして、前橋駅—県庁間の沿道区間に高精細モデルを付加する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

7.群馬県前橋市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物 LOD1,LOD2、LOD1交通（道路） （名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年）</li><li>都市計画決定情報 LOD1(区域区分、地域地区等の範囲、種別)</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>MMS計測データ</li><li>建築物(ランドマーク)</li><li>都市設備</li><li>可搬型計測データ</li><li>建築物（沿道）</li><li>植生</li><li>人流、自動車交通量データ</li><li>交通（広場）</li><li>その他構造物</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>PLATEAUデータ（LOD1/LOD2建築物、LOD1交通（道路）および高精細建築物（10棟）、壁面加工テクスチャ付建築物（前橋駅—県庁間の沿道）、高精細交通（広場）（3か所）、都市設備、植生等の3次元都市モデルデータをPLATEAU SDK 3.0を使用してゲームエンジンに取り込む。</li><li>ゲームエンジンを用いて、高グラフィックで快適な操作性を有し、多面的な視点設定（歩行者目線、鳥瞰、任意のアングル等）が可能なシステムを構築し、建物データ及び交通データに加えて、人流データや都市計画情報等、各種データをデジタルツインにインポートする。</li><li>デジタルツイン上で、都市のデータを集約し、前橋駅前から県庁までの通り沿いを中心にデータを可視化することで、現状の課題の把握を実施する。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>構築したデジタルツイン環境上で、公共交通と連携した道路空間の再編、都市デザインの検討・可視化を実施する。</li><li>検討結果を市民への合意形成に向けたツールとして活用する。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	ユースケース動画等を前橋市ホームページにて掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルを活用して課題解決やまちづくり等に向けたユースケース開発に取り組む主体数	2団体 (R6年度)	3団体 (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200–500	2–3千



■ ユースケース開発成果イメージ図



デジタルツイン環境の構築

- ・LOD3相当で整備したモデルに対し、約60種類のアセットを配置可能な実装を行い、よりリアルなまちづくりのイメージを再現。
- ・人流データと自動車の交通量データを可視化することで、混雑状況やリアルな交通状況を正確に把握し、交通課題の特定を可能にする。

■ 今後の展望

構築したデジタルツインを活用した将来都市構造や道路空間の再編案を視覚的にシミュレーションできるツールを開発することにより、市民をはじめ各主体が課題や可能性を視覚的に検討できるなど、まちづくりへの参加を促しながら意思決定の透明性を高めたい。

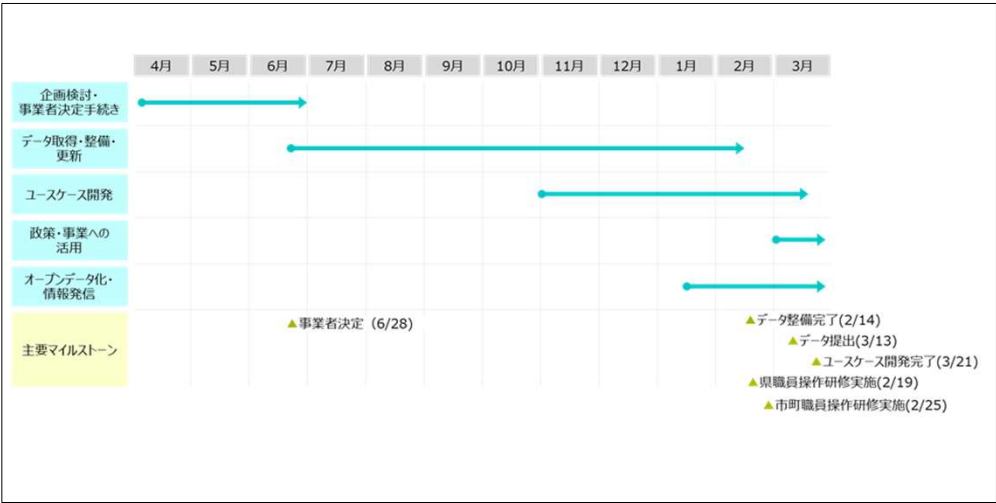
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 8.埼玉県

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約7,329,000人（令和6年12月時点）
市域全域面積	3,581.00km <sup>2</sup> （令和3年10月時点）
主な産業 地域課題等	関東平野の内部に位置し、面積の3分の1を山地、3分の1を平地が占め、荒川と利根川を有する。卸売業・小売業が盛んであり、近年は圏央道沿線などでの企業立地が進んでいる。人口は約730万人で緩やかな増加を続けているが、今後急速な高齢化が想定されている。 面積に占める河川の割合が約3.9%で全国2位となっており、豊かな河川環境に恵まれる反面、水害リスクが高い市街地が多くなっている。 全体として埼玉版スーパー・シティプロジェクトの推進に取り組んでいる。

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	10千以上

担当部局	都市計画課
------	-------



■ 補助事業実施項目

目標	スマートなインフラに支えられた魅力ある暮らしやすい埼玉県への変革
課題	・ 社会全体のDXの実現、まちづくりのDXの推進 ・ 頻発・激甚化する水害対策、災害リスク情報を分かりやすい形で整備し発信
創出価値	・ 3D都市モデルで建物利用現況調査の結果等をオープンデータ化することで、分かりやすい形で県民に情報を提供することができる。 ・ 災害リスク情報を3D都市モデルで分かりやすく表示・発信することで、県民の防災意識向上を促す。

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	・ 3D都市モデル整備（LOD1,LOD2）
ユースケース開発	・ 3Dハザードマップの作成 ・ 埼玉県GISにデータ搭載
推進事業	—

総事業費（予定）	48,000（万円） ※うちR6年度12,000（万円）
R6年度補助額	6,000（万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 ・ 3Dハザードマップを埼玉県GISに搭載 【3D都市モデル】
-------------------	--

R6年度委託事業者	国際航業株式会社（3D都市モデル整備（LOD1,LOD2））
	国際航業株式会社（3Dハザードマップの作成）
	国際航業株式会社（埼玉県GISにデータ搭載）

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 8.埼玉県

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	左記、全地物共通 ・10市町 ・12市町 ・2市町 ・19市町予定 ・16市町予定	左記、全地物共通 ・478.7km <sup>2</sup> ・376.44km <sup>2</sup> ・182.60km <sup>2</sup> ・809.52km <sup>2</sup> ・1,653.53km <sup>2</sup>	左記、全地物共通 ・R5年度整備済 ・R6年度整備 ・R6年度更新 ・R7年度整備 ・R8年度整備
LOD2	建築物	10市町各5棟ずつ 14市町各5棟ずつ 2市町 19市町各5棟ずつ 16市町村各5棟ずつ	— — 0.76km <sup>2</sup> — —	R5年度整備済 R6年度整備 R6年度更新 R7年度整備 R8年度整備

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R6補助対象地物

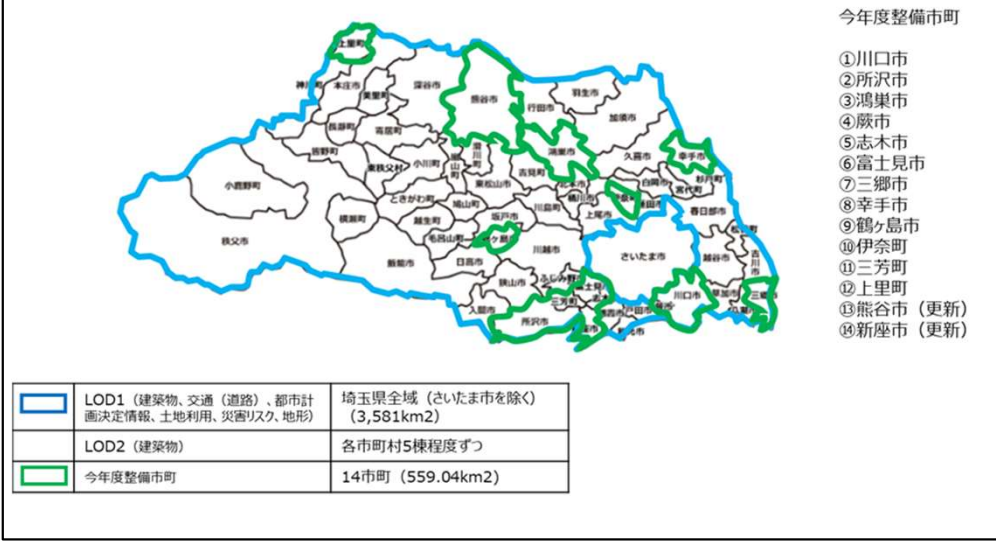
LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2	建築物 交通(道路)  建築物	埼玉版スーパー・シティプロジェクトで示された範囲の一部  R6年度整備市町内の避難施設の一部面積	2.0km <sup>2</sup>  6.8km <sup>2</sup>	R5年度整備済  R6年度整備
LOD3	建築物 交通(道路)	一般県道春日部停車場線	300m	R5年度整備済

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	10千以上



PLATEAU  
by MLIT

■ 3D都市モデル整備エリア図



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図(既存)	各市町村ごと	2,500
測量成果	既存資料(航空写真)	各市町村ごと	2,500
属性情報	都市計画基礎調査(既存)	各市町村ごと	—
	建物利用現況調査(新規)	各市町村ごと	—
	立地適正化計画(既存)	各市町村ごと	—



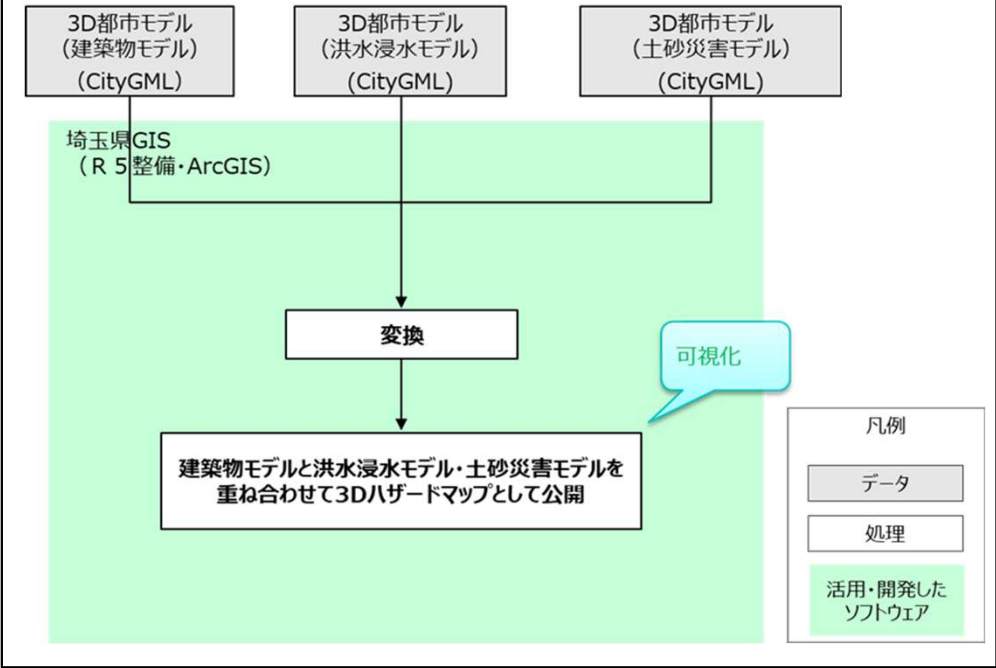
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 8.埼玉県

■ ユースケース概要

分野	防災・防犯
目的	県民一人一人の危機管理意識の向上、躊躇ない避難行動を促す。
取組内容	3Dハザードマップを埼玉県GISにより公開し、災害リスクを可視化する。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	10千以上



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年)</li><li>災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域)</li></ul>
活用データ (上記以外)	—
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>埼玉県GISを構築する。(R5年度実施済)</li><li>埼玉県及び各市町村が保有するハザード情報 (洪水浸水想定区域図と土砂災害警戒区域図) の災害リスクモデルを作成する。</li><li>3D都市モデル (建築物、地形) と3次元化した災害リスクモデルを重ね合わせ、埼玉県GISで3Dハザードマップとして公開する。</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルの建築物と災害リスク (洪水浸水モデル・土砂災害モデル) を重ね合わせて「3Dハザードマップ」として公開し、県民の防災意識向上を促す。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルを埼玉県GISに搭載する。</li><li>3Dハザードマップを埼玉県GISに搭載する。</li></ul>

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
埼玉県GISにアップした、3Dハザードマップの閲覧数 (回)	10,000回／年 (R6年度) 20,000回／年 (R7年度) 30,000回／年 (R8年度)	14,306回／年 (R6年度)
3D都市モデルを「活用したい」と評価した県・市町村職員の割合 (%)	99% (R6年度末)	97% (R6年度)
KPI未達を受けての今後の対応	3D都市モデルを活用したいと思ってもらえるよう、研修会等を開催し、具体的な活用イメージが湧く情報提供を実施する。	



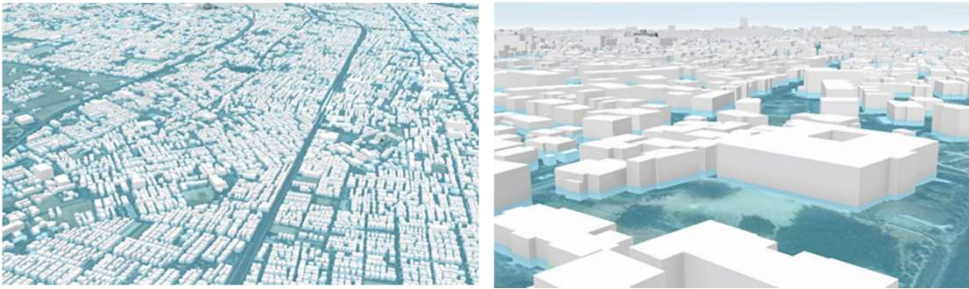
Ⅲ. 令和 6 年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 8.埼玉県

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	10千以上



■ ユースケース開発成果イメージ図



3 Dハザードマップイメージ

全景

3D都市モデルの建築物と災害リスク（洪水浸水想定区域）を重ね合わせた状態で公開。 上記画像は、引いたアングルで全景表示したもの。

近景

3D都市モデルの建築物と災害リスク（洪水浸水想定区域）を重ね合わせた状態で公開。上記画像は、寄ったアングルで近景表示したもの。

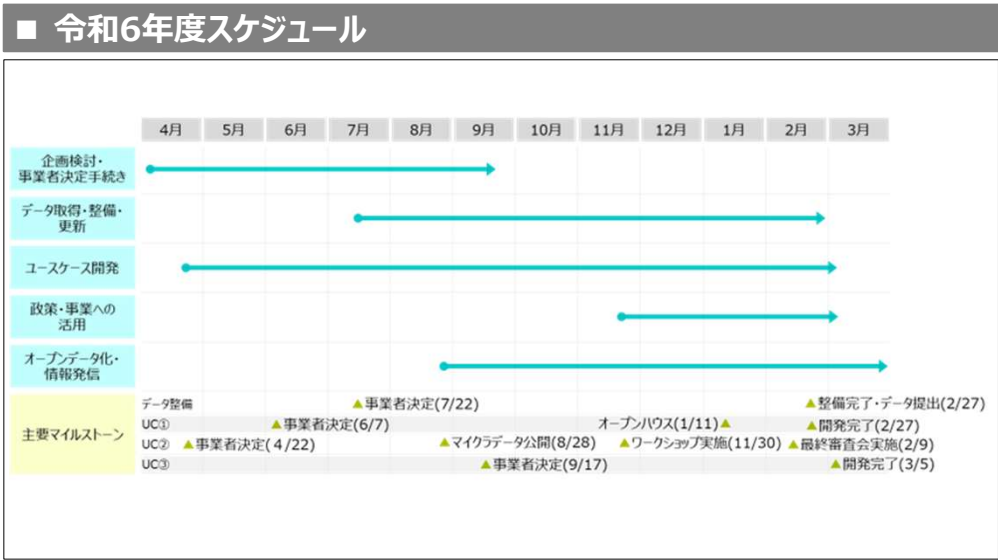
■ 今後の展望

昨年度に引き続き、今年度整備対象の 1 4 市町の整備を行いました、今後は埼玉県全域の整備を目指して進めていきたい。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 9.埼玉県さいたま市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	約135万人（令和7年3月時点）
市域全域面積	217.43km <sup>2</sup> （令和7年3月時点）
主な産業 地域課題等	<ul style="list-style-type: none"><li>埼玉県の南東部に位置する政令指定都市。業務核都市で、大宮駅や浦和駅を中心とし新幹線やJR、私鉄が結節する東日本の交流拠点都市。人口は約135万人</li><li>旧4市（浦和、大宮、与野、岩槻）の中心市街地がそのまま地域の拠点として位置づけられており、2つの都心と4つの副都心が存在する多核構造の都市として発展。一方で、市街地が見沼田圃や荒川をはじめとする豊かな自然環境に挟まれた構造となっており、東京近郊にありながら、都市部と自然とが共存</li></ul>



分野

人口規模

面積規模

予算規模

街・活・交・住

15万以上

200－500

5－10千

担当部局

都市計画課

■ 補助事業実施項目

目標	上質な生活都市 / 東日本の中核都市の実現		
課題	駅周辺におけるウォーカブルな都市空間・環境の形成 / まちなかの賑わい創出・回遊性の向上 / まちづくりへの多様な市民参画の促進 / 都市防災力の向上		
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデルを活用することで、精緻な交通分析・シミュレーションが可能となる。</li> <li>3D都市モデルを活用し将来イメージ等を可視化することで、まちづくりのステークホルダーとの認識共有がしやすくなる。</li> <li>3D都市モデルを活用したゲーミフィケーションによる市民参加型のまちづくりにより、多様な市民のまちづくりへの関心度の向上、参画の促進が図られる。</li> </ul>		
事前調査等	—		
3D都市モデル整備・更新	都市計画基本図更新 / 3D都市モデル更新（LOD1,LOD2）		
ユースケース開発	スマートプランニングによる地区交通プラン検討・推進 / マインクラフトワールドデータ作成及びコンテスト開催 / 時系列の三次元浸水データとの重畳による災害リスクの可視化		
推進事業	さいたま市版PLATEAU VIEW更新 / 3D都市モデル等データ活用研修		
総事業費（予定）	16,655.8（万円） ※うちR6年度7,486.6（万円）		
R6年度補助額	3,743.3（万円）		
補助対象外の関連事業	災害リスクの可視化・周知		
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>G空間情報センターへの掲載</li> <li>PLATEAU VIEWへの掲載</li> <li>さいたま市オープンデータサイトに掲載</li> <li>さいたま市ウェブサイトに掲載</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【3D都市モデル】</li> <li>【3D都市モデル、UCデータ】</li> <li>【UCデータ】</li> <li>【UC記事】</li> </ul>	
R6年度委託事業者	株式会社バスコ（都市計画基本図更新 / 3D都市モデル更新（LOD1,LOD2））		
	計量計画研究所・GEOTRA特定共同企業体（スマートプランニングによる地区交通プラン検討・推進）		
	MIERUNE・角川アスキー総合研究所特定共同企業体（マインクラフトワールドデータ作成及びコンテスト開催）		
	株式会社福山コンサルタント（時系列の三次元浸水データとの重畳による災害リスクの可視化 / 3D都市モデル等データ活用研修）		
	朝日航洋株式会社（さいたま市版PLATEAU VIEW更新）		
※災害リスクの可視化・周知はさいたま市で実施			

PLATEAU

by MLIT

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

9.埼玉県さいたま市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路)	さいたま市全域 さいたま市全域 さいたま市全域	217.43km <sup>2</sup> 217.43km <sup>2</sup> 217.43km <sup>2</sup>	R2年度整備済 R4年度整備済 R6年度整備
	都市計画決定情報 土地利用 地形	さいたま市全域	217.43km <sup>2</sup>	R2年度整備済
	災害リスク	さいたま市全域	217.43km <sup>2</sup>	R5年度整備済
LOD2	建築物	ランドマーク 浦和駅周辺地区 大宮駅周辺・さいたま新都心周 辺地区	1.2km <sup>2</sup> 3.3km <sup>2</sup>	R2年度整備済 R4年度整備済 R5年度整備済
		浦和駅周辺地区、大宮駅周辺・ さいたま新都心周辺地区	1.2km <sup>2</sup> ・3.3km <sup>2</sup>	R6年度整備

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2	交通(道路)	浦和駅周辺地区 大宮駅周辺・さいたま新都心周 辺地区	1.2km <sup>2</sup> 3.3km <sup>2</sup>	R4年度整備済 R5年度整備済
		浦和駅周辺地区、大宮駅周辺・さい たま新都心周辺地区	1.2km <sup>2</sup> ・3.3km <sup>2</sup>	R6年度整備
	橋梁	大宮駅周辺地区(橋・鉄道高架) さいたま新都心周辺地区（歩行者 デッキ）	1.5km <sup>2</sup> 0.5km <sup>2</sup>	R5年度整備済 R5年度整備済
LOD3	交通（道路） 交通（広場）	さいたま新都心周辺地区	0.08km <sup>2</sup>	R5年度整備済
	都市設備	さいたま新都心周辺地区（上記歩 行者デッキに存する都市設備一 式）		R5年度整備済
	植生	さいたま新都心周辺地区(上記歩 行者デッキに存する植生一式)		R5年度整備済

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活・交・住	15万以上	200－500	5－10千



■ 3D都市モデル整備エリア図

都心地区① 大宮駅周辺  
都心地区② さいたま新都心周辺  
都心地区③ 浦和駅周辺  
都心地区④ さいたま新都心周辺の交通広場、橋梁等

	LOD1（建築物、交通(道路)、都市計画決定 情報、土地利用、災害リスク、地形）	さいたま市全域（217.43km <sup>2</sup> ）
	LOD2（建築物、交通(道路)）	さいたま市都心地区（4.5km <sup>2</sup> ）
上図	LOD2（橋梁）	さいたま市都心地区（4.5km <sup>2</sup> ）の一部
上図	LOD3（交通(広場)、都市設備、植生）	さいたま市都心地区（4.5km <sup>2</sup> ）の一部

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R6	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R3,R4,R5	1,000
属性情報	—	—	—

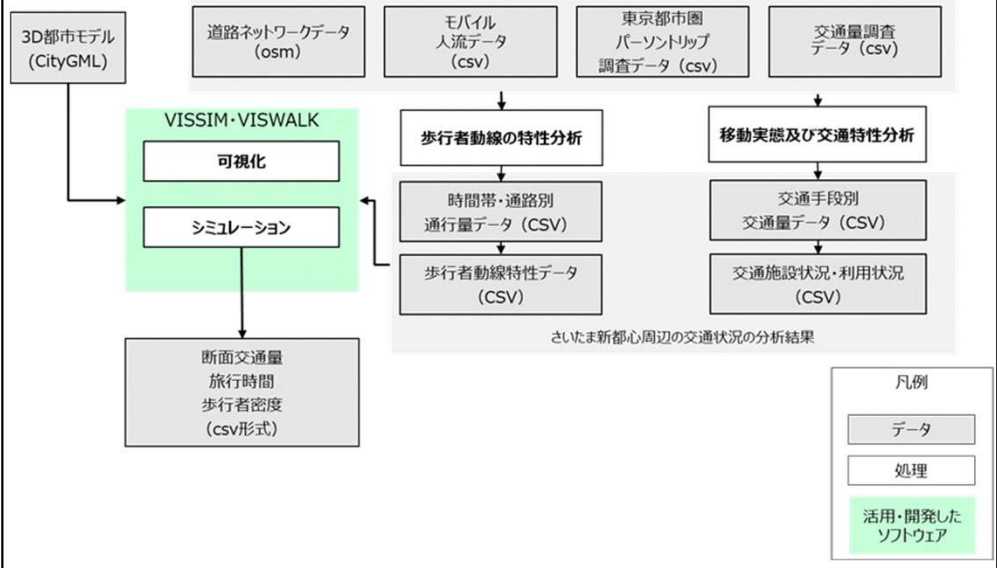
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

9.埼玉県さいたま市

■ ユースケース①概要

分野	都市計画・まちづくり／交通・物流・モビリティ／住民参加
目的	駅周辺におけるウォーカブルな都市空間・環境の形成 まちなかの賑わい創出・回遊性の向上
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルと人流データ等を活用し、歩行者や自転車、自動車等の移動状況など地域の交通特性を分析する。</li><li>市役所新庁舎や歩行者デッキ整備による交通特性の変化をシミュレーションする。</li><li>それぞれの結果を3D都市モデルと重畳のうえ可視化し、庁内・関係機関との協議や市民とのコミュニケーションに活用する。</li><li>新庁舎へのアクセス性・快適性向上、まちなかにおける賑わいの創出、回遊性向上等の検討を行い、地区交通プラン策定に向けて検討する。</li></ul>

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活・交・住	15万以上	200－500	5－10千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD2（形状）</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>道路ネットワークデータ(車線数、車線運用)</li><li>交通量調査データ(路線別通行量)</li><li>モバイル人流データ(路線別通行量)</li><li>東京都市圏パーソントリップ調査データ(個人属性、移動の目的、交通手段、発生・集中量)</li></ul>
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>モバイル人流データやパーソントリップ調査を用いて、歩行者動線の特性、時間帯毎、属性別の通行人数、自転車、バス、自家用車等の交通モード別の移動実態及び交通特性等を整理する。</li><li>上記のデータ、3D都市モデルをVissimにインポートしたうえで、将来の土地利用を踏まえた歩行者等の交通量、動線をシミュレーション・三次元可視化し、歩行者ネットワークを複合的に検討する。</li><li>上記の可視化データを用いて、大宮駅－さいたま新都心駅間の回遊性向上に資する一体的な都心形成に向けたまちづくりを検討する。</li><li>シミュレーションした可視化データを公開し、将来イメージするさいたま新都心のまちづくりについて、市民から意見聴取する。</li><li>これらの分析及び検討結果を用いて、有識者を含む検討会における検討材料として活用し、今後のまちづくりの展開に向けた議論を行う。</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデル及び交通シミュレーション結果を可視化した動画データ（AVI形式他）を作成し、まちづくりに関する市民意見聴取（オープンハウス）や検討にて活用。</li></ul>
オープンデータ化情報発信	－

■ KPI

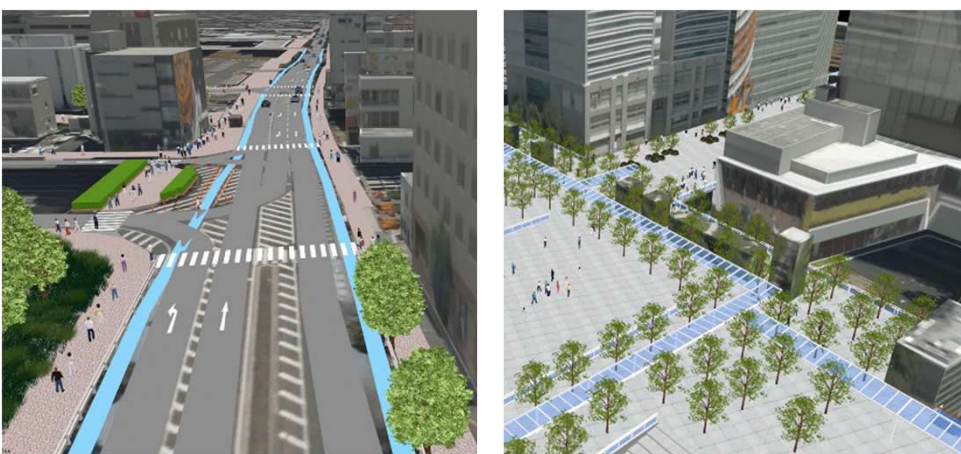
KPI	目標設定	達成状況
将来の人流状況に対する市民の理解度	80% (R6年度)	91% (R6年度)



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

9.埼玉県さいたま市

■ ユースケース開発成果イメージ図



さいたま新都心駅東側の様子      さいたま新都心駅西側の様子

さいたま市役所の新庁舎の完成（将来の土地利用）を想定した歩行者シミュレーションを実施し、来訪者等の移動の様子を三次元で可視化

■ 今後の展望

次年度以降、歩行者目線含む様々な視点で移動実態を可視化し、ステークホルダーとの円滑な協議や合意形成に活用したい。

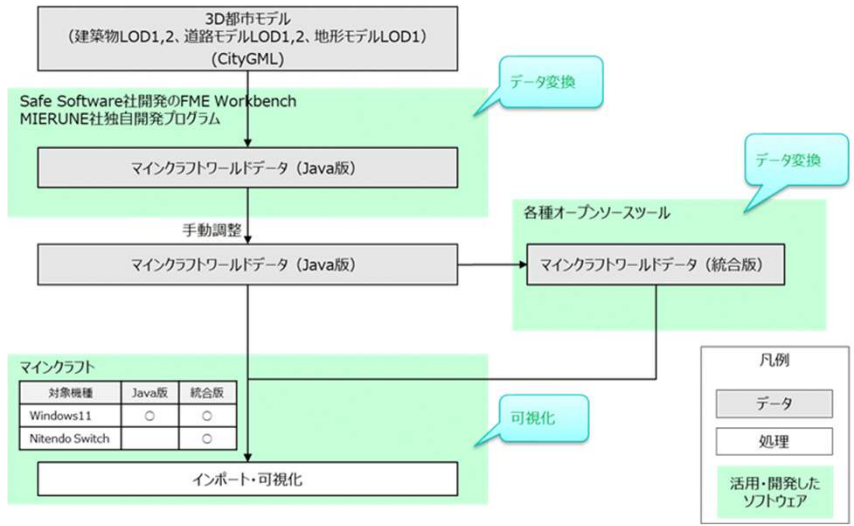
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活・交・住	15万以上	200－500	5－10千



■ ユースケース②概要

分野	都市計画・まちづくり／観光・地域活性化・コンテンツ／住民参加
目的	まちづくりへの多様な市民参画の促進
取組内容	3D都市モデルをマイクラフトの世界データに変換・オープンデータ化するとともに、同データを活用したこども向けコンテストを開催する。

■ システム構成図





Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

9.埼玉県さいたま市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1,LOD2</li><li>交通（道路）LOD1,LOD2</li><li>地形LOD1</li></ul>
活用データ (上記以外)	—
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデル（建築物モデルLOD1,2、交通(道路)モデルLOD1,2、地形モデルLOD1）を変換し、現実の都市を再現したマイクラフトワールドデータ（Java版及び統合版）を作成する。建築物モデルLOD2の整備範囲については、テクスチャ情報から色を判別し類似色のブロックへ変換する。一部建築物については手動で再現度を高める。</li><li>作成したマイクラフトワールドデータを一般公開する（さいたま市オープンデータサイト（G空間情報センター）に掲載）。</li><li>さいたま市の技術者・地域コミュニティ等と連携しながら、子どもがマイクラフト上でまちの将来像を再現してまちづくりの提案を行う、まちづくりへの市民参画促進イベントの企画・各種調整を行う。</li><li>作品募集型のイベントを開催する。事務局による審査・選定を経て最終発表会（さいたま市内における現地開催）を開催し、審査員による審査を行い、グランプリ等の表彰を行う。また、イベントの機運醸成のため、ワークショップ（さいたま市内における現地開催）を開催する。</li><li>開催したイベントのレポート記事をさいたま市ウェブサイトに掲載する。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>作成・公開したさいたま市のマイクラフトワールドデータを活用し、小中学生を対象に、「わたしの考える未来のさいたま」をテーマとした作品コンテスト及びワークショップを開催することで、まちづくりへの市民参画促進を図る。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>さいたま市オープンデータサイトに掲載【UCデータ】</li><li>さいたま市ウェブサイトに掲載【UC記事】</li></ul>

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデル関連のイベントやワークショップ等への参加人数（人）	40人 (R6年度)	70人 (R6年度) ※その他申込者220人

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活・交・住	15万以上	200－500	5－10千



■ ユースケース開発成果イメージ図



コンテストにおけるこどもの作品(グランプリ)



ワークショップの様子



コンテスト表彰式



コンテストにおけるこどもの作品(グランプリ)



作成・公開したマイクラワールドデータ

■ 今後の展望

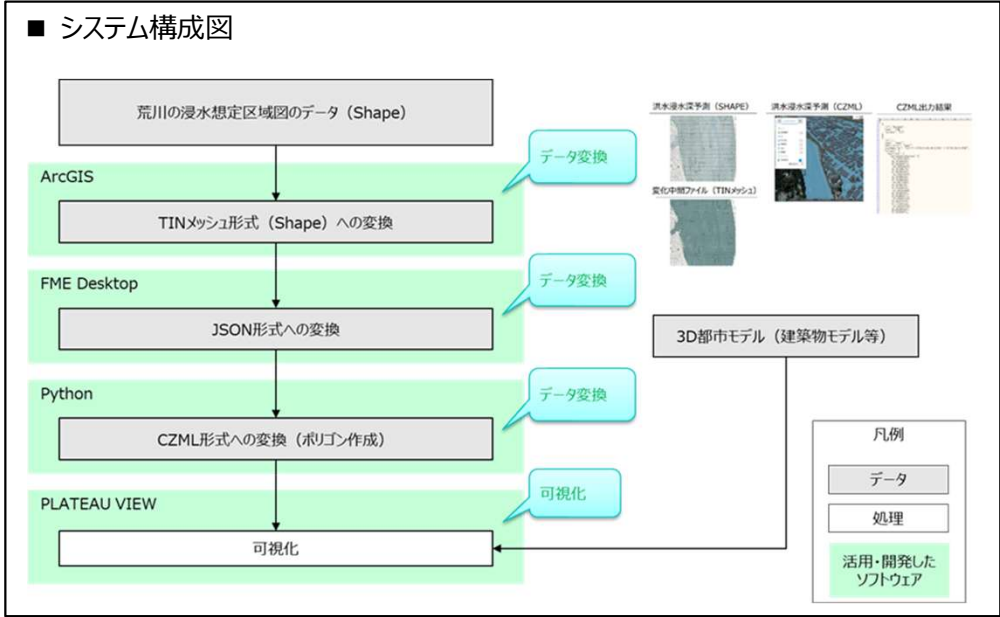
次年度以降、継続的にイベントを開催することで、まちづくりへの市民参画を促進を図っていききたい。また、公民連携による持続可能な運営スキームを構築していききたい。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

9. 埼玉県さいたま市

■ ユースケース③概要

分野	防災・防犯
目的	住民等の水害リスクの理解促進・マイタイムラインの作成促進
取組内容	時系列の三次元浸水データを整備し、3D都市モデル（建築物モデル等）と重畳・可視化することで、災害リスクの周知・認知の拡大を図り、マイタイムラインの作成を促進する。



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活・交・住	15万以上	200－500	5－10千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1, LOD2</li><li>地形LOD1</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>洪水浸水想定区域図(緯度経度、高さ、浸水深)</li></ul>
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>浸水想定区域図のデータを収集する。荒川の浸水想定区域図のデータのうち破堤点を10箇所選定し、PLATEAU VIEW上で時系列変化の可視化が可能なフォーマット (CZML等) に変換する。</li><li>作成したデータを「PLATEAU VIEW」のCMSに登録し、Editorで調整のうえユースケースデータとして可視化・一般公開する。3D都市モデル (建築物モデル) と重畳することで、時系列での水害リスクの変化をわかりやすく可視化する。</li><li>現在策定中の立地適正化計画の防災指針 (事務局案) に、「浸水状況の三次元可視化による市民防災意識の向上 (仮)」を位置づける。また、施策の有効性について防災部署にアンケートを実施する。</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>今後、水害リスクの適切な把握による市民の防災意識の向上や、マイタイムラインの作成促進を図る。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>PLATEAU VIEWに搭載【UCデータ】</li></ul>

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
職員アンケートにおいて、時系列の浸水状況の三次元可視化が市民の防災意識の向上など防災施策への活用の有効と回答する職員の割合	80% (R6年度)	100% (R6年度)

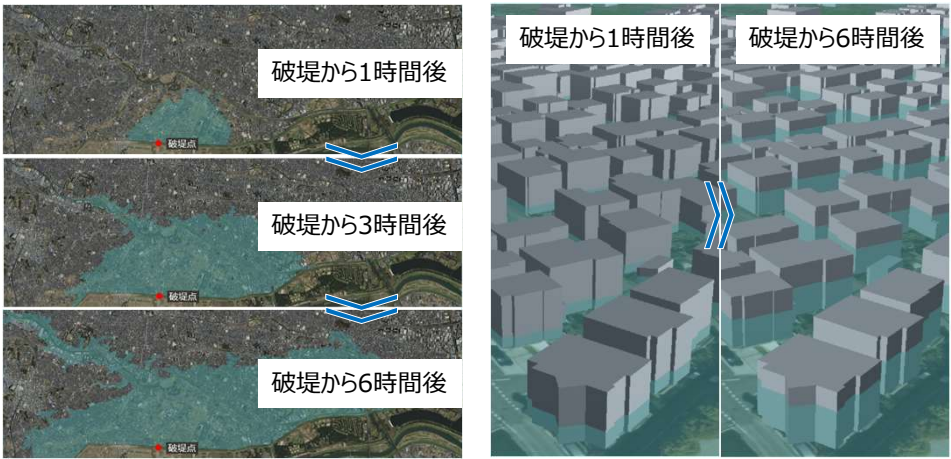
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 9.埼玉県さいたま市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活・交・住	15万以上	200－500	5－10千



■ ユースケース開発成果イメージ図



破定点ごとの浸水想定区域データにより、浸水想定範囲の時系列変化をわかりやすく可視化する。建築物モデルと重畳することで、水害リスクの理解を促進する。

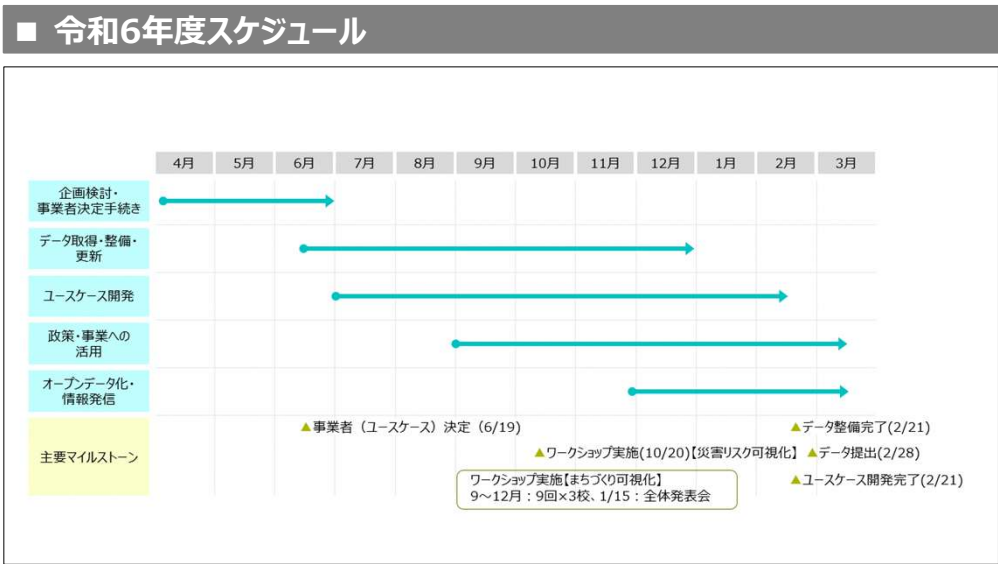
■ 今後の展望

住民等の水害リスクの理解促進・マイタイムラインの作成促進を目的に、時系列の三次元浸水データを整備した。今後は、本データが、現在策定中の立地適正化計画における防災施策の検討や各地区のまちづくり計画に活用されるとともに、防災分野における避難経路の選定及び災害発生時の基礎資料として扱われるよう庁内関連部署へのさらなる周知・連携を図っていきたい。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 10.埼玉県熊谷市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	191,360人（令和6年4月1日時点）
市域全域面積	159.82km <sup>2</sup> （令和6年4月時点）
主な産業 地域課題等	埼玉県の北部、東京都心から50～70km圏に位置している。充実した広域交通機能を生かした産業振興を進めている。人口は191,360人（令和6年4月1日現在）。 熊谷市は市民目線のデータ利活用を推進し、まちのにぎわいと魅力を創出するとともに、市民にも来訪者にも「やさしいまち」（やさしい未来発見都市 熊谷）を目指しており、現在計画が進行しているJR熊谷駅周辺地区での公共施設の再編などの検討に、デジタル技術を活用することで課題を可視化し効率的なまちづくりを進める。



分野

人口規模

面積規模

予算規模

街・防・活

15万以上

100－200

3－5千

担当部局

都市計画課

■ 補助事業実施項目

目標	持続性のある地域づくりのため、街の賑わいと魅力を創出する
課題	JR熊谷駅・籠原駅周辺の中心市街地における再開発、再整備などのまちづくりシミュレーション等による都市計画の立案への活用機会の創出が必要。 河川洪水浸水想定区域等の重ね合わせによる災害危険度の可視化や中心市街地（星川エリア）における人流の可視化により市民共創によるまちづくりを誘発する機会の確保が必要。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>官民連携によるデータ（3D都市モデル）の利活用を促進することによる市内在住・在学者のまちづくりへの参画、担い手の育成</li> <li>防災に関心を持つ市民に対して、事前防災におけるデータ活用の有効性を認識させ、理解度を向上させる</li> <li>中心市街地（星川エリア）におけるウォーカブルシティ促進のための、歩行者立ち寄りスポットの確保等における人流への影響を可視化し、施策検討に繋げる</li> </ul>
事前調査等	－
3D都市モデル整備・更新	－
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデルを活用したまちづくり可視化事業</li> <li>3D都市モデルを活用した災害リスク可視化事業</li> <li>3D都市モデルを活用した人流可視化事業</li> </ul>
推進事業	3D都市モデル活用促進に向けた人流オープンデータ作成
総事業費（予定）	9,145.3（万円） ※うちR6年度3,251.4（万円）
R6年度補助額	1,625.7（万円）
補助対象外の関連事業	－
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>熊谷市ホームページ 【まちづくりシミュレーション結果、ワークショップ講習資料等】</li> <li>熊谷市版Digidim「ツノルバ」【人流可視化結果】</li> </ul>
R6年度委託事業者	<div>株式会社ユーカリヤ（3D都市モデルを活用したまちづくり可視化事業、災害リスク可視化事業、人流可視化事業）</div> <div>株式会社日本能率協会総合研究所（3D都市モデル活用促進に向けた人流オープンデータ作成）</div>

PLATEA

by MLIT



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

10. 埼玉県熊谷市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用	熊谷市都市計画区域 市街化区域	159.82km <sup>2</sup> 26.38km <sup>2</sup>	R3年度整備済 R5年度整備済
	災害リスク 地形	熊谷市都市計画区域	159.82km <sup>2</sup>	R3年度整備済 R5年度整備済
LOD2	建築物	ランドマーク5か所 JR熊谷駅周辺エリア	0.6km <sup>2</sup>	R3年度整備済 R5年度整備済

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2	交通(道路) 植生	JR熊谷駅周辺エリア	0.6km <sup>2</sup>	R5年度整備済
	橋梁	JR熊谷駅周辺エリア	2.0km <sup>2</sup>	R5年度整備済

■ 3D都市モデル整備エリア図

	LOD1（建築物、道路、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形）※整備済	熊谷市全域（159.88km2）
	LOD1（建築物、道路、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形）※更新	市街化区域（26.38km2）
	LOD2（建築物、道路、土地利用、都市設備、植生）	JR熊谷駅周辺エリア（0.6km2）

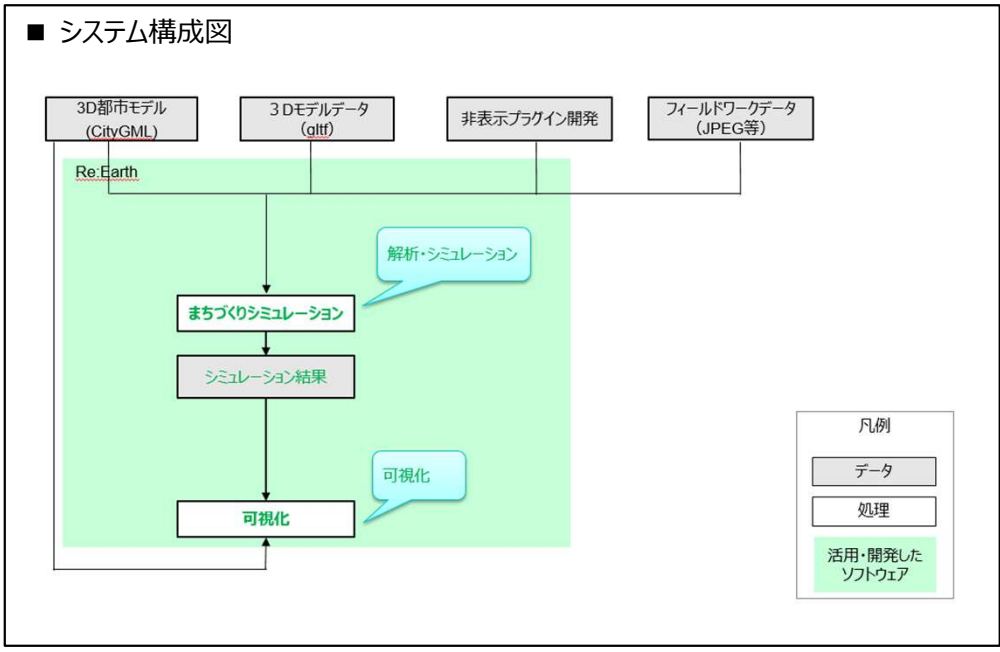
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R5年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R2年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R3年度	その他

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・活	15万以上	100－200	3－5千



■ ユースケース①概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	3D都市モデルを活用したまちづくりの課題の可視化
取組内容	高校生を対象にワークショップ形式でJR熊谷駅・籠原駅周辺における再整備などのまちづくりシミュレーションを行い、熊谷市の賑わいと魅力の創出に向けた都市計画の立案に活用すると共に、地域連携によるデータ活用や担い手の育成を図る。





Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

10. 埼玉県熊谷市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1, LOD2 (計測高さ、gml_id)</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>3Dモデルデータ (建築物、植生等)</li><li>フィールドワークデータ (写真 (画像) )</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>WebGIS上で3D都市モデルを非表示化するプラグインを開発する</li><li>WebGIS に表示できるよう3DモデルデータをglTF形式に変換する</li><li>開発した3D都市モデルを非表示化するプラグイン及び3Dモデルデータを活用し、まちづくりシミュレーションを可視化する</li><li>開発したツールを活用し、県立熊谷西高等学校及び熊谷工業高等学校、熊谷商業高等学校の3校を対象にした高校生まちづくりワークショップ (9回×3校) を開催する</li><li>ワークショップの成果発表として、市内に立地する立正大学を会場に発表会を開催し、熊谷市の賑わいと魅力の創出に向けた都市計画の立案に活用すると共に、地域連携によるデータ活用や担い手の育成を図る</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルを活用し、JR熊谷駅・籠原駅周辺の市街地エリアにおける再整備などのまちづくりシミュレーションを体験できるシステムを構築し、課題を可視化する</li><li>高校生ワークショップを通じて学生のアイデアを形にすることで、地域連携型のまちづくりを促進すると共に、担い手を育成する</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	高校生が作成したまちづくりシミュレーションの成果物 (全体発表会) を熊谷市ホームページに掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルを用いたまちづくりワークショップを通じ、まちづくりの課題の可視化について意見が得られた人の割合 (%)	50% (R6年度)	83% (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・活	15万以上	100 - 200	3 - 5千



■ ユースケース開発成果イメージ図



まちづくりシミュレーション

3D都市モデル上の建物を非表示化する機能、3Dモデルを配置する機能を開発。まちの現状や課題、都市計画について学び、フィールドワークで検討を深めたうえで、まちづくりシミュレーションを活用し提案内容を具現化した。



高校生まちづくりワークショップ全体発表会

本市スマートシティ推進協議会に加入・連携している立正大学を会場に、校内発表会を通過した各校代表2グループ、合計6グループが、3D都市モデルを活用したまちづくりシミュレーションにより政策提言を実施。全体発表会での提案内容を市ホームページに掲載し、公表した。

■ 今後の展望

今年度ワークショップに参加した高校生からの意見を踏まえ、今後はまちづくりシミュレーションの更なる機能実装を進めることで、3D都市モデルによるシミュレーションの基盤を固め、市民参加によるデータを活用したまちづくりの促進を図っていく。

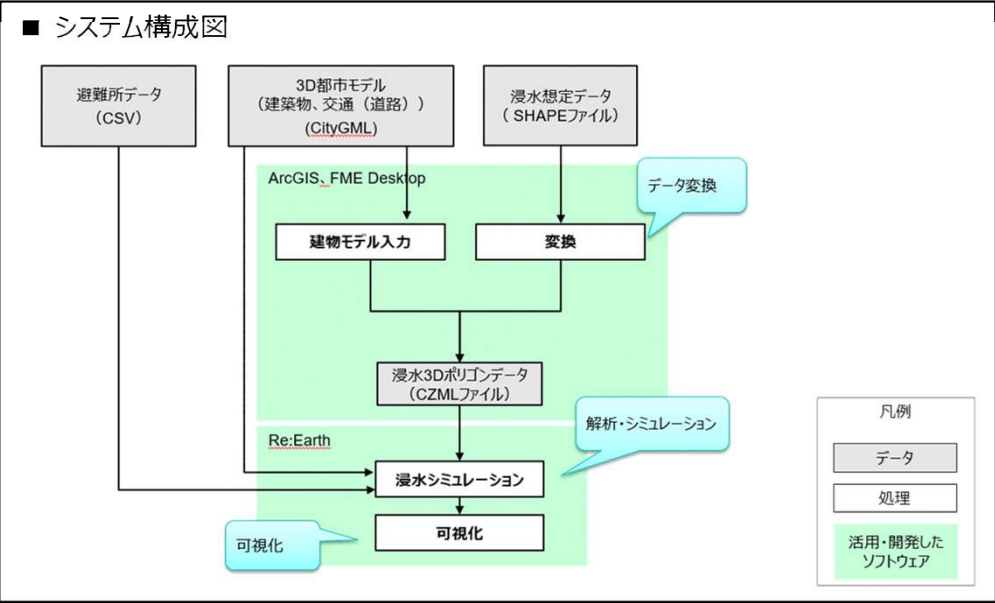
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

10.埼玉県熊谷市

■ ユースケース②概要

分野	防災・防犯
目的	3D都市モデルを活用した災害リスク（浸水）の可視化
取組内容	関東を代表する2大河川である、利根川、荒川を市域に有しているため、3D都市モデルと両河川の洪水浸水想定区域データを重ね合わせ、市民の居住するエリアの危険度を可視化する。併せて、避難所への安全な経路選定にも活用する。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・活	15万以上	100－200	3－5千



■ ユースケース開発方法

活用データ（3D都市モデル）	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1（計測高さ）</li><li>交通（道路）LOD1（区間種別、機能）</li></ul>
活用データ（上記以外）	<ul style="list-style-type: none"><li>浸水想定データ（経過時間ごとの浸水域、水深）</li><li>避難所データ（避難所名称、所在地）</li></ul>
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>利根川、荒川の氾濫による災害のリスクを可視化するため、浸水域を示す3Dポリゴンデータを作成する。浸水の広がりをアニメーションで表現できるデータ形式（CZMLファイル）に変換する</li><li>作成した浸水ポリゴンデータ及び開発した避難所までのルートを描画する機能を用いて災害リスク等の可視化により、防災士を対象とした市民ワークショップを開催する</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>作成した浸水3Dポリゴンデータ、ワークショップで用いたマニュアル（アプリケーション操作方法等）をオープンデータ化し、本ユースケースの活用機会を創出、市民の防災意識の向上を図る</li></ul>
オープンデータ化情報発信	ワークショップで使用した浸水シミュレーション機能、操作方法を熊谷市ホームページに掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルを用いた防災ワークショップを通じ、災害リスクの可視化の活用可能性を感じた人の割合（%）	70%（R6年度）	75%（R6年度）

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

10. 埼玉県熊谷市

■ ユースケース開発成果イメージ図



浸水シミュレーションワークショップ

防災士を対象に実施。自身が持つ浸水イメージと3D都市モデルで可視化したものとの差異を確認することができた。



可視化結果をディスカッション

それぞれが持つ浸水イメージではなく、可視化結果によるリアルな浸水イメージを共有し、ディスカッションすることが可能。

■ 今後の展望

今後の展望として、3D都市モデルが持つ「わかりやすさ」を最大限に活用し、「個人がより正確なリスクを認識する」というだけでなく、「複数の人が3D都市モデルによって頭の中に同じイメージを持って、それを前提にディスカッションを進める」という取組を実施したいと考えている。

具体的には、避難所運営委員会や自主防災組織などを対象にすることを視野に入れている。

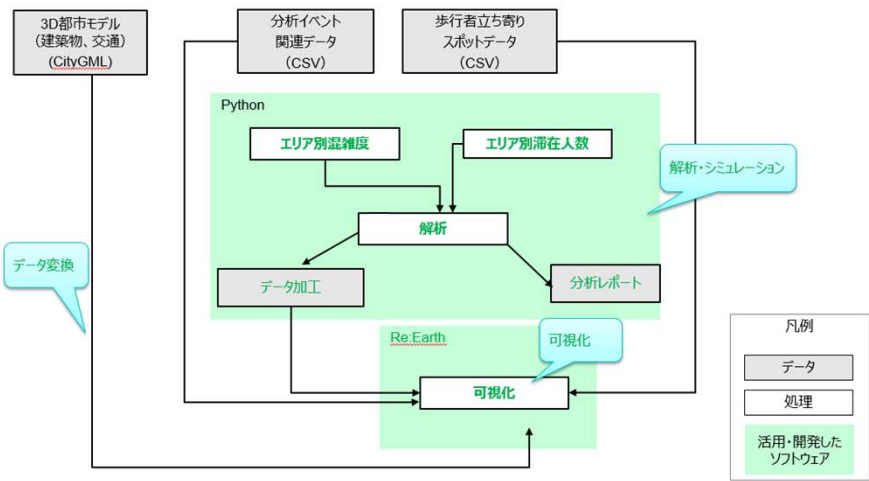
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・活	15万以上	100－200	3－5千



■ ユースケース③概要

分野	地域活性化・観光・コンテンツ
目的	3D都市モデルを活用した人流の可視化
取組内容	熊谷市の中心市街地を東西に横断する星川周辺において歩行者立ち寄りスポットの確保等による人流への影響を可視化し、ウォーカブル促進を図る。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

10.埼玉県熊谷市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD2（計測高さ）</li><li>交通（道路）LOD2（区間種別、機能）</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>エリア別混雑度</li><li>エリア別滞在人数</li><li>分析イベント関連データ</li><li>歩行者立ち寄りスポットデータ</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>滞在・人流加工データの作成を作成する</li><li>3D都市モデル、気象シミュレーションデータ、歩行者立ち寄りスポット位置データ、滞在・人流データを重ね合わせて可視化する</li><li>可視化されたデータをもとに、住民ワークショップや市民参加型デジタルプラットフォーム等で市民の意見を収集する</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデル、分析イベント関連データ、歩行者立ち寄りスポット位置データ、滞在・人流データを重ね合わせ、それぞれの関係性が可視化されたデータを作成し、熊谷市版Dicidim「ツノルバ」に掲載し、オープンデータ化する</li><li>オープンデータ化した人流データについて、市民意見を収集し、施策立案の検討に繋げる</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	可視化した人流データを熊谷版Dicidim「ツノルバ」に掲載し、市民意見を収集

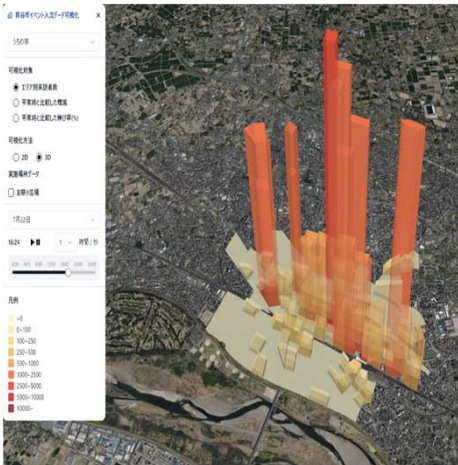
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルを活用した分析に対し、市民参加型デジタルプラットフォームに書き込まれたコメント数（件）	100件 (R6年度)	75件 (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・活	15万以上	100－200	3－5千



■ ユースケース開発成果イメージ図



イベント時の人流を3D表示

イベント時のエリア別滞在者数を3D都市モデルに可視化。濃淡及び高さにより滞在者数を表示し、時系列の変化の計測、分析が可能。



意見の収集

オンラインの市民参加型プラットフォームである熊谷版Dicidim「ツノルバ」で人流データを公開、幅広い意見を収集し、施策立案の検討に繋げる。

■ 今後の展望

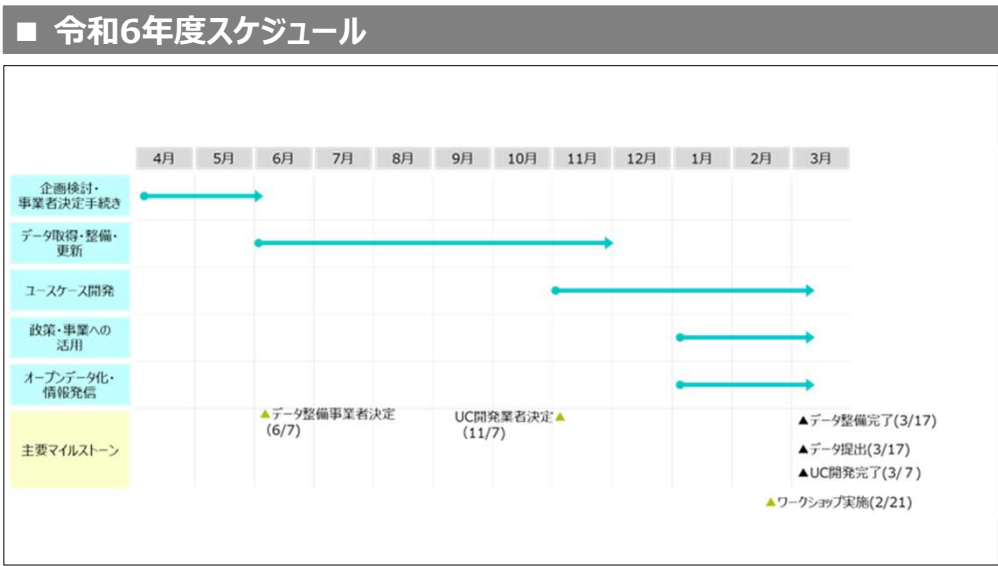
今回対象としたイベント以外の人流データの収集、分析を実施する。  
人流データに関連する外部データの種類をさらに追加することにより、イベント時の人流増加要因をより詳細に分析できるようにしていく。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

11. 千葉県千葉市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	約98万人（令和7年2月時点）
市域全域面積	272.09km <sup>2</sup> （令和7年2月時点）
主な産業 地域課題等	千葉県のほぼ中央部に位置し、JR千葉駅を中心として、東京都心まで約40km、成田国際空港まで約30kmの位置にある県内交通の要所である。 立地条件の良さを活かしたまちづくりを進め、人口は増加傾向にあり、現在は約98万人である。 市内のターミナル駅である千葉駅周辺は、業務・商業が集積し、駅ビルの建替えや再開発事業が進み民間によるまちづくりの活発化が見られる。 千葉駅周辺について、「千葉駅周辺の活性化グランドデザイン」を策定し、魅力的なまちづくりの推進を目指している。3D都市モデルを活用し、具体的な将来像の検討やまちづくりにかかわる人との共有をすることで、検討の深度化や効率的・迅速な合意形成を図る。



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200-500	2-3千

担当部局	都市計画課
------	-------

■ 補助事業実施項目	
目標	中心市街地である駅前周辺の、官民一体となった魅力あるまちづくりの実現
課題	百貨店の撤退や建築物の老朽化などによる千葉駅周辺の求心力の低下 まちづくりに関する官民間の連携・協働不足による千葉駅周辺の街並みの特徴不足
創出価値	・ 3D都市モデルを活用し再整備案をわかりやすく示すことで、市民や庁内関係課の計画に対する理解が向上する。 ・ 3D都市モデルを活用し再整備案を可視化・共有することで、検討の深度化や合意形成の迅速化を図る。

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	・ 3D都市モデル整備（LOD1, LOD2）
ユースケース開発	・ 3D都市モデルを活用したまちづくりシミュレーションシステムの構築及びワークショップ等の開催
推進事業	—

総事業費（予定）	2,400（万円）
R6年度補助額	1,200（万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】
-------------------	---

R6年度委託事業者	株式会社パスコ（3D都市モデルの整備・更新）
	パナソニック株式会社エレクトリックワークス社（UC開発）



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 11. 千葉県千葉市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 土地利用	千葉市中央区	44.71km <sup>2</sup>	R6年度整備
	災害リスク	千葉市全域	272.09km <sup>2</sup>	R6年度整備
	都市計画決定情報 地形	千葉市全域	272.09km <sup>2</sup>	R6年度整備
LOD2	建築物	千葉駅前大通り	0.33km <sup>2</sup>	R6年度整備

■ 3D都市モデル整備エリア図



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	4.数値地形図 (DMデータ) (既存)	R元年度	2,500
測量成果	3.既存資料 (航空写真)	R5年度	2,500
属性情報	1.都市計画基礎調査 (既存)	R3年度	その他

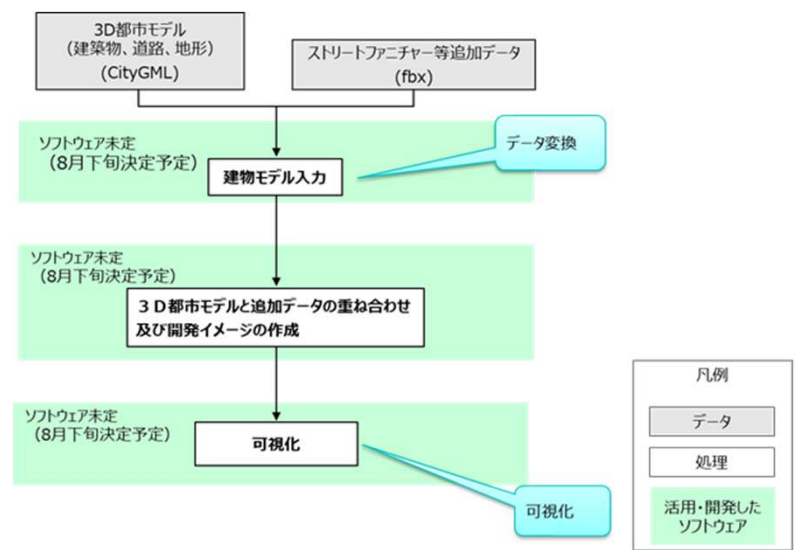
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200-500	2-3千



■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	市民向けまちづくりワークショップや再開発等にかかる官民連携で合意形成の深度化、迅速化を図る
取組内容	3D都市モデルを活用し、歩車道空間や建物の改築などの再整備案を可視化することで、市民や関係課とイメージを共有し検討の深度化や迅速化を図る。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 11. 千葉県千葉市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD2（用途、計測高さ）</li><li>交通（道路）LOD1</li><li>地形LOD1</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>ストリートファニチャーや舗装テクスチャ等のデータ</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>対象地域の3D都市モデルデータを、ユースケースで活用するソフトウェアに合わせてデータ変換する。</li><li>再整備案を可視化するにあたり、LOD2データに配置し賑わいや景観等の検討に活用する新設の建築物やストリートファニチャー、樹木等のデータ作成を行う。</li><li>作成したLOD2データと新設の建築物やストリートファニチャー、樹木等のデータを重ね合わせて表示し、歩道の拡幅や大通り沿いの建物の改築による千葉駅前大通りの歩道や沿道建物の利用イメージを作成、歩車道空間や建物の再整備案を可視化する。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>再整備案可視化の内容を市民向けワークショップの題材として活用し、まちづくりのイメージを共有するとともに、ワークショップで意見交換を行うことで、市の考えるまちづくりの将来像に対する市民の理解を深める。</li><li>再整備案可視化の内容を庁内関係課と共有し、今後の再整備の検討の深度化や合意形成の迅速化を図るための協議資料として活用する。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	—

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
市が提案するまちづくりの将来像に対する市民の理解度（％）	80％ (R6年度)	86％ (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200－500	2－3千



■ ユースケース開発成果イメージ図



**千葉駅前大通りの現況モデル**  
千葉駅前大通りの現況をVRで作成し、現状の課題や問題点の検討に活用。



**千葉駅前大通りの将来イメージ**  
再整備の計画案や歩道の活用例をVRで作成・可視化し、市民等との意見交換等に活用。

■ 今後の展望

今年度作成した駅前大通りの現況や計画案をもとに、大通りの再整備に向けた市民等や関係課との協議を進めるにあたり、可視化する条件を増やし将来イメージを細かく作りこむことで、検討の深度化を図る。  
今後はまちづくり検討だけでなく、他分野での3D都市モデル活用を進める。

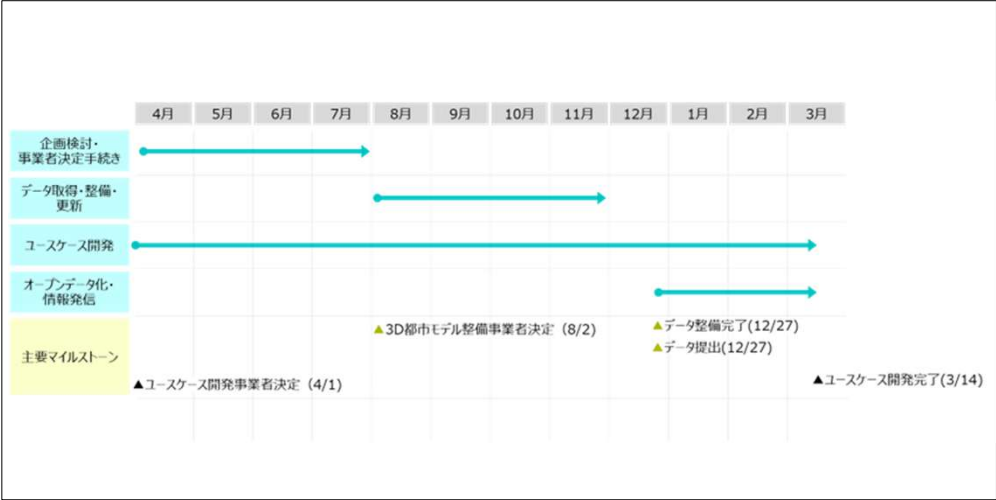
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 12.東京都

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約14,200,000人（令和6年12月時点）
都内全域面積	2,199km <sup>2</sup> （令和6年10月時点）
主な産業 地域課題等	行政区域は特別区である23区と、26市5町8村から構成され、東西に長く広がっている土地には山地や丘陵、台地などが分布している。 R6年12月1日時点での人口は約1,420万人。 東京は、3,600万人規模を擁する世界最大の都市圏の中心であり、大規模で感度の高いマーケットが存在するとともに、政治や経済、文化など、様々な機能が高度に集積し、多様なサービス・産業を有している。また、少子高齢・人口減少社会の進行もより深刻な状況が生じ、さらには、気候変動によって人類の持続可能性が危機に晒されているといった課題に対応するため、都政の総合計画である「未来の東京」戦略を策定し政策を展開している。

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・他	15万以上	500以上	10千以上

担当部局	都市整備局広域調整課、総務局防災管理課
------	---------------------



■ 補助事業実施項目

目標	・ デジタルの力で東京のポテンシャルを引き出し、都民が質の高い生活を送る「スマート東京」（東京版Society 5.0） ・ 高度な都市機能と自然が調和し、人が集い、憩う東京
課題	・ 3Dビューアを通じた行政が保有する多様な都市情報のリアルな可視化が必要 ・ 3D都市モデル上で、浸水や土砂災害の被害の様相をシミュレートし、訓練等で活用することが必要
創出価値	・ 3Dビューア上のベースマップとして3D都市モデルを活用し、様々な庁内外データ（都バスや河川のリアルタイムな情報など）を可視化できるよう東京都デジタルツイン3Dビューアを公開する。 ・ 行政機関のより効果的な災害対応のオペレーションにつなげていく。

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	・ 3D都市モデル整備（LOD1）
ユースケース開発	・ デジタルツインを活用した水害シミュレーション
推進事業	—

総事業費（予定）	92,200（万円） ※うちR6年度33,600（万円）
R6年度補助額	8,350（万円）
補助対象外の関連事業	デジタルツイン実現プロジェクト

オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】 ・ 東京都 オープンデータカタログサイト 【3D都市モデル】 ・ 東京都デジタルツイン3Dビューア 【3D都市モデル】
-------------------	---

R6年度委託事業者	朝日航洋株式会社（3D都市モデル整備事業（LOD1）） 日本工営株式会社（ユースケース開発（デジタルツインを活用した水害シミュレーション））
-----------	---



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 12.東京都

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 都市計画決定 情報 土地利用 災害リスク 地形	都市再生緊急整備地域 23区(約627km <sup>2</sup> )※R4範囲、江戸川区一部除く 多摩部(約1,154km <sup>2</sup> )※ 狛江市(約6km <sup>2</sup> )除く 島しょ部 ※小笠原諸島除く	約30km <sup>2</sup>  Km <sup>2</sup>  約290km <sup>2</sup>	R4年度整備済    R5年度整備済   R6年度整備済
LOD2	建築物	都市再生緊急整備地域 都市開発諸制度拠点地区	約30km <sup>2</sup> 約45km <sup>2</sup>	R4年度整備済 R5年度整備済

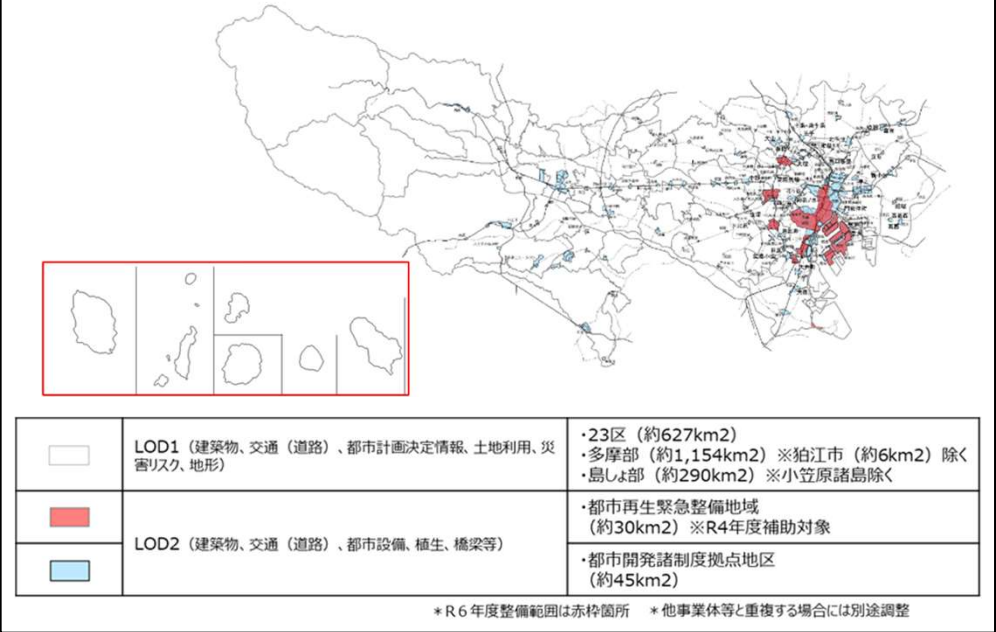
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	都市整備 植生	都市再生緊急整備地域 (約30km <sup>2</sup> )の一部	約30km <sup>2</sup> の一部	R4年度整備済
LOD2	交通(道路)	都市再生緊急整備地域 (約30km <sup>2</sup> )の一部 都市開発諸制度拠点地区 (約45km <sup>2</sup> )の一部	約30km <sup>2</sup> の一部 約45km <sup>2</sup> の一部	R4年度整備済  R5年度整備済
	都市整備 植生 橋梁	都市開発諸制度拠点地区 (約45km <sup>2</sup> )の一部	約45km <sup>2</sup> の一部	R5年度整備済
LOD3	交通(道路)	都市再生緊急整備地	約30km <sup>2</sup>	R4年度整備済
LOD4	地下街	都市再生緊急整備地域 (約30km <sup>2</sup> )の一部	約30km <sup>2</sup> の一部	R4年度整備済

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・他	15万以上	500以上	10千以上



■ 3D都市モデル整備エリア図



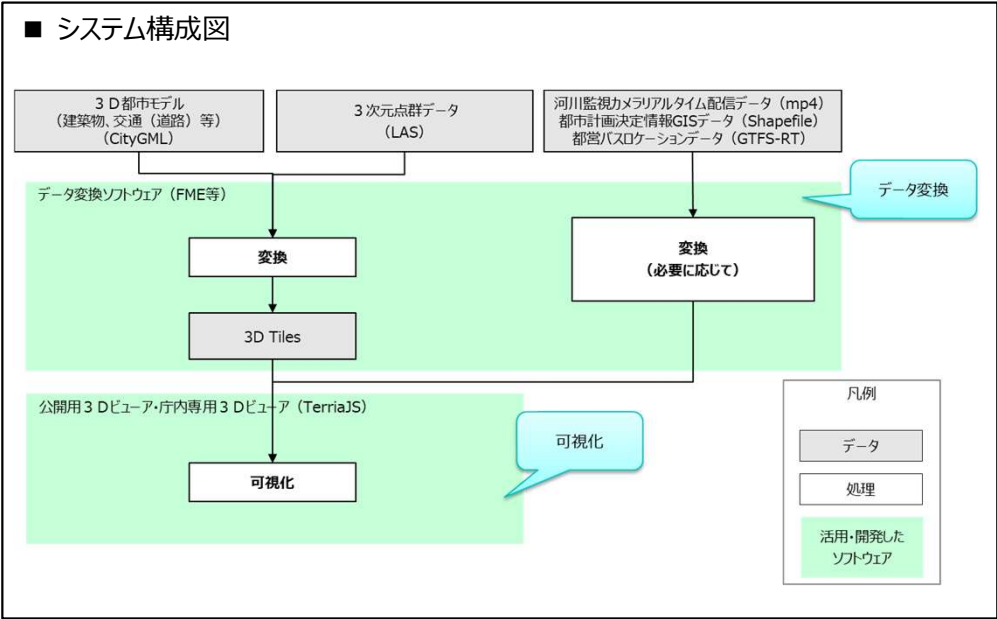
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	2.都市計画基本図(既存)	R3年度(区部・島しょ部)、 H27年度(多摩部)	2,500
測量成果	2.新規測量(航空レーザー)	R4・5年度	500
属性情報	1.都市計画基礎調査(既存)	R3年度(区部)、R4年度 (多摩・島しょ部)	—

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 12.東京都

■ ユースケース①概要

分野	その他
目的	3Dビューアを通じた行政等が保有する多様な都市情報のリアルな可視化
取組内容	様々な庁内外データ（都バスや河川のリアルタイムな情報など）を可視化できるよう東京都デジタルツイン3Dビューアを公開中。3Dビューア上のベースマップとして3D都市モデルを活用する。



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・他	15万以上	500以上	10千以上



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1, LOD2 (図形面積、住所等)</li><li>都市計画決定情報LOD1 (用途地域、高度地区、防火及び準防火地域)</li><li>土地利用LOD1 (矩形、図形面積等)</li><li>災害リスクLOD1 (浸水 (洪水、高潮) 想定区域、土砂災害警戒区域) 等</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>3次元点群データ (区部、多摩部、島しょ部)</li><li>河川監視カメラリアルタイム配信 (河川監視カメラ)</li><li>都市計画決定情報GISデータ (都市再生特別地区、公園緑地)</li><li>都営バス (バスロケーション情報等) 等</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>対象区域の3D都市モデルをソフトウェアで活用できるようにデータ変換ソフトウェア (FME等) を活用して3D Tilesに変換</li><li>3Dビューア上のベースマップとして3D都市モデルを活用</li><li>様々な庁内外データ (都バスや河川のリアルタイムな情報など) を可視化できるよう東京都デジタルツイン3Dビューアを公開</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>3Dビューアを通じた行政等が保有する多様な都市情報のリアルな可視化3Dビューア上のベースマップとして3D都市モデルを活用し、河川監視カメラ映像や用途地域など、多様なデータを可視化</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルを東京都オープンデータカタログサイトに掲載 (予定)</li><li>3D都市モデルを東京都デジタルツイン3Dビューアに掲載</li></ul>

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルの活用に関心がある自治体の割合 (%)	40% (R5年度)	50% (R5年度)
3D都市モデルの活用に関心がある自治体の割合 (%)	60% (R6年度)	56.4% (R6年度)

KPI未達を受けての今後の対応	自治体からは、活用に伴う財政面や人員面等の課題が挙げられたことから、そうした負担の低減にも資するよう、都による3Dデジタルマップの整備・更新を引き続き推進していく。
-----------------	--

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 12.東京都

■ ユースケース開発成果イメージ図

「東京都デジタルツイン3Dビューア」による多様なデータの可視化



「東京都デジタルツイン3Dビューア」による多様なデータの可視化

3Dビューア上のベースマップとして3D都市モデルを活用し、河川監視カメラ映像や用途地域など、多様なデータを可視化。

■ 今後の展望

島しょ部（小笠原村）の3D都市モデルを整備することで、3Dビューアにおける都内全域の可視化を実施。  
また、令和7年度以降は、建物等の経年変化に対応するため、3D都市モデルの更新を推進していく。

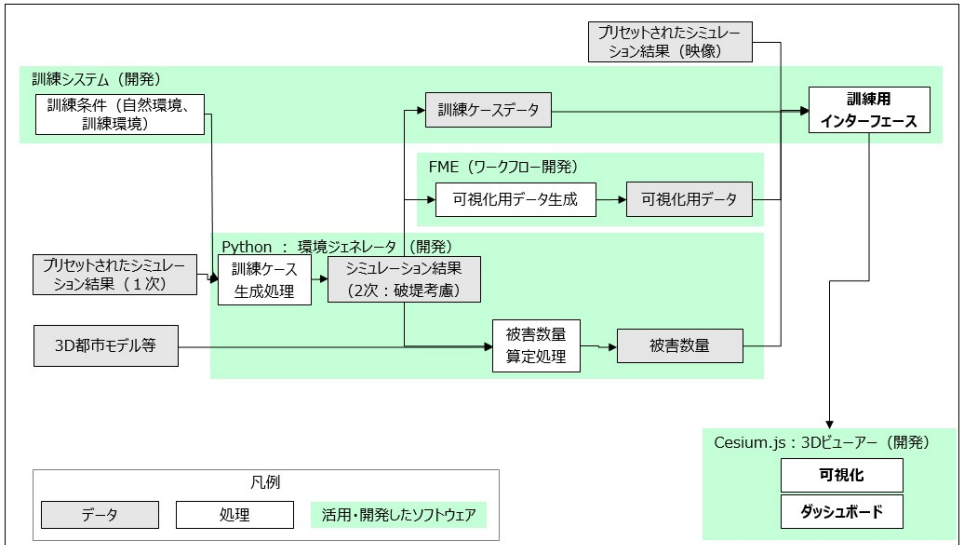
分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・他	15万以上	500以上	10千以上



■ ユースケース②概要

分野	防災・防犯
目的	防災上の課題の把握および解決のための訓練によって、様々な場面で『より効果的に』活用できるシステムの開発・実装
取組内容	3D都市モデル上で、浸水や土砂災害の被害の様相をシミュレートし、訓練等で活用することで行政機関のより効果的な災害対応のオペレーションにつなげていく。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 12.東京都

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1,LOD2（建物高さ、住所等）</li><li>土地利用LOD1（矩形）</li><li>災害リスクLOD1（浸水（洪水、高潮）想定区域、土砂災害警戒区域）</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>水位観測所・CCTV</li><li>土砂災害映像</li><li>雨量（降雨ケース）</li><li>社会インフラ（災害対策上の重要施設）</li><li>人口分布</li><li>解析データ</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>区部、多摩地域、島しょ地域の地形データ、建物データを活用する。</li><li>3D都市モデル上で、浸水や土砂災害の被害の様相をシミュレートする。</li><li>降雨タイプは台風、前線性、ゲリラ豪雨の3パターンでシミュレーションを行う。</li><li>河川の破堤・土砂災害・高潮による水害のシミュレーションも行う。</li><li>浸水エリアの拡がりや水位の上昇など、時間の経過による変化を表示</li><li>3D地図上に、避難所データや土砂災害警戒区域情報を重ねて表示できるようにする。</li><li>図上訓練等で活用することで行政機関のより効果的な災害対応のオペレーションにつなげていく。</li></ul>
政策・事業での 活用	3D都市モデル上で、浸水や土砂災害の被害の様相をシミュレートし、訓練等で活用することで行政機関のより効果的な災害対応のオペレーションにつなげていく。
オープンデータ化 情報発信	

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
訓練において実災害のイメージができたと感じた参加者の割合	80%	87%
訓練において職員の対応力向上に役立つと感じた参加者の割合	80%	94%

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・他	15万以上	500以上	10千以上

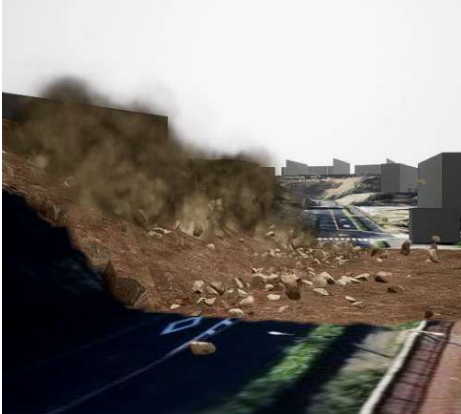


■ ユースケース開発成果イメージ図



3Dによる浸水状況

河川の洪水による氾濫など、各地の水害リスクの有無を3Dで表示



土砂災害の被害状況

土砂災害など、各地の水害リスクの有無を3Dで表示

■ 今後の展望

行政機関の防災対応力の向上に向けて、本シミュレーションは、訓練や計画・マニュアルの検討に活用



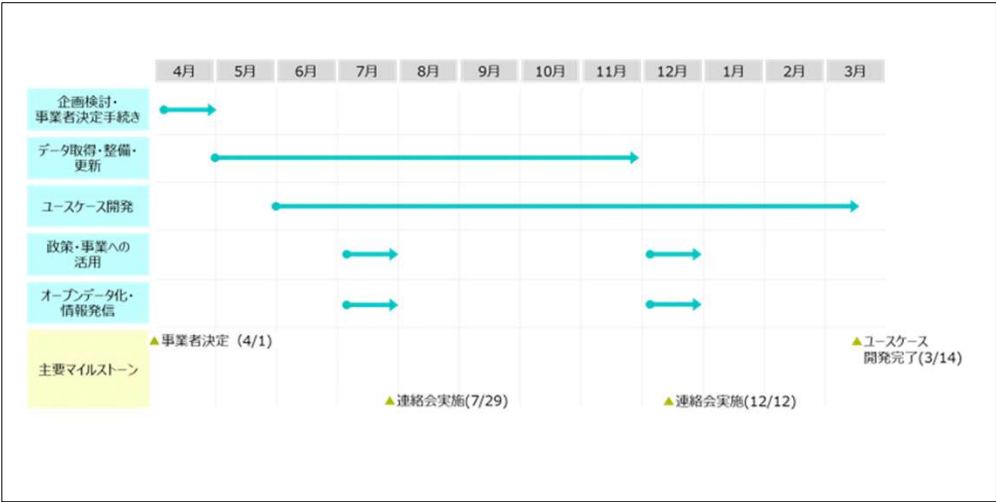
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 13.東京都中央区

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	169,179人 R2年度国勢調査（令和2年10月時点）
市域全域面積	10.12km <sup>2</sup>
主な産業 地域課題等	東京23区のほぼ中心に位置を占め、商業、経済の中心地であり、人口は169,179人（R2年度国勢調査）。 都心区の特性を踏まえ、カーボンニュートラルの実現や水とみどりにあふれる、やすらぎと憩いのまち、常日頃から住民同士が助け合えるまちづくり、また、区内の産業や観光に新たなにぎわいを創出し、誰もが訪れたい、働きたいと思えるまちの実現に向けた取組みを展開している。 特に本プロジェクトが絡む日本橋川沿いエリアでは、江戸五街道の起点である名橋「日本橋」を中心として、首都高速道路の移設撤去と日本橋川の再生に向けて、地元、国、東京都や関連開発事業者等と連携し、魅力あるまちづくりに取り組んできた。複数の市街地再開発事業や首都高速道路日本橋区間地下化事業等が連続的かつ長期的に進行していくため、地元をはじめ、国、東京都や関連事業者等と連携し、工事期間中のにぎわい創出を図りつつ、日本橋川の再生と魅力的で一体的な水辺空間の整備を推進していく。

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	50未満	1-2千

担当部局	都心再生推進課
------	---------



■ 補助事業実施項目

目標	日本橋川沿いエリアでは5地区の市街地再開発事業や首都高日本橋区間地下化事業などが連続的かつ長期的に進行していくことから、3D都市モデルを用いることで、住民代表、地域団体、関係事業者、河川管理者等関係行政機関、区とで、より効果的な情報共有を図り、魅力的で一体的な水辺空間の整備推進を行う。
課題	各事業の進捗状況をはじめ、水辺空間の段階的な整備イメージや各事業完了後における将来のイメージ等を関係者と共有すること。 各事業が進行していく中で、工事期間中のにぎわい創出方策の検討が必要であること。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルを用いたVRや切り出したパース等を使用して連絡会関係者との共有を図る。連絡会資料は区HPにも公開し、事業に対する区民等の理解促進を図る。</li><li>工事期間中のにぎわい創出方策について、具体的な対象エリアを想定して、3D都市モデル上で可視化しながら検討を行う。</li></ul>

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	—
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルを活用した関係者とのイメージ共有</li><li>3D都市モデルを活用したにぎわい創出方策の検討・可視化</li></ul>
推進事業	—

総事業費（予定）	4,283（万円） ※うちR6年度1,353（万円）
R6年度補助額	600（万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>中央区ホームページに会議資料や動画を掲載</li></ul>
-------------------	--

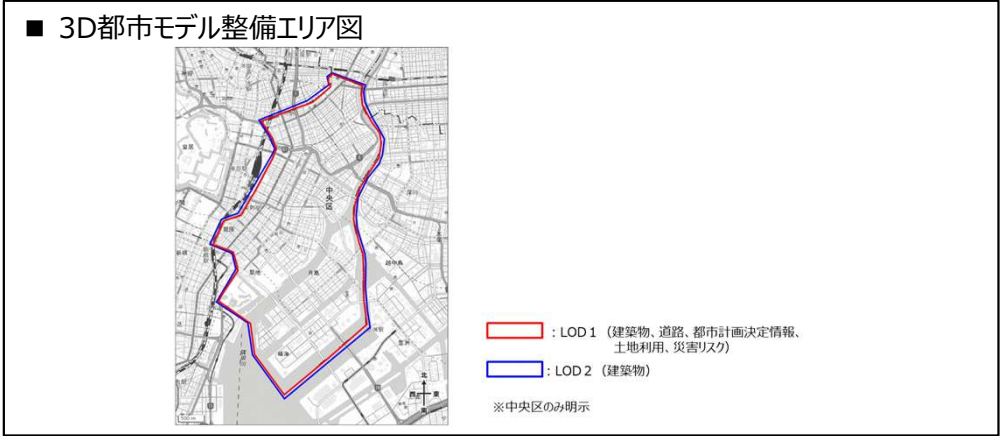
R6年度委託事業者	株式会社 オリエンタルコンサルタンツ（3D都市モデルの活用（ユースケース開発）事業）
-----------	--

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 13.東京都中央区

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	中央区内	10.21km <sup>2</sup>	R2年度整備済 R4年度整備済
	交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク	中央区内	10.21km <sup>2</sup>	R2年度整備済
LOD2	建築物	中央区内	10.21km <sup>2</sup>	R2年度整備済 R4年度整備済



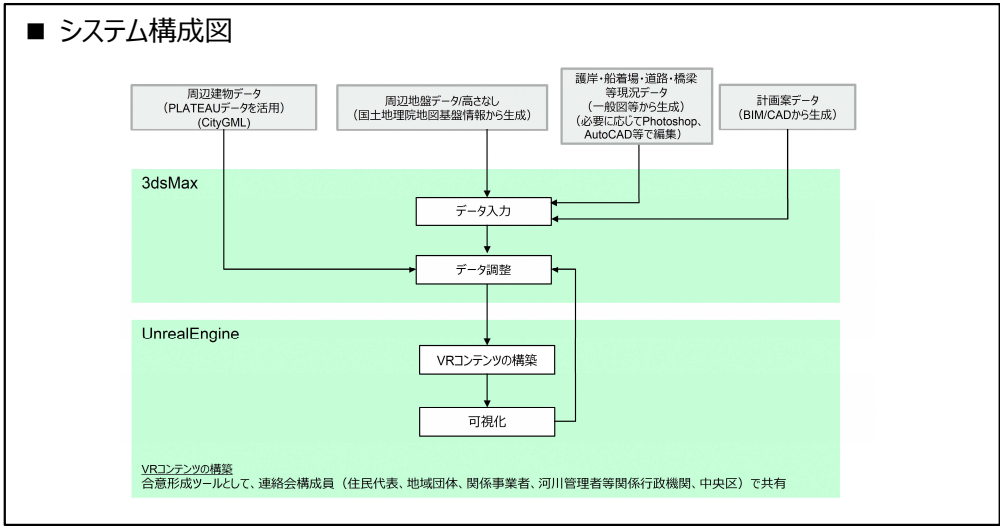
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	—	—	—
測量成果	—	—	—
属性情報	—	—	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	50未満	1-2千



■ ユースケース①概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	日本橋川沿いの5地区の市街地再開発事業や首都高速道路日本橋区間地下化事業などの進捗状況をはじめ、水辺空間等の段階的な整備イメージや各事業完了後における将来のイメージ等を、連絡会関係者等とわかりやすく共有すること。
取組内容	日本橋川沿いの5地区の市街地再開発事業や首都高速道路日本橋区間地下化事業などの事業について、過年度からの変更内容を踏まえ、R5年度に作成した3D都市モデルを更新する。引き続き、3D都市モデルを用いたVRや切り出したパース等を使用して関係者との共有を図る。（「日本橋川水辺空間の整備推進に関する連絡会」構成員：住民代表、地域団体、関係事業者、河川管理者等関係行政機関、中央区） 連絡会資料は区HPにも公開し、事業に対する区民等の理解促進を図る。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 13.東京都中央区

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD2</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>航空写真（オルソ）（写真画像）</li><li>地形データ(高さ情報)</li><li>日本橋川防潮堤修景工事しゅん功図(護岸)</li><li>日本橋川施設管理図集(護岸)</li><li>日本橋船着場整備工事(日本橋船着場)</li><li>道路台帳平面図(区道、都道、国道)</li><li>管理平面図(国道)</li><li>日本橋橋梁図面(日本橋)</li><li>江戸橋長寿命化詳細補足設計(江戸橋)</li><li>一石橋（下り）長寿命化基本設計(一石橋)</li><li>橋梁調書（鎧橋、西河岸橋）（鎧橋、西河岸橋）</li><li>首都高日本橋区間地下化事業3Dモデル(首都高高架橋)</li><li>日本橋川周辺5地区再開発 施工BIM(再開発施工ステップ)</li><li>日本橋川周辺5地区再開発 完成イメージ(再開発計画案)</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>PLATEAUの3D都市モデル（建築物LOD2）をベースデータとして活用し、当該対象エリアの日本橋および日本橋川を中心とした再開発5地区の周辺土木データ（道路および河川）を構築する。（R5年度に作成した3D都市モデルに植栽などのデータを反映、工事の進捗や計画内容に変更があったものを更新）整備に必要な現況のBIM/CIM、CAD、CG（3dsMax）、GISデータは自治体および民間事業者から調達し、更新する。また、データの不足分に関しては現地調査・計測を行い、その都度補足する。必要に応じて画像処理ソフト（Photoshop）を用いてテクスチャー等を生成する。</li><li>上記の3D都市データをゲームエンジン（Unreal Engine）に取り込み、VRコンテンツを構築する。区民でもわかり易い合意形成ツールを目指し、必要に応じ、都市設備機能（樹木、照明柱等）をコンテンツに盛り込み、充実を図る。VRコンテンツを用いて連絡会で報告し、構成員間で共有を図る。</li><li>整備イメージの理解度を連絡会関係者に確認し、課題解決の評価を行う。（ヒアリング・アンケート等の方法により「わかりやすかった」と回答した人の割合を確認）</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>対象エリアの現況（R6年度）およびR22年度までの段階的な整備状況、将来イメージについて、最新の計画状況を踏まえて3D都市モデルをVR上で表現することで、「日本橋川水辺空間の整備推進に関する連絡会」において資料や動画として共有する。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	中央区ホームページにパース図を掲載（会議資料）

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	50未満	1-2千



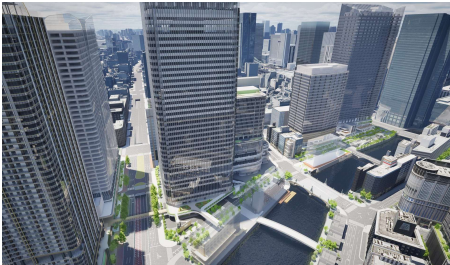
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
連絡会関係者に対してヒアリング・アンケート等の方法により「わかりやすかった」と回答した人の割合（％）	50%以上 (R6年度)	82% (R6年度)

■ ユースケース開発成果イメージ図



鳥瞰イメージ①（日本橋川上流から）



鳥瞰イメージ②（日本橋川下流から）

日本橋川沿いエリアの段階的な整備状況や各事業完了後における将来イメージについて、最新の建築モデルや街路樹等の緑化状況を反映したVRを作成した。「日本橋川水辺空間の整備推進に関する連絡会」においては、作成した3D都市モデルを切り出したパース図を提示し、関係者と共有を図った。

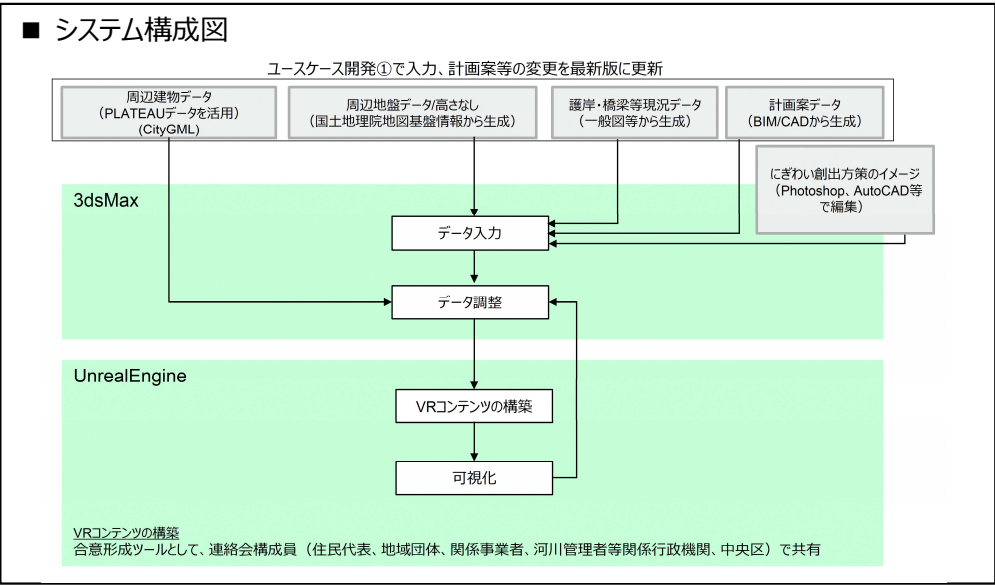
■ 今後の展望

日本橋川沿いの5地区の市街地再開発事業や首都高速道路日本橋区間地下化事業など複数の事業について、過年度からの変更内容を踏まえ、関係者と調整のうえ、3D都市モデルの更新を行う。（建築モデルのデータ更新など）  
引き続き、3D都市モデルを用いたVRやパース等を使用して関係者との共有を図る。共有するVRやパース等については、区独自のみならず、関係者と連携したものを作成していく。

Ⅲ. 令和 6 年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 13.東京都中央区

■ ユースケース②概要	
分野	都市計画・まちづくり
目的	日本橋川沿いの5地区の市街地再開発事業や首都高速道路日本橋区間地下化事業などの、工事期間中のにぎわい創出方策を対象地に落とし込み、イメージを可視化しながら検討していくこと。
取組内容	R5年度に検討した内容を踏まえ、各事業の工事期間中のにぎわい創出方策の実施状況や各事業の工程及び工事内容の情報を整理し、にぎわい施設の配置、仕様等を3D都市モデルに反映しながら、具体的検討を行う。



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	50未満	1-2千



■ ユースケース開発方法	
活用データ (3D都市モデル)	・ 建築物LOD2
活用データ (上記以外)	・ 航空写真（オルソ）（写真画像） ・ 地形データ（高さ情報） ・ 日本橋川防潮堤修景工事しゅん功図（護岸） ・ 日本橋川施設管理図集（護岸） ・ 日本橋船着場整備工事（日本橋船着場） ・ 道路台帳平面図（区道、都道、国道） ・ 管理平面図（国道） ・ 日本橋橋梁図面（日本橋） ・ 江戸橋長寿命化詳細補足設計（江戸橋） ・ 一石橋（下り）長寿命化基本設計（一石橋） ・ 橋梁調査（鎧橋、西河岸橋）（鎧橋、西河岸橋） ・ 首都高日本橋区間地下化事業3Dモデル（首都高高架橋） ・ 日本橋川周辺5地区再開発 施工BIM（再開発施工ステップ） ・ 日本橋川周辺5地区再開発 完成イメージ（再開発計画案） ・ にぎわい創出方策イメージ画像（テキスト用画像データ）
ユースケース 開発方法	・ 計画案のBIM/CIM、CAD（AutoCAD）、CG（3dsMax）データを自治体および民間事業者から調達する。必要に応じて添景等は、市販ライブラリーなどから調達し、足りないものは画像処理ソフト（Photoshop）を用いて随時制作する。 ・ 上記の3D都市データをゲームエンジン（UnrealEngine）に取り込み、VRコンテンツを構築する。区民でもわかり易い合意形成ツールを目指し、必要に応じ、都市設備機能をコンテンツに盛り込み、充実を図る。VRコンテンツを使い、連絡会で報告し、構成員間で共有を図る。 ・ 連絡会にて報告したにぎわい創出方策の立案数をカウントし、課題解決の評価を行う。（3案以上） ・ にぎわい創出方策の理解度を連絡会関係者に確認し、課題解決の評価を行う。（ヒアリング・アンケート等の方法により「わかりやすかった」と回答した人の割合を確認）
政策・事業での 活用	・ 「日本橋川水辺空間の整備推進に関する連絡会」において、作成したVRのキャプチャ画像を資料や動画として提示し、各視点場での見え方を共有する。 ・ まちの魅力PRで活用できる動画を関係者と連携を図りながら作成・共有することで、にぎわい創出を図っていく。
オープンデータ化 情報発信	・ 中央区ホームページに動画を掲載



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

13.東京都中央区

KPI

KPI	目標設定	達成状況
R5年度に検討した案を基に、3D都市モデルを活用して、具体的に立案した案数	3案以上 (R6年度)	3案 (R6年度)
連絡会関係者に対してヒアリング・アンケート等の方法により、3D都市モデルを活用したにぎわい創出方策が「わかりやすかった」と回答した人の割合(%)	50%以上 (R6年度)	100% (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	50未満	1-2千



ユースケース開発成果イメージ図



中央区ホームページ掲載イメージ

「3D都市モデルを活用した日本橋川水辺空間の整備イメージ」を作成し、関係者との調整のうえ、中央区ホームページで公開。(R6.12月)

3D都市モデルを活用したまちのにぎわい創出方策を検討。(以下3点)

- 3D都市モデルの動画を一般公開することでまちの魅力を周知 ※イメージ図
- 関係事業者が作成する動画への活用
- 地域イベントにおいて関係者と連携した動画を公開

今後の展望

中央区独自の取組や関係者と連携した取組の充実を図り、まちのにぎわいを創出する方策を実施していく。

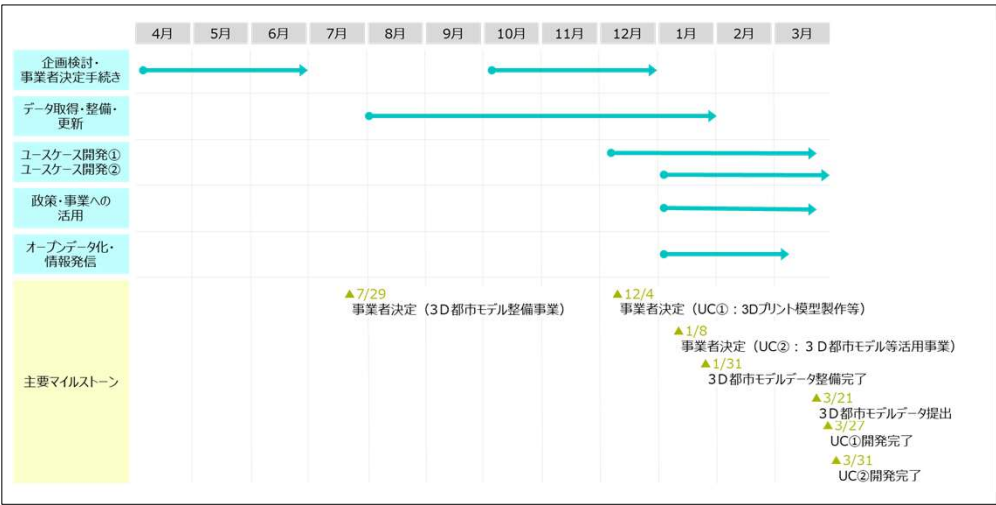
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

14.東京都台東区

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	213,486人（令和6年4月時点）
市域全域面積	10.11km <sup>2</sup> （令和6年4月時点）
主な産業 地域の特徴等	東京特別区の中心に属し、上野や浅草、谷中などのエリアを抱える。人口は約21万人で、近年は人口増・人口構造の変化がみられる。 上野恩賜公園を中心とした文化施設の集積がみられる上野地区、浅草寺を中心とした国内有数の観光地である浅草地区、寺院や歴史・文化資源などによる特徴的な街並みが残る谷中地区などを抱える。 また、近年はマンション建設を中心とした市街地更新が活発であり、土地利用の転換（商業→住宅）や共同化による建物の大規模化など、街並みの変化が散見される。

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・住・他	15万以上	50未満	2-3千

担当部局	都市計画課
------	-------



■ 補助事業実施項目

目標	これまで作成していた図面・イメージパース等に代わり、各地区まちづくり協議会や庁内会議等において3D都市モデルを活用し、スピード感のあるまちの課題分析・将来像シミュレーション・可視化を実施できる環境を整備する。また、今後の多様な分野と連携した総合的な施策検討のためのデータ基盤とする。
課題	3D都市モデルや多様な地理空間データの活用による、まちづくりへの住民参加やE B P Mによる施策検討の推進を図る。
創出価値	・ 直感的な理解促進のほか、区民をはじめとした多様な主体のまちづくりへの参加や創造的な意見の誘発を図る。 ・ 円滑な合意形成、効率的な政策判断を推進する。
事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	・ 建築物LOD2区内全域整備等
ユースケース開発	・ 3Dプリント模型製作等 ・ 3D都市モデル等活用事業
推進事業	—
総事業費（予定）	7,710（万円）（R6年度）
R6年度補助額	3,500（万円）
補助対象外の関連事業	—
オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル等】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル等】
R6年度委託事業者	国際航業株式会社（3D都市モデルの整備） 森ビル株式会社（3Dプリント模型製作等） アジア航測株式会社（3D都市モデル等活用事業）

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 14.東京都台東区

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路)	台東区全域	10.11km <sup>2</sup>	R2年度整備～
	交通(道路)	p.15整備エリア図のうち 台東区整備範囲	6.41km <sup>2</sup>	R6年度整備
	都市計画決定情報	防火地域、準防火地域、高度地区、用途地域 特別用途地区など上記以外の都市計画情報	10.11km <sup>2</sup> 10.11km <sup>2</sup>	R2年度整備～ R6年度整備
	土地利用	用途	10.11km <sup>2</sup>	R2年度整備～
	災害リスク	洪水浸水想定、高潮浸水想定、土砂災害警戒	10.11km <sup>2</sup>	R2年度整備～
	地形		10.11km <sup>2</sup>	R2年度整備～
LOD2	建築物 交通(道路)	p.15整備エリア図のうち 東京都整備範囲	3.70km <sup>2</sup>	R5年度整備済
			10.11km <sup>2</sup>	R6年度整備

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・住・他	15万以上	50未満	2～3千



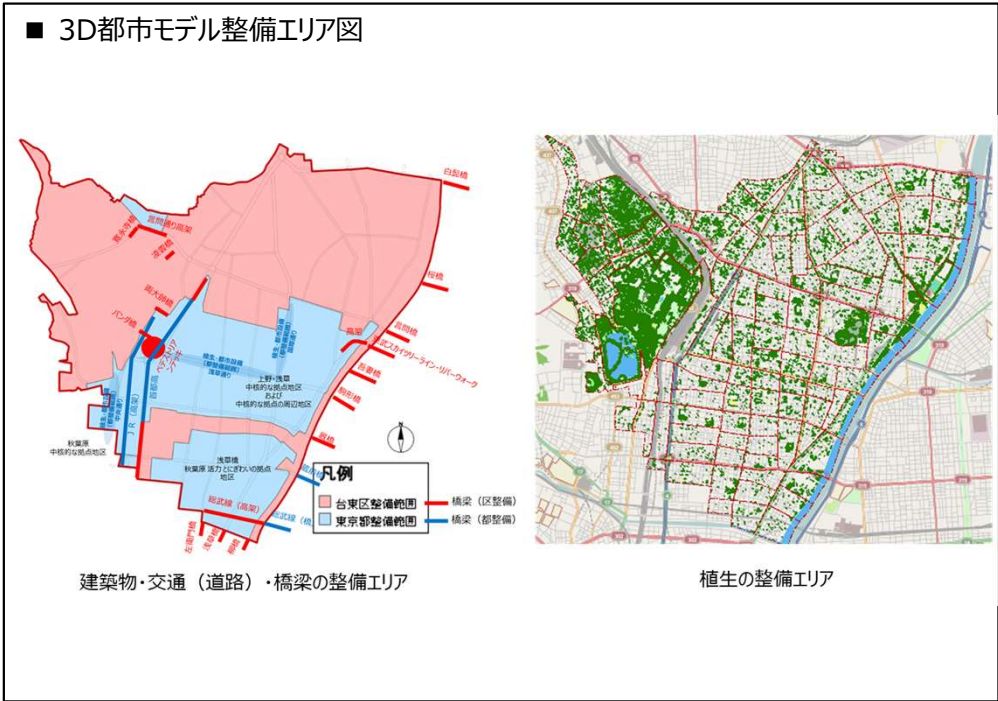
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD0	植生	p.15整備エリア図のうち 台東区整備範囲	10.11km <sup>2</sup>	R6年度整備
LOD1	橋梁	p.15整備エリア図のうち 東京都整備範囲 p.15整備エリア図のうち 東京都整備範囲	4基 21基	R5年度整備済 R6年度整備
	都市整備 植生	p.15整備エリア図のうち 東京都整備範囲（浅草通り、国際通り、中央通りの一部）	2.68km	R5年度整備済
LOD2	植生	p.15整備エリア図のうち 東京都整備範囲（浅草通り、国際通り、中央通りの一部）	2.68km	R5年度整備済
LOD2.1	橋梁	p.15整備エリア図のうち 東京都整備範囲	4基	R5年度整備済
		p.15整備エリア図のうち 東京都整備範囲	21基	R6年度整備
LOD3	交通（道路） 都市設備	p.15整備エリア図のうち 東京都整備範囲（浅草通り、国際通り、中央通りの一部）	2.68km	R5年度整備済

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 14.東京都台東区

■ 3D都市モデル整備エリア図

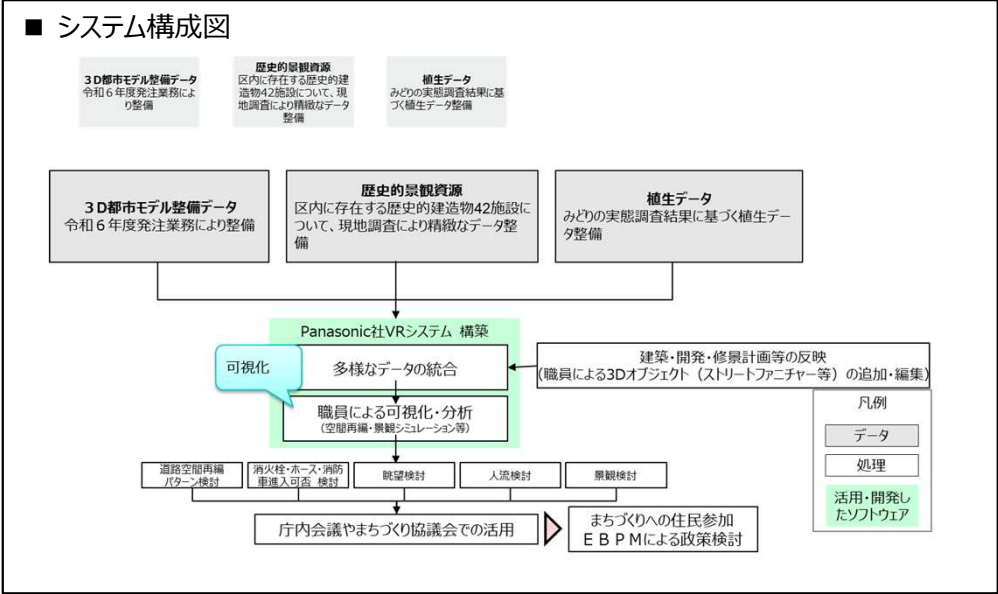


項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R3年度	2,500
測量成果	空中写真測量成果	R5年度	1,000
	航空レーザー測量成果	R5年度	500
	台東区みどりの実態調査	H30年度	—
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R3年度	2,500

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・住・他	15万以上	50未満	2-3千



■ ユースケース概要	
分野	都市計画・まちづくり／その他（住民参加）
目的	これまで作成していた図面・イメージパース等に代わり、各地区まちづくり協議会や庁内会議等において3D都市モデルを活用し、スピード感のあるまちの課題分析・将来像シミュレーション・可視化を実施できる環境を整備する。
取組内容	・3D都市モデル整備事業 ・3Dプリント模型製作等 ・3D都市モデル等活用事業





Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

14.東京都台東区

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物モデル (LOD1、LOD2)</li><li>地形モデル (LOD1)</li><li>橋梁モデル (LOD1、LOD2)</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>都市計画情報データ (用途地域、建ぺい率、容積率、高度地区、防火・準防火地域、他)</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルデータ (主にLOD1) を活用し、3Dプリント模型の製作を実施</li><li>また、都市計画情報やハザードマップ等の様々な都市の情報を映像化し、3Dプリント模型に投影する環境を整備</li><li>さらに、区職員自ら3D都市モデルを基に3Dプリント模型製作用のデータ作成や3Dプリント模型模型に投影する映像データ作成を行えるよう、区職員向けの技術研修会を実施 (操作マニュアルの作成込み)</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>ノンエンジニアである区職員自らが、3D都市モデルを活用した都市・政策課題の可視化や施策のシミュレーションを行い、庁内会議等の議論で活用することにより、直感的な理解や意見提起を促す。</li><li>多数が同時に多角的に観察できる模型を地域や庁内会議等で活用することにより、多様な主体の合意形成を図る。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	—

■ KPI (ユースケース①及び②共通)

KPI	目標設定	達成状況
庁内会議・まちづくり協議会等での利用件数 (件)	10回 (R6年度)	7回 (R6年度)
職員または地域関係者へのアンケートにおける「3D都市モデルの住民参加まちづくりへの活用」等の肯定的な評価の割合 (%)	80% (R6年度)	92.3% (R6年度)
KPI未達を受けて の今後の対応	・積極的に庁内回議やまちづくり協議会等で利用する。	

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・住・他	15万以上	50未満	2-3千



■ ユースケース開発成果イメージ図



3Dプリント用データおよび模型製作

区全域の3Dプリント模型を縮尺1/5000で製作し、まちづくりに関する地理情報データの投影を実施。  
区の一部の3Dプリント模型を縮尺1/2500、1/500でサンプルとして製作。

区職員向け技術習得研修会の開催

3Dプリント模型データの作成技術習得支援および3Dプリント模型への投影映像作成技術習得支援として、マニュアルの整備と区職員向け研修会を実施。

■ 今後の展望

今回は庁内における研修会での活用にとどまっているが、今後は地域とのまちづくり等に関する会議の場において活用したい。

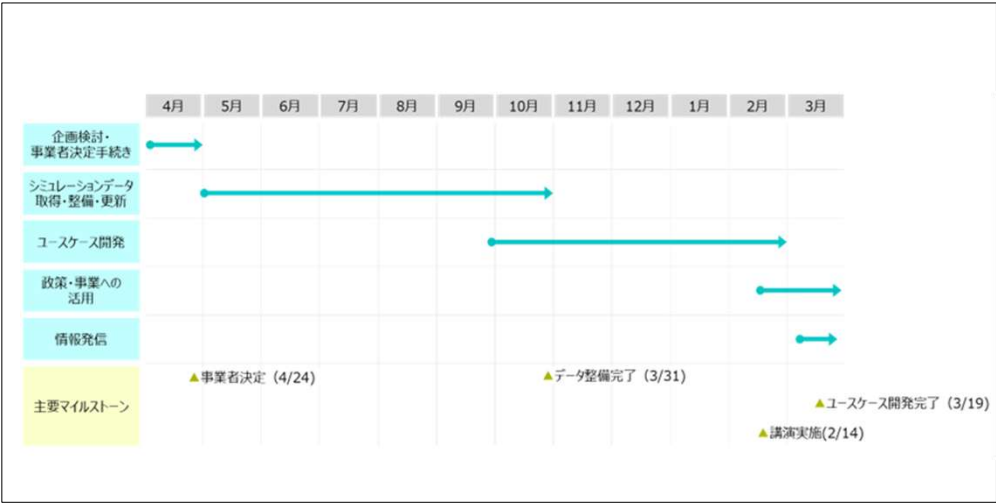
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 15.東京都板橋区

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約57.8万人（令和7年2月時点）
市域全域面積	32.22km <sup>2</sup> （令和7年2月時点）
主な産業 地域課題等	東京都23区の北西部に位置する。総面積32.22km <sup>2</sup> に世帯数約30万世帯、人口約57.8万人を有する。 区内には荒川・新河岸川・石神井川の水辺空間が広がり自然林が多く残されている一方、駅周辺は近隣型の商店街が形成され利便性が高い。 こうした環境から定住性のある都市とした住宅地区を形成している。 板橋区基本計画2025において、板橋区は『倒れない、燃え広がらないまちづくりの推進』をおこなっている。それに伴い木造密集地域の解消や細街路の拡幅整備等を進める必要がある。

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	50未満	1-2千

担当部局	都市計画課
------	-------

■ 補助事業実施項目

目標	交通ネットワークの強化と共に木造密集地域の改善を行い、安心・安全な災害に強い都市基盤整備を実現する。
課題	木造密集地域が存在している。 都市計画道路（未着手）の優先整備路線の検討を行う必要があり、空間（延焼遮断帯）としての整備効果を検証する必要がある。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルを活用し、火災延焼リスクをわかりやすく示すことで被災リスクの理解が向上する。</li><li>都市計画道路の拡幅などの都市基盤整備において、3D都市モデルを活用することでステークホルダーとの認識共有がしやすくなる。</li></ul>

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	—
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"><li>火災延焼シミュレーション可視化事業</li></ul>
推進事業	—

総事業費（予定）	1,328（万円）
R6年度補助額	550（万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>板橋区ホームページ等に掲載 【延焼シミュレーション結果動画】</li></ul>
-------------------	--

R6年度委託事業者	株式会社パスコ（火災延焼シミュレーション可視化事業）
-----------	----------------------------



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 15.東京都板橋区

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定 情報 土地利用 災害リスク 地形	板橋区全域	32.22km <sup>2</sup>	R2年度整備済
LOD2	建築物	高島平・新河岸・舟渡地域	3.0km <sup>2</sup>	R4年度整備済

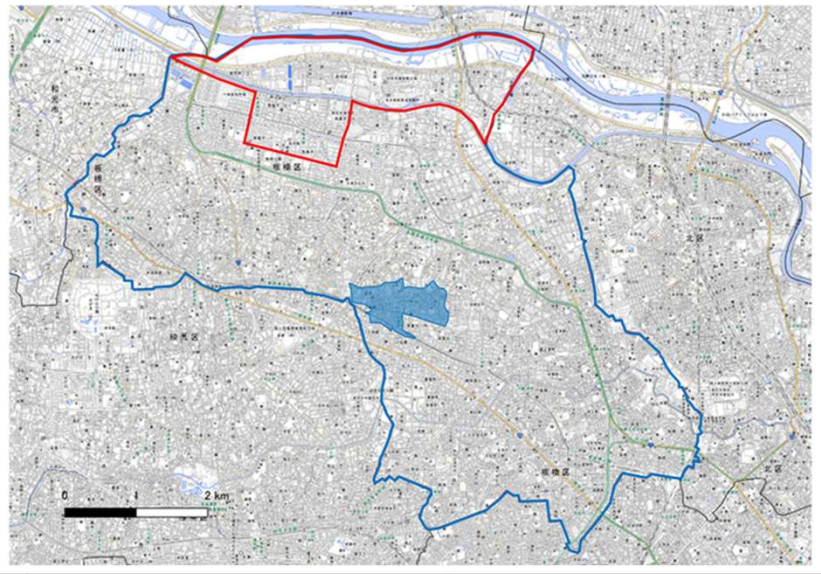
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2	橋梁モデル	首都高速中央環状線の一部（板橋二丁目周辺）	—	R4年度整備済

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	50未満	1-2千



■ 3D都市モデル整備エリア図



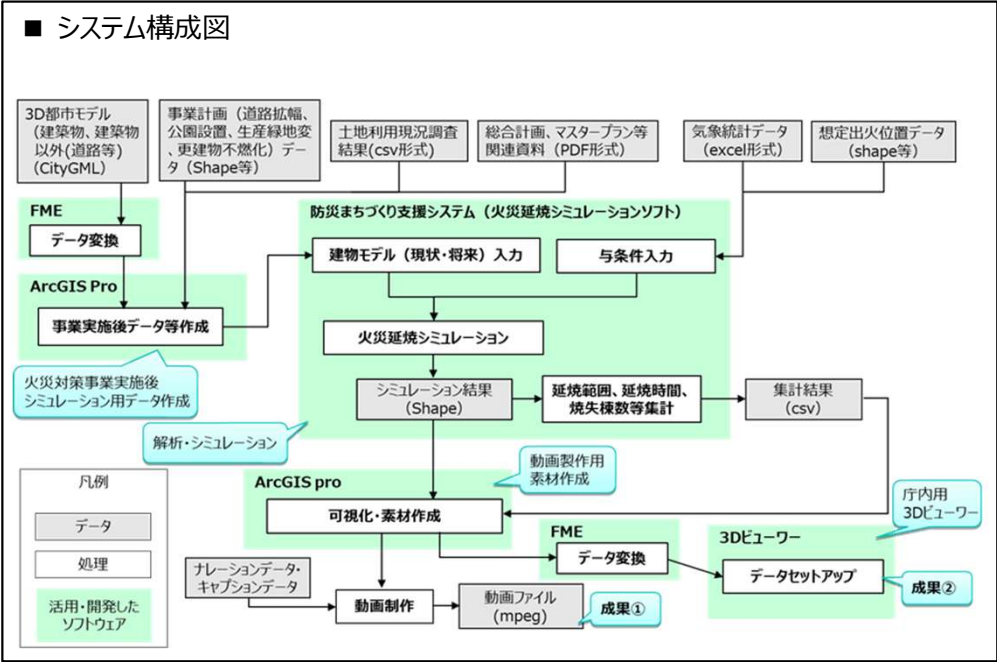
	LOD1（建築物、交通（道路）、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形）	板橋区全域（32.22km <sup>2</sup> ）
	LOD2（建築物、道路）	高島平・新河岸・舟渡地域（3km <sup>2</sup> ）
	ユースケース	若木・西台エリア（0.55km <sup>2</sup> ）

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	—	—	—
測量成果	—	—	—
属性情報	—	—	—

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

15.東京都板橋区

■ ユースケース概要	
分野	都市計画・まちづくり
目的	延焼遮断帯等の都市基盤整備の効果を可視化
取組内容	都市計画道路（未着手）の優先整備路線の検討を行う必要があり、空間（延焼遮断帯）としての整備効果を検証する必要がある。そのため、3D都市モデル上で延焼シミュレーションを可視化して、火災リスクの理解促進や都市基盤整備の重要性を明らかにする。



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	50未満	1-2千



■ ユースケース開発方法	
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1（名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年構造、耐火性能）</li><li>都市計画決定情報LOD1（区域名称の区域の範囲、区域の種類）</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>土地利用現況調査結果</li><li>気象統計データ</li><li>想定出火位置データ</li><li>総合計画、マスタープラン等関連資料</li><li>事業計画（道路拡幅、公園設置、生産緑地変、建物不燃化）等に関するデータ</li></ul>
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>既整備の3D都市モデルを基にして、対象地域内における各種火災対策低減効果が見込まれる計画事業(道路拡幅、壁面後退等)を反映した将来モデル(計画実施後のまちの状況を再現したモデル)を作成する。</li><li>既整備の3D都市モデルを“現況モデル(現況のまち)”、計画実施後のまちの状況を再現したモデルを“将来モデル(将来のまち)”と位置付け、それぞれのモデルにおいて、板橋区の気候特性等も踏まえて実施条件を設定し、火災延焼シミュレーションを実施する。</li><li>シミュレーション結果を用いて、利活用シーン（住民への説明会や庁内利用）を見据えて、3次元表示・編集ソフトを用いて、表示・表現方法を検討し、3Dビューワーの導入、動画作成を行う。</li><li>シミュレーション結果を入れ込んだビューワーを用いて、説明会を実施。都市計画道路や不燃化の事業を可視化する。</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>各事業担当とリスクの認識を共有することを目的に、現況と道路拡幅後の加工したモデルにて延焼シミュレーションを実施。延焼遮断帯としての効果を色の凡例を用いて可視化する。</li><li>他、建物不燃化等における事業効果も可視化する。</li></ul>
オープンデータ化情報発信	延焼シミュレーション結果動画を板橋区ホームページ等に掲載

■ KPI		
KPI	目標設定	達成状況
地域の災害リスクの理解度（％）	100％（R6年度）	97.4％（R6年度）
延焼遮断帯効果の理解度（％）	100％（R6年度）	97.4％（R6年度）
KPI未達を受けての今後の対応	<ul style="list-style-type: none"><li>延焼の災害リスクを啓発するためのホームページを作成し、啓発動画を公開する</li><li>計画道路の色付けやレイヤー分けを行い、視認性を向上させる（改善済み）</li></ul>	



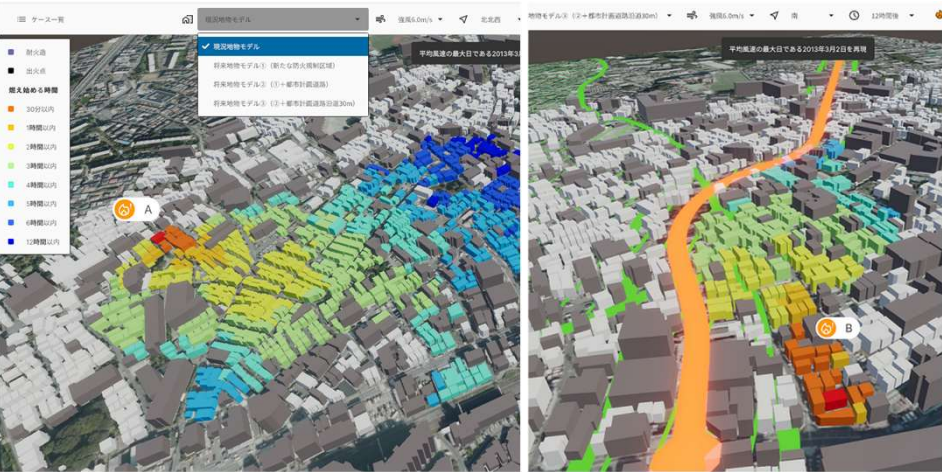
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 15.東京都板橋区

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	50未満	1-2千



■ ユースケース開発成果イメージ図



火災延焼シミュレーションの可視化

防災まちづくり事業効果の可視化

新たな防火規制や都市計画道路の事業効果を可視化するため、延焼シミュレーションを実施。また、直感的に操作できる3Dビューワーを構築し、様々な条件下でのシミュレーションを閲覧できるようにした。このシミュレーションを用いた、被災リスクや防災まちづくりの啓発を行う。

## ■ 今後の展望

今回のユースケースでは、被災の可視化と防災まちづくりの効果検証にとどまっているが、都市復興との親和性が非常に高いと考えられる。そのため、今後は、都市復興においても活用したい。

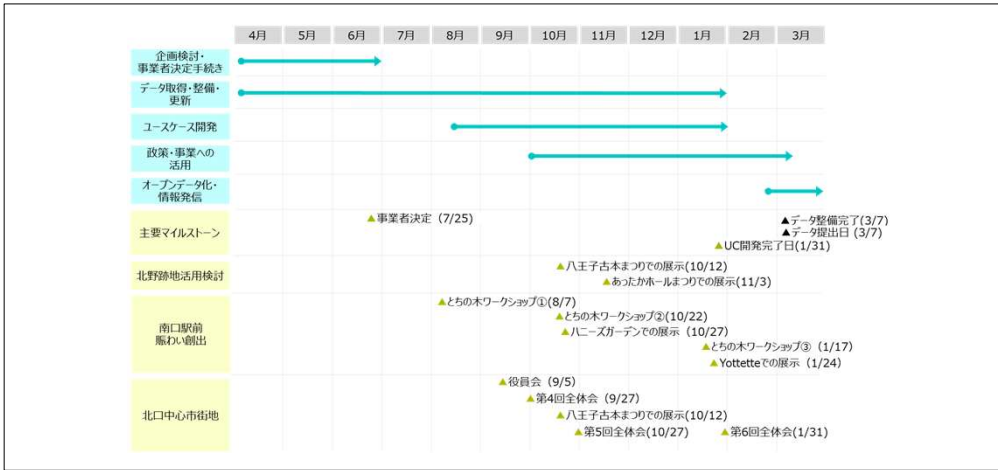
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

16.東京都八王子市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約58万人（令和2年10月時点）
市域全域面積	186.40km <sup>2</sup> （令和7年2月時点）
主な産業 地域課題等	東京都の多摩地域に位置する中核市。交通ネットワークでは、中央自動車道と首都圏中央連絡自動車道とともに3つのICが整備され、鉄道はJR東日本、京王電鉄など7路線が通じており、広域交通の利便性が高い地域である。 産業別の売上高では、「卸売業、小売業」に次いで「製造業」が全体の約2割を占め、ものづくりのまちとして発展してきた一方で、市域の約6割を市街化調整区域に指定し、高尾山をはじめとする観光資源や豊かな自然環境も特色。 JR八王子駅周辺は市の中心市街地として多様な機能集積を図っているが、商業環境の変化などから空き物件、低未利用地も見られ、中心市街地本来のポテンシャルを引き出すことが課題である。

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・住・他	15万以上	100－200	1千未満

担当部局	都市計画課
------	-------

■ 補助事業実施項目

目標	まちづくりにおける市民参加の拡大と質の向上。
課題	・ 計画策定に係る説明会やパブリックコメント、市民参加型ワークショップ等への参加率が低く、参加者層にも偏りがある。 ・ 計画策定までのプロセスが見えづらく、行政計画自体の認知度が低いのに加え、計画の目的や主旨が市民に浸透しづらい。
創出価値	・ 3D化による直観的な分かりやすさを活かし、楽しめるまちづくりコンテンツを提供し、市民のまちづくりへの関心を高める。 ・ 分かりやすい情報をITを活用し広く周知し、時間、場所、方法でのハードルを下げ、意見の偏りを是正することによりまちづくりへの主体的な市民参加の実現する。 ・ データ／エビデンスに基づく検討とデジタル保存によるまちづくりの検討プロセスの透明化を図る。
事前調査等	－
3D都市モデル整備・更新	－
ユースケース開発	3D都市モデルとXR技術を活用した市民参加ワークショップの実装
推進事業	－
総事業費（予定）	2,792（万円） ※うちR6年度792（万円）
R6年度補助額	792（万円）
補助対象外の関連事業	－
オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【UCデータ】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【UCデータ】 ・ 八王子市ホームページに掲載 【ワークショップの結果等】
R6年度委託事業者	株式会社ホロラボ（3D都市モデルとXR技術を活用した市民参加ワークショップの実装）



PLATEAU  
by MLIT

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

16.東京都八王子市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	八王子都市計画区域 (市全域)	186.40km <sup>2</sup>	R4年度整備済
LOD2	建築物	UC対象区域	5.23km <sup>2</sup>	R4年度整備済



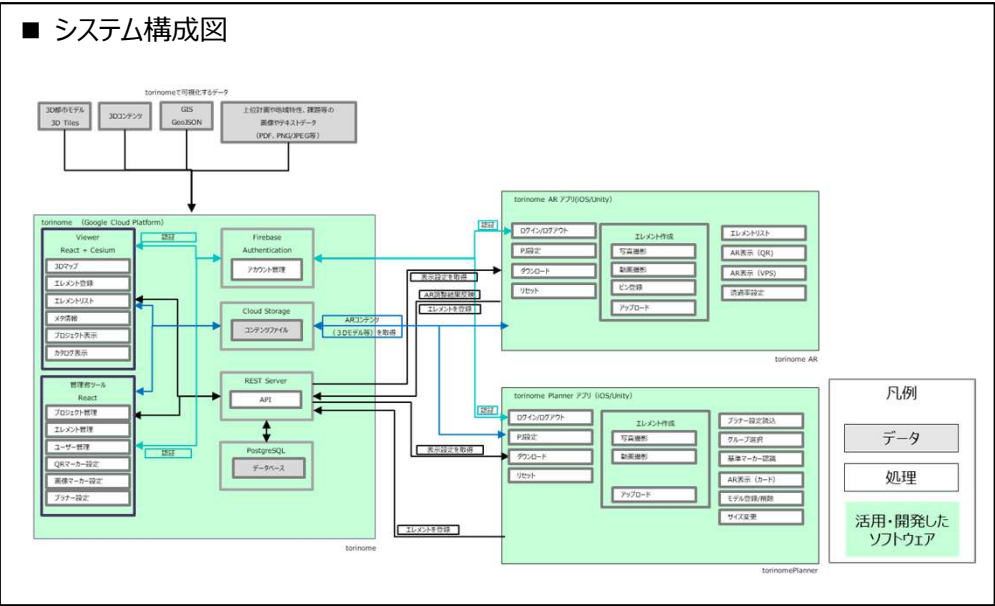
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	—	—	—
測量成果	—	—	—
属性情報	—	—	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・住・他	15万以上	100－200	1千未満



■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり／その他（住民参加）
目的	まちづくりにおける市民参加の拡大と質の向上
取組内容	3D都市モデルとXR技術を活用したワークショップを通して、まちづくりの計画を直感的に楽しく分かりやすく伝えつつ市民の意見を広く収集しステークホルダ間の議論を活発にする。





Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

16.東京都八王子市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	・ 建築物LOD2（名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年）
活用データ (上記以外)	・ R5年度PLATEAUユースケース開発ワークショップ成果
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 八王子駅北口駅前エリアでは、建物の老朽化等から防災面に課題を抱える街区において、建替手法等の検討を行った。検討にあたっては、複数パターンの建替ボリュームプランを3D都市モデル及び現実空間に表示し、様々な思いを持った地権者同士が討議を重ねる土台とした。</li><li>・ 駅前の街路空間エリアでは、道路とまちの活性化をテーマに、まちにあると思うオブジェクトや空間の使い方を考え、その結果を3D都市モデル及び現実空間に表示し、活用方法等について意見交換を行った。</li><li>・ 公共施設の跡地活用エリアでは、過年度に市民参加型WSを通して作成した3Dの跡地活用イメージのデータを取り込んだタブレットを用意し、マーカーを読み取りすることで、机上に3Dデータが表示され、そのデータをもとに跡地に必要な要素や機能についてアンケートを実施した。</li><li>・ 上記の取り組みにより、情報が整理され、共通の理解のもとに、新たなアイデアの創出やディスカッションの場の提供を行うことができた。また、検討で出た意見を3D都市モデル上に表示しておくことで、回を重ねるごとに建設的な議論を行うことができ、より精度の高い検討に繋がった。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 3D都市モデルを活用し市民の疑問や意見が空間で可視化される直観的ワークショップを実施する。</li><li>・ XR技術による直感的で楽しく盛り上がる市民参加ワークショップを開催する。</li><li>・ 市民の意見を広く収集しステークホルダ間の議論を活発にする。</li><li>・ ワークショップで作りだした未来の街がデジタルツインに保存する。</li><li>・ 市内複数のまちづくりプロジェクトで活用し普及促進とデータの蓄積を図る。</li><li>・ ワークショップ結果をデジタルツイン上で可視化し、広くPRに活用し、まちづくり計画の浸透を効率的に実施する。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	ワークショップの結果等を八王子市のホームページに掲載

■ KPI		
KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルワークショップの結果を広くPRし、得られたアンケートの結果の数。八王子市の人口約56万人に対する有効回答数※1。	384件 (R6年度)	490件 (R6年度)
北野下水処理場跡地活用の1件のみでの試行だったのに加えて、追加で2件以上の新規プロジェクトでの利用を実現する。	3件 (R6年度)	3件 (R6年度)

※1信頼水準95%、許容誤差5%とした時の標本サイズ

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・住・他	15万以上	100-200	1千未満



■ ユースケース開発成果イメージ図



あったかホールまつりの様子

あったかホールまつりのイベントで、来場者にR5年度のワークショップ成果をARで体験してもらっている様子  
体験後にアンケートを実施



賑わい空間の創出ワークショップの様子

八王子駅南口周辺（とちの木通り）の賑わい空間の創出ワークショップで、3D都市モデルを活用しながら、まちづくり事例を可視化している様子

■ 今後の展望

今年度は八王子駅から概ね15kmを範囲とし、条件や目的が異なる3つの事業をUCとして実施し、各事業に関わる参加者より可視化による分かりやすさから、従来手法と比較し、より具体的に将来を見据えた意見が得られたと感じている。

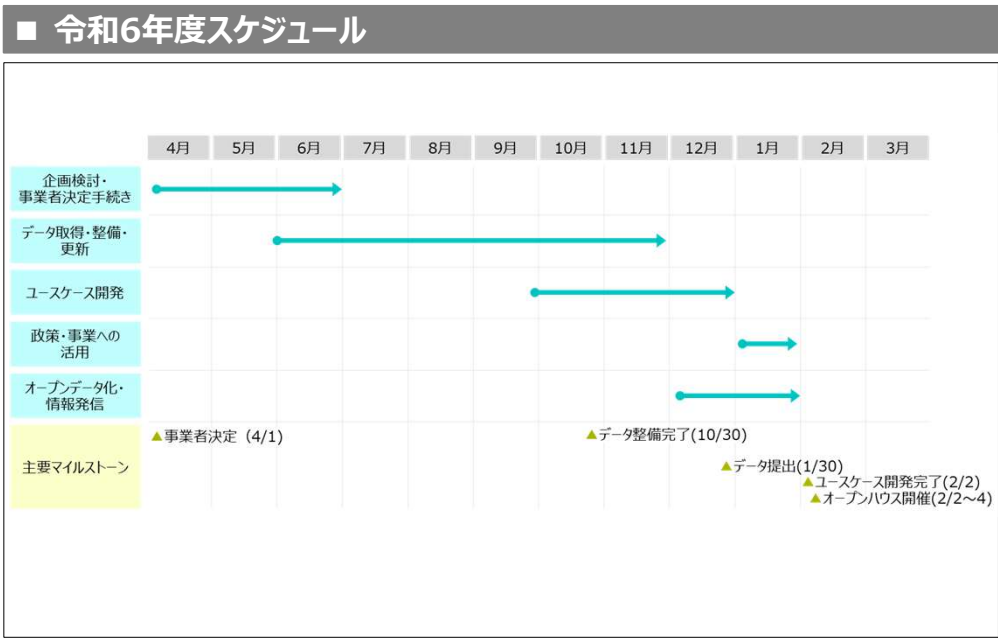
今後は市民に広くまちづくりの情報を提供するデータ基盤として3D都市モデルを活用するとともに、個別で進捗する事業を都市拠点単位としたエリアで連動させつつ、都市の将来像の実現を図るツールとして活用していきたい。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 17.東京都東村山市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	151,795人（令和7年1月時点）
市域全域面積	17km <sup>2</sup> （令和6年10月時点）
主な産業 地域課題等	東京都の北西に位置し、都心まで30km圏内のアクセス便利なベッドタウン。人口約15万人。 市域内には緑地、水辺空間、農地などの自然環境に恵まれ、都市近郊にありながらのどかな里山風景が残っている。近年、連続立体交差事業や都市計画道路事業等の都市基盤整備が進行中である。



分野

人口規模

面積規模

予算規模

防

15万以上

50未満

1－2千

担当部局

経営改革課

PLATEAU

by MLIT

■ 補助事業実施項目

目標	河川の維持管理と都市型水害の抑制		
課題	<div> <div>・ 市民等（庁内・関係機関含む）に対して様々な機会を通じて，前川流域の洪水対策における取組に関する理解の促進を図る必要がある。</div> </div>		
創出価値	<div> <div>・ 住民（対外関係者）説明会での説明内容の理解度向上</div> <div>・ 住民（対外関係者）の理解のための積極的な3次元表示の利活用（閲覧）</div> </div>		
事前調査等	<div> <div>・ 計画準備、資料収集整理</div> </div>		
3D都市モデル整備・更新	<div> <div>・ 3D都市モデル整備（LOD3）（暫定河道、将来河道、調整池（検討中））</div> </div>		
ユースケース開発	<div> <div>・ 河川整備計画検討の進捗に応じたシミュレーションの実施及び検討（暫定河道、将来河道等の複数ケースの氾濫解析3D可視化）</div> </div>		
推進事業	<div> <div>－</div> </div>		
総事業費（予定）	1,030（万円）		
R6年度補助額	515（万円）		
補助対象外の関連事業	<div> <div>－</div> </div>		
オープンデータ化・可視化・情報発信	<div> <div>・ G空間情報センターへの掲載</div> <div>・ PLATEAU VIEWへの掲載</div> </div>	<div> <div>【3D都市モデル】</div> <div>【3D都市モデル】</div> </div>	
R6年度委託事業者	朝日航洋株式会社（事前調査）		
	朝日航洋株式会社（3D都市モデルの整備・更新）		
	朝日航洋株式会社（ユースケース開発）		

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

17.東京都東村山市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	市内全域	17km <sup>2</sup>	R4年度整備済
LOD2	建築物	一部ランドマークのみ		R2年度整備済

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2	橋梁	前川(水路)橋梁42橋		R5年度整備済
LOD3	地形	前川(水路) 前川(水路)（暫定河道、将来河道）	0.1km <sup>2</sup> 0.1km <sup>2</sup>	R5年度整備済 R6年度整備
	橋梁	前川(水路)橋梁3橋		R5年度整備済

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	50未満	1-2千



■ ユースケース概要

■ 3D都市モデル整備エリア図

LOD1（建築物、交通（道路）、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形）	東村山市全域（17km <sup>2</sup> ）
LOD2（建築物、橋梁42箇所）	一部ランドマーク、前川（水路）（0.1km <sup>2</sup> ）
LOD3（地形、橋梁3箇所）	前川（水路）（0.1km <sup>2</sup> ）

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	その他（暫定河道及び将来河道の設計資料）	R5年度	その他(なし)
測量成果	既存資料（航空レーザー）	R2年度	500
属性情報	—	—	—

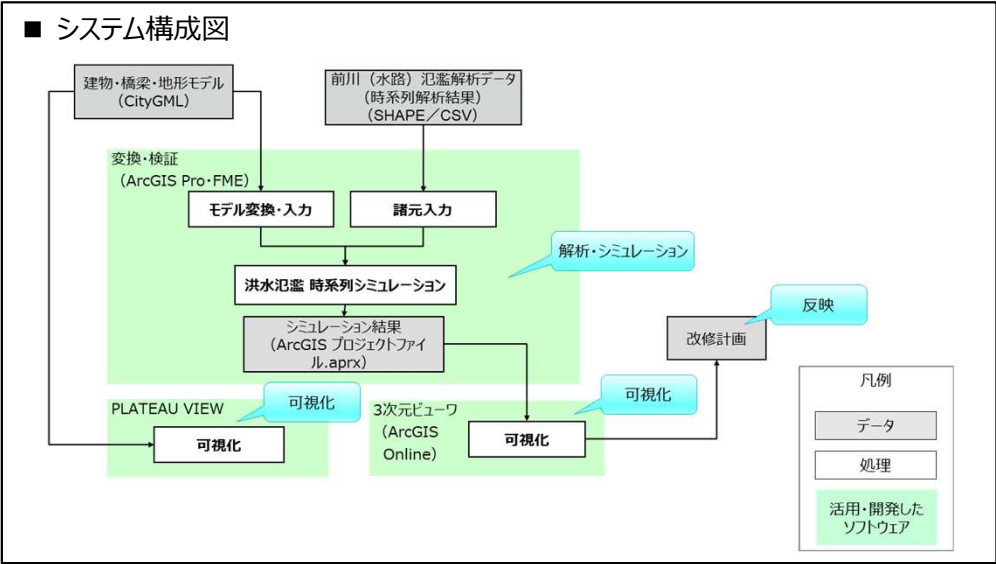
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

17.東京都東村山市

■ ユースケース概要

分野	防災・防犯
目的	都市型水害の抑制による安心した暮らしの実現に向けた、河川整備計画の作成における検討の深化。護岸等の地形及びまたがる橋梁を整備する対象エリアに、複数の条件のもとシミュレーションを行い、将来図の高度な検討を行う。
取組内容	現況河道に対し、検討中の将来河道形状及び遊水池（検討中）モデルを作成し、想定氾濫解析結果データを3次元ビューにて重ねて可視化することで、現況に対する効果を可視化する。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	50未満	1-2千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	・ 建築物LOD1、地形LOD3（河道）、橋梁LOD2・3
活用データ (上記以外)	・ 前川(水路)氾濫解析データ（破堤点時系列データ（時系列毎浸水深））
ユースケース開発方法	・ 暫定及び将来河道の設計資料の収集、整理。3D都市モデルの作成を行う。 ・ 氾濫解析結果を3次元表示可能なデータ形式に編集し氾濫解析結果3Dデータを作成を行う。 ・ 作成した3D都市モデルおよび氾濫解析結果の3Dデータを重ねて表示させる。 ・ 3次元ビューに搭載する。 ・ 今後、可視化による内部検討の深度化、庁内・関係機関との合意形成の迅速化、住民説明会での活用の検討を行う。
政策・事業での活用	・ 3D都市モデル整備（前川3D都市モデルデータ、製品仕様書） ・ 氾濫解析結果3D可視化（氾濫解析結果3Dデータ（3次元ビューPCへ搭載））。
オープンデータ化 情報発信	—

KPI	目標設定	達成状況
利用方法について理解できたと回答した職員の割合（%）	90% (R5年度)	100% (R5年度)
改修計画について理解できたと回答した住民（対外関係者）の割合（%）	90% (R6年度)	91% (R6年度)
閲覧数(pv)	5,000pv (R7年度)	R7年度 計測予定

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 17.東京都東村山市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	50未満	1-2千

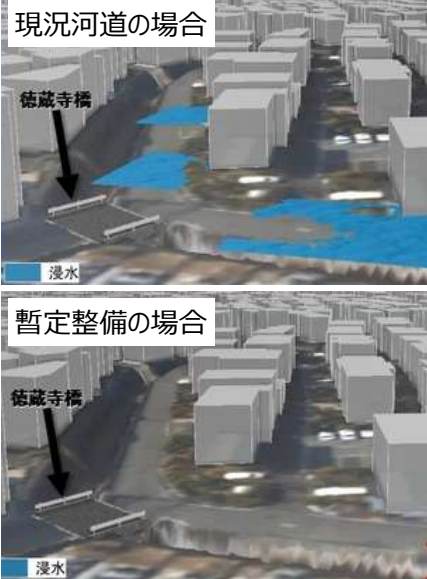


■ ユースケース開発成果イメージ図



3Dビューワーでのアニメーション

整備前後の効果について、様々な場所を任意の視点で、時系列アニメーションにて浸水箇所の確認が可能となった。



住民説明会用の動画

整備効果の理解を深めるために、現況河道の場合、暫定及び将来整備の場合を比較表示が可能な動画を作成

■ 今後の展望

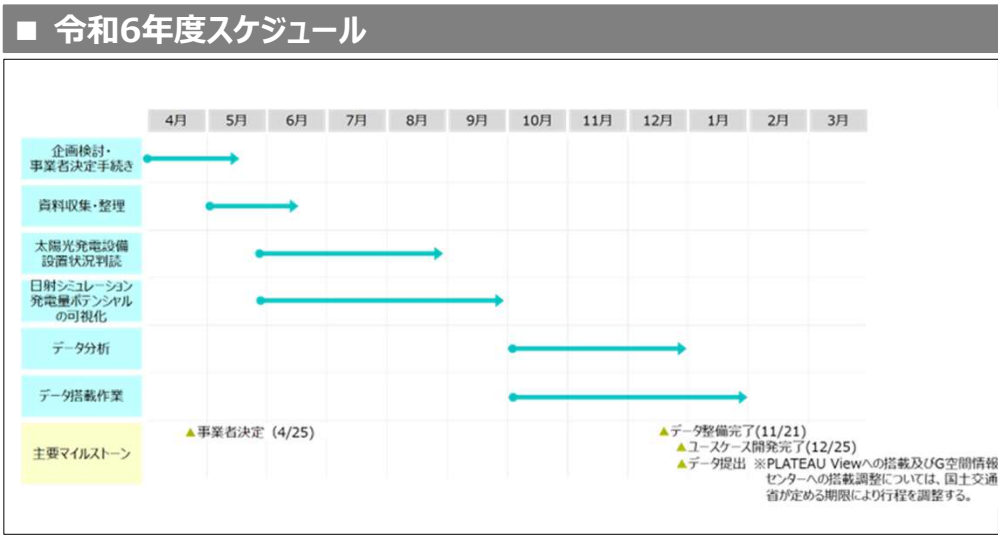
今後、可視化による内部検討の深度化、庁内・関係機関との合意形成の迅速化、住民説明会等での活用を検討を引き続き行いたい。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 18.東京都狛江市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	82,048人（令和7年1月時点）
市域全域面積	6.39km <sup>2</sup>
主な産業 地域課題等	<p>東京都23区の世田谷区に隣接した市である。小田急線狛江駅を中心とした商業中心都市。</p> <p>市域面積が6.39km<sup>2</sup>で全国の市の中で2番目に小さく、道が平坦で全て徒歩圏内というコンパクトな特性をもっている。この特性は、市民同士の距離を近くするため、地域コミュニティ、防災・防犯、高齢者や障がいのある人の見守り等、まちづくりの様々な分野に寄与している。</p> <p>また、都心からの交通の便が良い上に、多摩川や野川、狛江弁財天池特別緑地保全地区や屋敷林等の豊かな「水と緑」に恵まれている。</p> <p>さらに、気候変動への対策を強化するため、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロに取り組む「ゼロカーボンシティ」を目指すことを宣言しており、その実現に向け脱炭素を推進している。</p>



分野	人口規模	面積規模	予算規模
環	5－15万	50未満	1－2千

担当部局	環境政策課
------	-------

■ 補助事業実施項目	
目標	2050年ゼロカーボンシティの実現に向けた脱炭素社会の構築。
課題	温室効果ガス排出量の削減。 再生可能エネルギーの導入拡充。
創出価値	3D都市モデルを活用して建築物における太陽光発電設備の設置効果（ポテンシャル）を分析することで以下の価値創出が期待できる。 ・関連計画に掲げる目標の達成に必要な太陽光発電設備設置規模の把握 ・設置効果の高い建築物や区域を把握することによる効率的な事業展開 ・市民・事業者に対し具体的な設置効果を提供することによる導入促進

事前調査等	・ 分析方法や対象範囲検討
3D都市モデル整備・更新	・ 太陽光パネル設置状況の把握
ユースケース開発	・ 太陽光発電設備設置効果分析

総事業費（予定）	720.5（万円）
R6年度補助額	360.2（万円）

オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ】
-------------------	---

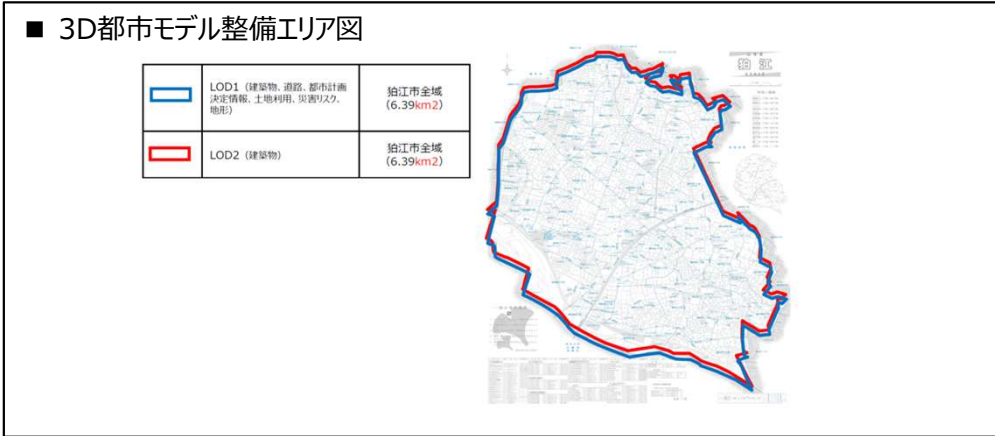
R6年度委託事業者	株式会社パスコ（分析方法や対象範囲検討）
	株式会社パスコ（太陽光パネル設置状況の把握）
	株式会社パスコ（太陽光発電設備設置効果分析）

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 18.東京都狛江市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	市内全域	6.39km <sup>2</sup>	R5年度整備済
LOD2	建築物	市内全域	6.39km <sup>2</sup>	R5年度整備済



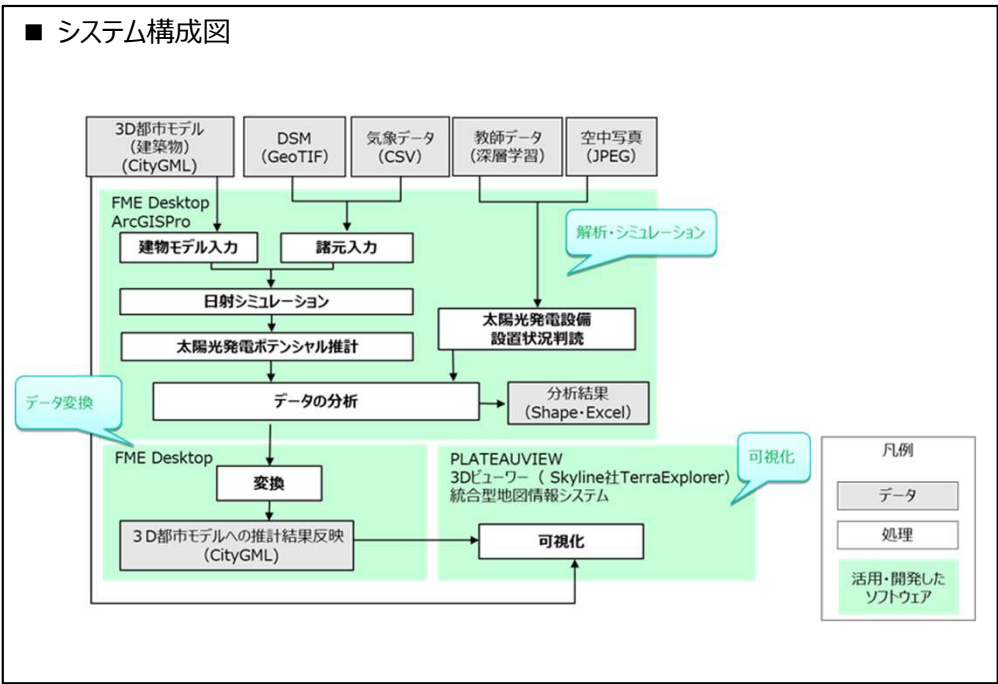
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R3	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R3	2,500
属性情報	—	—	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
環	5－15万	50未満	1－2千



■ ユースケース概要

分野	環境・エネルギー
目的	2050年ゼロカーボンシティの実現に向けた脱炭素社会の構築。
取組内容	ゼロカーボンシティの実現に向け再生可能エネルギーの導入拡充を図る必要があるため、3D都市モデル上で市内建築物の日射シミュレーションを行い、各建築物における太陽光発電設備の設置効果を分析することで、太陽光発電設備の設置促進に活用する。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 18.東京都狛江市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	•建築物LOD2（用途、計測高さ、地上階数、建築年、構造）
活用データ (上記以外)	•気象統計データ(気象) •DSM(構造物高さ等) •教師データ(屋根種類等) •航空写真(太陽光発電設備の判読に活用)
ユースケース 開発方法	•機械判読及び目視により太陽光発電設備の設置状況を判読し、GISデータ（ポイント）を作成すると共に建物総数、太陽光発電設備設置建物数を集計する。 •3D都市モデルにおける屋根の形状、面積、方位角、傾斜角から太陽光発電パネル設置対象屋根を抽出する。 •太陽軌道をもとに日射量を算出し、気象データ、傾斜・方位条件などによる補正を行った上で、建物毎の年間日射量を算出する。 •JIS C 8907「太陽光発電システムの発電電力量推定方法」（2005年）に基づき、建物ごとの年間発電量を推計する。 •太陽光発電設備設置状況判読結果および年間発電量から再生可能エネルギー導入可能量を推計する。 •太陽光発電設備の設置効果の高い区域を抽出する。 •PLATEAU View及び市内の3Dビューワー、統合型地図情報システムにおいて、ポテンシャルの程度に応じた着色表示が可能なデータを作成・搭載する。 •太陽光発電設備設置状況判読結果および年間発電量から推計した再生可能エネルギー導入可能推計量等を市ホームページで公開する。
政策・事業での 活用	•太陽光発電設備の設置効果（ポテンシャル）の分析結果を基に、各建築物（LOD2）にポテンシャルの程度に応じて着色し、3D都市モデルデータとして構築した上でPLATEAU VIEWで公開する。 •AIの機械判読により把握した太陽光発電の設置状況を反映したGISデータ（Shape形式）を作成し、市内業務で活用する。

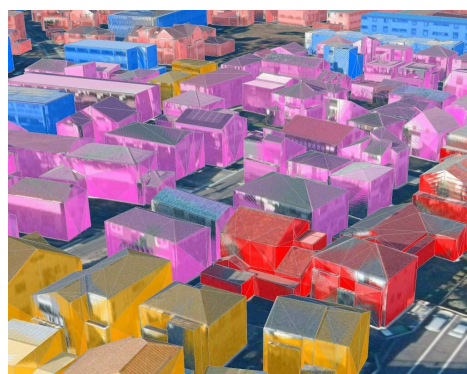
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
市職員向けのアンケート調査において、本ユースケースが太陽光発電設備の普及に有効と考えると回答した市職員の割合（％）	50% (R6年度)	94% (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
環	5－15万	50未満	1－2千

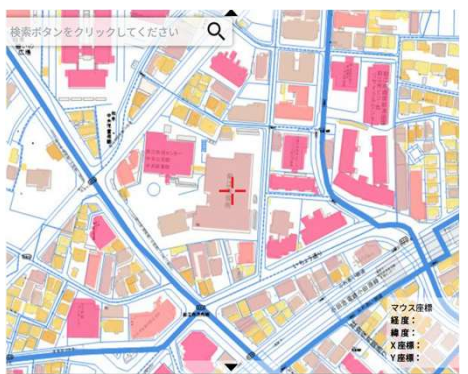


■ ユースケース開発成果イメージ図



①太陽光発電のポテンシャルを反映した3D都市モデルデータ

- ポテンシャルの程度に応じて、各建築物に着色表示。
- 属性情報として、各建築物の具体的なポテンシャル値を表示可能。
- PLATEAU Viewへの搭載を通じて公表。



②太陽光発電の設置状況を反映したGISデータ

- 各建築物の太陽光発電の設置状況をポイント表示。
- 市内で使用する統合型GISデータに搭載し、多様な施策に活用。

■ 今後の展望

本ユースケースを市民に広く周知し、太陽光発電の導入検討に必要な情報を提供することで、設置の拡充を図る。

ポテンシャルが高い建築物の居住者や事業者に対し、太陽光発電の設置を促すアプローチを行ない、効率的に普及拡充を図る。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

19.神奈川県相模原市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	約72万人（令和6年4月時点）
市域全域面積	328.91km <sup>2</sup> （令和6年4月時点）
主な産業 地域課題等	<p>神奈川県北西部に位置する政令市。市域に都市部と中山間地域を併せ持つ。リニア中央新幹線神奈川県駅（仮称）が設置予定。</p> <p>6つの鉄道路線が通り、近年2つのICの開業など、交通アクセスの良さを背景に発展。東京都心まで1時間という利便性の高さを持ちつつ、川や山を身近に感じることができる自然豊かなまちである。</p> <p>本市においては、「潤いと活力に満ち笑顔と希望があふれるまちさがみはら」を総合計画の将来像として掲げ、少子化対策、雇用促進対策、中山間地域対策を分野横断的に取り組む重点テーマとしている。</p> <p>今後、大きな課題となる人口減少・超高齢化社会に対応し、地方創生の取組を実施する。</p>
■ 令和6年度スケジュール	
<div><div>4月</div><div>5月</div><div>6月</div><div>7月</div><div>8月</div><div>9月</div><div>10月</div><div>11月</div><div>12月</div><div>1月</div><div>2月</div><div>3月</div></div> <div><div>企画検討・事業者決定手続き</div><div>データ取得・整備・更新</div><div>ユースケース開発</div><div>政策・事業への活用</div><div>オープンデータ化・情報発信</div><div>主要マイルストーン</div></div> <div><div>▲事業者決定 (5/17)</div><div>データ整備完了(X/X) ▲</div><div>データ提出(X/X) ▲</div><div>ユースケース開発完了(X/X) ▲</div><div>延焼シミュレーションモジュール開発・システム構築</div><div>次年度以降</div></div>	

分野

人口規模

面積規模

予算規模

街・防

15万以上

200－500

5－10千

担当部局

都市計画課

■ 補助事業実施項目

目標	消防力の強化を通じて災害に強い魅力あるまちをつくる
課題	延焼シミュレーションの精度向上（現状：二階建ての建築物のみ）。相模原市域の約7割を占める林野部での火災に対応するシミュレーションが国内に流通していない。 一般市民向けの自主防災訓練や講演会等で効果的に周知できるツールが少ない。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>中心街や中山間地域における効果的な消火・救助活動を実施する。</li> <li>一般市民への防災意識の向上を図り、災害に強いまちづくりを推進する。</li> </ul>
事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデル更新（LOD1,一部建物（LOD2））</li> <li>3D都市モデル整備費用（都市計画基本図修正）</li> </ul>
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデルを活用した延焼シミュレーターの高度化</li> </ul>
推進事業	—
総事業費（予定）	17,004（万円） ※うちR6年度9,007（万円）
R6年度補助額	4,499（万円）
補助対象外の関連事業	—
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】</li> <li>PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】</li> <li>相模原市ホームページに掲載 【シミュレーション画像】</li> </ul>
R6年度委託事業者	国際航業株式会社（3D都市モデル更新（LOD1,LOD2）、都市計画基本図修正、3D都市モデルを活用した延焼シミュレーターの高度化）

PLATEA

by MLIT



PLATEAU  
by MLIT



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

19.神奈川県相模原市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	相模原都市計画及び相模湖津久井都市計画区域の一部	161.73km <sup>2</sup>	R2年度整備済
		R2のうち相模原都市計画区域及び相模湖津久井都市計画区域の一部	104.3km <sup>2</sup>	R5年度整備済
		R2のうち相模湖津久井都市計画区域の一部	57.43km <sup>2</sup>	R6年度整備
		R2を除く相模湖津久井都市計画区域の一部及び都市計画区域外	101.64km <sup>2</sup>	R6年度整備
	交通(道路)	相模原都市計画及び相模湖津久井都市計画区域の一部	161.73km <sup>2</sup>	R2年度整備済
		R2のうち相模原都市計画区域及び相模湖津久井都市計画区域の一部	104.3km <sup>2</sup>	R5年度整備済
		R2のうち相模湖津久井都市計画区域の一部	57.43km <sup>2</sup>	R6年度整備
		R2を除く相模湖津久井都市計画区域の一部及び都市計画区域外	101.64km <sup>2</sup>	R6年度整備
	都市計画決定情報	R2のうち相模原都市計画区域及び相模湖津久井都市計画区域の一部	104.3km <sup>2</sup>	R5年度整備済
		相模湖津久井都市計画区域の一部	112.74km <sup>2</sup>	R6年度整備

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	200－500	5－10千



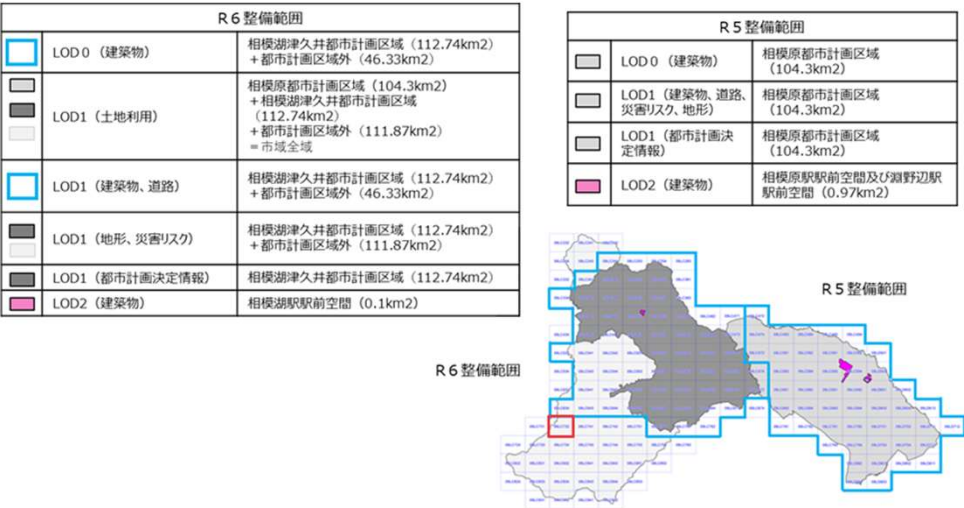
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	土地利用	相模原都市計画及び相模湖津久井都市計画区域の一部	161.73km <sup>2</sup>	R2年度整備済
		R2整備区域 相模湖津久井都市計画区域の一部及び都市計画区域外	161.73km <sup>2</sup> 167.18km <sup>2</sup>	R6年度整備 R6年度整備
	災害リスク	相模原市全域 相模原都市計画区域及び相模湖津久井都市計画区域の一部	328.91km <sup>2</sup> 104.3km <sup>2</sup>	R2年度整備済 R5年度整備済
		相模湖津久井都市計画区域の一部及び都市計画区域外	224.61km <sup>2</sup>	R6年度整備
	地形	相模原市全域 相模原都市計画区域及び相模湖津久井都市計画区域の一部	328.91km <sup>2</sup> 104.3km <sup>2</sup>	R2年度整備済 R5年度整備済
		相模湖津久井都市計画区域の一部及び都市計画区域外	224.61km <sup>2</sup>	R6年度整備
LOD2	建築物	相模原駅前空間及び淵野辺駅前空間	0.97km <sup>2</sup>	R5年度整備済
		相模湖駅前空間	0.1km <sup>2</sup>	R6年度整備

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

19.神奈川県相模原市

■ 3D都市モデル整備エリア図



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図 (修正)	R5、R6年度	2,500
測量成果	既存資料 (航空写真)	R4年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査 (既存)	R3、R4年度	—
	都市計画決定データ (①都市計画区域、②市街化区域・市街化調整区域、③立地適正化計画、④防火・準防火地域、⑤用途地域)	R5、R6年度	—

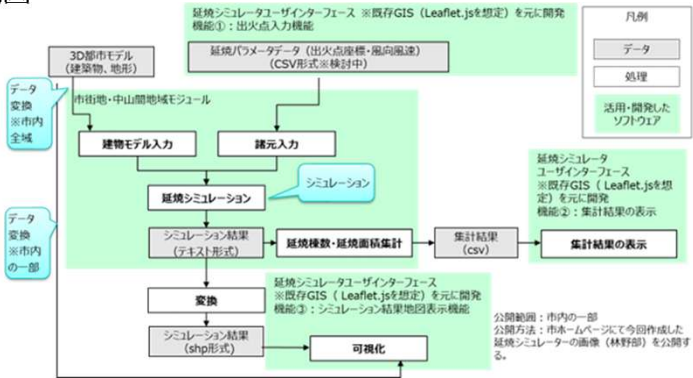
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	200 – 500	5 – 10千



■ ユースケース概要

分野	防災・防犯／都市計画・まちづくり
目的	精緻な延焼シミュレーションを行い、支援し被害を最小限にとどめること
取組内容	<p>自治体消防の現場において、大規模市街地火災や林野火災が発生した場合の被害軽減は最重要課題のひとつである。3D都市モデルを活用してデータ整備の課題を解消すると共に、従来は困難であった市街地と山間部をシームレスにつなぐ延焼シミュレーションを実現することで、災害発生時の消火・救助活動などの消防業務を支援して被害を最小限にとどめることに寄与することを目的とする。</p> <p>本事業では、従来の延焼速度式に基づく市街地の延焼拡大予測に加えて、林野火災延焼シミュレーションを構築することで、市街地と山間部を網羅したシームレスな延焼シミュレーションを実現する。</p> <p>本市は、日本の縮図のような市街地と山地の構成割合であり、市の中・西部の山地が市面積の約7割を占め、林野火災への対応・対策が喫緊の課題となっており、これらの課題解決が全国的にも寄与するものである。</p> <p>また、まちづくりの分野においては、延焼遮断帯効果による都市計画道路の整備優先順位の検討等に活用が見込まれる。</p>

■ システム構成図



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

19.神奈川県相模原市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1 (id、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年)</li><li>地形LOD1 (高さ)</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>延焼パラメータデータ (出火点座標・風向風速)</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>R5年度に実施した基本設計・詳細設計を元に、延焼シミュレータユーザインターフェースの開発を実施する。</li><li>R5年度に実施した基本設計・詳細設計を元に、市街地・中山間地域延焼モジュールの開発を実施する。</li><li>上記モジュール・ユーザインターフェースを統合し、延焼シミュレーションシステムを構築する。</li><li>延焼シミュレーションシステムは、ユーザが任意の出火点からのシミュレーションを実施可能とする。</li><li>延焼シミュレーションシステムは、ユーザが設定した出火点からのシミュレーション結果を地図 (GIS) 上に表示可能とする。</li><li>上記システムで使用可能な形式に市全域の3D都市モデルの変換を実施する。</li><li>構築したシステムの管理者及び利用者が使用するパソコンへのインストールを行う。</li><li>インストールしたシステムの動作確認を行う。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>【R5】ユーザが設定した出火点からのシミュレーション結果は地図 (GIS) 上に2D/3Dで表示可能にする。</li><li>【R6】ユーザ (市職員) が任意の出火点からのシミュレーションを実施可能とするソフトウェア (延焼シミュレータユーザインターフェース) を開発し、専用端末に導入する。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	延焼シミュレーション画像を相模原市ホームページに掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
現場で活用が見込めると感じた職員の割合 (%)	85% (R6年度)	100%
自主防災訓練で活用が見込めると感じた職員の割合 (%)	85% (R6年度)	100%

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	200 - 500	5 - 10千



■ ユースケース開発成果イメージ図

**延焼シミュレータユーザインターフェース**  
市街地・中山間地域において  
任意の出火点や諸条件 (地震、気候等)  
の延焼シミュレーションを実施可能とした。

**3D表示**

■ 今後の展望

災害時に、被害予測、必要部隊数の決定の参考にする等、効果的な災害活動に役立てるほか、市民等が実施している自主防災訓練に「見える化」して活用していく。

防災分野以外にも、延焼遮断帯となる都市計画道路整備における効果検証、木造住宅密集地域等における消防活動困難区域の解消に向けた住民との合意形成等、防災まちづくりの観点からも延焼シミュレーションを展開していく。

## 20.神奈川県鎌倉市

人口	約17万人（令和6年4月時点）
市域全域面積	39.66km <sup>2</sup> （令和6年7月時点）
主な産業 地域課題等	<p>鎌倉駅周辺は、鎌倉地域の中心市街地として、社寺等の歴史的遺産や公共公益施設が集積し、自然環境と歴史的遺産が融和した風格ある都市景観を形成している。</p> <p>本市へは年間延べ約2,000万人の観光客の来訪があり、本市の活力と賑わいを支えている一方、それに伴う交通渋滞や混雑、ごみ問題といった影響もあり、市政運営を行うに当たっての課題となっている。</p> <p>人口減少が進み、都市の機能や活力、さらには魅力の低下が懸念されるなか、鎌倉駅周辺、大船駅周辺に並ぶ第3の拠点として、まちづくりを進める深沢地域整備事業は、「Society5.0」や「スマートシティ」など国の戦略を受け、新たな時代を見据えた社会インフラや多様な機能の導入により、その実現を目指す。</p>

タスク	開始月	終了月
企画検討・事業者決定手続き	4月	5月
データ取得・整備・更新	5月	3月
ユースケース開発	11月	3月
政策・事業への活用	3月	4月
オープンデータ化・情報発信	3月	4月

主要マイルストーン

- ▲ 事業者決定 (4/25)
- ▲ データ整備完了 (3/7)
- ▲ データ提出 (3/19)
- ▲ ユースケース開発完了 (3/21予定)
- ▲ システム操作研修実施 (3/26予定)

R6年度 委託事業者	鎌倉市、国際航業株式会社（事前調査、ユースケース開発）
	国際航業株式会社（3D都市モデルの整備）







Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

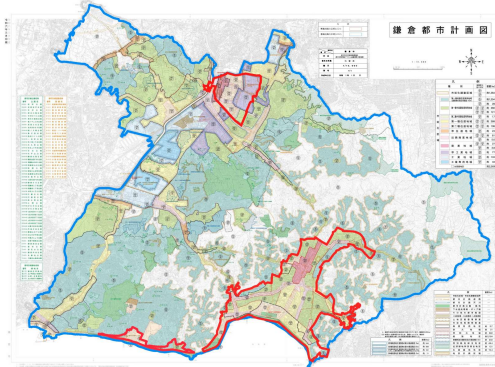
# 20.神奈川県鎌倉市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定 情報 土地利用 災害リスク 地形	鎌倉市全域	39.66km <sup>2</sup>	R6年度整備
LOD2	建築物	鎌倉景観地区・鎌倉風致地区の一部及び大船駅周辺地区の一部	3.84km <sup>2</sup>	R6年度整備

■ 3D都市モデル整備エリア図

	LOD1（建築物、交通（道路）、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形）	鎌倉市全域（39.66km <sup>2</sup> ）
	LOD2（建築物）	鎌倉景観地区・鎌倉風致地区の一部及び大船駅周辺地区の一部（3.84km <sup>2</sup> ）



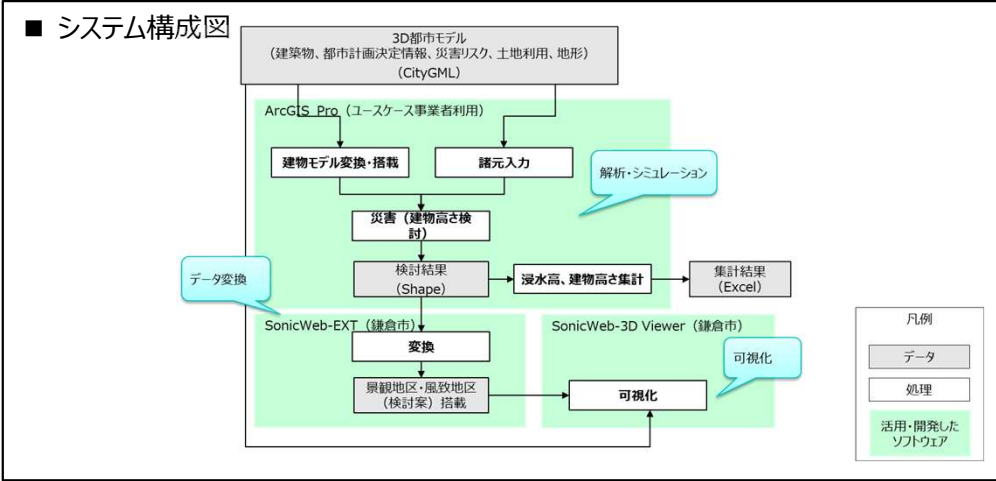
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	3.都市計画基本図（修正）	新規作成	2,500
測量成果	1.新規測量（航空写真）	新規作成	2,500
属性情報	1.都市計画基礎調査（既存）	R3年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	50未満	3-5千



■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	自然・歴史的環境と調和を保ちつつ、頻発・激甚化する水災害等を踏まえた具体性のある都市マスタープランの改定、ひいては都市計画の見直し検討に向け、行政事務の効率化を図る。
取組内容	<p>建物利用現況を属性情報として付与した3D都市モデルLOD1と土地利用現況図を重ね合わせ、土地利用の状況について解析を行う。この結果を踏まえ、都市マスタープランの改定に向けた検討資料とし、ひいては都市計画の見直し検討に活用する。また、現在、鎌倉市が進めている、JR東海道本線新駅を伴う藤沢市域と一体の深沢地域のまちづくりの具現化の検討に活用する。</p> <p>鎌倉市都市マスタープランでは、鎌倉市の特徴的な都市景観を踏まえた「都市景観形成の方針」を示しているが、景観形成と都市防災の方針のバランスが難しいところであるため、津波浸水想定区域内にある沿岸地域を対象として、災害リスク情報の三次元表示を行い、より具体性のある都市防災の方針（具体的には鎌倉景観地区・鎌倉風致地区における建物高さの方針）の検討につなげる。</p>



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

20.神奈川県鎌倉市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1, LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年、建物利用現況)</li><li>道路LOD1 (避難経路、緊急輸送道路)</li><li>都市計画決定情報LOD1 (区域名称の区域の範囲、区域の種類、高さ制限の内容 (ある場合))</li><li>災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、起こりうる災害の内容)</li><li>土地利用LOD1 (土地利用現況)</li><li>地形LOD1 (地形の起伏)</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>避難施設 (名称、住所、施設の種類の、施設規模、対象とする災害の分類、レベル) / 公園 (名称等) / 行政界 (区域名称の区域の範囲等) / ランドマーク (名称等) / 鉄道駅 (名称等) / 緊急輸送道路 (路線等) / 鉄道 (路線等)</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルデータを閲覧・操作するための3Dビューワ (SonicWeb-3D Viewer) を導入し、庁内等で利用できる環境を整備する。導入する3Dビューワは、登録された主題データ、3Dメッシュなどの各種データ及び属性を表示・検索・編集、データの入出力等が可能なものとする。</li><li>建物利用現況を属性情報として付与した3D都市モデルと土地利用現況図を重ね合わせる。また、津波浸水想定区域内にある沿岸地域を対象として、災害リスク情報の三次元表示を行い、3D都市モデルと重ね合わせる。</li><li>3Dビューワにてデータを可視化し、鎌倉市の特徴的な都市景観を踏まえた自然・歴史的環境と調和を保ったまち並みの形成等の土地利用の状況について解析を行う。また、災害リスクを可視化し具体性のある都市防災の方針 (具体的には鎌倉景観地区・鎌倉風致地区における建物高さの方針) の解析を行う。</li><li>可視化資料を踏まえ都市マスタープランの改定や深沢地域のまちづくりの具現化に向けた検討委員会、その他協議にて報告もしくは活用を行い、事務の効率化・協議の円滑化を図る。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>3Dビューワの実装及び3Dビューワを利用するうえで必要となるデータ概要やシステム操作方法等について、利用方法を示した操作マニュアルを作成及び必要な研修の実施</li><li>3D都市モデルの建物高さ等の属性情報、災害ハザード情報から、鎌倉市の特徴的な都市景観を踏まえた自然・歴史的環境と調和を保ったまち並みが故に危険視される災害リスクを可視化</li><li>3D都市モデル上で可視化した情報を協議用資料、ひいては都市マスタープラン改定に係る資料 (令和7年度以降) 等の作成に活用</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	PLATEAU VIEWサイトリンクを鎌倉市ホームページに掲載。

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	50未満	3-5千



■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
協議等に係る事務作業時間等短縮の割合 (%)	30% (R6年度)	32.1% (R6年度)
地域の自然災害リスクの認知する市民の割合 (%)	90% (R6年度)	79.6% (R6年度)

KPI未達を受けての今後の対応

防災部局と連携し、更なる周知と理解を深めるための情報発信等を実行することで、市民の認知度向上を図る。

■ ユースケース開発成果イメージ図



都市災害リスクの可視化

・建築物と災害リスクデータを3次元表示にて重畳させることにより、リスクを可視化



都市デザインのためのデータ基盤構築

・建築物の詳細な可視化により、特徴的な都市景観を保つための土地利用の状況解析のための基礎資料を作成

■ 今後の展望

次年度以降も引き続き、都市マスタープラン (市町村マスタープラン) の見直し等に当たって、まちづくりの具体性ある将来ビジョン確立に向け、データを活用したい。  
更に、異常気象による災害からの緑の維持管理、年間約2,000万人の観光客来訪に伴う交通・混雑の課題等に対しても活用の可能性を模索したい。

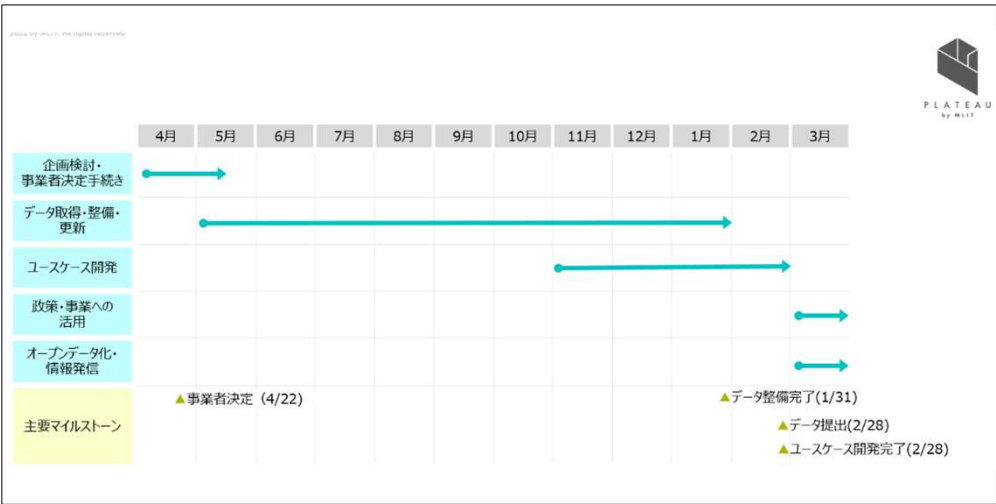
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 21.長野県安曇野市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約9.6万人（令和7年3月時点）
市域全域面積	331.78km <sup>2</sup> （令和7年3月時点）
主な産業 地域課題等	長野県中部（中信地区）に位置し、東西を山地・山岳に囲まれ、西側に北アルプスの連峰がそびえ立つ。南北に開け四方から河川が集まる比較的平坦な複合扇状地が広がっている。平成17年に5町村の対等合併により誕生した市であり、拠点となる市街が分散している。 北アルプスと田園、豊富で清冽な湧水に恵まれ、その自然環境と景観がこの地固有の財産であり、「適正な土地利用に関する条例」による独自の土地利用制度や「地下水の保全・涵養及び適正利用に関する条例」による健全な地下水環境の創出など、暮らしやすさと産業発展のバランスがとれた田園産業都市づくりを目標に掲げている。

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5－15万	200－500	2－3千

担当部局	都市計画課
------	-------

■ 補助事業実施項目

目標	「自然、文化、産業が織りなす共生の街安曇野」の実現
課題	・ 市独自の土地利用制度の情報と防災情報の一元提供による土地利用の適正な誘導 ・ 市民の防災意識の向上と避難場所や経路検討、緊急時の垂直避難可能建物の把握
創出価値	・ 3D都市モデル（建築物、都市計画決定情報）と土地利用制度に関する情報とを重畳することで、地域住民や開発事業者の来庁や問合せを軽減させ、行政事務効率化を図る。 ・ 3D都市モデルにおける建築物、洪水浸水や土砂災害等の災害リスクを重畳させることで、災害イメージを具体化させ、市民の防災意識の向上を図る。

事前調査等	－
3D都市モデル整備・更新	・ 都市計画基本図修正 ・ 3D都市モデル整備（LOD1,LOD2）
ユースケース開発	・ 3D都市モデルを活用した都市計画等情報マップ作成事業 ・ 3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
推進事業	－

総事業費（予定）	6,000（万円） ※うちR6年度3,000（万円）
R6年度補助額	1,500（万円）
補助対象外の関連事業	－

オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 ・ 安曇野市オープンデータサイト 【3D都市モデル／UCデータ】
-------------------	---

R6年度委託事業者	朝日航洋株式会社（3D都市モデルを活用した都市計画等情報マップ作成事業、3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業）
-----------	--

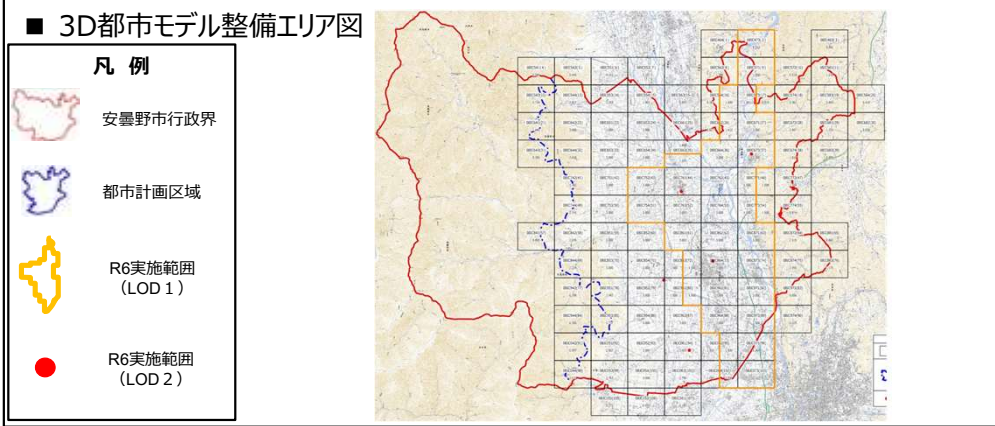


Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 21.長野県安曇野市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路）	都市計画区域の一部 上記以外の都市計画区域	70.3km <sup>2</sup> 128.11km <sup>2</sup>	R6年度整備 R7年度整備
	都市計画決定 情報 土地利用 災害リスク 地形	都市計画区域の一部	198.41km <sup>2</sup>	R6年度整備
LOD2	建築物	市庁舎等（11棟）	km <sup>2</sup>	R6年度整備



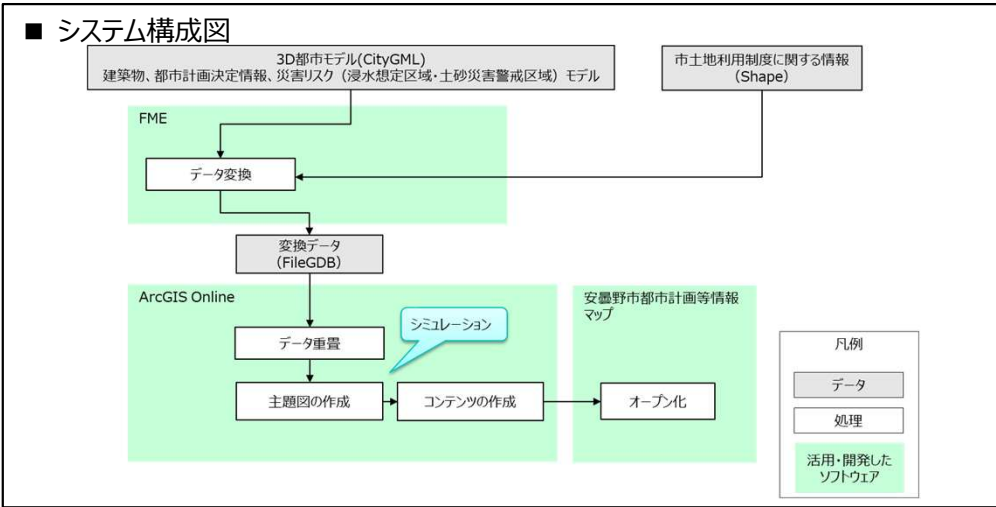
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R6年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R5年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R5年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5–15万	200–500	2–3千



■ ユースケース①概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	3D都市モデル（建築物、都市計画決定情報）と土地利用制度に関する情報を重畳させることで、地域住民や開発事業者の来庁や問合せを軽減し、行政事務の効率化を図る。
取組内容	都市計画決定情報や市独自の土地利用制度に関する情報に、浸水想定モデル等の防災情報を重ね合わせた3D都市モデルのマップを作成・Web上で公表する。これにより、Web上で建築制限等の確認を行う開発事業者の割合を増加させることで、窓口での問い合わせの件数の減少を図り、事務の効率化と土地利用の適正な誘導を図る。





Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

21.長野県安曇野市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1（名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年）</li><li>都市計画決定情報LOD1（区域名称の区域の範囲、区域の種類）</li><li>災害リスクLOD1（洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、起こりうる災害の内容）</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>市土地利用制度に関する情報</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデル（建築物モデル、都市計画決定情報モデル、浸水想定区域モデル、土砂災害警戒区域モデル。以下本UC①においては同じ。）のデータ形式をCityGMLからArcGIS Onlineで使用可能な形式へ変換する。</li><li>3D都市モデルと市土地利用制度に関する情報をArcGIS Onlineで重畳する。</li><li>3D都市モデルの表示設定を行い、地域住民や開発事業者の来庁や問合せを軽減させるための主題図を作成する。</li><li>「安曇野市都市計画等情報マップ」へ公開し、ウェブサイトのアクセス数や対面での開発相談件数より効果を測定する。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>開発事業者の来庁や問合せを軽減させるために、現在の2D版の都市計画等情報マップに掲載している都市計画法関連の情報に加え、新たに立地適正化計画の誘導区域を掲載した主題図を公開する。</li><li>3D都市モデルを活用した「視覚的に捉えやすいマップ」を作成するため、R5年度より運用している「安曇野市都市計画等情報マップ」へコンテンツを公開する。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	3D都市モデルを安曇野市都市計画等情報マップに掲載 ユースケースデータを可視化し、市ホームページで公開

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
全戸配布する広報誌での周知による 都市計画等情報マップへのアクセス数の向上（PV）	820PV/月 (R7年3月)	1,024PV/月
対面での開発相談件数の減少率 整備後の件数と直近3か年の平均件数との比較（％）	10％減 (R6年度)	0％減
KPI未達を受けて の今後の対応	開発相談件数の増減については外部的な要因が多いため目標未達となった。今後は都市計画等情報マップの活用について更なる周知を行うことで相談件数の減少を図る。	

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5－15万	200－500	2－3千



■ ユースケース開発成果イメージ図



都市計画図の3D可視化

3D都市モデルの建築物と都市計画の重畳で、場所の特定及び建築制限等イメージが容易となる。



都市計画図と災害リスクの重畳

災害リスクと都市計画図の重畳による用途地域内での浸水想定などの課題の可視化。

■ 今後の展望

今後は様々な土地利用規制データを3D都市モデル上に追加していくと共に、現在は市内に5棟のみであるLOD2の建物の割合を増加させ、よりわかりやすい都市計画等情報マップを目指していく。

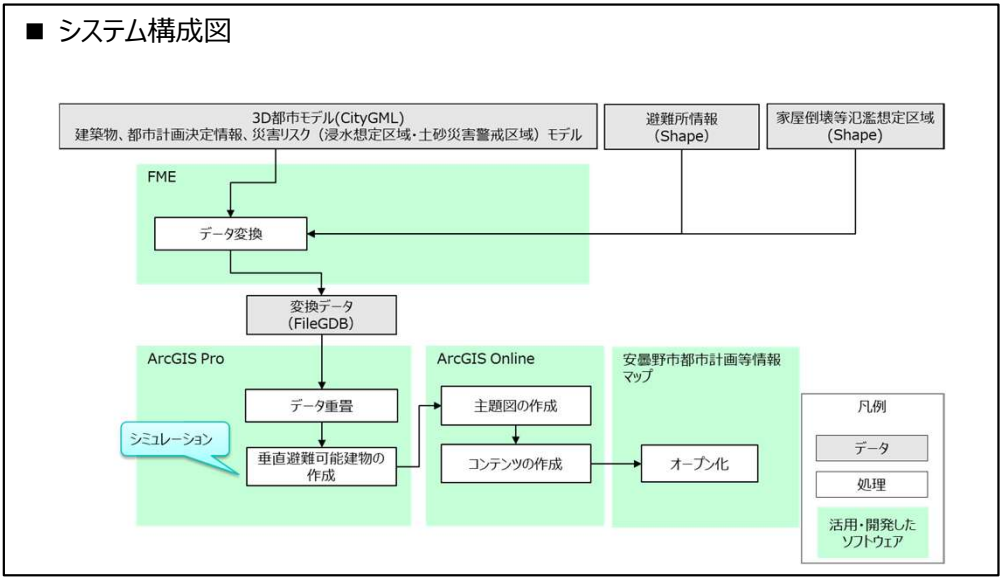
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

21.長野県安曇野市

■ ユースケース②概要

分野	防災・防犯
目的	3D都市モデルにおける建築物、洪水浸水や土砂災害等の災害リスク等を重畳させることで、災害イメージを具体化させ、市民の防災意識の向上を図る。
取組内容	浸水想定区域内にある中心市街地を対象として、災害リスク情報の三次元表示を行い、エリアのリスクを可視化し、緊急的な垂直避難可能建物の把握等に役立てる。また、市の防災会議等で報告すると共に、市の公開型GIS上で公開し、市の広報誌やLINEなどを通じて住民へ周知することで市民の防災意識の向上を図る。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5-15万	200-500	2-3千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年)</li><li>都市計画決定情報LOD1 (区域名称の区域の範囲、区域の種類)</li><li>災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、起こりうる災害の内容)</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>避難所情報</li><li>家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫流)</li><li>家屋倒壊等氾濫想定区域 (河岸浸食)</li></ul>
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデル (建築物モデル、浸水想定区域モデル、土砂災害警戒区域モデル。以下本UC②においては同じ。) のデータ形式をCityGMLからArcGIS Onlineで使用可能な形式へ変換する。</li><li>3D都市モデル、垂直避難可能建物、避難所情報の表示設定を行い、防災計画や避難経路設定に活用できる主題図を作成する。</li><li>市の広報誌やLINEなどを通じて住民へ周知する。また、市の防災会議等で報告する。</li><li>「安曇野市都市計画等情報マップ (市ホームページ)」へコンテンツを公開する。</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>地域住民や開発事業者の来庁や問合せを軽減させるための主題図を公開する。</li><li>3D都市モデルと避難所情報等、垂直避難可能建物 (建築物モデル、浸水想定区域モデルより垂直避難可能建物を抽出) をArcGIS Onlineで重畳させる。</li></ul>
オープンデータ化情報発信	ユースケースデータを可視化し、市ホームページで公開

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
地域の自主防災組織や市の出前講座等での活用件数 (件)	5件 (R7年度)	R7年度計測予定
災害対応力の向上に効果的と感じる職員の割合 (%)	80%以上 (R6年度)	95%

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 21.長野県安曇野市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5-15万	200-500	2-3千

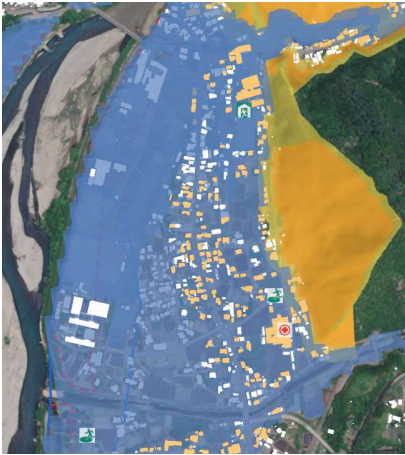


■ ユースケース開発成果イメージ図



**垂直避難可能建物の可視化**

浸水想定区域(浸水深)と  
建築物(構造・高さ)より垂直避難可能  
建物の抽出・可視化



**災害リスクと避難施設の重畳**

浸水範囲及び土砂災害範囲と  
避難施設の重畳により防災情報を  
可視化して防災計画に活用する。

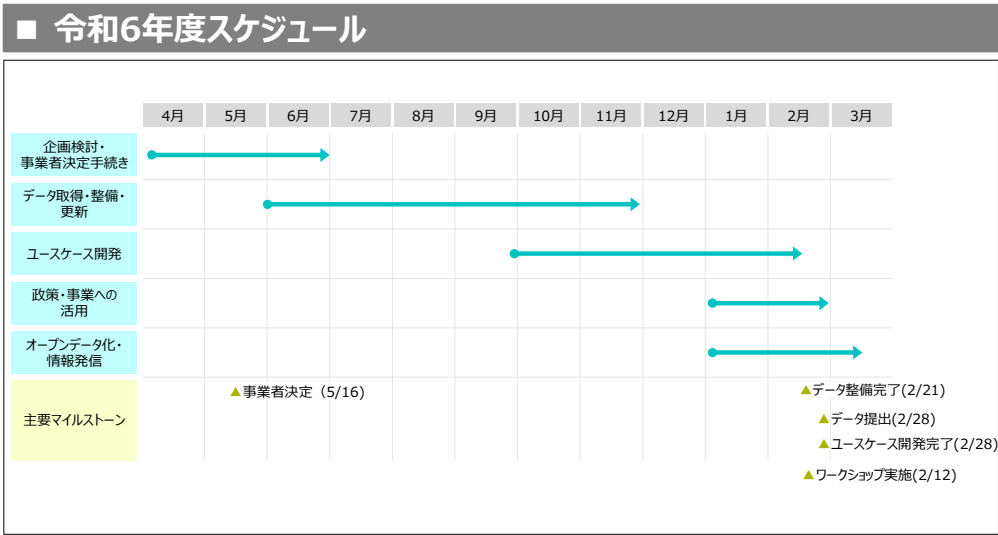
■ 今後の展望

今後は、建築物の高さデータ等を活用し、災害時における市内の緊急輸送道路の羅  
災シミュレーションなどを行いたい。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 22. 富山県高岡市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	162,583人（令和7年1月末時点）
市域全域面積	209.58km <sup>2</sup> （令和7年1月時点）
主な産業 地域課題等	<p>富山県西部に位置する県内第2の都市であり、東西方向・南北方向の基幹交通が交差する広域交通ネットワークの十字路口に位置する。人口は約16.3万人。明治～昭和時代には、江戸時代からつく、銅器や漆器などの産業が発展して、伏木富山港の発展とともに重化学工業、木材、紙パルプ、戦後においては、アルミ産業等の工業集積が進み、現在に至る。</p> <p>交通面だけでなく、経済、文化、観光等の面でも県西部の中核としての役割のほか、日本海側有数の良港である伏木富山港を擁し、「総合的拠点港」として環日本海交流の役割も担っている。</p> <p>本市の持つ強みを活かしながら、人と人がつながり、市民一人一人が新たな時代を創造していく、「市民創造都市 高岡」とし、その実現を支えるため「コンパクト・アンド・ネットワーク」のまちづくりを目指している。</p> <p>市街地の維持、中心市街地の活性化、産業の競争力の低下、災害リスクを考慮した市街地の形成、歴史文化の保全・継承、公共交通の維持。</p>



分野

人口規模

面積規模

予算規模

環

15万以上

200－500

5－10千

担当部局

都市計画課

PLATEA

by MLIT

■ 補助事業実施項目

目標	3D都市モデルを活用し市民が豊かさや利便性を実感できるデジタル社会の実現を目指す		
課題	カーボンニュートラルのまちづくりの実現 防災指針と連携した防災意識の醸成と防災まちづくりの実現。 まちなかの人流把握による賑わいづくりとウォーカブルのまちづくりの実現		
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデルを活用し、まちなかから、太陽光パネルの普及を促進し、カーボンニュートラルのまちづくりに寄与する。</li> <li>3D都市モデルを活用し、市民に災害リスクを分かりやすく示していくことで防災まちづくりに寄与する。</li> <li>賑わいの創出のため、まちなかの人流の可視化やその状況を把握することで、中心市街地の活性化に寄与する。</li> </ul>		
事前調査等	－		
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市計画基本図更新</li> <li>3D都市モデル整備（LOD1,LOD2）</li> </ul>		
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽光発電の可視化によるカーボンニュートラルの推進</li> </ul>		
推進事業	－		
総事業費（予定）	14,500（万円） ※うちR6年度6,500（万円）		
R6年度補助額	3,250（万円）		
補助対象外の関連事業	－		
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>高岡市ホームページに掲載【3D都市モデル/太陽光パネル設置シミュレーション結果】</li> </ul>		
R6年度委託事業者	株式会社パスコ（3D都市モデルの整備・更新、ユースケース開発）		



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 22. 富山県高岡市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定 情報 土地利用 災害リスク 地形 交通（鉄道）	高岡市全域	209.58km <sup>2</sup>	R6年度整備
LOD2	建築物	中心市街地活性化区域、 都市機能誘導区域	5.40km <sup>2</sup>	R6年度整備
LOD3	都市設備（アーケード）	中心市街地活性化区域内	1.0km	R6年度整備

■ 3D都市モデル整備エリア図

都市計画基本図修正図郭

LOD1整備地域(209.58km<sup>2</sup>)

LOD2整備地域(5.4km<sup>2</sup>)

LOD1鉄道

LOD3都市設備(アーケード)

都市計画基本図修正図郭

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R6年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R4年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R5年度	2,500

分野	人口規模	面積規模	予算規模
環	15万以上	200－500	5－10千

■ ユースケース概要

分野	環境・エネルギー
目的	高岡市が進めるカーボンニュートラルのまちづくりと連携して、太陽光パネルを活用したカーボンニュートラル促進に寄与する。
取組内容	建築物LOD2（屋根面）を活用して太陽光パネルの設置、年間予測日射量及び年間予測発電量を推計し、市内の3D都市モデル関連報告会や高岡市カーボンニュートラル推進協議会等で公開する。

■ システム構成図

```
graph TD
    A[3D都市モデル【地形データ】(CityGML)] --> D[データ変換]
    B[NEDO日射量データベース(CSV)] --> D
    C[3D都市モデル【建築物LOD2】(CityGML)] --> D
    D --> E[OSS]
    E --> F[太陽光パネル設置箇所抽出]
    F --> G[年間予測日射量シミュレーション]
    G --> H[太陽光反射シミュレーション]
    H --> I[予測発電量シミュレーション]
    I --> J[建築物単位での年間予測発電量データ(CSV)]
    J --> K[太陽光パネル設置可能屋根面データ(Geodatabase, CityGML)]
    K --> L[可視化]
    L --> M[WebGIS(ArcGIS Online) PLATEAU VIEW]
    M --> N[可視化]
```

凡例

- データ
- 処理
- 活用・開発したソフトウェア

Copyright © 2024 by MLIT. All rights reserved. 99

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 22. 富山県高岡市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD2（名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年）</li><li>地形LOD1（標高）</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>日射量データベース（月別日射量）</li><li>太陽光発電設備スペック（発電容量）</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>「FY2022 Project PLATEAU UC22-013「カーボンニュートラル施策推進支援システムの開発」の成果物」（以下、「OSS」と記載）を活用して、対象区域の3D都市モデル（建築物LOD2）から太陽光発電パネルの設置可能屋根面を抽出する。</li><li>OSSを活用して、抽出した太陽光発電パネル設置可能屋根面から、屋根の傾きや周辺建築物の日陰等を考慮して、年間予測日射量を推計する。</li><li>必要に応じて、太陽光発電パネルを設置した場合の反射シミュレーションをOSSを利用して実施し、周辺建築物への光害の影響も考慮した上で、太陽光発電パネル設置の実現可能性を検討する。</li><li>推計した年間予測日射量から、OSSを利用して発電量の予測シミュレーションを実施し、年間予測発電量を算出する。</li><li>5階以上で7時間以上の日照時間がある壁面が全壁面の10%以上の建築物（LOD2）について、壁面に太陽光パネルを設置する際の設置可能壁面の抽出、年間予測日射量の推計、年間予測発電量のシミュレーションを実施する。</li><li>予測発電量シミュレーション及び壁面設置シミュレーションの結果算出した予測発電量を建築物単位で集約した。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>庁内の3D都市モデル関連報告会や、高岡市カーボンニュートラル推進協議会で予測発電量シミュレーション結果を報告し、カーボンニュートラルのまちづくり推進に寄与する。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	3D都市モデルデータ及び太陽光パネル設置シミュレーション結果を高岡市ホームページに掲載

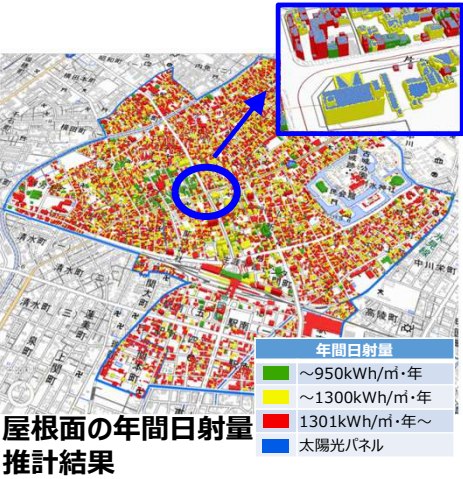
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルの活用が有効であると考えた職員数の割合（%）	50% (R6年度)	87.5% (R6年度)

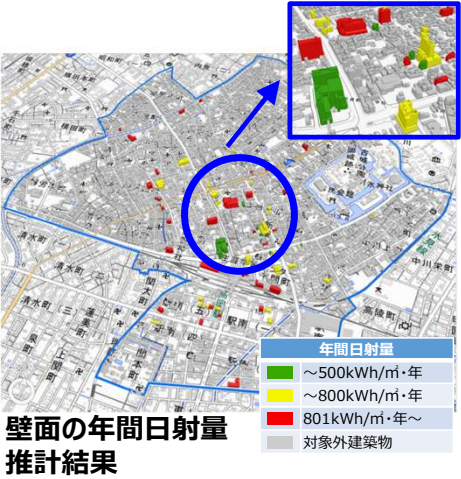
分野	人口規模	面積規模	予算規模
環	15万以上	200－500	5－10千



■ ユースケース開発成果イメージ図



対象区域の3D都市モデル（建築物LOD2）から太陽光発電パネルの設置可能屋根面抽出後、年間予測日射量を推計



5階以上・7時間以上の日照時間がある壁面が全壁面の10%以上の建築物（LOD2）について、年間予測日射量を推計

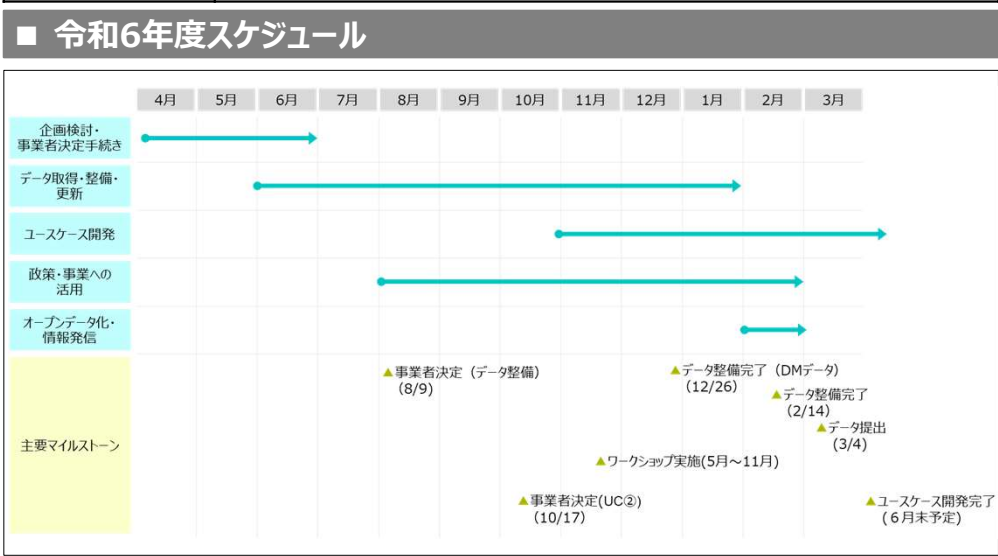
■ 今後の展望

高岡市「ゼロカーボンシティ宣言」の機運上昇や、電気代削減に向けた検討の一助として、PLATEAU VIEWやWebGISで公開する屋根面・壁面の年間日射量推計結果や年間予測発電量推計結果を活用

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

23. 岐阜県岐阜市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	約40万人（令和7年1月時点）
市域全域面積	203.60km <sup>2</sup> （令和7年1月時点）
主な産業 地域課題等	日本のほぼ中央、岐阜県の南西部に位置し、人口約40万人、面積約203.6km <sup>2</sup> 、1996年に中核市になった岐阜県の県庁所在地である。 JR東海道線の岐阜駅、名鉄名古屋本線の名鉄岐阜駅の北側に中心市街地、それを囲むように周辺市街地、さらにその外延部に農地が広がる。また、市内の北東から南西には一級河川長良川が横断する。 地域特性に応じた市街地の整備改善と商業等の活性化を一体的に推進してきた。 「駅周辺」「柳ヶ瀬」「つかさのまち」「岐阜公園」の4つのエリアからなる「センターゾーン」において、商業、居住など多様で高次の都市機能の集積を目指し、行政と民間が力を合わせた取組を進めている。



分野

人口規模

面積規模

予算規模

防・交

15万以上

200－500

5－10千

担当部局

都市計画課

PLATEAU

by MLIT

■ 補助事業実施項目

目標	人がつながる 創造が生まれる しなやかさのあるまち		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>センターゾーンの各エリアとエリア間をつなぐ連携軸の魅力や利便性を高めるなどによるゾーン全体のにぎわいや快適性の創出、回遊性の向上。</li> <li>市民一人ひとりの防災意識の向上と行動促進。</li> <li>通学路における効果的な交通安全対策の実現。</li> </ul>		
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデルの活用により市民目線でわかりやすい情報提供を実践し、市民一人ひとりの防災意識の向上と行動促進につなげる。</li> <li>3D都市モデルを活用したまちの未来を創造できる議論を活性化し、センターゾーンの各エリアとエリア間をつなぐ連携軸の魅力や利便性を高め、ゾーン全体のにぎわいや快適性の創出、回遊性の向上につなげる。</li> </ul>		
事前調査等	—		
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>数値地形図データ更新</li> <li>3D都市モデル整備（LOD1,LOD2,LOD3）</li> </ul>		
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデルを活用した交通事故リスクの可視化事業</li> <li>3D都市モデルを活用した内水浸水対策検討及び効果の可視化事業</li> </ul>		
推進事業	3D都市モデルを活用した統合型GISプラットフォームの構築		
総事業費（予定）	21,206(万円)		
R6年度補助額	4,226（万円）※当初：3,076(万円) 補正：1,150(万円)		
補助対象外の関連事業	—		
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】</li> <li>PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】</li> <li>岐阜市ホームページや専用サイトに掲載予定【UCデータ】</li> </ul>		
R6年度委託事業者	岐阜市（3D都市モデルを活用した交通事故リスクの可視化事業） アジア航測株式会社（3D都市モデルを活用した統合型GISプラットフォームの構築） アジア航測株式会社（数値地形図データ更新、3D都市モデル整備 LOD1,LOD2,LOD3） 株式会社パスコ（3D都市モデルを活用した内水浸水対策検討及び効果の可視化事業） 未定（5月中旬）（3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業）		



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 23. 岐阜県岐阜市

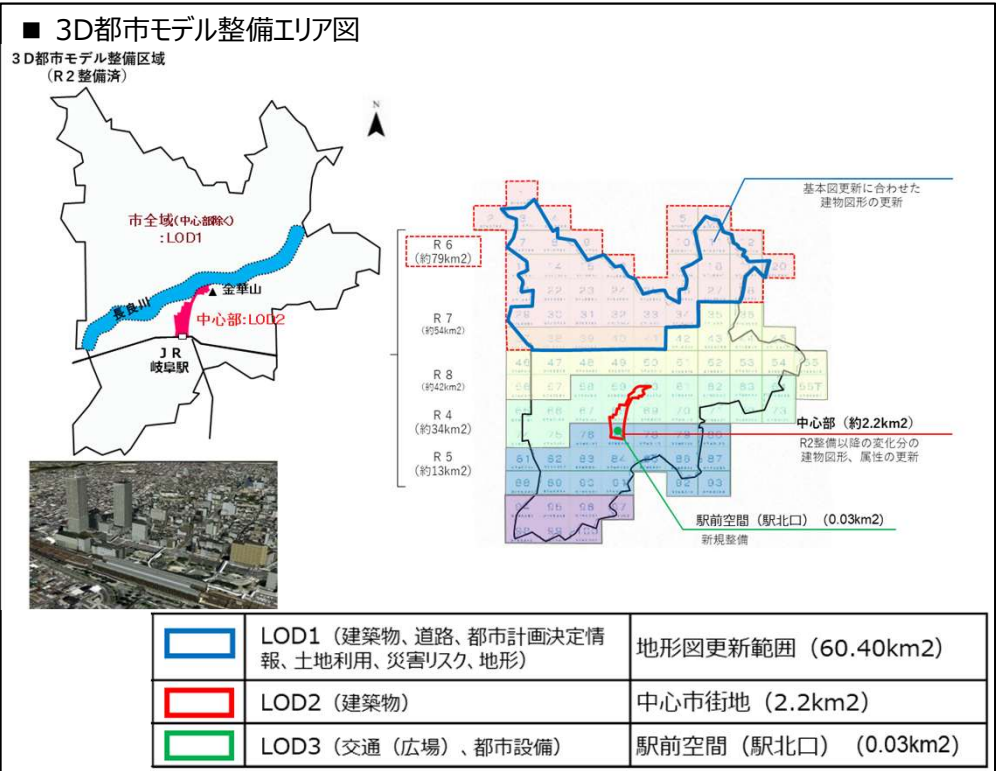
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	市全域 R2～4地形図更新範囲 R5地形図更新範囲 R6地形図更新範囲	203.6km <sup>2</sup> 130.5km <sup>2</sup> 12.7km <sup>2</sup> 79.1km <sup>2</sup>	R2年度整備済 R4年度整備済 R5年度整備済 R6年度整備
	交通（道路）	市全域 R6地形図更新範囲	203.6km <sup>2</sup> 79.1km <sup>2</sup>	R2年度整備済 R6年度整備
	都市計画決定情報 災害リスク	市全域	203.6km <sup>2</sup>	R2年度整備済
	土地利用	市全域	203.6km <sup>2</sup>	R4年度整備済
	地形	市全域	203.6km <sup>2</sup> 203.6km <sup>2</sup>	R2年度整備済 R4年度整備済
LOD2	建築物	岐阜市中心市街地 岐阜市中心市街地 岐阜市中心市街地 岐阜市中心市街地	2.2km <sup>2</sup> 2.2km <sup>2</sup> 2.2km <sup>2</sup> 2.2km <sup>2</sup>	R2年度整備済 R4年度整備済 R5年度整備済 R6年度整備

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD3	建築物	ランドマークとなる建物（1棟）		R3年度整備済
	交通（道路）	岐阜市中心市街地	0.79km <sup>2</sup>	R4年度整備済
	交通（広場）	駅前空間（駅北口）	0.03km <sup>2</sup>	R6年度整備
	都市設備	岐阜市中心市街地アーケード 駅前空間（駅北口）シェルター、柵・壁、点字ブロック等	2.2km <sup>2</sup> 0.03km <sup>2</sup>	R4年度整備済 R6年度整備

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・交	15万以上	200－500	5－10千



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R6年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R5年度	2,500
	点群データ	R6年度	500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R4年度	—



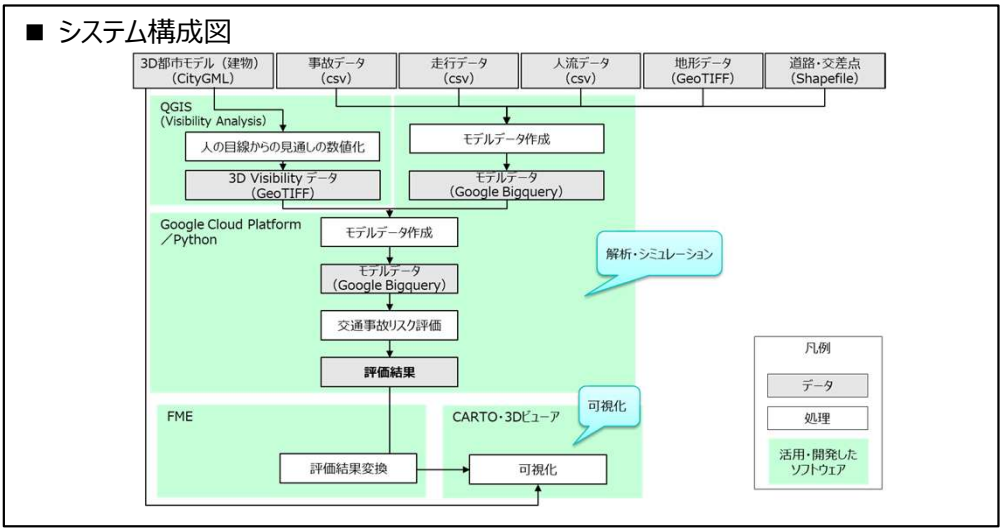
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 23. 岐阜県岐阜市

■ ユースケース①概要

分野	交通・物流・モビリティ
目的	市内全道路・交差点における交通事故リスクの評価及び可視化を行い、効果的な安全対策を図ることを目的とする。
取組内容	<p>R5年度では、交通事故実績や車両走行データなどのビッグデータに加え、3D都市モデルの建物モデルに基づく道路の見通しの数値化データを取り入れ、AI技術を活用した交通事故発生リスク評価を行った。</p> <p>さらに、交通事故発生リスク評価結果を3D都市モデルで表示し、わかりやすく可視化することで、潜在的危険箇所を直感的に把握でき、ワークショップを通して地域の交通事故リスクを共有し、具体的な安全対策箇所・内容を立案した。</p> <p>R6年度は、前年度に引き続き、市民を対象としたワークショップを約60回実施し、さらなる安全性の向上を目指す。</p>

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・交	15万以上	200－500	5－10千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	・ 建築物LOD1 (計測高さ)
活用データ (上記以外)	・ 事故データ(緯度経度、事故タイプ、事故関連者情報) ・ 走行データ(緯度経度、急加速、速度等) ・ 人流データ(緯度経度、タイムスタンプ、UUID) ・ 地形データ(標高、斜面傾斜、斜面方位) ・ 道路データ(道路形状、交差点位置、道路管理者、道路規制情報)
ユースケース開発方法	・ 3D都市モデルの建物モデルによる見通し解析結果等を、A I 技術を活用した交通事故発生リスク評価を行い、見える化地図として作成し、地域住民とワークショップを実施する。 ・ 対策検討箇所の選定、具体的な安全対策内容を立案する。
政策・事業での活用	・ 事故発生リスクAIアセスメントを用いて交通事故リスク評価のモデルデータを作成する。 ・ 3D都市モデルの建物データから、Visibility Analysisで各道路・交差点の人の目線からの視認性を可視化する。 ・ 上記2つのデータを用いて、市内の全道路・全交差点で交通事故リスク評価を行い、3D表示で可視化する。
オープンデータ化情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】 ・ ユースケース開発データは、専用サイトに掲載予定 (R7.11予定)

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
交通安全を意識している回答者の割合 (%)	70%以上 (R6年度)	85% (R6年度)

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 23. 岐阜県岐阜市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・交	15万以上	200－500	5－10千



■ ユースケース開発成果イメージ図



ワークショップ 実施状況

参加者全員にタブレットを配布し、交通事故発生リスク評価結果を含めた潜在的な危険箇所を手元の操作で確認できるようにし、危険箇所のイメージを参加者間で共有することで、効率的なワークショップを開催。



交通安全対策 施工状況

前年度のワークショップで合意形成された対策箇所、対策内容、優先順位に基づき安全対策を実施した。

■ 今後の展望

参加者からは3D都市モデルの建物モデルによる見通し解析結果等を用いた見える化地図を活用することで、事故リスクを数値的に評価できるようになり、危険箇所がわかりやすく、効果的な対策の立案につながったとの意見があった。  
引き続き、交通事故発生リスク評価等を活用し、市内各校区でワークショップを実施するとともに、合意形成された安全対策を優先順位に基づいて実施していく。

■ ユースケース②概要

分野	防災・防犯
目的	内水浸水想定区域図及び施設整備による浸水深の低下を3D都市モデル上で可視化することで、内水浸水対策における、より効果的な施設整備方法の検討や、水防災に対する市民意識の更なる向上を図る。
取組内容	浸水開始から最大浸水深を経て、浸水終了までの経過時間に伴う浸水発生状況の3次元表示を行い、浸水シミュレーション動画を作成する。アイビューや鳥瞰で動画を作成し、任意の箇所において内水対策施設効果が確認できるようにする。 庁内にて共有し政策活用 に用いる。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 23. 岐阜県岐阜市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1, LOD2 (計測高さ、建物ID、延床面積、構造種別を使用。(想定))</li><li>地形LOD1 (属性は使用しない。(想定))</li><li>都市設備 LOD3 (属性は使用しない。(想定))</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>時系列浸水深データ (経過時間ごとの3Dポリゴンデータ)</li><li>内水浸水対策施設データ (内水浸水対策施設データ(貯留管内径寸法)(調整池寸法 幅×奥行×高さ))</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>本市が作成した内水浸水想定区域図等のデータを用い、内水対策施設ケース毎に被害額を算出し、効果の比較検討を行う。</li><li>内水浸水想定区域図の3Dデータ化を行う。</li><li>3D都市モデル上に内水浸水想定区域図等を表示し、指定した位置や取得した情報の箇所における想定浸水深等の情報表示に関する機能を実装する。</li><li>選定した箇所において、浸水開始から最大浸水深を経て、浸水終了までの経過時間に伴う浸水発生状況を示す浸水シミュレーション動画を作成する。</li><li>アイビューや鳥瞰で動画を作成し、任意の箇所において内水対策施設効果が確認できるようにする。</li><li>浸水シミュレーション動画を庁内で共有し、効果的な政策の立案に有効と感じたか調査する。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>3D化した内水浸水想定区域図を作成する。</li><li>浸水シミュレーション動画を作成する。(mp4等を想定)</li><li>庁内にて共有し、対策案の実施優先度の決定等に活用する。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】</li><li>PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】</li><li>ユースケース開発データは、市HPや専用サイトに掲載予定</li></ul>

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
内水浸水対策効果の可視化が政策活用に有効と感じた職員の割合 (%)	70% (R6年度)	R7年度 計測予定

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・交	15万以上	200 - 500	5 - 10千



■ ユースケース開発成果イメージ図



内水浸水想定区域図を3Dで可視化

3D都市モデル上に内水浸水想定区域図等を表示し、指定した位置における想定浸水深等の情報を表示



浸水深の低下をシミュレートし、3D+時系列 (=4D)で可視化

選定した箇所において、浸水開始から最大浸水深を経て、浸水終了までの経過時間に伴う浸水発生状況を示す浸水シミュレーション動画を作成

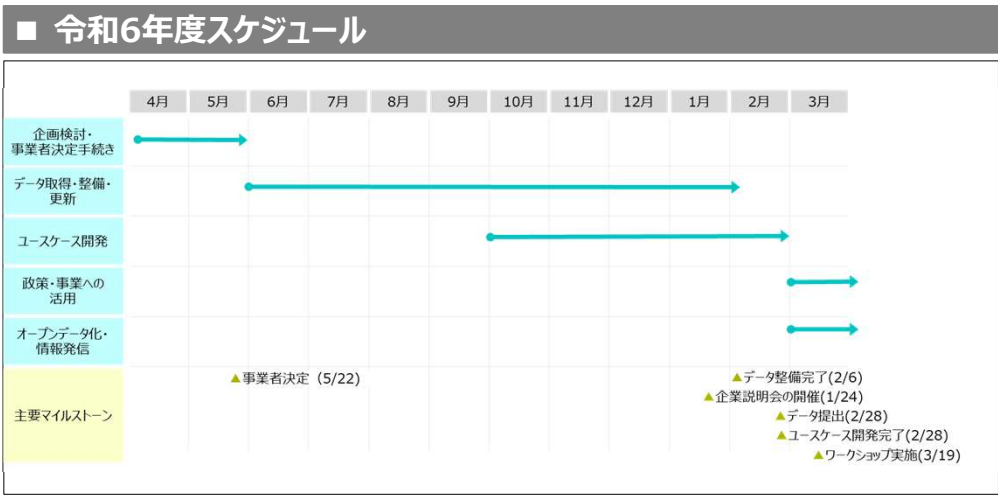
■ 今後の展望

R7年度にユースケースを実施後に記入予定。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 24. 岐阜県大垣市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	156,766人（令和7年1月時点）
市域全域面積	206.57km <sup>2</sup> （令和7年1月時点）
主な産業 地域課題等	岐阜県の南西に位置する岐阜県第2の都市で、西濃地域の産業、文化をリードする中心都市であり、人口は約16万人。 古くは大垣城の城下町として繁栄し、多くの街道や船着き場などが交わる交通の要衝として発展してきた。市の中心部に位置する大垣城の堀の水は、豊富な自噴井など地下水により流れを生み出し、市内中心部を流れる水門川は今もその名残を残している。 近年では、水門川周辺の景観を活用した映画やアニメ、ドラマなど撮影スポットとしても注目を集めており、多くの観光客が訪れている。



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活・住	15万以上	200－500	1－2千

担当部局	情報企画課
------	-------

■ 補助事業実施項目	
目標	3D都市モデルを活用したウォカブルな歩行空間の形成
課題	本市の中心市街地は、高齢化の進行や居住人口の減少、個店の売上げ額の減少や建物の老朽化などによる空洞化からくる魅力低下や、郊外型大規模商業施設による影響から、市民が中心市街地を来訪する機会及び区域内を回遊する機会は減少傾向にある。 中心市街地への来訪者の誘客とにぎわい創出を高め、活力と魅力あるまちづくりを進める必要がある。
創出価値	3D都市モデルを活用して、ウォカブルな歩行空間の形成による賑わいある中心市街地のイメージを共有することで、住民や関係団体等との認識共有がしやすくなり、活力と魅力あるまちづくりの機運を醸成することができる。
事前調査等	－
3D都市モデル整備・更新	・ 3D都市モデル整備（LOD1, LOD2, LOD3）
ユースケース開発	・ 3D都市モデルを活用したウォカブルな歩行空間の形成
推進事業	－
総事業費（予定）	1,574（万円）
R6年度補助額	1,000（万円）
補助対象外の関連事業	－
オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】 ・ 大垣市ホームページに掲載【中心市街地を3D化したイメージ及び3D歩行者モデルによる動画ファイル】 ・ 企業向け説明会の開催【3D都市モデル】
R6年度委託事業者	国際航業株式会社（3D都市モデル整備、ユースケース開発）



PLATEAU  
by MLIT



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

24. 岐阜県大垣市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	大垣都市計画区域 居住誘導区域 都市機能誘導区域	83.14km <sup>2</sup> 27.06km <sup>2</sup> 11.02km <sup>2</sup>	R6年度整備
	都市計画決定情報 土地利用 地形	大垣都市計画区域	83.14km <sup>2</sup>	R6年度整備
	交通（道路）	大垣都市計画区域	1,500km	R6年度整備
	災害リスク	木曽川水系の揖斐川、水門川、杭瀬川	65.73km <sup>2</sup>	R6年度整備
LOD2	建築物	大垣駅から奥の細道むすびの地記念館	0.696km <sup>2</sup>	R6年度整備
LOD3	都市設備	大垣駅前通りアーケード	1.18km	R6年度整備



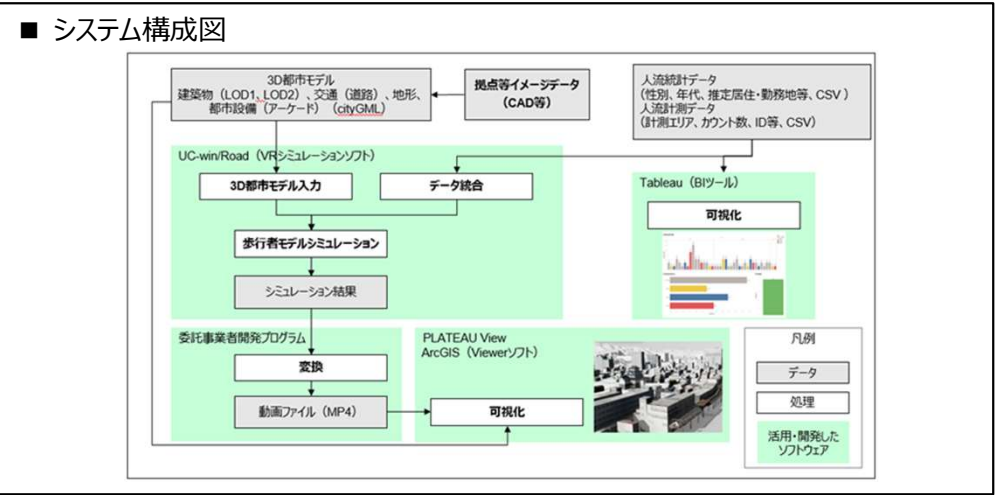
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R4年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R4年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R4年度	2,500
	その他（立地適正化計画）	R4年度	2,500

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活・住	15万以上	200－500	1－2千



■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり／地域活性化・観光・コンテンツ／住民参加
目的	中心市街地におけるまちづくりの検討
取組内容	<p>中心市街地における来訪者の回遊状況、滞在状況を把握するため、人流データを取得する。取得した人流データは、分析後にBIツール等を用いて可視化するとともに、歩行者の回遊状況（移動軌跡）を再現した3D歩行者モデルを作成する。</p> <p>さらに、別途作成する都市モデルに、3D歩行者モデル及び将来の中心市街地の3Dイメージを組み合わせ、3D歩行者モデルを用いた動画を作成する。</p> <p>作成したコンテンツを用いて、まちづくり団体等とウォークアブルなまちづくりに関するワークショップを開催する。</p>



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 24. 岐阜県大垣市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1、建築物LOD2（名称、建物用途、階層）</li><li>交通（道路）LOD1</li><li>地形LOD1</li><li>都市設備（アーケード）LOD3</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>Wi-Fi人口統計データ（性別、年代、推定居住地、推定勤務地等）</li><li>人流計測データ（計測エリア、カウント数、ID等）</li><li>市が提供する新たな施設等をイメージしたCADデータ等（名称）</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>取得した人流データを用いて、時間帯別、平休日別、属性別等に分析を行い、中心市街地における来訪者の回遊状況、滞在状況を把握する。</li><li>取得した人流データをBIツール※で可視化する。可視化に当たっては、メッシュ単位による集計、年月別、時間別、平休日別の滞在状況、中心市街地の回遊状況、来訪者の属性分布等の分析を行う。</li><li>※蓄積されたデータを分析・可視化して、意思決定を支援するツール</li><li>分析した人流データ（時間帯別の滞在人口及び回遊状況）をもとに、歩行者の回遊状況を再現した3D歩行者モデルを作成する。</li><li>市が提供する新たな施設等をイメージしたCADデータ等を、3D都市モデル上に重ね合わせが可能なデータ形式に変換し、将来の中心市街地の3Dモデルを作成する。</li><li>既存の案内看板等のデザインを活用し、回遊状況等の結果を確認しながら、将来イメージとして3D都市モデル上に、案内看板等の将来イメージを検討し配置する。</li><li>3D都市モデル上に、中心市街地のイメージ、3D歩行者モデルを再現したものを素材とした動画ファイル（MP4）を作成する。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>作成成果（動画ファイル）を用いて、まちづくり団体等とウォーカブルなまちづくりに関するワークショップを開催する。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	中心市街地を3D化したイメージ及び3D歩行者モデルによる動画ファイルを大垣市ホームページに掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
ウォーカブルな歩行空間の形成に向けたワークショップの開催回数（回）	1回以上 (R6年度)	1回
ウォーカブルな歩行空間の形成に向けたワークショップにおけるイメージ共有度（％）	70%以上 (R6年度)	100%

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活・住	15万以上	200－500	1－2千



■ ユースケース開発成果イメージ図



3D歩行者モデル再現

取得した人流データを参考に、歩行者（年代、性別等も反映）の回遊状況を、3D都市モデル上で再現



案内サイン等のイメージデータを配置

案内サイン等の適切な設置場所を検討するため、回遊状況の結果を参考に、3Dモデル（将来イメージ）上に、イメージデータを配置

■ 今後の展望

3D都市モデルを活用した洪水ハザードマップを作成し、市民の防災意識や災害対応力の向上を図りたい。

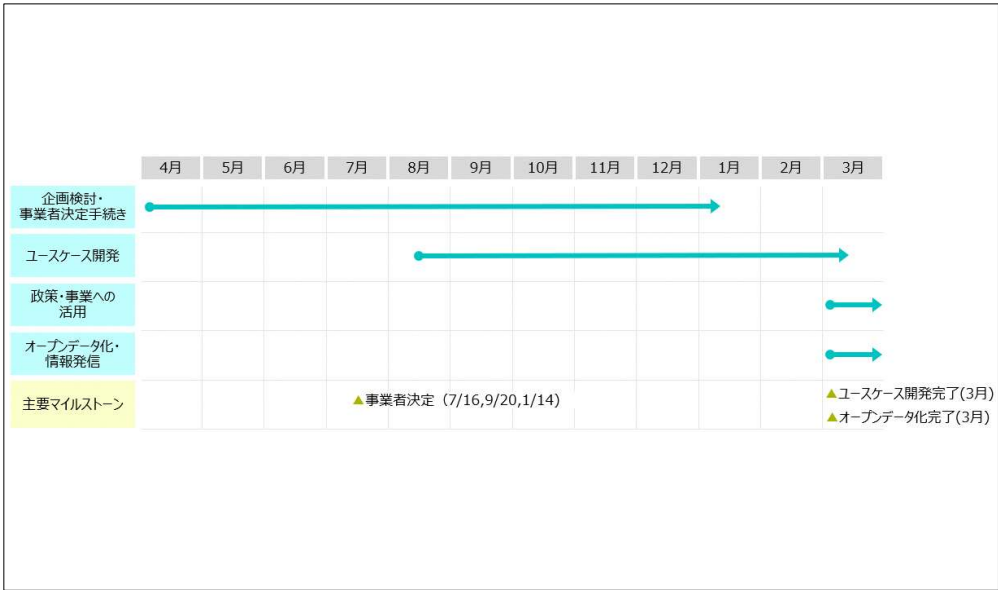
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 25.静岡県

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約350万人（令和7年1月時点）
県域全域面積	7,777km <sup>2</sup> （令和7年1月時点）
主な産業 地域課題等	日本のほぼ中央に位置し、南側は駿河湾、遠州灘に面する。全国有数の工業地域であるほか、富士山、三保の松原などの世界遺産や伊豆半島ジオパークなどの観光資源を有する。人口は約350万人。 3次元データを災害復旧や観光等の様々な分野に活用するVIRTUAL SHIZUOKA構想を推進。

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	500以上	5-10千

担当部局	都市計画課 建設政策課未来まちづくり室
------	------------------------



■ 補助事業実施項目

目標	3次元データ活用による安全・安心で利便性が高く快適に暮らせる地域の形成
課題	作成からの時間経過による施設台帳の老朽化、現況地形との不整合が発生している。 各種台帳が別々に存在することから任意地点の管理施設及び災害ハザードの把握に多大な時間を必要としている。 防災先進県として、災害による被害を最小限に抑えることができるよう防災・減災対策を早急に進め、県民や企業の防災意識の向上させる必要がある。
創出価値	・ インフラ施設の施設台帳や点検台帳等と3次元仮想空間の統合によるマネジメントの効率化 ・ 災害リスクの可視化による住民の防災意識向上と避難行動の実効性向上
事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	—
ユースケース開発	・ 3D都市モデルを活用した施設管理の可視化事業 ・ 水害被災状況の集約・可視化事業 ・ 砂防施設の堆砂状況の分析・可視化事業
推進事業	WEBGISのデータ更新等
総事業費（予定）	67,880（万円） ※うちR6年度5,980（万円）
R6年度補助額	2,990（万円）
補助対象外の関連事業	—
オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】 ・ 東京都デジタルツイン3Dビューアに掲載 【3D都市モデル／UCデータ】
R6年度委託事業者	株式会社フジヤマ、服部エンジニア株式会社、株式会社三菱総合研究所（ユースケース開発） 株式会社三菱総合研究所（3D都市モデルの整備・活用・OD化を推進するための事業）

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

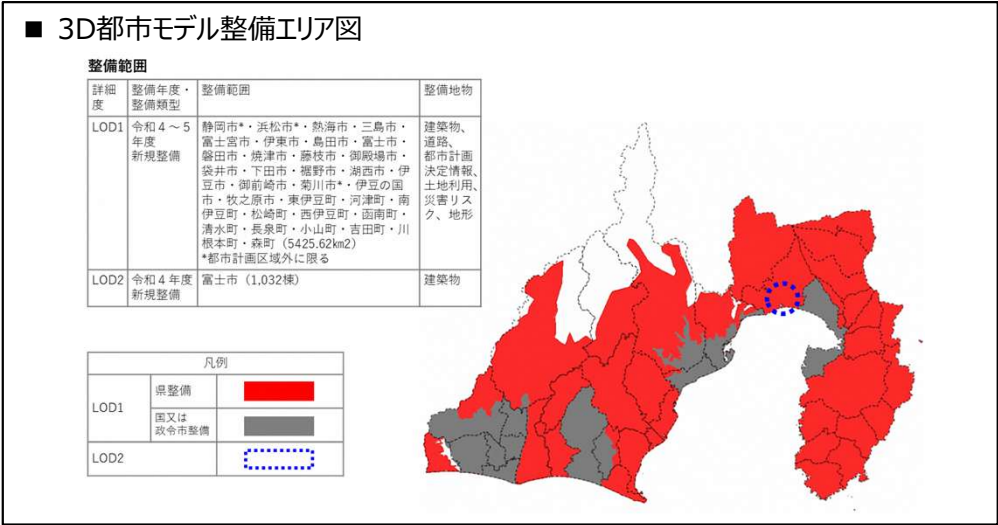
25.静岡県

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）※赤字：R6補助対象地物				
LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	県内26市町の都市計画区域	2563.61km <sup>2</sup>	R4年度整備済
		上記除く県全域（航空レーザ未取得範囲を除く）	2862.03km <sup>2</sup>	R5年度整備済
	交通（道路）	県内31市町	625.00km <sup>2</sup>	R5年度整備済
	都市計画決定情報	都市計画区域（政令市除く）	3033.57km <sup>2</sup>	R4年度整備済
		市街化区域モデルを追加	228.46km <sup>2</sup>	R5年度整備済
	土地利用	都市計画区域（政令市、整備済の市を除く）	2654.58km <sup>2</sup>	R4年度整備済
	災害リスク	洪水浸水想定区域モデル、津波浸水想定区域モデル、高潮浸水想定区域モデル	5425.64km <sup>2</sup>	R4年度整備済
		土砂災害警戒区域モデル	5425.64km <sup>2</sup>	R5年度整備済
	地形	県全域（静岡市、浜松市の都市計画区域、山間地を除く）※LOD3として整備	6010.33km <sup>2</sup>	R4年度整備済
LOD2	建築物	富士山周辺エリア（1,032棟）	km <sup>2</sup>	R4年度整備済

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	500以上	5-10千



■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）※赤字：R6補助対象地物				
LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD3	地形	県全域（静岡市、浜松市の都市計画区域、山間地を除く）	6010.33km <sup>2</sup>	R4年度整備済



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	数値地形図（DMデータ）（既存）	R2年度	2,500
測量成果	既存資料（航空レーザ）	R1～R3年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R3年度	—



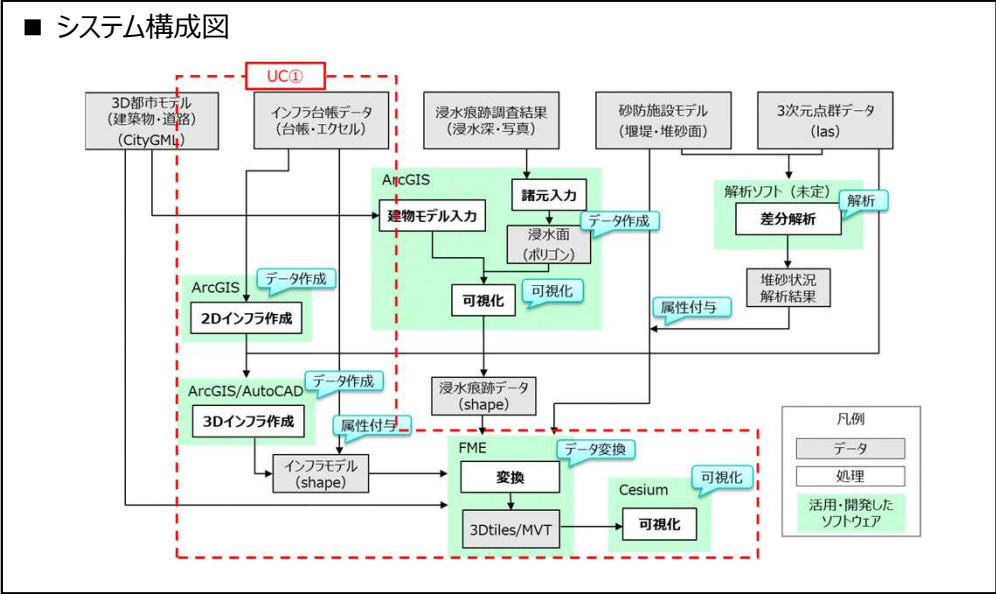
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

25.静岡県

■ ユースケース①概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	インフラ施設の施設台帳や点検台帳等と3次元仮想空間の統合によるマネジメントの効率化。
取組内容	3D都市モデルと道路、河川・海岸、砂防、港湾・漁港の各種施設の台帳や点検記録等の重ね合わせにより、一元的にデータを蓄積、確認ができる環境を構築することで、施設の維持管理の効率化や災害対応の迅速化を図る。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	500以上	5-10千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1</li><li>道路LOD1</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>インフラ台帳データ (施設情報 (施設名称、管理番号、施設の構造に関する情報、根拠法令による分類、図面))</li><li>3次元点群データ (座標情報 (地形))</li></ul>
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>県管理道路の台帳や点検記録等を収集し、路線やエリアごとに情報を整理。</li><li>インフラ施設モデルを作成し、整理した台帳等の情報や、位置情報を付与する。</li><li>3D都市モデルとインフラ施設モデルを3次元空間上で重ね合わせ、一元的にデータを蓄積、確認ができる環境を構築する。</li><li>インフラ施設の位置・構造等の確認、台帳情報の閲覧作業を3次元空間上で行うことで簡略化し、施設の維持管理の効率化を図る。</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>台帳を可視化して、施設の位置や構造等を迅速に把握できるようにし、県職員及び県民に公開する。</li><li>可視化した施設から簡易に台帳情報を閲覧することが可能となる。職員の業務効率向上や県民が管理機関まで来庁する手間が省ける。</li></ul>
オープンデータ化情報発信	東京都デジタルツイン3Dビューア (東京都と協定締結し共同運用) 上に掲載し、可視化インフラ施設の情報や災害リスクを蓄積・可視化し、業務に活用するほか、県民に対するサービス向上や防災意識の向上を図る

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
職員の現場確認等に要する時間削減 (時間)	1,348時間 (R6年度)	1,326時間 (R6年度)

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

25.静岡県

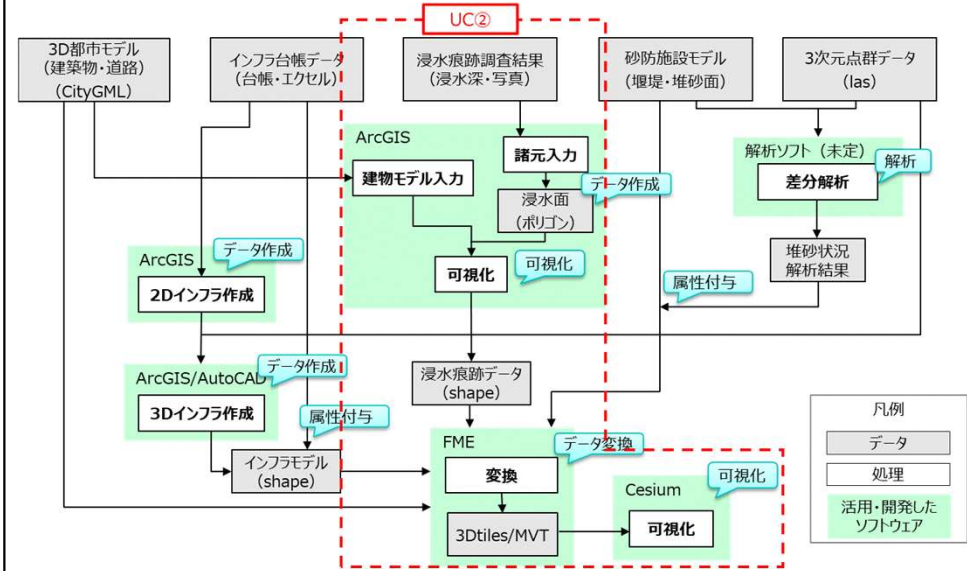
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	500以上	5-10千



■ ユースケース②概要

分野	防災・防犯
目的	発災後の速やかな被災状況把握・住民の防災意識の向上。
取組内容	水害発災後の浸水痕跡調査の結果を3D都市モデルと重ね合わせて可視化し、浸水被害の実態を状況を速やかに把握できるようにすることで、災害支援や早期の応急復旧につなげる。

■ システム構成図



■ ユースケース開発成果イメージ図



台帳の可視化

台帳を可視化して、施設の位置や構造等を迅速に把握できるようにし、県職員及び県民に公開する。



台帳情報の閲覧

可視化した施設の属性情報から簡易に台帳情報を閲覧することが可能となる。

■ 今後の展望

引き続き施設台帳の可視化を進めるとともに、可視化したデータの使用法や活用例などを操作研修等により職員へ周知し、業務に活用されるよう浸透を図る。  
また、3D都市モデル基本セット及び施設台帳情報をオープンデータ化し、WEB上で建物やハザード情報と施設台帳を一元的に確認できるようになったことを県民に対して広報していくことで、利用を促す。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

25.静岡県

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1</li><li>道路LOD1</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>浸水痕跡調査結果（浸水深、現場写真）</li><li>3次元点群データ（座標情報（地形））</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>浸水の調査結果等から、調査地点や時間ごとに、浸水深等必要なデータを抽出。</li><li>抽出したデータを基に浸水面のモデルを作成。</li><li>過年度整備済の3D都市モデルや地形データと、浸水面モデルを3次元空間上で重畳し可視化することで、浸水状況を面的に分析・把握する。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>災害状況を早期に把握することにより、災害支援や早期の応急復旧につなげるほか、次の災害に備えて対策が必要なインフラ施設の選定・優先順位付けを行い、災害対策を効率化する。</li><li>災害状況を蓄積、公開することで、県民の防災意識の向上を図る。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	東京都デジタルツイン3Dビューア（東京都と協定締結し共同運用）上に掲載し、可視化

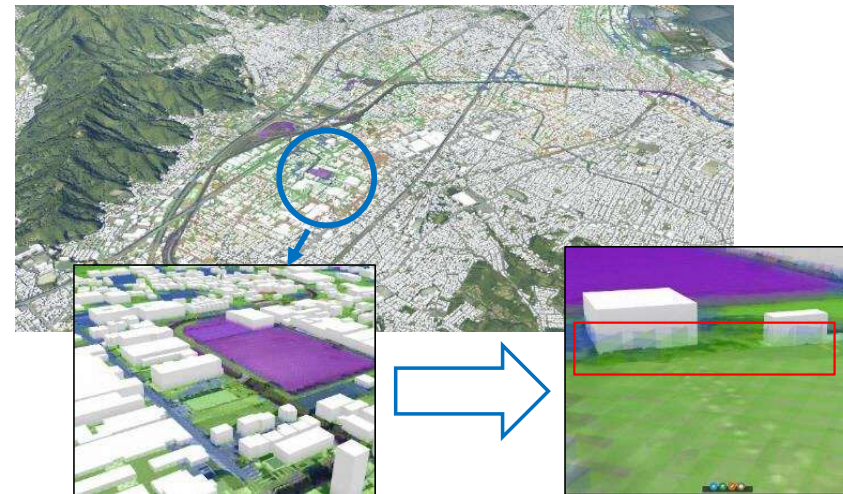
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
職員の現場確認等に要する時間削減（時間）	1,348時間 (R6年度)	1,326時間 (R6年度)
GIS閲覧数（単年度）（人）	16,000人 (R6年度)	16,116人 (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	500以上	5-10千



■ ユースケース開発成果イメージ図



浸水状況の可視化

浸水範囲や浸水深を可視化することで、災害状況を早期に把握する。

■ 今後の展望

同様の技術により、災害発生前のシミュレーションや、災害発生後の復興計画などへの展開も期待できることから、防災政策における活用を図っていく。



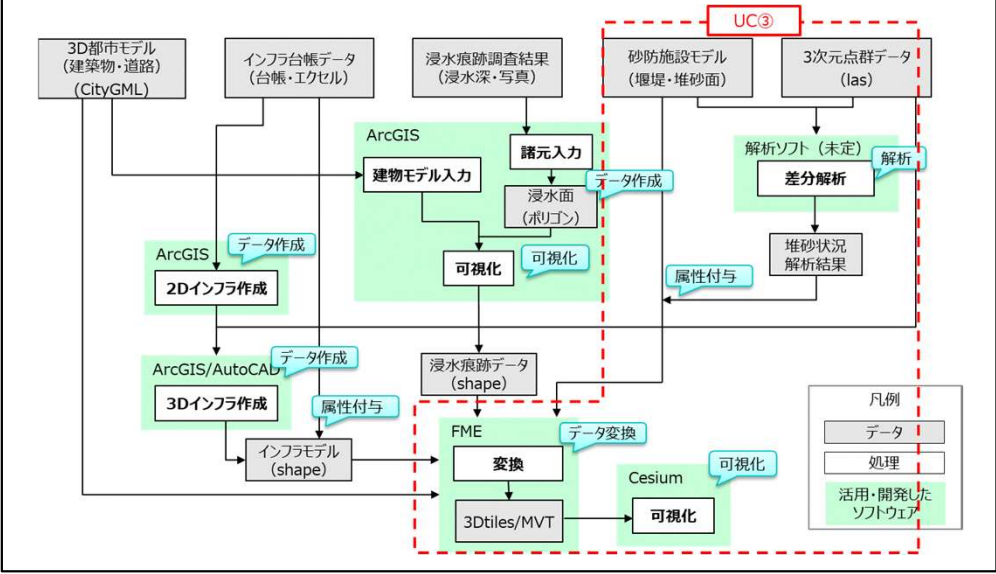
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

25.静岡県

■ ユースケース③概要

分野	防災・防犯
目的	堆砂状況の把握による砂防施設管理・災害対策の効率化。
取組内容	R4～5年度作成の地形データ及び砂防施設モデルを活用し、砂防施設の堆砂状況を分析、把握することで、除石等を要する砂防施設の選定・優先順位づけを行い、災害対策を効率化するほか、砂防施設モデルの属性情報として追加し、県民に公開することで防災意識の向上を図る。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	500以上	5-10千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1</li><li>道路LOD1</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>砂防施設モデル (座標情報 (堆砂面))</li><li>3次元点群データ (座標情報 (地形))</li></ul>
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>土砂災害や、経年による堆砂状況の調査結果から、最新の堆砂面データを作成。</li><li>過年度整備済の3D都市モデル、地形データや、砂防施設モデルを活用し、土砂災害や堆砂の状況を分析する。</li><li>3D都市モデルと砂防施設モデルや災害状況を3次元空間上で重ね合わせ、一元的にデータを蓄積し可視化する。</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>最新の堆砂状況を正確に把握することにより、次の災害に備えて対策が必要なインフラ施設の選定・優先順位付けを行い、災害対策を効率化する。</li><li>分析結果を砂防施設モデルの属性情報とするほか、砂防施設ごとに土砂災害の発生しやすさの評価を行い、ハザードマップ等に反映していくことで、県民の防災意識の向上を図る。</li></ul>
オープンデータ化情報発信	東京都デジタルツイン3Dビューア (東京都と協定締結し共同運用) 上に掲載し、可視化 インフラ施設の情報や災害リスクを蓄積・可視化し、業務に活用するほか、県民に対するサービス向上や防災意識の向上を図る

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
職員の現場確認等に要する時間削減 (時間)	1,348時間 (R6年度)	1,326時間 (R6年度)
GIS閲覧数 (単年度) (人)	16,000人 (R6年度)	16,116人 (R6年度)



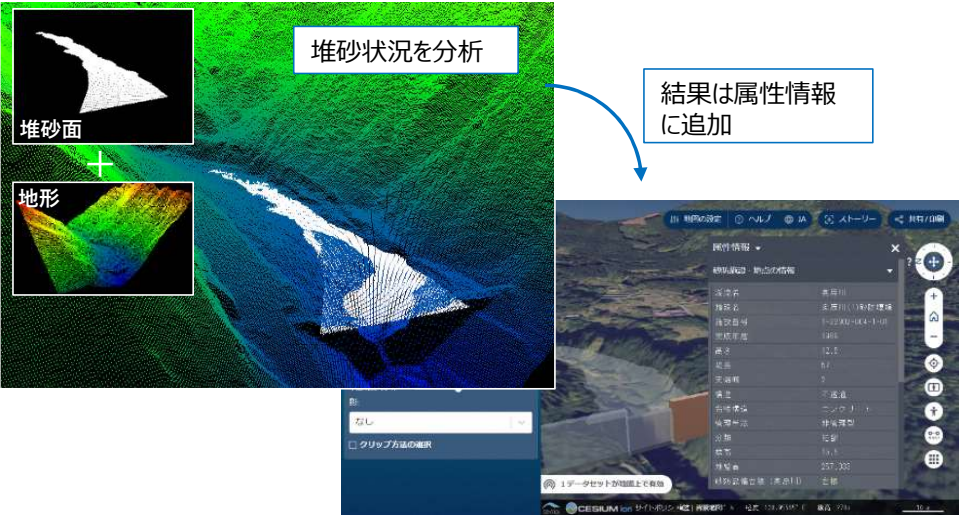
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

25.静岡県

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	500以上	5-10千



■ ユースケース開発成果イメージ図



堆砂状況の可視化

3次元データを活用した土砂災害状況の分析を実施し可視化する。

■ 今後の展望

本ユースケースは繰越により令和7年度も継続して事業を実施する。  
完了後は、把握できた堆砂状況を、ハード・ソフト両面での災害対策に活用していく。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 26.愛知県豊橋市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	367,142人（令和6年4月時点）
市域全域面積	262.00km <sup>2</sup> （令和6年4月時点）
主な産業 地域課題等	愛知県の東南端に位置し、東は静岡県、北は豊川市・新城市と接している。南は太平洋、西は三河湾に面し、温暖な気候に恵まれている。市の西部は三河港を擁する臨海工業地域、南部は渥美半島へと広がる農業地域、北部・東部は弓張山地を中心とした丘陵地域である。また、豊橋筆など古くからの地場産業もある。 豊橋駅を核としてさらに商業・業務・サービス機能を集積させ、その周辺では、都心居住者や市民の生活を支える生活商業機能を配置して都心居住を促進しています。同時に中心市街地のにぎわいの拠点と、それらをつなげる「通り（軸）」を、居心地が良く歩きたくなる空間になるよう、官民連携により積極的に進めている。
■ 令和6年度スケジュール	
<div><div>企画検討・事業者決定手続き</div><div>データ取得・整備・更新</div><div>ユースケース開発</div><div>政策・事業への活用</div><div>オープンデータ化・情報発信</div><div>主要マイルストーン</div></div> <div><div>4月</div><div>5月</div><div>6月</div><div>7月</div><div>8月</div><div>9月</div><div>10月</div><div>11月</div><div>12月</div><div>1月</div><div>2月</div><div>3月</div></div> <div><div>▲データ整備事業者決定（4/17）</div><div>▲ユースケース事業者決定（8/6）</div><div>▲データ整備完了（12/2） データ提出（2/26）▲</div><div>ユースケース開発完了（2/28）▲ ユースケースデータ提出（3/25）▲</div></div>	

分野

人口規模

面積規模

予算規模

街

15万以上

200－500

1－2千

担当部局

都市計画課

PLATEAU

by MLIT

■ 補助事業実施項目

目標	魅力にあふれ、いきいきとにぎわいあるまちの実現		
課題	<p>中心市街地では、老舗デパートの閉店などでまちの求心力低下が危ぶまれている。</p> <p>駅前再開発などを契機に、東三河の玄関口にふさわしい、にぎわいある中心市街地の形成を図る必要がある。</p>		
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデルを活用し、建物と日差しの動きなどからまちなかの熱環境を解析し、人の滞在データと重ね合わせることで、人流を分析し、歩行空間の快適性向上などまちなかのにぎわい創出にむけた取組みにつなげる。</li> <li>分析結果を地元商店街などと共有することで、店舗等での販売計画などへの活用などが考えられる。</li> </ul>		
事前調査等	—		
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデル整備（LOD2）</li> </ul>		
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱環境と人流データの可視化・分析事業</li> </ul>		
推進事業	—		
総事業費（予定）	4,879.6（万円） ※うちR6年度1,328.8（万円）		
R6年度補助額	664.4（万円）		
補助対象外の関連事業	—		
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ】</li> <li>PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ】</li> <li>豊橋市ホームページに掲載 【UCデータ】</li> </ul>		
R6年度委託事業者	国際航業株式会社（3D都市モデル整備事業（LOD 2）） 株式会社構造計画研究所（熱環境と人流データの可視化・分析事業）		



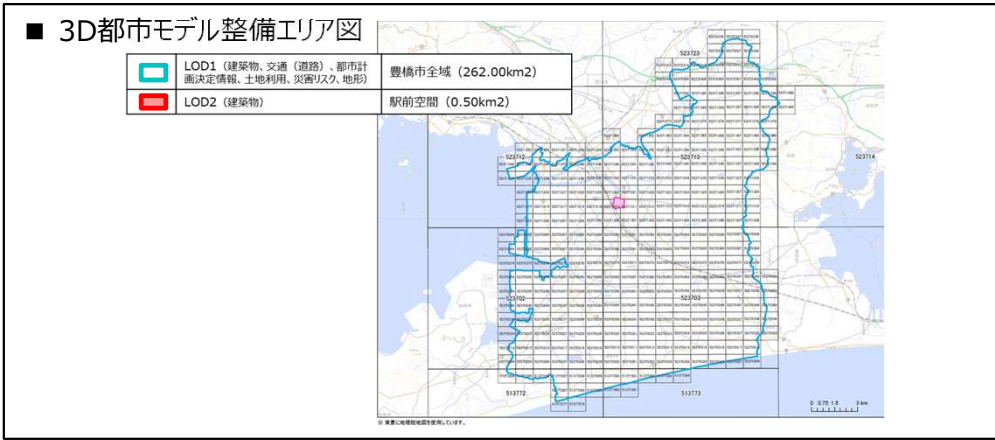
PLATEAU  
by MLIT

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 26.愛知県豊橋市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	豊橋市全域	262.00km <sup>2</sup>	R5年度整備済
LOD2	建築物	避難所等のランドマーク（25施設） 駅前空間	21.53km <sup>2</sup> 0.50km <sup>2</sup>	R5年度整備済 R6年度整備



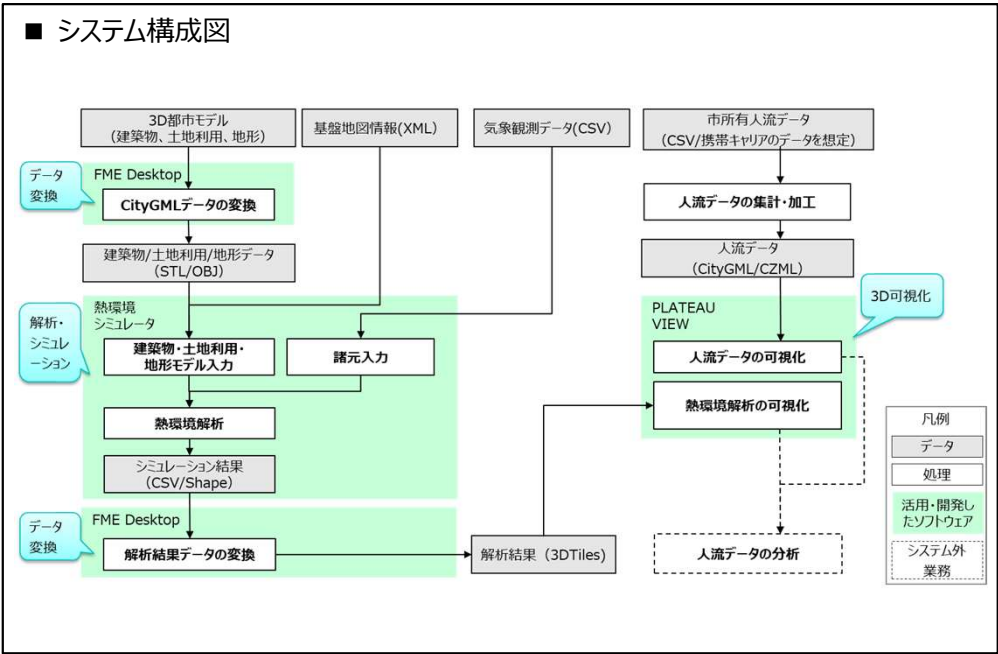
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R5年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R4年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（修正）	R5年度	2,500
	立地適正化計画	R5年度	2,500

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200-500	1-2千



■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	居心地が良く歩きたくなるまちなかを実現する
取組内容	3D都市モデルを活用し、建物と日差しの動きなどからまちなかの熱環境を解析し、人の滞在データと重ね合わせることで、人流を分析し、歩行空間の快適性向上などまちなかのにぎわい創出にむけた取組みにつなげる。





Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 26.愛知県豊橋市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1,LOD2 (用途、計測高さ)</li><li>土地利用 (土地利用区分)</li><li>地形LOD1 (TIN)</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>基盤地図情報 (水域(海)を示す面データとして水涯線を利用)</li><li>人流データ (歩行者の時間帯別通行量等のデータ)</li><li>気象観測データ (気温、湿度、風向・風速、日照時間)</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>対象区域の3D都市モデル及び気象観測データを入力データとして、豊橋市中心市街地における各季節 (熱ストレスが高いと想定される夏季・冬季等) の熱環境解析を実施する。<ul style="list-style-type: none"><li>熱環境解析の結果として、国際的に用いられる熱的快適性指標であるUTCIを計算し、算出されるUTCIと対応するストレスレベルにより熱ストレスの高低を評価する (※)。 ※参考文献: Peter Bröde et al. (2010), "The Universal Thermal Climate Index UTCI in Operational Use" (<a href="https://utci.org/resources/windsor_vers05.pdf">https://utci.org/resources/windsor_vers05.pdf</a>)</li><li>熱環境解析にあたっては、技術監修として豊橋技術科学大学と連携する。</li></ul></li><li>市が所有する人流データ等や3D都市モデル (土地利用) を用いて、各季節・各時間帯・各属性 (性年代等) の通行量、滞在人口等を解析・可視化する。</li><li>熱環境・人流の解析結果を組み合わせ、熱環境と人流の関係性 (相関の有無等) を解析する。解析結果を踏まえ、熱環境や人流改善に資する施策を検討し、効果を推算する。</li><li>熱環境解析結果及び人流解析結果は、国土交通省が提供する「PLATEAU VIEW」で動画として可視化可能なデータに変換し、3D都市モデルと重畳する。</li><li>本業務の成果を活用し、さらなるにぎわいの創出・回遊性の向上を目的としたイベントの実施企画等の取組みにつなげるとともに、市民やイベント主催者などと情報を共有する。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>熱環境・人流の解析結果を「PLATEAU VIEW」で可視化し、イベント企画の主催者等と共有することで、回遊性の高いイベント企画の検討等の賑わい創出の取組みにつなげる。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	ユースケース (熱環境解析) の動画を豊橋市ホームページに掲載

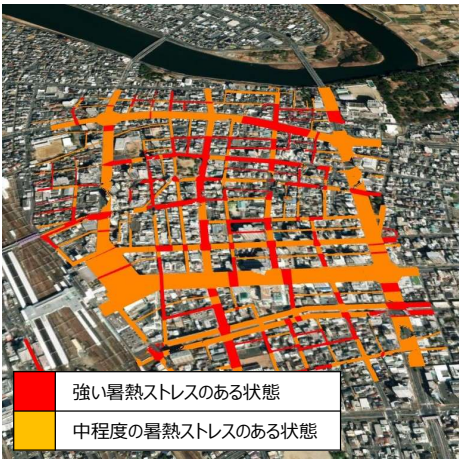
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
まちなかの熱環境や来街者の滞在状況、人流の分析結果を共有し、理解することで、効果的なイベント立案につながり、参加者が増加したと回答したイベント主催者の割合 (%)	80%以上 (R6年度)	80.9% (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200-500	1-2千



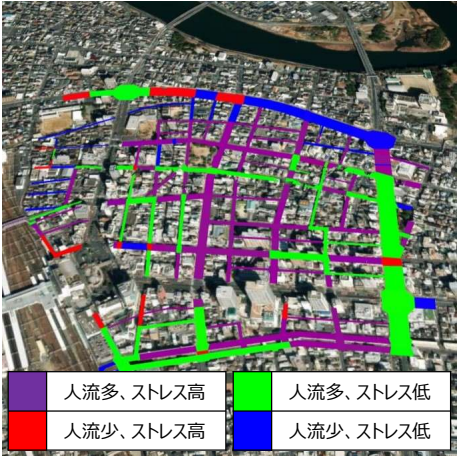
■ ユースケース開発成果イメージ図



熱環境解析の結果 (夏季)

夏季では全体的に暑熱ストレスのある状態となっていることがわかる。

赤: 強い暑熱ストレス、橙: 中程度の暑熱ストレス  
※暑熱ストレスの定義は左記「参考文献」を参照。



熱環境と人流の重畳結果 (夏季)

夏季では人流が多いものの熱ストレスのある街路が豊橋駅東側地区の中心部に多く見られる。

■ 今後の展望

昨年度整備したLOD1データおよび今年度整備した豊橋駅東側地区のLOD2データについて、大学や企業等への周知をすることでデータ活用を図る。  
また、今回実施した熱環境と人流データの可視化・分析結果を基にまちなかのにぎわい創出に向けた施策検討を進める。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

27.三重県四日市市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	約31万人（令和6年12月時点）
市域全域面積	206.50km <sup>2</sup> （令和5年6月時点）
主な産業 地域課題等	三重県の北部に位置し、人口は約31万人。東西交通の要衝に位置し、古くから東海道の宿場町であるとともに、港町として栄え、現在は我が国有数の産業都市として発展している。 近鉄四日市駅周辺の中心市街地では、官公庁施設、商業施設、オフィスなど都市機能が集積している。現在、中央通り周辺を中心として中心市街地再編に向けて取り組んでいる。



分野

人口規模

面積規模

予算規模

他

15万以上

200－500

1千未満

担当部局

文化課

PLATEAU

by MLIT

■ 補助事業実施項目

目標	東海地域をリードする西の中核都市に相応しい、多様な都市機能が集積し、人で賑わい、まちの魅力にあふれるまちづくりの推進。		
課題	リニア時代のスーパーメガリージョン形成による交流人口の拡大効果を活かした、中心市街地におけるデータを活用した憩いと賑わいづくりへの環境整備と魅力向上。 防災・減災に関する情報の確かつ迅速な提供や、全ての世代への効果的な防災教育など地域防災力の向上。 埋蔵文化財に関する情報の確かつ迅速な提供や、地下空間の3次元化による街づくり及びインフラ整備分野の事務の効率化や住民サービスの向上。		
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデルによって中心市街地をビジュアルに表現し、中央通りの再編計画案を重ね合わせ、多角的な視点から細部検討を行うとともに、住民への説明や関係者調整会議のツールとして活用する。また、別途計測する人流データ等を統合し、賑わい創出の検討や、中心市街地の再編に合わせたスマートシティ化に向けた取組みに活用する。</li> <li>市域全域を対象として、災害リスク情報の三次元表示を行いリスクを可視化する。また、立地適正化計画の防災指針の作成に向けた検討資料として庁内で活用する。</li> <li>3D都市モデル（市域全体LOD1）及び三次元化した埋蔵文化財データをビューア上に重ね合わせ、わかりやすく可視化するシステムを構築し、開発事前協議で活用する。</li> </ul>		
事前調査等	－		
3D都市モデル整備・更新	－		
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデルを活用した埋蔵文化財の可視化事業</li> </ul>		
推進事業	－		
総事業費（予定）	5,046（万円） ※うちR6年度726（万円）		
R6年度補助額	363（万円）		
補助対象外の関連事業	－		
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>G空間情報センターへの掲載</li> <li>PLATEAU VIEWへの掲載</li> <li>四日市市ホームページに掲載</li> </ul> <div> <div>【3D都市モデル／UCデータ／関連データ】</div> <div>【3D都市モデル／UCデータ／関連データ】</div> <div>【公開用ビューアのリンク】</div> </div>		
R6年度委託事業者	国際航業株式会社（3D都市モデルを活用した埋蔵文化財の可視化事業）		

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 27.三重県四日市市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	四日市市全域	206.50km <sup>2</sup>	R4年度整備済
LOD2	建築物	中央通りの沿道建物 [近鉄四日市駅～JR四日市駅]	0.28km <sup>2</sup>	R4年度整備済

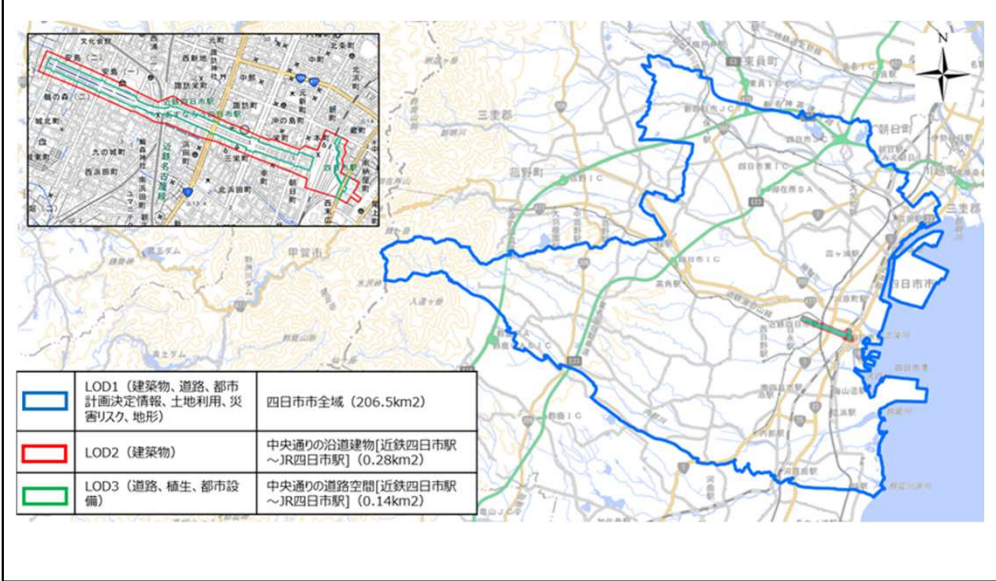
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD 3.2	交通（道路）	中央通りの道路空間 [近鉄四日市駅～JR四日市駅]	0.14km <sup>2</sup>	R4年度整備済
LOD 3.1	都市設備	中央通りの道路空間 [近鉄四日市駅～JR四日市駅]	0.14km <sup>2</sup>	R4年度整備済
LOD 3.0	植生	中央通りの道路空間 [近鉄四日市駅～JR四日市駅]	0.14km <sup>2</sup>	R4年度整備済

分野	人口規模	面積規模	予算規模
他	15万以上	200～500	1千未満



■ 3D都市モデル整備エリア図



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	数値地形図（DMデータ（修正）（建物））	R4年度	2,500
	数値地形図（DMデータ）（既存）（修正）（道路）	H29年度	1,000
測量成果	その他（車載写真レーザ測量）	R4年度	500
	既存資料（航空写真）	R2年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	H29年度	—

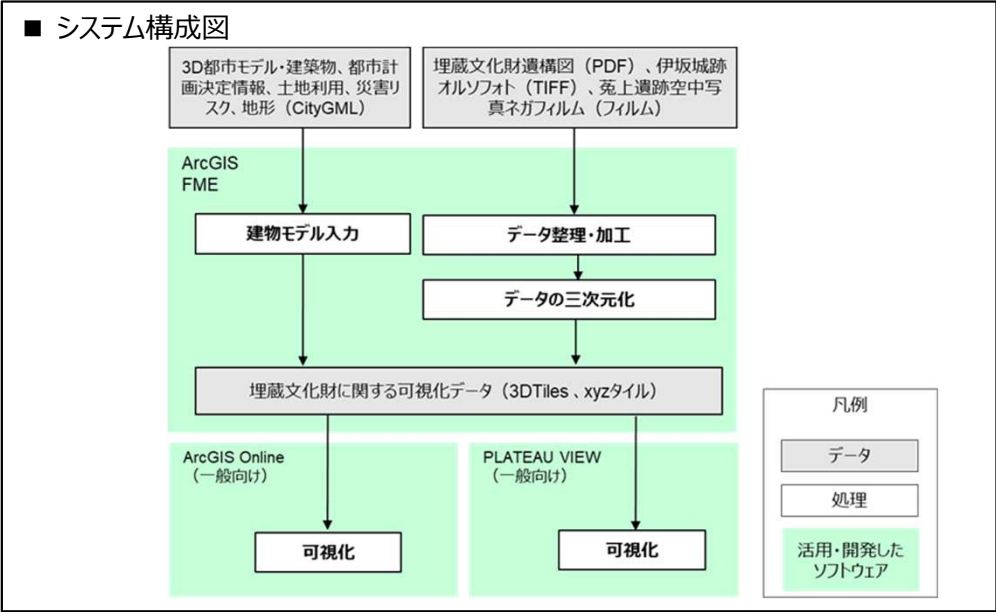
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

27.三重県四日市市

■ ユースケース概要

分野	その他
目的	埋蔵文化財に関する情報の確かつ迅速な提供や、地下空間の三次元データ化による街づくり及びインフラ整備分野の事務の効率化、住民サービスの向上
取組内容	3D都市モデル（市域全体LOD1）及び三次元化した埋蔵文化財データをビューア上に重ね合わせ、わかりやすく可視化するシステムを構築し、開発事前協議で活用する。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
他	15万以上	200-500	1千未満



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1（名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年）</li><li>都市計画決定情報LOD1（名称、分類、決定日、決定主体、公称面積、市区町村等）</li><li>土地利用LOD1（土地利用区分、都市計画区域、調査年等）</li><li>災害リスクLOD1（洪水浸水想定区域、津波浸水想定区域、高潮浸水想定区域、内水浸水想定区域、土砂災害警戒区域及び特別警戒区域）</li><li>地形LOD1（名称）</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>埋蔵文化財遺構図（遺構の形状、位置情報等）</li><li>伊坂城跡オルソフォトデータ</li><li>菟上遺跡空中写真ネガフィルム</li></ul>
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>四日市市内の遺跡（浜田城跡、四日市代官所跡）に関する二次元情報をもとに、付随する断面情報及び試掘トレンチから高さの情報を付与して、遺構三次元データを作成する。</li><li>遺跡発掘調査における空中写真撮影成果（ネガフィルム）を用いて、遺跡箇所のオルソフォトを作成する。オルソフォトが存在する遺跡は、既成のデータを利用する。</li><li>令和4年度に構築した3D都市モデルを用いて、（1）で作成した遺構の三次元データ及び遺跡のオルソフォトをビューア上に展開し、地下空間における埋蔵文化財の可視化を可能とする。</li><li>開発行為にかかる事前協議において、地下空間の三次元データ及び可視化環境を活用する。</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>3Dビューアによる埋蔵文化財情報をHPにて公開。</li><li>3Dビューアによる埋蔵文化財情報を開発事前協議に活用。</li></ul>
オープンデータ化情報発信	公開用ビューアのリンクを四日市市ホームページに掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
埋蔵文化財の可視化により、課員が事務の効率化が推進されたと感じる比率 (%)	50%以上 (R6年度)	83% (R6年度)

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 27.三重県四日市市

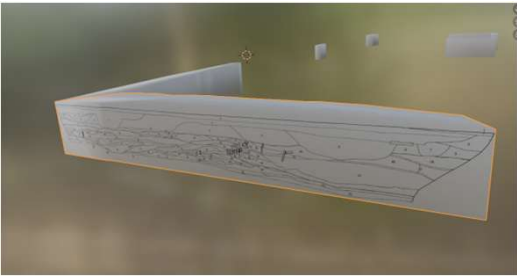
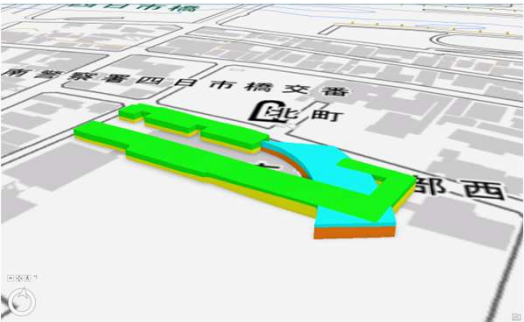
分野	人口規模	面積規模	予算規模
他	15万以上	200-500	1千未満



■ 今後の展望

今回は埋蔵文化財に関する情報の的確かつ迅速な提供や、地下空間のまちづくり及びインフラ整備分野の事務効率化、住民サービスの向上を目的としたが、今後は埋蔵文化財の普及・啓発にも活用したい

■ ユースケース開発成果イメージ図



遺構三次元データ

遺跡（浜田城跡、四日市代官所跡）に関する二次元情報をもとに、付随する断面情報及び試掘トレンチから高さの情報を付与して、遺構三次元データを作成

オルソフォトデータ

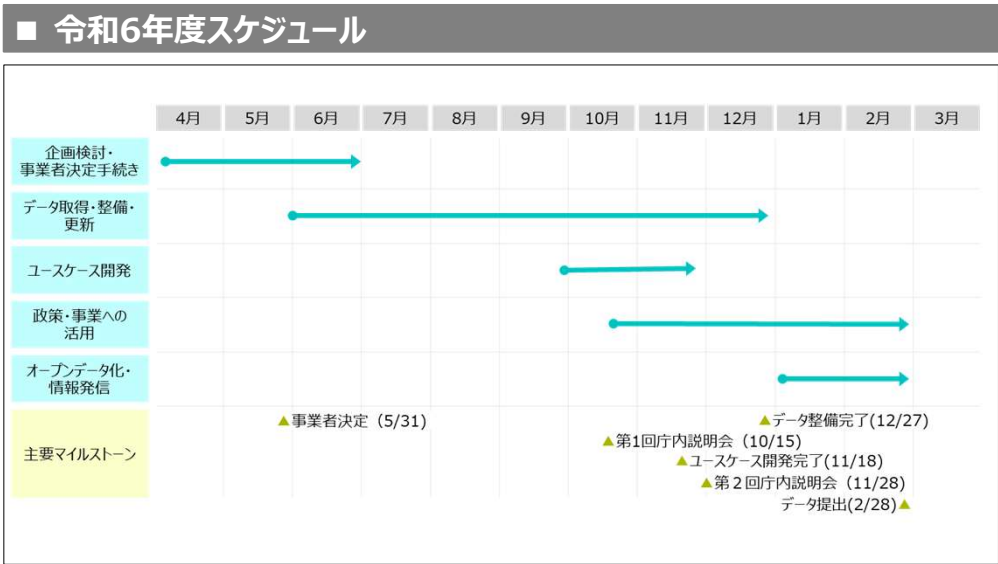
遺跡発掘調査における空中写真撮影成果（ネガフィルム）を用いて、遺跡箇所のオルソフォトを作成



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 28.三重県伊勢市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	118,960人（令和6年11月時点）
市域全域面積	208.37km <sup>2</sup> （令和6年4月時点）
主な産業 地域課題等	三重県南部に位置する地方都市。観光関連の産業をはじめ卸・小売業や製造業、建設業などが主な産業。 伊勢志摩国立公園の玄関口として清流宮川などの豊かな自然に恵まれるとともに、伊勢神宮を中心とした歴史や文化に富んだ名所・史跡も多く、地域資源にあふれたまち。 基本構想として、「私たちが担うまち」、「人と人とのつながりで活力と安心を感じられるまち」、「地域の誇りをつなぐまち」を3つの「まちづくりの基本理念」とし、「つながりが誇りと安らぎを育む 魅力創造都市 伊勢」を「まちの将来像」として掲げている。 人口減少、少子高齢化が進行し、持続可能なまちづくりにとって大きな課題となっている。



分野

人口規模

面積規模

予算規模

防

5－15万

200－500

1－2千

担当部局

都市計画課

■ 補助事業実施項目

目標	みんなで築く安心して暮らせるまち		
課題	南海トラフ地震や、気候変動による台風の大型化、局地的豪雨の増加などによる自然災害の脅威に対するわかりやすく正確な情報の提供や、市民一人ひとりの意識の向上が必要である。		
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>浸水想定区域図等を3D化し、災害リスクを可視化することで、地域住民の防災意識の向上を目指す。また、河川氾濫における時系列浸水シミュレーションを公開することで、市民の水害に対する意識や市職員の防災意識の向上、3D都市モデルの活用促進を目指す。</li> </ul>		
事前調査等	－		
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデル整備（LOD1,LOD2）</li> </ul>		
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデルを活用した水害リスクの可視化及び時系列浸水シミュレーション</li> <li>3D都市モデルのオープンデータサイトの構築</li> </ul>		
推進事業	3D都市モデルのオープンサイトの構築		
総事業費（予定）	1,260（万円） ※うちR6年度1,260（万円）		
R6年度補助執行額	1,000（万円）		
補助対象外の関連事業	－		
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ／関連データ】</li> <li>PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ／関連データ】</li> <li>伊勢市ホームページに搭載予定 【PLATEAU VIEWのリンク】</li> </ul>		
R6年度委託事業者	株式会社かんこう		

PLATEAU

by MLIT



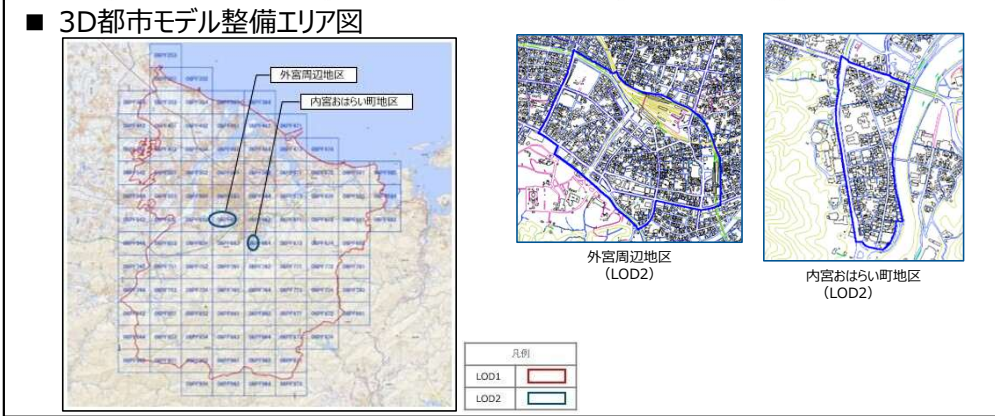
PLATEAU  
by MLIT

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 28.三重県伊勢市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 土地利用 災害リスク 地形	伊勢市全域	208.37km <sup>2</sup>	R6年度整備
	交通(道路)	伊勢市全域	208.37km <sup>2</sup> 、 約1,070km	R6年度整備
	都市計画決定情報	伊勢市都市計画区域	119.92km <sup>2</sup>	R6年度整備
LOD2	建築物	外宮周辺地区 内宮おはらい町地区	0.56km <sup>2</sup> 0.15km <sup>2</sup>	R6年度整備



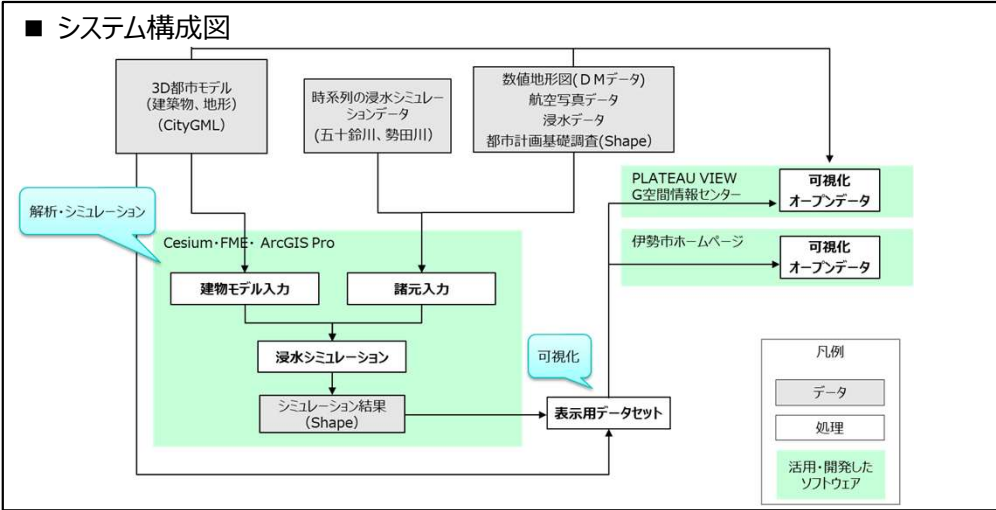
項目	活用したデータ（既存）	作成年度	地図情報レベル
平面図	数値地形図（DMデータ）	H29	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）、基盤地図情報	R5、H27	－
属性情報	都市計画基礎調査、都市計画決定図書、洪水浸水想定区域図 他	H30、R4、R1	－

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5－15万	200－500	1－2千



■ ユースケース概要

分野	防災・防犯
目的	水害リスクの可視化及び時系列浸水シミュレーションにより、市民の防災意識を高める
取組内容	伊勢市のハザードマップ状況・市の設定する避難施設・市の各種計画を搭載した3Dの防災用統合地図データを構築することで可視化を行う。 浸水想定区域図等を3D化し、災害リスクを可視化することで、地域住民の防災意識の向上を目指す。 可視化した情報を伊勢市の防災職員と共有し、今後の活用方法を検討する。 河川氾濫を想定し、勢田川、五十鈴川が氾濫した場合の時系列浸水シミュレーションを構築し任意地点の水害リスク（最大浸水深と洪水継続時間）の定量的表示を行うことにより地域住民の防災意識の向上を目指す。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 28.三重県伊勢市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1,LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ)</li><li>地形LOD1</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>浸水シミュレーションデータ (浸水ナビ)</li><li>国土数値情報 (避難所データ)</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>対象区域の3D都市モデルをソフトウェアで活用できるようにArcGISPro、FMEを活用して変換。</li><li>変換した3D都市モデルと浸水想定区域データをCesiumに重畳。</li><li>河川氾濫を想定し、3D都市モデルに搭載する各データと伊勢市を管内とする県、国の広域的データを活用することによりユースケース開発する。</li><li>想定ハザード及びシミュレーションケース (破堤点) 数、シミュレーション範囲等の条件について設定を行う。</li><li>既存の基盤地図情報 (数値標高モデル) を用いて、地形の起伏や開度及び傾斜等、地形の特徴を色で表現した微地形表現図を作成する。</li><li>ユースケース開発成果を各原典データを管理する市職員へ提示し、各課の事業の促進に3D都市モデル整備が活用できるかの理解度をアンケート調査し、その理解度を本業務のKPI とする。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>浸水想定は、ハザード範囲外の被害が想定される、勢田川及び五十鈴川の各1 点を破堤点と想定する。また、洪水浸水想定区域図における浸水深・流速データ等を用いて、破堤点別に10 分毎の按分計算を行い、時系列表示が可能となるシミュレーションデータを作成するものとする。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	市ホームページにPLATEAU VIEWのリンクを掲載予定

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
市職員への3D都市モデルの活用に向けた検討会におけるアンケートを実施 (防災意識の向上率) (%)	70% (R6年度)	76.9% (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5-15万	200-500	1-2千



■ ユースケース開発成果イメージ図



浸水シミュレーション (近景)

・五十鈴川河川氾濫による破堤点BP044の破堤から、約2時間後のおはらい町地区の浸水状況。



浸水シミュレーション (全景)

・五十鈴川河川氾濫時の浸水状況と避難場所の表示。

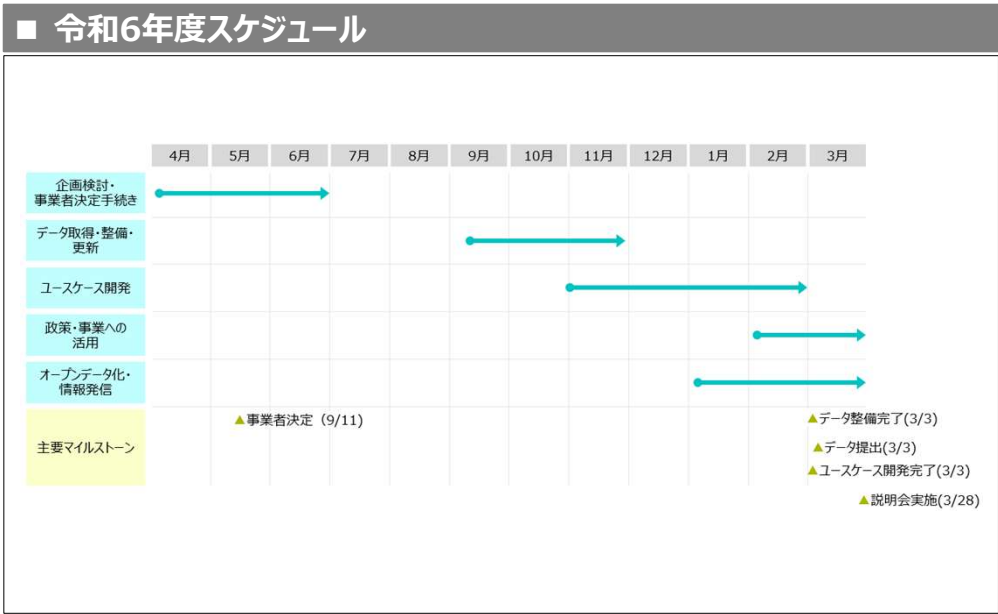
■ 今後の展望

今回は防災のユースケースにとどまっているが、今年度実施した市職員向けの3D都市モデルの説明会を機に、引き続き職員の3D都市モデルへの理解を促進するとともに、継続的な利活用シーンの発掘・実装を目指す。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 29. 滋賀県

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	0.5万人（令和5年8月時点）
市域全域面積	9.45km <sup>2</sup> （令和5年8月時点） ※長浜北部都市計画区域（旧虎姫町域）
主な産業 地域課題等	虎姫地区は、姉川、高時川という2つの大きな天井川の合流地点に位置し、昔から河川の氾濫と治水に先人たちが苦労した地域であるが、町の中心にＪＲ虎姫駅、西には国道8号が縦断するなど、日常生活には非常に便利な場所である。3D都市モデルを整備し、その上に各種災害リスク情報等の重ね合わせを実施することで、住民等とのリスクコミュニケーションに活用し、適切なリスクの評価とこれを踏まえた安全なまちづくりを推進する。



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	1-2千

担当部局	都市計画課
------	-------

■ 補助事業実施項目	
目標	自然災害に対応した都市で安全に暮らせる社会
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>災害リスクの適切な評価とこれを踏まえたまちづくりの推進</li><li>災害が発生した場合に安全性を確保するために必要な非常用発電設備や防災備蓄倉庫などの施設整備が必要</li><li>災害時の避難地となるオープンスペースの確保や密集市街地の改善が必要</li><li>河川整備等と防災まちづくりの総合的・重層的な取組による水災害に強いまちづくりの推進</li></ul>
創出価値	浸水リスクと建築物の3Dモデルを重ね合わせることで、水害リスクの見える化を通して、行政と住民等とのリスクコミュニケーションを図り、安全なまちづくりを推進する。

事前調査等	3D都市モデルの整備範囲や整備内容の検討
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備（LOD1, LOD2）
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
推進事業	—

総事業費（予定）	1,000（万円）
R6年度補助額	1,000（万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>G空間情報センターへの掲載</li><li>PLATEAU VIEWへの掲載</li><li>出前講座に活用</li></ul> <div>【3D都市モデル／関連データ】 【3D都市モデル／関連データ】 【3D都市モデル】</div>
-------------------	---

R6年度委託事業者	国際航業株式会社（3D都市モデル整備）
-----------	---------------------



PLATEAU  
by MLIT



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

29. 滋賀県

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	長浜北部都市計画区域 (旧虎姫町域)	9.45km <sup>2</sup>	R6年度整備
LOD2	建築物	避難所、公共施設(20棟)	—	R6年度整備



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	2.都市計画基本図(既存)	R4年度	500
測量成果	3.既存資料(航空写真)	R4年度	500
属性情報	1.都市計画基礎調査(既存)	R3年度	—

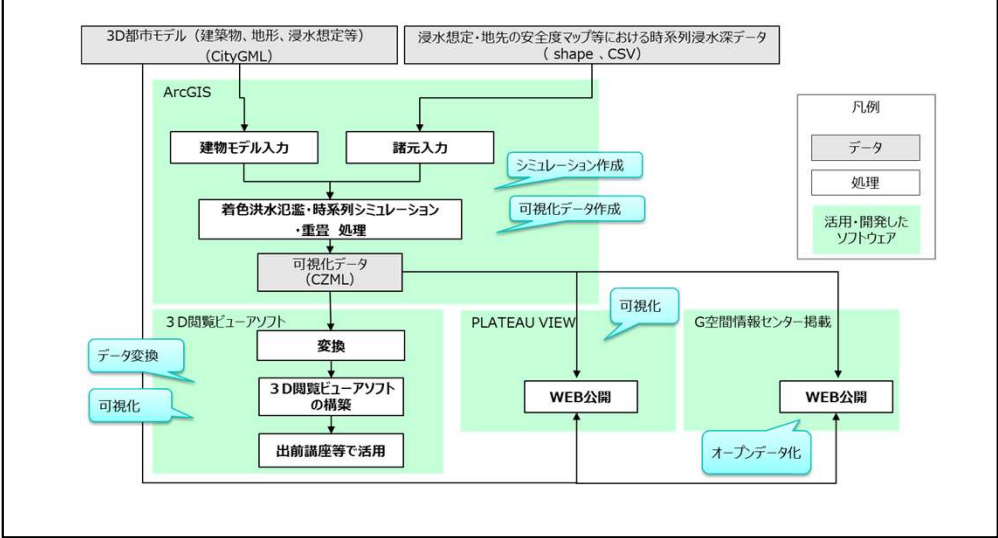
分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	1-2千



■ ユースケース概要

分野	防災・防犯
目的	浸水リスクと建築物の3D都市モデルを重ね合わせることで、水害リスクの見える化を通して、行政と住民等とのリスクコミュニケーションを図る。
取組内容	3D都市モデルを整備し、その上に各種災害リスク情報等の重ね合わせを実施する。滋賀県作成の「地先の安全度マップ」で公表しているデータを加え、より実現象に近いリスクの可視化を行う。出前講座等を活用し住民等とのリスクコミュニケーションに活用することで、適切なリスクの評価とこれを踏まえた安全なまちづくりを推進する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

29. 滋賀県

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1 (用途、種類、計測高さ)</li><li>建築物LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年)</li><li>都市計画決定情報LOD1 (区域名称の区域の範囲、区域の種類)</li><li>災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、起こりうる災害の内容)</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>浸水想定 (地先の安全度マップ) (内外水統合水理モデル (最大浸水深図200年確率、100年確率、10年確率) )</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>「洪水浸水想定区域」や「地先の安全度マップの最大浸水深図」等の既存の時系列浸水深データを用いて、河川や水路等から氾濫状況の時系列3D浸水深データを作成する。</li><li>シミュレーションを行う破堤点の設定ならびに浸水時間設定等については、既存浸水想定シミュレーションデータから流下能力の低い横断を抽出し設定する。</li><li>時系列浸水シミュレーションデータに高さを与え、3D都市モデルとの重畳による3D可視化を行い、3D都市モデルの成果を閲覧するための3D閲覧ビューアソフト (SonicWeb-3DViewer) の構築を行う。</li><li>出前講座等を活用し住民等とのリスクコミュニケーションに活用することで、適切なリスクの評価とこれを踏まえた安全なまちづくりを推進する。</li><li>各主体の防災意識の向上や事前の避難計画の取り決めが重要であることから、災害や避難に関する情報をわかりやすく的確に伝える。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>滋賀県作成の「地先の安全度マップ」で公表しているデータを加えることで、より実現象に近いリスクの可視化を行う。</li><li>浸水リスクと建築物の3Dモデルを重ね合わせることで、水害リスクの見える化を通して、行政と住民等とのリスクコミュニケーションを図る。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	3D閲覧ビューアソフトによる3D都市モデルを出前講座に活用

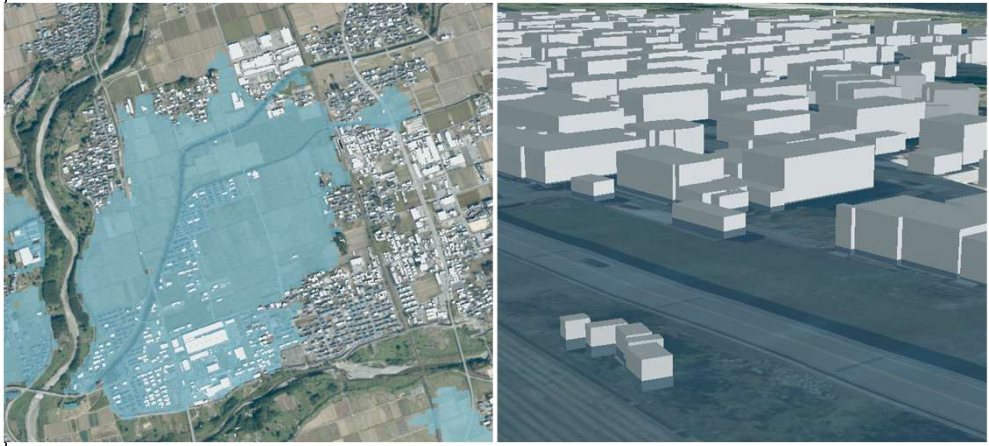
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルによる浸水リスクの見える化により、イメージが湧き、わかりやすくなったと感じる人の割合 (%)	50% (R8年度)	R8年度計測予定
県内の3D都市モデル整備の取組状況 (都市)	1都市 (R6年度)	1都市 (R6年度)
庁内の各部署で3D都市モデルの活用の可能性について、有用と感じた職員の割合 (%)	50% (R6年度)	100% (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	1-2千



■ ユースケース開発成果イメージ図



姉川・高時川の洪水浸水想定区域の  
時系列浸水シミュレーション  
各河川の想定破堤箇所における時系列  
ごとの浸水想定区域を3次元で表現。

地先の安全度マップ (200年確率)  
の時系列シミュレーション  
滋賀県作成の「地先の安全度マップ」の  
内外水統合水理モデルを展開。

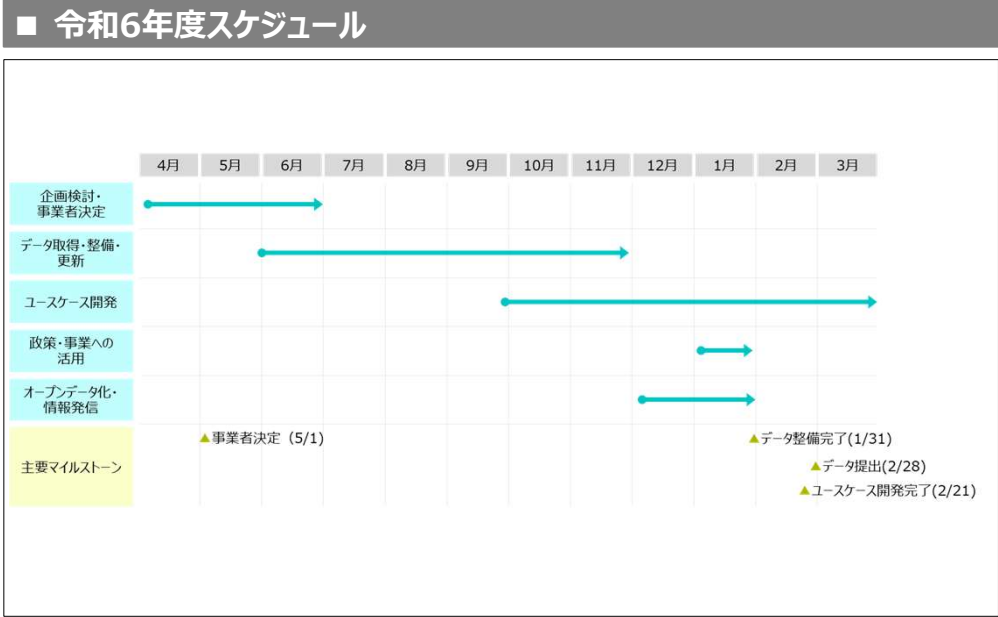
■ 今後の展望

作成したシミュレーション成果を、出前講座・住民説明会等を通して住民等とのリスクコミュニケーションに活用、防災意識向上を図る。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

30. 京都府京都市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	約146万人（令和2年10月時点）
市域全域面積	約827.83km <sup>2</sup> （令和6年12月時点）
主な産業 地域課題等	京都府南部に位置し、市街地の三方を山々に囲まれ、1200年を超える歴史と文化を有する歴史都市。 悠久の歴史とわが国を代表する洗練された文化が育まれ、寺社や京町家などの歴史資産と、低層高密の町並みが数多く市内に残る。 政策・課題は、オーバーツーリズム対策、人口減少対策、脱炭素型・循環型の都市づくり など



分野

人口規模

面積規模

予算規模

街

15万以上

500以上

3-5千

担当部局

都市計画局 まち再生・創造推進室

PLATEAU

by MLIT

■ 補助事業実施項目

目標	まちづくりのデジタルトランスフォーメーションの推進		
課題	行政の有する多様なデータのオープン化を推進 行政・民間における活用を推進		
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデルをはじめとする多様なデータのオープン化及び活用促進によりD Xにつながるユースケースを発掘することで、まちづくりの進展や多様なサービス・エンターテインメントが生み出され、市民の生活が豊かになる。</li> </ul>		
事前調査等	-		
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市計画基本図更新</li> <li>都市計画基礎調査</li> <li>3D都市モデル整備（LOD1）</li> </ul>		
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデル活用推進プラットフォーム整備</li> </ul>		
推進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデル等のオープンデータ活用普及啓発イベントの開催</li> </ul>		
総事業費（予定）	11,180（万円） ※うちR6年度3,680（万円）		
R6年度補助額	1,840（万円）		
補助対象外の関連事業	PLATEAUを用いた歴史都市京都の過去・現在・未来の景観復原		
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>G空間情報センターへの掲載</li> <li>PLATEAU VIEWへの掲載</li> <li>京都市オープンデータサイトに掲載</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【3D都市モデル】</li> <li>【3D都市モデル】</li> <li>【3D都市モデル／その他オープンデータ化可能なデータ】</li> </ul>	
R6年度委託事業者	株式会社パスコ（3D都市モデルの整備・更新） 株式会社角川アスキー総合研究所 （3D都市モデル等のオープンデータ活用普及啓発イベントの開催）		



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

30.京都府京都市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	市街化区域を中心とした範囲 都市計画基本図更新範囲 都市計画基本図更新範囲外	185.00km <sup>2</sup> 30.00km <sup>2</sup> 155.00km <sup>2</sup>	R4年度整備済 R6年度整備 R6年度整備
	交通(道路)	市街化区域を中心とした範囲 都市計画基本図更新範囲	185.00km <sup>2</sup> 30.00km <sup>2</sup>	R4年度整備済 R6年度整備
	都市計画 決定情報	市街化区域を中心とした範囲 市街化区域を中心とした範囲	185.00km <sup>2</sup> 185.00km <sup>2</sup>	R4年度整備済 R6年度整備
	土地利用	都市計画基本図更新範囲	30.00km <sup>2</sup>	R6年度整備
	災害リスク 地形	市街化区域を中心とした範囲	185.00km <sup>2</sup>	R4年度整備済
LOD2	建築物	都心部の景観地区の一部及び 景観保全地区15箇所	24.24km <sup>2</sup>	R4年度整備済

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD3	建築物 交通(道路) 都市設備 植栽 橋梁	先斗町・祇園新橋地域	0.097km <sup>2</sup>	R5年度整備済

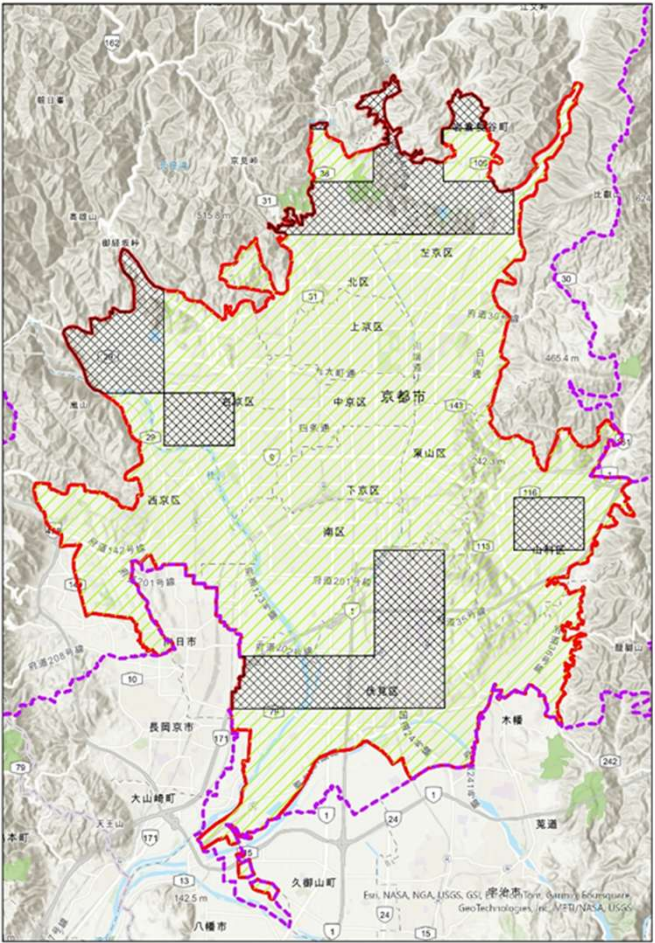
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R6年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R5年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（修正）	R6年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	3-5千



■ 3D都市モデル整備エリア図

LOD1 (建築物（属性情報のみ）、 都市計画決定情報、 土地利用)  市街化区域に囲まれた範囲 (185km <sup>2</sup> )
LOD1（建築物、 交通（道路）、 都市計画決定情報、 土地利用、 災害リスク、 地形)  都市計画基本図修正範囲 (30km <sup>2</sup> )

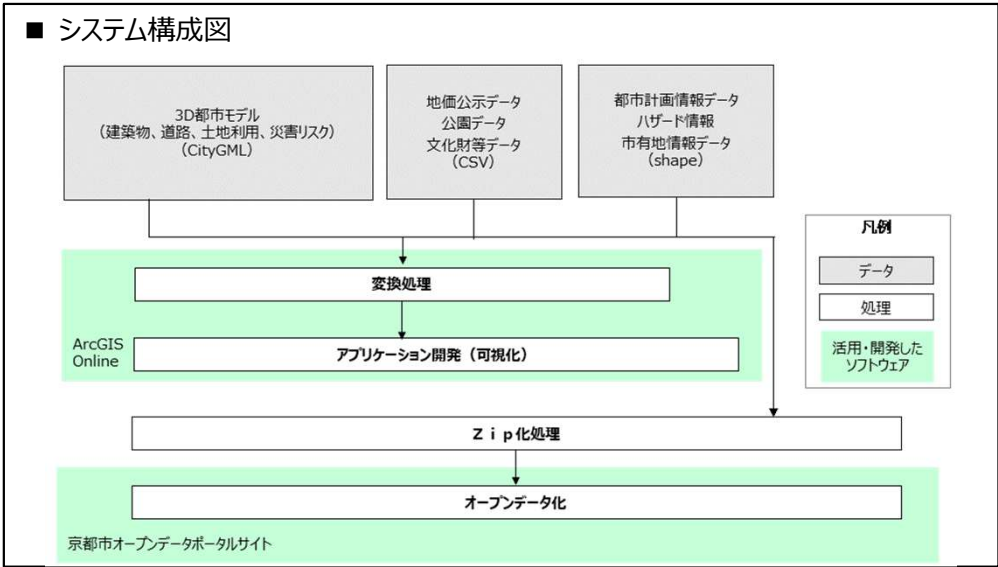




Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 30.京都府京都市

■ ユースケース概要	
分野	都市計画・まちづくり
目的	3D都市モデルをはじめとする多様なデータのオープン化によりDXにつながるユースケースを発掘することで、まちづくりの進展や多様なサービス・エンターテインメントが生み出され、市民の生活が豊かになる。
取組内容	3D都市モデルをはじめとする多様な情報をwebサイト上に一括で公開し、3D都市モデルの普及啓発及びユースケースの発掘につなげる。



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	3-5千



■ ユースケース開発方法	
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1 (用途、計測高さ、地上階数、建築年、床面積、構造)</li><li>建築物LOD2, LOD3 (計測高さ)</li><li>土地利用LOD1 (用途、面積)</li><li>災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、起こりうる災害の内容)</li><li>都市計画情報LOD1 (用途地域、高度地区)</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>地価公示データ (公示価格)</li><li>公園データ (公園名、所在地、種別、開園面積)</li><li>市有地情報データ (所在地、面積)</li></ul>
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>多様な行政情報等の中から、3D都市モデルを重畳することが、有用であるかや情報更新の容易性について検討を行い公開データを決定する。併せて、目的達成に向けた効果的なアプリケーションの設計を実施する。</li><li>上記で決定した公開データを収集し、オープンデータ化が可能な形で編集作業 (位置情報付与・個人情報削除等) を行う。</li><li>ArcGISのツールを活用しアプリケーションを開発、順次公開するとともに、本市オープンデータサイトに公開データを掲載する。</li><li>開発アプリケーションの閲覧数及びオープンデータのダウンロード件数をモニタリングし、反響を捉え、普及啓発効果を把握し、PDCAサイクルを回す。</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルと上述する活用データを重畳するアプリケーションを公開し、3D都市モデルの普及啓発及び活用を推進する。</li></ul>
オープンデータ化情報発信	3D都市モデルやその他オープンデータ化可能なデータを京都市オープンデータサイトに掲載

■ KPI		
KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルをはじめとする多様な情報の発信サイトの閲覧数 (PV)	5,000PV (R6年度)	5,384PV (R6年度)
本市オープンデータサイトにおける3D都市モデルデータのダウンロード件数 (回)	120回 (R6年度)	199回 (R6年度)
行政・民間によるユースケースが開発された件数 (件)	10件 (R6年度)	6件 (R6年度)
KPI未達を受けての今後の対応	年度末に公開予定の3D都市モデル公式サイト等 (京都市ホームページ上に開設予定) を活用した積極的な情報発信によりユースケース創出を図る。	

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 30.京都府京都市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	3-5千



■ ユースケース開発成果イメージ図

○活用市有地検索アプリ

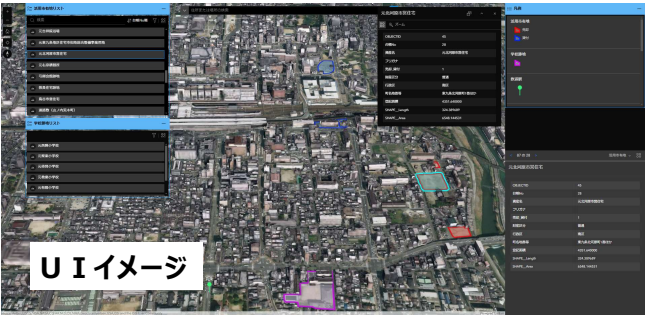
3D都市モデルと本市が活用を推進する市有地を重畳することで現地の状況を把握することを可能としたアプリケーション

リスト検索や条件によるフィルタリング機能により希望条件に該当する市有地を抽出可能とすることで、市有地の活用を後押しする。

○3D都市モデル等ビューアー

本市の3D都市モデルと多様な情報を重畳したビューアーを公開  
3D都市モデルの認知度を向上させ、活用の推進を図る。

建物モデル (LOD3)  
+ 都市計画情報 (用途地域)



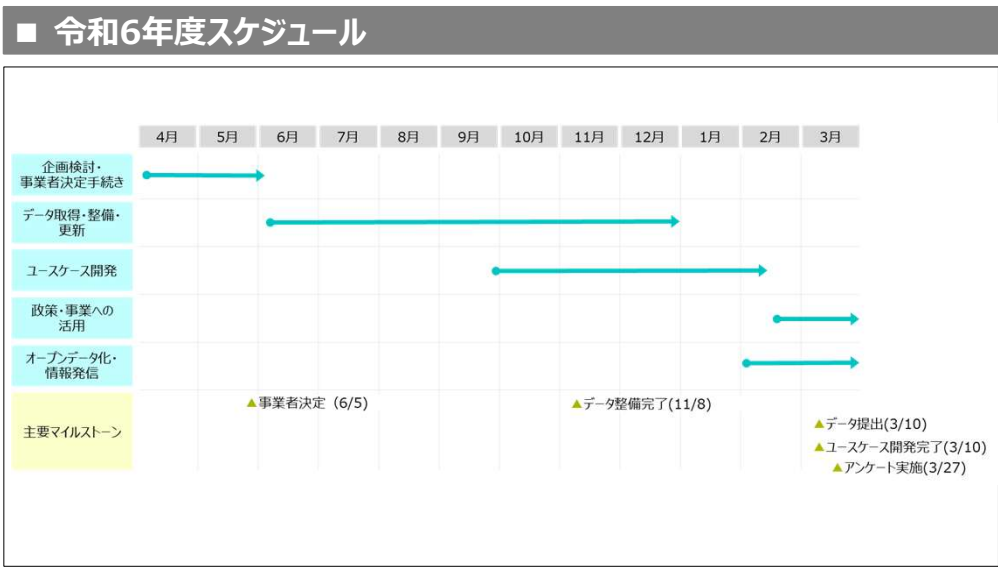
■ 今後の展望

引き続き、3D都市モデルと重畳可能な情報の検討を行い、収集のうえ順次公開することで、3D都市モデルの普及啓発及び活用を推進する。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 31.大阪府大阪市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	279万人（令和6年10月時点）
市域全域面積	225.33km <sup>2</sup> （令和5年4月時点）
主な産業 地域課題等	<p>市内中心部（うめきた、淀屋橋、本町、心斎橋、大阪城公園周辺など）は業務ビルが立ち並んでおり、業務部門からのCO<sub>2</sub>排出量が多く、その削減が求められている。</p> <p>他都市からの転入や外国人住民の増加により、H12年以降、人口増加傾向が続いてきたが、一方で、少子高齢化が着実に進行しており、今後人口減少に転じることが見込まれている。また、大阪市民の世帯所得は低所得者層が多い状況であり、特に、全国平均に比して子どもの貧困率が高い状況である。</p> <p>大都市である特性上、少人数世帯・高齢単身世帯の増加やマンションの増加といった地域コミュニティの多様化、人と人の繋がりの希薄化が一段と進んでいる。</p>



分野

人口規模

面積規模

予算規模

環

15万以上

200－500

3－5千

担当部局

環境施策課

■ 補助事業実施項目

目標	2050年カーボンニュートラルに向けたCO <sub>2</sub> 排出量の削減
課題	CO <sub>2</sub> 排出量の削減目標達成のために、オフィスなど業務用ビルにおいて、さらなる取組が求められている。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデル（LOD2）を活用し、CO<sub>2</sub>削減の効果的な対策についての道筋を可視化することで、更なる事業者の取組が期待される。</li> </ul>
事前調査等	実施計画書の作成、オフィスビルのエネルギー消費に係る基礎調査、シミュレーションの精緻化につながるデータ収集、オフィスビルDB構築
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備範囲の決定、3D地図の整備、整備データの精度検証</li> </ul>
ユースケース開発	業務ビルにおけるCO <sub>2</sub> 削減シミュレーション
推進事業	ユースケースに関する公開データの整備、既存3D都市モデルのバージョンアップ
総事業費（予定）	4,955.5（万円）
R6年度補助額	2,477（万円）
補助対象外の関連事業	—
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル／UCデータ／関連データ】</li> <li>PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル／UCデータ／関連データ】</li> <li>シミュレーションのデータ詳細や結果の解説等【UCデータ】</li> </ul>
R6年度委託事業者	アジア航測・エックス都市研究所共同体（大阪市脱炭素推進検討調査）（事前調査、3D都市モデルの整備・更新事業、3D都市モデルの活用（ユースケース開発）事業、3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を推進するための事業）

PLATEAU

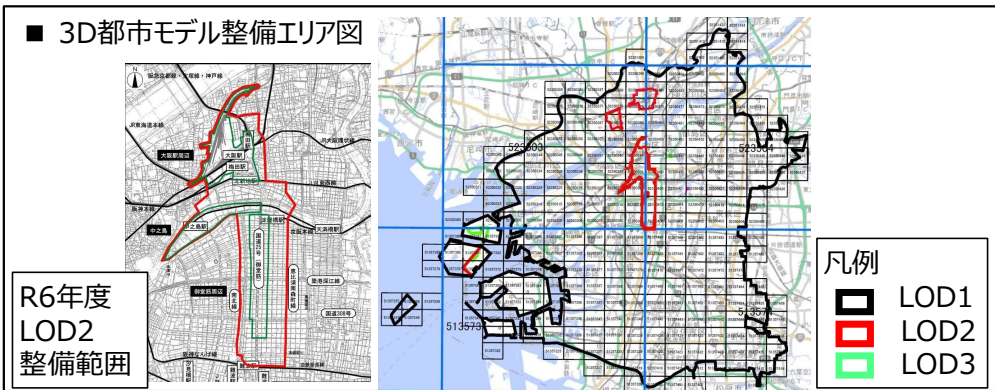
by MLIT

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 31.大阪府大阪市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 土地利用 地形	市内全域	225.3km <sup>2</sup>	R2年度整備済
	交通(道路)	市内全域 市内全域	225.3km <sup>2</sup> 225.3km <sup>2</sup>	R2年度整備済 R4年度整備済
	都市計画決定情報 災害リスク	市内全域	225.3km <sup>2</sup>	R4年度整備済
LOD2	建築物	中心市街地 南港北・舞洲付近 本町・天満 新大阪エリア、十三エリア	5.00km <sup>2</sup> 3.29km <sup>2</sup> 0.038km <sup>2</sup> 1.91km <sup>2</sup>	R6年度整備 R4年度整備済 R4年度整備済 R2年度整備済



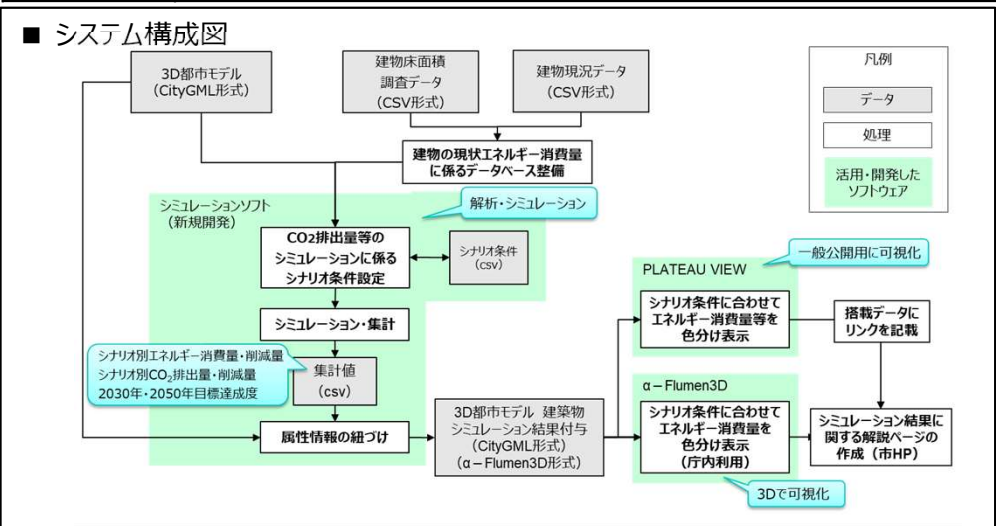
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R2年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R5年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R2年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
環	15万以上	200-500	3-5千



■ ユースケース概要

分野	環境・エネルギー
目的	CO <sub>2</sub> 削減シミュレーションの実施
取組内容	2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロとする脱炭素社会「ゼロカーボンおおさか」の実現を長期目標に掲げ、2030年度までに温室効果ガス排出量を50%削減（2013年度比）することをめざし、取り組んでいる。 CO <sub>2</sub> 排出量は他地域に比べて業務部門の割合が大きく、オフィスのCO <sub>2</sub> 削減が目標達成に向けて必要不可欠であり、3D都市モデル上で、オフィスのCO <sub>2</sub> 排出量やCO <sub>2</sub> 削減効果等の実態を明らかにし、CO <sub>2</sub> 削減に関わる取組の可視化により、事業者のCO <sub>2</sub> 削減の取組推進につなげる。
実施体制	大阪市脱炭素推進検討調査 アジア航測・エックス都市研究所共同体 アジア航測株式会社 [シミュレーションアプリ開発、シミュレーション実行] 株式会社エックス都市研究所 [施策実施シナリオに関するパラメータの設定、結果の考察・妥当性確認]





Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 31.大阪府大阪市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	・ 建築物LOD1、LOD2（名称、区分、用途、図形面積、構造種別、構造種別(独自)、建物利用現況(詳細分類))
活用データ (上記以外)	・ 建物床面積調査データ（所在地、建築年、構造、用途区分） ・ 建物現況データ（所在地、構造、主用途）
ユースケース 開発方法	・ BAU（現状推移）シナリオ・CN（対策実施）シナリオ分析結果を操作性、実践性等の向上の観点からさらに集約をし、パラメータを設定する。 ・ 各種対策メニューと将来予測時期を設定することにより、エネルギー消費削減効果やCO <sub>2</sub> 排出量・削減量を算出し、可視化できるアプリを構築する。 ・ シミュレーションで得られた街区単位の集計結果に対して当該街区内に含まれる個々のオフィスの用途、規模、太陽光パネルの設置可能面積等について確認し、シミュレーション結果と比較することで結果の妥当性について確認する。
政策・事業での 活用	・ 街区単位でのCO <sub>2</sub> 削減効果等の3D可視化に加え、市全域を対象とした250mメッシュ単位でのCO <sub>2</sub> 削減効果の算出・地図化を可能とすることで、業務ビル所有者やその他さまざまな関係者にむけて、将来のシミュレーション結果を分かりやすく発信する。 ・ 「大阪市環境基本計画」の改定等において検討資料として活用する。
オープンデータ化 情報発信	シミュレーションのデータ詳細や結果の解説等を大阪市ホームページに掲載

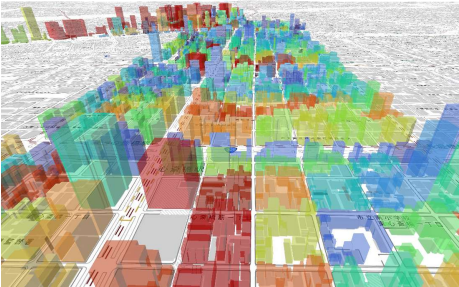
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
業務ビルオーナーがシミュレーション結果により対策の必要性を検討したいと考えた割合（アンケート調査）（％）	30% (R6年度)	87% (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
環	15万以上	200-500	3-5千



■ ユースケース開発成果イメージ図



シミュレーションアプリ

建替えや省エネ機器への改修等の条件を設定することで、設定年のCO<sub>2</sub>削減量等を計算できるアプリを作成

CO<sub>2</sub>排出量を街区别に色分けしたシミュレーション結果の3Dデータ化

アプリの解析結果を地図データとして可視化

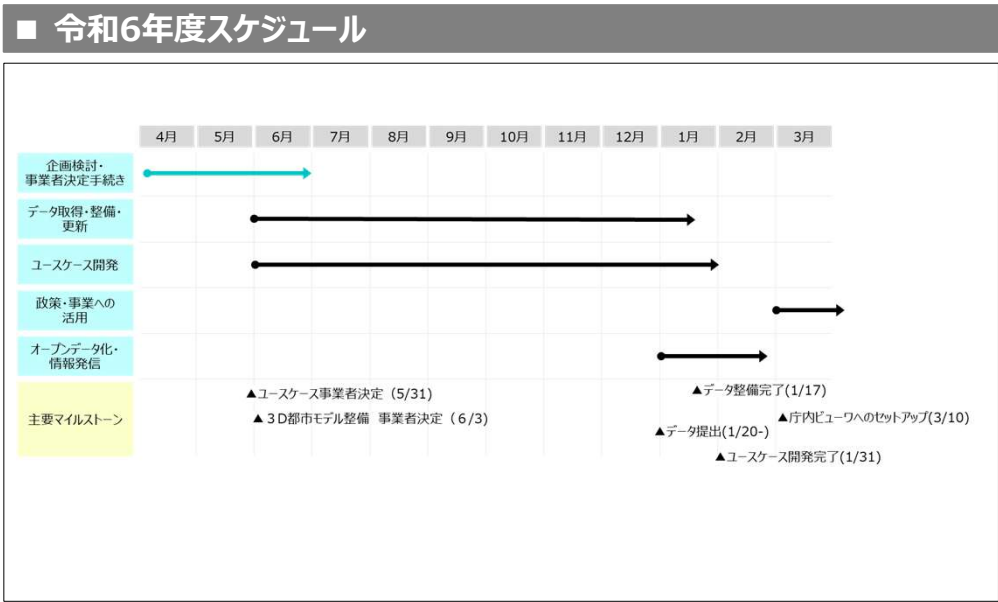
■ 今後の展望

今回作成したユースケースを使い、脱炭素へむけた道筋を広く発信していくことで、事業者の理解向上、脱炭素への取組促進に繋げていくほか、今後実施する施策への基礎資料として活用する。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

32.大阪府堺市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	約81万人（令和6年4月時点）
市域全域面積	149.82km <sup>2</sup> （令和6年4月時点）
主な産業 地域課題等	大阪府中央部のやや南よりに位置する政令指定都市。全国でも屈指の産業集積を有し、都市の核となる拠点を中心に都市機能を集約し、鉄軌道網・道路網などの都市軸で拠点間を連携する、多軸多核型の都市構造を形成している。 平野部及び丘陵部の泉北ニュータウンに市街地が広がり、臨海部は工場地が主となっている。南部には山林が広がり、河川やため池を水源とした田畑が南部から中央部、東部にかけて広がる。



分野

人口規模

面積規模

予算規模

他

15万以上

100－200

2－3千

担当部局

建築都市局 都市計画部 都市計画課

建築都市局 開発調整部 宅地安全課

PLATEAU

by MLIT

■ 補助事業実施項目

目標	盛土規制法運用開始に伴う業務量増加に対応する効率化
課題	盛土規制法（宅地造成及び特定盛土等規制法）の運用が開始され、規制区域の範囲と対象が拡大するため、職員の業務量が増加する。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>時点の異なる地形モデルを重ねし、3D都市モデルで差分を可視化することで、地盤変位がある区域と現地調査区域を判別し、未確認のエリアを明示することで調査計画を効率化する。</li> <li>現地で取得した盛土等の点群データと盛土規制法に基づく基礎調査等の確認事項を3D都市モデルを活用したデジタル空間で一元管理し、庁内外の職員と共有することで業務の効率化を行う。また、基礎調査のカルテ及び一覧表で出力することも同システムで可能とする。</li> </ul>

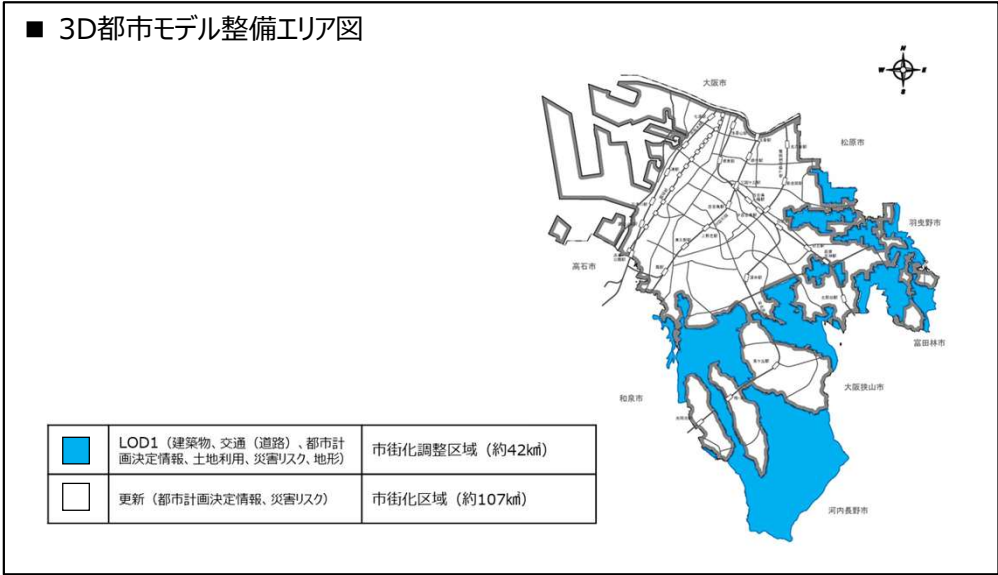
事前調査等	－
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデル整備（LOD1）</li> </ul>
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデルを活用した盛土等の現地調査管理の効率化</li> <li>3D都市モデルを活用した盛土等の地盤変位の可視化（R7年度予定）</li> </ul>
推進事業	－
総事業費（予定）	2,150（万円）
R6年度補助額	1,075（万円）
補助対象外の関連事業	－
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】</li> <li>PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】</li> </ul>
R6年度委託事業者	国際航業株式会社（3D都市モデルの整備） 株式会社フォーラムエイト（ユースケース開発）

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 32.大阪府堺市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物・交通(道路) ・土地利用・地形・ 災害リスク	市街化区域 市街化調整区域	約107.00km <sup>2</sup> 約42.00km <sup>2</sup>	R4年度整備済 R6年度整備
	都市計画決定情報	市街化区域 市街化調整区域 市街化区域	約107.00km <sup>2</sup> 約42.00km <sup>2</sup> 約107.00km <sup>2</sup>	R4年度整備済 R6年度整備 R6年度更新
LOD2	建築物	都心地域+1棟	約4km <sup>2</sup>	R4年度整備済



分野	人口規模	面積規模	予算規模
他	15万以上	100-200	2-3千

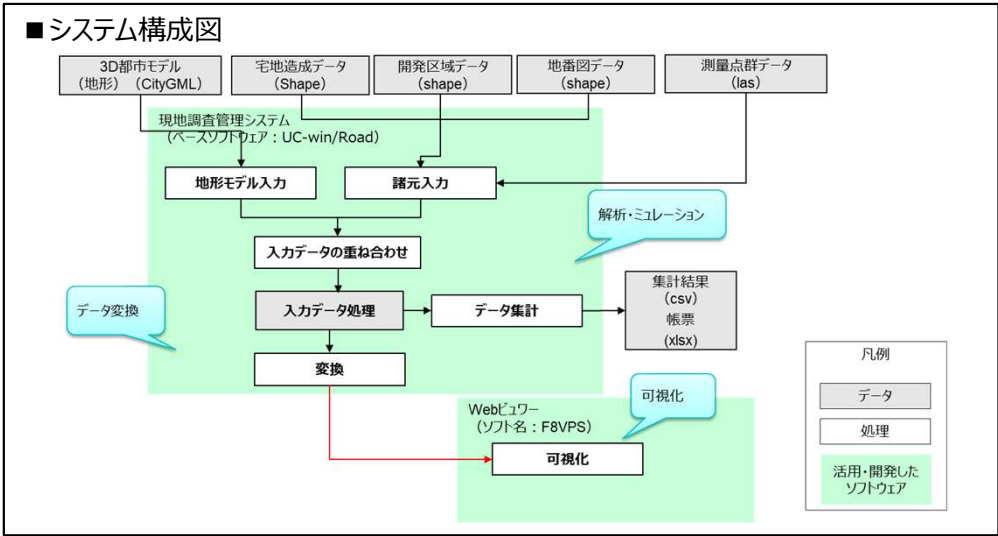


項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	2.都市計画基本図 (既存)	H29年度	2,500
	10.その他 (道路台帳平面図)	R5年度	500
測量成果	3.既存資料 (航空写真)	R5年度	1,000
属性情報	1.都市計画基礎調査 (既存)	R1,2,5年度	2,500
	3.その他 (建築確認申請データ)	R5年度	2,500
	3.その他 (水害ハザードマップ)	R3年度	2,500
	3.その他 (土砂災害警戒区域データ)	R1年度	2,500
	3.その他 (施設情報データ)	R5年度	2,500

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 32.大阪府堺市

■ ユースケース概要	
分野	その他
目的	<ul style="list-style-type: none"><li>盛土等の現地調査及び管理を効率化する。</li><li>2時点の地盤変位を手間なく可視化する。盛土規制法に基づく基礎調査のカルテ・一覧表を出力する。（R7年度予定）</li></ul>
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>日々の業務及び盛土規制法に基づく現地確認の結果（点群データや写真、基礎調査の事項等）を3D都市モデル上に記録する。</li><li>地盤変位の可視化により未調査区域を抽出する。（R7年度予定）</li><li>高さデータを持つ3Dの良さを活かし、窓口相談業務や日々の点検で、盛土等を分かりやすく報告・管理する。</li></ul>



分野	人口規模	面積規模	予算規模
他	15万以上	100-200	2-3千



活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>地形LOD1</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>宅地造成情報（所在地、許可年月日）</li><li>開発区域情報（所在地、許可年月日）</li><li>地番図情報（地番）</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>空中写真を統合させた3D都市モデル（地形）と活用データ（宅地造成情報・開発区域情報・地番図情報）をデジタル環境で重畳表示させる。</li><li>現地測量による点群データを重畳させ、既存地形データとの差分に対し、盛土規制法の規制対象に準じた差分がある場合、色分け表示等により可視化する。また、画像や文字情報等も併せて記録する。</li><li>クラウドでの管理を行い、どこからでも情報を確認できるようにする。</li><li>時点の異なるDTMデータを重畳し、差分がある箇所を色分け表示等により可視化する。また、点群データのある調査済区域と重畳させ、未調査区域を可視化する。（R7年度予定）</li><li>調査地にてタブレットより直接情報を登録する。盛土規制法に基づく基礎調査のカルテ及び一覧表を出力する。（R7年度予定）</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>窓口相談及び庁内の情報共有にて活用する。</li><li>経年の情報を一元的に記録し、保存する。</li><li>盛土規制法に基づく基礎調査の資料として活用する。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	—

■ KPI		
KPI	目標設定	達成状況
本UCにて整備するシステムを利用する堺市職員のうち確認しやすいと回答した職員の割合（%）	80% (R6年度)	100% (R6年度)



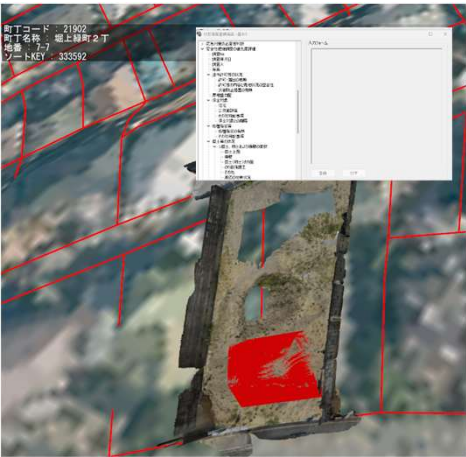
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

32.大阪府堺市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
他	15万以上	100-200	2-3千



■ ユースケース開発成果イメージ図



データ入力

現地の3D点群データを取り入れ、写真や文字の情報を付与していく。規制対象を識別した盛土等（図赤塗部分）を視覚的に確認できる。



データ出力

盛土規制法に基づくカルテや一覧表を出力できる。また、タブレット端末で盛土等の情報を確認できる。

■ 今後の展望

毎年税務担当部署で別途発注している空中写真撮影業務の成果品であるDTMデータから差分を抽出することにより、盛土規制法に基づく地盤変位を机上で調べられるようにする。

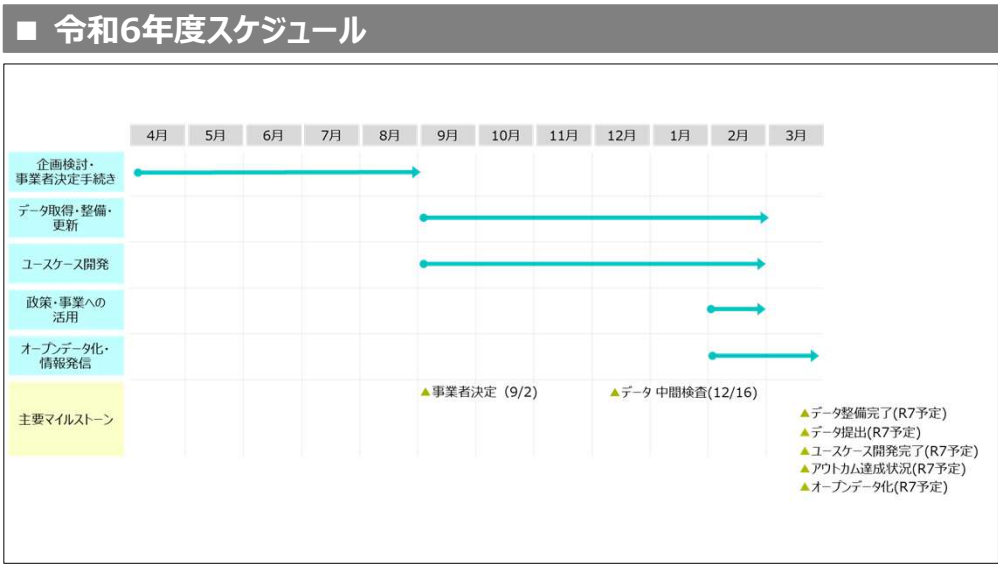
タブレット端末での情報登録を可能にし、より即時性の向上及び負担軽減を可能とする。

調査計画を最適化し、現地調査を負担軽減することにより、業務運用を効率化する。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 33.大阪府池田市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	102,708人（令和6年3月末時点）
市域全域面積	0.79km <sup>2</sup> （令和6年3月時点）
主な産業 地域課題等	大阪府の北西部に位置する衛星都市。市域の中央から北側には標高300～400mの五月山が分布している。 阪急宝塚線池田駅と石橋阪大前駅を中心に形成された市街地は住宅地が主であり、R6年3月末日時点の人口は102,708人である。 市内にある2つの鉄道駅周辺エリアを中心に官民連携によるまちづくりに現在取り組んでいる。 また、市域のおよそ半分が市街化調整区域であり、植木産業や農業、自然をいかした地域振興に向けたまちづくりを進めている。



分野

人口規模

面積規模

予算規模

街

5－15

50未満

1千未満

担当部局

都市政策課

■ 補助事業実施項目

目標	みどりと強い結びつきを持つ池田の文化をまちの顔となる駅前空間再整備に向けた合意形成
課題	市の玄関口となる駅前のウォカブル推進に資する駅前空間のリニューアルに向け、利用者ニーズに合った再整備が求められるほか、交通事業者や周辺地権者、交通管理者等の様々な関係者との円滑な合意形成が必要
創出価値	将来的な公共交通の最適化等の予測結果や再整備計画の内容を、関係者、市民等に対し、3D都市モデルを活用して視覚的にも分かりやすい資料等として示し、円滑な合意形成を進めていく。

事前調査等	－
3D都市モデル整備・更新	－
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデルを活用した交通量調査、交通量予測の可視化事業</li> <li>3D都市モデルを活用した関係者協議</li> </ul>
推進事業	－

総事業費（予定）	1,450（万円） ※うちR6年度450（万円）
R6年度補助額	200（万円）
補助対象外の関連事業	駅前空間のウォカブル推進に向けた実証調査

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>G空間情報センターへの掲載 【UCデータ】</li> <li>PLATEAU VIEWへの掲載 【UCデータ】</li> <li>池田市ホームページに掲載 【UCデータ】</li> </ul>
-------------------	---

R6年度委託事業者	パナソニック株式会社エレクトリックワークス社（ユースケース開発）
-----------	----------------------------------

PLATEAU

by MLIT

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

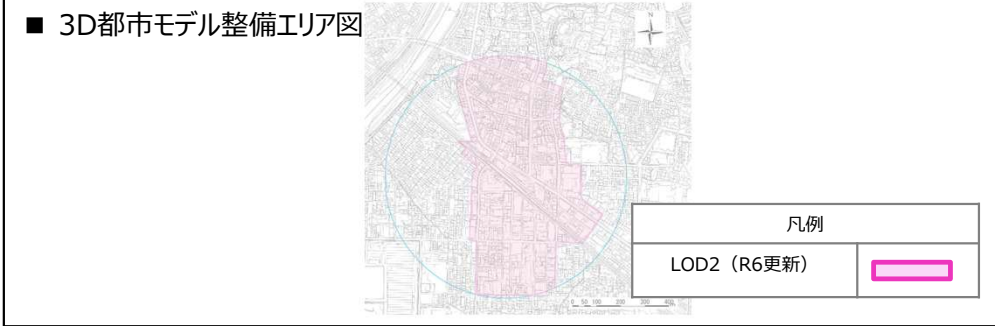
# 33.大阪府池田市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	池田市都市計画区域	22.11km <sup>2</sup>	R2年度整備済
	交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	池田市都市計画区域	22.11km <sup>2</sup>	R2年度整備済
LOD2	建築物	都市機能誘導区域及び伏尾台 阪急池田駅エリア	1.56km <sup>2</sup> 0.40km <sup>2</sup>	R2年度整備済 R6年度整備

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
—	—	—	—	—



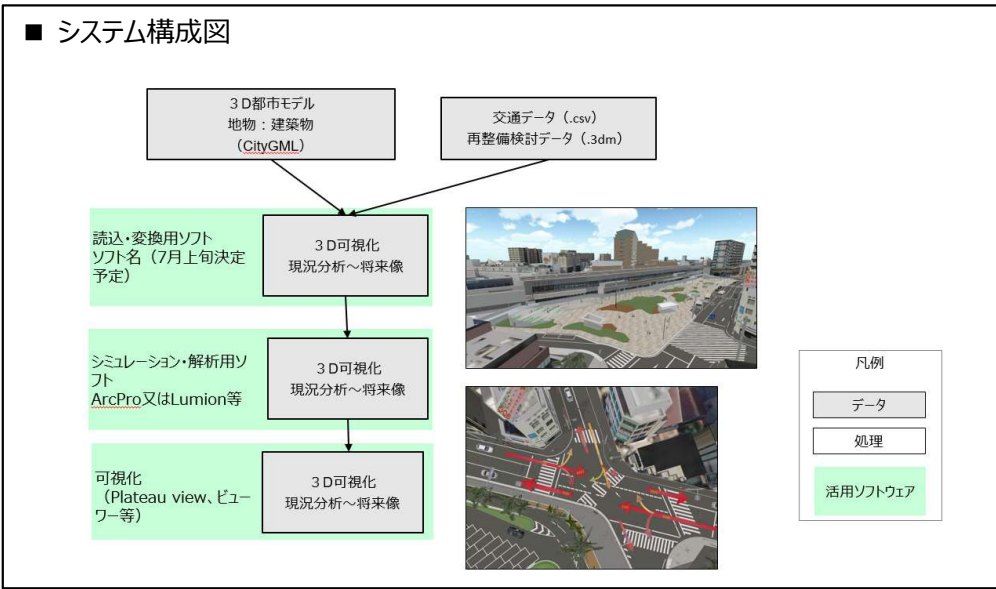
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図(既存)	R5年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R5年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R2年度	その他

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5－15	50未満	1千未満



■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	みどりと強い結びつきを持つ池田の文化を象徴したまちの顔となる駅前空間再整備に向けた合意形成の円滑化
取組内容	3D都市モデルを活用し、VR上で阪急池田駅周辺の現況と同駅北側再整備案をビジュアルで表現する。 阪急池田駅北側に位置する国道交差点の交通量調査結果をVR上で可視化する。 交通事業者等の関係者協議において、阪急池田駅北側の再整備に関する認知度の向上を目的として、上記内容で作成したVRを活用する。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 33.大阪府池田市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	・ 建築物LOD2（計測高さ、地上階数）
活用データ (上記以外)	・ 交通データ ・ 再整備検討データ
ユースケース 開発方法	・ 3D都市モデルデータを活用し、阪急池田駅周辺の現況のVRを作成 ・ 現況VRとともに、阪急池田駅北側再整備に関する3案をVRで作成 ・ 阪急池田駅北側の再整備に係る国道交差点部分の交通量調査結果をVR上で可視化
政策・事業での 活用	・ 駅周辺の交通状況をVR上で可視化し、交通事業者や警察との協議に活用する。 ・ 駅前空間の再整備計画の内容をVRを用いて、3次元化で表示し、視覚的にイメージ認識しやすくすることで、阪急池田駅北側の再整備に関する理解度を高め、気運醸成に活用する。
オープンデータ化 情報発信	ユースケース開発結果を池田市ホームページに掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
交通事業者、地権者、交通管理者等の関係者協議資料としてVRを活用し、説明内容の満足度を計測（％）	50% (R6年度)	50% (R6年度)
駅前再整備計画の庁内説明をVRを活用して実施し、整備内容に対する理解度を計測（％）	50% (R6年度)	50% (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5－15	50未満	1千未満

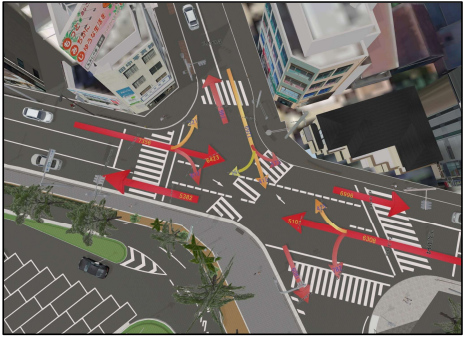


■ ユースケース開発成果イメージ図



阪急池田駅北側広場の将来イメージ

既存のロータリーを最小化し、滞在性の高い歩行者中心の広場を表現  
交通事業者及び庁内の意見交換の1案として活用



VR上で交通量を可視化

別途調査を実施した交通量調査結果を可視化  
国道交差点の課題抽出の材料として活用  
分かりやすくビジュアルで表現することで、感覚で議論することを回避。

■ 今後の展望

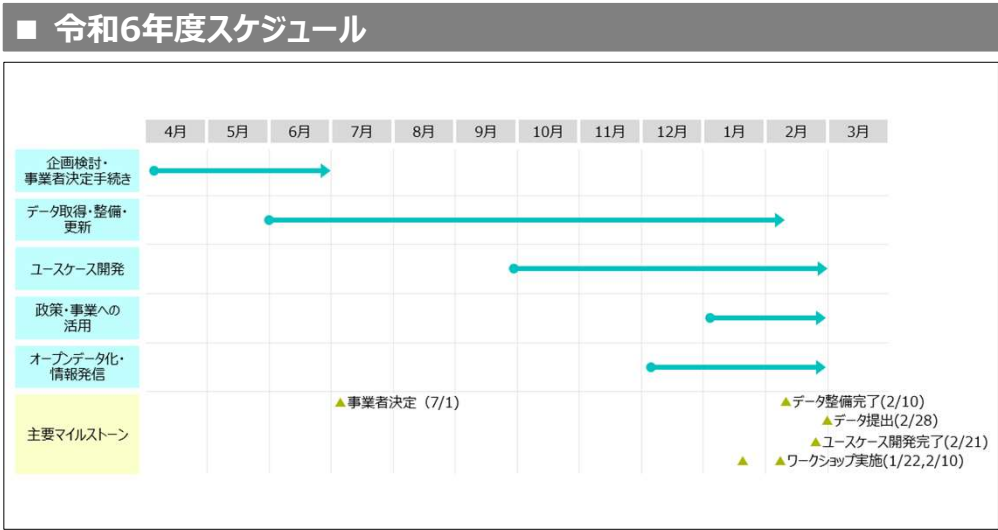
今後交通事業者へ継続したヒアリングを実施しながら、タクシーベースが減少した際のショットガン方式への代替地や運用イメージ等もVRで可視化させながら、さらなる合意形成を図る。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 34.大阪府河内長野市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	約9.7万人（令和7年2月時点）
市域全域面積	109.63km <sup>2</sup> （令和7年2月時点）
主な産業 地域課題等	面積約109km <sup>2</sup> 、近鉄長野線、南海高野線が市域を縦走しており、大阪都市圏のベッドタウンとして急速に発展を遂げた。市域の約7割は森林が占めており、大阪府の土砂災害警戒区域の約20%が集中している。また、少子高齢化が顕著となっている。 昭和57年に開発されたニュータウンである南花台では、少子高齢化や高齢者の交通事故増加等の課題解決に向け、産官学の連携により多様な取組を実施している。 また、高齢化にともない特に山間部では公共交通弱者、移動困難者の増加が懸念される。



分野

人口規模

面積規模

予算規模

防・交

5－15

100－200

1－2千

担当部局

都市計画課

PLATEAU

by MLIT

■ 補助事業実施項目

目標

集約連携都市への再構築　～生活圏の自立性を高め、地域との連携を図りながら、多様な価値観に対応した豊かな生活を創出～  
「地域力」と「新たなテクノロジー」を融合しつつ、規制や固定概念にとらわれない住民本位のまちづくりを実現

課題

（災害）災害時の避難計画、避難場所・避難ルートの可視化・住民への浸透、災害危険区域に居住する住民への災害リスク意識向上。市域に広がる丘陵地に対する災害発災時の被災状況の把握と共有  
（交通）人口減少・少子高齢化の急激な進展、昭和40年代に開発された団地の今後の在り方、交通空白地域の移動手段の確保、カメラ・センサ情報を活用した新しいモビリティ（自動運転）の導入支援、高齢者の生活利便性の改善

創出価値

- 災害リスクをわかりやすく示すことで市民の防災意識を向上させ、今後の防災計画や避難経路の策定を効果的に行う
- 3D都市モデルを活用した移動支援が必要な地区の抽出や移動手段の検討、自動運転への活用可能性の検討を行う。
- 上記の取り組みを通じて、集約連携都市を再構築する。

事前調査等

－

3D都市モデル整備・更新

－

ユースケース開発

- 3D都市モデルを活用した交通量調査、交通量予測の可視化事業
- 3D都市モデルを活用した関係者協議

推進事業

－

総事業費（予定）

9,675（万円）　※うちR6年度1,711（万円）

R6年度補助額

855.4（万円）

補助対象外の関連事業

－

オープンデータ化・可視化・情報発信

- G空間情報センターへの掲載　【3D都市モデル】
- PLATEAU VIEWへの掲載　【3D都市モデル】

R6年度委託事業者

アジア航測株式会社

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 34.大阪府河内長野市

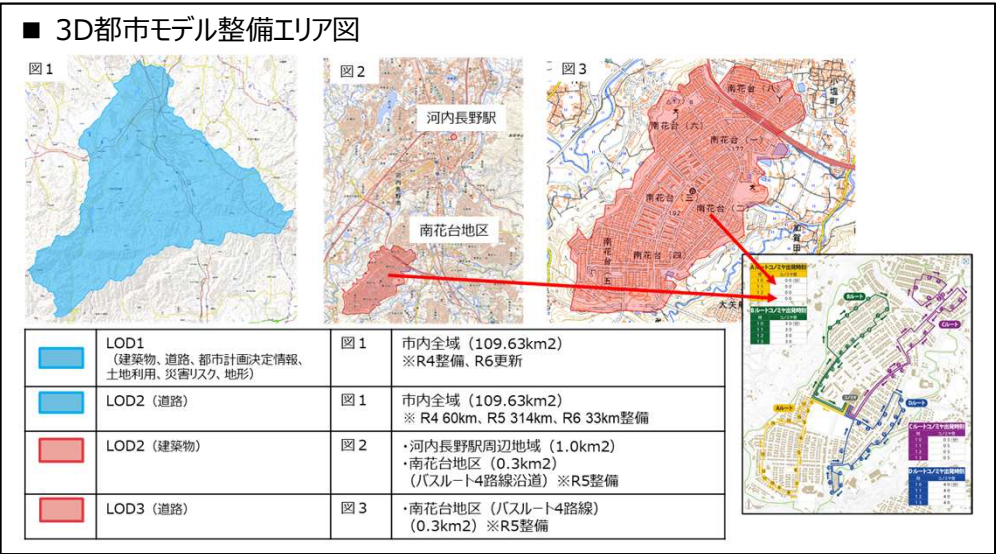
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	河内長野市全域 河内長野市全域	109.63km <sup>2</sup> 109.63km <sup>2</sup>	R4年度整備済 R6年度更新
	交通（道路）	河内長野市内（60km分） 河内長野市全域 河内長野市全域	109.63km <sup>2</sup> 109.63km <sup>2</sup>	R4年度整備済 R5年度整備済 R6年度更新
	都市計画決定情報 土地利用 地形	河内長野市全域	109.63km <sup>2</sup>	R4年度整備済
	災害リスク	河内長野市全域 土砂災害及び浸水リスクを有する河川（石川・天見川・石見川・加賀田川・西除川）	109.63km <sup>2</sup>	R4年度整備済
LOD2	建築物	河内長野駅周辺地域 南花台地区（バスルート4路線沿道）	1.0Km <sup>2</sup> 0.3km <sup>2</sup>	R5年度整備済

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2	交通（道路）	河内長野市内（60km分） 河内長野市内（314km分） 河内長野市内（33km分）		R4年度整備済 R5年度整備済 R6年度整備
LOD3	交通（道路）	南花台地区（バスルート4路線）	0.3km <sup>2</sup>	R5年度整備済

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・交	5－15	100－200	1－2千



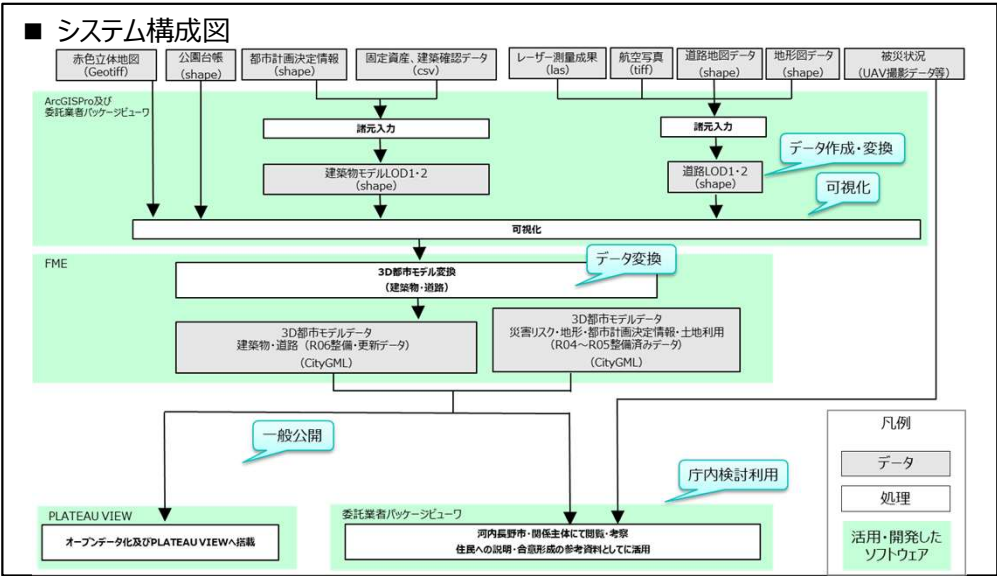
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	H23年度	2,500
	都市計画基本図（修正）	R5年度	2,500
	その他（地番図（GISデータ））	R5年度	－
	数値地形図(DMデータ)(既存)	H23年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R2年度	2,500
	MMS測量データ	R5年度	－
	航空レーザー測量データ	R2年度	－
属性情報	建築確認申請	R1年度	－

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

34.大阪府河内長野市

■ ユースケース①概要

分野	防災・防犯
目的	災害時の避難場所・避難ルートの可視化と住民への浸透、災害時避難計画の住民への浸透、災害危険区域に居住する住民への災害リスク・危険性のイメージ喚起。
取組内容	市域の約7割は森林が占めており、大阪府の土砂災害警戒区域の約20%が集中している。南海トラフ地震、大雨豪雨災害の発生が懸念されており、市民の安全確保対策が急務となっている。 各地区が保有する災害リスク情報（洪水浸水想定区域等）を3D都市モデルにより三次元化し、さらに市の保有するドローン等で取得した被災状況の確認結果を3D都市モデルに重ね合わせ、被災状況について関係機関（警察・消防等）との共有・連携方法の高度化を推進する。



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・交	5-15	100-200	1-2千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1（名称、計測高さ）</li><li>都市計画決定情報LOD1（用途地域情報）</li><li>災害リスクLOD1（土砂災害警戒区域、河川浸水想定区域）</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>都市計画決定情報データ（景観規制、環境規制等）</li><li>固定資産データ（地番図等）</li><li>公園台帳データ（一時避難場所位置、面積、名称等）</li><li>被災状況データ（UAV撮影動画等）</li></ul>
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルビューア（委託業者パッケージビュー）上に、整備した3D都市モデル、市で運営中の遠隔情報システムに保存されている発災時の被災状況を（ポイントデータ）などを重ね合わせて、3D地図上で実際の被災状況を分かりやすく可視化する。</li><li>3D都市モデルビューア（委託業者パッケージビュー）に重ね合わせる被災状況（ポイント）データの属性に現地画像・動画へのリンクを付与することで3D地図上で、現地の被災状況を画像、動画などを交えて効率的に確認できる環境を構築する。</li><li>重ね合わせた3D地図を用いて、大阪府・警察等の関係機関との効率的な情報共有方法を検証し、検証結果を災害時避難行動の説明会にて報告する。</li><li>河内長野市公開型GISポータルサイト（かわちず）にて被災状況を必要に応じてオープンデータとする。</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>被災状況を大阪府・警察等の関係機関との情報共有の高度化を推進する。</li><li>市民の災害への意識向上につなげるとともに、発災時の対応効率化につなげる。</li><li>整備した3D都市モデル、高さ情報を付与した道路地図、庁内地図等を一体的に管理する3D都市モデルビューア（委託業者パッケージビュー）を導入し、災害リスクや危険性の周知及び被害状況の共有ツールとして、継続的な運用、利活用が可能を検討する。</li></ul>
オープンデータ化情報発信	公開型GIS（かわちず）にPLATEAU VIEWへのリンク（河内長野市地物表示で起動のURL）を設定

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
災害時避難行動の説明会（R6年度）を実施、避難場所・避難ルートの確認などを実施する（％）	参加者の5.5割以上の肯定的評価（R6年度）	71.2%（R6年度）



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

34.大阪府河内長野市

■ ユースケース開発成果イメージ図



**被災状況と3D都市モデルの重合せ**  
3D都市モデルに、被災状況・ドローンで撮影した現地動画を重ね合わせて表示  
災害対策本部で3次元で現状を把握

**災害時避難行動の説明会**  
市職員・警察・社会福祉協議会等の関係者で3D都市モデルを用いた被災状況の情報共有の高度化を検討

■ 今後の展望

検証した3D都市モデルを用いた大阪府・警察等の関係機関との効率的な情報共有方法について、既存の災害情報システムの活用も視野に入れて実用に向けた調整を進める。  
また、整備した3D都市モデルを用いて市民の防災意識の向上、避難路の確認、マイタイムラインの策定促進を図る。

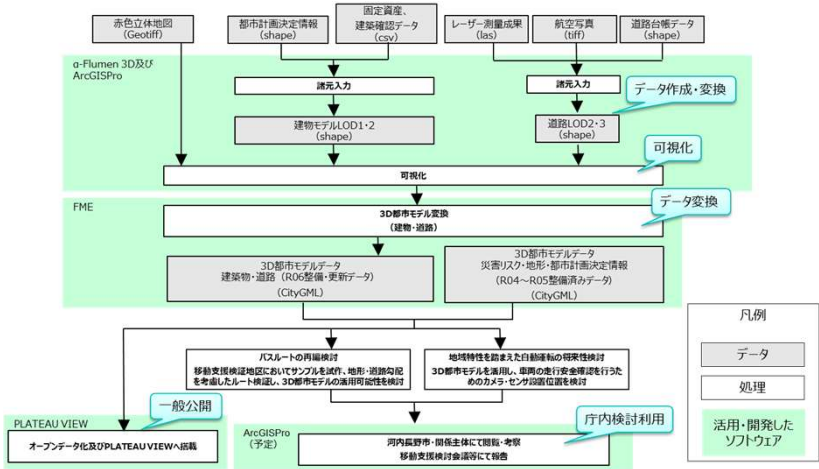
分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・交	5－15	100－200	1－2千



■ ユースケース②概要

分野	モビリティ・ロボティクス
目的	河内長野市における公共交通事業の最適化に向けた移動支援の検討
取組内容	<p>自動運転等の検討は南花台で実施中だが、将来的には地形的に不便な他の開発団地や交通空白地においても同様の移動支援の検討を進める必要がある。この検討を行う上で、道路高低差が重要な要素となる。そこで、道路台帳のデジタル化とともに高さデータを付与し、3D都市モデルと組み合わせることで、自動運転等の検討への3D都市モデルの活用可能性を検証する。</p> <p>また、交通空白地、移動支援の必要性を3D都市モデル上で可視化することで、バスルートの再編など最適な移動支援の手段や公共交通の在り方の検討も行う。ユースケース検討結果は、地域の移動支援を考える会議等に報告し、将来的な地域の実情に即した移動支援の手段の検討に活用する。</p>

■ システム構成図





Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

34.大阪府河内長野市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1, LOD2 (名称、計測高さ)</li><li>都市計画決定情報LOD1 (用途地域情報)</li><li>災害リスクLOD1 (土砂災害警戒区域)</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>都市計画決定情報データ (景観規制、環境規制等)</li><li>固定資産データ (地番図等)</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>整備した3D都市モデル (建築物LOD2、道路LOD3など) 等及び関連データセットを活用して、3D都市モデルビューワソフト (ArcGISPro) を用いて、バス自動運転を行う上での車両の走行安全確認を行うためのカメラ・センサ設置位置 (カメラ・センサ可動範囲の3次元的可視化など) の検討を実施する。(対象地区: 南花台 バスルート4路線)</li><li>整備した3D都市モデル (道路LOD2、地形など) 等及び関連データセットを活用して、対象地区における移動支援の手段を検討し、地形・道路勾配など3次元情報を考慮したバスルートの再編を検討する。(対象: 楠ヶ丘地区)</li><li>再編したバスルートを3D都市モデルビューワソフト (ArcGISPro) にてデータを可視化する。</li><li>結果を移動支援検討会議等に報告し、公共交通事業の検討における3D都市モデルの活用性を検証する。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>バス自動運転を検討する際の事業規模の想定、カメラ・センサ設置の想定、カメラ・センサ設置にむけた現地調査、地元調整などの効率化に活用する。</li><li>各地域の最適な移動支援の手段検討 (既存ルートの課題点の抽出、バスルート、停留所再編案の作成、バス走行可否の検討、地元住民協議の際の基礎資料など) に活用する。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	公開型GIS (かわちず) にPLATEAU VIEWへのリンク (河内長野市地物表示で起動のURL) を設定

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
地域特性を踏まえた自動運転の将来性検討において、本ユースケース開発成果を有効に活用できるか確認する (%)	参加者の5割以上の肯定的評価 (R6年度)	87.9% (R6年度)
移動支援検討会議にて3D都市モデルを活用した公共交通再編事業の取組を報告する (%)	参加者の5割以上の肯定的評価 (R6年度)	91.5% (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・交	15万以上	500以上	1-2千



■ ユースケース開発成果イメージ図



<b>自動走行の安全確認を行うための カメラセンサーの配置位置の検討</b> 3D都市モデルを用いてカメラ・センサの 可視領域を3次元で可視化	<b>勾配・空白地を考慮したバスルート検討</b> 3D都市モデルを用いて移動支援の手段 (バスルート再編案) を検討 結果を移動支援検討会議にて報告
---	--

■ 今後の展望

自動走行を行う際の安全確認を行うためのカメラセンサーの配置位置の検討については、事業化する際の事前検討資料としての3D都市モデル活用を目指して、精度向上に必要なデータなどの整理を行う。

勾配・空白地を考慮したバスルート及び停留所の検討については、今回の検討手法の他地域への拡大、地元協議資料としての活用などの検討を進める。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 35.大阪府東大阪市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	493,940人（令和2年10月時点）
市域全域面積	約62.00km <sup>2</sup> （令和6年10月時点）
主な産業 地域課題等	わが国でも有数の中小モノづくり企業の集積地「モノづくりのまち東大阪」として知られている。本市の人口は昭和50年の約52万人をピークに平成2年から減少しはじめており、年少人口、生産年齢人口の減少が進み、令和22年には約41万人まで減少することが予測されている。本市では、次世代への投資として、妊娠・出産・子育て期における切れ目もない支援を実施し、子どもを産み、育てることを希望するすべての方が迷うことなく、安心して産み育てることができるよう環境づくりを進めている。そして子供たちが安全で、健やかに育つことができる地域づくりを進め、若者・子育て世代に選ばれ、定住してもらえるまち東大阪を目指している。
■ 令和6年度スケジュール	

分野

人口規模

面積規模

予算規模

防

15万以上

50－100

2－3千

担当部局

危機管理室

PLATEAU

by MLIT

■ 補助事業実施項目

目標	災害リスクを可視化することにより市民の防災意識を向上させ、災害に強いまちづくりの実現を目指す
課題	<p>山麓市街地には土砂災害危険渓流が37渓流あり、そのうち18渓流は砂防堰堤が無い。ハード整備には時間がかかるが、自然災害は突然発生し、待てない。</p> <p>土砂災害警戒区域の住民が避難所へ避難する際には、どのような経路を通れば良いのかを理解し、周知していく必要がある。</p>
創出価値	3D都市モデルを用いた土砂災害シミュレーションを活用し、区域内における相対的に安全な避難経路の確保及び避難行動の高度化を目指し、市民の防災意識を向上させることである。

事前調査等	－
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備（LOD1,LOD2）
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
推進事業	3D都市モデルのオープンサイトへの掲載支援

総事業費（予定）	2,652（万円）
R6年度補助額	1,326（万円）
補助対象外の関連事業	－

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】</li> <li>PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】</li> </ul>
-------------------	---

R6年度委託事業者	<p>株式会社パスコ（3D都市モデルの整備）</p> <p>株式会社ウエスコ・株式会社構造計画研究所（ユースケース開発）</p>
-----------	--



PLATEAU  
by MLIT

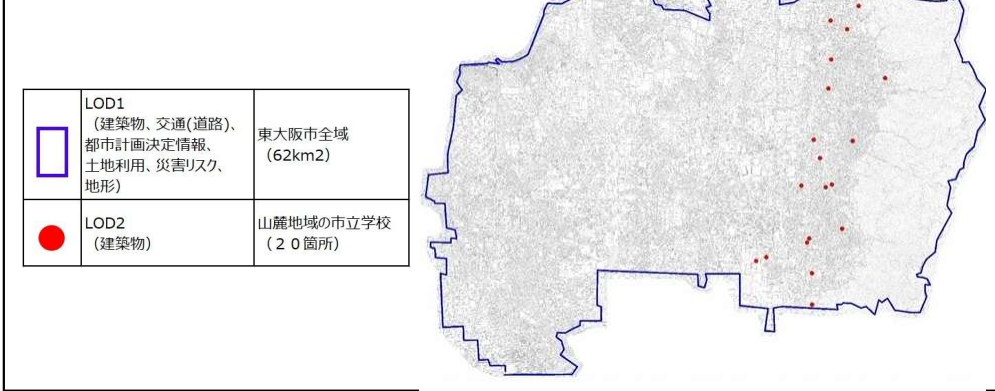
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 35.大阪府東大阪市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	東大阪市全域	約62.00km <sup>2</sup>	R6年度整備
LOD2	建築物	山麓地域の市立学校 20か所		R6年度整備

■ 3D都市モデル整備エリア図



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	H25年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	H24年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（東大阪市）	R5年度	2,500

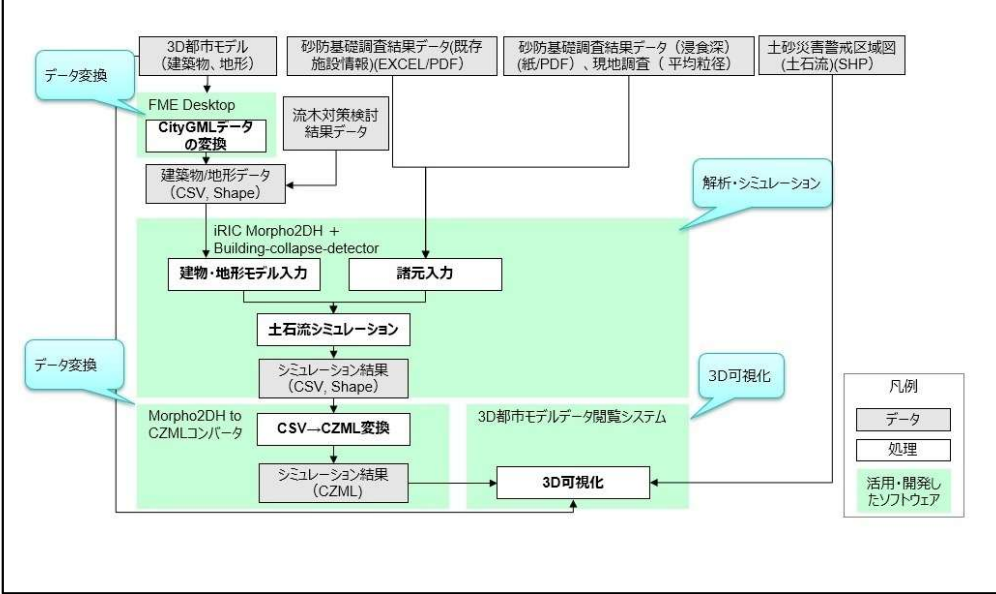
分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	50-100	2-3千



■ ユースケース概要

分野	防災・防犯
目的	災害リスクを三次元表示し、可視化し市民の防災意識の向上を目指す。
取組内容	3D都市モデルを用いた土砂災害シミュレーションを活用し、区域内における相対的に安全な避難経路の選定及び避難行動の高度化を目指し、市民の防災意識を向上することを目的とする。

■ システム構成図





Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

35.大阪府東大阪市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1（構造種別、地上階数、建築年）</li><li>地形LOD1（地形形状）</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>砂防基礎調査結果データ（既設砂防・治山堰堤など）</li><li>砂防基礎調査結果データ(浸食深)</li><li>土砂災害警戒区域（土石流）データ</li><li>現地調査（平均粒径）</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>土石流シミュレータで3D都市モデルを活用できるよう、3D都市モデル（地形LOD1データ）のCityGMLを、点群データ(CSV)に変換する。また、3D都市モデル（建築物LOD1データ）のCityGMLを、ポリゴンデータ（SHP）に変換する。</li><li>変換した地形データと流木対策検討結果データを用いて、土石流シミュレーションに使用するための2mメッシュ地形データを整備する。</li><li>既設の砂防施設情報、地盤の最大浸食深さ、斜面崩壊を発生させる場所と大きさ・深さ、土石流条件（土砂濃度・内部摩擦角・層流層の厚さ等）、河床材料の条件（平均粒径や粒度分布等）を、シミュレータ上で設定する。</li><li>平均粒径の設定等にあたり、現地調査を実施する。</li><li>データ変換した3D都市モデルをインプットデータとして活用し、設定した解析諸元をもとに、家屋倒壊/非倒壊判定を含む土石流シミュレーションを実行する。</li><li>土石流シミュレーションの結果をCSVおよびSHP(ポイントデータ)で出力する。</li><li>土石流シミュレーションの出力結果である、時刻ごと水量量・変化した地形データ・建物メッシュごと倒壊判定結果・建物ごと倒壊判定結果（それぞれCSVファイル）を、タイムスタンプに従った三次元アニメーション表示ができるよう、CZML形式に変換する。</li><li>CZML形式のシミュレーション結果を三次元的に可視化できる環境を提供する。</li><li>描画はタイムスタンプに従ったアニメーション表現を含む。</li><li>庁内の担当課にて結果共有会を実施し、ユースケース開発の成果を避難計画高度化に活用する。</li><li>関心の高い自主防災組織等に結果閲覧機会を提供し、ユースケース開発の成果を避難啓発に活用する。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>シミュレーション結果として出力される、時刻ごと流体力・地形データの変化量・建物メッシュごと倒壊判定結果・建物ごと倒壊判定結果を、三次元可視化環境上で、アニメーションとして表示する。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	-

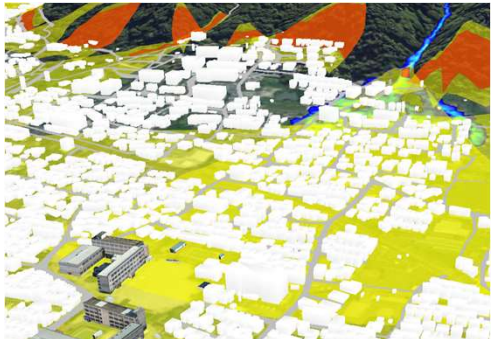
分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	50-100	2-3千



■ KPI

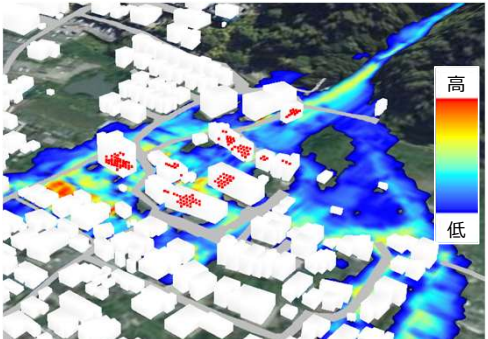
KPI	目標設定	達成状況
地域の災害リスクについての理解（％）	50％（8年度）	令和7年度以降 計測予定
土砂災害シミュレーション結果後の想定避難誘導者数（＝避難誘導しないとならない人口）（人）	65,000人（R6年度） 60,000人（R7年度） 35,000人（R8年度）	49,108人 （R6年度）

■ ユースケース開発成果イメージ図



東大阪市内の土砂災害警戒区域の様子

三次元ビューワに土砂災害警戒区域と区域内の市立学校（LOD2）を重ねて可視化し、相対的に安全な避難経路選定などに利用



土石流シミュレーションの様子

3D都市モデルと土石流シミュレーションの結果から土砂災害と倒壊の危険性がある建築物を可視化

■ 今後の展望

PLATEAU事業と平行して実施している、都市防災総合推進事業を活用した、土砂災害警戒区域等における避難計画のための基礎資料作成業務と併せて、山麓地域の市民にリアルな災害リスク想定及び相対的に安全な避難経路を示したうえで、個々の状況に合わせた避難行動計画の作成、避難方法の判断材料として活用していただけるよう啓発活動を行っていく。

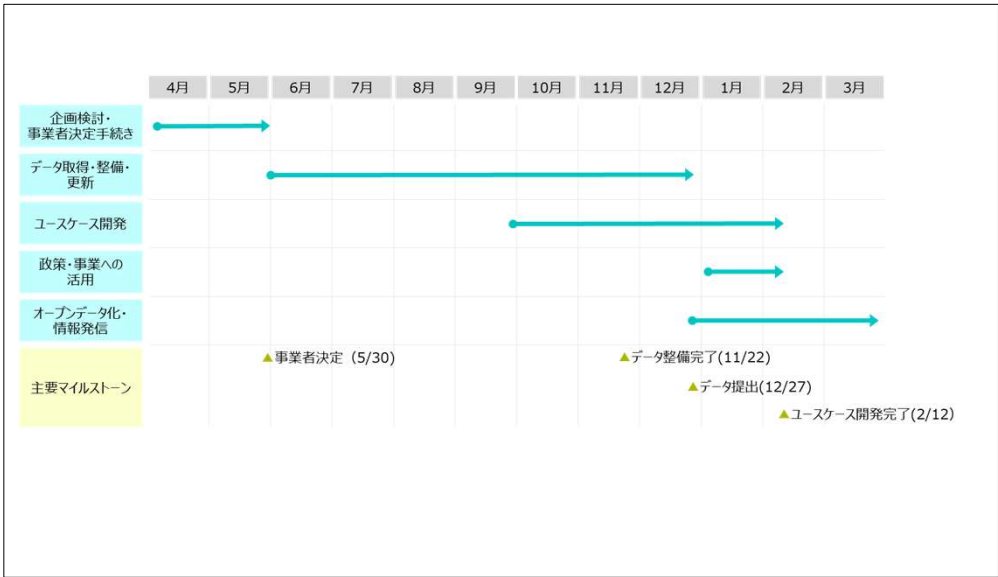


Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 36.和歌山県和歌山市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	356,729人（令和2年10月時点）
市域全域面積	209km <sup>2</sup> （令和6年1月時点）
主な産業 地域課題等	紀伊半島の北西部に位置する中核市であり、市の中央部を紀の川が東西に流れ、北部は和泉山脈、北西部から南部は紀淡海峡や和歌浦湾に面している。 紀州藩の城下町であり、関西国際空港、第二阪和国道、京奈和自動車道、JRきのくに線等によりアクセスしやすい地理的条件である。誰もが安心して住み続けられる持続可能なまちの実現のために、コンパクトシティを目指している。

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
交・他	15万以上	200-500	1千未満

担当部局	都市計画課
------	-------

■ 補助事業実施項目

目標	誰もが安心して住み続けられる持続可能なまちの実現
課題	・ 交通事故の発生件数、死者数はともに減少傾向にあるが、子供や高齢者をはじめとした交通事故を最小限に抑えるためには、更なる対策が必要。
創出価値	・ 3D都市モデルを活用した交通事故発生リスクの評価及びその可視化。また、これを活用した通学路交通安全プログラムの高度化。

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	—
ユースケース開発	・ 3D都市モデルを活用した通学路交通安全プログラムの高度化事業
推進事業	—

総事業費（予定）	2,288（万円） ※うちR6年度968（万円）
R6年度補助額	484（万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ】
-------------------	---

R6年度委託事業者	アジア航測株式会社（3D都市モデルを活用した通学路交通安全プログラムの高度化事業）
-----------	---



PLATEAU  
by MLIT

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 36.和歌山県和歌山市

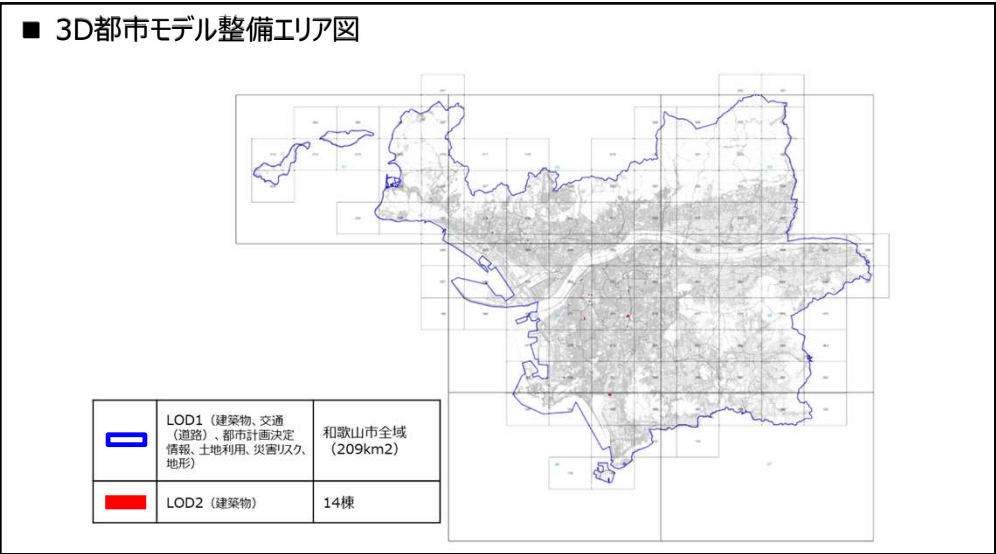
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	和歌山市全域 和歌山市全域（建物構造（木造・非木造区分）、建物階（地上階）及び津波避難施設の属性を追加。）	209Km <sup>2</sup> 209Km <sup>2</sup>	R4年度整備済 R5年度整備済
	交通（道路） 土地利用 災害リスク 地形	和歌山市全域	209Km <sup>2</sup>	R4年度整備済
	都市計画決定情報	和歌山市全域 和歌山市全域（都市計画道路のみ）	209Km <sup>2</sup> 209Km <sup>2</sup>	R4年度整備済 R5年度整備済
LOD2	建築物	14棟 14棟（建物構造（木造・非木造区分）、建物階（地上階）及び津波避難施設の属性を追加。）	—	R4年度整備済 R5年度整備済

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1（ポイントデータ）	汎用都市オブジェクト ※津波避難施設（建築物以外）	和歌山市全域	209Km <sup>2</sup>	R5年度整備済
	汎用都市オブジェクト ※災害時ヘリコプター予定発着地・臨時ヘリポート	和歌山市全域	209km <sup>2</sup>	R5年度整備済

分野	人口規模	面積規模	予算規模
交・他	15万以上	200－500	1千未満

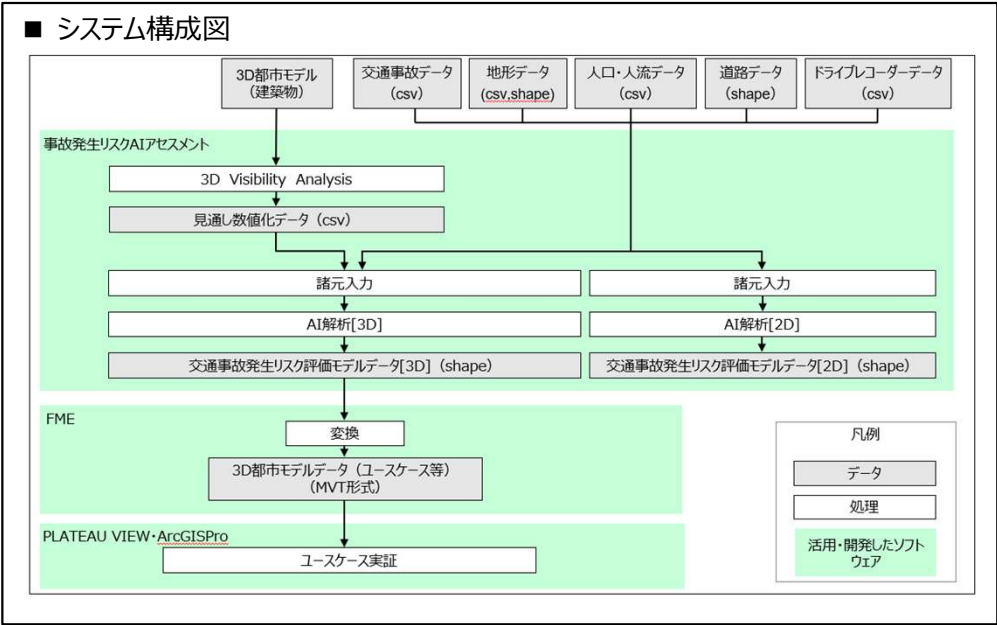


項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	2.都市計画基本図（既存）	R4年度	2,500
	4.数値地形図（DMデータ）（既存）	R2年度	2,500
	10.その他（避難場所及び避難所情報一覧）	R4年度	その他（緯度経度）
	10.その他（災害時ヘリコプター予定発着地・臨時ヘリポート情報一覧）	R4年度	その他（紙図面）
測量成果	3.既存資料（航空写真）	R3年度	1,000
	4.既存資料（航空レーザ）	R元年度	1,000
属性情報	1.都市計画基礎調査（既存）	R2年度	2,500

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

36.和歌山県和歌山市

ユースケース概要	
分野	その他（交通）
目的	3D都市モデルを通学路交通安全プログラムの高度化に活用し、交通安全意識の向上に寄与する運用について検討する。
取組内容	3D都市モデルを活用し、公道等における交通事故発生リスクを評価し、3次元にわかりやすく可視化する。また、これを活用し、通学路交通安全プログラムの高度化を図り、関係機関と「市民の交通安全意識の向上」に寄与する運用の仕方について検討する。



分野	人口規模	面積規模	予算規模
交・他	15万以上	200～500	1千未満



ユースケース開発方法	
活用データ (3D都市モデル)	・ 建築物LOD1
活用データ (上記以外)	・ 交通事故データ（交通事故オープンデータ（2020年～2022年）） ・ 地形データ（土地利用、標高等） ・ 人口・人流データ（人流等） ・ 道路データ（車線数、一時停止規制有無等） ・ ドライブレコーダーデータ（急加減、速度等）
ユースケース 開発方法	・ 交通事故データ、ドライブレコーダーデータ、地形データ、人口・人流データ、道路データ、和歌山市の3D都市モデル（建築物）の情報を「交通事故発生リスクAIアセスメント」の仕組みを用いてAIに学習させ、3次元的な道路視角情報を加味した和歌山市向けの交通事故発生リスク評価用モデルを作成 ・ 作成した和歌山市向けの交通事故発生リスク評価用モデルを用いて、和歌山市内各道路における交通事故発生リスク評価値を算出 ・ 算出した交通事故発生リスク評価値をArcGIS Pro上で可視化 ・ 多様な視点での評価のために、複数の表示方法を整備
政策・事業での 活用	・ 3Dで可視化した公道等における交通事故発生リスクを活用し、通学路安全推進会議等における関係機関（通学路・道路関係部署、警察、学校関係者等）との協議において、交通安全意識の向上に向けた運用について検討する。
オープンデータ化 情報発信	・ 和歌山市オープンデータカタログサイトにG空間情報センターへの誘導 ・ 和歌山市ホームページにてG空間情報センターへの誘導

KPI		
KPI	目標設定	達成状況
通学路交通安全プログラムへの活用が効果的である人の割合（%）	60% (R6年度)	75%
関係機関との通学路点検作業にかかる期間（週）	6週 (R7年度)	R7年度 計測予定



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 36.和歌山県和歌山市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
交・他	15万以上	200～500	1千未満



■ ユースケース開発成果イメージ図

① 交通事故発生リスク（時間帯・年齢別）

凡例

- 0.00～0.25
- 0.25～0.50
- 0.50～0.75
- 0.75～1.00

交通事故発生リスク（時間帯・年齢別）の表示

和歌山市内全地点のリスク値を可視化

※交通事故発生リスク値を0～1で算出し、4段階の閾値（0.25未満、0.25以上0.50未満、0.50以上0.75未満、0.75以上1.00）で道路・交差点を可視化したものであり、1に近いくほど交通事故発生リスクが高くなる。

交通事故発生リスク（朝）

0.45516

交通事故発生リスク（夕）

0.90256

交通事故発生リスク（朝・夕）の表示

※一部エリアを拡大

データセットを切り替えることで、時間帯（朝/昼/夕/夜）・年齢（未成年/成人/高齢者）別の交通事故発生リスクを表示

■ ユースケース開発成果イメージ図

② 交通事故発生リスク（高リスク地点）

交通事故発生リスク（高リスク地点）の表示

和歌山市内の高リスク地点を可視化

2020～2022年における交通事故実績箇所の平均リスク値を道路・交差点別に算出し、その平均リスク値以上の道路・交差点（高リスク地点）を強調表示

交通事故実績1件の平均リスク値以上

交通事故実績3件以上の平均リスク値以上

交通事故実績（1件/3件以上）の平均リスク値以上の表示 ※一部エリアを拡大

データセットを切り替えることで、交通事故実績（1件/2件/3件以上）の平均リスク値以上の交通事故発生リスクを表示

■ 今後の展望

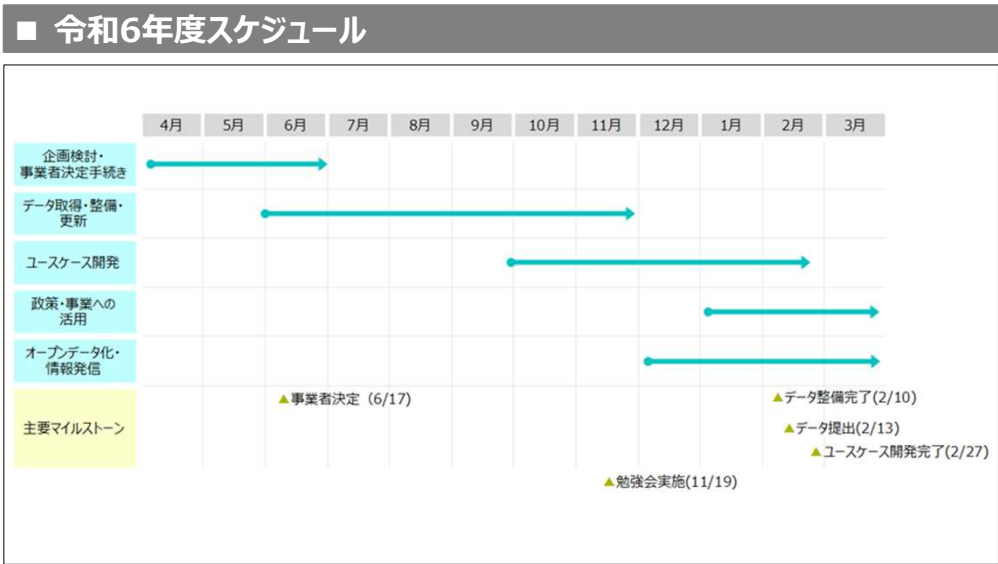
通学路交通安全プログラムの高度化を目的としているが、作成したデータを可視化・発信することで、交通事故抑制につなげていきたい。3D都市モデルの庁内外への周知にさらに力を入れ、今後のさらなる活用方法を探っていきたい。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 37.鳥取県米子市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	143.7万人（令和7年3月時点）
市域全域面積	132.42km <sup>2</sup> （令和7年3月時点）
主な産業 地域課題等	本市は鳥取県の西側、山陰のほぼ中央に位置し中国地方最高峰の大山、北に日本海、西に中海という豊かな自然環境に囲まれており、歴史的な街並みや皆生温泉など多くの観光資源を有している。米子駅周辺には商業施設が集約し、まちなかと郊外の拠点となる場所を有機的に結び付け、「新商都米子」にふさわしい公共交通を活かした「歩いて楽しいまちづくり」を進めている。 第4次米子市行財政改革大綱」においてデジタル・トランスフォーメーションの推進、「米子市DX推進計画」などの上位計画において、住民の利便性の向上やデータ活用に基づくEBPM（証拠に基づく政策立案）モデルの推進を行っている。



分野

人口規模

面積規模

予算規模

街・防

5－15万

100－200

3－5千

担当部局

都市創造課

■ 補助事業実施項目

目標	DXの推進によるEBPMに基づく市民サービスの向上		
課題	市全体の約5割が洪水浸水想定区域（想定最大規模）にあたり、特に観音寺地区などにおいては3m以上の浸水が想定され防災対策を行う必要がある 「歩いて楽しいまちづくり」の実現のため、本市の魅力を視覚的にアピールする必要がある。		
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市空間に関する情報の集約による行政事務の効率化</li> <li>観音寺地区における3D都市モデル上での浸水区域の可視化及び避難ルートの検討への活用</li> <li>「歩いて楽しいまちづくり」の実現のため、景観に配慮したウォークアブル推進路線の完成イメージへの活用【令和7年度】</li> <li>市全体の約5割が洪水浸水想定区域（想定最大規模）であるため、市全域における3D都市モデル上での浸水区域の可視化及び避難ルートの検討への活用【令和7年度】</li> </ul>		
事前調査等	－		
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市計画基本図更新</li> <li>3D都市モデル整備（LOD1）</li> </ul>		
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市空間に関する情報の集約による行政事務の効率化</li> <li>観音寺地区における3D都市モデル上での浸水区域の可視化及び避難ルートの検討への活用</li> </ul>		
推進事業	－		
総事業費（予定）	16,130（万円） ※うちR6年度4,527（万円）		
R6年度補助額	2,263.5（万円）		
補助対象外の関連事業	－		
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】</li> <li>PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ】</li> <li>米子市ホームページに掲載 【PLATEAU VIEWのリンク】</li> </ul>		
R6年度委託事業者	国際航業株式会社岡山営業所（都市計画基本図更新、3D都市モデル整備（LOD1）、都市空間に関する情報の集約による行政事務の効率化、観音寺地区における3D都市モデル上での浸水区域の可視化及び避難ルートの検討への活用）		

PLATEAU

by MLIT

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 37.鳥取県米子市

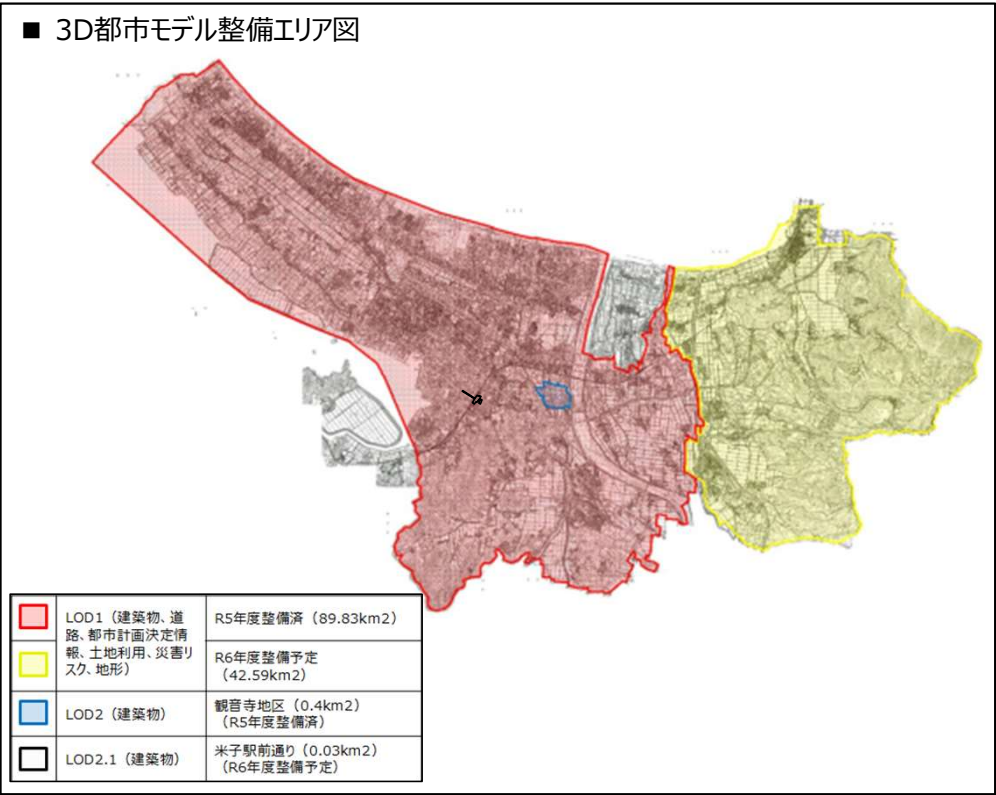
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定 情報 土地利用 災害リスク 地形	米子境港都市計画区域 淀江都市計画区域 都市計画区域外	89.83km <sup>2</sup> 25.80km <sup>2</sup> 16.79km <sup>2</sup>	R5年度整備済 R6年度整備 R6年度整備
LOD2	建築物	観音寺地区	0.4km <sup>2</sup>	R5年度整備済

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2	建築物	米子駅前通り	0.01Km <sup>2</sup>	R7年度整備
LOD3	建築物 道路 都市整備 植生	米子駅前通り	0.01Km <sup>2</sup>	R7年度整備

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5-15万	100-200	3-5千



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	3.都市計画基本図（修正）	R5-R6年度	2,500
測量成果	3.既存資料（航空写真）	R5年度	2,500
属性情報	1.都市計画基礎調査（既存）	R4年度	2,500

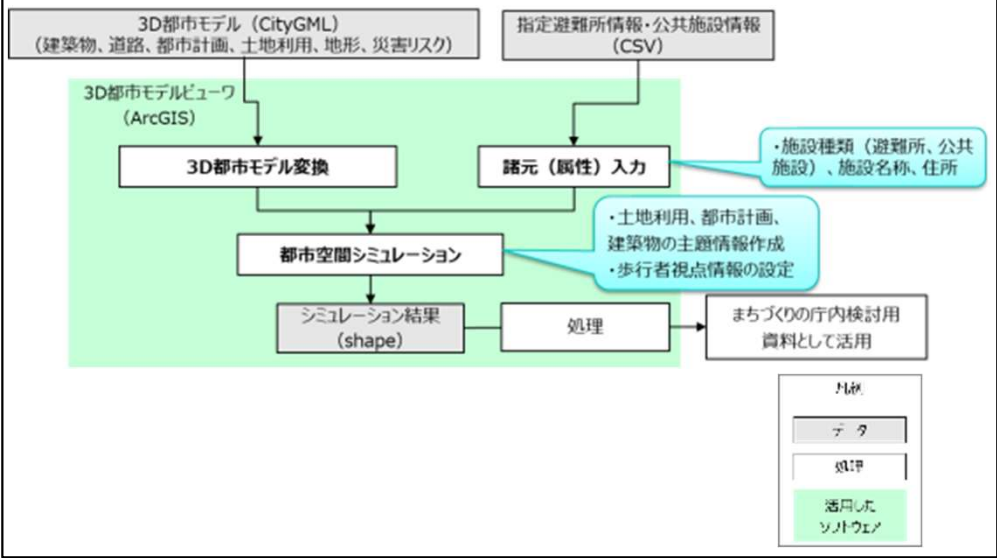
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 37.鳥取県米子市

■ ユースケース①概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	都市空間に関する情報を3D可視化し一元化することで、都市計画立案の検討や窓口業務の効率化、民間開発における情報収集の効率化のために活用する。
取組内容	3D都市モデル上に都市空間に関連するデータを重ね合わせ、データ利活用の推進を図り、データの流通、活用することで自立的で個性豊かな地域社会の形成、新たな事業の創出を目指す。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5-15万	100-200	3-5千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年)</li><li>都市計画決定情報LOD1 (区域名称)</li><li>災害リスクLOD1 (浸水想定区域 (洪水、津波)、土砂災害警戒区域)</li><li>交通 (道路) LOD1 (名称、機能、用途)</li><li>土地利用LOD1 (名称、用途)</li><li>地形LOD1 (名称)</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>指定避難所情報 (避難所名称、所在地、災害種類)</li><li>公共施設情報 (公共施設名称、所在地)</li></ul>
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>作成した3D都市モデル (建築物、都市計画、災害リスク等) を用いて、米子市のまちなみを3Dにて可視化するため、ArcGISで閲覧できるようにジオデータベースに変換する。</li><li>ジオデータベースに変換した3D都市モデルを活用して、ArcGISの機能を利用し主題データの作成機能、歩行者視点ナビゲーション機能等を実行。</li><li>シミュレーション結果を活用し、建物高さの色分け、都市計画基礎調査情報の色分け (土地利用等)、災害リスクの色分け (浸水深) などの設定を行い、各種主題データを作成する。作成された情報をもとに、地区ごとに歩行者視点による可視化を行う。</li><li>作成された各種主題データはまちづくりの内部検討用資料として活用し、検討対応の効率化を図る。また、市HPに公開することで広く都市の状況を周知する。</li></ul>
政策・事業での活用	3D都市モデルビュー (3D都市モデルに都市計画情報や施設情報を実装し都市空間を可視化) をアウトプットとし、まちづくりの庁内検討に活用。
オープンデータ化情報発信	PLATEAU VIEWに搭載後、米子市HPにPLATEAU VIEWのリンクを掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
各種対応を行った職員が効率的と感じた割合 (%)	90% (R6年度)	90% (R6年度)
職員の作業に対して効率化されたと感じた割合 (%)	90% (R6年度)	90% (R6年度)
公開された3D都市モデルの閲覧件数 (件/年)	6,000件/年 (R6年度)	608件/年 (R6年度)
KPI未達を受けての今後の対応	閲覧件数を増やし更なるデータ利活用推進を図るため、不動産・建設事業者、地域のまちづくり関係者、地元の学生等へ3D都市モデルの整備を行ったことについてHP等を使い更なる広報を行う。	

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

37.鳥取県米子市

■ ユースケース開発成果イメージ図



都市空間イメージの3D化  
米子駅周辺及び駅前通りについて  
LOD2.1で整備



■ 今後の展望

本市が進める、歩いて楽しいまちづくりにおいて米子駅周辺の賑わい創出及び駅前通りの歩行者中心の空間の形成等に向けた検討に活用する。

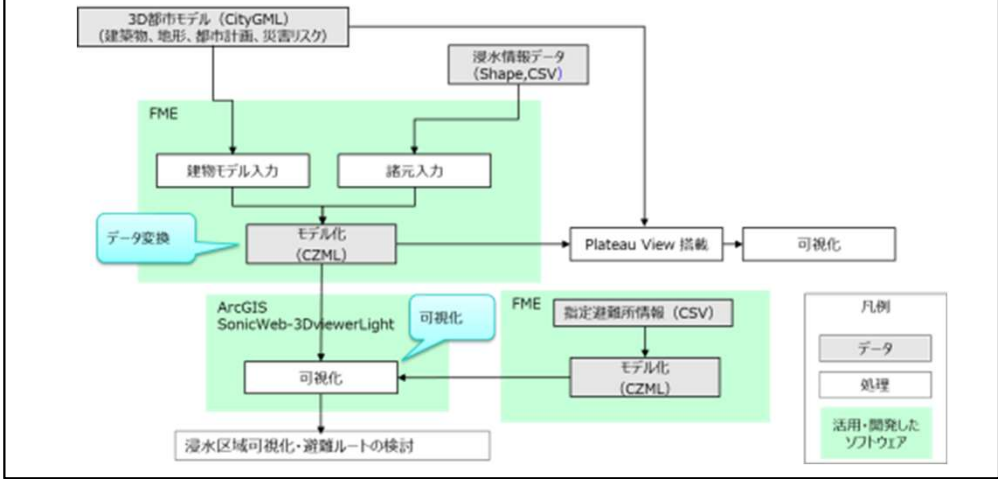
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5-15万	100-200	3-5千



■ ユースケース②概要

分野	防災・防犯
目的	居住誘導区域に指定している観音寺地区地域住民の自主防災意識の向上を図る。
取組内容	令和5年3月に策定した立地適正化計画の中で、観音寺地区は居住誘導区域に指定しているが、浸水ハザード地域となっている。そこで、3D都市モデル上に浸水シミュレーションデータを重ね合わせ浸水区域を可視化する。可視化されたデータを庁内の検討会や防災訓練等で使用し、より最適な避難場所・避難ルートの検討に活用する。 3D都市モデル上に重ね合わせた浸水シミュレーションデータを用いて説明することで、リアルで分かりやすい説明を実現し、地域住民の防災意識の啓発や災害リスクの理解度を深め、地域防災力の向上に繋げることに活用する。

■ システム構成図





Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

37.鳥取県米子市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1, LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年)</li><li>地形LOD1 (名称)</li><li>都市計画決定情報LOD1 (区域名称の区域の範囲、区域の種類)</li><li>災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、起こりうる災害の内容)</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>指定避難所情報 (避難所名称、所在地、災害種類)</li><li>浸水情報データ (浸水想定区域)</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>浸水想定区域のshpデータをFME (変換ソフト) を活用してczml形式に変換し、3Dビューワで表示可能にする。</li><li>czml形式に変換した浸水想定区域のデータを3Dビューワで表示し、3D都市モデルと重ね合わせる。</li><li>3D都市モデルと浸水想定区域を重ね合わせて表示することにより、建物のどの高さまで浸水するか把握することが可能となり、より最適な避難場所・避難ルートを検討可能とする。</li><li>上記の結果を用いて、庁内の検討会や防災訓練等で、図面に比べよりリアルな説明が可能となる。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物・道路等、浸水想定区域の重畳による正確な水害リスクの可視化により、効果的かつ具体的な避難ルートを検討する。</li><li>可視化した水害リスクは、地域防災計画や避難計画の検討に向け、危機管理部門・道路整備部門等庁内で活用する。</li><li>水害リスクを市民に公開し、市民の防災意識の向上を図る。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	PLATEAU VIEWに搭載後、米子市HPIにPLATEAU VIEWのリンクを掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
検討した避難ルートを地域の防災訓練等に活用した際の、「災害リスクについての理解が深まった」とするアンケート回答の割合 (%)	30%/地区 (R6年度)	— (未活用) (R6年度)
KPI未達を受けて の今後の対応	今後、引き続き地域防災等に活用できるよう担当部署との調整を図りながら、市民の防災意識の向上を図るために3D都市モデルを活用する。	

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5-15万	100-200	3-5千



■ ユースケース開発成果イメージ図



避難先の可視化

避難ルート検討ユースケースの効果をより高めることを目的として、災害種別に応じた避難先（避難所・避難場所）を色分け表示及びアイコンで可視化した。また、避難所の収容人数等を地域防災計画から作成し、アイコンの属性情報として付与した。

また、市民が避難ルートを検討する際の目標物となる公共施設について、アイコンで可視化した。



時系列浸水シミュレーションイメージ

日野川水系日野川・法勝寺川洪水浸水想定区域図データ、及び斐伊川水系中海浸水想定区域図データを用いて時系列毎の浸水シミュレーションデータを作成し、「PLATEAU VIEW」および「SonicWeb-3Dviewer Light」に可視化した。なお、浸水シミュレーションデータ作成については、日野川（3箇所）、法勝寺川（2箇所）、中海（2箇所）の破堤点にて作成した。

■ 今後の展望

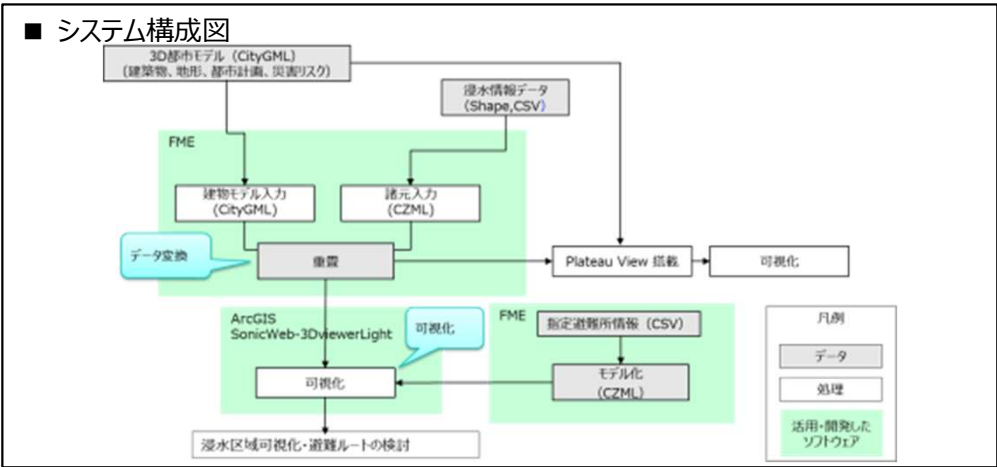
・検討した避難ルートを地域の防災訓練等に活用し、地域住民の防災意識の啓発を行い、災害リスクについての理解を深めたい。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

37.鳥取県米子市

■ ユースケース③概要

分野	防災・防犯
目的	情報の可視化、庁内の検討での活用、住民の自主防災意識の向上を図る。
取組内容	<p>令和5年3月に策定した立地適正化計画の中で、居住誘導区域に指定した市街地の広い範囲が浸水ハザード地域となっている。そこで、3D都市モデル上に浸水シミュレーションデータを重ね合わせ事前域における浸水区域を可視化する。</p> <p>可視化されたデータを庁内の検討会や防災訓練等で使用し、より最適な避難場所・避難ルートの検討に活用する。</p> <p>3D都市モデル上に重ね合わせた浸水シミュレーションデータを用いて説明することで、リアルで分かりやすい説明を実現し、地域住民の防災意識の啓発や災害リスクの理解度を深め、地域防災力の向上に繋げることに活用する。</p>



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5-15万	100-200	3-5千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1、LOD2（名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年）</li><li>地形LOD1（標準地域メッシュコード、納品日）</li><li>都市計画決定情報LOD1（区域名称の区域の範囲、区域の種類）</li><li>災害リスクLOD1（洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、起こりうる災害の内容）</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>指定避難所情報（避難所名称、所在地、災害種類）</li><li>浸水情報データ（浸水想定区域）</li></ul>
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>浸水想定区域のshpデータをFME（変換ソフト）を活用してczml形式に変換し、3Dビューワで表示可能にする。</li><li>czml形式に変換した浸水想定区域のデータを3Dビューワで表示し、3D都市モデルと重ね合わせる。</li><li>3D都市モデルと浸水想定区域を重ね合わせて表示することにより、建物のどの高さまで浸水するかを把握することが可能となり、より最適な避難場所・避難ルートを検討可能とする。</li><li>上記の結果を用いて、庁内の検討会や防災訓練等で、図面に比べよりリアルな説明が可能となる。</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物・道路等、浸水想定区域の重畳による正確な水害リスクの可視化により、効果的かつ具体的な避難ルートを検討する。</li><li>可視化した水害リスクは、地域防災計画や避難計画の検討に向け、危機管理部門・道路整備部門等庁内で活用する。</li><li>水害リスクを市民に公開し、市民の防災意識の向上を図る。</li></ul>
オープンデータ化情報発信	PLATEAU VIEWに搭載後、米子市HPにPLATEAU VIEWのリンクを掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
時系列シミュレーションにより浸水状況等の把握に役立つと感じる防災関係部署職員の割合（％）	80％（R6年度）	80％（R6年度）

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 37.鳥取県米子市

■ ユースケース開発成果イメージ図



時系列浸水シミュレーションイメージ

日野川水系日野川・法勝寺川洪水浸水想定区域図データ、及び斐伊川水系中海浸水想定区域図データを用いて時系列毎の浸水シミュレーションデータを作成し、「PLATEAU VIEW」および「SonicWeb-3Dviewer Light」に可視化した。なお、浸水シミュレーションデータ作成については、日野川（3箇所）、法勝寺川（2箇所）、中海（2箇所）の破堤点にて作成した。

■ 今後の展望

検討した避難ルートを地域の防災訓練等に活用し、地域住民の防災意識の啓発を行い、災害リスクについての理解を深めたい。

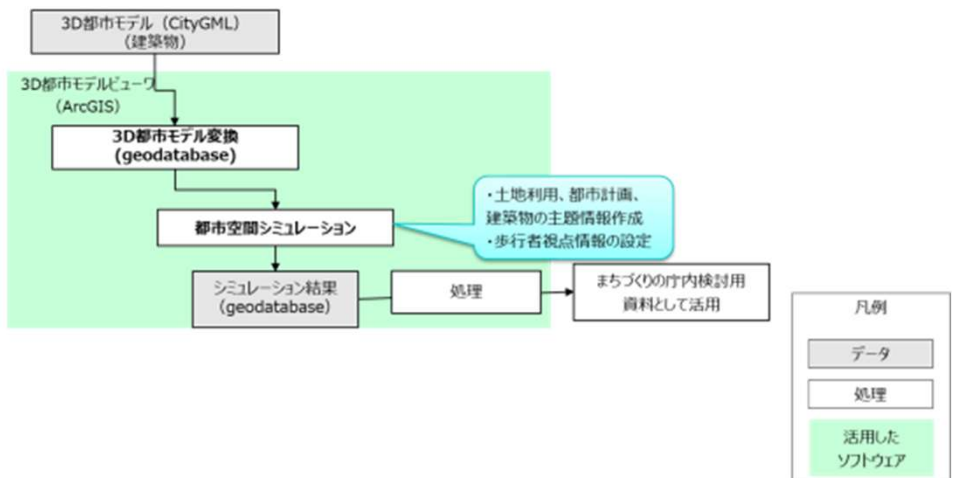
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5-15万	100-200	3-5千



■ ユースケース④概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	様々な社会実験や検討に活用するため、米子駅及び駅前通りに面する建築物をLOD2.1 で整備する。
取組内容	賑わい創出に向けた取組を検討している米子駅前通り周辺において、3次元空間をよりリアルに再現することで、様々な社会実験や検討に有益なデータを整備し活用する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

37.鳥取県米子市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	建築物LOD2.1（名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年）
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>指定避難所情報（避難所名称、所在地、災害種類）</li><li>公共施設情報（公共施設名称、所在地）</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>作成した3D都市モデルに都市空間情報（建築物、都市計画、災害リスク等）を用いて、米子市のまちなみを3Dにて可視化するため、ArcGISで閲覧できるようにジオデータベースに変換する。</li><li>ジオデータベースに変換した3D都市モデルを活用して、ArcGISの機能を利用し主題データの作成機能、歩行者視点ナビゲーション機能等を実行する。</li><li>シミュレーション結果を活用し、対象地区の歩行者視点による可視化を行う。</li><li>作成された各種主題データはまちづくりの内部検討用資料として活用し、検討対応の効率化を図る。また、市HPに公開することで広く都市の状況を周知する。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルビューワ（3D都市モデルに施設情報を実装し都市空間を可視化）をアウトプットとし、まちづくりの庁内検討に活用</li><li>賑わい創出に向けた取組を検討している米子駅前通り周辺に限定して、3次元空間をよりリアルに再現することで、様々な社会実験や検討に有益なデータを整備し活用</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	PLATEAU VIEWに搭載後、米子市HPにPLATEAU VIEWのリンクを掲載

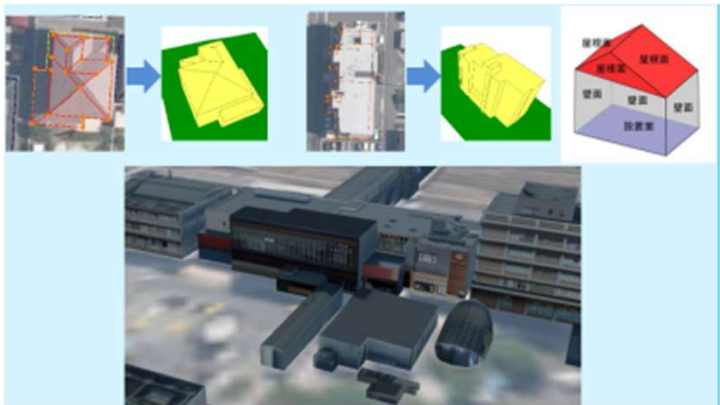
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
庁内組織（歩いて楽しいまちづくりWG）の職員に実施するアンケート調査において、3D都市モデルを施策に活用できると感じた職員の割合（%）	80% (R6年度)	80% (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5-15万	100-200	3-5千



■ ユースケース開発成果イメージ図



建築物LOD2.1の作成

建築物のLOD2は、空中写真撮影成果等を用いて、屋根形状を取得し作成した。また、オプリークカメラにより撮影した空中写真データおよび手持ちカメラにより撮影した写真データ（米子駅周辺）からテクスチャを生成し、幾何オブジェクト（LOD2.1）の屋根や壁面に貼り付けた。

■ 今後の展望

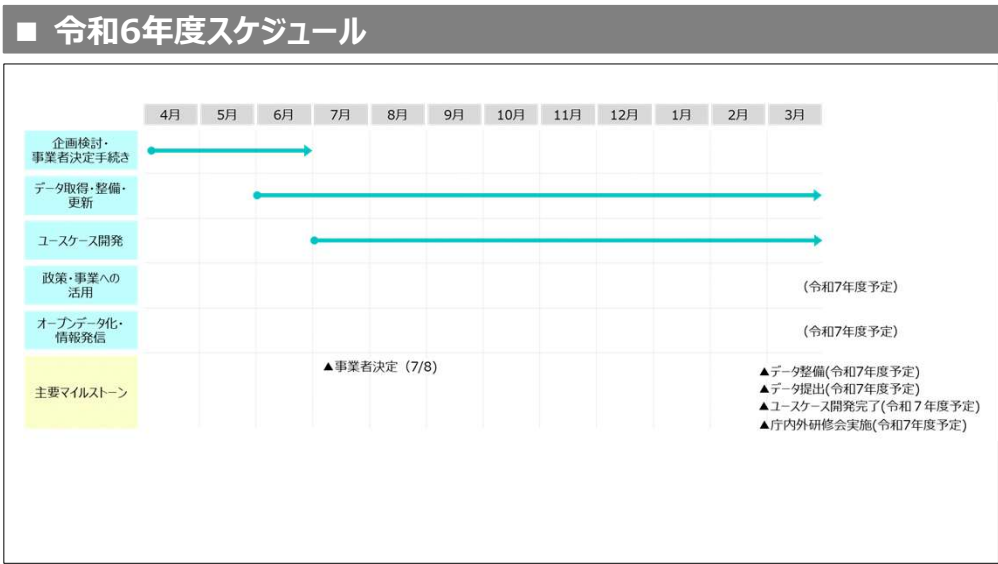
本市が進める、歩いて楽しいまちづくりにおいて米子駅周辺の賑わい創出及び駅前通りの歩行者中心の空間の形成等に向けた検討に活用する。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 38. 島根県松江市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	約20万人（令和6年4月時点）
市域全域面積	572.96km <sup>2</sup> （令和6年4月時点）
主な産業 地域課題等	当市は、島根県の東部、山陰地方の中央部に位置する中核市。島根半島部の景観美しいリアス式海岸、中央部には中海・宍道湖、南部には緑豊かな山々を有する、水と緑に囲まれた自然豊かな都市。人口は約20万人。宍道湖から中海に注ぐ大橋川によって松江の市街地は南北に二分されているおり、国宝・松江城の堀から広がる水路「松江堀川（通称：堀川）」が縦横に走る「水の都」には、コロナ禍前は年間1000万人の観光客が訪れた。当市の将来像「夢を実現できるまち 誇れるまち 松江」をつくるために、すべての分野で①人口減少対策の推進②文化力を生かしたまちづくり③デジタル技術の活用（DX）の3点を推進している。



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	5-10千

担当部局	都市政策課
------	-------

■ 補助事業実施項目	
目標	DX推進による魅力ある都市デザインの推進と市民サービスの向上
課題	まちづくりにおける市民の合意形成や理解度の向上 都市計画業務の効率化・高度化
創出価値	<ul style="list-style-type: none"><li>市民向けの説明会などの合意形成の場で3D都市モデルを活用することで、市民等が視覚的、立体的に理解できるようにする。</li><li>3D都市モデルを活用し、用途地域や特定用途制限地域の検討など都市計画の施策立案につなげ、都市計画図閲覧の高度化や申請証明業務を効率化する。</li></ul>

3D都市モデル 整備・更新	<ul style="list-style-type: none"><li>都市計画基本図作成/更新</li><li>3D都市モデル整備（LOD1, LOD2, LOD3）</li></ul>
ユースケース 開発	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルを活用したまちづくり関連施策検討事業</li><li>3D都市モデルを活用した新たな土地利用制度検討事業</li></ul>

総事業費（予定）	10,217.5（万円） ※うちR6年度10,000.2（万円）
R6年度補助額	4,999.9（万円）

オープンデータ化・ 可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル/UCデータ/関連データ】</li><li>PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル/UCデータ/関連データ】</li><li>松江市ホームページに掲載 【人流可視化結果】</li></ul>
-----------------------	---

R6年度 委託事業者	アジア航測株式会社（3D都市モデルの整備・更新、ユースケース開発）
---------------	-----------------------------------



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 38.島根県松江市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	松江市全域	572.96km <sup>2</sup>	R6年度整備
LOD2	建築物	中心市街地及びその周辺	約3.54km <sup>2</sup>	R6年度整備



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	5-10千



LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2.1	橋梁	松江市を象徴する橋梁	4本	R6年度整備
LOD3	道路	松江市を象徴する橋梁の上の道路	4本	R6年度整備
LOD3.3	建築物	松江城	1棟	R6年度整備

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（新規作成）	R6年度	2,500
	都市計画基本図（修正）	R3～6年度	2,500
	基盤地図情報	R6年度更新	—
測量成果	既存資料（航空写真）	R4年度	1,000
	既存資料（航空レーザー）	R3年度	4点/m <sup>2</sup>
	UAVレーザー測量データ	R6年度	200点/m <sup>2</sup>
	LidarSLAMデータ	R6年度	400点/m <sup>2</sup>
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	H30年度	2,500
	都市計画決定情報	～R3年度	2,500
	建築計画概要書	確認中	—
	立地適正化計画	H30年度	2,500

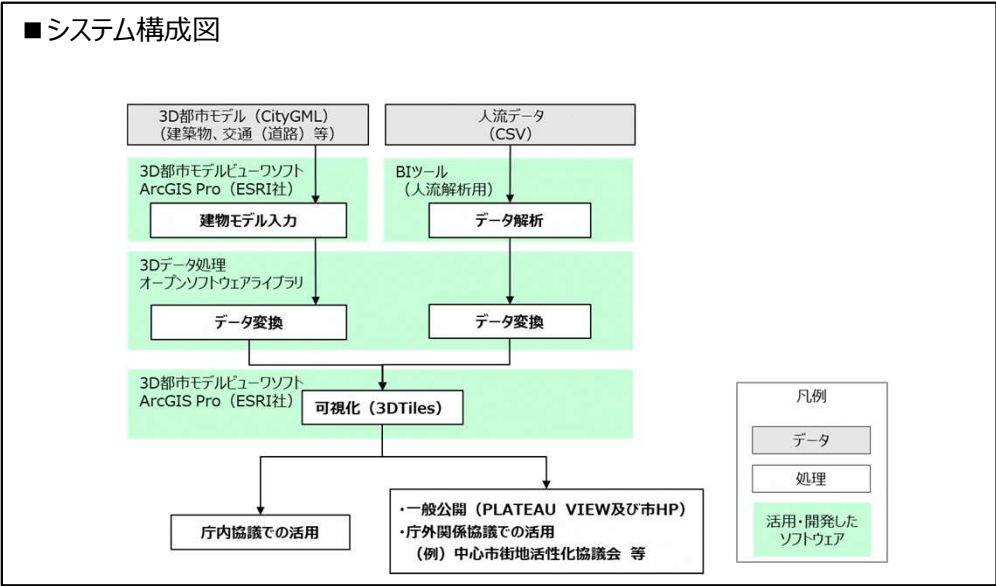
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 38.島根県松江市

■ ユースケース①概要 ※令和6年度末時点での想定であり、変更の可能性がある

分野	都市計画・まちづくり
目的	中心市街地における賑わい創出の可能性の検討。
取組内容	3D都市モデル上に都市計画決定情報、立地適正化計画における誘導区域や土地利用情報、災害リスク情報を重ね合わせ、今後様々な施策の検討に活用できるようビューを構築する。 当市では、JR松江駅から国宝松江城に至るエリアについて、中心市街地の魅力向上を推進している。人流データを3D都市モデルに重ね合わせ、中心市街地における人の流れ（滞留）を可視化し、効果的、効率的に賑わい創出の可能性を検討する。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	5-10千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD2, LOD3.3 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年 等)</li><li>交通 (道路) LOD 1, LOD3 (名称、分類、機能、用途 等)</li><li>橋梁LOD2.1 (名称、分類、機能 等)</li><li>都市計画決定情報LOD1 (区域名称の区域の範囲、区域の種類、立地適正化計画等)</li><li>土地利用情報LOD1 (分類)</li><li>災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、起こりうる災害の内容)</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>人流データ (性別、年代、推定居住地 (市内又は市外) 等)</li></ul>
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルをFMEにて3DTilesにデータに変換する。</li><li>中心市街地の人流データを調達し、BIツールでの解析結果をFMEにて3DTilesにデータ変換する。</li><li>上記のデータを3Dビューを用いて、統合・可視化する。</li><li>建築物や人流を3Dで可視化し、庁内での各種施策協議や庁外関係者協議で活用する。</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>中心市街地で賑わい創出のため実施されている各種施策や社会実験の効果をj知るため、人の流れ（滞留）を可視化し、効果的、効率的に賑わい創出の可能性を検討する。</li><li>市民や事業者公開し、官民連携での中心市街地の魅力向上に向けて取組む。</li></ul>
オープンデータ化情報発信	人流可視化結果を松江市ホームページに掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
まちづくり関連部署の職員に対するアンケートで、3D都市モデルが市街地における賑わい政策立案等に役立つと回答した職員の割合 (%)	70% (R6年度)	R7年度 計測予定

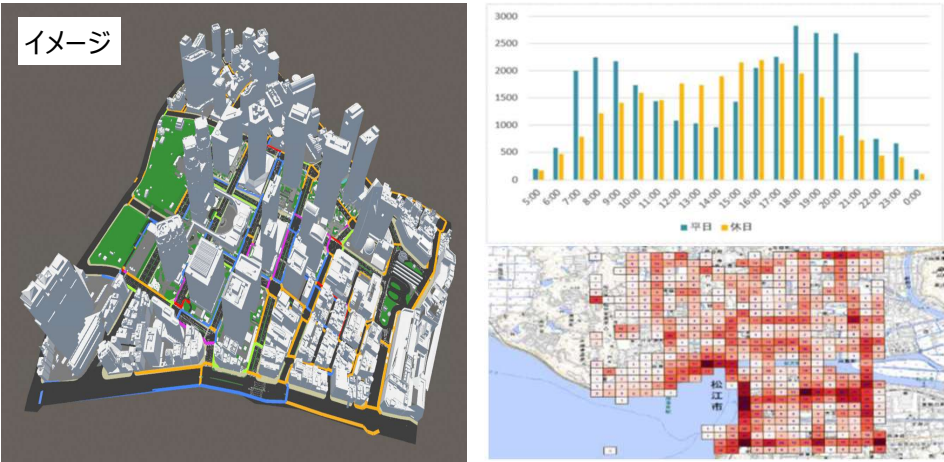
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 38. 島根県松江市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	5-10千



■ ユースケース開発成果イメージ図



(引用元 : uc22-023)

■ 人流の可視化

■ 中心市街地及びその周辺の人流解析

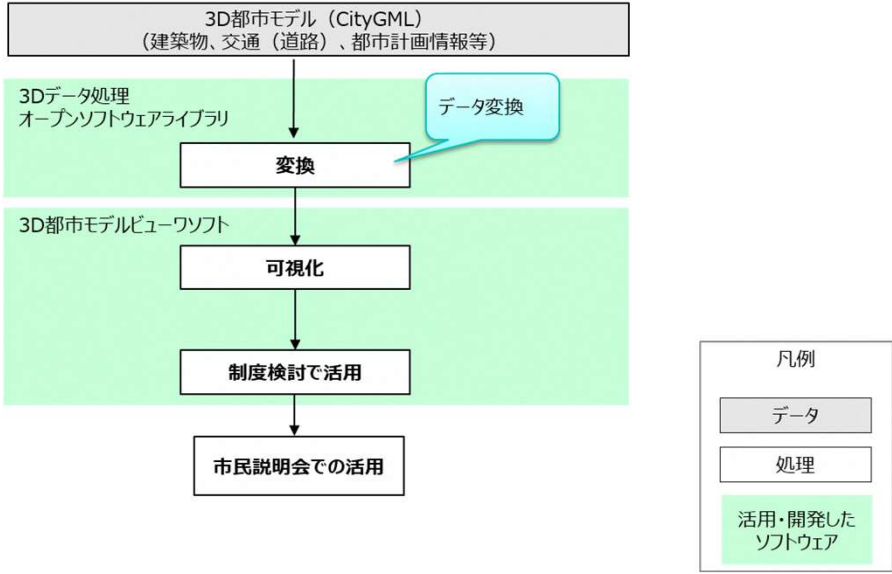
■ 今後の展望

庁内外で3D都市モデルの説明会を実施し、まちづくり分野以外の分野でも活用されるよう周知・啓発していきたい。

■ ユースケース②概要 ※令和6年度末時点での想定であり、変更の可能性がある

分野	都市計画・まちづくり
目的	市民向けの説明会などの合意形成の場での活用。
取組内容	令和8年度中に向けて検討中の「線引き制度を用いない土地利用制度」の構築に向けて、都市計画区域全体で3D都市モデルを構築し、制度の考え方について、市民や民間事業者、その他関係者にわかりやすく情報を提供する。

■ システム構成図





Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 38.島根県松江市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD2（名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年等）</li><li>建築物LOD1（名称、計測高さ、等）</li><li>交通（道路）LOD1（名称、分類、機能、用途等）</li><li>都市計画決定情報LOD1（区域名称の区域の範囲、区域の種類等）</li><li>立地適正化計画LOD1（立地適正化計画における誘導区域）</li><li>土地利用情報LOD1（分類）</li><li>災害リスクLOD1（洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、起こりうる災害の内容）</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>令和8年度中に向けて検討中の「線引き制度を用いない土地利用制度」の構築に向けて、新たな土地利用制度の検討内容を可視化する。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>市民向けの説明会などの合意形成の場で活用し、市民等が視覚的、立体的に理解できるようにする。</li><li>3D都市モデルを活用し、用途地域や特定用途制限地域の検討など都市計画の施策立案につなげ、都市計画図閲覧の高度化や申請証明業務を効率化する。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	人流可視化結果を松江市ホームページに掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
新たな土地利用制度についての市民の理解 (アンケート) (%)	50% (R6年度)	R7年度 計測予定

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	5-10千



■ ユースケース開発成果イメージ図



(引用元：uc23-07)

■「線引き制度を用いない土地利用制度」の構築に向けて、用途地域や特定用途制限地域の検討などで活用。

■ 今後の展望

庁内外で3D都市モデルの説明会を実施し、まちづくり分野以外の分野でも活用されるよう周知・啓発していきたい。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

39.島根県益田市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	約4.5万人（令和7年3月時点）
市域全域面積	733.20km <sup>2</sup> （令和7年3月時点）
主な産業 地域課題等	<p>島根県の最西部に位置し、西部の中心都市。 中心市街地は、医療・福祉・教育や商工業など都市機能が集積しており、豊かな自然や歴史的・文化的資源が多い。また、都心を結ぶ空港を有している。</p> <p>取り組むべき課題は、複雑化する地域課題に対応できる協働体制の構築、本市の将来を担う人材を育成する「ひとづくり」の推進、関係人口の拡大による将来の定住人口増加の推進、本市の実情に合わせた先端技術の活用による市民生活の向上。</p> <p>上記課題に解決するため、DX推進による社会変化に対応した持続可能なまちの実現を大きな目標とし、「益田市自治体DX取組方針」にもとづき、DXの“X”（変革、改革）に重点を置いた取組を推進している。</p> <p>DXによる先端技術の活用により、市民目線の業務改革と職員の意識改革を進め、「市民の利便性向上」及び「内部業務の効率化」をめざすとともに、それらを推進する「人材育成」に取り組む。</p>
■ 令和6年度スケジュール	

分野

人口規模

面積規模

予算規模

街・活

1－3万

500以上

1－2千

担当部局

都市整備課

■ 補助事業実施項目

目標	DX推進による社会変化に対応した持続可能なまちの実現		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複雑化する地域課題に対応できる協働体制の構築</li> <li>・本市の将来を担う人材を育成する「ひとづくり」の推進</li> <li>・関係人口の拡大による将来の定住人口増加の推進</li> <li>・本市の実情に合わせた先端技術の活用による市民生活の向上</li> </ul>		
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DX推進による社会変化に対応した持続可能なまちづくりの実現</li> <li>・先端技術の活用による、市民目線の業務改革と職員の意識改革が進み「市民の利便性向上」や「内部業務の効率化」及び「人材育成」</li> </ul>		
事前調査等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画準備、資料収集整理、拡張製品仕様書作成</li> </ul>		
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3D都市モデル整備（LOD1, LOD2）</li> </ul>		
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3D都市モデルを活用したまちづくり関連施策検討事業</li> <li>・ 3D都市モデルを活用した人流情報活用事業</li> </ul>		
推進事業	—		
総事業費（予定）	1,005（万円）		
R6年度補助額	1,000（万円）		
補助対象外の関連事業	—		
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】</li> <li>・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】</li> <li>・ 益田市ホームページに掲載予定 【PLATEAU VIEWのリンク】</li> </ul>		
R6年度委託事業者	国際航業株式会社（3D都市モデルの整備・更新、ユースケース開発）		

PLATEAU

by MLIT



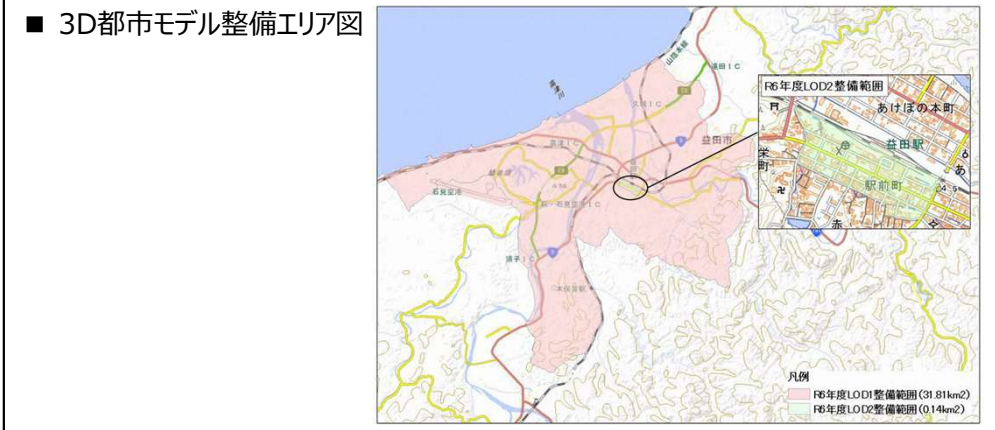
PLATEAU  
by MLIT

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 39.島根県益田市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 地形	益田都市計画区域および石見空港	31.81km <sup>2</sup>	R6年度整備
	都市計画決定情報 土地利用 災害リスク	益田都市計画区域	30.94km <sup>2</sup>	R6年度整備
LOD2	建築物	益田駅前空間	0.14km <sup>2</sup>	R6年度整備



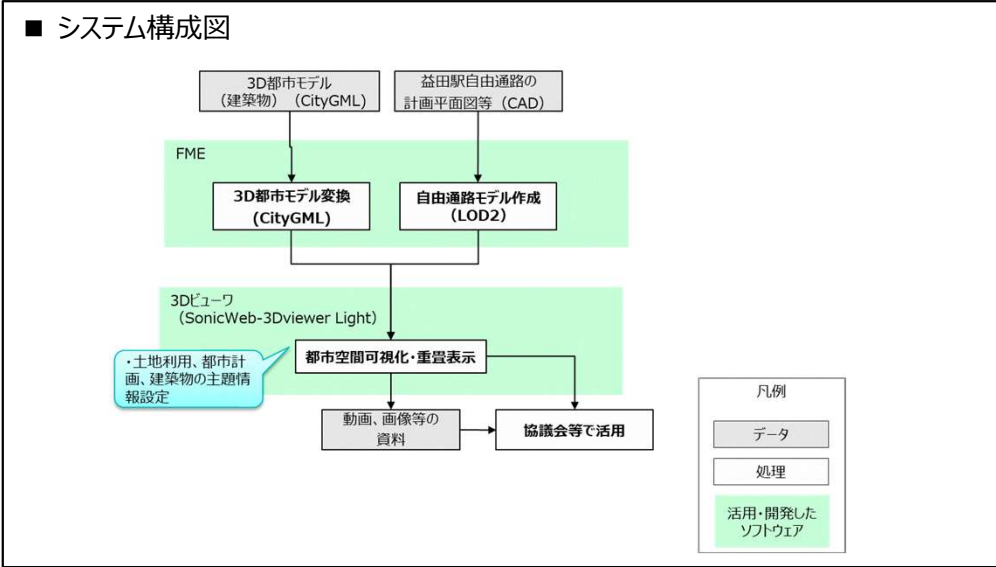
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	H24年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	H23年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	H8年度	—
	益田市市立地適正化計画	R5年度	2,500

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活	1-3万	500以上	1-2千



■ ユースケース①概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	都市空間に関する情報を3D可視化し一元化することで、都市計画立案の検討や窓口業務の効率化、民間開発における情報収集の効率化のために活用する。
取組内容	3D都市モデル（都市計画決定情報や土地利用情報、災害リスク情報）を重ね、今後の都市開発の検討に活用（可視化等）する。 また、益田駅周辺南北エリアのまちづくり将来像を3D都市モデル上に重ね合わせ、益田駅の将来イメージを関係機関と共有し合意形成を促進するための資料とする。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

39.島根県益田市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	建築物LOD1,LOD2 (名称、用途、計測高さ)
活用データ (上記以外)	益田駅自由通路の計画平面図等 (CAD)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>対象区域の3D都市モデルを3Dビューワ (SonicWeb-3Dviewer Ligh) で可視化できるように既存の3D都市モデルデータ変換ツールを用いて3Dtileに変換する。</li><li>概略図等の検討図面をもとに益田駅周辺南北エリアが連携したまちづくりの将来イメージをLOD2データ (3次元化) で作成する。</li><li>作成したデータは3Dビューワ上で、既存の3D都市モデルと重ね合わせる。</li><li>3Dビューワにて、建物高さの色分け、都市計画基礎調査情報の色分け (土地利用等)、災害リスクの色分け (浸水深) などの設定を行い、主題属性を可視化する。可視化された属性情報をもとに、地区ごとに歩行者視点による可視化を行う。</li></ul>
政策・事業での 活用	3D都市モデルビューワ (3D都市モデルに都市計画情報や施設情報を実装し都市空間を可視化) をアウトプットとし、まちづくりの庁内検討に活用
オープンデータ化 情報発信	—

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルを利用した活用回数 (回)	1回 (R6年度)	1回 (R6年度)
内部業務の作業時間が効率化したと感じる人の割合 (アンケート) (%)	70% (R10年度)	未計測 2026/1～3集計

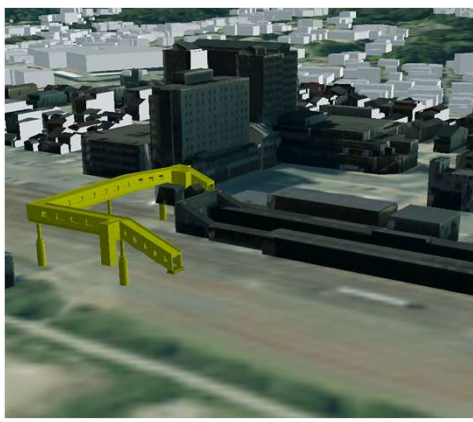
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活	1-3万	500以上	1-2千



■ ユースケース開発成果イメージ図



洪水浸水想定区域の可視化  
3D都市モデルの整備データ  
及びユースケースの重畳①



益田駅自由通路の完成イメージ  
3D都市モデルの整備データ  
及びユースケースの重畳②

■ 今後の展望

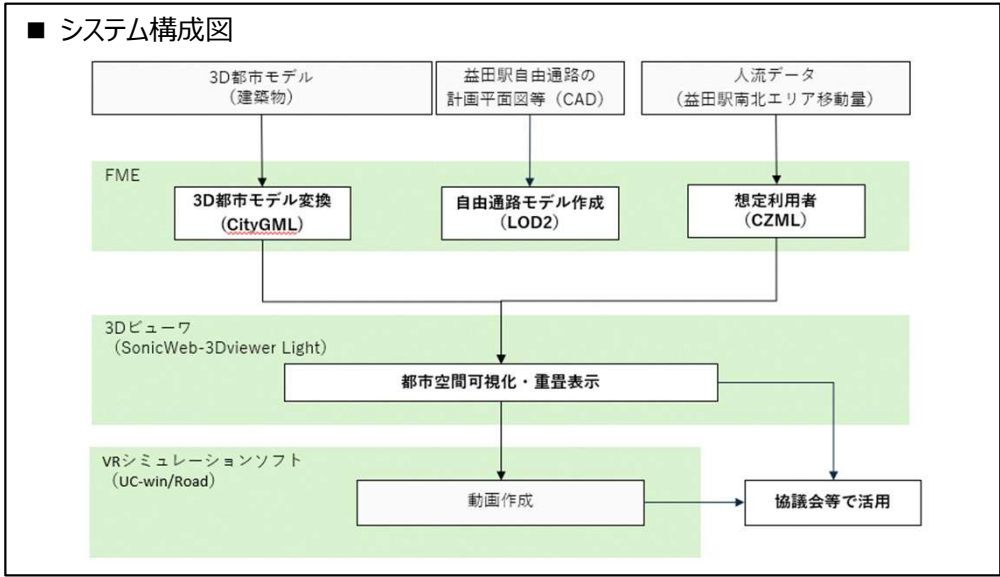
今年度調査した人流データを活用して、観光誘致のためにも益田駅前開発を含めて中心市街地活性化に活用したい。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 39.島根県益田市

■ ユースケース②概要	
分野	地域活性化・観光・コンテンツ
目的	市民や来訪者の人流を可視化・分析を行い、交通結節拠点を中心としたまちづくりの検討に利用する。
取組内容	3D都市モデル上に人流情報を重ね合わせ、人の滞留状況を可視化し、益田駅周辺の賑わい創出の検討を行う。



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活	1-3万	500以上	1-2千



■ ユースケース開発方法	
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD2 (計測高さ)</li><li>建築物LOD1</li><li>土地利用情報LOD1 (土地利用)</li><li>都市計画決定情報LOD1 (区域名称)</li><li>災害リスクLOD1 (浸水想定区域 (洪水))</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>人流データ</li></ul>
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>対象区域の3D都市モデルを3Dビューワ (既存パッケージソフトウェア) で可視化できるように既存の3D都市モデルデータ変換ツールを用いて変換する。</li><li>人流データを調達し、既存人流可視化ツール (BIツール) を用いて滞留状況等を分析する。</li><li>3Dビューワで3D都市モデルと人流情報を重ね合わせて、人の滞留状況を3Dで可視化し、益田駅周辺の賑わい創出の検討に活用する。</li><li>作成されたデータはまちづくりの賑わい創出の参考資料として、今後動画による公開等オープンデータ化を検討する。</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデル上に人流情報を重ね合わせ今後の益田駅自由通路の計画検討や賑わい創出の検討を行う。</li></ul>
オープンデータ化情報発信	PLATEAU VIEWに搭載後、益田市HPにPLATEAU VIEWのリンクを掲載予定

■ KPI		
KPI	目標設定	達成状況
人流情報を活用した活用回数 (回)	1回 (R6年度)	1回 (R6年度)

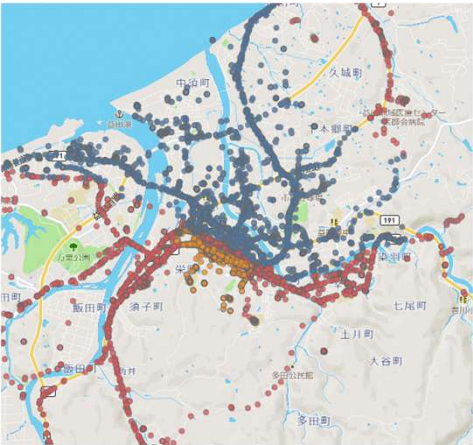
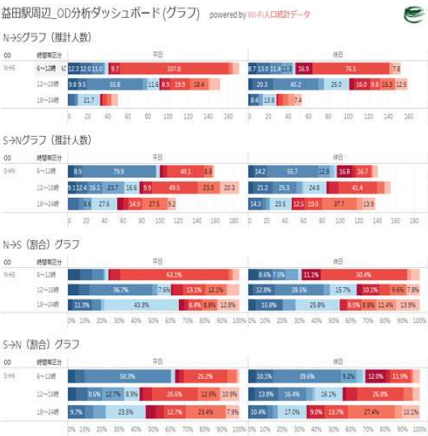
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

39. 島根県益田市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活	1-3万	500以上	1-2千



■ ユースケース開発成果イメージ図



ダッシュボードによる人流把握

- ・人流ビッグデータを用いた益田市内広域の人流分析ダッシュボードを作成
- ・市民や来訪者属性から特性を把握

益田駅南北エリアの移動量解析

- ・今後北エリア・南エリアが連携したまちづくりを進めるため、現在の南北間移動傾向を人流ビッグデータを元に解析

南北自由通路完成時の利用者を動画化

- 南北自由通路完成した場合の近隣住民の利用状況を人流データから予測し、予測結果を動画データにて可視化

■ 今後の展望

益田駅周辺南北エリアのまちづくり将来像を3D都市モデル上に重ね合わせ、今後の中心市街地活性化に活用したい。  
益田市内広域の人流分析データを用いて、市民が利用しやすい住環境、観光客が来訪しやすい情報を発信し、地活性化等に活用していきたい。

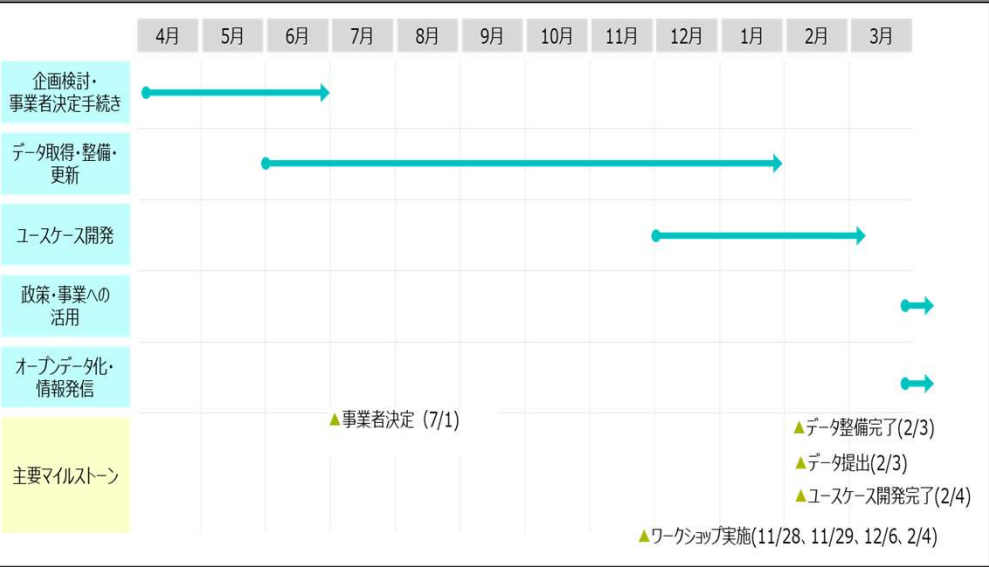
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 40. 島根県隠岐の島町

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	1.3万人（令和6年12月時点）
町域全域面積	242.82km <sup>2</sup> （令和6年4月時点）
主な産業 地域課題等	隠岐の島町は、隠岐諸島最大の島であり、西郷港が地域の交通と交流の中心地であるが人口減少や大型店の郊外移転等により西郷港周辺地域の賑わいの減少が課題となっている。この状況を改善するために、「西郷港玄関口まちづくり計画」を策定した。この計画は住民参加の開かれたワークショップを経て策定したもので「海とまちをつなぎ、世代をつなぐまちづくり」を計画理念とし、みなとエリアの魅力向上、交通の結節点としての機能の強化、災害時の避難場所として機能する台地を中心に安全で安心な地域空間の整備を目指す。令和5年度から10年間をかけて整備を進めている。

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・住	1-3万	200-500	1-2千

担当部局	
------	--

■ 補助事業実施項目

目標	「安心安全なまちづくり」および「世代をつなぐデジタルなまちづくり」の実現
課題	・ 町民の防災意識の向上を促進する。 ・ 多世代にわたる町民のデジタルスキルの向上を促進する。
創出価値	・ 3D都市モデルを活用し、災害リスクをわかりやすく可視化することで災害時ごとの安全な避難経路等の検討に活用する。 ・ 町民が災害時の対応をはじめとする安心安全なまちの実現のために必要な情報の選択や、自らデジタルツールを活用できるようにするためのスキルを身に着ける。

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	・ 3D都市モデル整備（LOD1, LOD2）
ユースケース開発	・ 3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業 ・ 3D都市モデルを活用したデジタル教育活用事業
推進事業	—

総事業費（予定）	5,000（万円） ※うちR6年度1,000（万円）
R6年度補助額	1,000（万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】 ・ 隠岐の島町ホームページに掲載 【デジタル防災マップ】
-------------------	---

R6年度委託事業者	ユーカリヤ・朝日航洋コンソーシアム（株式会社ユーカリヤ、朝日航洋株式会社） （3D都市モデル整備（LOD1, LOD2）、3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業、3D都市モデルを活用したデジタル教育活用事業、3D都市モデルのODサイトの構築）
-----------	--

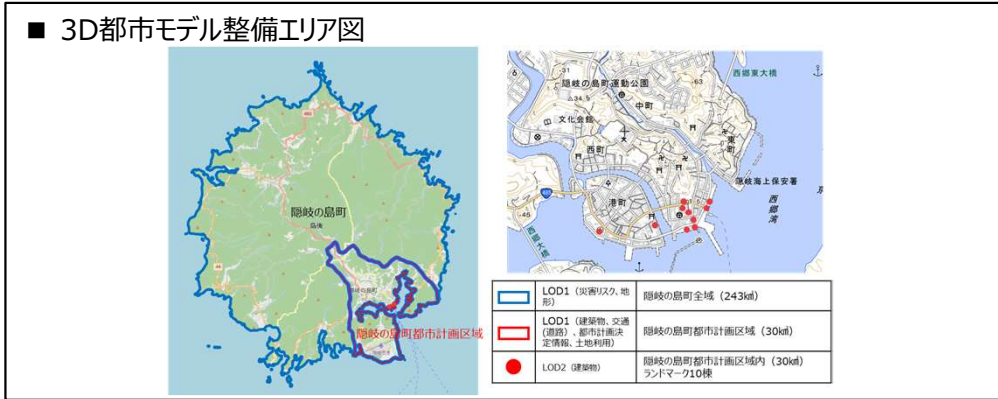


Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 40. 島根県隠岐の島町

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用	隠岐の島町都市計画区域	30.00km <sup>2</sup>	R6年度
	災害リスク 地形	隠岐の島町全域	243.00km <sup>2</sup>	R6年度
LOD2	建築物	ランドマーク10棟	—	R6年度



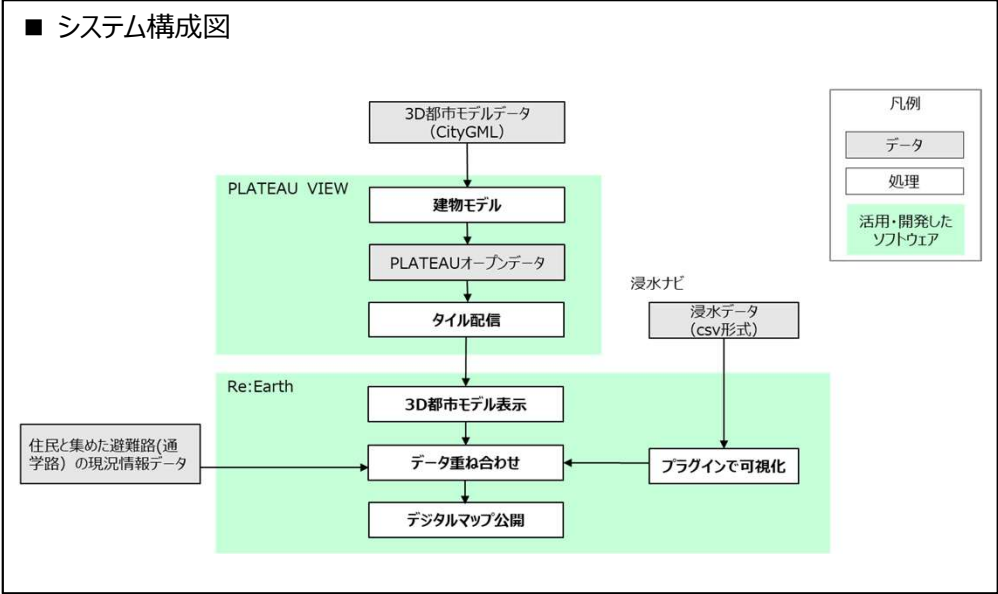
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	数値地形図 (DMデータ)	R4年度	2,500
	基盤地図情報(国土地理院)	—	2,500
測量成果	既存資料(航空写真)	R3年度、H28年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査、都市計画決定情報 (既存)	R3年度、R6年度	—
	立地適正化計画 (既存)	R4年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・住	1-3万	200-500	1-2千



■ ユースケース概要

分野	防災・防犯、住民参加
目的	「安心安全なまちづくり」および「世代をつなぐデジタルなまちづくり」の推進
取組内容	3D都市モデルを活用し、災害リスクをわかりやすく可視化することで、災害時ごとの安全な避難経路等の検討に活用する。 町民が災害時の対応をはじめとする安心安全なまちの実現のために必要な情報を選択し、自らデジタルツールを使い活用できるようにするためのスキルを身に着けることを目指す。





Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

40. 島根県隠岐の島町

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1、LOD2（計測高さ）</li><li>都市計画決定情報LOD1（区域名称の区域の範囲、区域の種類）</li><li>災害リスクLOD1（浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、起こりうる災害の内容）</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>浸水ナビ（想定破堤点、浸水想定、河川の水位情報）</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>通学路にもなっている避難路を実際に歩き、情報を集めてRe:Earthでデジタルマップを作成する(デジタル教育)。</li><li>国土交通省の浸水ナビの情報及び住民参加(ワークショップ)で作成したデジタルマップをRe:Earth上で重畳する。</li><li>Re:Earth等の誰でも利用できるツール上で結果を可視化する。これによって災害時の危険箇所や避難経路の検討をする(防災教育)。</li><li>町民自らデジタルツールを用いて上記の情報を書き込み防災マップを作成する(デジタル教育)。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>Re:Earthを用いて、町民自らが情報を書き込んだデジタル防災マップを作成する。</li><li>作成したデジタル防災マップは、まちづくり事業の説明会等に活用予定。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	隠岐の島町ホームページにデジタル防災マップを掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
地域の災害リスクについての理解 (%)	60% (R6年度)	72.4% (R6年度)
デジタルツールの活用についての理解 (%)	60% (R6年度)	72.9% (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・住	1-3万	200-500	1-2千



■ ユースケース開発成果イメージ図



- 小学5年生、中学3年生を対象に各3回ワークショップを行った。
- 1回目のワークショップでは、小学校の通学路でもある避難路を歩きながら、災害時に危険が予測される箇所を探し、写真とメモを取り、タブレットを用いてデータベースを作成した。
- 2回目のワークショップでは、1回目に作成したデータベースをパソコンを用いてRe:Earth上に可視化する作業を行った。子どもたちは自分たちが集めた情報を地図上で視覚的に確認できるようになった。
- 3回目のワークショップでは、Re:Earthのデジタルマップに3D都市モデルデータを重ね合わせたデジタル防災マップを基に、津波や洪水などの災害が発生した際にどの場所がどれくらいリスクを抱えているのか、自分たちが見つけた危険が予測される箇所はどうなるのか、より具体的にイメージし、状況に応じた避難経路の選定シミュレーションを行った。
- デジタル防災マップの作成により、デジタル教育と防災教育が融合し、より効果的で実践的な学びが実現した。これによりまちを知り、災害に対する備えを具体的にかつ実践的に理解することに繋がった。

■ 今後の展望

「世代をつなぐデジタルなまちづくり」の一環として、3D都市モデルを活用して子どもたちを含む住民がまちづくりに関わるきっかけを創出する。これまでの防災教育の取り組みに加え、今後は交通安全などの地域課題を子ども目線で発見し、デジタルマップを作成する活動を計画している。また、3D都市モデルを活用した延焼シミュレーションを通じて火災に対する課題を可視化し、古い住宅が密集する地域における不燃化や防災広場の設置検討など、将来的な防火対策の立案に活用することを目指している。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 41.岡山県岡山市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約71.2万人（令和7年2月時点）
市域全域面積	789.95km <sup>2</sup> （令和7年2月時点）
主な産業 地域課題等	<p>岡山県の南部に位置する都市。岡山県の県庁所在地および東瀬戸経済圏最多の人口を有し、政令指定都市に指定されている。当市を中心とした岡山都市圏は中四国地方最大の都市雇用圏を持つ。人口は約71.2万人。</p> <p>近畿と九州を結ぶ東西軸と、山陰と四国を結ぶ南北軸の結節点に位置し、鉄道・道路・空路などの交通網が集中しており、充実した交通網を有している。</p> <p>中心市街地における更なる移動の円滑化を図るため策定した「岡山市路面電車ネットワーク計画」に基づき、路面電車のネットワーク化に取り組む。</p> <p>まちなかの回遊性向上や賑わいづくりに向け、官民連携による公共空間活用の推進、旭川を中心とした賑わいの拠点づくりに取り組む。</p> <p>駐車場等の低未利用地が多く散在している中心市街地において、土地の高度利用と都市機能の更新を進めるため、市街地再開発事業の促進によって民間活力を後押しし、高次都市機能や居住機能の充実・強化を図る。</p>

■ 令和6年度スケジュール

企画検討・  
事業者決定手続き

データ取得・整備・  
更新

ユースケース開発

政策・事業への  
活用

オープンデータ化・  
情報発信

主要マイルストーン

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

▲事業者決定  
(5/16,21,22)

▲データ整備完了(6月末予定)  
▲データ提出(7月予定)  
▲ユースケース開発完了  
(9月末予定)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	10千以上

担当部局

都市整備局 都市・交通部 都市計画課

■ 補助事業実施項目

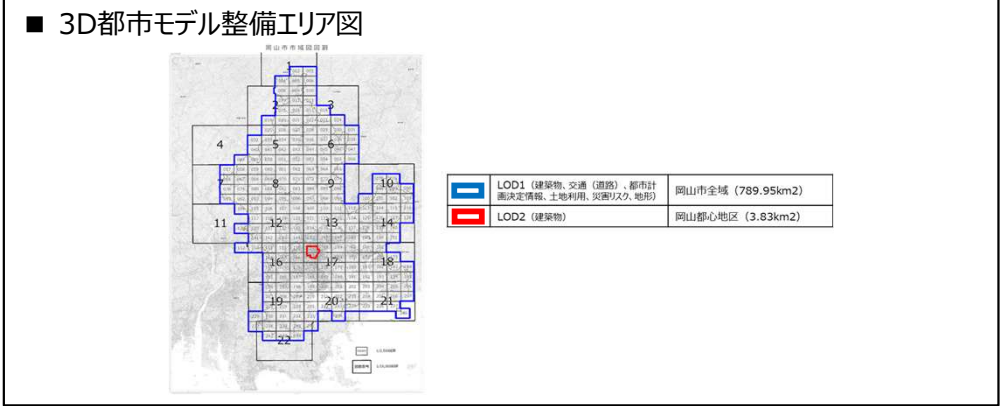
目標	中四国の広域交流拠点を目指した都市づくり
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>都心の空洞化と拠点性の低下への対応</li><li>市街地の拡大と居住環境悪化への対応</li><li>環境負荷の高い市街地構造の是正</li><li>都市基盤の老朽化対応と都市経営の健全化</li></ul>
創出価値	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルを活用し、市域全体の建物、道路、地形などを俯瞰し、庁内及び市民説明資料として活用する。また、将来的には防災情報などの利活用も視野に入れる。</li><li>都市計画決定情報データと3D都市モデルとを重ね合わせ、都市の利用状況や構造について、可視化・考察を行う。また、この結果を踏まえて各種計画の立案や検討資料として庁内で活用する。</li></ul>
事前調査等	—
3D都市モデル 整備・更新	<ul style="list-style-type: none"><li>都市計画図修正</li><li>都市計画法規制情報データ入力業務</li><li>3D都市モデル整備（LOD1, LOD2）</li></ul>
ユースケース 開発	<ul style="list-style-type: none"><li>都市の利用状況や構造の可視化</li></ul>
推進事業	—
総事業費（予定）	28,426（万円）
R6年度補助額	14,050（万円）
補助対象外の 関連事業	—
オープンデータ化・ 可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】</li><li>PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】</li><li>岡山市ホームページに掲載【PLATEAU VIEWへのURLリンク先等】</li></ul>
R6年度 委託事業者	株式会社バスコ（都市計画図修正、都市計画法規制情報データ入力業務、3D都市モデル整備（LOD1,LOD2）、都市の利用状況や構造の可視化） 国際航業株式会社、アジア航測株式会社、朝日航洋株式会社（都市計画図修正、3D都市モデル整備（LOD1））

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 41.岡山県岡山市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 災害リスク 地形	岡山市全域	789.95km <sup>2</sup>	R6年度整備
	都市計画決定情報 土地利用	岡山県南広域都市計画区域	586.00km <sup>2</sup>	R6年度整備
LOD2	建築物	岡山都心地区	3.83km <sup>2</sup>	R6年度整備



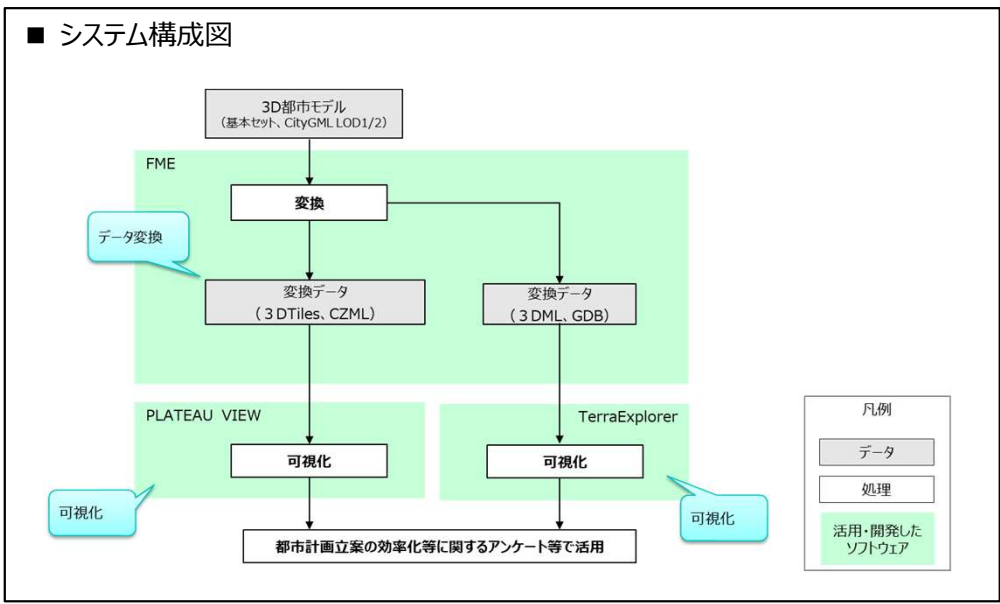
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	1.新規作成	R6年度	2,500
測量成果	3.既存資料（航空写真）	R5年度	1,000
属性情報	1.都市計画基礎調査（既存）	R4年度 R5年度	2,500
	3.その他（都市計画基礎調査（都市計画区域外）（既存））	R5年度	2,500

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	10千以上



■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	都市の利用状況や構造を可視化することにより、計画立案や合意形成ツールとして岡山市の都市づくりへ活用する。
取組内容	市全体の建物、道路、地形などを俯瞰し、庁内及び市民説明資料として活用する。 都市計画決定情報データと3D都市モデルLOD2を重ね合わせ、都市の利用状況や構造について、3Dビューワを用いて可視化・考察を行うと共に、結果を踏まえ、各種計画の立案や検討資料として庁内で活用する。





Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 41.岡山県岡山市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1,LOD2（名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年）</li><li>交通（道路）LOD1（車道の情報）</li><li>都市計画決定情報LOD1（都市計画区域、市街化区域、用途地域）</li><li>土地利用LOD1（土地利用区分）</li><li>災害リスクLOD1（洪水浸水想定区域、津波浸水想定区域、土砂災害警戒区域、高潮浸水想定区域、内水浸水想定区域）</li></ul>
活用データ (上記以外)	—
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルを3Dビュアライゼーションソフトウェアにおいて閲覧・解析が行えるよう3D都市モデル閲覧・解析システム等を活用して変換を行う。</li><li>都市計画決定情報のデジタル化及び3D都市モデル化を実施し、3Dビュアライゼーションソフトウェア及び庁内GIS及び公開用GISにおいて重畳表示が可能なデータを作成する。</li><li>3Dビュアライゼーションソフトウェアに3D都市モデル及び都市計画決定情報等のセットアップを行い、都市計画データの掛け合わせによる分析・可視化が可能となるようにする。</li><li>部署内利用は、3Dビュアライゼーションソフトウェアを活用して都市計画・まちづくり立案に役立てる閲覧・解析が行えるようにする。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルを活用した、関係機関との協議資料。</li><li>3D都市モデルを活用した、庁内協議資料。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	岡山市ホームページにて、PLATEAU ViewへのURLリンク先等を掲載

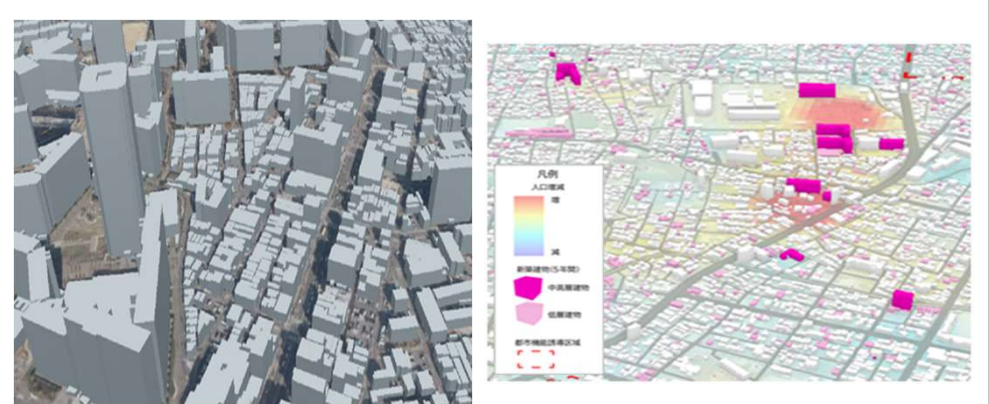
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
作業時間が効率化したと感じる職員の割合（％）	50% (R6年度)	R7年度 計測予定
部署内で活用できている職員の割合（％）	70% (R6年度)	R7年度 計測予定

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	10千以上



■ ユースケース開発成果イメージ図



都市計画情報の可視化・分析

- ・都市計画データの掛け合わせによる分析・可視化を行い、都市計画・まちづくり立案に活用する。
- ・関係機関及び庁内協議資料として活用する。

■ 今後の展望

令和7年度は、3D都市モデルを活用し、街路樹を可視化することで、マネジメントや緑化施策などの効率化を図る予定としている。  
今後は、庁内の幅広い課で、様々な分野への活用を検討していきたい。



## 42.岡山県倉敷市

人口	472,903人（令和7年2月時点）
市域全域面積	356.07km <sup>2</sup> （令和7年2月時点）
主な産業 地域課題等	<p>岡山県の南部に位置する中核市。倉敷駅、倉敷美観地区を中心とした商・観光圏の他、水島地区の工業圏などを有する。</p> <p>倉敷駅周辺には観光施設が集約し、倉敷駅周辺総合整備計画による魅力ある空間の創出を遂行している。倉敷駅から倉敷美観地区へ向かう主要道とその周囲を景観形成重点地区として指定し、歴史的な町並みと都市的な町並みが調和した良好な景観の形成を目指している。</p> <p>倉敷美観地区周辺を倉敷川畔美観地区周辺眺望保全地区に指定し、建築物等を計画する際には、眺望保全基準への適合を求めている。3D都市モデルを活用することにより、倉敷美観地区からの建築物等の見え方などの完成イメージを共有し、眺望景観の保全を図る。</p>

Task	Start Date	End Date	Status
企画検討・事業者決定手続き	4月	5月	Completed
データ取得・整備・更新	5月	2月	Ongoing
ユースケース開発	11月	2月	Ongoing
政策・事業への活用	12月	3月	Ongoing
オープンデータ化・情報発信	2月	3月	Ongoing

**主要マイルストーン**

- ▲事業者決定 (5/24)
- ▲データ整備完了(2/28)
- ▲データ提出(3/18)
- ▲ユースケース開発完了(2/28)
- ▲操作体験会実施(12/10)

目標	倉敷美観地区における歴史的景観の維持と土地の高度利用の両立及び建築協議の円滑化
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>倉敷美観地区周辺で建築物を計画する際、その建築物の見え方をイメージパス等で確認する作業があり、申請者との協議に時間を要している。</li> <li>計画段階では視界に入らないとされていても、実際には倉敷美観地区内の伝統的建物の隙間から対象建築物が見えてしまい、景観を阻害している。</li> <li>平面上だと高さ規制エリアが不明瞭であり、土地の高度利用が阻害されている。</li> </ul>
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>景観シミュレーションツールにより市と申請者が同じイメージを共有することで、協議の円滑化を図ることができる。</li> <li>計画段階で眺望を確認することにより、良好な景観形成が可能となる。</li> <li>高さ規制を立体的に可視化することで誰でも分かりやすいものとし、土地の高度利用を促進する。</li> </ul>
事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデル整備（LOD1, LOD2）</li> </ul>
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>景観まちづくりDX</li> <li>3D都市モデル活用環境整備事業</li> </ul>
推進事業	—
総事業費（予定）	1,603（万円）
R6年度補助額	1,000（万円）
補助対象外の関連事業	—
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】</li> <li>PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】</li> </ul>
R6年度委託事業者	朝日航洋株式会社（3D都市モデルの整備） 株式会社シナスタジア（ユースケース開発）

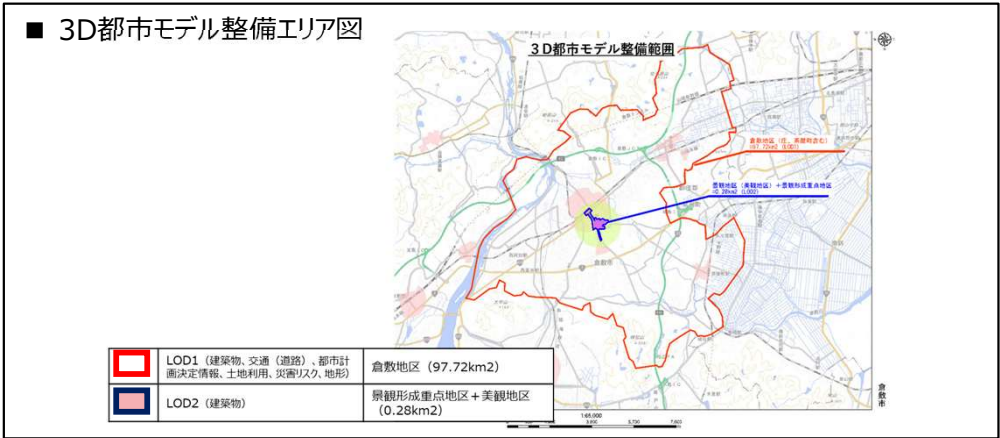


Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 42.岡山県倉敷市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	倉敷地区	97.72km <sup>2</sup>	R6年度整備
LOD2	建築物	倉敷美観地区+景観形成重点地区	0.28km <sup>2</sup>	R6年度整備



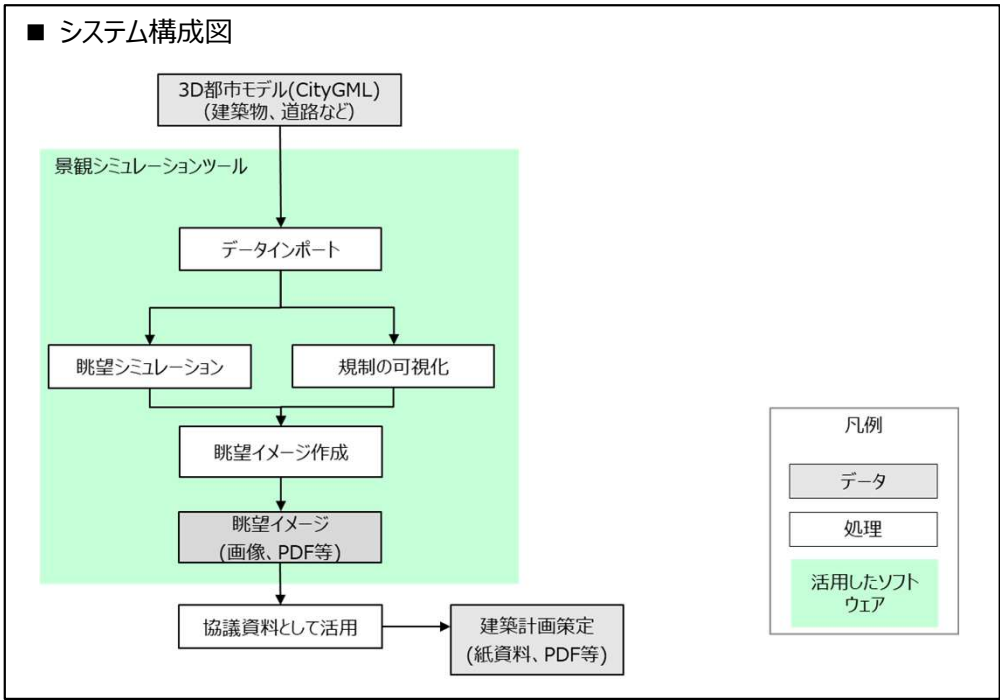
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	数値地形図 (DMデータ) (既存)	H29年度	2,500
測量成果	既存資料 (航空写真)	R4年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査 (既存)	R4年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200-500	1-2千



■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	倉敷美観地区からの眺望保全および建築協議の円滑化
取組内容	倉敷美観地区等からの眺望影響、規制等を3D都市モデル上で可視化し、眺望保全および建築計画の協議の円滑化に活用する。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 42.岡山県倉敷市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	・ 建築物LOD1,LOD2 (建物形状、高さ)
活用データ (上記以外)	—
ユースケース 開発方法	・ 整備した3D都市モデルデータを、景観まちづくりDX (OSSのUC22-045) で開発したツールに搭載する。 ・ デベロッパーなどから申請された建築計画をもとに、計画建築物と同規模の建築物をツール上で配置し、周辺景観に与える影響や、美観地区からの眺望を阻害していないかなどをシミュレーションする。また、デベロッパーなどにも実際にツールを使用してもらい、協議資料としての有用性を検証する。 ・ ツールを使用することで、現状の建物高さ制限と比較してどの程度の土地の高度利用が可能となるか検証する。
政策・事業での 活用	・ ツールで作成したシミュレーションデータ※を建築計画用の協議資料として活用する。 ※視点場を自由に設定し、あらゆる場所から眺望を確認できることや高さ規制の可視化により、制限エリアをより分かりやすく把握
オープンデータ化 情報発信	倉敷市ホームページにて、PLATEAU ViewへのURLリンク先等を掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
建築計画の事前協議の確認作業が効率化したと感じる人の割合 (%)	80% (R6年度)	100% (R6年度)
美観地区周辺土地の高度利用化 (%)	110% (R6年度)	110% (R6年度)
新基準検討に有用であると感じた人の割合 (%)	80% (R6年度)	80% (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200 – 500	1 – 2千

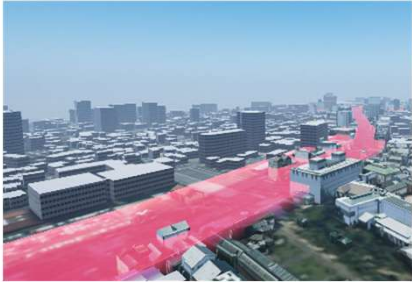


■ ユースケース開発成果イメージ図



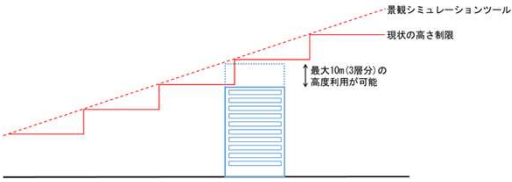
見通し解析機能

建築物の新規配置や非表示、視点場の自由設定により、建築計画のシミュレーションや景観計画の見直しなど様々な場面での活用が可能となる。



区域作成機能

平面上では把握しづらい高さ規制等を立体的に表現することが可能となり、景観協議の円滑化を図る。



土地の高度利用

建物高さ制限の精緻なシミュレーションが可能となり、土地の高度利用が期待される。

■ 今後の展望

今回の事業では、整備範囲は市内の中心部のみであり、ユースケースも景観シミュレーションという限定的な活用にとどまっているため、幅広い分野での整備データ活用方法を模索するとともに、それに応じた整備範囲の拡充を検討したい。

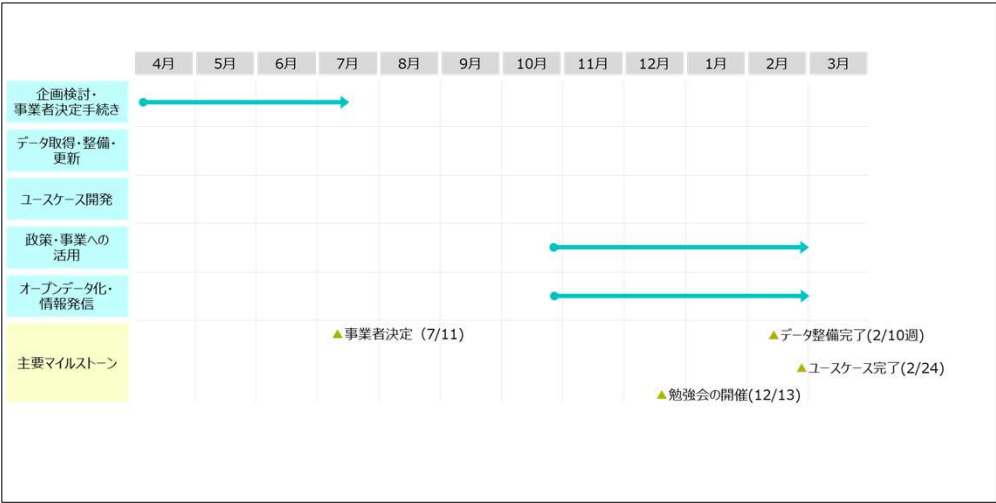
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 43.広島県

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約5万人（令和6年12月時点）
市域全域面積	778.2km <sup>2</sup> （令和6年12月時点）
主な産業 地域課題等	<p>三次市は、広島県北東部、中国地方のほぼ中央に位置している。都市計画区域内では商業が中心になっており、その他の地区では農業が主な産業になっている。</p> <p>本市は、ひとづくり、くらしづくり、仕事づくり、環境づくり、しくみづくりの5つの柱を掲げ、市民一人ひとりの「参加」「行動」「対話」を大切にしながらまちづくりに取り組んできた。</p> <p>近年、本市を取り巻く環境が変化する中で、市民のニーズや価値観も大きく変わり、人々の暮らし方や働き方は多様化している。</p> <p>このような状況においても、市民のしあわせを実現していくため、限られた資源を最大限に活用し、将来世代に引き継ぐためのまちづくりを進めていくこととしている。</p>

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
活・他	15万以上	500以上	1-2千

担当部局	都市計画課
------	-------

■ 補助事業実施項目

目標	観光の魅力に関する付加価値を高めることでの、観光消費額を向上 県内市町での3D都市モデルの整備・利活用の促進
課題	「観る」観光プロダクトは多くあるが、「体験する」観光プロダクトの開発が進んでいない。 県内市町の3D都市モデル整備・利活用が進んでいない。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルを活用したコンテンツを開発・展開することで、現地を訪問することの魅力度を高め、観光誘客を図ることで地域の賑わい創出を図る。</li><li>他部局との連携を踏まえたUC開発を試行実施し、その実施の流れや3D都市モデルの優位性を県内市町等に共有し、広く県民に展開することで、3D都市モデルに対する意識醸成及び利活用促進を図る。</li></ul>

事前調査等	—
3D都市モデル 整備・更新	—
ユースケース 開発	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルを活用した賑わい創出の取組</li><li>県内市町への3D都市モデルの利活用促進</li></ul>
推進事業	—

総事業費（予定）	996.6（万円）
R6年度補助額	996.6（万円）
補助対象外の 関連事業	—

オープンデータ化・ 可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>スマートフォン用のアプリストアにて、公開 【Google Play、App Store】</li></ul>
-----------------------	--

R6年度 委託事業者	株式会社ビーライズ（3D都市モデルを活用した賑わい創出の取組）
---------------	---------------------------------



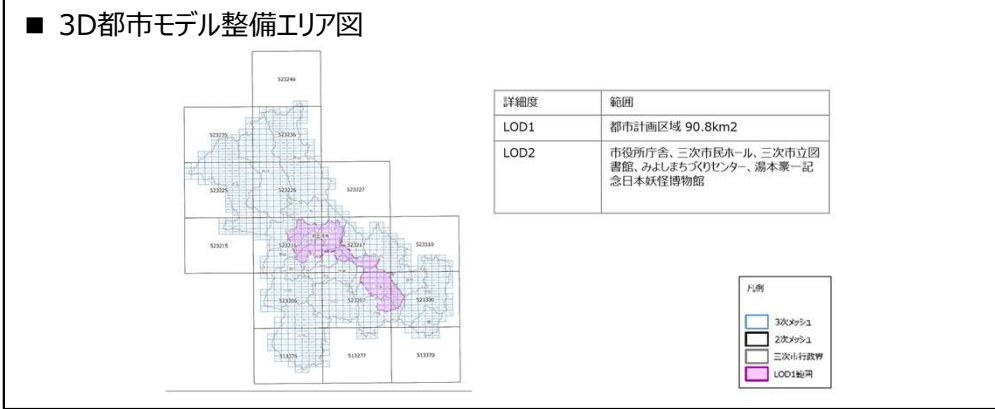


Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 43.広島県

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	三次市都市計画区域	90.8km <sup>2</sup>	R4年度整備済
LOD2	建築物	公共施設（5棟）		R4年度整備済



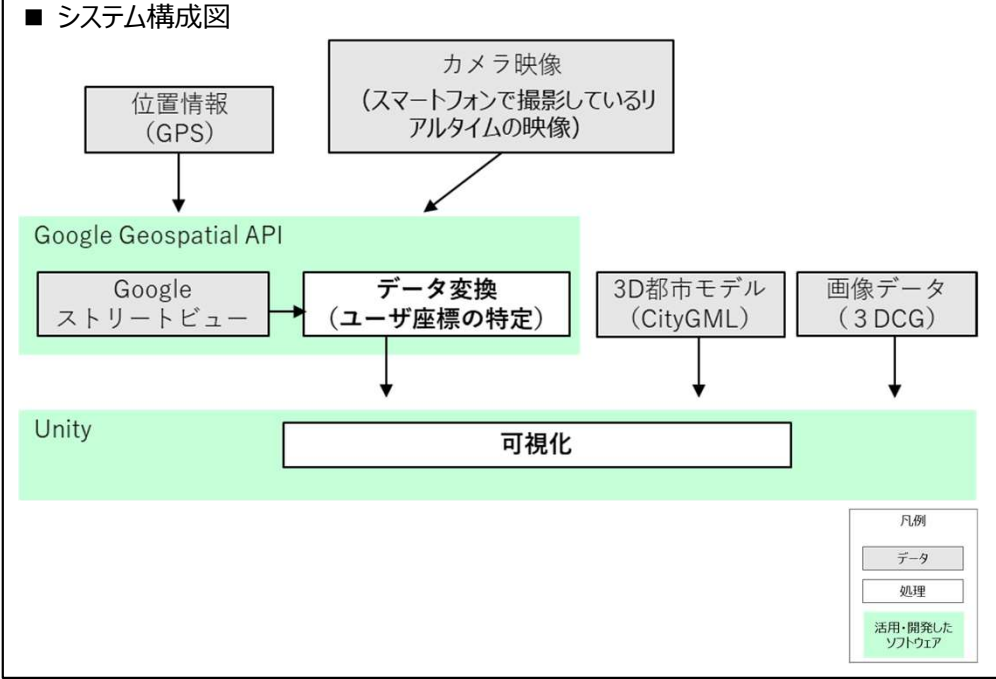
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R4年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R4年度	2,500
	既存資料（航空レーザー）	H28,H30年度	2,500
属性情報	その他	R3年度	2,500
	都市計画基礎調査（既存）	R3年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
活・他	15万以上	500以上	1-2千



■ ユースケース①概要

分野	地域活性化・観光・コンテンツ
目的	地域の魅力度を高めるコンテンツを活用し、観光誘客による賑わい創出を図る。
取組内容	3D都市モデルとAR技術により三次市の観光プロダクトの一つである“もののけ”を組み合わせ、デバイス上に表示する等のコンテンツを開発・展開することで現地を訪問することの魅力度を高め観光誘客を図る。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

43.広島県

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物（三次市三次町エリア） LOD1</li><li>建築物（湯本豪一記念日本妖怪博物館） LOD2</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>Googleストリートビュー（特徴点情報）</li><li>GPSデータ（緯度、経度）</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>開発するシステムの運用方針（アプリの運営、広報、キャンペーン運営等に係る役割分担）について関係機関と調整</li><li>3D都市モデルを利用して、もののけをリアルに表現した（オクルージョン技術） ARアプリ開発</li><li>開発したシステムを運用方針に基づいて一般公開</li><li>システム運用後に周辺観光施設の入館者数を集計</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>令和4年度整備済みの三次市3D都市モデルを活用したアプリの開発を行い、現地の風景と観光コンテンツを組み合わせることで、現地を訪問することの魅力度を高め、観光誘客を図る。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	スマートフォン用のアプリストアにて公開

■ KPI

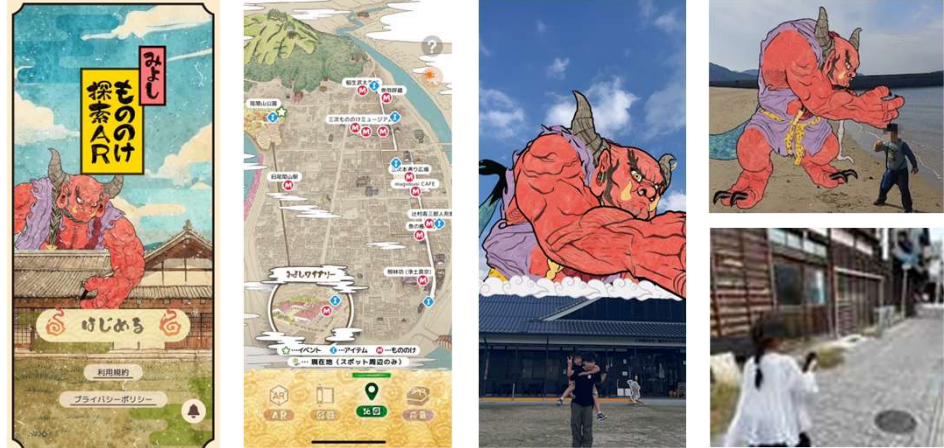
KPI	目標設定	達成状況
入館者数の増加率（％）	前年比101％ （R6年度）	前年比87％ （R6年度）

KPI未達を受けて の今後の対応	今回の運用状況を踏まえ、適切な広報を行うなどして、更なる周知を行うことで入館者数の増につなげたい。
---------------------	---

分野	人口規模	面積規模	予算規模
活・他	15万以上	500以上	1－2千



■ ユースケース開発成果イメージ図



アプリの運用状況

三次市を舞台として江戸時代中期に成立した妖怪物語『稻生物怪録』を題材とし、絵本作家である石黒亜矢子先生が描かれた“もののけ”等を街中にリアルに出現させる。また、湯本豪一記念日本妖怪博物館の監修協力により、物語になぞらえた会話を“もののけ”たちと楽しめるコンテンツになっており、街にインセンティブを与え、観光誘客や回遊性を向上

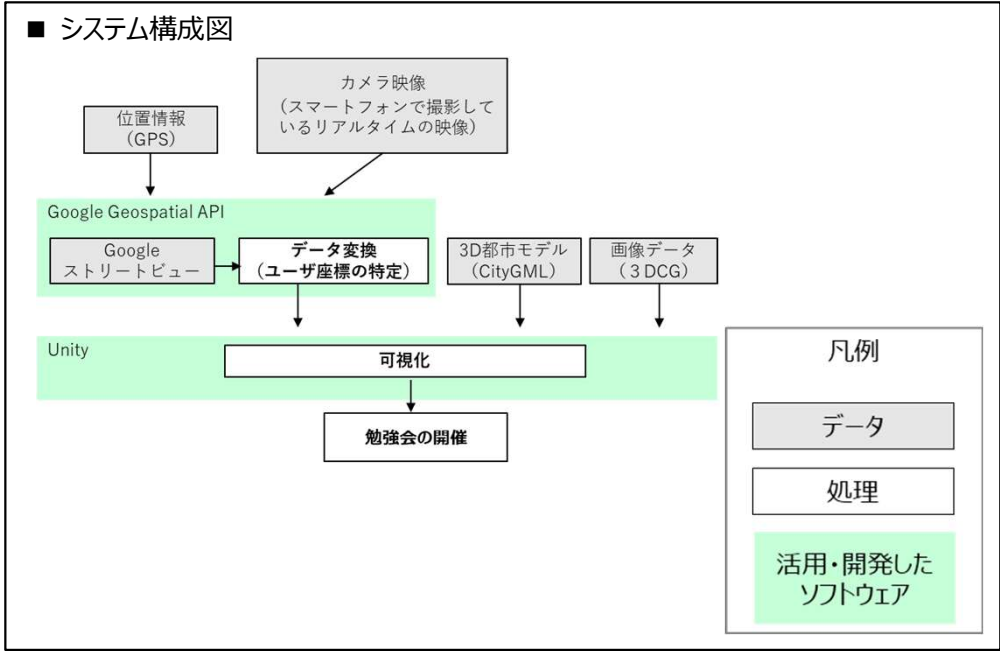
■ 今後の展望

次年度以降は運用時期をより効果的な時期（観光客の誘客が見込まれる時期）にする等して、既存の観光客の回遊性の向上や新規観光客の誘客を図りたい。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 43.広島県

■ ユースケース②概要	
分野	その他
目的	3D都市モデルの利活用促進
取組内容	他部局との連携や3D都市モデルの優位性への理解に課題があるため、新たにユースケース①で開発するシステムを踏まえ、県内市町等に共有することで、3D都市モデルに対する意識醸成及び利活用促進を図る。



分野	人口規模	面積規模	予算規模
活・他	15万以上	500以上	1-2千



■ ユースケース開発方法	
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物（三次市三次町エリア） LOD1（都市計画決定情報、土地利用、名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年）</li><li>建築物（湯本豪一記念日本妖怪博物館） LOD2（都市計画決定情報、土地利用、名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年）</li></ul>
活用データ (上記以外)	—
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>前述のユースケース開発を参考に他部局との連携を踏まえたユースケース開発の流れや、3D都市モデルの優位性を県内市町等にユースケース①運用中に勉強会等を通して共有する。</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>他部局との連携を踏まえたユースケース開発の流れや3D都市モデルの優位性を県内市町等に共有し、3D都市モデルに対する意識醸成及び利活用促進を図る。</li></ul>
オープンデータ化情報発信	スマートフォン用のアプリストアにて、公開

■ KPI		
KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルの優位性について理解した県内の自治体（5市町）の参加者の割合（%）	70% (R6年度)	100% (R6年度)

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 43.広島県

分野	人口規模	面積規模	予算規模
活・他	15万以上	500以上	1-2千



■ ユースケース開発成果イメージ図



県内市町の関係部局を対象とした研修会状況



開発アプリの運用チラシ

県の関係部局（デジタル担当部局、中山間部局、観光部局）の協力のもと、開発したアプリを活用した研修の周知と併せて、3D都市モデルの優位性や活用事例を横断的に県内市町に共有を図った。

また、県内市町を対象とした、現地研修会を開催し、3D都市モデルの様々な活用事例を国土交通省より共有していただくとともに、実際に開発したアプリやVR技術の体験を通して、データを活用した様々な技術の意識醸成を図った。

■ 今後の展望

3D都市モデルに関しては都市計画部局だけではなく、横断的な活用が望ましいと考えられることから、引き続き、幅広く意識醸成を図る。

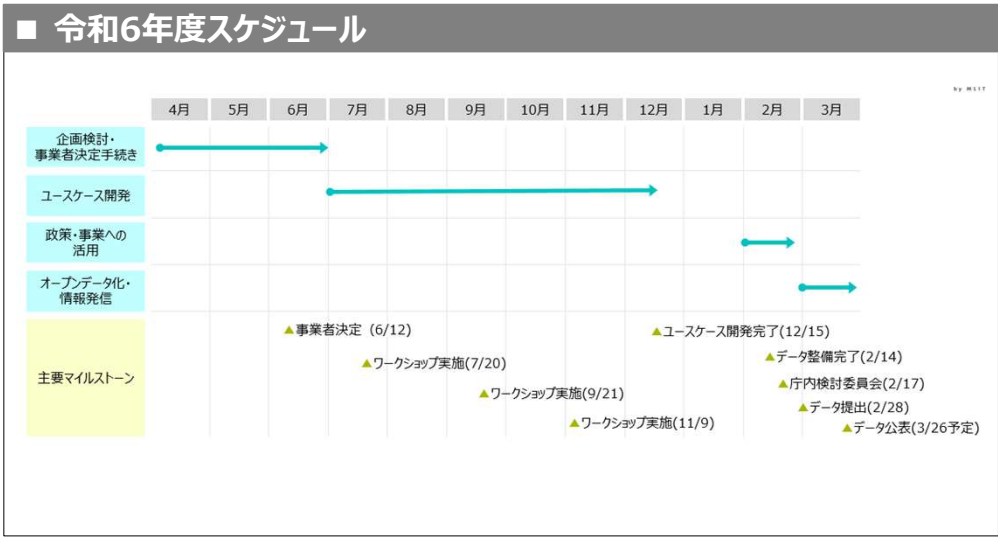
また、県としても関係市町の3D都市モデルの整備・更新に関して、データ提供を含めできる限り、支援していく。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 44.広島県竹原市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	2.3万人（令和6年4月時点）
市域全域面積	118km <sup>2</sup> （令和6年4月時点）
主な産業 地域課題等	<p>竹原市は、広島県沿岸部のほぼ中央に位置し、瀬戸内海の豊かな自然と温暖な気候に恵まれている。市内南北を2級河川「賀茂川」「本川」が流れ、周囲は朝日山を中心に三方を山に囲まれている。河川上流から中流にかけて田畑が広がり、下流にはぶどう畑が広がっている。本市には、互いに顔が見える人と人とのつながりや支え合いのコミュニティ、美しい瀬戸内の自然や季節感、ゆったりとした時間の流れや歴史、快適に日常生活が営める利便性の高いコンパクトな市街地など、“住みやすさ”“暮らしやすさ”につながる多くの特色があり、これまでも“住みよさの実感”を目指して取り組んできた。</p> <p>また、社会状況が変化する中で、価値観の多様化により大都市圏からの移住志向や生活の質を重視する意識が高まってきている。</p> <p>こうしたことから、引き続き、竹原市の特色を活かし“住みやすさ”“暮らしやすさ”に磨きをかけ、暮らしの満足度を向上させるため、将来都市像に「暮らし誇らし、竹原市」を掲げ、まちづくりを展開することとしている。</p>



分野

人口規模

面積規模

予算規模

街

1－3万

100－200

1千未満

担当部局

企画政策課

■ 補助事業実施項目

目標

竹原地区中心市街地の魅力ある拠点形成

課題

中心市街地の人口減少が進んでおり、コンパクト化及び中心市街地の魅力向上に資する取り組みが課題。

市庁舎移転後の跡地を中心とした場所に、複合施設整備（図書館・ホール・子育て支援・地域交流施設等）を予定しており、市民ニーズ、日常利用、建築デザインなど、市民の意見を踏まえながら、魅力ある施設整備に取り組む必要がある。

創出価値

- 3D都市モデル、建築モデルを活用し、市民と施設配置計画を検討することで、市民と一緒に複合施設に関する価値観を共有する。
- 多くの市民が参加する市民ワークショップを開催し、複合施設整備について検討することで、市民が自分事と考え、複合施設整備後の利用促進につながる。

事前調査等

—

3D都市モデル整備・更新

—

ユースケース開発

- 3D都市モデルを活用した公共施設ゾーン再整備検討事業

推進事業

—

総事業費（予定）

545（万円）

R6年度補助額

545（万円）

補助対象外の関連事業

—

オープンデータ化・可視化・情報発信

- G空間情報センターへの掲載
- PLATEAU VIEWへの掲載
- 「DoboX」にて公開
- 竹原市ホームページに掲載

【3D都市モデル】

【3D都市モデル】

【広島県オープンデータサイト インフラマネジメント基盤】

【市民ワークショップを踏まえて作成した建築物モデル】

R6年度委託事業者

復建調査設計株式会社（3D都市モデルを活用した公共施設ゾーン再整備検討事業）

PLATEAU

by MLIT

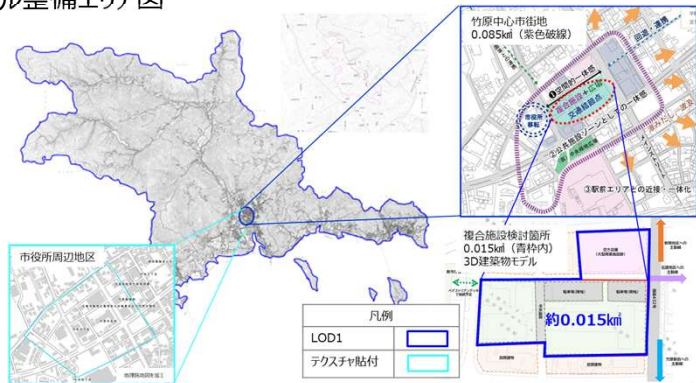
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 44.広島県竹原市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	竹原都市計画区 テクスチャ貼付け約350棟	118.3km <sup>2</sup>	R5年度整備済
	交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	竹原都市計画区域	118.3km <sup>2</sup>	R5年度整備済
LOD2	建築物	竹原地区伝統的建造物 群保存地区	0.05km <sup>2</sup>	R5年度整備済

■ 3D都市モデル整備エリア図



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	H25年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	H30年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R5年度	—

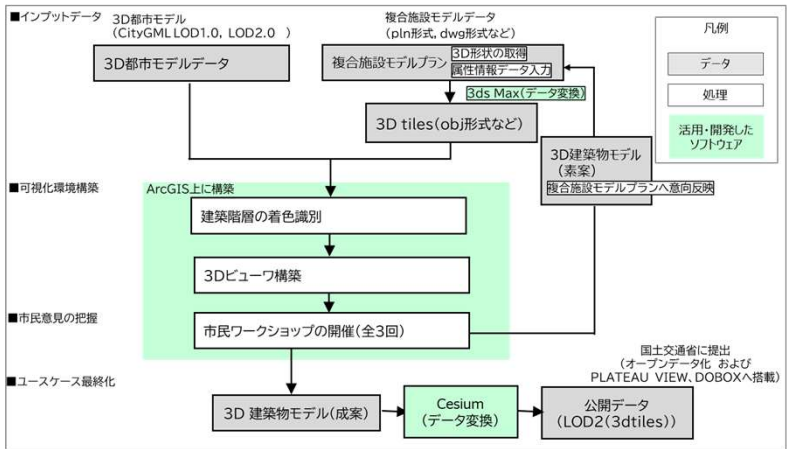
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1－3万	100－200	1千未満



■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	市民ワークショップの説明・合意形成資料作成
取組内容	令和5年から新市役所庁舎の改修工事に着手し、令和7年1月に供用を開始した。そのため、庁舎移転後の跡地活用について、図書館、市民ホール、子育て支援等の複合施設整備について官民連携で取組んでいる。複合施設整備に向けて、中心市街地の賑わい創出に戦略的に取り組むためのまちづくりビジョン策定、複合施設整備基本計画策定に向けて、市民アンケート、WSなどに取り組んでいる。これらの事業の進捗にあわせて、複合施設の配置、形状などについて、専門家を交えながら、市民や事業者と検討し、円滑な合意形成を図るため、3D都市モデルを活用してケーススタディに取り組む。また、具体的な複合施設整備については、プロポーザル方式により、民間事業者から提案を受けた後、施設計画の3D化について検討し、市民との施設イメージの共有、施設デザインと周辺景観との調和、施設課題点の改善などに活用し、日常的に多くの市民に利用され、魅力ある複合施設としていく。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 44.広島県竹原市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	・ 建築物LOD2 (名称、構造種別、高さ、建ぺい率、容積率、用途)
活用データ (上記以外)	・ 複合施設モデルデータ (容積率、建蔽率、高さ)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ (1) 竹原市複合施設整備PTで、開発区域内のモデルプランを複数検討しており、新複合施設のモデルプラン (案) をベースに建築物モデルを3パターン作成を行う。</li><li>・ (2) 第1回市民ワークショップでは、昨年度作成した竹原市の3D都市モデルについての説明、具体的な敷地範囲などを提示するとともに、複合施設の使い方などについて意見交換を行う。第2回市民ワークショップでは、(1) で検討した案を提示しながら、現地調査などを行いながら複合施設の規模感や配置などについて、イメージの共有化を図る。また、(1) 案及び現地調査などの結果などについて意見交換を行い、3D建築物モデル (成案) へ反映させる。</li><li>・ (3) (2) で検討した案を踏まえ、3D建築物モデル (最終案) を作成する。</li><li>・ (4) 第3回ワークショップでは、(3) で検討した3D建築物モデルを可視化して、市民との意見交換・合意形成に活用し、最終的な成案を作成し、竹原市複合施設整備基本計画へ反映させる。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 複合施設整備における3D建築物モデルを市民ワークショップ実施時に活用。</li><li>・ PLATEAU Viewや広島県インフラマネジメント基盤「DoboX」にて公開。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 広島県オープンデータサイト インフラマネジメント基盤「DoboX」にて公開</li><li>・ 市民ワークショップを踏まえて作成した建築物モデルを竹原市ホームページに掲載</li></ul>

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
複合施設整備に向けた市民ワークショップ参加者で分かりやすかったと感じる人の割合 (%)	80% (R6年度)	92% (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1 - 3 万	100 - 200	1 千未満



■ ユースケース開発成果イメージ図



北東側から望む

中心市街地の雰囲気やどのように変化するか国道432号との距離感、3階建ての複合施設とした場合に、周辺建築物の高さとの調和が図られているかなどについて、市民に提示するとともに、意見交換の題材として活用した。



北西側から望む

1 階部分は、周辺広場と建物の親和性やガラス張りなどによる開放感、室内の明るい雰囲気の確保など、複合施設に市民が自然に集まり、日常的な居場所となる建築計画としていくことなどについて可視化した。

■ 今後の展望

複合施設の整備イメージ (サンプル) を、市民と共有することによってまちの変化を感じてもらおうと、市民と一緒に作り上げていく機運醸成に活用してきた。今後は、複合施設を整備する民間事業者を募集する予定としており、民間事業者が複合施設の建築計画について、優れた提案を検討していくための参考イメージとして活用する。また、実際に民間事業者から提案を受けたイメージに改変することなどについて検討していきたい。

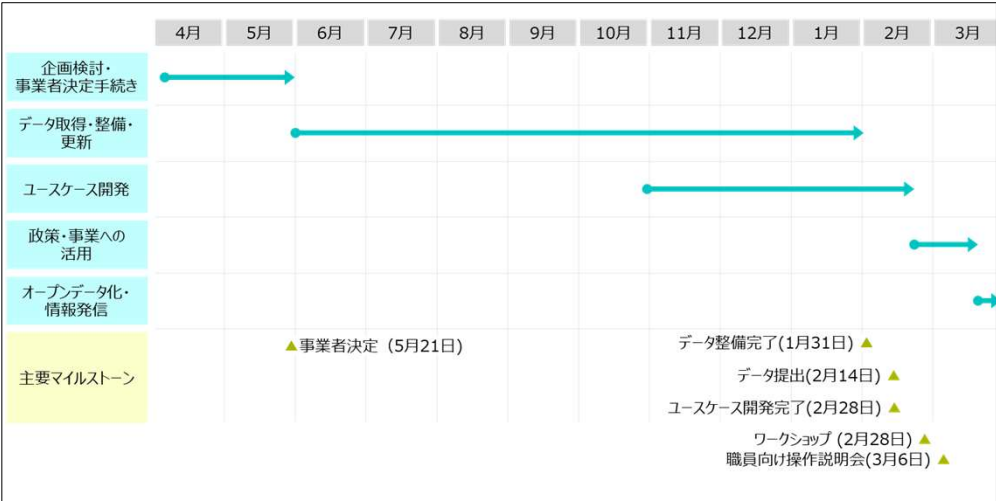
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

45.広島県海田町

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約3万人（令和7年3月時点）
市域全域面積	13.79km <sup>2</sup> （令和7年3月時点）
主な産業 地域課題等	<p>広島県の南西部に位置し、広島市安芸区と安芸郡熊野町に隣接する町。JR海田市駅を中心とし、古くから交通の要衝として栄えてきた歴史がある。人口は約3万人。</p> <p>海田市駅はJR山陽本線とJR呉線の分岐点にあたり、駅周辺には西国街道の宿場町として栄えた地域であり、商業施設や事業所が集積する本町の中心地である。</p> <p>交通の要衝としての利便性、快適性を生かし、多様な交流から町内外の人が、海田町に住みたい・住み続けたいと思ってもらえるような都市の実現を図るため、将来都市像に「ひと・まち・みらいをつなぐ 暮らしやすさが実感できるまち かいた」を掲げ、まちづくりを展開することとしている。</p>

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	1－3万	50未満	1－2千

担当部局	まちデザイン課
------	---------

■ 補助事業実施項目

目標	海田市駅周辺の拠点性の向上と地域資源を活かしたにぎわいづくりを推進するとともに、町民、事業者及び行政の適切な役割分担と協働（パートナーシップ）によるまちづくりの推進
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>拠点機能の強化</li><li>快適な道路・交通ネットワークの構築</li><li>安全で良好な生活環境の創出</li><li>地域資源を活用した賑わいの創出</li></ul>
創出価値	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルを活用し、災害リスクをわかりやすく示すことで住民の被災リスクの理解が向上する。</li><li>まちづくりについて、3D都市モデルを活用することでステークホルダーとの認識共有がしやすくなる。新たな施設整備等による効果を予測し、まちづくりの計画策定や推進に役立てる。</li><li>住民及び来訪者の移動特性を可視化し、分析する。</li><li>3D都市モデル・人流データをオープンデータとして公表し、民間事業者の出店や不動産市場の活性化を図る。</li></ul>

事前調査等	・ 3D都市モデルの整備範囲や整備内容等の検討事業
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備（LOD1, LOD2）
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
推進事業	－

総事業費（予定）	1,000（万円）
R6年度補助額	1,000（万円）
補助対象外の関連事業	3D都市モデルを活用したまちづくり都市計画立案への活用事業（人流データ）【デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）】

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ／関連データ】</li><li>PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ／関連データ】</li><li>海田町ホームページに掲載 【3D都市モデル画像／ワークショップ結果】</li></ul>
-------------------	---

R6年度委託事業者	国際航業株式会社（3D都市モデルの整備範囲や整備内容等の検討事業、3D都市モデル整備（LOD1、LOD2）、3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業、3D都市モデルを活用したまちづくり都市計画立案への活用事業（人流データ））
-----------	---

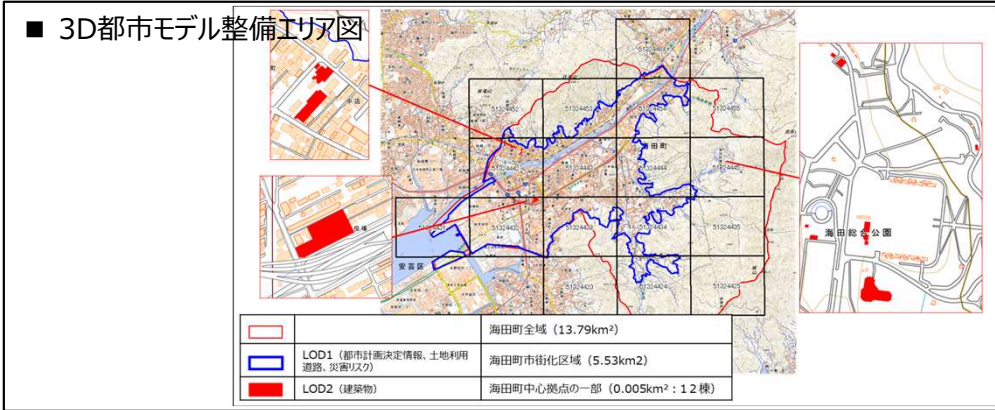


Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 45.広島県海田町

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物・地形	海田町全域	13.79km <sup>2</sup>	R3年度整備済
	都市計画決定情報・土地利用	海田町全域	13.79km <sup>2</sup>	R6年度整備
	交通(道路)	市街化区域	5.53km <sup>2</sup>	R6年度整備
	災害リスク	海田町全域	13.79km <sup>2</sup>	R6年度整備
LOD2	建築物	12棟	0.005Km <sup>2</sup>	R6年度整備



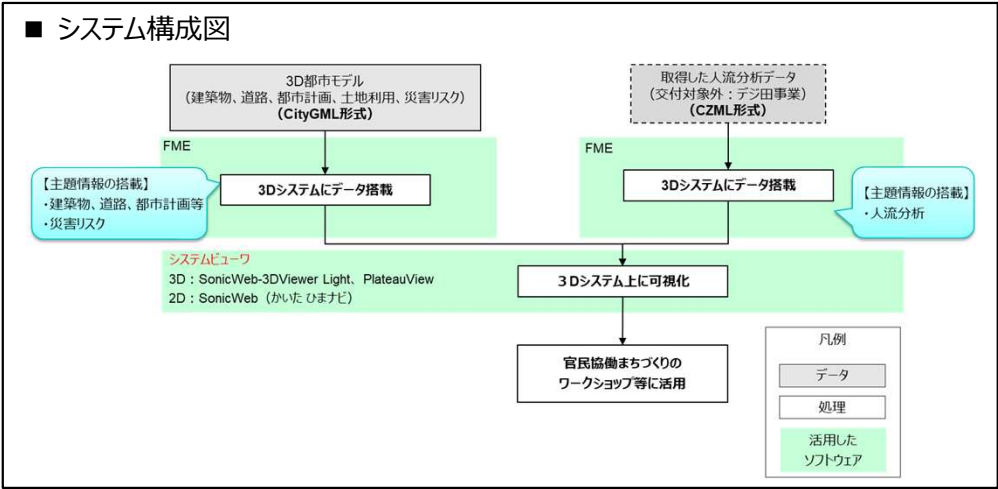
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	4.数値地形図 (DMデータ) (既存)	R1年度	2,500
測量成果	4.既存資料 (航空レーダー)	R4年度	500
属性情報	1.都市計画基礎調査 (既存)	R3年度	2,500
	3.その他 (立地適正化計画)	R3年度	2,500

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	1 - 3万	50未満	1 - 2千



■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり／防災・防犯
目的	中心拠点及び地区拠点の拠点性の向上と地域資源を活かしたにぎわいづくりを推進するとともに、浸水想定区域内にある災害リスク情報を三次元で可視化することで住民の防災意識の向上等に利用するため、3D都市モデルの整備、洪水想定区域図等の災害リスクデータの整備、及び3Dシステム導入を実施する。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>拠点性の向上と地域資源を活かしたにぎわいづくりを推進するとともに、町民、事業者及び行政の適切な役割分担と協働（パートナーシップ）により、総合的な取組みを図るために、作成する3D都市モデルと人流データを一元表示するビューワを構築する。</li><li>浸水等想定区域の災害リスク情報を三次元表示し、エリアのリスクを可視化する。</li></ul>



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

45.広島県海田町

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1, LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年)</li><li>道路LOD1 (名称、機能、用途)</li><li>都市計画LOD1 (名称、種類、決定日、決定の種類、決定主体、市区町村コード、都道府県コード、区域区分の有無)</li><li>土地利用LOD1 (分類、公称面積、所有者区分、所有者、面積 (㎡、ha) 等)</li><li>災害リスクLOD1 (区域区分、現象の種類、都道府県コード、区域番号、区域名、所在地等、名称、浸水ランク、指定機関の種類、規模区分)</li></ul>
活用データ (上記以外)	人流分析情報 (性別・年代・方向別の人数)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>CityGML形式の3D都市モデル (建築物、道路、地形、都市計画、土地利用、災害リスク等) を3Dシステム (SonicWeb-3D viewer light、PlateauView) 上で閲覧可能な各種フォーマットにFMEを利用して変換する。</li><li>各種フォーマットを3Dシステムに搭載すると同時に、作成予定の人流分析データもCZML等を用いて3Dシステムで活用できるように搭載する。</li><li>3Dシステム上に災害リスクデータと人流分析データをそれぞれ実装のうえ、それぞれ分かり易く可視化する。</li><li>3Dシステムを活用したワークショップを行い、地域の災害リスクやまちづくりについての理解度をアンケート調査で把握する。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>災害リスクデータを防災訓練時に活用することで、避難経路等の検討資料とする。</li><li>人流分析データをワークショップ時に活用することで、官民協働まちづくりに向けて拠点性の向上と地域資源を活かしたにぎわいづくりの推進を図る。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	ワークショップの結果と併せて3D都市モデルの画像を海田町ホームページに掲載

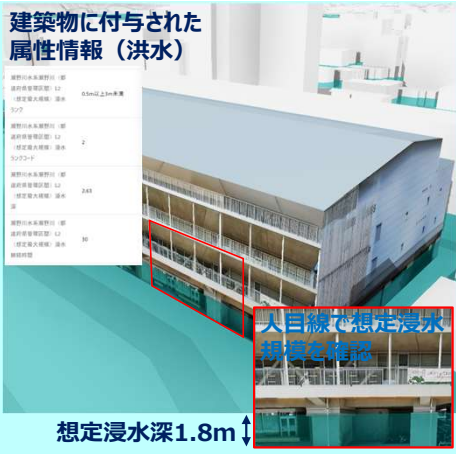
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
地域の災害リスクについての理解 (%)	40% (R6年度)	86% (R6年度)
可視化によるまちづくりについての理解 (%)	80% (R6年度)	80% (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	1 - 3万	50未満	1-2千

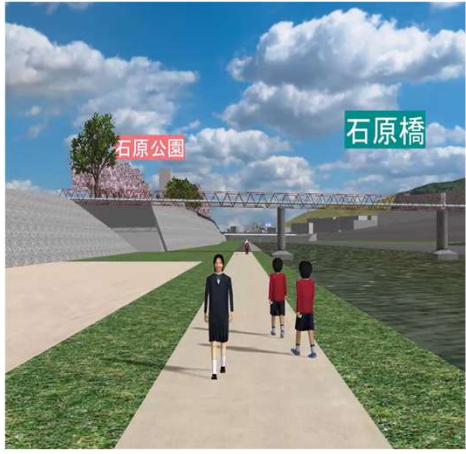


■ ユースケース開発成果イメージ図



災害リスクの可視化

整備した建築物LOD2.0と洪水浸水想定区域図 (想定最大規模) を重畳させることで、想定される浸水深さを仮想空間で再現させることができる。



人流データの可視化

作成した3D都市モデルに人流計測値を元にした瀬野川河川敷の利用状況を動画としてまとめ、イメージを共有することで今後の河川敷の活用検討に活かすことができる。

■ 今後の展望

今回は防災のユースケースにとどまっているが、今後は人流データ等を活用した中心市街地等の活性化にも活用し、官民協働のまちづくりを推進したい。

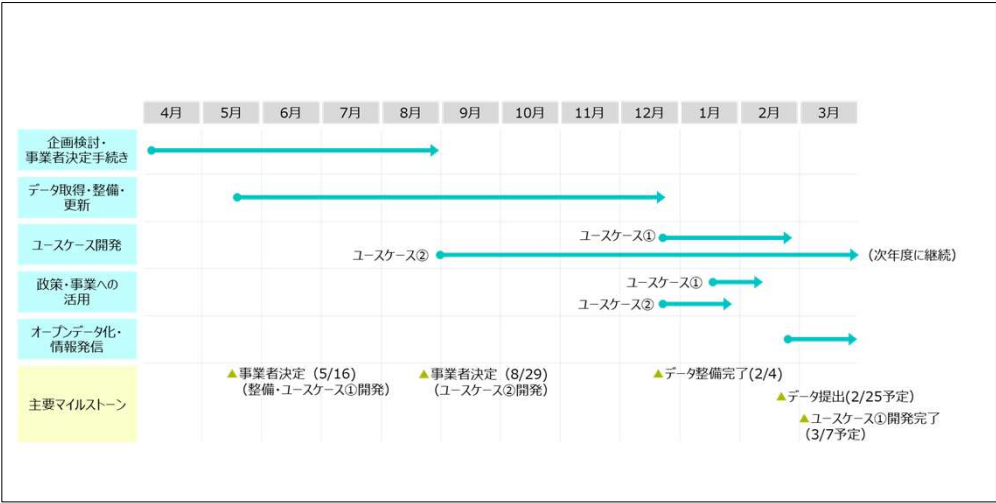
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 46. 山口県周南市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	134,733人（令和6年12月時点）
市域全域面積	656.29km <sup>2</sup> （令和6年12月時点）
主な産業 地域課題等	本市は、山口県の南東部に位置し、山と海に挟まれたコンパクトな市街地を形成している。また、沿岸部には周南コンビナートが形成され、県内No.1の工業力を有する人口約13万人の拠点都市である。 徳山港から徳山駅、市役所、動物園までの区間を都心軸として位置付けている。徳山駅周辺整備事業、動物園リニューアル事業など、拠点性の強化に取り組んできた。 徳山駅東側では、令和6年4月に市街地再開発事業で整備された商業施設がグランドオープンを迎えた。更なる拠点性の強化と併せ、ウォカブルなまちづくりを目指している。 地図情報プラットフォームとして、統合型・市民公開型GISの導入に取り組んでいる。

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5－15万	500以上	2－3千

担当部局	都市政策課
------	-------



■ 補助事業実施項目

目標	多様なデータやサービスが連携したデータ駆動型・知識集約型都市の構築により、社会と暮らしの最適化を実現する。 まちの資源を活かした、誰もが主役となるまち「公園都市 周南」を目指している。
課題	立体的な都市構造の可視化による効率的・効果的な都市計画やまちづくりの検討、合意形成 職員自らが編集可能なシミュレーションツールによる都心軸全体を俯瞰した施設整備計画の立案、ウォカブルなまちづくりの検討
創出価値	・ 都市計画やまちづくり立案の高度化 ・ 街路再編などの整備イメージの可視化による効率的・効果的な合意形成。 ・ 整備施設の可視化による他の施設との位置関係や建物規模、歩行者視点からの景観の確認など、エリア価値の向上につながる施設整備計画の立案 ・ 回遊性の高いウォカブルなルートやエリアの形成、シミュレーション
事前調査等	－
3D都市モデル整備・更新	・ 3D都市モデル整備（LOD1, LOD2）
ユースケース開発	・ 3D都市モデルを活用した都市計画情報可視化事業 ・ 3D都市モデルを活用したまちづくりシミュレーション事業
推進事業	－

総事業費（予定）	2,110（万円） ※うちR6年度1,057.4（万円）
R6年度補助額	528.7（万円）
補助対象外の関連事業	3D都市モデル整備事業（LOD1）（205km <sup>2</sup> ）（デジタル田園都市国家構想交付金）
オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／UC②データ（予定）】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／UC②データ（予定）】 ・ 山口県オープンデータカタログサイト 【3D都市モデル／UC②データ（予定）】に掲載
R6年度委託事業者	株式会社日建技術コンサルタント（3D都市モデル整備事業（LOD1, LOD2）、3D都市モデルを活用した都市計画情報可視化事業） 株式会社フォーラムエイト（3D都市モデルを活用したまちづくりシミュレーション事業）

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 46.山口県周南市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	市街化区域等※	205km <sup>2</sup>	R6年度整備
LOD2	建築物	都心軸	0.47km <sup>2</sup>	R6年度整備

※デジタル田園都市国家構想交付金

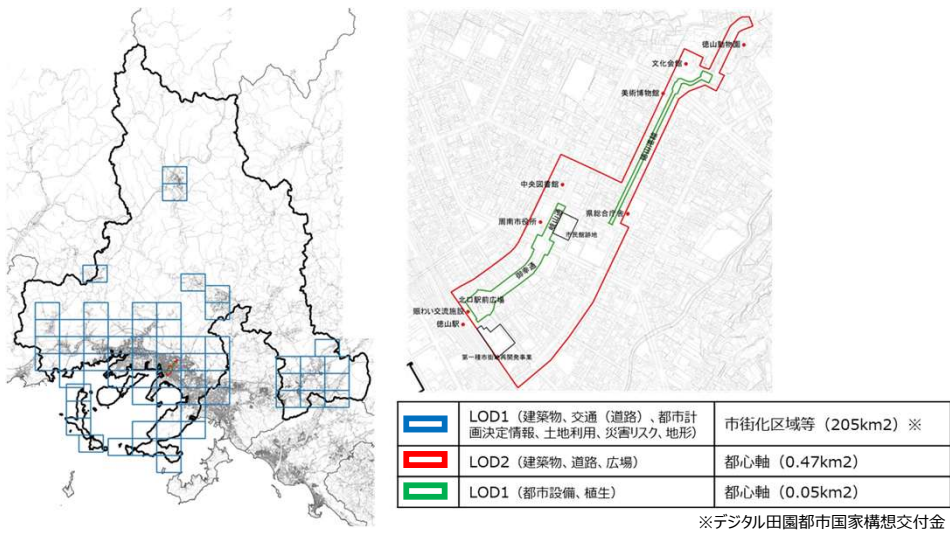
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	都市設備 植生	都心軸	0.05km <sup>2</sup>	R6年度整備
LOD2	交通（道路） 交通（広場）	都心軸	0.47km <sup>2</sup>	R6年度整備

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5－15万	500以上	2－3千



■ 3D都市モデル整備エリア図



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	4.数値地形図（DMデータ）（既存）	R5年度	2,500
測量成果	3.既存資料（航空写真）	R5年度	1,000
属性情報	1.都市計画基礎調査（既存）	R4年度	－
	3.その他（立地適正化計画）	H30年度	－



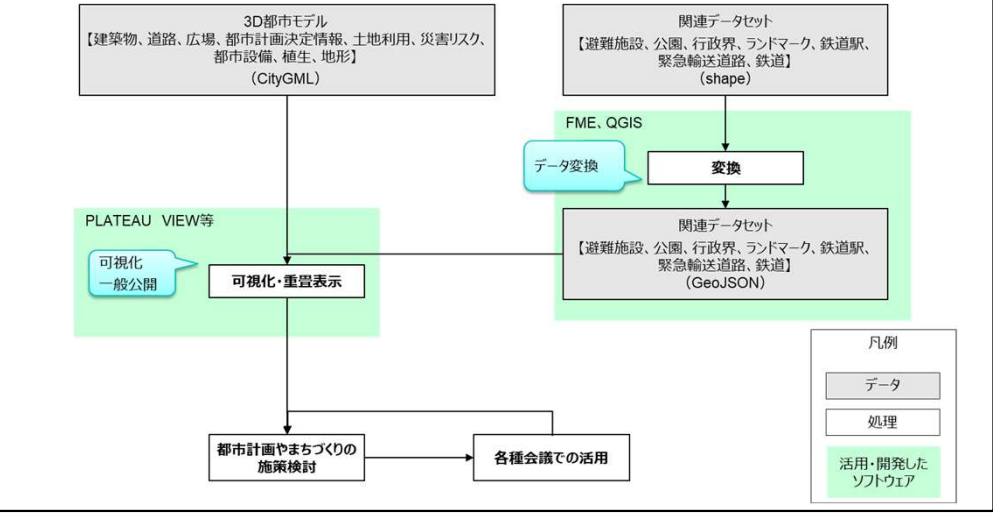
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 46. 山口県周南市

■ ユースケース①概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	立体的な都市構造の可視化による効率的・効果的な都市計画やまちづくり施策立案の高度化、合意形成。
取組内容	個別の2次元地図データではエリア全体を俯瞰した都市計画やまちづくりの検討、また、その検討結果について、関連する会議等で参加者にわかりやすい説明ができていないといった課題がある。そのため、都市計画決定情報や都市計画基礎調査、各施設等のデータを3D都市モデル上で重畳表示し、都市計画やまちづくりの施策立案の検討及び説明資料として活用する。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5－15万	500以上	2－3千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1, LOD2 (名称、用途、面積、計測高さ、地上階数)</li><li>道路LOD1, LOD2 (名称、機能、用途、幅員)</li><li>広場LOD2 (名称、機能、面積)</li><li>都市計画決定情報LOD1 (区域名称の区域の範囲、区域の種類)</li><li>土地利用LOD1 (用途、面積)</li><li>災害リスクLOD1 (浸水想定区域 (洪水、高潮、津波) の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、起こりうる災害の内容)</li><li>都市設備LOD1 (分類、機能)</li><li>植生LOD1 (名称、樹種、高さ)</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>避難施設 (高さ、行政区画、名称、住所、施設の種類、収容人数、施設規模、災害分類、レベル)</li><li>公園 (管理都道府県・整備局、管理市区町村、公園名、公園種別、所在地都道府県名、所在地市区町村名、供用開始年、供用済面積、都市計画決定)</li><li>行政区画 (都道府県の行政コード、都道府県名、市区町村の行政コード、市区町村名)</li><li>ランドマーク (名称、高さ、種類)</li><li>鉄道駅 (駅名、高さ、鉄道区分、事業者種別、路線名、運営会社)</li><li>緊急輸送道路 (区分、道路種別、路線名称、任意ID、枝ID、資料名称、資料年月、行政区画)</li><li>鉄道 (行政区画、鉄道区分、事業者種別、路線名、運営会社)</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>対象区域の3D都市モデルと都市計画決定情報や都市計画基礎調査の土地利用現況等の既存データを変換し、PLATEAU VIEW等で重ね合せ、都市構造を立体的に可視化。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>わかりやすく可視化した都市構造を用いて、都市計画決定や土地利用等の施策検討に活用する。</li><li>都市計画やまちづくりの検討に伴う各種会議において、現況の都市構造や検討結果を、3D都市モデルから作成した静止画やPLATEAU VIEWを用いて複数の視点から説明し、内容への理解を深めてもらうことにより活発な意見交換等を促す。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	3D都市モデルを山口県オープンデータカタログサイトに掲載

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 46. 山口県周南市

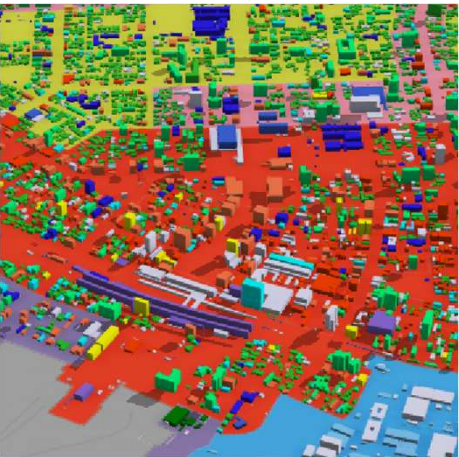
KPI

KPI	目標設定	達成状況
庁内外の会議出席者がPLATEAU VIEW等により作成した資料がわかりやすいと思う割合(%)	60% (R6年度)	94.4% (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5－15万	500以上	2－3千

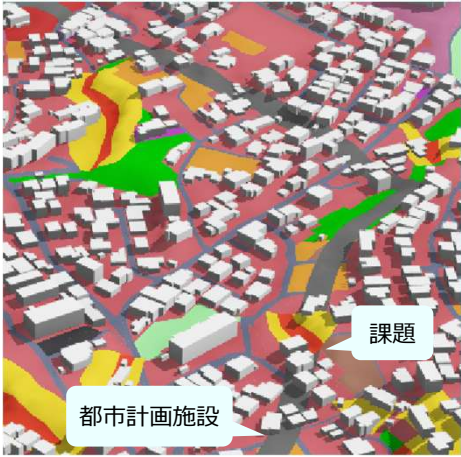


ユースケース開発成果イメージ図



都市構造の可視化

建築物モデル、都市計画決定情報等を重ね合わせ、都市構造を立体的にわかりやすく可視化。



都市計画やまちづくり施策での活用

可視化した都市構造を用いて、都市計画の見直しや土地利用等の施策検討に必要な資料を作成。

今後の展望

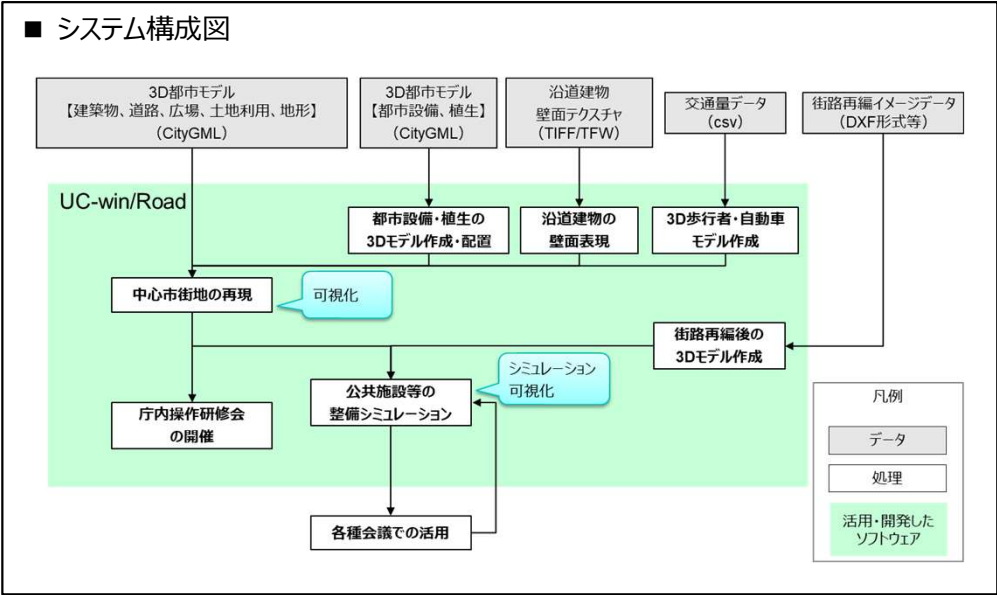
今後、立地適正化計画の進捗状況の評価及び施策検討、外部会議等に活用したい。  
また、今回は都市計画・まちづくり分野での活用にとどまっているが、庁内で開催した3D都市モデルの説明会でのアンケート結果を踏まえ、他分野業務で活用されるよう周知・啓発していきたい。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

46. 山口県周南市

■ ユースケース②概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	職員自らが編集可能なシミュレーションツールによる都心軸全体を俯瞰した施設整備計画の立案、ウォーカブルなまちづくりの検討。
取組内容	景観やエリア価値の向上につながる施設整備計画の立案、また、ウォーカブルな空間の創出施策の検討に課題があるため、3D都市モデルや人流計測データを活用して都心軸をシミュレーションツール（VR）により再現し、職員自らが整備イメージを作成・可視化させ、施設整備計画等の立案に活用する。



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5－15万	500以上	2－3千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1, LOD2（名称、用途、面積、計測高さ、地上階数）</li><li>道路LOD1, LOD2（名称、機能、用途、幅員）</li><li>広場LOD2（名称、機能、面積）</li><li>都市設備LOD1（分類、機能）</li><li>植生LOD1（名称、樹種、高さ）</li><li>土地利用LOD1（用途、面積）</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>建物テクスチャ（沿道建物の壁面表現）</li><li>街路再編イメージデータ（街路再編の断面構成）</li><li>歩行者交通量データ（歩行者交通量）</li><li>全国道路・街路交通情勢調査結果（自動車交通量（12時間、24時間）、大型車両混入率、混雑度、旅行速度）</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>職員自らが編集可能なソフトウェアを導入し、対象区域の3D都市モデルをソフトウェアで活用できるよう変換・可視化。</li><li>都心軸内の沿道建物の壁面を現地撮影により取得したテクスチャの貼り付けにより表現し、中心市街地のまちなみを再現。</li><li>中心市街地活性化協議会が作成した「未来ビジョン」等を基に、街路再編案の3Dモデルを2案程度作成し、可視化。</li><li>既存の歩行者交通量データや全国道路・街路交通情勢調査の結果を基に、中心市街地の歩行者や自動車の交通量を3Dモデルにより再現。</li><li>施設整備や街路再編による発生交通量を基に、交通量の変化を可視化し、都心軸内の回遊性を高めるエリア・ルートの検討に活用。</li><li>新たな公共施設の建設や街路再編の整備イメージを職員自らが作成・編集し、施設配置や建物高さ等の景観検討、また、ウォーカブルな空間の創出施策及びエリア価値の向上につながる施設整備計画の検討に活用。</li><li>シミュレーションツールの全庁的な活用に向け、庁内関係部署を対象とした庁内操作研修会を開催。</li><li>施設整備計画の検討やウォーカブルなまちづくりの検討に伴う庁内関係会議や関係団体への説明（予定）において、シミュレーションツールを活用。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>新たな公共施設の建設や街路再編の整備イメージ。</li><li>施設整備計画やウォーカブルなまちづくりの検討に伴う各種会議で活用。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	PLATEAU VIEW、G空間情報センター、山口県オープンデータカタログサイトに掲載（まちなみの現況再現データ）（予定）



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 46. 山口県周南市

■ KPI		
KPI	目標設定	達成状況
まちづくりシミュレーションツールの庁内操作研修に参加した関係部署職員が施策検討に有用と思う割合（％）	70% (R6年度)	66.7% (R6年度)
KPI未達を受けての今後の対応	庁内操作研修に参加した関係部署職員の33.3%については、「有用かもしれない」と回答しており、その理由として、職員自らがシミュレーションツールにより整備イメージのモデル化やシミュレーションを行うことに自信がないという意見が多くあった。 しかし、活用できそうな業務内容についての回答では、シミュレーションツールの機能で実施可能であること、また、合意形成や施策検討の高度化に高い効果を期待できるとの回答を得ていることから、シミュレーションツールのユースケース成果の発信を継続的に行い、庁内でシミュレーションツールが活用されるよう周知・啓発をしていく。	

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5－15万	500以上	2－3千



■ ユースケース開発成果イメージ図



まちなみの再現

3D都市モデル及び交通量調査を活用し、まちづくりシミュレーションツールにより都心軸のまちなみを再現。



街路再編イメージの可視化

ウォーカブルな空間の創出のために必要な街路再編案を作成し、関係者間の検討・合意形成ツールとして活用。

■ 今後の展望

今回は一部エリアの現況のまちなみや交通量の再現、街路再編等の整備イメージを可視化し、庁内関係会議及び関係団体への説明（予定）での活用にとどまっているが、今後外部会議等に活用したい。  
また、庁内操作研修に参加した関係部署職員から得たアンケート結果を踏まえ、高い評価を得られなかった土木・建築以外の分野及び業務で活用されるよう周知・啓発していきたい。



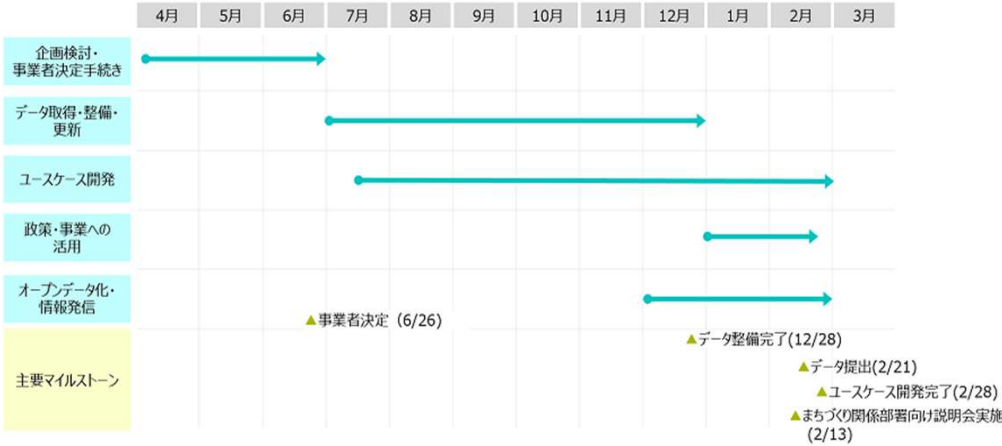
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 47.香川県さぬき市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	4.4万人（令和6年12月時点）
市域全域面積	158.62km <sup>2</sup> （令和6年12月時点）
主な産業 地域課題等	<p>本市では「第2次さぬき市総合計画」の中で、重点プロジェクトとして「人口減少対策プロジェクト」、「共同のまちづくり推進プロジェクト」を掲げており、後期基本計画（令和5年度から令和8年度まで）の策定に向けて課題を洗い出すために「市民意識調査」を実施した。</p> <p>その結果、「商工業の振興と産学官の連携強化」「観光の振興」「公共交通網の充実」「定住促進対策」等のサービス向上を求められる声が多い結果となった。</p> <p>また、近隣の市町と比較して住民サービス向上を求める声も市民意識調査では多くを占めており、これまで以上に実用性のある施策を立案する必要性に迫られている。</p>

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	3－5万	100－200	1－2千

担当部局	建設経済部都市整備課
------	------------

■ 補助事業実施項目

目標	“強い”まちづくりを前提とした、暮らしが持続する「まとまり」と「補完」のまちづくり		
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>南海トラフ地震に備え、災害リスクをさらに効果的に可視化し、市民の防災意識のさらなる向上が必要</li><li>津波浸水想定区域を含む居住誘導区域における効果的な避難環境の整備</li><li>人口集中地区である志度地区（居住誘導地区）のまちづくりにおける課題把握</li></ul>		
創出価値	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルを活用し、災害リスクをわかりやすく示すことで市民の防災意識を向上</li><li>3D都市モデルを活用し、今後の防災計画や避難経路を効果的に策定</li><li>庁内検討をふまえ、避難訓練等防災まちづくりイベントで活用し、市民の行動変容を促進</li><li>人口集中地区の維持に向けた施策検討の活発化</li></ul>		
事前調査等	－		
3D都市モデル整備・更新	・ 建築物（LOD1, LOD2）の属性更新		
ユースケース開発	・ 3D都市モデルを活用した都市構造可視化事業		
推進事業	3D都市モデルを活用した防災減災啓発		
総事業費（予定）	3,981.7（万円） ※うちR6年度1,481.7（万円）		
R6年度補助額	740.8（万円）		
補助対象外の関連事業	－		
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>G空間情報センターへの掲載</li><li>PLATEAU VIEWへの掲載</li><li>さぬき市オープンデータカタログサイト</li><li>さぬき市ホームページ</li></ul> <div><div>【3D都市モデル】</div><div>【3D都市モデル／UCデータ】</div><div>【G空間情報センターへの誘導】</div><div>【G空間情報センターへの誘導】</div></div>		
R6年度委託事業者	アジア航測株式会社（建築物（LOD1, LOD2）の属性更新、3D都市モデルを活用した都市構造の可視化事業）		

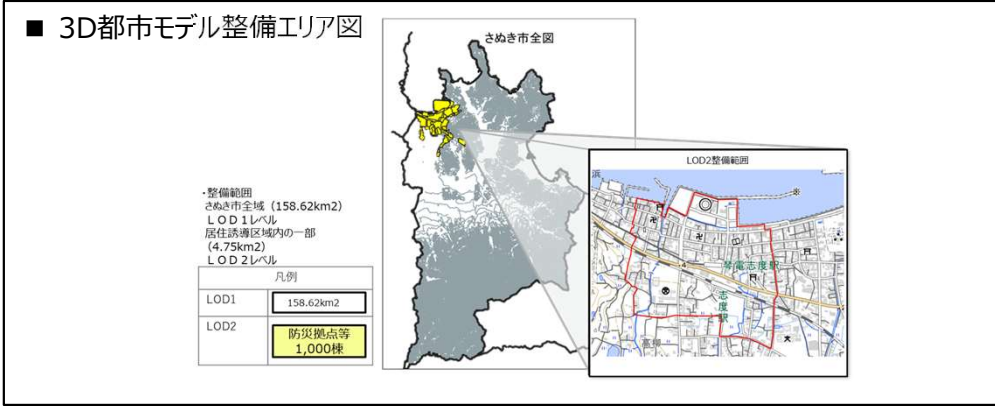


Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 47.香川県さぬき市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	さぬき市全域	158.62km <sup>2</sup> 158.62km <sup>2</sup>	R5年度整備済 R6年度更新
	交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	さぬき市全域	158.62km <sup>2</sup>	R5年度整備済
LOD2	建築物	さぬき市内居住誘導区域 さぬき市内居住誘導区域	4.75km <sup>2</sup> 4.75km <sup>2</sup>	R5年度整備済 R6年度更新



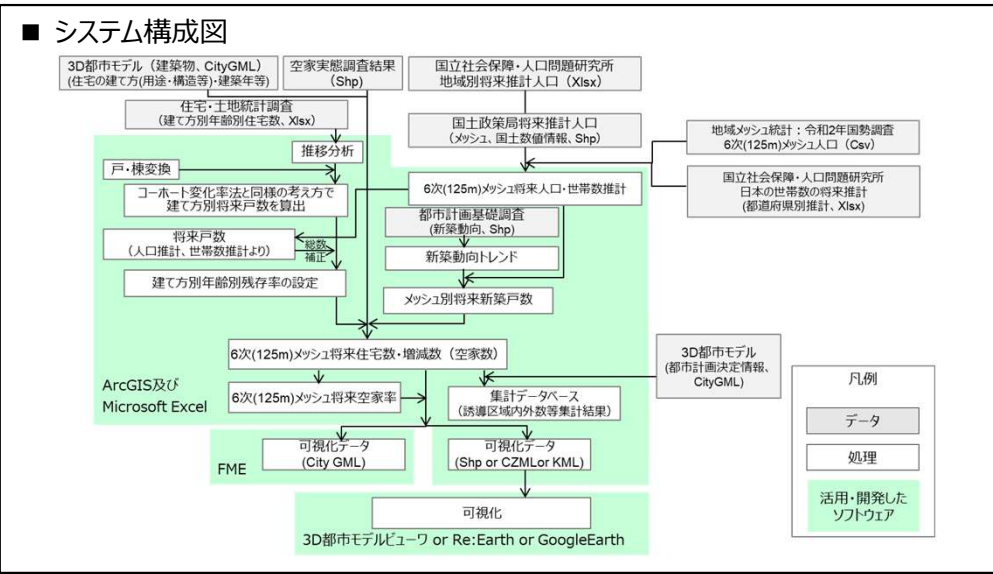
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R5年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R4年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R5年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	3－5万	100－200	1－2千



■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	志度地区（居住誘導区域）のまちづくりにおける課題把握と庁内検討の活発化
取組内容	市内私立大学の隣市への移転（R7.4月）や市内県立高校3校の新設統合（R12.4月）が予定されており、まちの関係人口の減少や空家等の増加などの課題が予測される。そのため、都市構造や空家の現況・発生予測等を3D都市モデル上に可視化し、庁内検討（立地適正化計画や地域公共交通計画の見直しなど）において活用を図る。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

47.香川県さぬき市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1,LOD2 (建物名称、建築確認申請番号、敷地/延床/図形/面積、構造種別、区域区分、現象区、地上階数、建築年、空家)</li><li>都市計画決定情報LOD1 (区域名称、分類、決定日、決定主体、公称面積、市区町村等)</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>空家実態調査結果 (空家位置、付随属性情報)</li><li>地域メッシュ統計令和2年国勢調査 (6次(125m)メッシュ人口)</li><li>地域別将来推計人口 (将来推計人口、封鎖人口を仮定した将来推計人口)</li><li>日本の世帯数の将来推計 (都道府県別推計) (平均世帯人員の推移)</li><li>将来推計人口 (メッシュ別将来推計人口)</li><li>住宅・土地統計調査 (建て方別年齢別住宅数)</li><li>都市計画基礎調査 (新築動向)</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>将来空家発生数の総数補正として用いる将来夜間人口及び世帯数について、社人研推計人口 (国土政策局推計結果) を前提とし、私立大学の隣市への移転による影響も踏まえながら、125mメッシュにて推計</li><li>建て方別年齢別での建物の残存トレンド、新築立地動向を踏まえながら、現況～将来 (2030,2040,2050年を想定) における住宅数・増減数 (空家数) を推計</li><li>推計結果である現況～将来における空家数について、政策立案に有効な統計グリッド (3D棒グラフ:i-UR_Statistical grid data) での可視化。可視化を行うアプリケーションは、WebGIS(GoogleEarth)、3D都市モデルビューワ(PLATEAU VIEW)を使用</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>開発成果を必要に応じてさぬき市職員・市民に周知し、市の現状・将来の見通しの共有を図り、まちづくりの意識向上につなげる。さらに、今後改定する立地適正化計画、地域公共交通計画の検討材料として活用を図り、住民サービス向上につながる実用性のある施策の立案につなげる。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	さぬき市オープンデータカタログサイトにてG空間情報センターへの誘導 さぬき市ホームページにてG空間情報センターへの誘導

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	3－5万	100－200	1－2千



■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
まちづくり部署の職員に対するアンケートで、3D都市モデルが立地適正化計画や地域公共交通計画の見直し等に役立つと回答した職員の割合 (%)	50% (R6年度)	60% (R6年度)

■ ユースケース開発成果イメージ図

**2050年空家予測結果**  
2050年時点の空家数、空家率の予測を3D都市モデル上で可視化

**まちづくり関係部署向け説明会**  
都市構造・空家現況・予測結果を報告  
立地適正化計画や地域公共交通計画見直しなどへの活用方法を議論

■ 今後の展望

今回の成果を地域の課題把握や課題に応じた施策検討のほか、庁内あるいは地域住民との円滑な意識共有などに活用する。また、本事業の成果や都市構造評価ツールなどを活用し、立地適正化計画や地域公共交通計画の見直しなどに取り組むとともに、住民サービス向上につながる実用性のある施策の立案につなげる。

あわせて、3D都市モデルを用いて災害リスクの市民への啓蒙活動も継続して実施し、災害に強いまちづくりにつなげる。

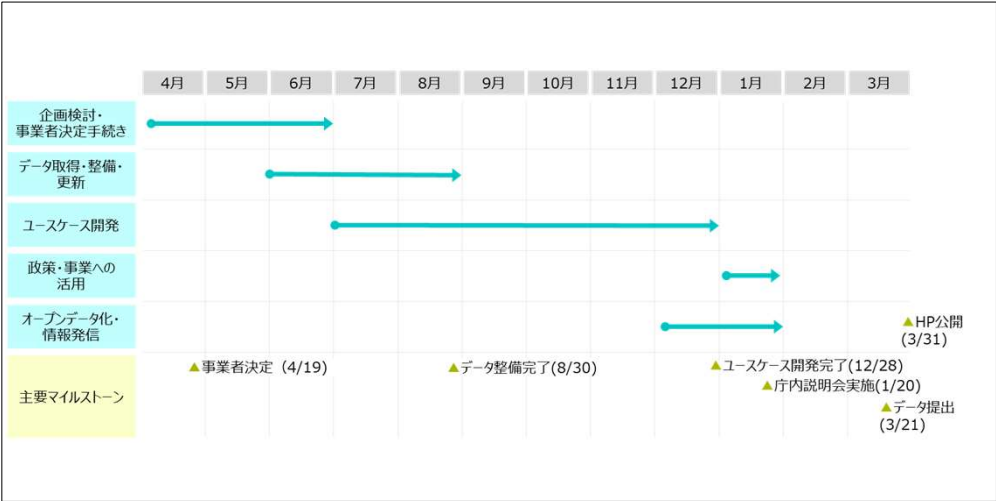
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 48.愛媛県東温市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約3万人（令和6年4月時点）
市域全域面積	23.80km <sup>2</sup> （令和6年4月時点）
主な産業 地域課題等	愛媛県の中央部に位置する中山間地域。県都松山市の東に隣接する都市近郊型のまちで、古くから関西方面への交通の要所。人口は約3万人。 本市の少子高齢化による人口減少が、令和42年には、24,210人と、令和2年と比べ28.6%の減という推計が出されている。 これらの社会問題に対応するためには、コンパクトで持続可能なまちづくりを目指す必要があり、R5年度より、本格的に都市計画マスタープランの改定及び立地適正化計画の策定を進めることとしている。 これらの計画により、効率的な土地利用を推進することと合わせて、市総合計画等で人口減少対策と位置付けられている各種施策を推進し、住環境の向上や企業誘致の促進を図る。

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1－3万	200－500	2－3千

担当部局	都市整備課
------	-------

■ 補助事業実施項目

目標	3D都市モデルを活用したまちづくり
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>人口減少が進んでおり、効率的なまちづくりとしてコンパクト化に向けた取り組みが必要</li><li>都市計画や立地適正化計画など、居住の適正な誘導に加えて、暮らしを支える都市サービスを提供する拠点の形成、工業・商業など産業立地の適正な誘導が課題</li><li>本市の特性（交通利便性・企業誘致）を踏まえた取り組み効果の可視化が必要</li></ul>
創出価値	東温市都市空間デジタル基盤データが持つ建築物の高さ、用途等の情報、土地利用状況、都市計画情報等のデータを活用し、都市構造の変化を把握するシミュレーションデータを作成することで、今後の都市計画の方向性の検討や庁内の情報共有に役立てる。

事前調査等	・ ユースケース開発に関する事前調査
3D都市モデル整備・更新	－
ユースケース開発	・ シナリオに基づく地区シミュレーション
推進事業	－

総事業費（予定）	4,370（万円） ※うちR6年度2,300（万円）
R6年度補助額	1,150（万円）
補助対象外の関連事業	－

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>G空間情報センターへの掲載 【UCデータ】</li><li>PLATEAU VIEWへの掲載 【UCデータ】</li></ul>
-------------------	--

R6年度委託事業者	国際航業株式会社（ユースケース開発に関する事前調査、シナリオに基づく地区シミュレーション）
-----------	---





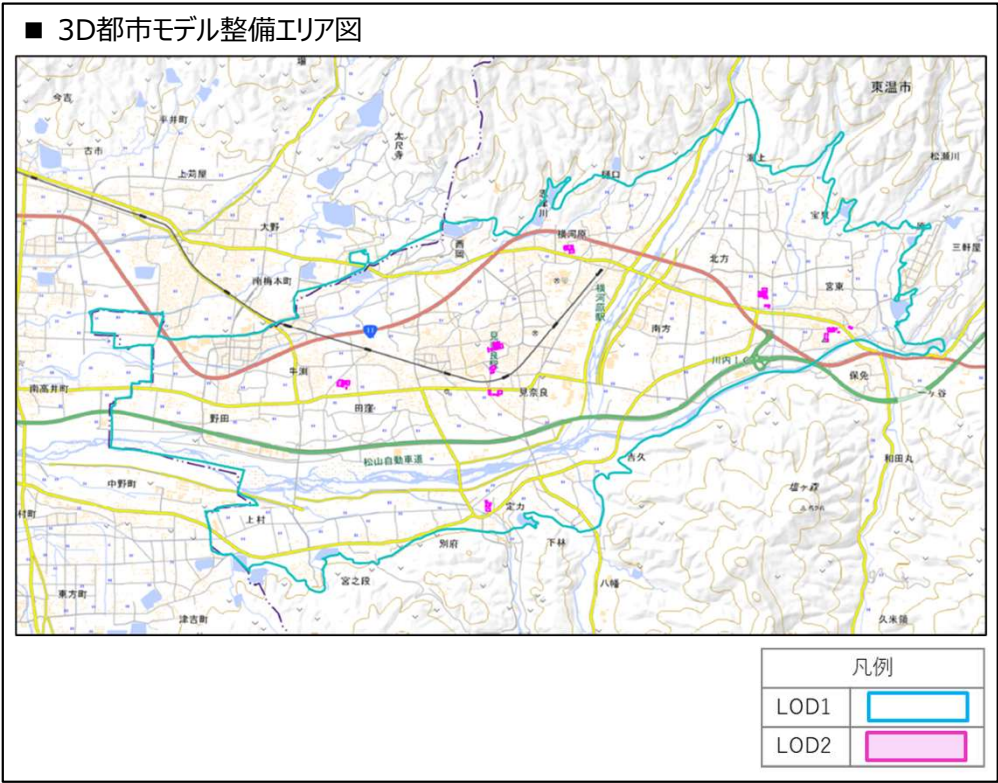
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

48.愛媛県東温市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 土地利用 地形	松山広域都市計画区域	23.80km <sup>2</sup>	R5年度整備済
	都市計画決定情報	都市計画区域、区域区分、用途地域、交通施設、公共空地、水路、市街地開発事業モデル、土地区画整理事業、地区計画	23.80km <sup>2</sup>	R2年度整備済
	災害リスク	洪水浸水想定区域(1区域 重信川水系 重信川) 土砂災害警戒区域	23.80km <sup>2</sup>	R5年度整備済
LOD2	建築物	主要公共施設 10棟	0.04km <sup>2</sup>	R5年度整備済

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1－3万	200－500	2－3千



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	H30年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	H30年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R2年度	－

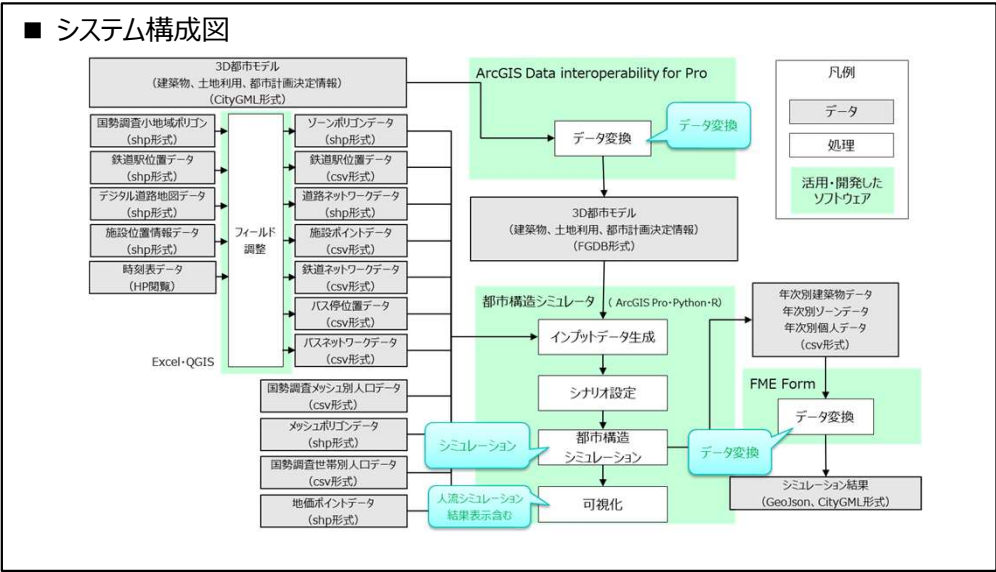
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 48.愛媛県東温市

■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	居住の誘導、拠点の形成、産業立地の適切な誘導を推進するため、3D都市モデルを活用した都市構造シミュレーションを開発、施策シナリオ検討を行い、今後の都市計画の方向性の検討に活用する。
取組内容	R5年度事業により整備した3D都市モデルへ、地区開発を行った場合のシミュレーション効果（人口、世帯、地価、空き家の変化）を可視化し、コンパクトシティへの理解と庁内の関連施策との連携強化を図る。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1-3万	200-500	2-3千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1（用途、計測高さ、地上階数、建築年、延床面積、図形面積）</li><li>都市計画決定情報LOD1（区域名称の区域の範囲、区域の種類）</li><li>土地利用情報LOD1（土地利用用途）</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>施設位置情報データ（施設の種類、緯度、経度）</li><li>デジタル道路地図データベース（DRM）（道路幅員、ジオメトリ）</li><li>鉄道駅位置データ（鉄道駅の名称、位置）</li><li>時刻表データ（鉄道駅間、バス停間の所要時間、運行本数）</li><li>国勢調査メッシュ別人口データ（メッシュコード、性別、年齢、人口）</li><li>メッシュポリゴンデータ（メッシュコード、ジオメトリ）</li><li>国勢調査世帯別人口データ（小地域コード、世帯類型、人口）</li><li>国勢調査小地域ポリゴン（小地域コード、ジオメトリ）</li><li>地価ポイントデータ（地価、緯度、経度）</li></ul>
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>都市構造シミュレーションの実施にあたり、必要となるゾーン単位データ、交通データ、個人データ等の各種資料の収集及び整理を行うものとする。</li><li>3D都市モデル上に、居住人口、地価変動、空き家分布等の都市構造の変化を予測・可視化する都市構造シミュレーション環境を整備する。</li><li>本市における都市計画で検討している施策シナリオ（5テーマ）について、施策実施後の効果を表現するデータを作成する。</li><li>R5年度に開発した人流ユースケース成果を活用し、都市構造シミュレータに活用できることを検討する。</li><li>本業務で整備した都市構造シミュレーションデータをビューワへセットアップする。</li><li>シミュレーションオープンデータを作成するとともに、庁内調整会議等で説明できるデータ等を作成する。</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>都市計画マスタープラン等で位置付けた地域拠点について、施策実施による都市構造の変化・効果を検証し、方針決定の資料とする。</li><li>庁内関係部局及び都市計画審議会での説明資料として活用する。</li></ul>
オープンデータ情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>市ホームページの紹介ページにPLATEAU VIEWへのリンクを掲載する。</li></ul>

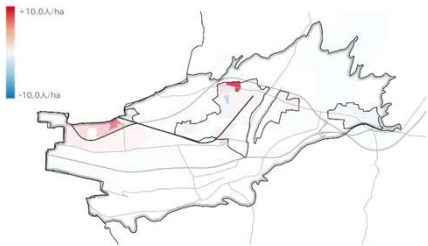
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

48.愛媛県東温市

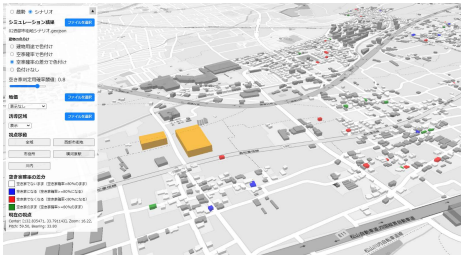
KPI

KPI	目標設定	達成状況
都市データを活用した都市計画（都市計画マスタープラン・立地適正化計画）の策定計画数（件）	2件 （R6年度）	2件（R6年度） 2025/3計測
都市機能の集約効果が、従来の手法より理解しやすいと回答した職員の割合（％）	50% （R6年度）	85%（R6年度） 2025/1計測

ユースケース開発成果イメージ図



将来都市構造の変化を可視化  
商業施設が整備された場合の  
人口密度の増加をシミュレーション



将来都市構造の変化を可視化  
シミュレーション結果を三次元で可視化  
事業の効果説明に活用

今後の展望

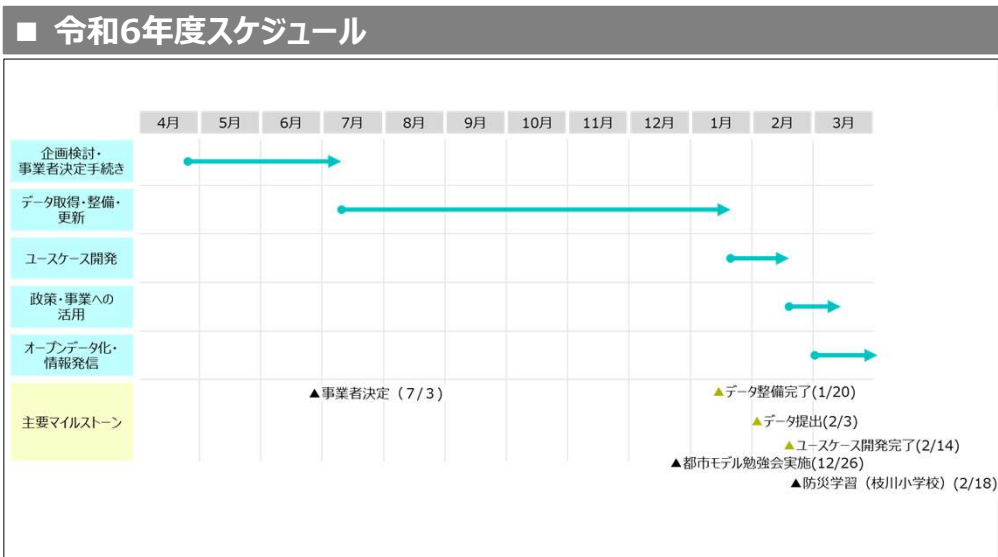
今回は、都市計画の方針に沿った開発事業による都市の変化を確認した。現時点では算定方法が確立していないが、庁内からの意見も多かった他の施策やイベント開催の効果確認など、幅広い分野への活用を検討していきたい。

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1－3万	200－500	2－3千

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 49.高知県の町

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	20,826人（令和6年12月時点）
町域全域面積	470.97km <sup>2</sup> （令和7年1月時点）
主な産業 地域課題等	まちの中心部には、1級河川仁淀川が縦断し、JR伊野駅周辺には、地方公共団体・量販店等が集積。職住近接として、多くの家屋等が立地している。 気候変動の影響により、仁淀川の河川流量が増加した場合においても目標とする治水安全度を確保するため、国土交通省高知河川国道事務所や流域市町村と共に、全国で初めてとなる、気候変動を踏まえた河川区域、集水域及び氾濫域での追加の対策をとりまとめた『仁淀川流域治水プロジェクト 2.0』を策定している。



分野

人口規模

面積規模

予算規模

防

1－3万

200－500

2－3千

担当部局

土木課

■ 補助事業実施項目

目標	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化		
課題	<p>想定最大降雨による浸水深は、5m以上、中心部は家屋倒壊等氾濫想定区域になっている。仁淀川本線や支川である宇治川が破堤した場合、現状9,830人、河川改修を行っても8,860人が命の危険があると考えられている。流域治水の推進方針に基づき、地域の自主防災組織が率先して防災学習会を開催している状況であるが、参加率の低い若年層に被災リスクを理解してもらう啓発活動が必要である。</p>		
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデルを活用し、災害リスクをわかりやすく示すことで、地区における防災学習会や学校における防災学習で活用し、避難計画立案や防災意識が向上する。</li> </ul>		
事前調査等	—		
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデル整備（LOD1,LOD2）</li> </ul>		
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>時系列浸水シミュレーションデータ及び土砂災害リスクの3D可視化による防災計画立案・防災意識啓発</li> </ul>		
推進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>YouTube等による時系列浸水シミュレーションのオープンデータ化</li> </ul>		
総事業費（予定）	1,859（万円）		
R6年度補助額	1,000（万円）		
補助対象外の関連事業	—		
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】</li> <li>PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】</li> <li>いの町オープンデータサイト【3D都市モデル】</li> <li>いの町ホームページに掲載【時系列浸水シミュレーション動画】</li> </ul>		
R6年度委託事業者	国際航業株式会社		

PLATEAU

by MLIT



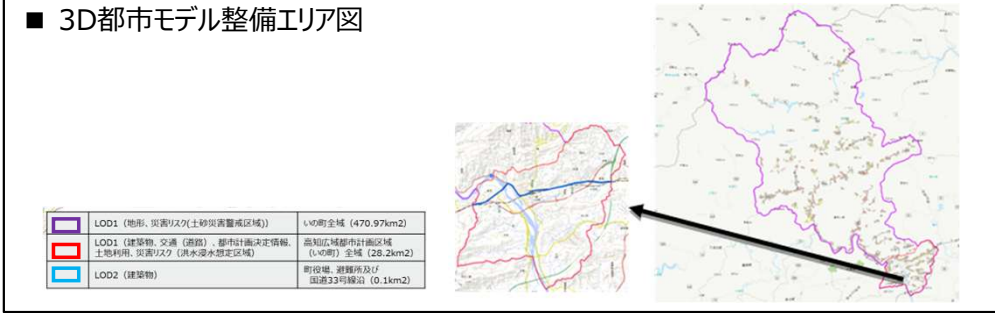
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 49.高知県の町

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク	いの町のうち、高知広域都市計画区域	28.2km <sup>2</sup>	R6年度新規整備
	災害リスク	いの町全域 （土砂災害警戒区域）	470.97km <sup>2</sup>	R6年度新規整備
	地形	いの町全域	470.97km <sup>2</sup>	R6年度新規整備
LOD2	建築物	町役場、避難所及び国道33号線沿	0.1km <sup>2</sup>	R6年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	家屋現況図（GISデータ）	R2年度	1,000
	高知広域都市計画図（DMデータ）（修正）	H26年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R5年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R2年度	—
	立地適正化計画	R2年度	—

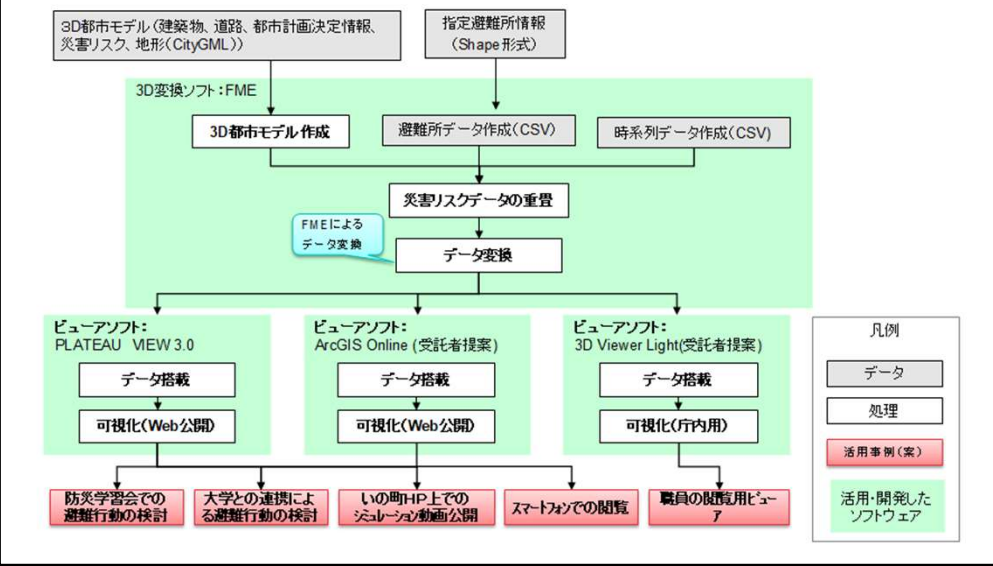
分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	1－3万	200－500	2－3千



■ ユースケース概要

分野	防災・防犯
目的	災害リスクをわかりやすく可視化し、若年層に被災リスクを理解してもらう。
取組内容	3D都市モデル上で、時系列浸水シミュレーション等を活用して、避難訓練・避難計画の検討や災害リスク可視化による啓発活動を行う。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

49.高知県の町の町

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1,LOD2 (用途、地上階数、建築年)</li><li>都市計画決定情報LOD1 (区域名称の区域の範囲、区域の種類)</li><li>災害リスク (土砂災害) LOD1 (土砂災害警戒区域情報)</li><li>災害リスク (浸水) LOD1 (洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分)</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>指定避難所情報 (避難所名称、所在地、災害種類)</li><li>仁淀川浸水想定区域情報 (時系列浸水データ)</li><li>土砂災害警戒区域 (土砂災害警戒区域情報)</li></ul>
ユースケース 開発方法	<p>(1) 高知河川国道事務所 (国土交通省) が整備した仁淀川浸水想定区域図データを活用し、仁淀川堤防決壊時の時系列シミュレーションを作成時系列浸水シミュレーションは、10分単位等で、48時間先まで、水位がcm単位で浸水するかを3D都市モデル上で再現する。また高知県が公開する土砂災害警戒区域をいの町全域で整備</p> <p>(2) (1) 整備したデータをPLATEAU VIEW等で可視化を行い、インターネット上に公開</p> <p>(3) 庁内で整備結果の報告会を行うほか、整備データの利活用や今後のUCについて検討</p> <p>(4) 小学校への出前授業を行い、自宅での浸水リスクの確認や避難場所・避難行動について学習する機会を提供</p>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>防災対策の重要性を理解し、防災意識の向上を図るために、可視化したデータに基づき、小学校での防災学習会で浸水シミュレーションを活用した避難行動の検討を行う。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>いの町オープンデータサイトにPLATEAU VIEWリンクを掲載</li><li>時系列浸水シミュレーション動画をいの町ホームページに掲載 (いの町公式YouTubeを活用)</li></ul>

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	1－3万	200－500	2－3千



■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
本UCにて整備するシミュレーションを活用した小学校での出前授業、また、3D都市モデルを活用した施策の検討を行う学習会 (R6年度のみ実施) への参加人数 (人)	150人 (R6年度)	165人 (R6年度)
出前授業でアンケート調査を行い、防災対策の重要性を理解できたと答えた回答の割合 (%)	70% (R6年度)	98.1% (R6年度)
本UCにて整備するシミュレーションを活用した小学校での出前授業 (年1回開催) の開催数及び人数 (人)	5回 350人 (R11年度)	104人 (R6年度) (1回)

■ ユースケース開発成果イメージ図

破堤10分後

破堤120分後

浸水リスクの可視化

建物LOD1・LOD2と浸水時系列シミュレーションを重ねて可視化。

土砂災害リスクの可視化

建物LOD1とLOD2と土砂災害警戒区域を重ねて可視化。

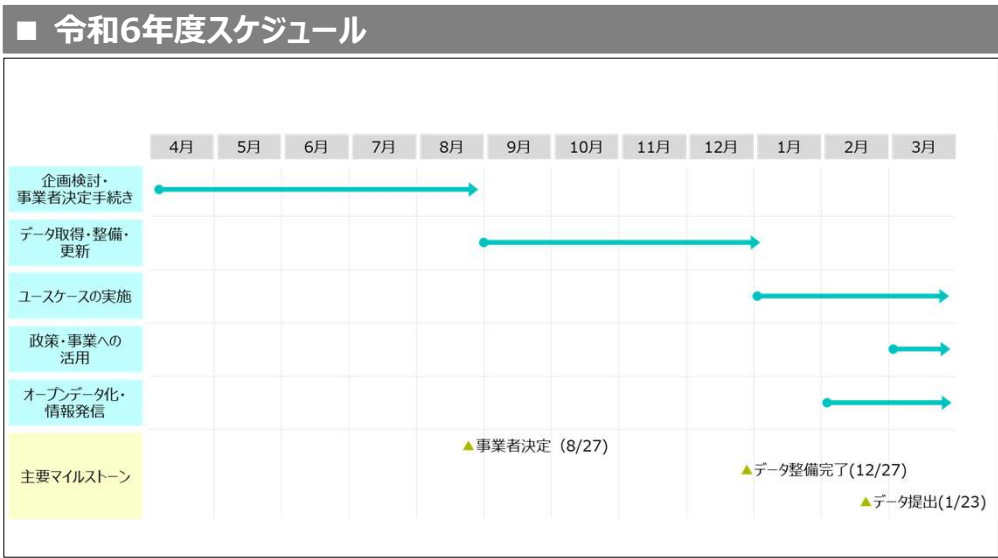
■ 今後の展望

今後、3D都市モデルを活用し、低未利用地となっている駅前駐輪場の活用と併せ、駅前周辺の再整備に向けた検討に活用したい。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 50.福岡県福岡市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	約165万人（令和7年3月時点）
市域全域面積	343.47km <sup>2</sup> （令和7年3月時点）
主な産業 地域課題等	九州最大の商業・業務機能が集積し、天神・博多を有する政令市。人口は約163万人。推計ではR17年度まで人口増加が見込まれている。 都心部を中心に海や山に囲まれ、Y字型に都市機能が集約し、コンパクトな市街地が形成されている。 天神ビックバン：航空法高さ制限の特例承認や市独自の規制緩和により、耐震性が高く先進的なビルに建替えるとともに、みどりや文化・芸術、歴史が持つ魅力に磨きをかけ、多くの市民や企業から選ばれるまちづくりに取り組んでいる。 博多コネクティッド：交通基盤の拡充や規制緩和により、耐震性が高く先進的なビルへの建替えを誘導し、駅周辺地区との回遊性の向上や、多様な個性や豊かさを感じられるまちづくりに取り組んでいる。



PLATEAU  
by MLIT

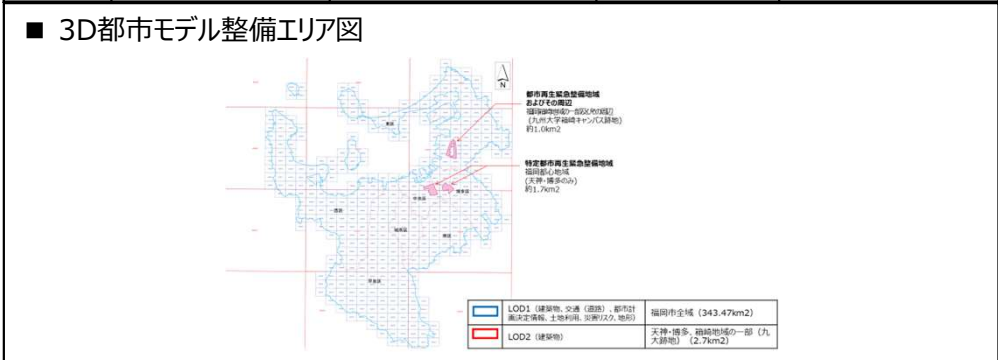
分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	200－500	1千未満
担当部局		防災推進課	
■ 補助事業実施項目			
目標	災害に強く安全な都市空間の形成		
課題	2次元では把握しにくい浸水状況等を3次元等で可視化し、災害リスクの理解や効果的な避難行動を促す必要がある。 AIやIOTなどの先進技術やスマートフォンの普及などにより、便利で快適なサービスへの期待が高まっていると考えられ、市民がデジタル化の恩恵を実感できる取組を一層進めていくことが必要である。 ハザードマップは住民だけではなく、転入者、訪問者等にとっても必要となるため、多様な公表方法により多くの方に見てもらう工夫が必要である。		
創出価値	3D都市モデル及び3次元化した浸水想定区域図を活用し、災害リスクや市民等が防災意識の醸成することで効果的な避難を図る。		
事前調査等	－		
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備（LOD1）		
ユースケース開発	災害リスクの3次元化を活用した地域住民への出前講座等		
推進事業	－		
総事業費（予定）	1,350（万円） ※うちR6年度349.8（万円）		
R6年度補助額	174.9（万円）		
補助対象外の関連事業	－		
オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ／関連データ】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ／関連データ】		
R6年度委託事業者	アジア航測株式会社（3D都市モデルの整備・更新） 福岡市（ユースケース開発 災害リスクの3次元化を活用した地域住民への出前講座等）		

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

50.福岡県福岡市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 地形	市域全域	343.47km <sup>2</sup>	R3年度整備済
	災害リスク ※R6は洪水・高潮・ 津波・土砂災害、R7 は内水＋避難所等の 属性付与	市域全域 市域全域	343.47km <sup>2</sup> 343.47km <sup>2</sup>	R6年度整備 R7年度整備
LOD2	建築物	天神・博多、箱崎地域の 一部（九大跡地）	2.7km <sup>2</sup>	R4年度整備済



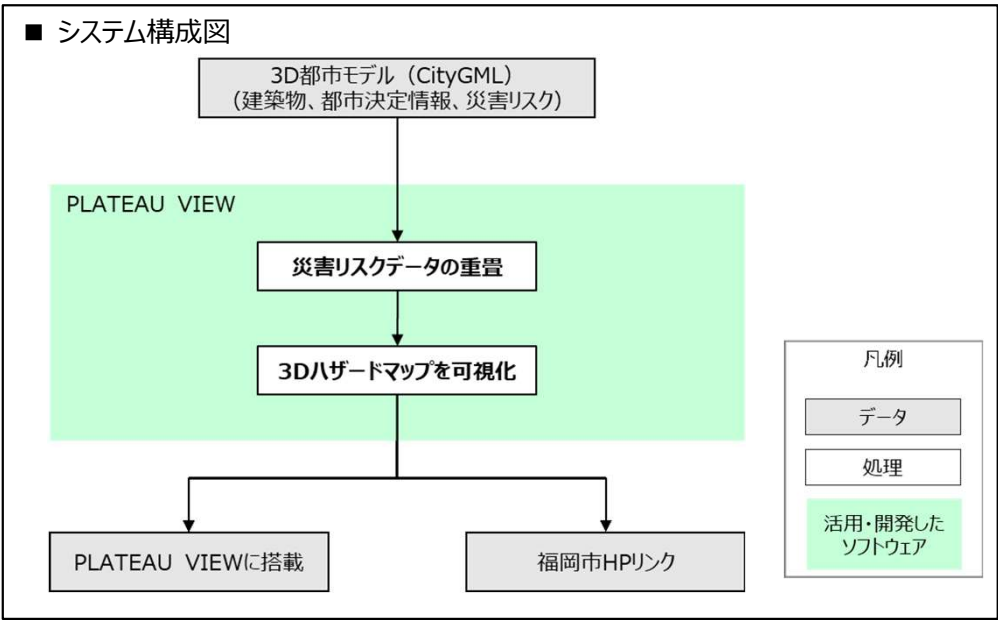
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	その他	H26～R4年度	2,500
測量成果	既存測量（航空写真）	H26～R4年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R4年度	2,500

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	200－500	1千未満



■ ユースケース概要

分野	防災・防犯
目的	災害リスクや市民等がとるべき避難行動を可視化することで効果的な避難を促す。
取組内容	災害リスクのデータをPLATEAU VIEWに重畳して可視化することで、住民の災害リスクへの理解向上・防災意識の向上を図る。





Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 50.福岡県福岡市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1</li><li>都市計画決定情報LOD1（区域名称の区域の範囲、区域の種類）</li><li>災害リスク情報LOD1（洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、起こりうる災害の内容）</li></ul>
活用データ (上記以外)	—
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>浸水想定区域図データを3次元データに変換する。</li><li>上記で変換したデータと既存の3D都市モデルをビューア（PLATEAU VIEW）上に重ね合わせ、災害リスクをわかりやすく可視化するシステムを構築する。</li><li>災害リスクのデータをPLATEAU VIEWのリンクを福岡市HPに貼る。</li><li>PLATEAU VIEWを活用し、出前講座を開催する。建物の高さ等の情報を用いることで、住民が立退き避難（水平避難）や屋内安全確保（垂直避難）等のとるべき避難行動を可視化することで効果的な避難を促す。災害リスクの理解がより深まり、防災意識の向上に寄与する。</li></ul>
政策・事業での 活用	既存の公開している福岡市ホームページ（福岡市総合ハザードマップ）に3Dハザードマップを実装し、住民に公開。また、出前講座等で活用し、住民の災害リスクへの理解向上に努める。
オープンデータ化 情報発信	住民が閲覧しやすいよう福岡市ホームページで公表

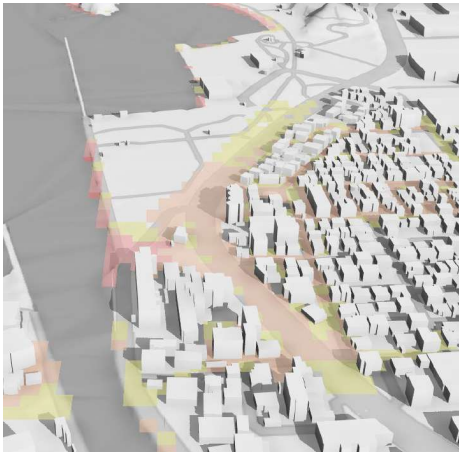
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
住んでいる地域の防災対策が充実していると感じる市民の割合（％）	60％ (R6年度)	50％ (R6年度)
KPI未達を受けて の今後の対応	地域住民が防災対策に対して充実感を得られるよう出前講座を継続的に実施し、KPI達成を目指す。	

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	200－500	1千未満



■ ユースケース開発成果イメージ図



浸水想定区域データの3次元化

既存の3D都市モデルをビューア上に重ね合わせ、災害リスクを分かりやすく可視化。このデータを活用し、出前講座を開催する。



出前講座

公民館にて、住民に対し防災に関する講座を実施、その中で3Dハザードマップについて説明、希望者には実際に操作して頂いた。

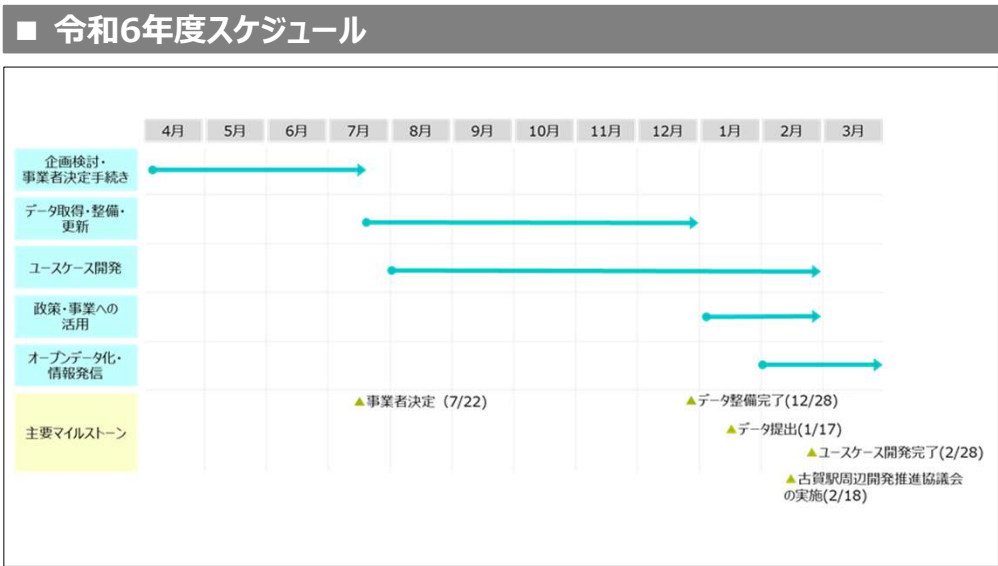
■ 今後の展望

今後は出前講座の回数を増やし、地域住民への防災教育の充実等による更なる防災意識の啓発や防災計画の高度化等に繋げていきたい。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 51.福岡県古賀市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	約6万人（令和7年3月時点）
市域全域面積	42.00km <sup>2</sup> （令和7年3月時点）
主な産業 地域課題等	<p>古賀市は、福岡県の北西部に位置しており、福岡都市圏の郊外として発展しながら、モノづくりや食品関連の工場等も多く立地している。人口は約6万人で市域面積は約42km<sup>2</sup>を有している。</p> <p>古賀駅周辺に立地している食品や製造工場、また大型商業施設と連携しながら、ウォークアブルな空間として再開発の検討を進めている。</p> <p>古賀市では、福岡都市圏の居住者の受皿として人口増が続いて来たが、R3年をピークに減少に転じている。JR鹿児島本線沿線の駅周辺では、ほぼ全てにおいて区画整理等の宅地開発が進められており、古賀駅周辺は、駅前開発における「最後のフロンティア」として、土地の有効活用への期待が高まっており、本市においても人口維持を行っていく上で重要な政策として位置づけられている。</p>



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5 – 15万	50未満	1千未満

担当部局	古賀駅周辺開発推進課
------	------------

■ 補助事業実施項目	
目標	歩きたくなる 暮らしたくなる 居心地の良い まちづくり
課題	街路空間解析による効果的な道路の整備を図る。 駅前再開発を推進するにあたり公共基盤や街区の詳細な検討を図る。 デジタルプラットフォームを活用した住民参加型のまちづくりの推進。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"><li>古賀駅前周辺道路の再整備に当たって、街路空間解析に基づく、回遊性の高いウォークアブルな歩行空間のシミュレーションを可能にする。</li><li>地理条件を踏まえ、緑陰や日影を考慮した、住み心地のいい街区形成のシミュレーションを可能にする。</li><li>住民参加型のまちづくりを進めるため、3D都市モデルを活用し、デジタル・リアル相互に住民との意見交換を行い、住民理解や新たな取組を創出する。</li></ul>
事前調査等	・ 3D都市モデルの整備範囲や整備内容の検討
3D都市モデル整備・更新	・ 3D都市モデル整備事業（LOD1,LOD2）
ユースケース開発	・ 3D都市モデルを活用した街路空間解析活用事業
推進事業	新規GISシステムの活用
総事業費（予定）	18,600（万円） ※うちR6年度9,400（万円）
R6年度補助額	4,366（万円）
補助対象外の関連事業	庁内GISシステムとの連携および改修
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ／関連データ】</li><li>PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ／関連データ】</li><li>公開型地理情報システムに掲載 【3D都市モデル／UCデータ／関連データ】</li></ul>
R6年度委託事業者	アジア航測株式会社（3D都市モデルの整備範囲や整備内容の検討、3D都市モデル整備事業（LOD1,LOD2）） スペースシンタックス・ジャパン株式会社（3D都市モデルを活用した街路空間解析活用事業） ESRIジャパン株式会社（新規GISシステムの活用）

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

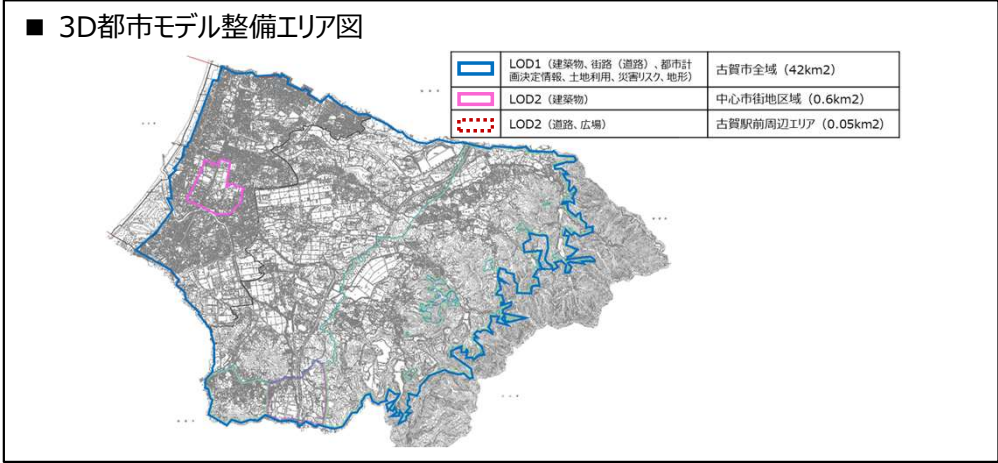
# 51.福岡県古賀市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	古賀市全域	42.00km <sup>2</sup>	R6年度整備
LOD2	建築物	中心市街地区域	0.6km <sup>2</sup>	R6年度整備

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2	街路（道路）	古賀駅前周辺エリア	0.05km <sup>2</sup>	R7年度整備
	街路（広場）	古賀駅前周辺エリア	0.05km <sup>2</sup>	R7年度整備



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5－15万	50未満	1千未満

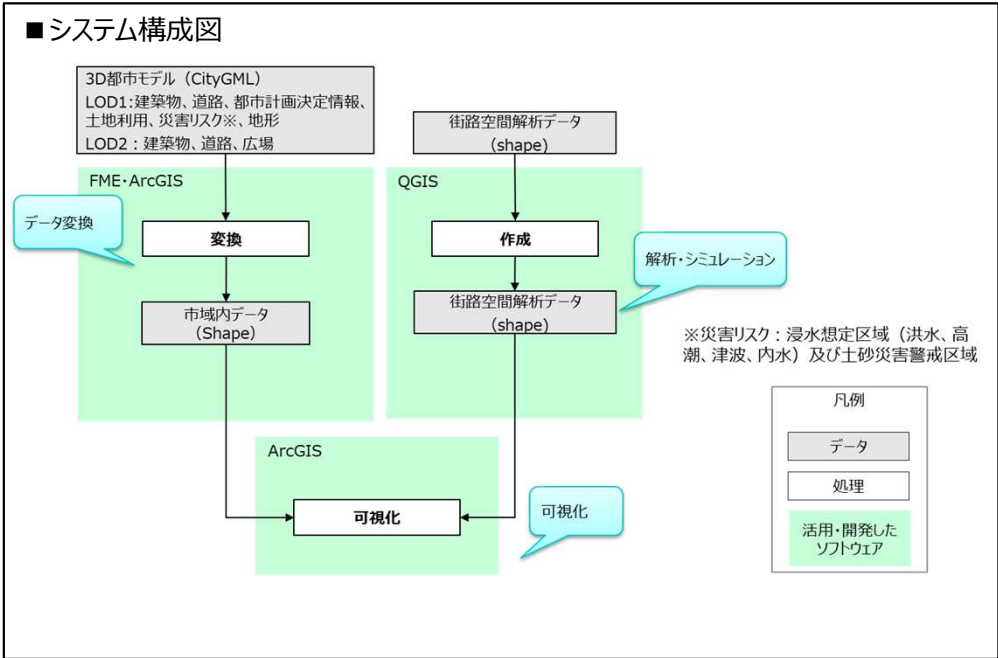


項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R元年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R元年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R4年度	－

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

51.福岡県古賀市

■ ユースケース概要	
分野	都市計画・まちづくり
目的	街路空間解析による効果的な道路の整備を図る。
取組内容	古賀駅周辺の歩行者ネットワークが繋がっていないという課題があるため、街路空間解析のデータを3D都市モデル上で再現し、道路等の設計に活用する。



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5－15万	50未満	1千未満



■ ユースケース開発方法	
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1, LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年)</li><li>道路LOD1, LOD2 (道路、道路線名)</li><li>広場LOD2 (名称、用途)</li><li>都市計画決定情報LOD1 (区域名称の区域の範囲、区域の種類)</li><li>土地利用LOD1 (土地利用区分)</li><li>災害リスク情報LOD1 (浸水想定区域 (洪水、高潮、津波、内水) 及び土砂災害警戒区域)</li><li>地形LOD1 (なし (高さのみ使用))</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>街路空間解析データ (つながりの良さ指標、通りがかりやすさ指標、主要施設からの近接性指標 ほか)</li></ul>
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>対象区域の3D都市モデルをソフトウェア (QGIS) で活用できるようにshapeデータに変換。</li><li>シミュレーションを行うためにArcGIS上に構築。</li><li>スペースシンタックス理論に基づく古賀駅周辺地区の街路空間解析調査の実施し、幾何学的な空間や道路の接続を定量的に分析する。</li><li>変換した3D都市モデルと街路空間解析データを重畳。</li><li>街路空間解析データを活用し、ArcGISでデータを可視化。新規道路をもとに既存道路との接続について認知、動線モデルを検証する。</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>古賀駅周辺地区の街路空間解析調査を実施し、幾何学的な空間や道路の接続を定量的に分析する。</li><li>歩道の有無や街頭の有無などから歩きやすさの指標を示して、歩行者ネットワークを可視化したり、公園や街路種による日陰の具合から導線を検討するなどして、経路としての使われやすさや回遊性の高さなど、色で空間特性を指標化する。</li><li>建築物の出入口の向きや道路との関係性の高さなども合わせて指標化する。(建築物の出入口については、調査会社がすでに出入口をプロットしている資料を持っているものを利用予定)</li><li>指標化した結果をもとに道路や駅前広場の設計、動線計画を検証する。</li><li>検証結果と今後の方針について、市の附属機関である古賀駅周辺開発推進協議会にて報告し、市のHPで資料を公表する。</li></ul>
オープンデータ化情報発信	公開型地理情報システムに掲載



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 51.福岡県古賀市

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
ウェブサイトの閲覧数の増加（pv）	100pv (R6年度)	120pv (R6年度)

■ ユースケース開発成果イメージ図



**【空間の認知的・動線的特性の可視化】**

- ・ウォーカブルなまちなかを考える際、居心地のよい滞留空間や沿道と一体となった歩道空間などの「場所」づくりだけでなく、歩行空間ネットワークとしてのつながりが大切。
- ・PLATEAU都市モデルを活用することにより、これまで2次元で分析、可視化されていた多くの情報を、3次元の現実感のある画像、様々なアングル、範囲で見せられることから、理解の共有がしやすくなる。
- ・これにより、課題の認識や、活かすべきポテンシャル、計画案の良否などの議論を建設的に進めることができる。

**【3次元的な空間特性分析（日照・日陰など）】**

- ・昨今の気候変動、地球温暖化傾向が今後も継続・悪化する見通しのなか、酷暑の夏に、日なたを長時間歩くことは現実的でなく、いかに日陰をつくり、連続させることができるかが、実際にウォーカブルなまちなかが機能するかどうかの重要なファクターとなる。
- ・3次元モデルから得られる日照・日陰の情報を、2次元の空間分析と合わせることによって、歩行動線がつながっていて便利、かつ、涼しくて快適、さらに沿道に店舗開口が面していて楽しい、といった真のウォーカビリティ向上の検討が可能になる。

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5－15万	50未満	1千未満

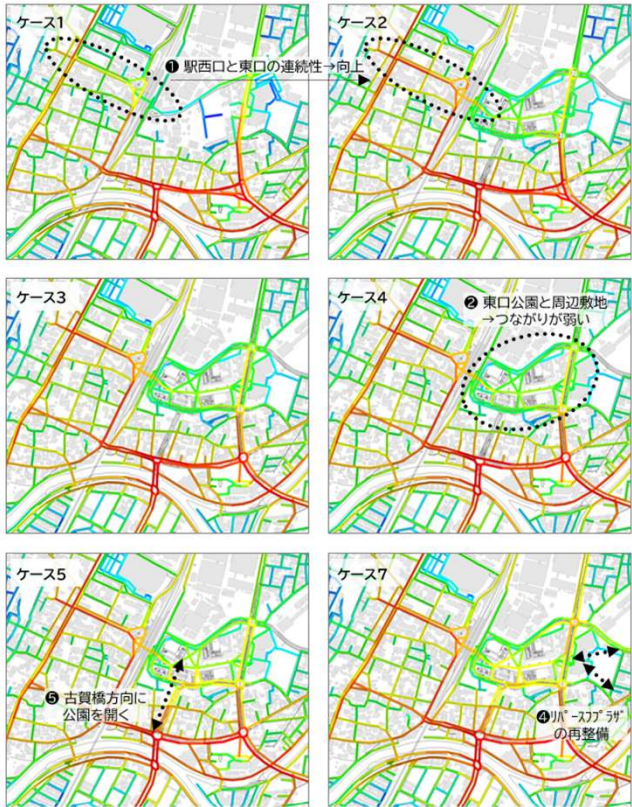


■ 今後の展望

今回は、現況および都市計画道路等の既往の計画をもとに可視化を行ったが、今後は、検討中の計画、設計案についても3次元での可視化を行い、デザイン検討などに活用していきたい。

**【フェーズごとの街路特性の可視化】** **動線的つながりの良さ** - 近接中心性 - 解析範囲:800m

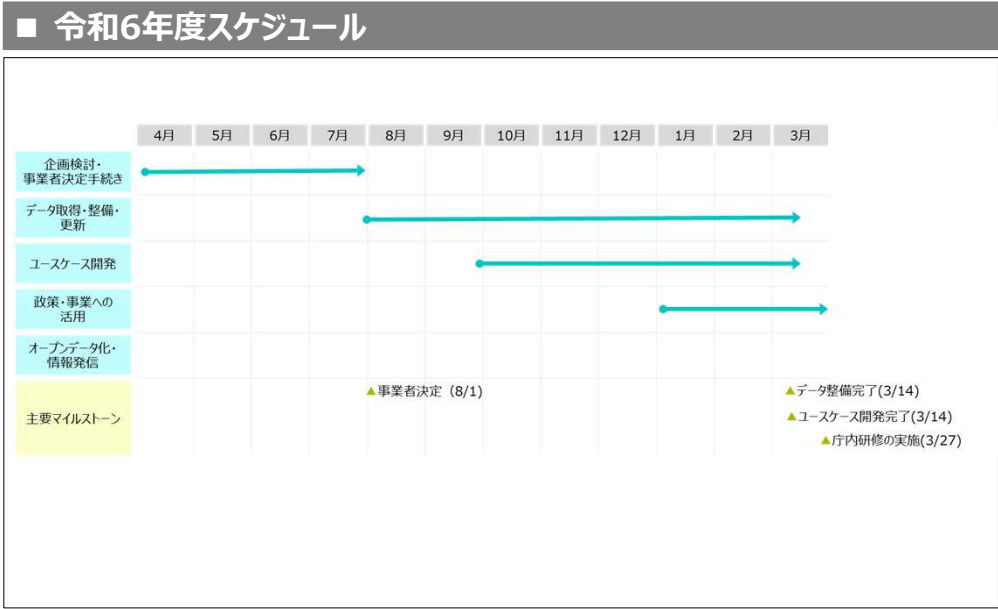
- (図は2次元での検討イメージ)
- ・面的な開発のデザイン検討において、将来の使われ方、機能特性を予測するのは容易ではない。なぜなら、将来の歩行動線と、周囲の既存道路とのつながりや、建物等への進入経路、広場空間の機能配置など、様々な条件が関係するからである。空間特性分析は、予測に客観的な根拠を与え、計画の確度を上げることに寄与するものである。
  - ・また、整備の完了までに長い年月を要するプロジェクトでは、「途中段階」においても、公共空間や基盤施設が問題なく機能することが求められる。空間特性分析によって、各段階での機能特性、課題の把握を行うことにより、あらかじめ対策が可能となる。
  - ・以上のような検討を、3次元で可視化しながら進めることによって、さらに実際のデザインツールとすることができると考えられる。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 52.福岡県うきは市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	27,273人（令和7年2月時点）
市域全域面積	117.46km <sup>2</sup> （令和7年2月時点）
主な産業 地域課題等	福岡県の南東部に位置し、南側に耳納連山、北側を筑後川と接する自然豊かな地域。人口は約3万人。 農業・林業を基幹産業とし、特に果実が1年中様々な品種が栽培され、「フルーツ王国うきは」と呼ばれる。 豊かな自然に加え、伝建地区や工業団地を有し、歴史・文化と商工業が融合・調和する魅力的なまちである。 都市計画区域設定に向け、まちづくりを検討する必要がある。



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1－3万	100－200	2－3千

担当部局	都市計画準備課
------	---------

PLATEAU  
by MLIT

## ■ 補助事業実施項目

目標	限りある土地を有効活用するため、バランスのとれた土地利用を目指す（第2次うきは市総合計画より）
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市全体としての防災意識の高揚（自助・共助・公助）</li> <li>・現準都市計画区域を含めた都市計画区域の設定</li> <li>・伝統的建設物群保存地区等の活用検討及び街並み・景観整備等の促進</li> </ul>
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画立案の効率化：3D都市モデルを活用した都市計画区域設定の説明資料の高度化</li> <li>・防災意識向上：3D都市モデルを活用した市全域の災害リスクの理解度促進及び向上</li> <li>・景観・まちづくり：3D都市モデルを活用した景観・まちづくりの整備・保存への利活用</li> </ul>
事前調査等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3D都市モデルを活用したまちづくり・都市計画立案への活用事業</li> <li>・3D都市モデルを活用した景観保存・整備事業への活用事業</li> </ul>
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3D都市モデル整備事業（LOD2またはLOD3）（屋外広告物、景観施設等）</li> </ul>
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3D都市モデルを活用したまちづくり・都市計画立案への活用事業</li> <li>・3D都市モデルを活用した景観保存・整備事業への活用事業</li> </ul>
推進事業	庁内共有GIS改修（3Dビューア構築）
総事業費（予定）	8,932（万円） ※うちR6年度2,650（万円）
R6年度補助額	1,325（万円）
補助対象外の関連事業	—
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ】</li> <li>・PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ】</li> </ul>
R6年度委託事業者	朝日航洋株式会社



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 52.福岡県うきは市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 地形	うきは市全域	117.46km <sup>2</sup>	R4年度整備済
	災害リスク	洪水浸水想定区域(4区域) 土砂災害警戒区域：2区域 洪水浸水想定区域：1区域		R4年度整備済 R4年度整備済 R5年度整備済
LOD2	建築物	うきは市公共施設等（7棟） 筑後吉井伝統的建造物群 保存地区、新川田籠伝統的 建造物群保存地区、筑後川 温泉地区西部（1,839棟） 屋外広告物・景観施設 （15棟）	7棟  1,839棟  15棟	R4年度整備済  R5年度整備済  R6年度整備

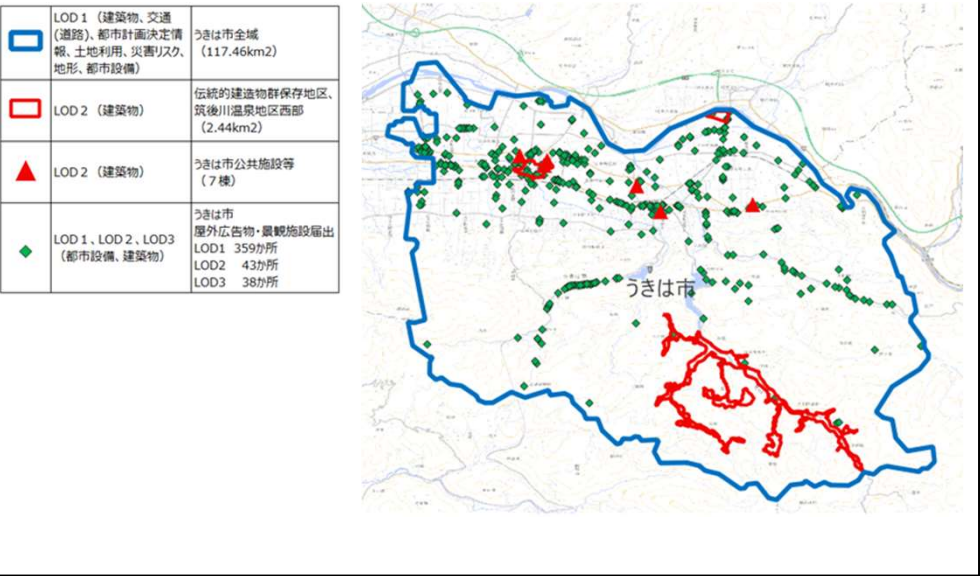
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	都市設備（屋外広告物・景観施設）	うきは市の一部	359施設	R6年度整備
LOD2	都市設備（屋外広告物・景観施設）	上記LOD1のうち28施設（整備モデル地区）	約1km <sup>2</sup>	R6年度整備
LOD3	都市設備（屋外広告物・景観施設）	上記LOD1のうち25施設（整備モデル地区）	約1km <sup>2</sup>	R6年度整備
	建築物（屋外広告物・景観施設）	上記LOD1のうち13施設（整備モデル地区）	約1km <sup>2</sup>	R6年度整備

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1－3万	100－200	2－3千



■ 3D都市モデル整備エリア図



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	3.都市計画基本図（修正）	R4年度	2,500
測量成果	3.既存資料（航空写真）	R4年度	1,000
	5.新規測量（地上レーザー）	R6年度	500
属性情報	3.その他（屋外広告物・景観施設等届出情報）	R6年度	－



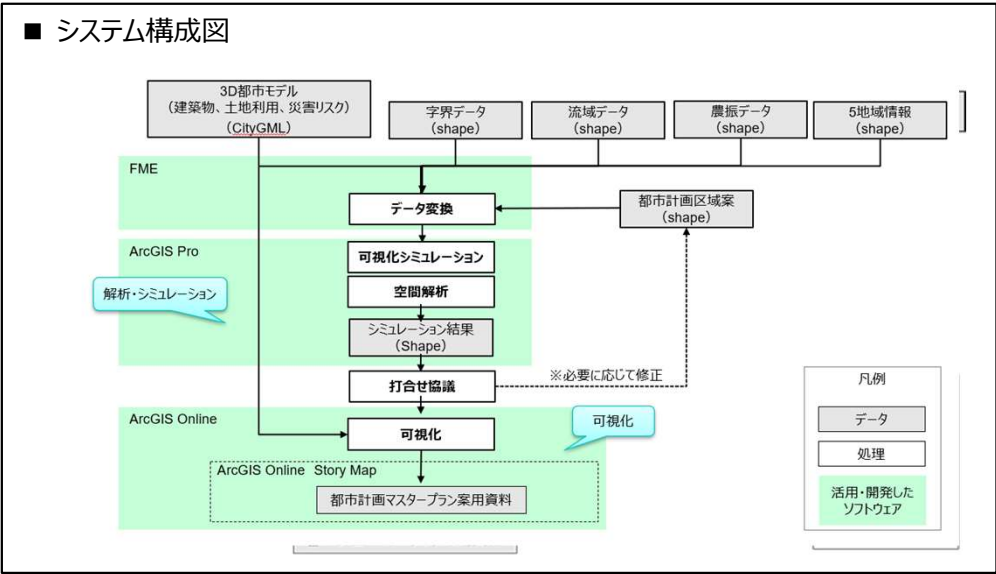
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

52.福岡県うきは市

■ ユースケース①概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	都市計画区域設定に向けた区域の根拠資料整備
取組内容	都市計画区域設定に向けて、R4年度、R5年度に整備した3D都市モデルと字界や区域（案）、5地域情報の付与、流域データ、農振データを活用し、都市計画区域の検討を行う。また、都市計画マスタープラン策定の根拠資料として用途、建ぺい率、容積率、高さ、階数情報の付与による建築物モデルを活用し、将来的な用途地域の検討対象を可視化し、都市計画マスタープラン策定に向けた検討資料として庁内で活用する。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1－3万	100－200	2－3千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1（名称、住所、用途、構造種類、計測高さ、地上階数、建築年）</li><li>土地利用LOD1（土地利用区分、面積）</li><li>災害リスクLOD1（洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、災害種別）</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>字界（字界の範囲、字名）</li><li>流域界（流域界の範囲、水系情報）</li><li>農振区域界（農振区域界の範囲、区域名）</li><li>5地域情報（地域の範囲）</li><li>都市計画区域（案）（区域の範囲）</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>都市計画区域設定に向けて過年度で整備した字界、都市計画区域（案）、5地域情報、流域データ、農振データと3D都市モデルをソフトウェア（ArcGIS）で活用できるようにFMEを活用して変換</li><li>変換した都市計画区域決定用の基礎情報データ（字界、都市計画区域（案）、5地域情報、流域データ、農振）と3D都市モデル（R4建築物、H29建築物、H21建築物、土地利用）を重ね</li><li>可視化シミュレーションおよび、空間解析により、都市計画区域（案）の妥当性検証を実施。必要に応じてデータ修正、再分析をして、都市計画区域（案）をブラッシュアップ</li><li>都市計画マスタープラン策定、用途地域地域設定等に向けた検討資料として庁内及び関係機関との協議に活用</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>都市計画区域設定、都市計画マスタープラン策定時の基礎資料として活用</li><li>庁内および関係機関への都市計画区域設定に係る説明資料として活用</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	3D都市モデル及びユースケースデータをうきは市公開型GISサイトに掲載（R4・R5） 公開型GISサイトのURLをうきは市ホームページに掲載（R4・R5）

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
都市計画区域検討に向けた庁内・関係機関との協議件数（協議件数累計）（件）	6件 (R6年度)	6件 (R6年度)



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

52.福岡県うきは市

■ ユースケース開発成果イメージ図



**都市計画検討情報の可視化**  
3D都市モデルと5 地域情報等を重畳・可視化し、都市計画区域・用途地域の設定用の検討資料として活用

**都市計画マスタープラン検討資料**  
3D都市モデルと現況・課題等をマップとあわせて表示し、説明資料として活用

■ 今後の展望

今回は、都市計画区域および用途地域の検討にとどまっているが、今後は、3D都市モデルを使った都市計画マスタープランの策定に活用したい。

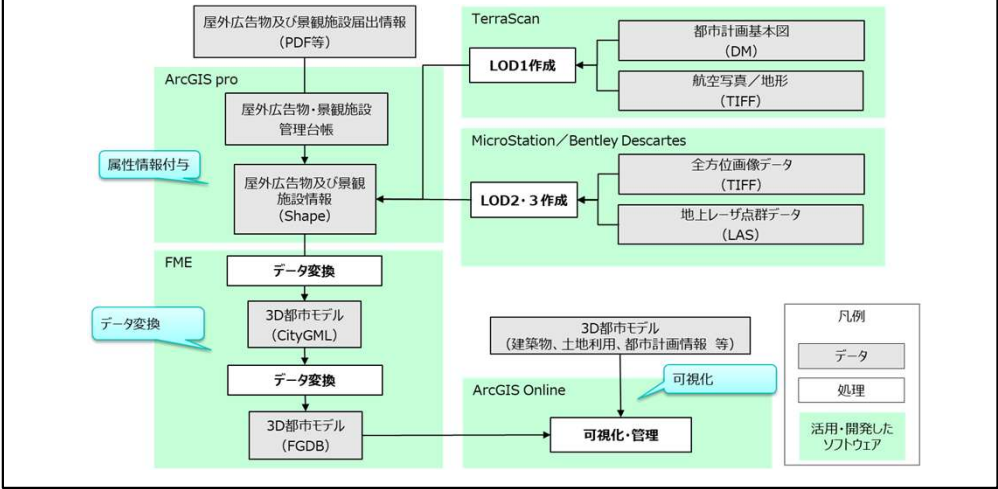
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1－3万	100－200	2－3千



■ ユースケース②概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	屋外広告物及び景観施設等の適正な管理・把握、景観保存。
取組内容	本市は、全域が景観計画区域となっており、景観形成基準に沿ってこれまでに約350施設の届出がある。この対象施設（屋外広告物、景観施設等）の整備モデル地区を選定し、一部施設を試行的にLOD2またはLOD3を作成する。作成したモデルには、景観情報等を付加し、景観形成、景観保存、景観計画の改訂への検討として利活用を図る。また将来的に、届出がある全ての施設のLOD2またはLOD3を作成する。
実施体制	朝日航洋株式会社

■ システム構成図



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 52.福岡県うきは市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1（名称、住所、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年）</li><li>都市計画決定情報LOD1（準都市計画区域、伝統的建造物群保存地区、街なみ環境整備事業地区）</li><li>土地利用LOD1（土地利用区分、面積）</li><li>建築物・都市設備LOD2, LOD3（名称、住所、建築年等）</li></ul>
活用データ (上記以外)	—
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>屋外広告物・景観区域内届出を航空写真、都市計画基本図を活用して位置特定し、整備モデル地区を選定する。</li><li>LOD1を整備し、地区内の屋外広告物や景観施設を地上レーザ測量を使用し、点群データ及び全方位画像を取得し、3D都市モデル（LOD2またはLOD3）を作成する。</li><li>約350施設の届出がある対象施設について、申請書等を電子データとして台帳化を行う。</li><li>台帳化したデータを作成した3D都市モデルへ属性情報を紐づけし、屋外広告物及び景観施設の可視化（庁内利用に限定）し、景観形成等への検討に活用する。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>出力結果である屋外広告物及び景観施設可視化データを3Dビューア（ArcGISOnline等）を使用し、景観形成、景観保存、景観計画の改訂への検討として利活用を図る。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	3D都市モデル及びユースケースデータをうきは市公開型GISサイトに掲載（R4・R5） 公開型GISサイトのURLをうきは市ホームページに掲載（R4・R5）

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
都市計画関係部署職員の屋外広告物、景観施設等の適正な管理・把握を向上する（％）	60％ (R6年度)	60％ (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1－3万	100－200	2－3千



■ ユースケース開発成果イメージ図



屋外広告物・景観施設の可視化

市内の一部地域を整備モデル地区として、屋外広告物及び景観施設を、3D都市モデル（LOD1・2・3）化し、可視化（庁内利用のみ）



屋外広告物・景観施設の可視化

3D都市モデルに属性情報を付与し、対象施設の適正な管理・把握に活用（庁内利用のみ）

■ 今後の展望

今回は一部地域のための3D都市モデル整備、また、庁内利用のみにとどまっているが、今後は、市内全域の3D都市モデル整備や、庁外利用（公開情報）をしたい。さらに、景観計画の見直し等への活用をしたい。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 53.佐賀県鳥栖市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	7.4万人（令和7年1月時点）
市域全域面積	71.72km <sup>2</sup> （令和6年6月時点）
主な産業 地域課題等	<p>「住みたいまち、活躍できるまち、選ばれるまち 鳥栖－“鳥栖スタイル”の深化－」を将来都市像とし、これを実現すべく「自然との共生を図り、未来へつなぐまち」、「快適な生活を支えるまち」、「安全で安心して暮らせるまち」、「誰もがいきいきと暮らせるまち」、「子どもが心豊かに育つまち」、「活力と賑わいにあふれるまち」の6つを基本目標に掲げるとともに、協働のまちづくりや効果的・効率的な行政運営、持続可能な財政運営を推進することで将来都市像の実現に取り組んでいる。</p> <p>鳥栖市は佐賀県東部に位置し、内陸工業都市である。市内に複数の工業、物流団地が位置し、JR鳥栖駅、国道、県道などを中心に市街地が広がっているとともに、九州各方面への高速網が発達している。</p> <p>本市には、九州各方面への鉄道、道路網が発達しており、鳥栖駅周辺の集客施設、市北部の大型商業施設が位置し、人モノが交流する都市である。</p>
■ 令和6年度スケジュール	

分野

人口規模

面積規模

予算規模

防

5－15万

50－100

3－5千

担当部局

総合政策課

■ 補助事業実施項目

目標	災害に強い都市基盤を形成し「災害に強く、安全安心で住みたい選ばれるまちづくり」を進める		
課題	九州の交通の要衝として、九州南北、東西の交通・物流の大動脈が通る本市において、近年大雨災害が頻発しており、土砂災害、道路・農地等の冠水が発生している。大雨災害により発生が予測される内水氾濫について、災害リスクを市民に対しわかりやすく可視化し防災意識の高揚を図るとともに、今後の浸水対策を検討する必要がある。現状は人口の増加が続いているが、2030年度をピークに人口減へ転じると予想されていることから、現段階から、コンパクトシティの実現に向けた議論が必要。		
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデルを活用し、浸水シミュレーションによる水害リスク可視化や災害時の避難地、避難経路、災害時のタイムライン検証を行うことで、市民の防災意識の啓発を図る。</li> <li>都市構造を可視化することで、現状の課題や将来目指すべき都市構造のあり方等について庁内、市民ともに認識共有がしやすくなる。</li> </ul>		
事前調査等	－		
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市計画基本図更新事業</li> <li>3D都市モデル整備事業（LOD1,LOD2）</li> </ul>		
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデルを活用した災害リスク（洪水ハザード）の可視化事業</li> </ul>		
推進事業	3D都市モデルの3Dビューア構築		
総事業費（予定）	9,139（万円） ※うちR6年度2,739（万円）		
R6年度補助額	1,369.5（万円）		
補助対象外の関連事業	－		
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>G空間情報センターへの掲載</li> <li>PLATEAU VIEWへの掲載</li> <li>鳥栖市ホームページに掲載</li> </ul> <div> <div>【3D都市モデル／UCデータ／関連データ】</div> <div>【3D都市モデル／UCデータ／関連データ】</div> <div>【PLATEAU VIEW及びG空間情報センターへのリンク】</div> </div>		
R6年度委託事業者	国際航業株式会社		

PLATEAU

by MLIT

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 53.佐賀県鳥栖市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 地形	鳥栖市全域	71.72km <sup>2</sup>	R6年度整備
	災害リスク	鳥栖市全域(洪水浸水想定区域、高潮浸水想定区域) 内水浸水想定区域	71.72km <sup>2</sup>	R6年度整備 R7年度整備
LOD2	建築物	鳥栖駅周辺約1.0km <sup>2</sup> の建築物及び市内全域の公共施設	約1.0km <sup>2</sup>	R6年度整備

■ 3D都市モデル整備エリア図

詳細度	整備範囲	整備地物
LOD1	鳥栖市全域 (71.72km <sup>2</sup> )	【R6年度】建築物、交通（道路）、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形
LOD2	①鳥栖駅周辺（1km <sup>2</sup> ）建築物 ②市全域公共施設（①+②=1,500棟程度）	【R6年度】建築物

平面図	都市計画基本図（R6年度）
測量成果	航空写真測量（R4年度）
属性情報	都市計画基礎調査（R5年度）

	LOD1（建築物、交通（道路）、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形）	鳥栖市全域（71.72km <sup>2</sup> ）
	LOD2（建築物）	鳥栖駅周辺（1km <sup>2</sup> ）

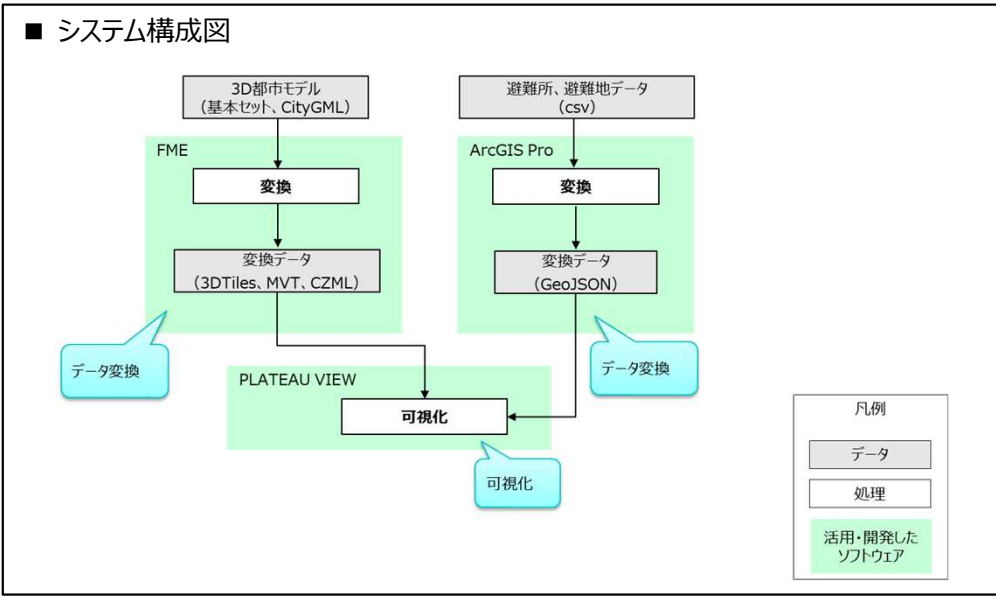
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	3.都市計画基本図（修正）	R6年度	2,500
測量成果	3.既存資料（航空写真）	R4年度	1,000
属性情報	1.都市計画基礎調査（既存）	R5年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5－15万	50－100	3－5千



■ ユースケース概要

分野	防災・防犯
目的	災害に強い都市基盤を形成し「災害に強く、安全安心で住みたい選ばれるまちづくり」を進める。
取組内容	・3D都市モデル及び三次元化した浸水想定区域図をPLATEAU VIEWに搭載し、災害リスクを分かりやすく可視化する。 ・避難所、避難地情報をPLATEAU VIEWに搭載した後、可視化環境を今後の浸水対策検討で活用する。





Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

53.佐賀県鳥栖市

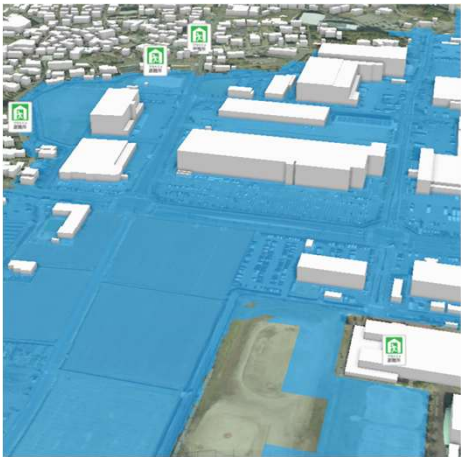
ユースケース開発方法	
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1（名称、用途、構造種別、計測高さ、建築年等）</li><li>災害リスクLOD1（浸水継続時間（洪水））</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>避難所、避難地（名称、災害種別ごとの避難所）</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>整備した3D都市モデルをFMEを使用して建築物LOD1は3Dtiles、浸水継続時間はGeoJSONへ変換する。避難所、避難地情報のデータをArcGIS Proを使用してGeoJSONへ変換する。</li><li>変換した3D都市モデル、避難所、避難地情報をPLATEAU VIEWに搭載する。</li><li>PLATEAU VIEWで三次元化した洪水浸水想定区域及び避難所、避難地情報を可視化する。</li><li>可視化したURLを本市のホームページ上で公開する。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデル及び三次元化した浸水想定区域図をPLATEAU VIEWに搭載し、災害リスクを分かりやすく可視化する。</li><li>避難所、避難地情報をPLATEAU VIEWに搭載する。</li><li>上記により、市民の防災意識の啓発を図る。</li><li>可視化した情報を浸水対策検討に係る庁内会議や説明会、各種資料作成等で活用する。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	PLATEAU VIEW及びG空間情報センターへのリンクを鳥栖市ホームページに掲載

KPI		
KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルを用いて、市民に洪水発生予想箇所を確認してもらい、防災意識の啓発を図る（件）	400件 (R6年度)	423件 (R6年度)
3D都市モデルを活用することで、防災リスクの理解が進んだと回答した市民の割合（％）	60% (R6年度)	70% (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5－15万	50－100	3－5千

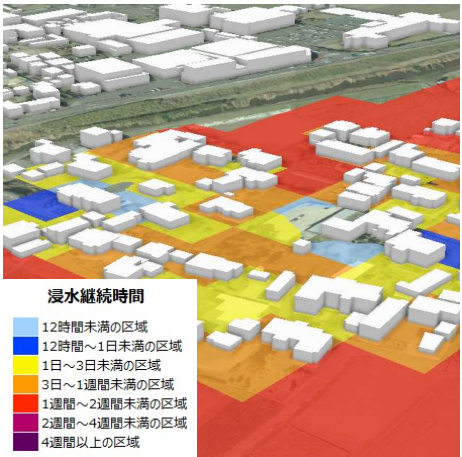


ユースケース開発成果イメージ図



3D洪水ハザードマップ

三次元化した洪水浸水想定区域及び避難所、避難情報の可視化を実施



浸水継続時間情報

浸水継続時間情報の可視化を実施

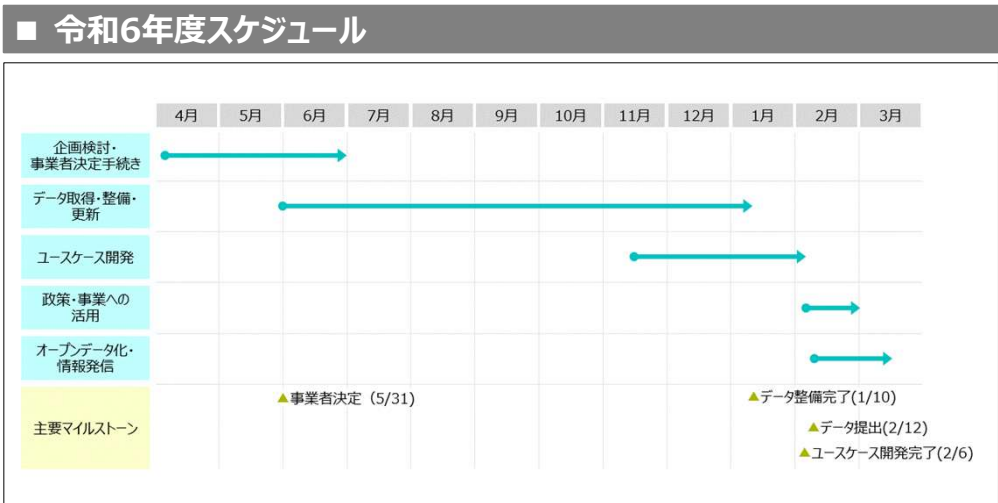
今後の展望

令和7年度は内水浸水想定区域図を整備予定とし、引き続き災害リスクの可視化を行うとともに、市民の更なる防災意識の啓発を図る。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 54.長崎県松浦市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	2.0万人（令和7年1月時点）
市域全域面積	130.38km <sup>2</sup> （令和7年1月時点）
主な産業 地域課題等	<p>本市は長崎県の北東部にあり、海沿いの町である。都市計画区域は、本土部にあり、御厨、志佐、今福の3地区を中心とした多核構造をなす市街地構成となっている。また傾斜地が多く、特に山間部では広範囲が土砂災害警戒区域に指定されている。</p> <p>人口減少や少子高齢化が進行しており、生産年齢人口の確保や、人口流出への対策が必要である。</p> <p>市街化区域内人口の減少による、空き家対策などを含めた都市のスポンジ化対策。</p> <p>人口の社会減少への歯止めをかけるための受け皿となる住環境整備や、就業先の確保等による安定した人口の社会移動増加に向けた都市づくりが必要である。</p> <p>都市の核をつなぐ交通ネットワークを整備し、将来的な展望の下で、そこに住む地域の人口構造などにも考慮した土地利用対策が必要である。</p>



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1－3万	100－200	1－2千

担当部局	都市計画課
------	-------

PLATEAU  
by MLIT

## ■ 補助事業実施項目

目標	都市計画区域の中心にふさわしい活気に満ち溢れた魅力ある地域の実現
課題	都市構造を立体的に可視化し、立地適正化計画等の都市計画検討の効率化
創出価値	都市構造の可視化による都市計画検討の効率化及び高度化

事前調査等	都市計画情報データ整備
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備（LOD1,LOD2）
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した都市計画情報の可視化事業
推進事業	—

総事業費（予定）	1,169（万円）
R6年度補助額	1,000（万円）
補助対象外の関連事業	立地適正化計画策定

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】</li> <li>・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】</li> <li>・ 松浦市ホームページに掲載 【PLATEAU VIEWへのリンク】</li> </ul>
-------------------	---

R6年度委託事業者	株式会社パスコ（都市計画情報データ整備、3D都市モデル整備（LOD1,LOD2）、3D都市モデルを活用した都市計画情報の可視化事業）
-----------	--



PLATEAU  
by MLIT

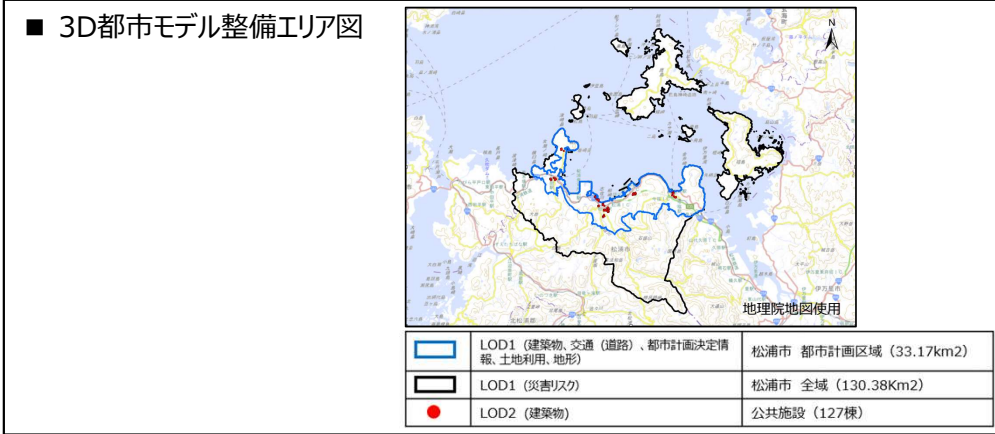
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 54.長崎県松浦市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 地形	都市計画区域	33.17km <sup>2</sup>	R6年度整備
	災害リスク	松浦市全域	130.38km <sup>2</sup>	R6年度整備
LOD2	建築物	公共施設（127棟）		R6年度整備



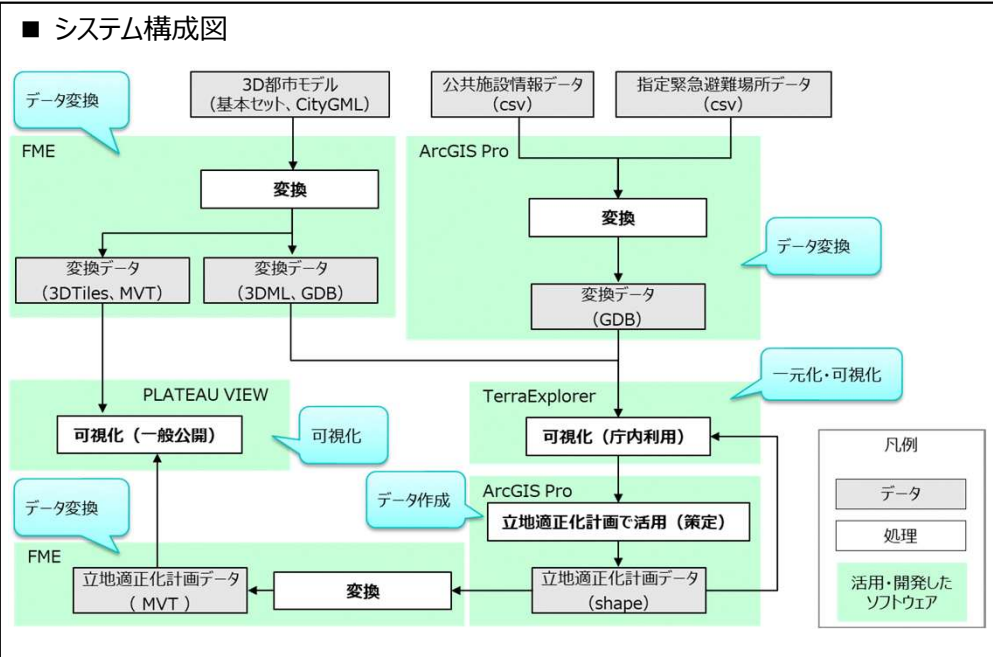
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R3年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R1年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R4年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1－3万	100－200	1－2千



■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	都市計画検討の効率化及び高度化
取組内容	都市構造を立体的に可視化し、立地適正化計画等の都市計画の検討の効率化を図る。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

54.長崎県松浦市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1、LOD2（名称、用途、構造種別、計測高さ、建築年等）</li><li>都市計画決定情報（区域名称、区域の種類）※立地適正化計画は、R7年7月公表予定</li><li>土地利用LOD1（土地利用区分）</li><li>災害リスクLOD1（浸水ランク、災害種別（区域区分））</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>公共施設情報（名称）</li><li>指定緊急避難場所（名称、災害種別）</li></ul>
ユースケース 開発方法	<p>（1）整備した3D都市モデルを3Dビューアで活用できるようにFMEを活用して3dml形式に変換する。</p> <p>公共施設情報や指定緊急避難場所をArcGIS Proを活用して変換する。</p> <p>（2）（1）で変換した3D都市モデルと都市計画関連データを重畳する。</p> <p>（3）（1）で変換した3D都市モデルと庁内保有の既存データ（公共施設情報等）を重畳する。</p> <p>（4）（3）の結果を3Dビューア（TerraExplorer）で一元管理し、様々なデータを統合表示することで、都市構造を可視化する。</p> <p>（5）（4）の結果を関係部署で共有し、立地適正化計画検討に活用する。資料作成や住民説明会等で活用する。</p>
政策・事業での 活用	3D都市モデルや都市計画関連データ等の重畳表示（属性情報による色分設定）により、データの一元化及び都市構造を立体的に可視化する。また、立地適正化計画の検討や関係者への情報共有・説明等で活用し、立地適正化計画を策定した。
オープンデータ化 情報発信	PLATEAU VIEWへのリンクを松浦市ホームページに掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
アンケートにて立地適正化計画の検討の効率化に資するとする回答率（％）	50% (R6年度)	100% (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1－3万	100－200	1－2千



■ ユースケース開発成果イメージ図



用途地域と建築物の重畳表示  
用途地域を色分け表示した上に  
建築物を重畳表示したイメージ図



都市計画審議会での活用  
3D都市モデル上で様々なデータを一元化した  
ことにより、別々のデータを一度に確認でき、  
さらにデータの解析や検討の効率化に繋がった。

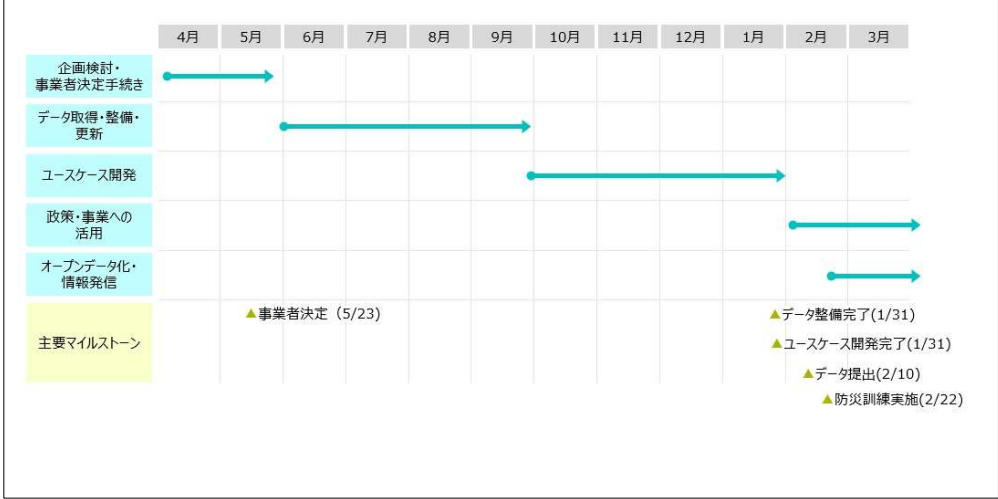
■ 今後の展望

今年度整備した3D都市モデルや3Dビューアを活用し、都市計画施策検討の効率化や高度化を図っていききたい。また、他部署でもデータが活用されるよう情報共有や連携を進めていきたい。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 55.長崎県波佐見町

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	約1.4万人（令和7年2月時点）
市域全域面積	56.00km <sup>2</sup> （令和7年2月時点）
主な産業 地域課題等	<p>長崎県のほぼ中央に位置し、長崎県で唯一海に面していない自治体である。人口は約1万4千人。「波佐見焼」の名の通り、全国屈指のやきものの町として栄えてきた歴史を有する。山地がいたるところに散在起伏する複雑な地形をなしている。年間降水量は1,800mm前後だが、しばしば梅雨前線や台風の影響で豪雨に見舞われることがある。</p> <p>基幹産業の窯業（波佐見焼）との農業の産業振興を基本にしつつ、近年は、町内の様々な観光資源を活用した交流人口の拡大に力を入れている。</p> <p>一方で、人口減少が進展していることから、移住定住の拡大に力を入れているとともに、「学校給食費の完全無償化」等、子育て世代に選ばれる施策の拡充を進めている。</p>
■ 令和6年度スケジュール	
	

分野

人口規模

面積規模

予算規模

防

1－3万

50－100

3－5千

担当部局

総務課

PLATEAU

by MLIT

■ 補助事業実施項目

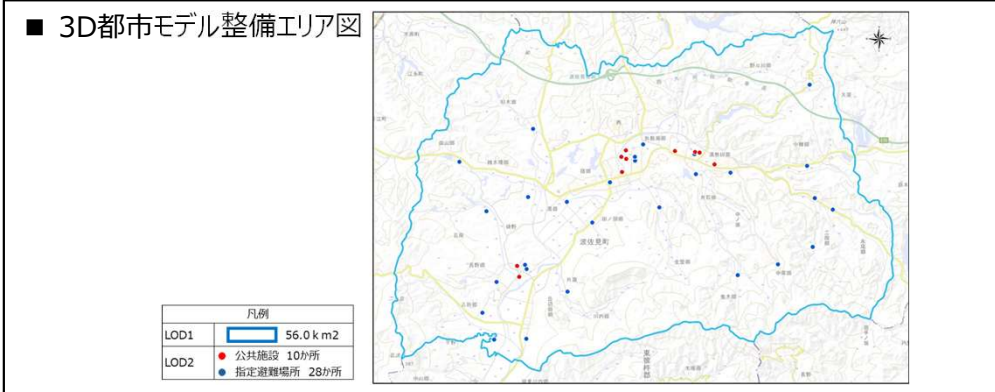
目標	災害に強いまちづくりと自助・共助の促進
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災・減災事業の効率化・高度化</li> <li>データ活用による根拠に基づく安心・安全なまちづくりの実現</li> <li>住民等の自助・共助の意識の向上</li> </ul>
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデルを活用して、指定避難所を可視化し、災害リスクをわかりやすく示すことで、町民の被災リスクの理解度が向上する。</li> <li>中心平坦部のまちづくりについて、3D都市モデルを活用することでステークホルダーとの認識共有がしやすくなる。</li> </ul>
事前調査等	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備内容に関する事前調査</li> </ul>
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>航空測量</li> <li>都市計画基本図作成/更新</li> <li>3D都市モデル整備（LOD1,LOD2）</li> </ul>
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業</li> </ul>
推進事業	—
総事業費	3,382（万円）
R6年度補助額	1,600（万円）
補助対象外の関連事業	—
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル／UCデータ／関連データ】</li> <li>PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル／UCデータ／関連データ】</li> <li>波佐見町ホームページに掲載【災害リスクシミュレーション動画】</li> </ul>
R6年度委託事業者	国際航業株式会社（事前調査、3D都市モデル整備・更新、ユースケース開発）

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

55.長崎県波佐見町

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 災害リスク 地形	波佐見町全域	56.00km <sup>2</sup>	R6年度整備
	交通（道路）	波佐見町全域（路線延長）	137.00km	R6年度整備
	都市計画決定情報 土地利用	波佐見町都市計画区域	24.15km <sup>2</sup>	R6年度整備
LOD2	建築物	公共施設10か所、指定避難所28か所		R6年度整備



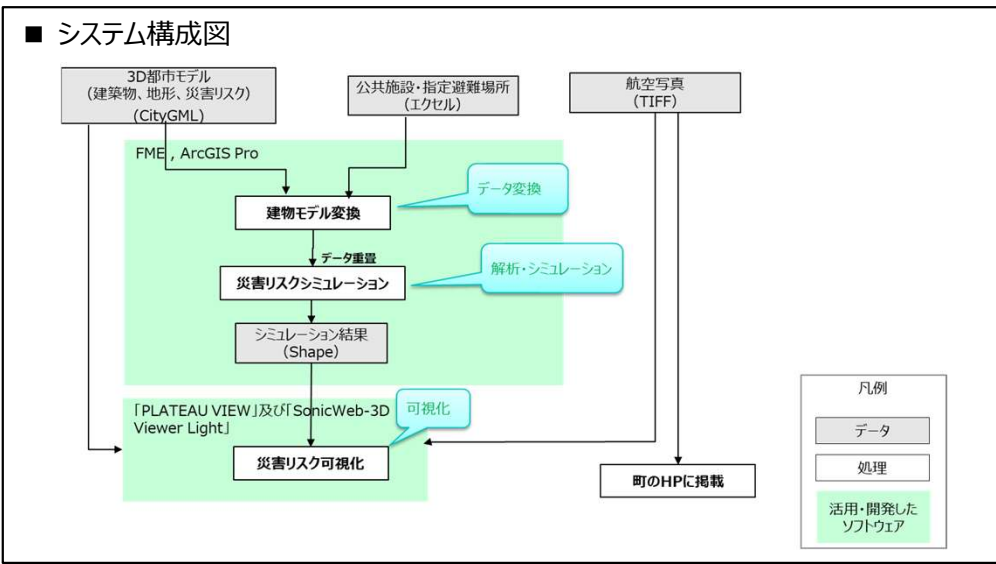
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	数値地形図（DMデータ）修正	H22年度 （R6年度修正）	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	R6年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	H25年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	1－3万	50－100	3－5千



■ ユースケース概要

分野	防災・防犯
目的	災害に強いまちづくりと自助・共助の推進
取組内容	3D都市モデル（災害リスク情報（洪水、土砂災害））を閲覧システム（PLATEAU VIEW等）で重ね合わせて、災害リスクを分かりやすく三次元で可視化する。 可視化した災害リスクは、地域防災計画の改訂検討など、まちづくり事業における評価・検証を行うとともに、可視化した災害リスクに加え撮影した航空写真（レベル1000）を活用して自治会における防災訓練（要支援者避難経路把握等）を実施し、防災に対する住民の意識の高揚を図る。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

55.長崎県波佐見町

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1,LOD2（名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数）</li><li>災害リスクLOD1（洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、起こりうる災害の内容）</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>指定避難所情報(避難所名称、所在地)</li><li>航空写真(レベル1000)</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデル（建築物、災害リスク情報（洪水、土砂災害））を閲覧システム（PLATEAU VIEW等）に重ね合わせて、災害リスクを分かりやすく三次元で可視化する。</li><li>波佐見町の地域防災計画に3D都市モデルの活用について明記した改訂案を作成する。</li><li>可視化した災害リスクデータや地域防災計画の改訂案を災害対策本部（管理協議会）で報告し、防災・減災計画を立案するとともに、可視化した災害リスクに加え撮影した航空写真（レベル1000）を活用して自治会における防災訓練（要支援者避難経路把握等）を実施し、防災に対する住民の意識の高揚を図る。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>川棚川の浸水想定区域及び土砂災害警戒区域を重ねし、立体的に可視化することで自宅又は避難経路の危険度把握を容易にすることで、早期避難等の意識高揚を図る。</li><li>公共施設及び指定避難所をLOD2により可視化し、上記ユースケースと重層することにより、地域防災計画及び避難経路等の見直し及び適切な避難所運営を行い、地域防災力の向上を図る。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	災害リスクシミュレーション動画を波佐見町ホームページに掲載

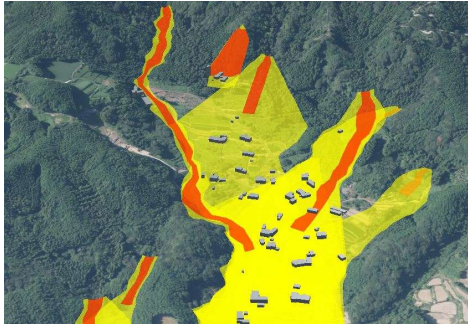
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
防災訓練参加町内自治会数（全22自治会）	22自治会 (R6年度)	22自治会 (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	1－3万	50－100	3－5千



■ ユースケース開発成果イメージ図



【土砂災害警戒区域】



【防災訓練（机上訓練）の様子】

町中央平坦地域においては、県管理の二級河川「川棚川」の浸水想定区域を、周辺中山間、山間部においては土砂災害警戒区域を重ねし、自宅及び指定避難所（自治会公民館）までの避難経路の危険度把握を容易にすることで、早期避難等の意識高揚を図る。

公共施設及び指定避難所をLOD2により可視化し、上記ユースケースと重層することにより、地域防災計画及び避難経路等の見直し並びに適切な避難所運営を行い、地域防災力の向上を図る。

■ 今後の展望

今後、町管理の普通河川の浸水想定区域の調査を実施予定であるので、重層し、町全体を可視化することで更なる活用を広げたい。

将来的に、観光客の人流データを重層し、観光動向に基づいた観光計画立案等、まちづくりに活用したい。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 56.熊本県玉名市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	62,582人（令和6年12月時点）
市域全域面積	152.6km <sup>2</sup> （令和6年12月時点）
主な産業 地域課題等	<p>熊本県の北西部に位置する県北地域の拠点都市である。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・人口は約6.3万人、市域面積は約153km<sup>2</sup></li><li>・農業、漁業、観光（温泉）を中心とした田園都市</li></ul> <p>歴史と文教のまち、菊池川が流れる玉名平野では米作り、商業、温泉など古くから営まれ、また、大学、高校が集中する県北の文教都市を形成している。</p> <p>災害対策として、「岱明防災コミュニティセンター」や「河川防災ステーション」を整備・市民の意見や希望をもとに、10年後の将来像をまとめた「笑顔をつくる10年ビジョン」をR4年度に改訂。</p> <p>将来への羅針盤として、本市の強みを生かし、可能性を最大限に引き出して、将来に渡って人々の笑顔があふれ、誇りを持てるまち、そしてその笑顔が魅力となって多くの人には選ばれるまちを目指す。</p>
■ 令和6年度スケジュール	

分野

人口規模

面積規模

予算規模

活

5－15万

100－200

5－10千

担当部局

都市整備課

PLATEAU

by MLIT

■ 補助事業実施項目

目標	笑顔があふれるまち、健康と福祉のまち、良質な暮らしができるまちの実現		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市中心部(観光地等)の回遊性の向上・地域経済活性化。</li> <li>・ 公共交通の最適化。</li> <li>・ 大雨時の水位モニタリング等による効果的対応。</li> <li>・ インフラの更新とランニングコスト抑制。</li> <li>・ 脱炭素化の実現。</li> </ul>		
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ VR、AR及びメタバース等の活用による回遊・消費を促す仕組みの導入。</li> <li>・ データを活用した公共交通の最適化を行い、社会状況に応じた移動手段の確保。</li> <li>・ 被災予測による避難施設配置や避難経路等。</li> <li>・ 道路・橋梁等のインフラの診断とデータ統合によるマネジメントの効率化。</li> <li>・ 再生可能エネルギー利用の促進、エリア全体での省エネ促進。</li> </ul>		
事前調査等	－		
3D都市モデル 整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市計画基本図更新</li> <li>・ 3D都市モデル整備（LOD1）</li> <li>・ 3D都市モデル更新（LOD1,LOD2）</li> </ul>		
ユースケース 開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3D都市モデルを活用したメタバース実証実験事業</li> </ul>		
推進事業	－		
総事業費（予定）	13,950（万円） ※うちR6年度6,000（万円）		
R6年度補助執行額	3,000（万円）		
補助対象外の 関連事業	－		
オープンデータ化・ 可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ G空間情報センターへの掲載</li> <li>・ PLATEAU VIEWへの掲載</li> <li>・ 玉名市ホームページに掲載</li> </ul> <div> <div>【3D都市モデル／UCデータ／関連データ】</div> <div>【3D都市モデル／UCデータ／関連データ】</div> <div>【メタバース専用ランディングページ】</div> </div>		
R6年度 委託事業者	株式会社フォーラムエイト		



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 56.熊本県玉名市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 地形	その他（都市計画区域ほか） 都市機能誘導区域ほか 上記を除く市全域	109.00km <sup>2</sup> 1.36km <sup>2</sup> 151.24km <sup>2</sup>	R2年度整備済 R5年度整備済 R6年度更新
	都市計画決定情報 災害リスク	その他（都市計画区域ほか） 市全域	109.00km <sup>2</sup> 152.60km <sup>2</sup>	R2年度整備済 R6年度更新
	土地利用	その他（都市計画区域ほか） 市全域	109.00km <sup>2</sup> 152.60km <sup>2</sup>	R2年度整備済 R5年度整備済
LOD2	建築物	都市機能誘導区域ほか	1.36km <sup>2</sup> 1.36km <sup>2</sup> 1.36km <sup>2</sup>	R2年度整備済 R5年度整備済 R6年度更新

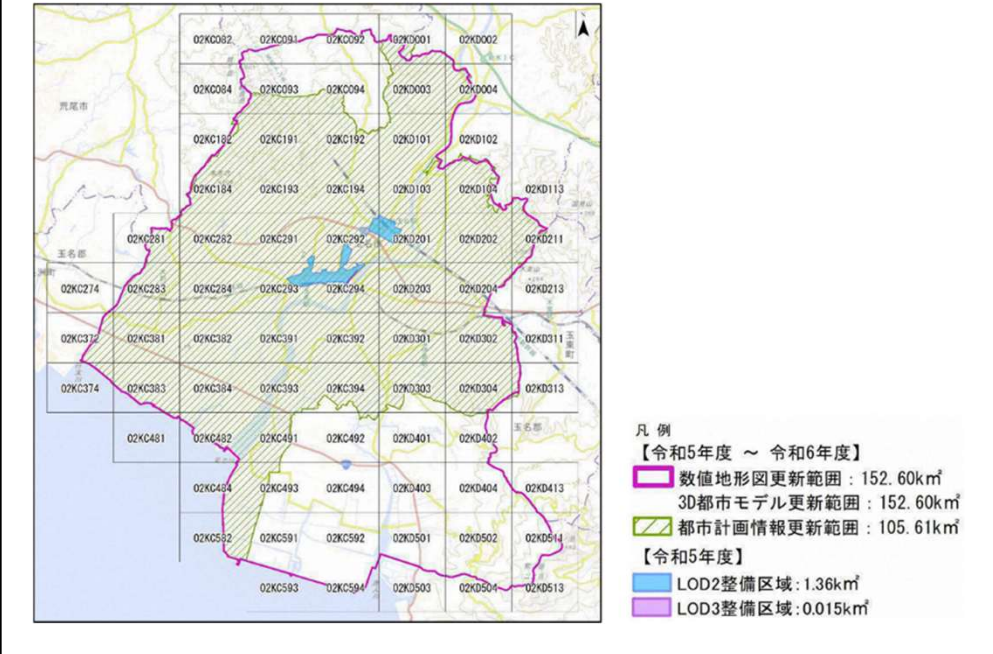
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	水部	高瀬裏川河川緑地	0.015km <sup>2</sup>	R5年度整備済
LOD3	植生、地形、橋梁	高瀬裏川河川緑地	0.015km <sup>2</sup>	R5年度整備済
LOD3.0	都市設備 その他の構造物	高瀬裏川河川緑地	0.015km <sup>2</sup>	R5年度整備済
LOD3.1	建築物	高瀬裏川河川緑地	0.015km <sup>2</sup>	R5年度整備済
LOD3.2	交通（道路） 交通（徒歩道）	高瀬裏川河川緑地	0.015km <sup>2</sup>	R5年度整備済

分野	人口規模	面積規模	予算規模
活	5－15万	100－200	5－10千



■ 3D都市モデル整備エリア図



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図(修正)	R5～R6年度	2,500
測量成果	既存資料(航空写真)	R5年度	2,500
	その他(手持ち式レーザースキャナ)	R5年度	—
属性情報	都市計画基礎調査(既存)	R4年度	—
	その他(立地適正化計画)	R4年度	—

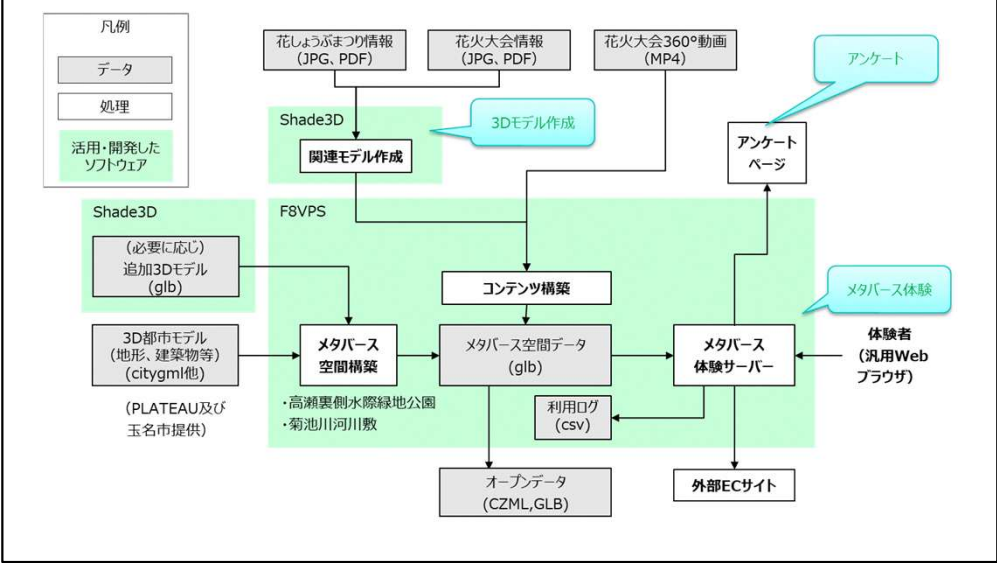
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

56.熊本県玉名市

■ ユースケース概要

分野	地域活性化・観光・コンテンツ
目的	メタバース空間を利用した新たな関係人口の取り込みと3D都市モデルを活用したマネタイズ化の実証を踏まえた地域活性化を行うことを目的とする。
取組内容	3D都市モデル「PLATEAU」を活用したユースケースで、R5年度に作成した高瀬裏川水際緑地および菊池川河川敷のLOD3モデルを使った仮想空間を生成し、そこに花火や露店といったコンテンツを入れ込んで、観光への興味喚起及びECサイトへの送客に対する有効性を実証する。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
活	5－15万	100－200	5－10千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD3.0 (名称)</li><li>道路LOD3.2 (舗装種別 (アスファルト、コンクリート、土系舗装、木質系舗装 等)、用途 (道路橋、園路、木橋、渡り廊下、草地 等))</li><li>都市整備LOD3.0 (区分、種類)</li><li>植生LOD3 (植被の主な樹種 (低木、地被植物、草花、不明)、植被の種類 (花菖蒲などの指定した種類のみ))</li><li>地形LOD3</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>花しょうぶまつり情報、花火大会情報 (マップ、写真等)</li><li>花火大会360°撮影動画 (360°動画)</li></ul>
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>オープンデータのPLATEAU LOD3のデータを用いて高瀬裏川水際緑地、菊池川河川敷のメタバース空間を構築する。不足する3Dモデルがある場合は追加制作し、メタバース空間構築に用いる。</li><li>メタバース空間上に観光客の興味を喚起するコンテンツを制作し、ECサイトやアンケートページに誘導する。</li><li>令和6年10月に実施される玉名花火大会の様子を360度全方位カメラを用いて撮影し、メタバース空間内で視聴できるようにする。</li><li>メタバース空間を一般公開する。サーバーのアクセス状況のログを取得する。ログをもとに、訪問数やECサイト、アンケートページへの誘導率など、利用状況の分析を行う。</li><li>分析結果を市役所内の関係部署職員に対して、報告を行う。また、市のホームページ上に公開する。</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>高瀬裏川水際緑地のメタバース空間のF8VPSによる一般公開。</li><li>菊池川河川敷のメタバース空間のF8VPSによる一般公開。</li><li>各メタバース空間内におけるイベント等のコンテンツのF8VPSによる一般公開。</li><li>メタバース空間内に配置する新規作成3Dデータおよび花火大会360°動画。</li></ul>
オープンデータ化情報発信	メタバース専用ランディングページを玉名市ホームページに掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
5段階アンケートの「やや満足」以上の集計結果 (%)	60%が満足 (R6年度)	62.7% (R6年度)

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

# 56. 熊本県玉名市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
活	5－15万	100－200	5－10千



■ ユースケース開発成果イメージ図



**メタバース体験サーバーのイメージ**  
市内の観光名所やイベントを仮想空間で楽しむことのできる「たまなメタバース」をリリース。



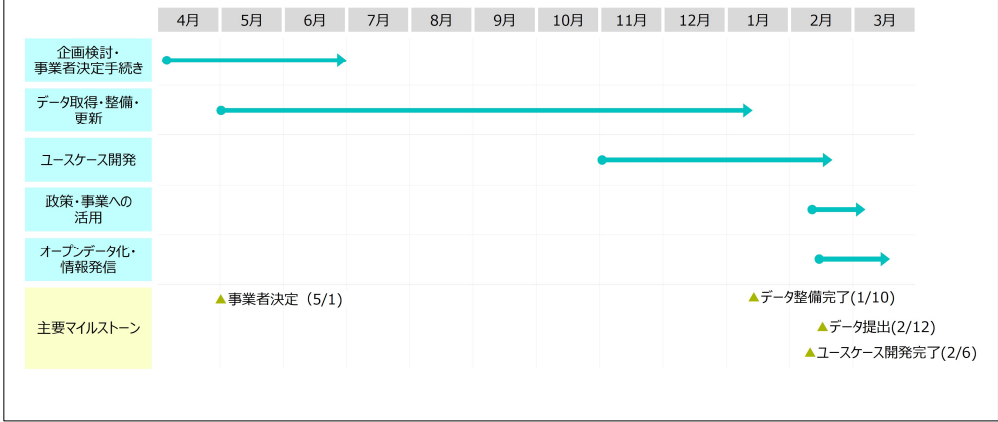
**外部ECサイトのイメージ**  
屋台が立ち並ぶ雰囲気の中で、特産品が購入できるECサイト（本市独自のふるさと納税サイト）にアクセス可能。

■ 今後の展望

3D都市モデルに現況点群データを重畳表示させ、管理したいインフラ構造物を属性情報つきで3Dオブジェクト表示できるインフラ管理システムを実現したい。  
3D都市モデルを活用して、災害時の避難者支援を行いたい。  
ゲームプラットフォームを媒介とした認知度向上及び、観光誘致を行いたい。

Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

57.鹿児島県南さつま市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像	
人口	約3.2万人（令和6年4月時点）
市域全域面積	283.59km <sup>2</sup> （令和6年4月時点）
主な産業 地域課題等	<p>薩摩半島の南西部に位置し、北は鹿児島市・日置市、東は枕崎市・南九州市に隣接し、南側及び西側は東シナ海に面している。人口は約3.2万人である。</p> <p>本市では人口減少・少子高齢化の状況や限られた資源の中においても、将来に渡って生活利便性が維持され、持続可能なまちづくりを実現するため、コンパクトシティ+ネットワークの形成を目指し立地適正化計画を令和5年度より2カ年で策定したところである。</p> <p>市役所などの行政機関や企業等が集中する南さつま市中心部は、近くに二級河川の加世田川、万之瀬川が流れており、地形的にも浸水しやすく、広い範囲で浸水の被害が出るのが想定される。</p> <p>上記のように、水災害に対して脆弱なまちであるため、住民への災害リスクの可視化や洪水時の対応行動の支援、災害対策本部におけるタイムラインの検討が課題である。</p>
■ 令和6年度スケジュール	
	

分野

人口規模

面積規模

予算規模

街・防

1－3万

200－500

1－2千

担当部局

都市整備課

■ 補助事業実施項目

目標

都市計画区域の中心にふさわしい活気に満ちあふれた魅力ある地域の実現

課題

市中心部の人口減少が進んでおり、防災対策(ハード・ソフト)も含めコンパクト化に向けた検討が必要である。

市中心部のほとんどが浸水想定区域に当たり、防災対策が急務である。

今後、学校再編、南薩地域振興局(県出先事務所)の移転に伴う跡地利用の検討を予定しており、ステークホルダーとの認識共有が課題である。

創出価値

- 市中心部のまちづくりについて、3D都市モデルを活用することでステークホルダーや市職員との認識共有がしやすくなる。
- 立地適正化計画の住民説明会や市ホームページにて3D都市モデルを活用し、都市機能誘導区域及び居住誘導区域の災害リスクをわかりやすく示すことで市民の被災リスクの理解が向上する。

事前調査等

—

3D都市モデル整備・更新

- 3D都市モデル整備（LOD1,LOD2）

ユースケース開発

- 3D都市モデルを活用したまちづくり都市計画立案への活用事業
- 3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業

推進事業

—

総事業費（予定）

1,000（万円）

R6年度補助額

1,000（万円）

補助対象外の関連事業

立地適正化計画策定、用途見直しの検討

オープンデータ化・可視化・情報発信

- G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル／関連データ】
- PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル／関連データ】
- 南さつま市ホームページに掲載【PLATEAU VIEW及びG空間情報センターへのリンク】

R6年度委託事業者

株式会社パスコ（3D都市モデル整備（LOD1,LOD2）、3D都市モデルを活用したまちづくり都市計画立案への活用事業、3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業）

PLATEAU

by MLIT

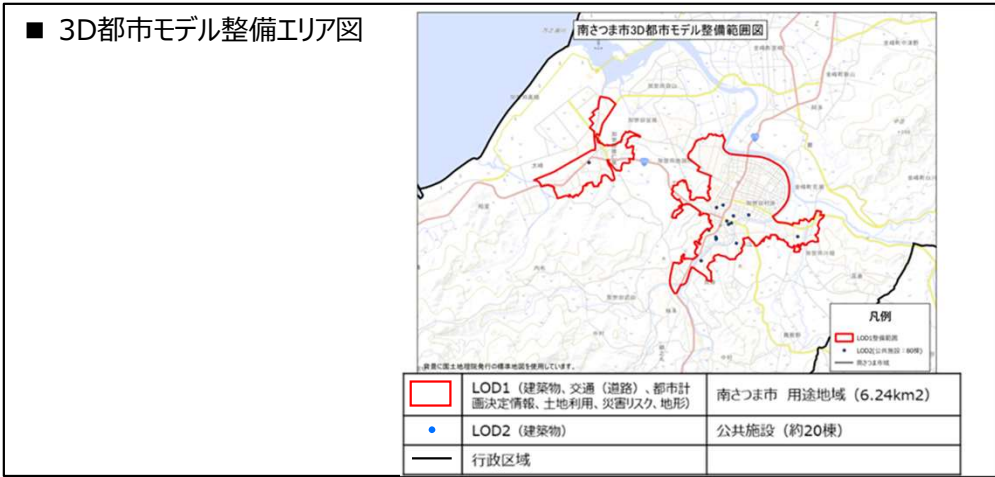


Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

57.鹿児島県南さつま市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	用途地域	6.24km <sup>2</sup>	R6年度整備
LOD2	建築物	公共施設（約20棟）		R6年度整備



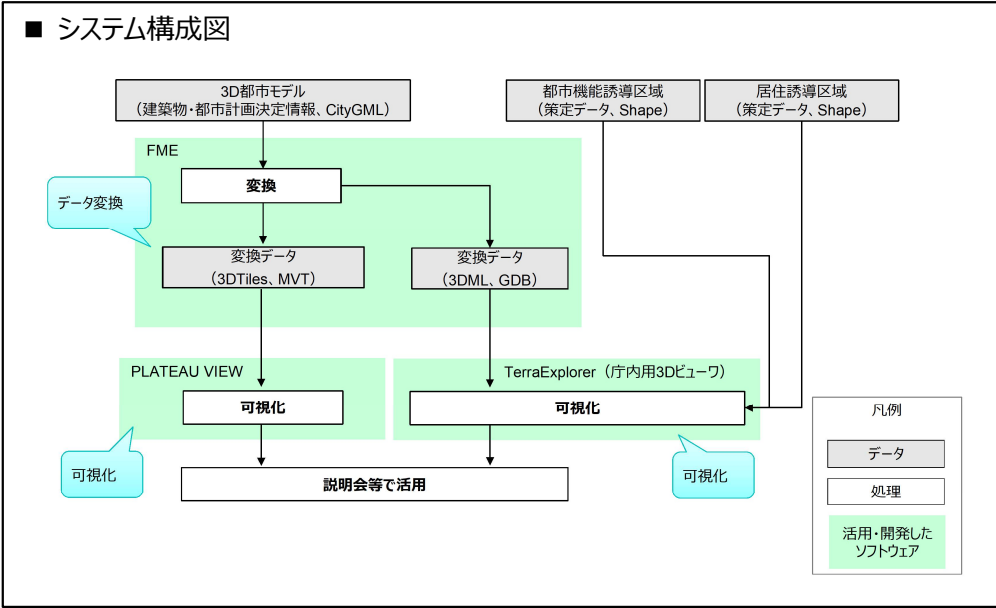
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	2.都市計画基本図（既存）	R5年度	2,500
測量成果	3.既存資料（航空写真）	R5年度	1,000
属性情報	1.都市計画基礎調査（既存）	R3年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	1－3万	200－500	1－2千



■ ユースケース①概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	都市構造を立体的に可視化し、点在する未利用地の把握等を簡単にする ことで、立地適正化計画等のまちづくり分野における施策検討の効率化を図る。
取組内容	3D都市モデル（建築物と都市計画決定情報）を重ね合わせることで都市構造を立体的に可視化し、立地適正化計画等のまちづくり分野における施策検討で活用する。



Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

57.鹿児島県南さつま市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1（名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年等）</li><li>都市計画決定情報LOD1（都市機能誘導区域、居住誘導区域）</li></ul>
活用データ (上記以外)	—
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>整備した3D都市モデル（建築物、都市計画決定情報）をFMEを使用してCityGML、3dmlへデータ変換することで「PLATEAU VIEW」や「TerraExplorer（庁内用3Dビューワ）」に搭載可能な形式とする。</li><li>3Dビューワソフト（TerraExplorer）を使用して、庁内用3Dビューワを構築する。</li><li>変換した3D都市モデルと立地適正化計画で設定した都市機能誘導区域及び居住誘導区域を重畳表示し、可視化する。</li><li>3D都市モデルの属性情報による色分け設定を行い、分かりやすく可視化する。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデル（建築物と都市計画決定情報）を重ね合わせ、属性情報による色分け表示を行うことで都市構造を立体的に可視化し、立地適正化計画等のまちづくり分野における施策検討で活用する。</li><li>可視化の結果を活用し、立適の作業部会や住民説明向けの資料を作成し、する。</li><li>可視化環境を使用し、立適の作業部会や住民説明会で説明を行う。</li><li>可視化環境を使用し、市職員向け説明会を実施することで3D都市モデルの理解度を深め、今後の都市計画立案の効率化を図る。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	PLATEAU VIEW及びG空間情報センターへのリンクを南さつま市ホームページ上に掲載

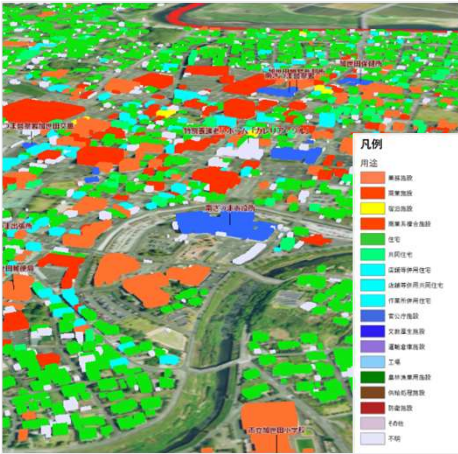
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
市職員説明会を実施し、理解度を深める。（％）	50% (R6年度)	91.7% (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	1－3万	200－500	1－2千



■ ユースケース開発成果イメージ図



用途別色分け表示  
建築物LOD1を用途別に色分け設定をして可視化したイメージ図



都市計画決定情報の重畳表示  
建築物LOD1及びLOD2と立地適正化計画の2区域を重畳表示したイメージ図

■ 今後の展望

データの利活用に向けた活動を今後検討したい。  
また、必要に応じて新しい都市計画情報に更新し、市民への情報公開を継続したい。

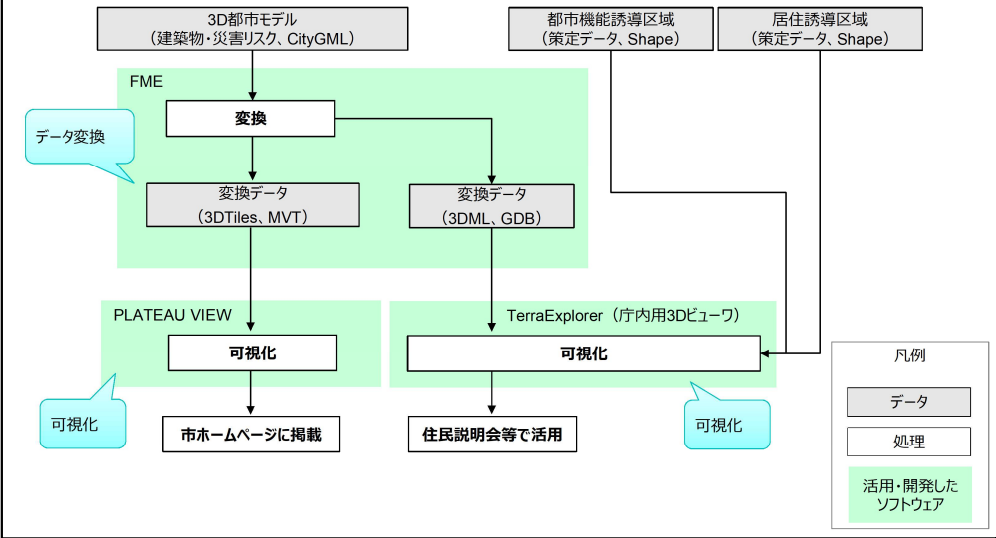
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

57.鹿児島県南さつま市

■ ユースケース②概要

分野	防災・防犯
目的	立地適正化計画で設定した都市機能誘導区域及び居住誘導区域の災害リスクの認知性を高め、市民の防災意識の向上や、防災施策検討の効率化を図る。
取組内容	都市機能誘導区域及び居住誘導区域に洪水浸水想定区域や津波浸水想定区域等の災害リスク情報を重ね合わせ、3Dビューアソフトを用いて、住民説明会での活用や市ホームページ上での公開を行う。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	1－3万	200－500	1－2千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年等)</li><li>都市計画決定情報LOD1 (都市機能誘導区域、居住誘導区域)</li><li>災害リスクLOD1 (浸水深の区分、起こりうる災害の内容)</li></ul>
活用データ (上記以外)	－
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>整備した3D都市モデル (建築物、都市計画決定情報) をFMEを使用してCityGML、3dmlへデータ変換することで「PLATEAU VIEW」や「TerraExplorer (庁内用3Dビューワ)」に搭載可能な形式とする。</li><li>3Dビューワソフト (TerraExplorer) を使用して、庁内用3Dビューワを構築する。</li><li>変換した3D都市モデルと立地適正化計画で設定した都市機能誘導区域及び居住誘導区域を重ね表示し、可視化する。</li><li>3D都市モデルの属性情報による色分け設定を行い、分かりやすく可視化する。</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデル (建築物、洪水浸水想定区域等の災害リスク情報) を重ね表示し、3次元で可視化する。</li><li>住民説明会等での活用や市ホームページ上での公開により、防災に関する情報発信を行う。</li><li>可視化の結果を活用し、立適の作業部会や住民説明向けの資料提供や、市ホームページ上で公開する。</li><li>可視化環境を使用し、立適の作業部会や住民説明会で説明を行う。</li><li>可視化環境を使用し、今後の防災施策検討の効率化を図る。</li></ul>
オープンデータ化情報発信	PLATEAU VIEW及びG空間情報センターへのリンクを南さつま市ホームページ上に掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
住民説明会時の資料提供や市ホームページ上で公開することにより、住民への周知を図る。R5年度閲覧数は2,800件のため、これを基準とする。(件)	3,080件 (R6年度)	3,277件 (R6年度)

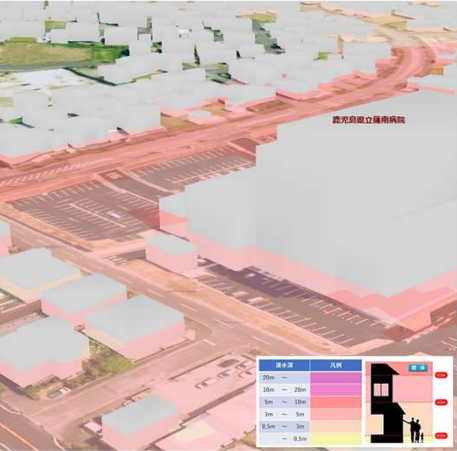
Ⅲ. 令和6年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

57.鹿児島県南さつま市

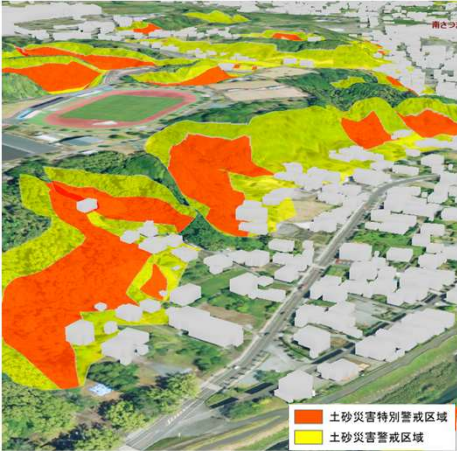
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	1－3万	200－500	1－2千



■ ユースケース開発成果イメージ図



浸水深の3D表示  
洪水浸水想定と建築物LOD1を  
重畳表示したイメージ図



土砂災害警戒区域の重畳表示  
土砂災害警戒区域と建築物LOD1を  
重畳表示したイメージ図

■ 今後の展望

今回作成したユースケースを基に防災意識の向上に活用するほか、防災に関してより高度な活用方法について検討したい。



# 目次

## I. Project PLATEAUについて

- 1. Project PLATEAUとは ————— 2
- 2. 3D都市モデルとは ————— 3
- 3. 整備都市 ————— 4

## II. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）の概要

- 1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）とは ————— 6

## III. 令和6年度採択団体別事業内容

- 1. 採択団体一覧 ————— 8
- 2. 団体別事業内容 ————— 14

## IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

- 1. 採択団体一覧 ————— 240
- 2. 団体別事業内容 ————— 241

# IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

## 1. 対象団体一覧

※令和5年度採択団体の内、令和5年度末にKPIを未計測だった団体を対象とした。

番号	地域	地方公共団体名	担当部署	掲載ページ	番号	地域	地方公共団体名	担当部署	掲載ページ
01	東北	福島県相馬市	都市整備課	P241	11	近畿	兵庫県たつの市	都市計画課	P289
02	関東	埼玉県	都市計画課	P244	12	近畿	兵庫県三木市	都市政策課	P292
03	関東	東京都	広域調整課	P247	13	中国	鳥取県米子市	都市創造課	P297
04	中部	新潟県加茂市	建設課	P253	14	中国	鳥取県境港市	下水道課	P300
05	中部	岐阜県岐阜市	都市計画課	P258	15	中部	徳島県徳島市	都市計画課	P303
06	中部	岐阜県美濃加茂市	都市計画課	P266	16	四国	愛媛県東温市	都市整備課	P307
07	中部	静岡県	都市計画課	P269	17	九州	福岡県筑前町	都市計画課	P312
08	中部	愛知県日進市	都市計画課	P274	18	九州	長崎県佐世保市	都市政策課	P317
09	近畿	三重県四日市市	都市計画課	P279	19	九州	熊本県玉名市	都市整備課	P322
10	近畿	大阪府河内長野市	都市計画課	P283	20	九州	大分県臼杵市	都市デザイン課	P326

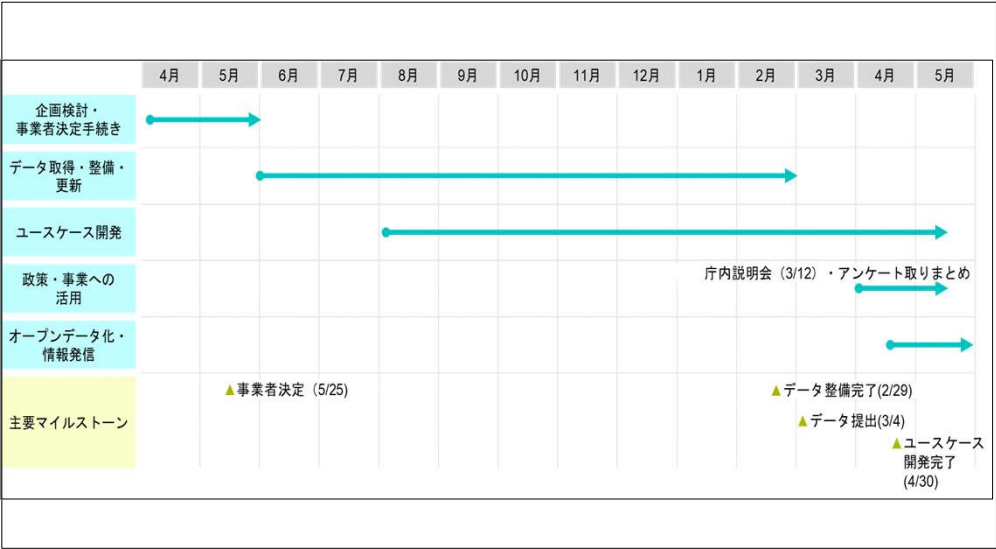
Ⅳ. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

# 01.福島県相馬市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	33,391人（令和5年10月時点）
市域全域面積	197.79km <sup>2</sup> （令和5年1月時点）
主な産業 地域課題等	常磐自動車道及び常磐自動車道と東北自動車道を結ぶ東北中央自動車道などの高速交通ネットワークが充実おり、国際貿易港である重要港湾相馬港に隣接した相馬中核工業団地が立地している。 令和元年東日本台風で河川氾濫による浸水被害が発生したことから、3D都市モデルを活用し、市民等が災害時に迅速で適切な避難行動をとることができるよう防災意識の向上を図る。

■ 令和5年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	3-5万	100-200	5-10千

担当部局	建設部 都市整備課
------	-----------

■ 補助事業実施項目

目標	災害に強い安全で安心な地域づくり
課題	震災・水防対策の整備、災害弱者対策の推進
創出価値	・ 洪水や津波の浸水想定区域図を3D化し水害等による災害リスクをわかりやすく可視化することで、効果的な住民避難の対策を計画し、地域住民の防災意識の向上を目指す。 ・ 市内の災害・防災分野政策へ、3D都市モデルを活用促進することで、自治体職員の防災意識の向上を目指す。

事前調査等	3D都市モデルの整備範囲や整備内容の検討等
3D都市モデル 整備・更新	・ オルソ画像作成 ・ 都市計画基本図修正 ・ 都市計画基礎調査 ・ 3D都市モデル整備（LOD1, LOD2）
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
推進事業	—

総事業費	10,084.8（万円）
R5年度補助額	5,042.4（万円）
補助対象外の 関連事業	—

オープンデータ化・ 可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】 ・ 相馬市ホームページへの掲載【PLATEAU VIEWのリンクURL】
-----------------------	---

R5年度 委託事業者	国際航業株式会社 （事前調査、3D都市モデルの整備・更新、データ整備）
---------------	--



IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

01.福島県相馬市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 土地利用 災害リスク 地形 都市計画決定情報	相馬市全域 相馬地方都市計画区域 相馬市	197.79km <sup>2</sup> 119.82km <sup>2</sup>	R5年度新規整備 R5年度新規整備
LOD2	建築物	相馬市内	50棟	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図

	LOD1（建築物、道路、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形）	相馬市全域（197.79km <sup>2</sup> ）
	LOD2（建築物）	相馬市内（50棟）

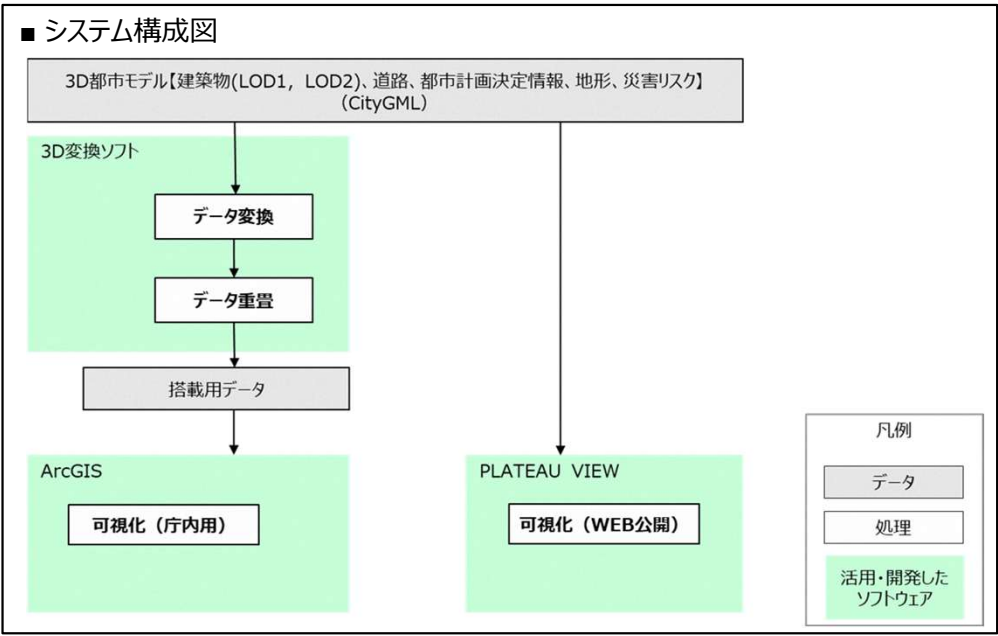
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	新規作成	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R4年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（修正）	新規作成	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	3-5万	100-200	5-10千



■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化
取組内容	震災・水防対策の整備、災害弱者対策の推進をするため、洪水や津波の浸水想定区域図を3D化し、3D都市モデルに重ね合わせることで、水害等による災害リスクをわかりやすく可視化する。 可視化の結果を踏まえ、市の防災計画や避難経路設定に活用する。





IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

# 01.福島県相馬市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1,LOD2（浸水ランク、浸水深、継続時間等）</li><li>道路LOD1</li><li>都市計画決定情報LOD1</li><li>地形LOD1</li><li>災害リスクLOD1</li></ul>
活用データ (上記以外)	－
ユースケース 開発方法	3D都市モデル上に洪水浸水想定区域、津波浸水想定区域、内水浸水想定区域、土砂災害警戒区域及び特別計画区域の情報を重ねて可視化。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>住民避難対策計画（図上訓練等）の活用による地域住民の防災意識の向上。</li><li>庁内の災害・防災分野における政策検討への活用。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	PLATEAU VIEWのリンクURLを市ホームページに掲載。

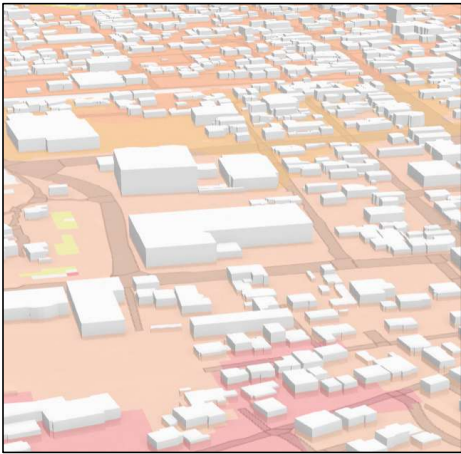
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
職員へのアンケートにおける、開発したユースケースが災害・防災分野政策の検討に有効とする職員の割合	50%	98%

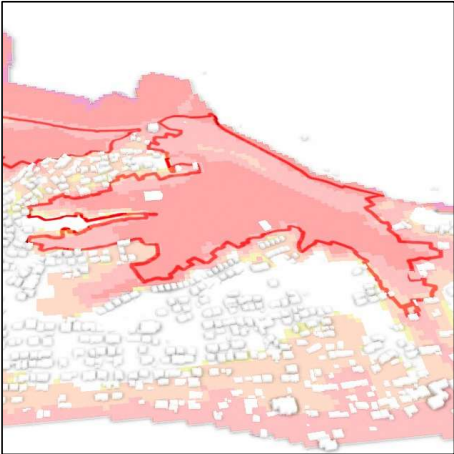
分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	3－5万	100－200	5－10千



■ ユースケース開発成果イメージ図



**災害情報の重ね合わせ**  
建築物モデルと洪水浸水想定区域を重ね合わせて、避難経路や垂直避難可能な建物を把握する。



**防災政策での活用**  
市で指定する災害危険区域と津波浸水想定区域を重ね合わせて、災害危険区域解除を検討する。

■ 今後の展望

今回は防災・減災のユースケースを開発し、防災政策での活用が見込まれるが、庁内で開催した3D都市モデルの説明会を機に、3D都市モデルを活用する意識を醸成し、防災・減災以外の政策に活用されるように周知・啓発していきたい。

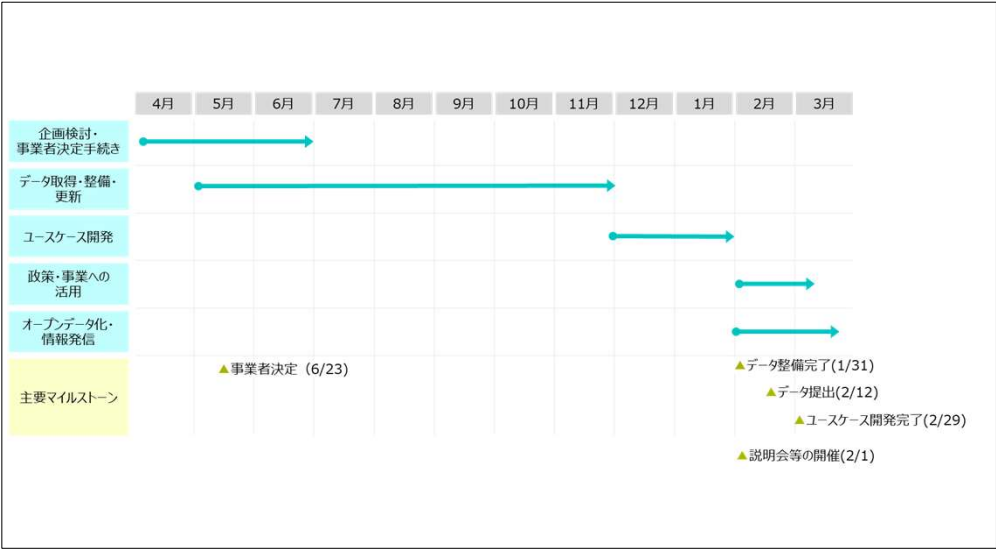
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

02.埼玉県

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約7,331,000人（令和5年10月時点）
市域全域面積	埼玉県全域（さいたま市を除く）面積：3,581km <sup>2</sup> （令和3年10月時点）
主な産業 地域課題等	卸売業・小売業が盛んであり、近年は圏央道沿線などでの企業立地が進んでいる。 面積に占める河川の割合が約3.9%で全国2位となっており、豊かな河川環境に恵まれる反面、水害リスクが高い市街地が多くなっている。

■ 令和5年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	5－10千円

担当部局	埼玉県都市整備部都市計画課
------	---------------

■ 補助事業実施項目

目標	スマートなインフラに支えられた魅力ある暮らしやすい埼玉県への変革。
課題	・ 社会全体のDXの実現、まちづくりのDXの推進。 ・ 頻発・激甚化する水害対策、災害リスク情報を分かりやすい形で整備し発信。
創出価値	・ 3D都市モデルで建物現況調査をオープンデータ化することで、わかりやすく県民にデータを発信することができる。 ・ 3D都市モデルで分かりやすく表示することで、県民の防災意識向上へつながる。

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備（LOD1、LOD2）
ユースケース開発	3Dハザードマップの作成
推進事業	庁内GISにデータ搭載

総事業費（予定）	48,000（万円） ※うちR5年度 12,000（万円）
R5年度補助執行額	6,000（万円）
補助対象外の関連事業	・ ユースケース開発

オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】 ・ 埼玉県統合型GISに掲載 【3D都市モデル】
-------------------	---

R5年度受託事業者	国際航業株式会社（3D都市モデル、3Dハザードマップの作成）
-----------	--------------------------------



IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

02.埼玉県

■ 3D都市モデル整備状況

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	①10市町（春日部市、越谷市、吉川市、八潮市、松伏町、宮代町、杉戸町、白岡市、久喜市、加須市） ②上記除く埼玉県全域	①478.7km <sup>2</sup> ②3,102km <sup>2</sup>	R5年度新規整備 R6年度以降新規整備
LOD2	建築物	1各市町村	5棟ずつ	R5年度新規整備 R6年度以降新規整備
	建築物、交通（道路）	埼玉版スーパー・シティプロジェクトで示された範囲の一部	2.0km <sup>2</sup>	R5年度新規整備
LOD3	建築物、交通（道路）	一般県道春日部停車場線	300m	R5年度新規整備

※R5補助対象地物については赤字にて記載

■ 3D都市モデル整備エリア図



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	各市町村ごと	2,500レベル
測量成果	既存資料（航空写真）	各市町村ごと	2,500レベル
属性情報	都市計画基礎調査（新規）	各市町村ごと	—

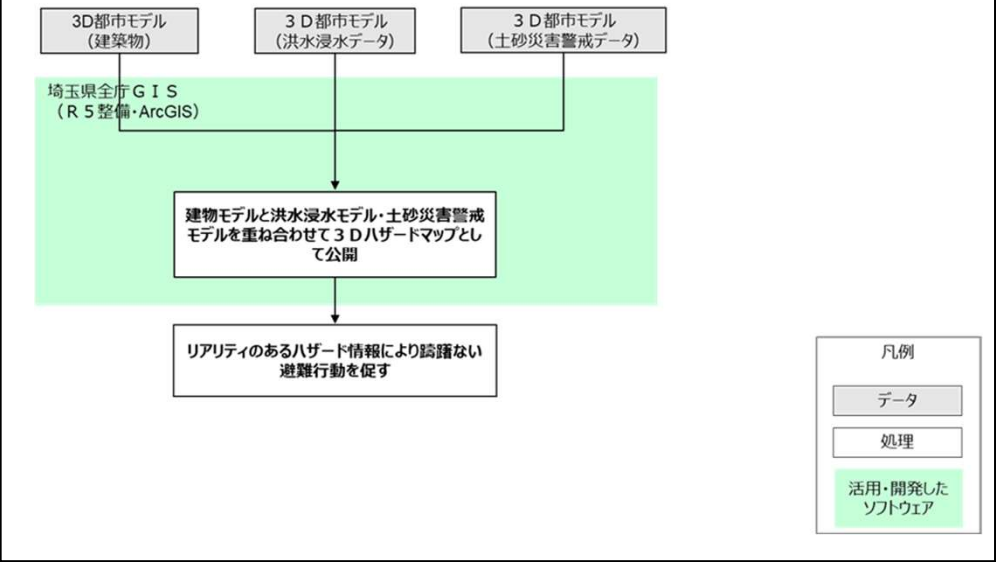
分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	5～10千円



■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3Dハザードマップの作成と公開
目的	県民一人一人の危機管理意識の向上、躊躇ない避難行動を促す
取組内容	3Dハザードマップを県統合GISにより公開し、洪水時における災害リスクを可視化する。

■ システム構成図



IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

02.埼玉県

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年)</li><li>都市計画決定情報LOD1 (区域名称)</li><li>災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域)</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>なし</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデル (建築物、地形) と3次元化した浸水想定データを重ね合わせ、埼玉県統合型GISにて公開する。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデル (建物) と浸水想定データ (外水・内水) の重畳、可視化データ。</li><li>防災まちづくりの推進。</li><li>3D都市モデルの活用。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルを埼玉県統合GISに掲載 (予定) 。</li></ul>

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3Dハザードマップの閲覧数	10,000回／年 (R6年度) 20,000回／年 (R7年度) 30,000回／年 (R8年度)	14,306回／年 (達成)
肯定的な評価をした職員割合	60% (R5年度末)	98% (達成)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	5-10千円



■ ユースケース開発成果イメージ図



全景

3D都市モデルの建築物と災害リスク（洪水浸水想定区域）を重ね合わせた状態で公開。上記画像は、引いたアングルで全景表示したものの。

近景

3D都市モデルの建築物と災害リスク（洪水浸水想定区域）を重ね合わせた状態で公開。上記画像は、寄ったアングルで近景表示したものの。

■ 今後の展望

今年度は、埼玉県東部10市町を対象に整備を行いました。今後は埼玉県全域の整備を目指して進めていきたい。



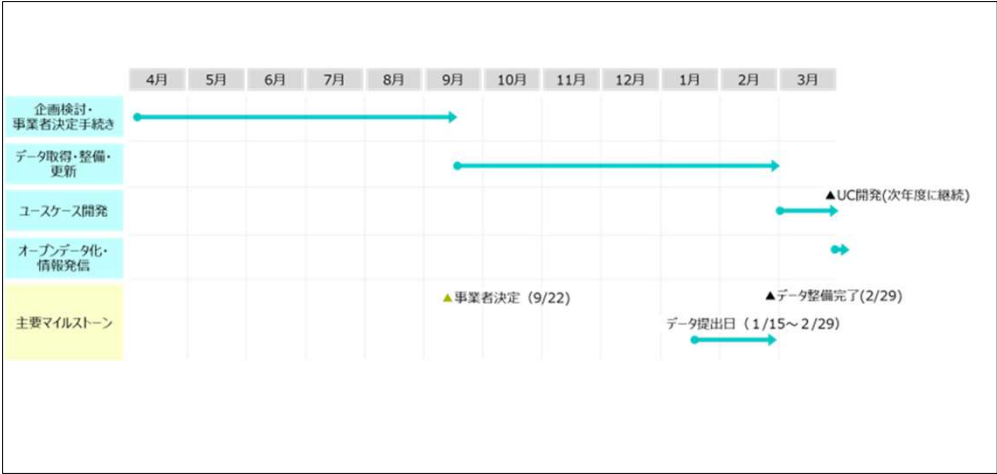
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

03.東京都

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約14,090,000人（令和5年10月時点）
市域全域面積	2,188km <sup>2</sup> （令和5年7月時点）
主な産業 地域課題等	東京は3,600万人規模を擁する世界最大の都市圏の中心である。大規模で感度の高いマーケットが存在するとともに、政治や経済、文化など、様々な機能が高度に集積し、多様なサービス・産業を有している。 また、少子高齢・人口減少社会の進行もより深刻な状況が生じ、さらには、気候変動によって人類の持続可能性が危機に晒されているといった課題に対応するため、都政の総合計画である「未来の東京」戦略を策定し政策を展開している。

■ 令和5年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	10千以上

担当部局	都市整備局都市づくり政策部広域調整課
------	--------------------



■ 補助事業実施項目

目標	・ デジタルの力で東京のポテンシャルを引き出し、都民が質の高い生活を送る「スマート東京」(Society5.0) ・ 高度な都市機能と自然が調和し、人が集い、憩う東京
課題	・ 3Dビューアを通じた行政が保有する都市情報のリアルな可視化が必要 ・ 3D都市モデル上で、浸水や土砂災害の被害の様相をシミュレートし、訓練等で活用することが必要
創出価値	・ 3Dビューア上のベースマップとして3D都市モデルを活用し、庁内外データを可視化できるよう東京都デジタルツイン3Dビューア(β版)を公開する。 ・ 行政機関のより効果的な災害対応のオペレーションにつなげていく。
事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	・ 3D都市モデル整備 (LOD1) ・ 3D都市モデル整備 (LOD2) ※都市開発諸制度拠点地区
ユースケース開発	東京都デジタルツイン3Dビューア (R5・6年度に取組予定) ※補助事業対象外
推進事業	—
総事業費(予定)	92,400(万円) ※うちR5年度 39,200(万円)
R5年度補助額	12,620(万円)
補助対象外の関連事業	点群データ取得・整備事業(多摩・島しょ部)
オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】 ・ 東京都デジタルツイン3Dビューアへの公開【3D都市モデル】
R5年度委託事業者	株式会社パスコ(3D都市モデルデータ整備)

IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

03.東京都

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	都市再生緊急整備地域	約30km <sup>2</sup>	R4-R5年度更新
		23区(都市再生緊急整備地域除く)	約597km <sup>2</sup>	R5年度更新
		多摩部	約1,154km <sup>2</sup>	R5年度新規整備
		島しょ部	約407km <sup>2</sup>	R6年度新規整備
LOD2	建築物	都市再生緊急整備地域	約30km <sup>2</sup>	R4-R5年度更新
		都市開発諸制度拠点地区	約45km <sup>2</sup>	R5年度新規整備

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	10千以上



■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	都市設備 植生	都市再生緊急整備地域（一部区域）	—	R4-R5年度新規整備
		都市開発諸制度拠点地区（一部区域）	—	R5年度新規整備
LOD2	交通（道路）	都市再生緊急整備地域	約30km <sup>2</sup>	R4-R5年度新規整備
		都市開発諸制度拠点地区	約45km <sup>2</sup>	R5年度新規整備
	橋梁	都市再生緊急整備地域	約30km <sup>2</sup>	R4-R5年度更新
		都市開発諸制度拠点地区	約45km <sup>2</sup>	R5年度新規整備
	植生	都市再生緊急整備地域（一部区域）	—	R4-R5年度新規整備
		都市開発諸制度拠点地区（一部区域）	—	R5年度新規整備
LOD3	都市設備	都市再生緊急整備地域（一部区域）	—	R4-R5年度新規整備
		都市開発諸制度拠点地区（一部区域）	—	R5年度新規整備
LOD4.1	地下街	都市再生緊急整備地域（一部区域）	—	R4-R5年度新規整備

IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

03.東京都

3D都市モデル整備エリア図



	LOD1（建築物、交通（道路）、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形）	・23区（約627km） ・多摩部（約1,154km）※狛江市（約6km）除く ・島しょ部（約407km）※R6年度補助対象予定
		・都市再生緊急整備地域（約30km）※R4年度補助対象
	LOD2（建築物、交通（道路）、都市設備、植生、橋梁等）	・都市開発諸制度拠点地区（約45km）

\* R5年度整備範囲は太字箇所 \* 他事業体等と重複する場合には別途調整

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	2.都市計画基本図(既存)	R3年度（区部・島しょ部） H27年度（多摩部）	2,500
測量成果	2.新規測量（航空レーザー）	R4・5年度	500
属性情報	1.都市計画基礎調査(既存)	R3年度（区部） R4年度（多摩・島しょ部）	—

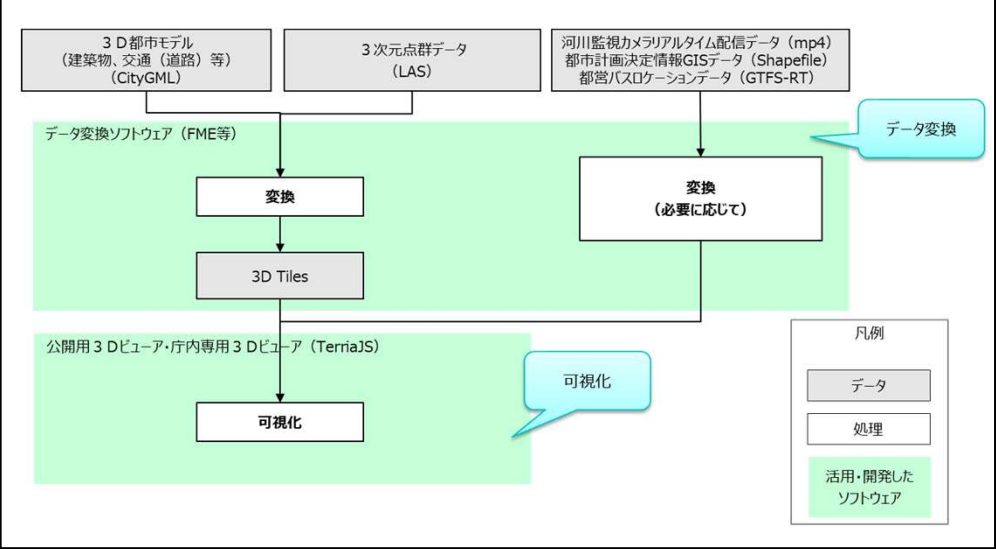
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	10千以上



ユースケース①概要

テーマ	その他
ユースケース名称	東京都デジタルツイン3Dビューア（R5・6年度に取組） ※補助事業対象外
目的	3Dビューアを通じた行政が保有する多様な都市情報のリアルな可視化
取組内容	様々な庁内外データ（都バスや河川のリアルタイムな情報など）を可視化できるよう東京都デジタルツイン3Dビューア(β版)を公開中。3Dビューア上のベースマップとして3D都市モデルを活用する。

システム構成図



# IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

## 03.東京都

### ■ ユースケース①開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築物LOD1・2（図形面積、住所等）</li> <li>交通（道路）LOD1・2</li> <li>都市計画決定情報LOD1（用途地域、高度地区、防火及び準防火地域）</li> <li>土地利用LOD1（矩形、図形面積等）</li> <li>災害リスクLOD1（浸水（洪水、高潮）想定区域、土砂災害警戒区域</li> <li>地形LOD1</li> </ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川監視カメラリアルタイム配信（河川監視カメラ）</li> <li>都市計画決定情報GISデータ（都市再生特別地区、公園緑地）</li> <li>都営バス（バスロケーション情報等）</li> </ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象区域の3D都市モデルをソフトウェアで活用できるように、データ変換ソフトウェアを活用して変換する。</li> <li>変換した3D都市モデルと各種GISデータ等を活用して、データを可視化、公開用3Dビューア・庁内専用3Dビューアを整備。</li> </ul>
政策・事業での 活用	3Dビューアを通じた行政が保有する多様な都市情報のリアルな可視化。
オープンデータ化 情報発信	3D都市モデルを東京都デジタルツイン3Dビューアに掲載（予定）。

### ■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルの関心度（%）	40% (R5年度)	50%

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	10千以上



### ■ ユースケース開発成果イメージ図



「東京都デジタルツイン3Dビューア」による多様なデータの可視化  
 3Dビューア上のベースマップとして3D都市モデルを活用し、河川監視カメラ映像や用途地域など、多様なデータを可視化。

### ■ 今後の展望

3D都市モデルの整備を順次実施し、3Dビューアにおける都内全域の可視化を実施。



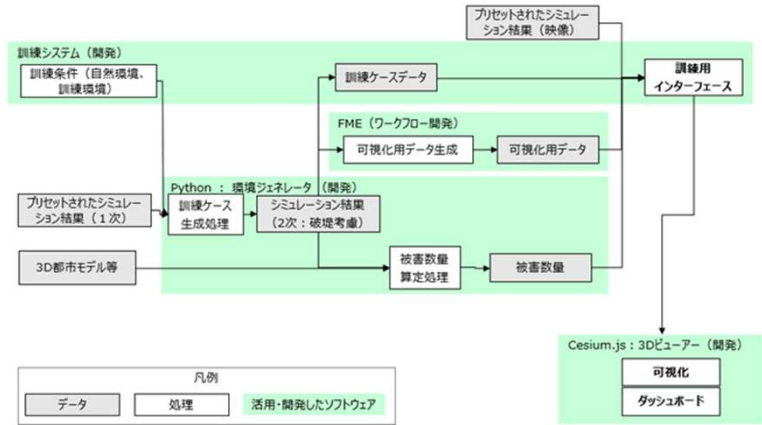
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

03.東京都

■ ユースケース②概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	デジタルツインを活用した水害シミュレーション
目的	防災上の課題の把握および解決のための訓練によって、様々な場面で『より効果的に』活用できるシステムの開発・実装。
取組内容	3D都市モデル上で、浸水や土砂災害の被害の様相をシミュレートし、訓練等で活用することで行政機関のより効果的な災害対応のオペレーションにつなげていく。
実施体制	日本工営株式会社

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	10千以上



■ ユースケース②開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1・2</li><li>交通（道路）LOD1・2</li><li>都市計画決定情報LOD1</li><li>土地利用LOD1</li><li>災害リスクLOD1</li><li>地形LOD1</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>河川監視カメラ、高所カメラ</li><li>解析データ（シミュレーション結果データ）</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>活用するデータは検討中。</li><li>3D都市モデル上で、浸水や土砂災害の被害の様相をシミュレート。</li><li>河川の洪水による氾濫や土砂災害など、各地の水害リスクの有無を3Dで表示。</li><li>浸水エリアの広がりや水位の上昇など、時間の経過による変化を表示。</li><li>図上訓練等で活用することで行政機関のより効果的な災害対応のオペレーションにつなげていく。</li></ul>
政策・事業での 活用	3D都市モデル上で、浸水や土砂災害の被害の様相をシミュレートし、訓練等で活用することで行政機関のより効果的な災害対応のオペレーションにつなげていく。
オープンデータ化 情報発信	—

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
訓練において実災害のイメージができたと感じた参加者の割合	80%	87%
訓練において職員の対応力向上に役立つと感じた参加者の割合	80%	94%

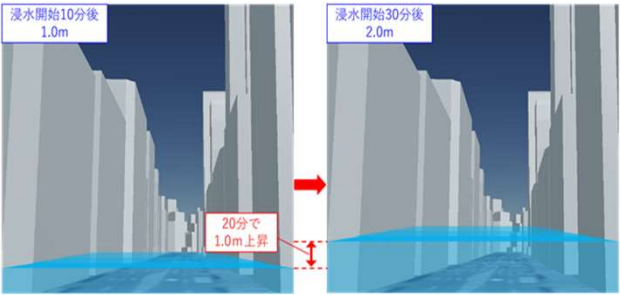
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

03.東京都

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	10千以上



■ ユースケース開発成果イメージ図



デジタルツインを活用した  
水害シミュレーション①  
(水位上昇の3Dイメージ)  
河川の洪水による氾濫など、  
各地の水害リスクの有無を3  
Dで表示。



デジタルツインを活用した  
水害シミュレーション②  
(土砂災害発生の3Dイ  
メージ)  
土砂災害など、各地の水害リ  
スクの有無を3Dで表示。

■ 今後の展望

行政機関の防災対応力の向上に向けて、本シミュレーションは、訓練や計画・マニュアルの検討に活用できるよう、開発を推進。

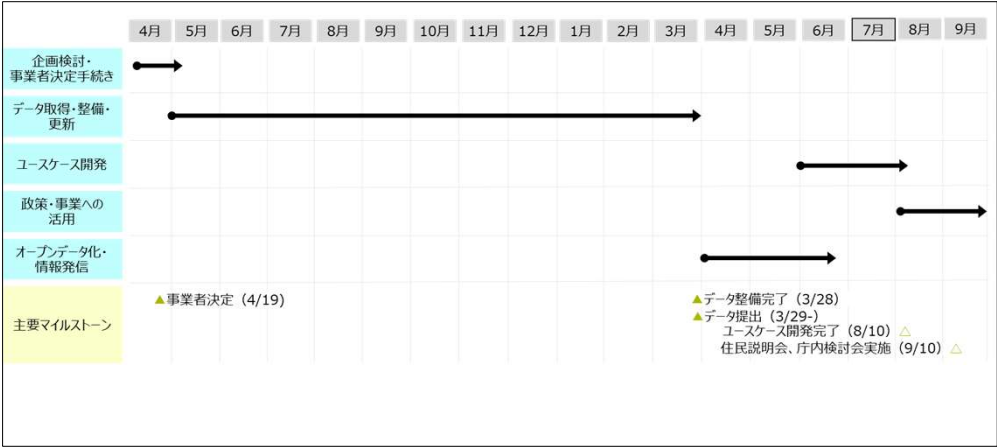
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

04.新潟県加茂市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約25,000人（令和5年4月時点）
市域全域面積	133.72km <sup>2</sup> （令和5年4月時点）
主な産業 地域課題等	<p>新潟県のほぼ中央に位置する一般市。東は奥早出栗守門県立自然公園の栗ヶ岳から、西は信濃川を超えた平野部に至る東西約17kmの細長い市域である。</p> <p>市域の約70%は山岳丘陵部分で占められ、栗ヶ岳に源を発する加茂川が市街地を縦貫して信濃川に注いでいる。農業は米のほかナシやモモの優良な産地として、工業は桐たんすの全国有数の生産地である。加茂駅周辺において商業圏を形成している。</p>

■ 令和5年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1－3万人	100－200	1千未満

担当部局	建設課都市計画係
------	----------



■ 補助事業実施項目

目標	災害に強い都市を実現する。
課題	一級河川3河川に囲まれていることで、市内の大部分が浸水想定区域内に存在し、また土砂災害警戒区域も305か所存在していることから、災害リスクの高い地域である。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルを活用し、災害リスクをわかりやすく示すことで市民の防災意識が向上する。</li><li>現在策定中の加茂市都市計画マスタープラン等の策定過程にあたり、災害リスク情報を加味した土地利用方針等の方向性等に資する。</li></ul>

事前調査等	3D都市モデルの整備範囲や整備内容の検討
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"><li>オルソ画像の作成・数値地形図の新規図化・都市計画基礎調査</li><li>3D都市モデル整備（LOD1）・3D都市モデル整備（LOD2）</li></ul>
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業</li><li>3D都市モデルを活用したまちづくり都市計画立案への活用事業</li></ul>
推進事業	3D都市モデルのオープンデータの構築

総事業費	5,388（万円）
R5年度補助額	2,500（万円）
補助対象外の関連事業	対象区域外（山間地）の撮影・デジタルオルソ画像の作成

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】</li><li>PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】</li><li>市HP上で3D都市モデルの概要掲載及びPLATEAU VIEWへの直リンク掲載【3D都市モデル】</li></ul>
-------------------	---

R5年度委託事業者	株式会社オリス（データ整備）
	株式会社オリス（ユースケース開発）

IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

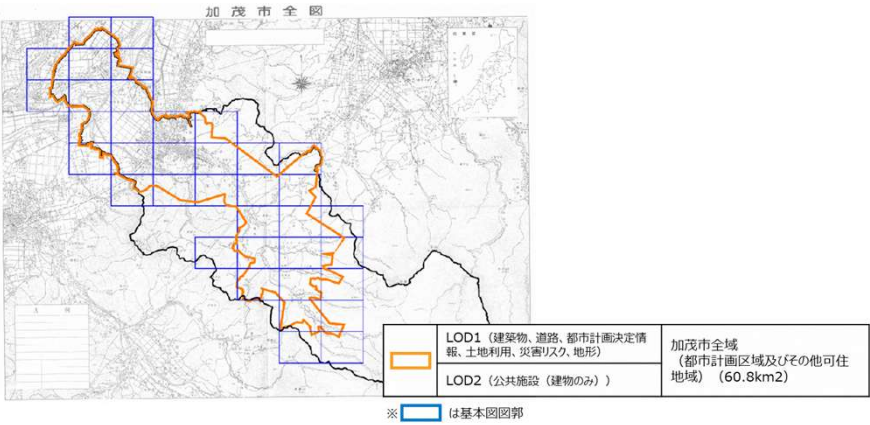
# 04.新潟県加茂市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 災害リスク 地形	加茂市全域	60.8km <sup>2</sup>	R5年度新規整備
LOD1	都市計画決定情報 土地利用	加茂市全域(都市計画区域内)	30.0km <sup>2</sup>	R5年度新規整備
LOD2	建築物	公共施設のみ	約150棟	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（新規作成）	R5年度	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	R5年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（修正）	R5年度	—

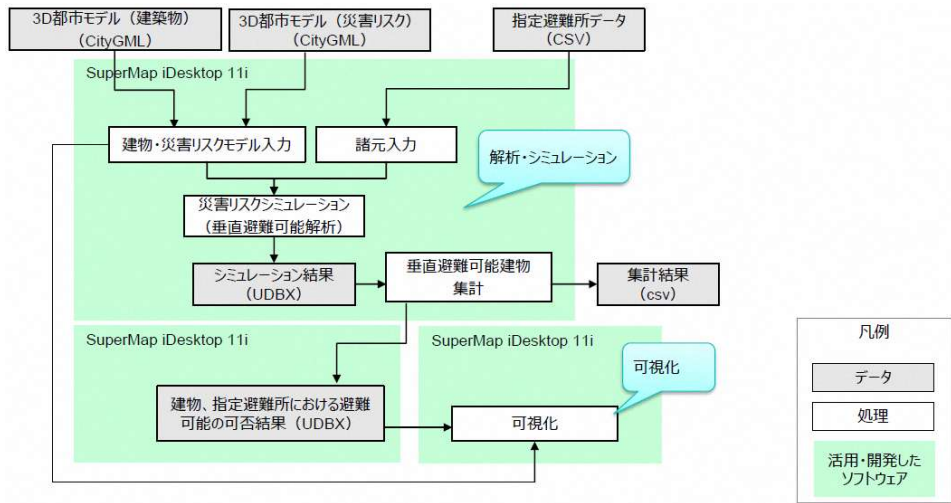
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1－3万人	100－200	1千未満



■ ユースケース①概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	大雨時の水位モニタリングや、被災予測による効果的な対応を図り、住民の防災意識を向上させる。
取組内容	市内の可住地域内を対象として、浸水想定及び土砂災害警戒区域の三次元表示を行い、リスクを立体的に可視を行う。 これを活用した住民への防災出前講座等を実施する。

■ システム構成図





IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

04.新潟県加茂市

■ ユースケース①開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1 (用途、計測高さ)</li><li>建築物LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年)</li><li>災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域)</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>指定避難所情報 (避難所名称、所在地、災害種類)</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>建物データと洪水浸水想定区域図とを重ね合わせ、浸水想定区域内で一定の属性条件に合致する建物 (階数、構造、用途等) を抽出し3Dビューア内で可視化。</li><li>既存の避難施設等ともあわせて可視化し、地域ごとの垂直避難建物候補を抽出。</li><li>浸水想定区域図、土砂災害警戒区域を三次元化し、リアリティックに表現をする。</li><li>災害時における「立ち退き避難が必要な建物、垂直避難の可能な建物」を抽出する。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>地域住民等に対し洪水及び土砂災害リスクに対する意識醸成のための説明会等で活用。</li><li>庁内防災担当部局への3D都市モデルデモを実施。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	—

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
災害リスク情報の可視化による理解度 (%)	90% (R5年度)	100% (説明会参加者12/12) (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1－3万人	100－200	1千未満



■ ユースケース開発成果イメージ図



**建物と災害リスクの重合表示**  
建物と浸水想定区域・土砂災害警戒区域を重合表現することにより災害リスクを可視化し、地域住民の災害リスクに対する意識向上を図る。



**災害時、緊急的な垂直避難建物候補の表示**  
建物モデルと浸水想定区域を重ね、3D表現することにより災害時緊急的な垂直避難が可能な公共施設を把握する事により今後の避難施設更新等の検討資料とする。

■ 今後の展望

今回作成したユースケースを基に防災意識向上に活用するほか、防災に関してより高度な活用方法について検討したい。

IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

# 04.新潟県加茂市



■ ユースケース②概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用したまちづくり、都市計画立案への活用事業
目的	土地・建物等の利用について適切な規制や誘導を行い、自然や農地などと調和したまちの形成を目的とする。
取組内容	建物利用現況を属性情報として付与した3D都市モデルLOD1（一部LOD2）と土地利用現況図を重ね合わせ、都市の利用状況について分析を行う。この結果を踏まえ、都市計画マスタープラン策定・見直し等の基礎資料として活用する。

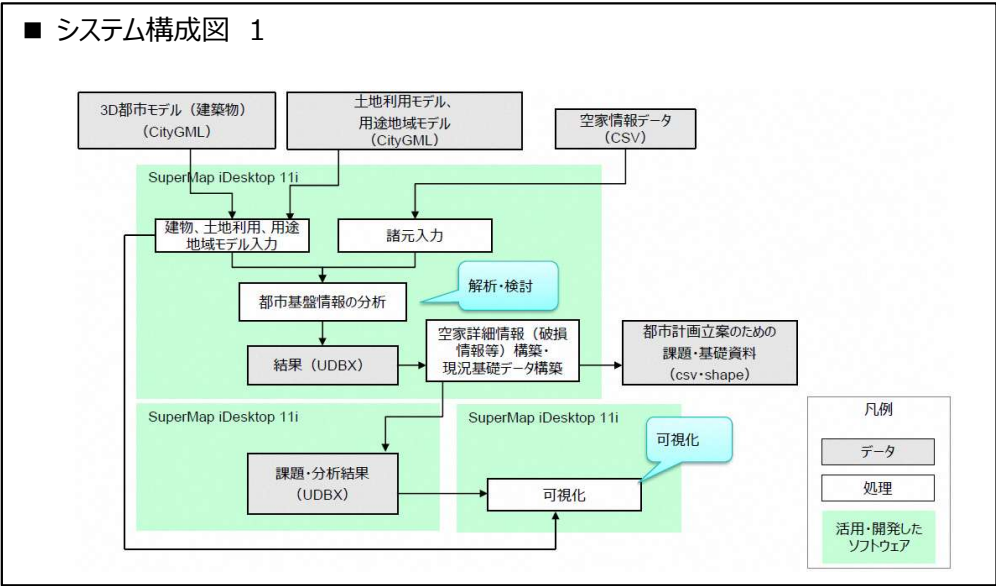
■ ユースケース②開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1（用途、計測高さ）</li><li>建築物LOD2（名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年）</li><li>都市計画LOD1（地区区分、人口、土地利用、都市施設）</li></ul>
活用データ (上記以外)	空家情報（所在地）
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルを活用して、都市基盤情報の分析を実行。（都市計画マスタープラン策定に向けた、現状の把握・分析・基礎データを構築する。）</li><li>空き家情報を建物モデルとマッチングさせ、地区区分や土地利用現況と照らし合わせ集計等行う。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>都市計画マスタープラン策定・見直し等の基礎資料として活用する。</li><li>立地適正化計画の必要性を含め、策定に係る検討材料として活用する。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	—

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
職員に対する3D都市モデルを活用した都市計画に関する検討会の開催回数（回）	1回（R5年度）	1回（R6年度）

■ システム構成図 1



IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

# 04.新潟県加茂市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1－3万人	100－200	1千未満



■ ユースケース開発成果イメージ図



都市構造の可視化

建築物、土地利用現況、用途地域区分、航空写真を重ね合わせ、情報表示する。



都市の現状把握、課題の可視化

空き家情報を建物モデルとマッチングさせ、用途地域区分や土地利用現況と照らし合わせて集計等を行い、都市の現状把握、課題の見える化を行う。

■ 今後の展望

今回作成したユースケースによる都市の現状や課題を基に、都市計画マスタープラン策定・見直し等の基礎資料として活用したい、また立地適正化計画の必要性を含め、策定に係る検討材料として活用、市街地活性化にも活用したい。

IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

05.岐阜県岐阜市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	401,280人（令和5年11月時点）
市域全域面積	203.6km <sup>2</sup> （令和5年11月時点）
主な産業 地域課題等	1996年に中核市になった岐阜県の県庁所在地である。 岐阜県の南西部に位置し、市の南部は平坦地形、北部は丘陵地 形となっている。 JR東海道線の岐阜駅、名鉄名古屋本線の名鉄岐阜駅の北側に 中心市街地、それを囲むように周辺市街地、さらにその外延部に農地 が広がる。土地利用の内訳は、森林・農用地が約49%、宅地が約 27%となっている。（令和2年版岐阜市統計書） また、市内の北東から南西には一級河川長良川が横断する。

■ 令和5年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200－500	3－5千

担当部局	都市建設部都市計画課
------	------------

■ 補助事業実施項目

目標	人がつながる 創造が生まれる しなやかさのあるまち
課題	・ センターゾーンの各エリアとエリア間をつなぐ連携軸の魅力や利便性を高めて、ゾーン全体のにぎわいや快適性の創出、回遊性の向上。 ・ 市民一人ひとりの防災意識の向上と行動促進。 ・ 通学路における効果的な交通安全対策の実現。
創出価値	・ 市民目線のわかりやすい情報を提供し、一人ひとりの防災意識の向上と行動促進につなげる。 ・ まちの未来を創造できる議論を活性化し、センターゾーンの連携軸の魅力や利便性を高め、にぎわいや快適性の創出、回遊性の向上につなげる。

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	・ 3D都市モデル整備（LOD1） ・ 数値地形図データ更新 ・ 3D都市モデル整備（LOD2）
ユースケース開発	・ 3D都市モデルを活用したまちづくり計画への活用事業 ・ 3D都市モデルを活用した交通事故リスクの可視化事業
推進事業	3D都市モデルを活用した統合型GISプラットフォームの構築

総事業費（予定）	18,364（万円） ※うちR5年度 6,664（万円）
R5年度補助額	3,332（万円）
補助対象外の関連事業	広場計画案の作成

オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】
-------------------	---

R5年度委託事業者	アジア航測株式会社（データ整備、ユースケース開発） MS&ADインターリスク総研株式会社（ユースケース開発）
-----------	---



PLATEAU  
by MLIT



IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

05.岐阜県岐阜市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

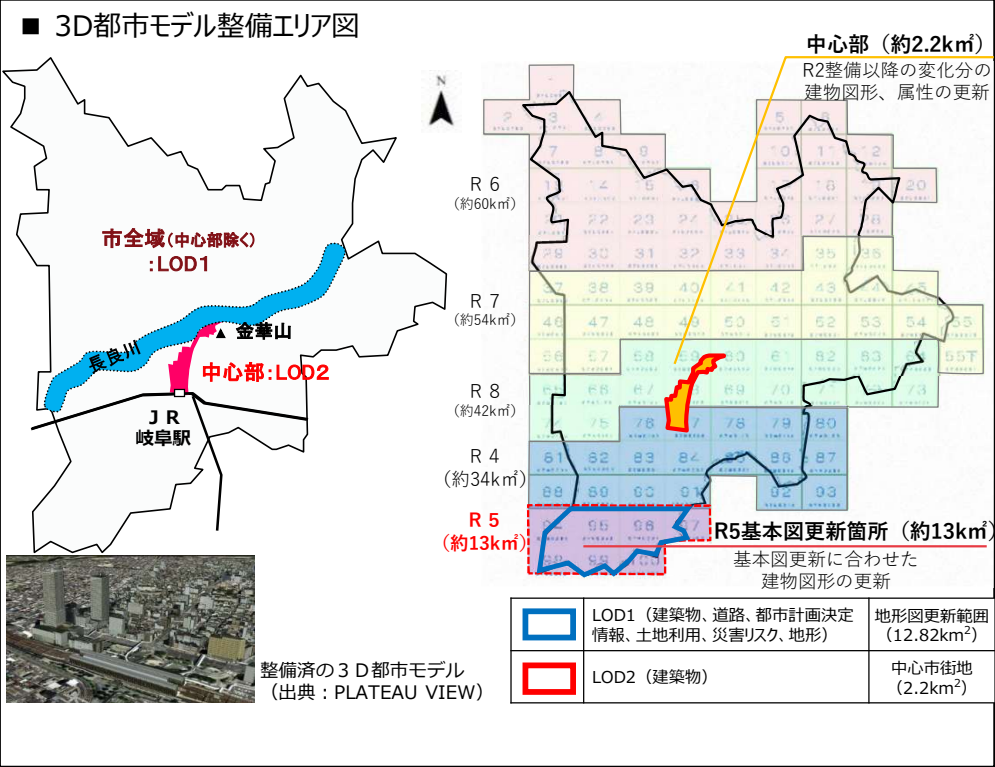
※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD0	建築物	市全域 R4地形図更新範囲 R5地形図更新範囲	203.6km <sup>2</sup> 128.3km <sup>2</sup> 12.8km <sup>2</sup>	R2年度整備済 R4年度更新 R5年度更新
LOD1	建築物	市全域 R4地形図更新範囲 R5地形図更新範囲	203.6km <sup>2</sup> 128.3km <sup>2</sup> 12.8km <sup>2</sup>	R2年度整備済 R4年度更新 R5年度更新
LOD1	交通（道路） 都市計画決定情報	市全域	203.6km <sup>2</sup>	R2年度整備済
LOD1	土地利用	市全域	203.6km <sup>2</sup>	R4年度更新
LOD1	災害リスク	土砂災害区域 洪水浸水想定区域	—	R2年度整備済
LOD1	地形	市全域	203.6km <sup>2</sup>	R2年度整備済 R4年度更新
LOD2	建築物	岐阜市中心市街地	2.2km <sup>2</sup>	R2年度整備済 R4年度更新 R5年度更新

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	都市設備（アーケード）	岐阜市中心市街地	2.2km <sup>2</sup>	R4年度整備済
LOD2	都市設備（アーケード）	岐阜市中心市街地	2.2km <sup>2</sup>	R4年度整備済

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200－500	3－5千



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図	R5年度	2,500
測量成果	航空写真撮影成果	R4年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査	R4年度	—

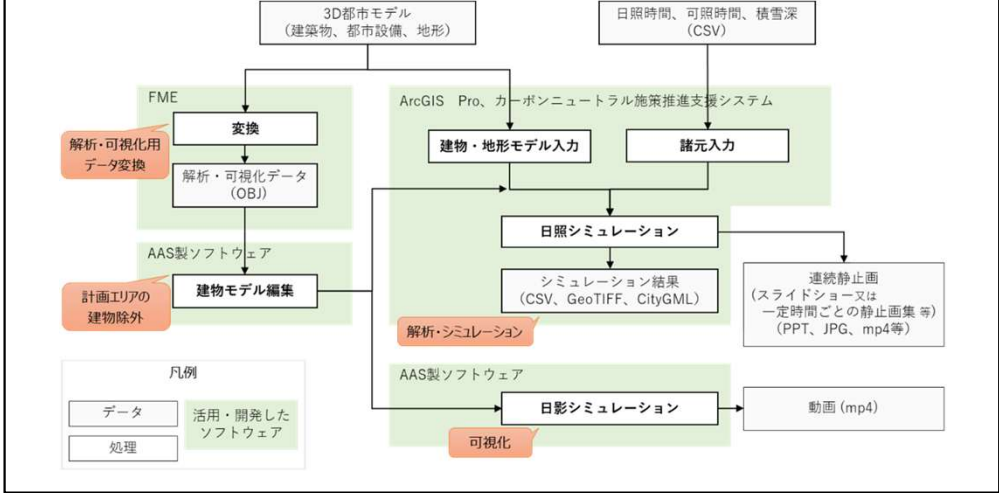
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

05.岐阜県岐阜市

■ ユースケース①概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称①	3D都市モデルを活用したまちづくり計画への活用事業
目的	令和3年度に都市計画決定された柳ヶ瀬広場について、3D都市モデルを活用した日照シミュレーションに基づく広場の計画検討を行うことで、良質な滞留空間を創出し、歩行者などが憩い、利用したくなる魅力的な広場の整備を行うことを目的とする。
取組内容	柳ヶ瀬広場における日照条件等をシミュレーションすることで、広場に延びる日差しや周辺建物及びアーケードの日陰の影響を把握し、緑陰効果の高い樹木の配置や遮熱性の高い施設素材を採用するなどの検討を実施した。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200－500	3－5千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1・2 (計測高さ・建築物IDを使用)</li><li>地形LOD1</li><li>都市設備LOD1・2</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>可照時間 (実証エリアに該当する地点の日の出入り及び南中時のデータを解析対象年の1年分のデータ)</li><li>日照時間 (実証エリアに該当する地点の日照時間の月合計のデータ)</li><li>積雪深 (実証エリアに該当する地点の平均年の水平面全天日射量の1年分のデータ)</li></ul>
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>広場計画地の既存建築物・アーケードを削除したデータを生成し、柳ヶ瀬広場及び周辺の日射量・日陰シミュレーションを行い、シミュレーション結果のラスターデータやテキストチャを作成する。</li><li>シミュレーションを行うために必要となるパラメータ等は、協議により決定する。</li><li>日影シミュレーションの結果から、柳ヶ瀬広場に必要施設の配置、遮熱性素材等の選定や効果を検討する。</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>柳ヶ瀬広場の計画に活用。</li><li>日照シミュレーション動画を関係者への説明に活用。</li></ul>
オープンデータ化情報発信	各課の関連ページに掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
日照シミュレーション及び広場の計画検討に要した期間 (月)	8ヶ月 (R5年度) 3D都市モデルを活用した日照シミュレーションの想定期間	8ヶ月

IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

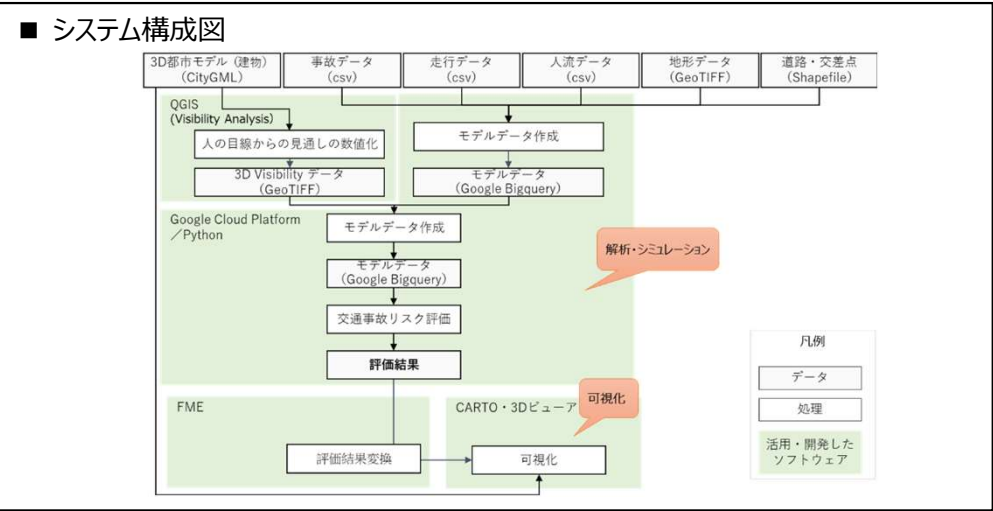
05.岐阜県岐阜市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200－500	3－5千

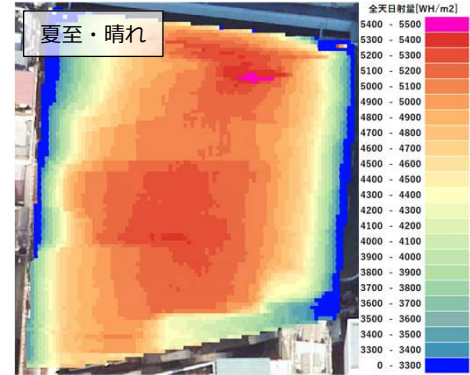


■ ユースケース②概要

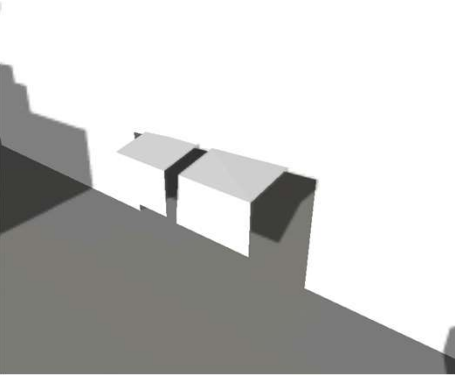
テーマ	交通・物流・モビリティ
ユースケース名称②	3D都市モデルを活用した交通事故リスクの可視化事業
目的	市内全道路・交差点における交通事故リスクの評価及び可視化を行い、効果的な安全対策を図ること。
取組内容	各種関係者と協働で現地確認し、通学路の安全対策を実施している。 より効果的な交通安全対策を行うため、交通事故実績や車両走行データなどのビッグデータに加え、3D都市モデルの建物モデルに基づく道路の見通しの数値化データを取り入れ、AI技術を活用した交通事故発生リスク評価を行った。 交通事故発生リスク評価結果を3D都市モデルで可視化し、潜在的危険箇所を直感的に把握することで、ワークショップを通して地域の交通事故リスクを共有し、具体的な安全対策箇所・内容を立案した。



■ ユースケース開発成果イメージ図



日射量シミュレーション



周辺店舗ひさし設置時の日陰シミュレーション

- ・春(秋)分、夏至、冬至の日の全天日射量等をシミュレーションし、広場に延びる日差しや日陰を把握した。
- ・緑陰効果の高い樹木の配置等の配置計画の検討に活用した。
- ・広場計画に伴う既存建物等の撤去により、日照条件が変わる周辺店舗において、軒先に"ひさし"を設置した際の日影状況をシミュレーションした。

■ 今後の展望

日照、緑陰効果や遮熱性舗装のシミュレーション結果を、動画形式などでわかりやすく公開し、周辺店舗や地元住民の合意形成にも活用したい。  
良質な滞留空間の創出につなげ、歩行者などが憩い、利用したくなる魅力的な広場整備につなげたい。

IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

05.岐阜県岐阜市

■ ユースケース開発方法	
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1（計測高さ）</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>事故データ（緯度経度、事故タイプ、事故関連者情報）</li><li>走行データ（緯度経度、急加速、速度等）</li><li>人流データ（緯度経度、タイムスタンプ、UUID）</li><li>地形データ（標高、斜面傾斜、斜面方位）</li><li>道路データ（道路形状、交差点位置、道路管理者、道路規制情報）</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>事故発生リスクAIアセスメントを用いて、交通事故データや車両走行データ、地形データ、人流・人口データ、道路データ等から、交通事故リスク評価用の2Dモデルデータを作成する。</li><li>3D都市モデルの建物データを用いて、Visibility Analysisで人の目線からの見通しを数値化し、交通事故リスク評価用の3Dモデルデータを作成する。</li><li>作成したデータをもとに、AIを用いたリスク解析を実施し、各道路におけるリスク評価値を算出し、3D都市モデルのビューワー上で可視化する。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>各道路、交差点における交通事故発生リスク評価結果を3D都市モデル上にわかりやすく可視化する。</li><li>ワークショップにおいて、可視化したデータ等をもとに地域の交通事故リスクを共有し、具体的な安全対策箇所・内容を立案する。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	各課の関連ページに掲載。

■ KPI		
KPI	目標設定	達成状況
アンケート回答者割合（%）	70% (R5年度)	90%

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200－500	3－5千



■ ユースケース開発成果イメージ図



- 交通事故発生リスク評価結果**
- 市内の全ての道路において、道路(区間)や交差点の潜在的事故発生評価を行い、リスク評価値別の色分けにより、潜在的な危険箇所を把握。
  - リスク評価値を3Dビューワ上に表示。
- 歩行者の視点位置**
- 歩行者の視点位置（高さ1.6m）でマップ表示し、視認性のシミュレーションが可能。

■ 今後の展望

今後は、市内各地区で実施するワークショップにて、導入した交通事故発生リスク評価等を活用し、ワークショップにて合意形成された対策必要箇所、対策内容、優先順位に基づき、必要な安全対策を実施していく。



IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

05.岐阜県岐阜市

■ ユースケース③概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用したまちづくり計画への活用事業【R4年度～R5年度事業】
目的	公共交通と歩行者が共存し、居心地が良く歩きたくなるまちなかの形成を目指し、岐阜市中心市街地における道路空間を活用したまちづくりを推進することを目的とする。
取組内容	R4年度は、懇談会等において、3D都市モデルを活用した道路空間の再構築案を作成し、道路空間の再構築案の理解を深め、効果的に議論を進めた。 R5年度は、前年度に方向づけた道路空間のあり方について、実証実験や懇談会等において、より具体的に議論を進める。

※R5年度は実証実験や懇談会の実施のため、システム構成図は掲載しない。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
道路空間の再構築案のイメージが湧き、理解をしたアンケート回答者の割合(%)	80% (R5年度)	87%

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200－500	3－5千



■ ユースケース開発成果イメージ図



R6.1.24～1.28に実施した長良橋通りトランジットモール社会実験では、実験区間にイメージパースを掲示するなど、将来イメージを市民等に広く周知した。



金華橋通りでは道路空間の再構築に向けて、実際に沿道施設等と将来イメージを共有する意見交換会をおこない、R5.11.17～11.19に道路空間利活用社会実験を開催した。

■ 今後の展望

R5年度は社会実験等をととして、来訪者等に将来イメージの共有を図ったが、今後基本計画策定や継続的に実施する社会実験等で活用することで理解を深め、さらなる市民の機運の醸成を図る。

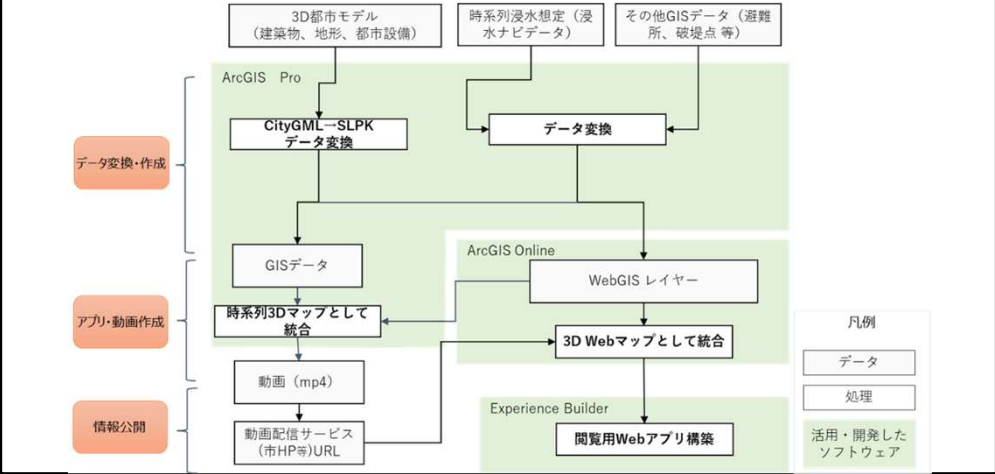
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

05.岐阜県岐阜市

■ ユースケース④概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業 ※本事業対象外（デジタル田園都市国家構想交付金等により実施）
目的	3D都市モデルを活用した洪水ハザードマップを作成し、「岐阜市総合防災安心読本アプリ」や「都市防災部HP」等の閲覧環境を整備することで、市民の防災意識の向上を図り、命を守るための適切な避難行動の促進を目的とする。
取組内容	位置情報の取得機能を設け、市全域の災害リスクに加え、ユーザーの位置情報に応じた身近な地域の災害リスクの把握を可能とする。 時間の経過に伴う浸水の発生状況を大規模被害が予測される場所や各地域が持つ災害リスクに合わせた浸水シミュレーション動画を作成し、地域の防災訓練・講和会で上映し、防災知識の向上を図り「日常の備え」や「被災時の適切な避難行動」を促進する。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200－500	3－5千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1・2（計測高さ・建築物IDを使用。（想定））</li><li>地形LOD1</li><li>都市設備LOD1・2</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>時系列浸水深データ（各破堤点ごと・経過時間ごとの3Dポリゴンデータ）</li><li>破堤点（破堤点の位置のポイントデータ）</li><li>避難所（避難所の位置のポイントデータ 属性はそのまま使用）</li></ul>
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデル上に、オープンデータを活用して3Dデータ化した各河川の浸水想定区域図や水害危険情報図を表示し、指定した位置や取得した情報の箇所における想定浸水深や避難所位置等の情報や機能を実装する。</li><li>選定した箇所において浸水開始から最大浸水深を経て、浸水終了までの時間変化に伴う浸水発生状況を示す浸水シミュレーション動画（アイビューや鳥瞰）を作成し、各地が持つ浸水災害リスクを伝える。</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>3D化した洪水ハザードマップを作成する。</li><li>浸水シミュレーション動画（mp4等を想定）</li><li>地域の防災訓練・講和会の説明資料を作成し、市民の理解度を深めて、具体的な議論を進める。</li></ul>
オープンデータ化情報発信	各課の関連ページに掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
防災対策を意識しているアンケート回答者の割合 (%)	80% (R6年度)	80%

IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

05. 岐阜県岐阜市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200－500	3－5千

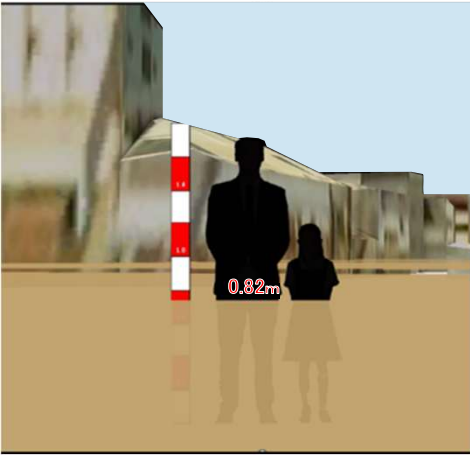


■ ユースケース開発成果イメージ図



3D洪水ハザードマップ

PCに加え、スマートフォンやタブレットなどで市内任意の位置の浸水想定が視覚的に把握できる。



浸水シミュレーション動画

浸水開始から最大浸水深を経て、浸水終了までの浸水状況の時間変化をアイビューなどで視る。

■ 今後の展望

市HPやスマートフォン・タブレット向け防災アプリで市民向けに発信する。  
アプリに搭載した位置情報の取得機能により、市全域の災害リスクに加え、ユーザーの位置情報に応じた身近な地域の災害リスクの情報提供を行う。  
地域ごとに実施する防災訓練、防災教育や防災講話等で活用し、防災に関する関心を高める。

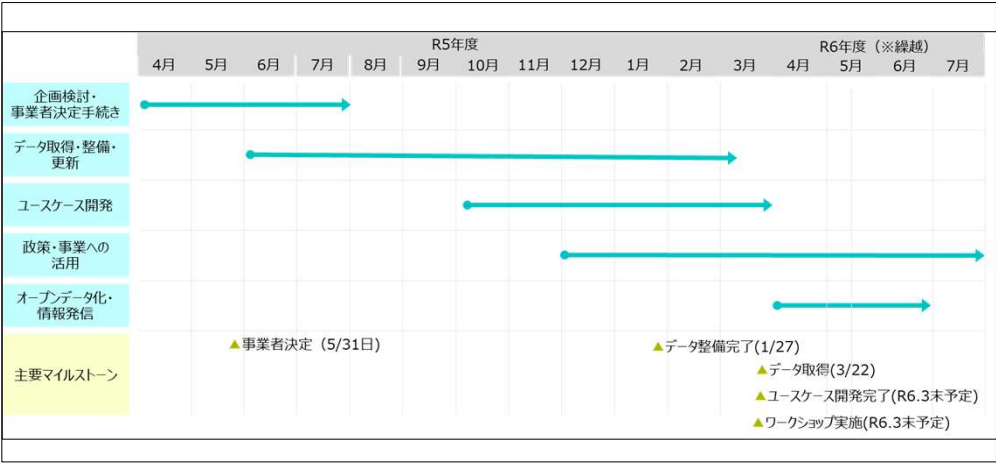
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

06.岐阜県美濃加茂市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	57,513人（令和6年2月1日現在）
市域全域面積	74.81km <sup>2</sup>
主な産業 地域課題等	木曽川と飛騨川の合流点、中部圏域の中心に位置し、古くから旧中山道の宿場町である太田宿を中心として栄えてきた。現在でも東海環状自動車のインターチェンジをはじめ、国道2路線、鉄道3路線の結節点となっており、交通アクセスにも恵まれていることから、企業誘致が進み人口が増加している。 中山道の宿場町「中山道太田宿」などの地域資源をまちづくりに活用し、観光やレジャーが盛んで市内外から多くの人が訪れている。人口の約1割が外国人で多文化共生の取組みも盛んである。

■ 令和5年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5－15万	50－100	2－3千

担当部局	都市政策部都市計画課
------	------------



■ 補助事業実施項目

目標	景観や環境に配慮した居心地の良いまちづくりに向けた市街地再整備の実現
課題	・ JR美濃太田駅を中心とする中心市街地の拠点性が失われつつあるため、新たな視点でのまちづくりによる中心市街地の活性化。 ・ 美濃太田駅周辺地区（中心市街地）の核となる美濃太田駅南地区において、景観や環境に配慮した居心地の良いまちづくりに向けた市街地再整備計画の立案。
創出価値	都市の再整備計画事業において建物属性等の可視化によりリアルな資料提示とすることで説明会等での認識共有が期待される。

事前調査等	－
3D都市モデル整備・更新	－
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した市街地再整備計画立案活用事業
推進事業	－

総事業費	4,212（万円） ※うちR5年度 100（万円）
R5年度補助額	50（万円）
補助対象外の関連事業	3D都市モデルを活用したまちづくり協議会等の開催

オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】
-------------------	---

R5年度委託事業者	アジア航測株式会社岐阜支店（データ整備） 大日コンサルタント株式会社（ユースケース開発）
-----------	---



IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

06.岐阜県美濃加茂市

■ 3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	美濃加茂市都市計画区	74.81km <sup>2</sup>	R4年度整備済
LOD2	建築物	美濃太田駅南側エリア	1km <sup>2</sup>	R4年度整備済



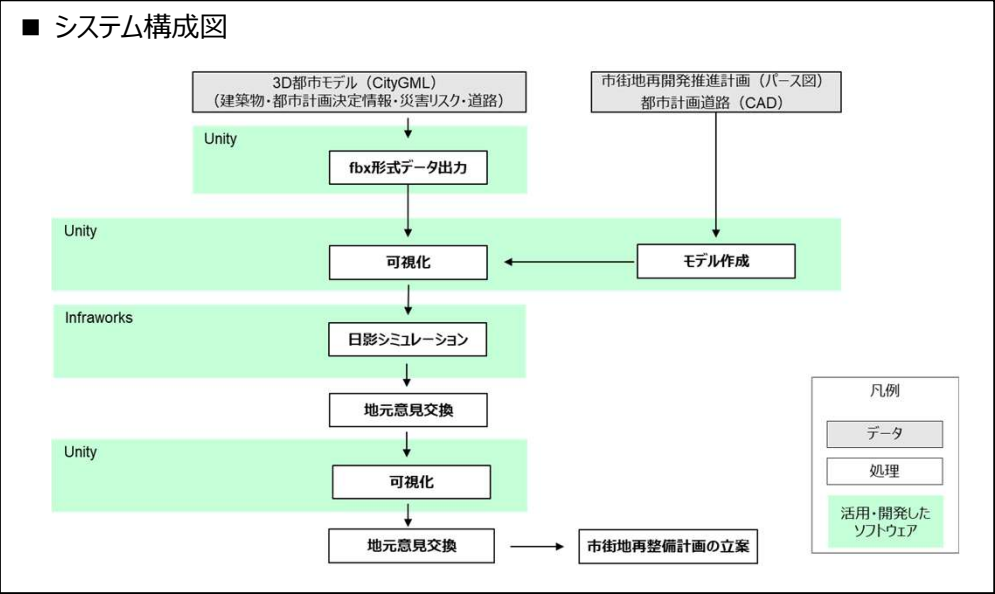
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R4年度	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	R4年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存） 都市計画基礎調査（修正）	H30年度 R5年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5－15万	50－100	2－3千



■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した市街地再整備計画立案活用事業
目的	当地区において見込まれる市街地再開発事業等の計画を可視化立案
取組内容	中心市街地の核となる美濃太田駅南地区において、3D都市モデルLOD2によって美濃太田駅南地区をビジュアルに表現する。 さらに、当地区に見込まれる市街地再開発事業の計画を反映させて可視化し、住民や来訪者のニーズを反映しつつ景観や環境に配慮した居心地の良いまちづくりに向けた市街地再整備計画を立案する。



IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

06.岐阜県美濃加茂市

■ ユースケース開発方法	
活用データ (3D都市モデル)	<div>・ 建築物LOD2（計測高さ）</div> <div>・ 都市計画決定情報LOD1（区域名称）</div> <div>・ 災害リスクLOD1（洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域）</div> <div>・ 道路LOD1</div>
活用データ (上記以外)	<div>・ 市街地再開発推進計画</div> <div>・ 都市計画道路</div>
ユースケース 開発方法	<div>・ 3D都市モデル上に、都市計画道路情報及び美濃太田駅地区市街地再開発事業の推進計画を3D化する。</div> <div>・ 3D可視化ソフトを用いて、時間帯毎の日影状況シミュレーションを行い、現状を分かりやすく表現し、地域におけるリスク分析や課題抽出を行い、再整備にむけた着眼点を整理する。</div> <div>・ 市街地再開発事業の理事会・総会、住民説明会、都市計画審議会の資料として提示し、事業計画の理解深化及びイメージ共有させる。</div>
政策・事業での 活用	<div>・ 市民の理解促進を図る市街地再開発事業及び周辺整備イメージ、準備組合サイトの公表にむけた調整、イメージに対する意見収集。</div> <div>・ 都市計画決定に向けた住民説明会、都市計画審議会への活用。</div> <div>・ 美濃太田駅南地区市街地再開発事業 事業計画（案）への活用。</div>
オープンデータ化 情報発信	—

■ KPI		
KPI	目標設定	達成状況
成果を活用し説明会等を実施した回数（回）	2回 (R5年度)	R6.7実施、R6.8 実施 (計2回)
説明会での参加者の回答割合（％）	50% (R5年度)	100%

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5－15万	50－100	2－3千



■ ユースケース開発成果イメージ図



美濃太田駅南地区の整備計画などを  
三次元化し、リアリスティックに表現



市街地再整備計画の立案

■ 今後の展望

美濃太田駅南地区市街地再開発事業で、市民や準備組合等の事業説明会などにおいて活用する。

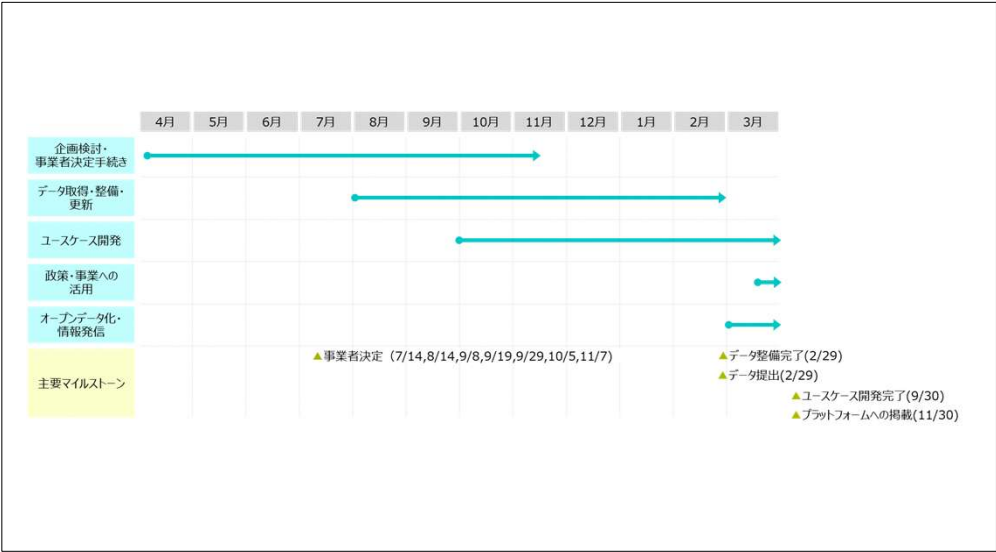
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

07.静岡県

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約360万人（令和2年10月時点）
県域全域面積	7,777km <sup>2</sup>
主な産業 地域課題等	日本のほぼ中央に位置し、南側は駿河湾、遠州灘に面する。全国有数の工業地域であるほか、富士山、三保の松原などの世界遺産や伊豆半島ジオパークなどの観光資源を有する。3次元データを災害復旧や観光等の様々な分野に活用するVIRTUAL SHIZUOKA構想を推進。

■ 令和5年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	10千以上
担当部局	交通基盤部都市計画課 交通基盤部建設政策課未来まちづくり室		



■ 補助事業実施項目

目標	3次元データ活用による安全・安心で利便性が高く快適に暮らせる地域の形成
課題	・ 作成からの時間経過による施設台帳の老朽化、現況地形との不整合が発生している。 ・ 各種台帳が別々に存在することから任意地点の管理施設及び災害ハザードの把握に多大な時間を必要としている。 ・ 防災先進県として、災害による被害を最小限に抑えることができるよう防災・減災対策を早急に進め、県民や企業の防災意識の向上させる必要がある。
創出価値	・ インフラ施設の施設台帳や点検台帳等と3次元仮想空間の統合によるマネジメントの効率化。 ・ 災害リスクの可視化による住民の防災意識向上と避難行動の実効性向上。

3D都市モデル 整備・更新	3D都市モデル整備事業（LOD1）
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した施設管理の可視化事業（データ作成）
推進事業	WEBGISのデータ更新等

総事業費（予定）	72,200（万円） ※うちR5年度 23,000（万円）
R5年度補助額	11,500（万円）

オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】 ・ 東京都デジタルツイン3Dビューア上で公開【3D都市モデル】
-------------------	--

R5年度 委託事業者	朝日航洋株式会社（データ整備） 株式会社フジヤマ、静岡コンサルタント株式会社、株式会社東日、株式会社三菱総合研究所、株式会社日建技術コンサルタント、不二総合コンサルタント株式会社（ユースケース開発）
---------------	--

IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

07.静岡県

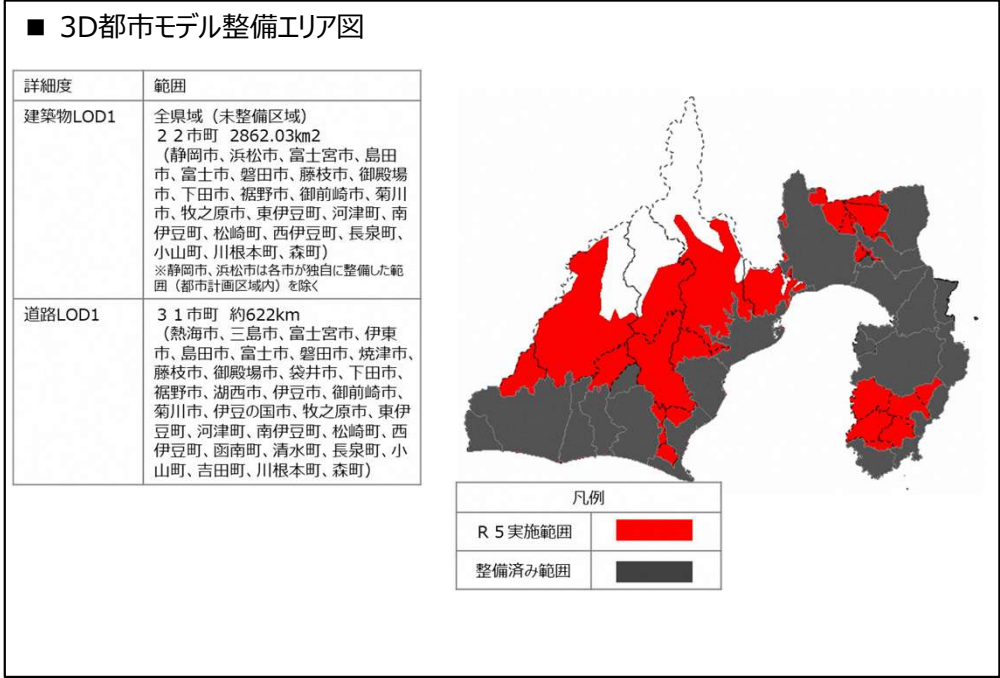
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	県内26市町の都市計画区域 上記除く県全域（航空レーザー未 取得範囲を除く）	2563.61km <sup>2</sup> 2862.03km <sup>2</sup>	R4年度整備済 R5年度新規整備
LOD1	交通（道 路）	県内31市町	625km	R5年度新規整備
LOD1	都市計画決 定情報	県全域の都市計画区域（政令市 を除く） 市街化区域モデルを追加	3033.57km <sup>2</sup>	R4年度整備済 R5年度追加整備
LOD1	土地利用	県全域（政令市、整備済の市を 除く）	2654.58km <sup>2</sup>	R4年度整備済
LOD1	災害リスク	洪水浸水想定区域、高潮浸水想 定区域、津波災害計画区域モデ ル 土砂災害警戒区域モデル	5,425.64km <sup>2</sup>	R4年度整備済 R5年度追加整備
LOD1	地形	県全域（静岡市、浜松市の都市 計画区域、山間地を除く。LOD3と して整備）	6010.33km <sup>2</sup>	R4年度整備済
LOD2	建築物	富士山周辺エリア	1,032棟	R4年度整備済

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD3	地形	県全域 （静岡市、浜松市の都市計 画区域、山間地を除く）	6,010.33km <sup>2</sup>	R4年度整備済

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	10千以上



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	数値地形図（DMデータ） （既存）	R2年度	2,500
測量成果	既存資料（航空レーザー）	R1－R3年度	500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R3年度	－



IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

07.静岡県

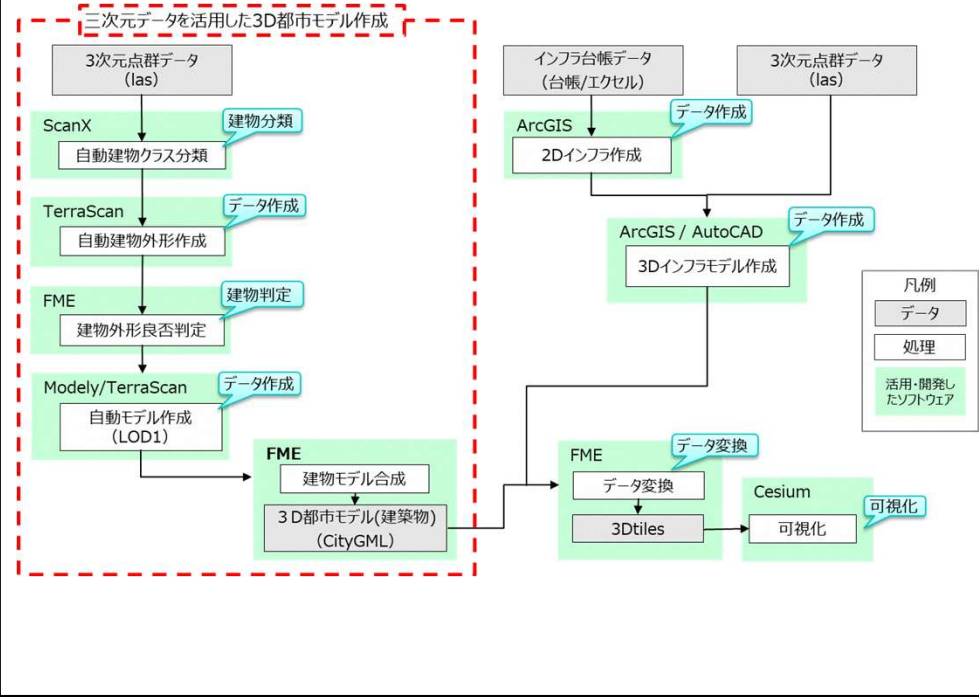
■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した施設管理の可視化事業
目的	インフラ施設の施設台帳や点検台帳等と3次元仮想空間の統合によるマネジメントの効率化。
取組内容	3D都市モデルと道路、河川・海岸、砂防、港湾・漁港の各種施設の台帳や点検記録等の重ね合わせにより、一元的にデータを蓄積、確認ができる環境を構築することで、施設の維持管理の効率化や災害対応の迅速化を図る。 (河川・海岸、砂防：R5年度完了／道路、港湾・漁港：R6年度以降も継続)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	10千以上



■ システム構成図



IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

07.静岡県

■ ユースケース開発方法	
活用データ (3D都市モデル)	<div><div>・ 建築物LOD1</div><div>・ 道路LOD1</div></div>
活用データ (上記以外)	<div><div>・ 3次元点群データ（座標情報）</div><div>・ インフラ台帳データ（道路、河川・海岸、砂防、港湾・漁港の各種施設の台帳（施設名称・管理番号、施設の構造に関する情報、各根拠法による分類、図面））</div></div>
ユースケース 開発方法	<div><div>・ 道路、河川・海岸、砂防施設港湾・漁港の各種施設の台帳や点検記録等に座標情報等の位置情報を付与する。</div><div>・ 3D都市モデルと各種台帳等データを3次元空間上で重ね合わせ、一元的にデータを蓄積、確認ができる環境を構築する。</div></div>
政策・事業での 活用	<div><div>・ 台帳を可視化して、施設の位置や構造等を迅速に把握できるようにし、県職員及び県民に公開する。</div><div>・ 可視化した施設から簡易に台帳情報を閲覧することが可能となる。職員の業務効率向上や県民が管理機関まで来庁する手間が省ける。</div></div>
オープンデータ化 情報発信	東京都デジタルツイン3Dビューア上で公開 <a href="https://3dview.tokyo-digitaltwin.metro.tokyo.lg.jp">https://3dview.tokyo-digitaltwin.metro.tokyo.lg.jp</a>

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	10千以上



■ KPI		
KPI	目標設定	達成状況
施設管理の効率化（時間）	1,382時間 (R5年度) 1,209時間 (R10年度)	1,527時間 (R5年度)
防災ハザードマップの理解促進（人）	15,000人 (R5年度) 20,000人 (R10年度)	14,274人 (R5年度)

IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

07.静岡県

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	10千以上

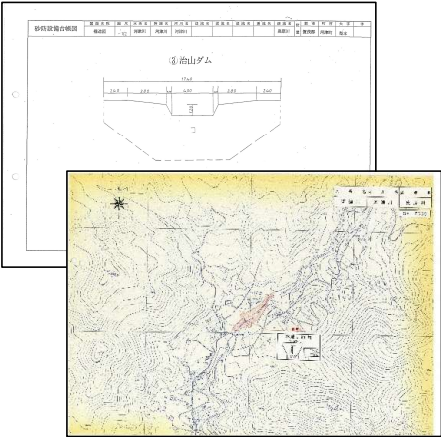


■ ユースケース開発成果イメージ図



施設台帳の可視化

台帳を可視化して、施設の位置や構造等を迅速に把握できるようにし、県職員及び県民に公開する。



施設台帳情報の閲覧

可視化した施設から簡易に台帳情報を閲覧することが可能となる。職員の業務効率向上や県民が管理機関まで来庁する手間が省ける。

■ 今後の展望

引き続き施設台帳の可視化を進めるとともに、可視化したデータの使用方法や活用例などを操作研修等により職員へ周知し、業務に活用されるよう浸透を図る。

また、3D都市モデル基本セット及び施設台帳情報をオープンデータ化し、WEB上で建物やハザード情報と施設台帳を一元的に確認できるようになったことを県民に対して広報していくことで、利用を促す。

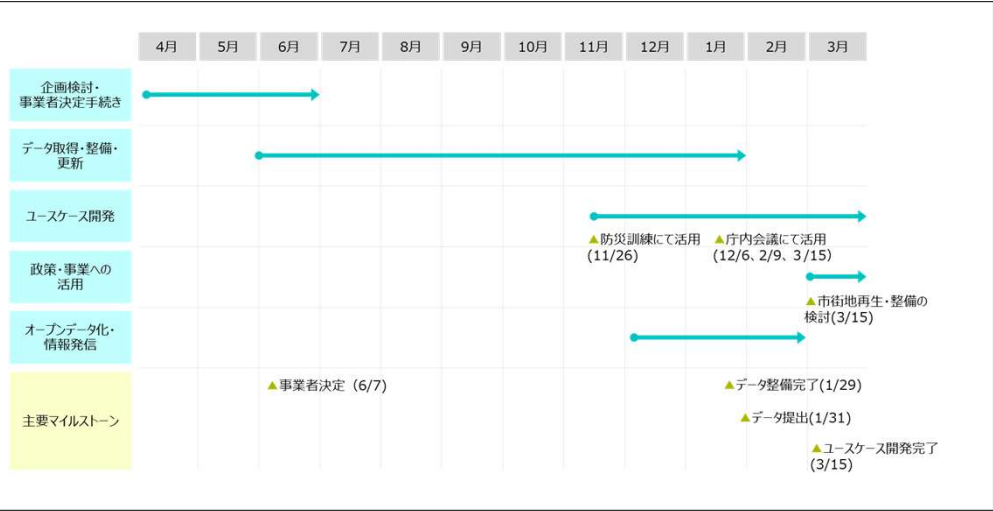
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

08.愛知県日進市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	93,910人（令和5年12月時点）
県域全域面積	34.91km <sup>2</sup> （令和5年12月時点）
主な産業 地域課題等	愛知県の中央部に位置し、名古屋市と豊田市との間にある緑豊かな住宅都市であり、今後も人口増加が予測されている。また、5つの大学が立地する学園都市で、市内外の各大学と連携協力協定を締結している。 3D都市モデルを、災害時の避難行動を促す普及啓発及び市民の防災意識向上や鉄道駅周辺市街地の再生、整備に向けた取り組みの検討に活用する。

■ 令和5年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5－15万	50未満	1千未満

担当部局	都市整備部都市計画課
------	------------

■ 補助事業実施項目

目標	安全・安心な暮らしが続けられるまちを創る。
課題	・ 自然災害等から市民を守るため、災害に強い都市基盤整備を進めるとともに、市民の防災意識の向上が必要。 ・ 人口増加が進んでおり、鉄道駅周辺の再生、整備による土地の高度利用を検討する等、多様な利便機能の向上が必要。
創出価値	・ 災害リスクを可視化することで市民の防災意識が向上する。 ・ 市街地のまちづくりについて、鉄道駅周辺市街地の再生、整備の総合的な実施可能性の検討における認識共有がしやすくなる。
事前調査等	・ 都市計画基礎調査
3D都市モデル整備・更新	・ 3D都市モデル整備（LOD1） ・ 3D都市モデル整備（LOD2）
ユースケース開発	・ 3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業 ・ 3D都市モデルを活用した都市計画立案への活用事業
推進事業	－
総事業費	2,830（万円） ※うちR5年度 343.2（万円）
R5年度補助額	171.6（万円）
補助対象外の関連事業	－
オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】 ・ 市ホームページでの掲載
R5年度委託事業者	国際航業株式会社（データ整備） 国際航業株式会社（ユースケース開発）



PLATEAU  
by MLIT



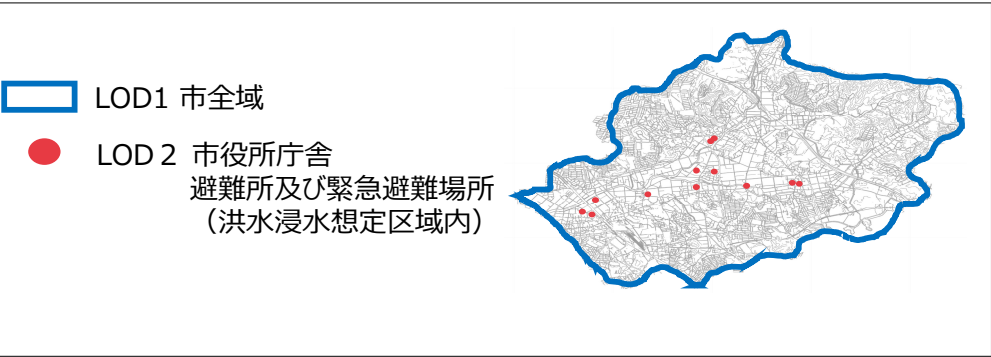
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

08.愛知県日進市

■ 3D都市モデル整備状況

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	市全域	34.91km <sup>2</sup>	R4年度整備済
LOD1	土地利用	市街化区域 市街化想定区域	17.91km <sup>2</sup>	R5年度更新
LOD2	建築物	市役所庁舎 避難所及び緊急避難場所 （洪水浸水想定区域内）	93棟 （12施設）	R5年度整備

※R5補助対象地物については赤字にて記載



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5－15万	50未満	1千未満



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R4年度	2,500
測量成果	資料（航空写真）	R4年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（土地利用現況）	H30年度	—
	都市計画基礎調査（建物利用現況）	R4年度	—
	都市計画基礎調査（土地利用現況更新）	R5年度	—

IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

08.愛知県日進市

■ ユースケース①概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	市民の防災意識向上
取組内容	自然災害等から市民を守るため、浸水想定区域、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域を三次元化し、リスクを可視化する。 また、地域の防災訓練等を行い、市民の防災意識向上に活用するとともに、大学連携事業によりドローンでの取得データをもとに災害発生時の被害状況把握への活用方法について検討を行う。

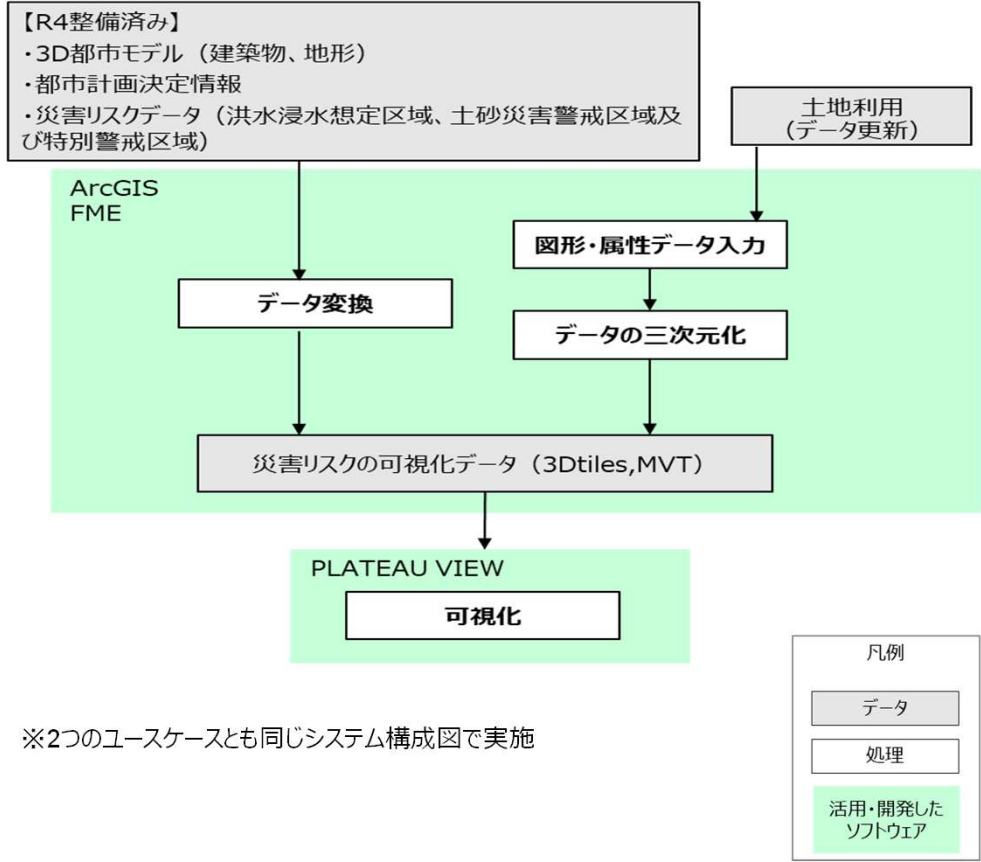
■ ユースケース②概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した都市計画立案への活用事業
目的	鉄道駅周辺市街地の再生、整備の総合的な実施可能性の検討
取組内容	都市の利用状況について可視化をし、鉄道駅周辺市街地の再生・整備の総合的な実施可能性の検討に活用する。

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5－15万	50未満	1千未満



■ システム構成図



IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

# 08.愛知県日進市

■ ユースケース①開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1、LOD2（名称、計測高さ、地上階数）</li><li>災害リスクLOD1（洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域）</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>なし</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルと3次元化した土砂災害警戒区域及び特別警戒区域を重ね合わせ、リスクを可視化。</li><li>3D都市モデルと3次元化した浸水想定区域等を重ね合わせ、リスクを可視化。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>住民向けの防災訓練での活用。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>市ホームページでの掲載。</li></ul>

■ KPI

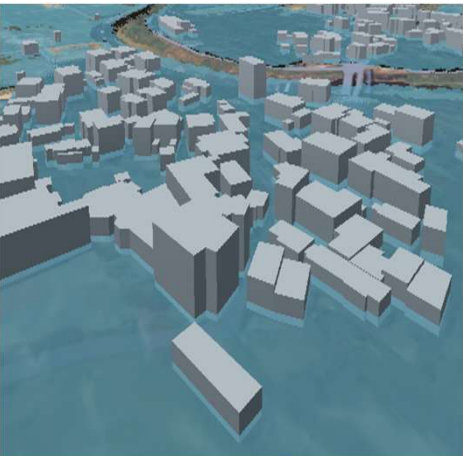
KPI	目標設定	達成状況
会議等における活用回数(回数)	3回(R5年度)	3回
防災訓練にて、防災意識が向上したと感じる市民の割合(%)	50%(R5年度)	96%
災害対策に対する満足度(%)	38%(R6年度)	33.2%
自宅の浸水を心配する市民の割合(%)	21%(R6年度)	22.5%

R6年度KPI未達を受けての 今後の対応	住民向けの防災訓練等で活用し、災害時の避難行動を促す普及啓発など、災害対策の向上につなげていく。
-------------------------	--

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5－15万	50未満	1千未満



■ ユースケース開発成果イメージ図



浸水する恐れのある範囲を防災訓練等で公開し、市民の防災意識の向上や普及啓発に活用。



土砂災害の恐れのある範囲を防災訓練等で公開し、市民の防災意識の向上や普及啓発に活用。

■ 今後の展望

大学との連携事業を進め、ドローン等で取得したデータを組み合わせ、土砂災害の危険が高い建物を視覚的に把握することで、市民の安全安心の確保に向けて活用したい。また、防災訓練などで活用し、市民への防災意識向上につなげたい。

IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

08.愛知県日進市

■ ユースケース②開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1（名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年）</li><li>都市計画決定情報LOD1（区域名称、分類、決定日、決定主体、公称面積等）</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>なし</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>建物利用状況を属性情報として付与した3D都市モデルと3次元化した都市計画情報を重ね合わせ、都市の利用状況について可視化</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>鉄道駅周辺市街地の再生・整備に向けた庁内会議で活用</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>市ホームページでの掲載。</li></ul>

■ KPI

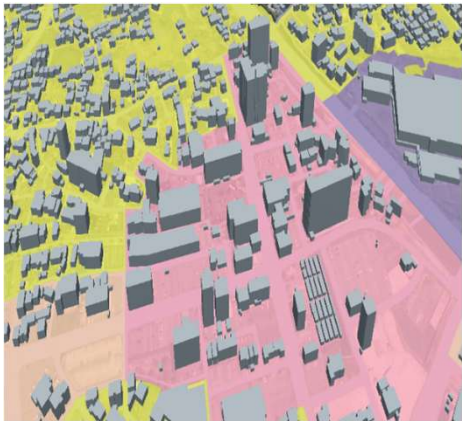
KPI	目標設定	達成状況
会議等における活用回数 (回数)	3回 (R5年度)	3回
自宅周辺の居住環境に魅力を感じると考える 市民の割合（%）	63.6% (R6年度)	61.4%

R6年度KPI未達を受けての 今後の対応	市民向けワークショップ等で活用し、都市の利用状況を可視化することで効率的なまちづくりの検討を行い、魅力あるまちづくりにつなげていく。
-------------------------	--

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5－15万	50未満	1千未満



■ ユースケース開発成果イメージ図



都市計画決定情報を3D都市モデル  
上で重ね合わせ、市街地再生・整備  
の総合的な検討、施策実施に活用



建物高さ情報を3D都市モデル上で重  
ね合わせ、市街地再生・整備の総合  
的な検討、施策実施に活用

■ 今後の展望

今後は市民向けワークショップ等で3D都市モデルを活用し、イメージや認識を共有するなど、効率的なまちづくり検討につなげる。  
また、必要に応じて新しい都市計画情報に更新し、市民への情報公開を継続する。



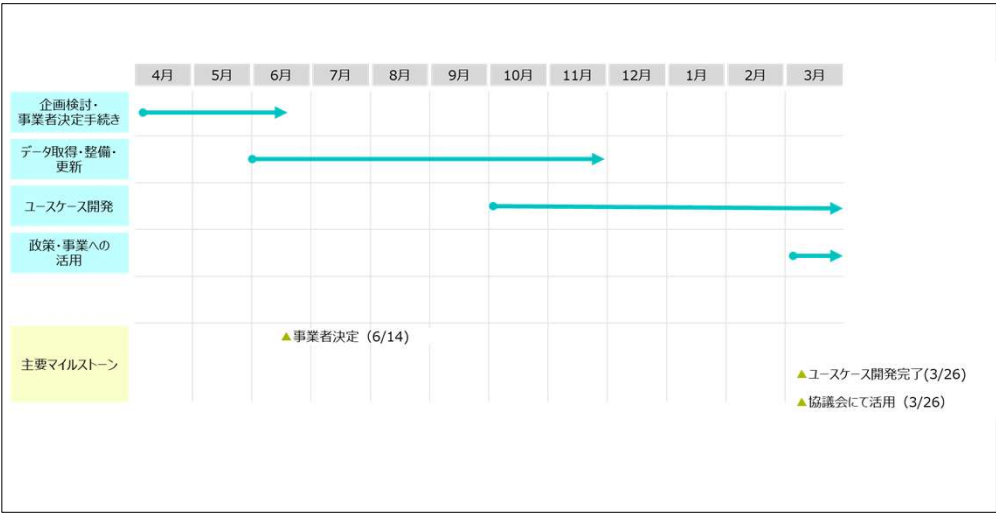
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

09.三重県四日市市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約310,000人（令和5年3月時点）
県域全域面積	206.5km <sup>2</sup> （令和5年3月時点）
主な産業 地域課題等	三重県の北部に位置し、人口は約31万人。東西交通の要衝に位置し、古くから東海道の宿場町であるとともに、港町として栄え、現在は我が国有数の産業都市として発展している。 近鉄四日市駅周辺の中心市街地では、官公庁施設、商業施設、オフィスなど都市機能が集積している。現在、中央通り周辺を中心として中心市街地再編に向けて取り組んでいる。

■ 令和5年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200－500	1千未満

担当部局	都市整備部都市計画課
------	------------

■ 補助事業実施項目

目標	・ 東海地域をリードする西の中核都市に相応しい、多様な都市機能が集積し、人で賑わい、まちの魅力にあふれるまちづくりの推進
課題	・ リニア時代のスーパーメガリージョン形成による交流人口の拡大効果を活かした、中心市街地におけるデータを活用した憩いと賑わいづくりへの環境整備と魅力向上。
創出価値	・ 3D都市モデルによって中心市街地をビジュアルに表現し、中央通りの再編計画案を重ね合わせ、多角的な視点から細部検討を行うとともに、住民への説明や、関係者調整会議のツールとして活用する。また、別途計測する人流データ等を統合し、賑わい創出の検討や、中心市街地の再編に合わせたスマートシティ化に向けた取り組みにおいて活用する。

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	—
ユースケース開発	・ 3D都市モデルを活用した中心市街地再編計画への活用事業
推進事業	—

総事業費	1,060（万円） ※うちR5年度 360（万円）
R5年度補助額	180（万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ】 ・ 公開用ビューアリンクを四日市市ホームページに掲載【3D都市モデル】
-------------------	--

R5年度委託事業者	国際航業株式会社（ユースケース開発）
-----------	--------------------



PLATEAU  
by MLIT

IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

09.三重県四日市市

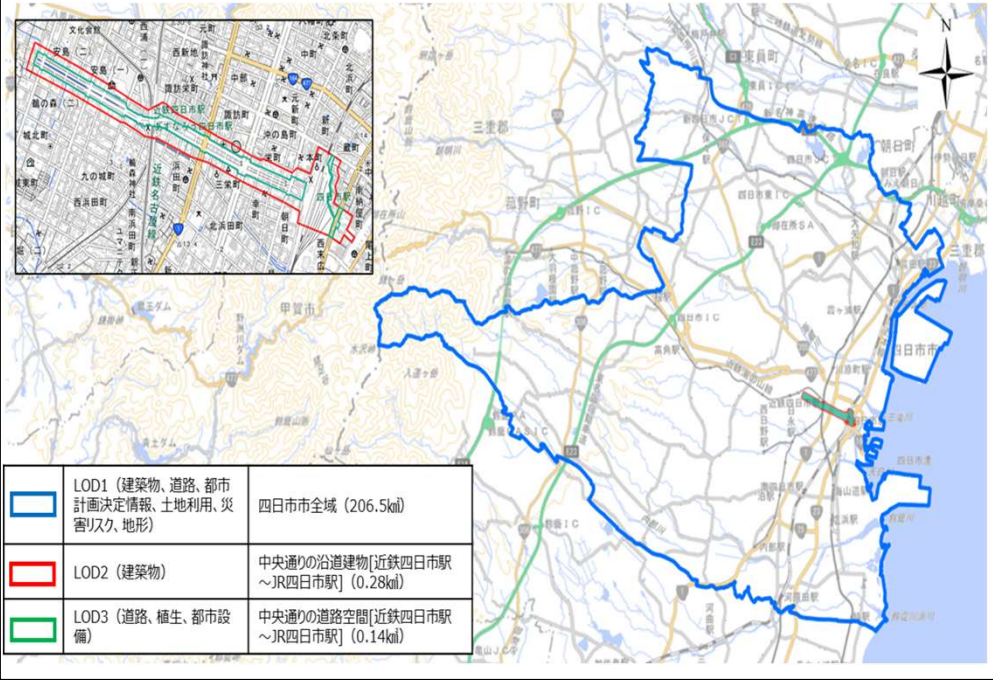
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	四日市市全域	206.5km <sup>2</sup>	R4年度整備済
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	四日市市全域	206.5km <sup>2</sup>	R4年度整備済
LOD2	建築物	中央通りの沿道建物[近鉄四日市駅～JR四日市駅]	0.28km <sup>2</sup>	R4年度整備済

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200－500	1千未満



■ 3D都市モデル整備エリア図 ※R5補助対象地物については赤字にて記載



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	数値地形図（DMデータ）（既存）（修正）	H29年度 R4年度	2,500
測量成果	その他（車載写真レーザ測量）	R4年度	500
	既存資料（航空写真）	R2年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	H29年度	—

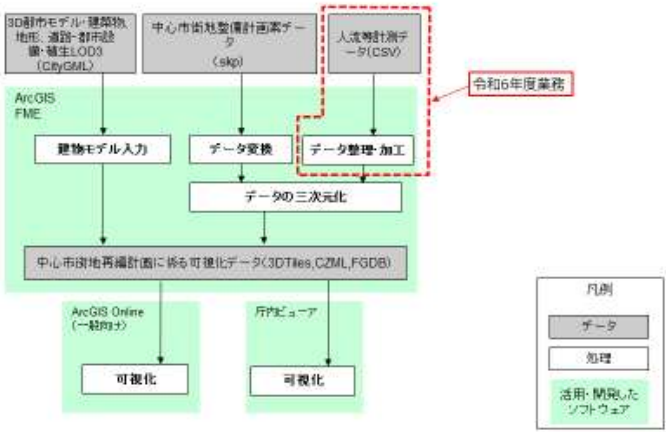
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

09.三重県四日市市

■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した中心市街地再編計画への活用事業【R5,R6年度事業】
目的	・ リニア時代のスーパーメガリージョン形成による交流人口の拡大効果を活かした、中心市街地におけるデータを活用した憩いと賑わいづくりへの環境整備と魅力向上
取組内容	・ 検討中の整備計画案データを3D都市モデルに重畳し、将来の都市像を可視化し、将来景観を分かりやすく表現し、市民向け広報やパブリックコメントなどへ活用する。 ・ 人流データを3D都市モデルに重畳することで、中心市街地の回流・流動状況を把握し、賑わい創出の検討や、中心市街地の再編に合わせたスマートシティ化に向けた取組みにおいて活用する。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200 – 500	1千未満



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	・ 建築物LOD1・2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) ・ 道路・都市設備・植生LOD3 (機能、区間種別) ・ 地形LOD1 (名称)
活用データ (上記以外)	・ 中心市街地整備計画案データ (座標系、位置情報など) ・ 人流の計測データ (日時 / 座標 / など)
ユースケース開発方法	・ 中心市街地整備計画案データ (SKP) を3D都市モデルに重畳可能なデータに変換し、重ね合わせを行う。 ・ 人流データを (CSV等) を3D都市モデルに重畳可能なデータに変換し、重ね合わせを行う。
政策・事業での活用	・ 関係者調整会議等において中心市街地整備計画案の検証ツールとして活用 ・ 人流データの解析結果により、中心市街地賑わい創出施策の検討に活用。【令和6年度】
オープンデータ化 情報発信	・ 3Dビューアによる将来都市景観を四日市市ホームページにて公開。【令和5年度】 ・ 人流の回流・流動状況を四日市市ホームページにて公開。【令和6年度】 ・ 公開用ビューアのリンクを四日市市ホームページに掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルへのデータ重畳に対する満足度 (%)	90% (令和5年度)	90%
中心市街地の歩行者流量の増加 (人)	(平日)60,596人 (休日)61,460人 (R6年度)	(平日) 52,323人 (休日) 61,386人

R6年度KPI未達を受けての今後の対応	引き続き、市ホームページなどを通じて、市民に向けて、中心市街地整備計画案の周知を行う。
---------------------	---

IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査


# 09.三重県四日市市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200－500	1千未満



■ ユースケース開発方法

■ ユースケース開発成果イメージ図



**将来都市景観の表現**

検討中の中心市街地整備計画案を可視化し、  
市民向け広報等に活用する。

■ 今後の展望

市民向け広報や賑わい創出及びスマートシティ化に向けた庁内検討等に活用する。



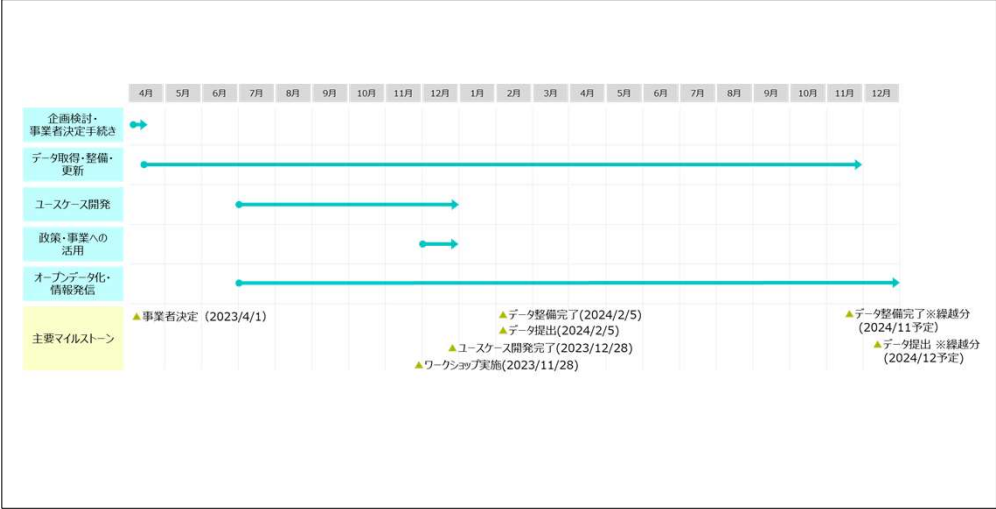
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

10.大阪府河内長野市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	99,337人（令和5年10月時点）
県域全域面積	109.63km <sup>2</sup> （令和5年10月時点）
主な産業 地域課題等	昭和29年4月1日、長野町・三日市村・高向村・天見村・加賀田村・川上村が合併して大阪府内18番目の市制を施行し、河内長野市が誕生した。 面積約109平方キロメートル、北東部に近鉄南大阪線、また南海高野線が市域を縦走しており、大阪都市圏のベッドタウンとして急速に発展を遂げた。市域の約7割は森林が占めており、大阪府の土砂災害警戒区域の約20%が集中している。人口は約10万人だが、平成12年2月をピークに、少子高齢化が顕著となっている。

■ 令和5年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5－15万	100－200	1千未満

担当部局	都市づくり部都市計画課
------	-------------



■ 補助事業実施項目

目標	人々に選ばれるまちづくりの実現（快適に暮らせるまち、観光で訪れるまち、効率的で便利なまち）
課題	・大阪府の土砂災害警戒区域の約20%が集中しているなど、災害リスクが高いため、市民の防災意識のさらなる向上が必要 ・少子高齢化の進展に伴い、公共交通再配置、新しいモビリティ支援（自動運転など）等、高齢者の生活利便性の改善が必要
創出価値	・災害リスクをわかりやすく示すことで市民の防災意識を向上するとともに、今後の防災計画や避難経路を効果的に策定 ・3D都市モデルを活用し、移動支援が必要な地区の抽出や移動手段の検討、自動運転への活用可能性を検討し、移動支援検討会議に報告
事前調査等	－
3D都市モデル整備・更新	・市内全域の3D都市モデル整備事業（LOD1） ・3D都市モデルの道路情報基盤データ整備（LOD 3） ・地形図の修正による共通基盤の整備
ユースケース開発	・3D都市モデルを活用した災害リスク・避難路可視化事業 ・3D都市モデルを活用した公共交通事業の検討
推進事業	・3D都市モデル等を活用した防災・まちづくりワークショップの開催 ・3Dビューワの開発
総事業費	9,675（万円） ※うちR5年度 2,726（万円）
R5年度補助額	1,362.9（万円）
補助対象外の関連事業	・3D都市モデルを活用した公共交通事業の検討
オープンデータ化・可視化・情報発信	・G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 ・PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】 ・PLATEAU VIEW搭載後、公開型GISを活用した情報ポータルサイトを構築
R5年度委託事業者	アジア航測株式会社（データ整備） アジア航測株式会社（ユースケース開発）

IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

10.大阪府河内長野市

3D都市モデル整備状況（基本セット）

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	市全域 R4全域整備 R6地形図更新データ反映	109.63km <sup>2</sup>	R4年度整備 R6年度修正
LOD1	交通（道路）	R4年度に60km整備 R5市全域整備 R6更新		R4～6年度 新規整備
LOD1	都市計画決定 情報 土地利用 地形	市全域	109.63km <sup>2</sup>	R4年度整備
LOD1	災害リスク	市全域 浸水リスクを有する河川 （石川・天見川・石見川・加 賀田川・西除川）	109.63km <sup>2</sup>	R4年度整備
LOD2	建築物	・河内長野駅周辺地域 ・南花台地区 （バスルート4路線沿道）	1.0km <sup>2</sup> 0.3km <sup>2</sup>	R5年度新規整備

3D都市モデル整備エリア図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5－15万	100－200	1千未満



3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2	道路	R4年度に60km整備 R5年度に323km整備 R6年度に24km整備		R4～6年度 新規整備
LOD3	道路	南花台地区 （バスルート4路線） （9km）		R5年度新規整備

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	平成23年度	2,500レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	令和5年度	2,500レベル
平面図	その他 （地番図（GISデータ））	未定	－
平面図	大阪府DMデータ	平成23年度	2,500レベル
測量成果	既存資料 （航空写真）	令和2年度	2,500レベル
測量成果	MMSデータ	令和5年度	－
測量成果	航空レーザデータ	令和2年度	－
属性情報	建築確認申請	令和5年度	－

IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

10.大阪府河内長野市

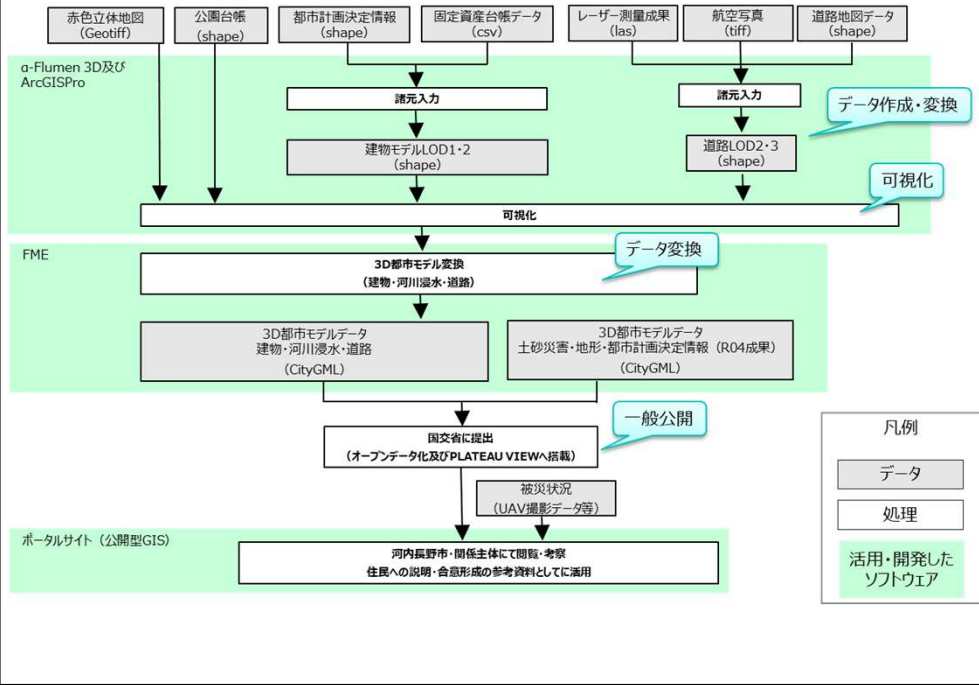
ユースケース①概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスク・避難路の可視化及び災害発災時の被災状況の共有
目的	災害時の避難場所・避難ルートの可視化、災害時避難計画の住民への浸透、住民への災害リスク・危険性のイメージ喚起
取組内容	<div>■社会的な課題</div> <p>大阪府の土砂災害警戒区域の約20%が集中し、南海トラフ地震、大雨豪雨災害の発生が懸念されており、市民の安全確保対策が急務となっている。</p> <div>■ユースケース開発の取り組み</div> <p>災害リスク情報（洪水浸水想定区域等）を3D都市モデルにより三次元で視覚的に整備し、住民向けワークショップで参考資料として活用することで、住民の災害リスクを理解の促進を行う。</p> <p>また、災害時に市の保有するドローン等で取得した被災状況の確認結果を3D都市モデルに重ね合わせ、オープンデータとすることで、被災状況の関係機関との共有の高度化を推進する。</p>

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5－15万	100－200	1千未満



■ システム構成図



IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

# 10.大阪府河内長野市

ユースケース①開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1・2（名称、計測高さ）、道路LOD2</li><li>都市計画決定情報LOD1（用途地域情報）</li><li>災害リスクLOD1（土砂災害警戒区域）、地形LOD1</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>都市計画決定情報データ（都市計画・景観規制・環境規制等）</li><li>固定資産データ（地番図、家屋図等）</li><li>公園台帳データ（一時避難場所位置、面積、名称等）</li><li>道路地図データ、赤色立体地図データ</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルと三次元化した各種災害リスクデータを重ねあわせ、災害リスクを3Dビューアで可視化（R4～R5年度）</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>住民説明会で可視化した災害リスクを示しワークショップなどを通じて、災害への意識を高める（R4～R5年度）</li><li>発災時に被災状況をポイント表示登録して大阪府・警察等との情報共有を検証（R6年度）</li><li>3D都市モデルおよび高精度道路地図等を一元的に可視化・管理するシステムを導入し、継続的な利活用を促進する。（R4～R6年度）</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>公開型GISを活用した情報ポータルサイトを構築</li></ul>

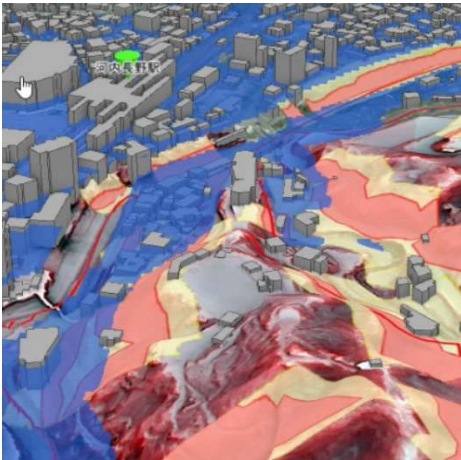
KPI

KPI	目標設定	達成状況
災害リスクの説明会参加者の肯定的評価（%）	参加者の5割以上の肯定的評価（R4年度）	77.3% （令和5年1月）
災害リスクの説明会参加者の肯定的評価（%）	参加者の5割以上の肯定的評価（R5年度）	70.5% （令和5年12月）
災害時避難行動の説明会の参加者の肯定的評価（%）	参加者の5.5割以上の肯定的評価（R6年度）	71.2% （令和7年1月）

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5－15万	100－200	1千未満



ユースケース開発成果イメージ図



災害リスクイメージ  
土砂災害警戒区域、浸水想定区域を重ね合わせた例  
（河内長野駅周辺地域）



住民説明会の様子  
末広地区、寺元地区の住民に対して、災害リスクの説明会を実施

今後の展望

整備した3D都市モデルデータに、被災状況（発災時に被災状況をポイント表示登録）などを重ね合わせ、大阪府・警察等の関係機関との効率的な情報共有方法を検証する。  
検証結果は、災害時避難行動の説明会への報告するとともに、説明会の参加者にアンケートを取り、効果を検証する。



IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

10.大阪府河内長野市

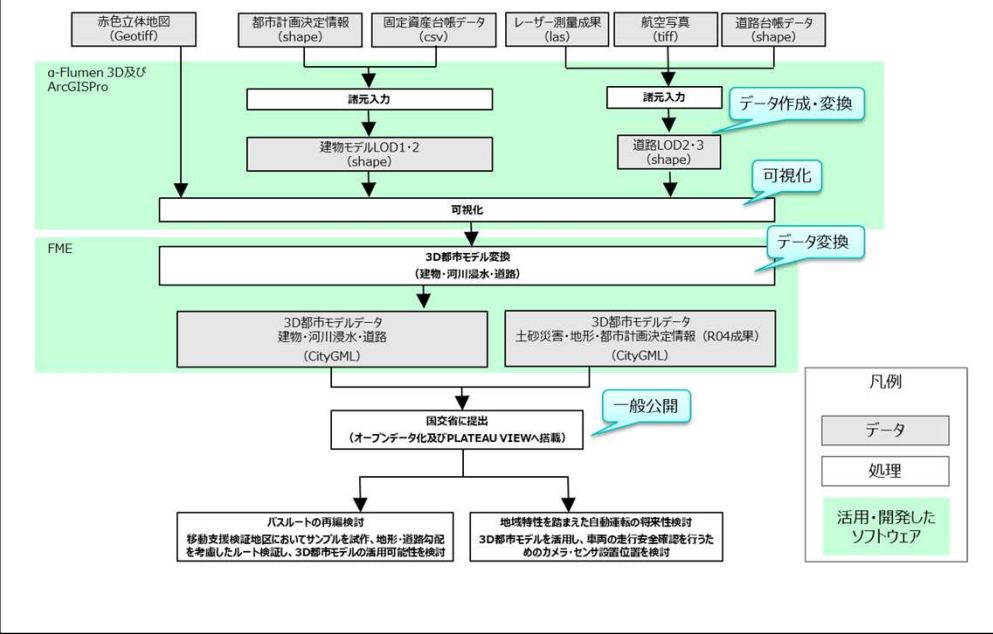
ユースケース②概要

テーマ	モビリティ・ロボティクス
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した公共交通事業の検討
目的	河内長野市における公共交通事業の最適化
取組内容	<div>■ 社会的な課題 自動運転等の検討は南花台で実施中だが、将来的には地形的に不便な他の開発団地や交通空白地においても移動支援の検討を進める必要がある。</div> <div>■ ユースケース開発の取り組み（R6年度） 下記の2つのユースケースを実施予定。 ・3D都市モデル及び関連データセットを活用して、車両の自動走行安全確認を行うためのカメラやセンサーの配置位置の検討 ・3D都市モデル及び整理した基礎情報をもとに、移動支援の手段を検討し、3D都市モデルの活用可能性を検証 上記のユースケースで整備したデータは、地域の移動支援を考える会議等において検討資料として活用予定。</div>

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5－15万	100－200	1千未満



■ システム構成図



IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

10.大阪府河内長野市

ユースケース②開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<div><ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1・2（名称、計測高さ）、道路LOD2・3</li><li>都市計画決定情報LOD1（用途区域情報）</li><li>災害リスクLOD1（土砂災害警戒区域）、地形LOD1</li></ul></div>
活用データ (上記以外)	<div><ul style="list-style-type: none"><li>都市計画決定情報データ（都市計画規制、景観規制、環境規制等）</li><li>固定資産データ（地番図、家屋図、路線価、状況類似、所有者等）</li><li>道路地図データ、MMSデータ</li><li>赤色立体地図データ</li></ul></div>
ユースケース 開発方法	<div><ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルと公共交通網、高さデータを付与したデジタル道路台帳、人口等を重ねて3Dビュアで可視化する。（R5年度）</li><li>移動支援のための基礎情報（歩道有無、勾配）を整理する。（R5年度）</li><li>公共交通空白地の整理を行い、3D都市モデルと重ねて可視化する（R6年度）</li></ul></div>
政策・事業での 活用	<div><ul style="list-style-type: none"><li>南花台地区について、3D都市モデル及び関連データセットを活用して、車両の自動走行安全確認を行うためのカメラやセンサーの配置位置の検討を行う。（R6年度）</li><li>楠ヶ丘地区について、整理した基礎情報をもとに、移動支援の手段を検討し、3D都市モデルの活用可能性を検証する。（R6年度）</li><li>地域の移動支援を考える会議等において検討資料として活用（R6年度）</li></ul></div>
オープンデータ化 情報発信	<div><ul style="list-style-type: none"><li>公開型GISを活用した情報ポータルサイトの構築</li></ul></div>

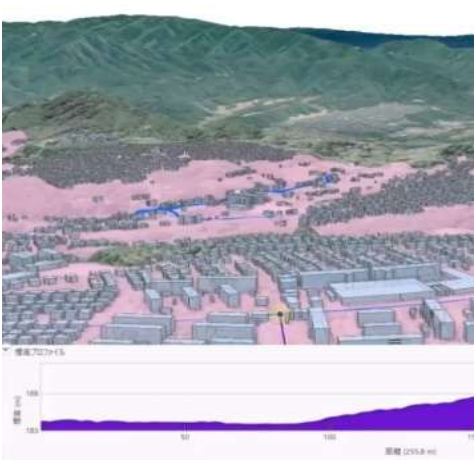
KPI

KPI	目標設定	達成状況
移動支援検討会議の参加者の肯定的評価（%）	参加者の5割以上の肯定的評価（R6年度）	87.9% （令和7年2月）
移動支援検討会議の参加者の肯定的評価（%）	参加者の5割以上の肯定的評価（R6年度）	91.5% （令和7年2月）

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5－15万	100－200	1千未満



ユースケース開発成果イメージ図



3D都市モデルを用いた勾配分析イメージ

移動支援手段の検討における3D都市モデルの活用可能性を検証



道路LOD3整備イメージ

車両の自動走行安全確認のためのカメラやセンサーの配置位置の検討に使う基礎資料

今後の展望

- R6年度に下記のユースケースを行い、河内長野市の交通政策への活用を検討予定
- ① 南花台地区について、建築物LOD2、道路LOD3などの3D都市モデルを活用し車両の自動走行安全確認を行うためのカメラやセンサーの配置位置の検討
  - ② 楠ヶ丘地区について、バスルートなどの移動支援の手段を検討への3D都市モデルの活用可能性を検証

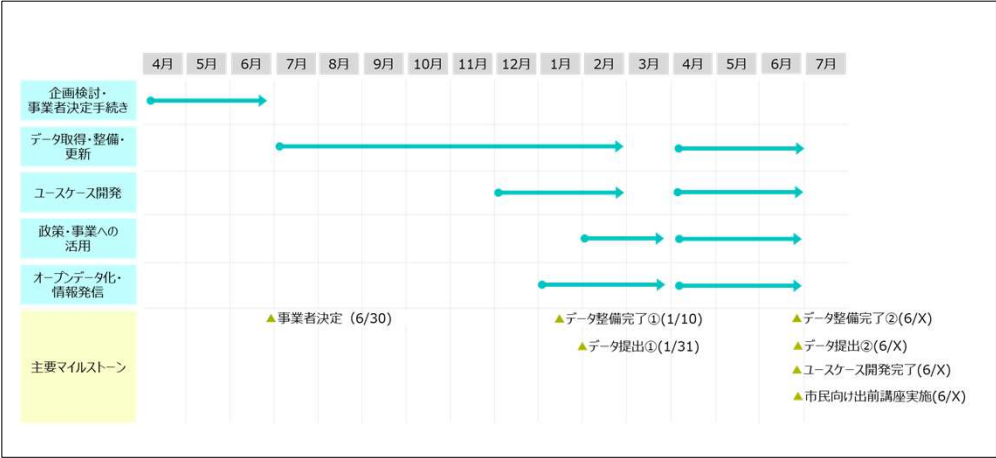
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

11.兵庫県たつの市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	73,649人（令和5年3月末時点）
市域全域面積	210.87km <sup>2</sup> （令和5年3月末時点）
主な産業 地域課題等	<p>兵庫県の南西部の西播磨地域に位置し、市域の北側は山地が広がり、南は瀬戸内海に面し、南北に貫く形で揖保川が流れている。豊かな風土が生み出した手延素麺や醤油醸造、皮革産業、かばん産業等の地場産業が根づく一方で、ハイテク産業や電機産業も発展を続けている。人口は約7.4万人。</p> <p>R5年度は、「未来応援 住みたいまち たつの ～夢を拡げる未来のかたち～」を予算編成テーマに掲げ、活力と魅力ある力強いまちづくり等を目指し、龍野IC周辺まちづくりや小中一貫校整備、インクルーシブ公園の整備などに取り組むこととしている。</p>

■ R5年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5－15万	200－500	5-10千

担当部局	都市政策部都市計画課
------	------------



PLATEAU  
by MLIT

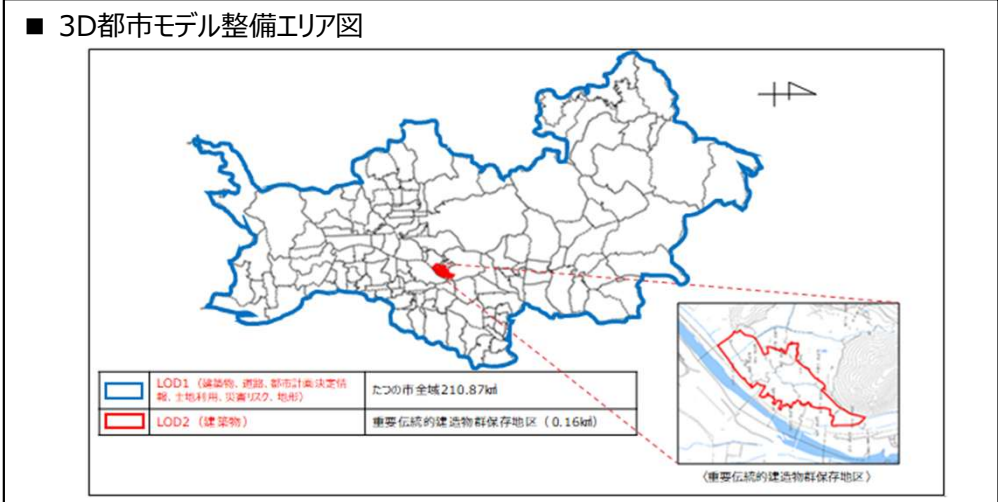
■ 補助事業実施項目

目標	直感的な3D災害マップ作成による市民の防災意識の啓発、自己防災意識の向上
課題	ハザードマップ等の情報が複雑であり、最大限に活用されていない可能性がある。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"><li>浸水シミュレーションデータを3D化し災害リスクをわかりやすく示すことで、市民の防災意識を向上させる。</li><li>その他、空き家の3D可視化による過疎対策に向けた土地活用シミュレーションや周辺景観シミュレーションによる市内の自然の魅力発信など、災害対策以外にも活用を検討する。</li></ul>
事前調査等	<ul style="list-style-type: none"><li>都市計画基本図修正に係る調査等</li><li>3D都市モデルの整備範囲や整備内容の検討</li><li>ユースケース開発に係る調査検討</li></ul>
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデル整備（LOD1）</li><li>3D都市モデル整備（LOD2）</li><li>都市計画基本図修正</li></ul>
ユースケース開発	浸水シミュレーションデータの3D可視化による市民の防災意識啓発事業
推進事業	3D対応GISシステム導入
総事業費	6,309.6（万円）
R5年度補助額	3,154.8（万円）
補助対象外の関連事業	－
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】</li><li>PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ】</li><li>たつの市ホームページに掲載 【3D都市モデル／UCデータ】</li></ul>
R5年度委託事業者	株式会社パスコ神戸支店（データ整備） 株式会社パスコ神戸支店（ユースケース開発）

IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

11.兵庫県たつの市

■ 3D都市モデル整備状況				
※赤字：R5補助対象地物				
LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	たつの市全域	210.87km <sup>2</sup>	R5年度新規整備
LOD2	建築物	重要伝統的建造物群保存地区	0.16km <sup>2</sup>	R5年度新規整備

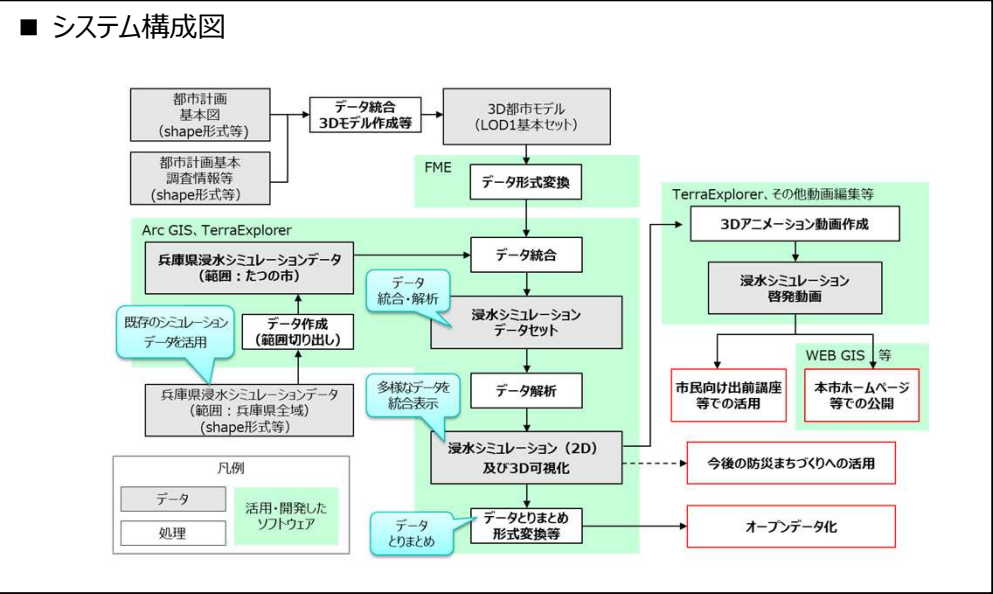


項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R 5年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R 4年度	2,500
属性情報	都市計画基本調査（既存）	R 4年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5－15万	200－500	5-10千



■ ユースケース概要	
テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	浸水シミュレーションデータの3D可視化による市民の防災意識啓発事業
目的	災害時を想定した市民の防災意識の向上とマイ・タイムラインの検討
取組内容	ハザードマップ等の情報が複雑であり、最大限に活用されていない可能性があることから、市域全域を対象とし、防災マップの災害リスク情報を3Dで表示する。これを用いた住民向けワークショップを実施することで、市民に分かりやすく災害リスクを理解してもらい自己防災意識を啓発する。リスク回避に向けた災害対策の見直し検討に活用する。





IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

11.兵庫県たつの市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1（建物高さ・形状）</li><li>建築物LOD2（建物高さ・形状）</li><li>都市計画決定情報LOD1（たつの市域全域（210.87km<sup>2</sup>））</li><li>災害リスクLOD1（洪水浸水想定区域）</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>浸水シミュレーションデータ</li><li>家屋図データ（重要伝統的建造物群保存地区内の建物図形データ）</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>FMEを使用し変換した3D都市モデルに兵庫県浸水シミュレーションデータを重ね合わせ、時系列での3D浸水シミュレーションを3D対応のGISビューア内で可視化する。</li><li>3D都市モデル上に浸水シミュレーションデータを重ね、時間ごとの浸水範囲及び建物の浸水状況・高さを可視化する。</li></ul>
政策・事業での活用	可視化したシミュレーションデータを活用し、市民向け出前講座等を実施するとともに、市のホームページで公開する。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>3Dシミュレーションデータをたつの市ホームページに掲載</li><li>G空間情報センター及びPLATEAU VIEWへの掲載</li></ul>

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
地域の災害リスクについての理解度（%）	80% (R5年度)	58.71% (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5－15万	200－500	5-10千



■ ユースケース開発成果イメージ図



建物(LOD1)と洪水浸水想定の高さ表示



建物(LOD2)と洪水浸水想定の高さ表示

市域全域を対象として作成するLOD1と浸水シミュレーションデータをテラエクスプローラーで3D可視化したもの。  
作成する河川については、市内の河川から主なものとして5河川程度を選定し、浸水範囲が市域全域となるように進めている。

重要伝統的建造物群保存地区を対象として作成するLOD2と浸水シミュレーションデータをテラエクスプローラーで3D可視化したもの。  
作成する河川については、地区に接し、被害規模の大きい揖保川のみとしている。

■ 今後の展望

今回は河川の洪水浸水シミュレーションだけであるが、河川氾濫以外の防災の他、重要伝統的建造物群保存地区をLOD2整備しており、それを活用した災害時における避難経路を検討・地区防災計画の策定、修理修景事業での活用や観光分野での活用を検討していきたい。

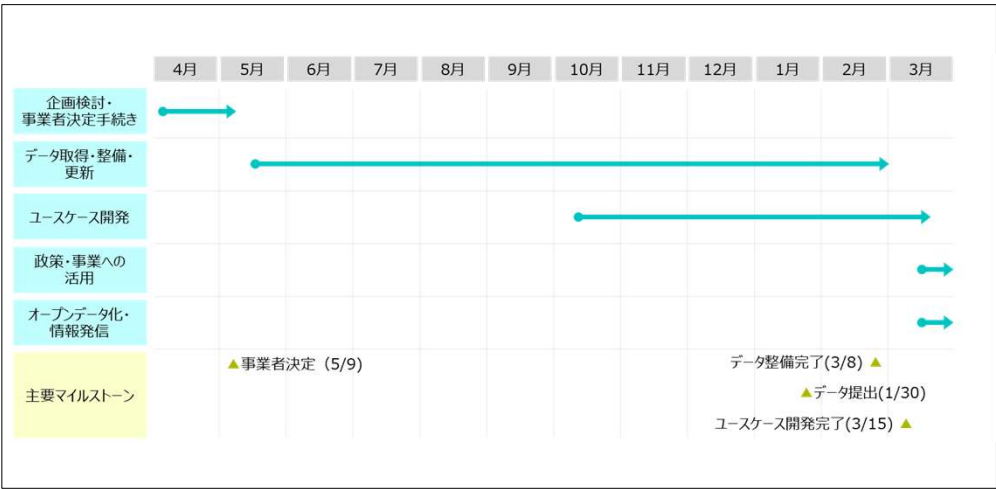
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

# 12.兵庫県三木市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約74,000人（令和6年2月時点）
市域全域面積	176.51km <sup>2</sup> （令和6年2月時点）
主な産業 地域課題等	兵庫県の南東に位置し、美嚢川周辺には平野部が広がり、それを囲むようになだらかな丘陵地、台地で構成され緑豊かな自然に恵まれている。金物産業が主要で「金物のまち」として全国的に知られている。また、山田錦の生産量、品質が全国一。 優れた高速道路網が形成されており、ゴルフ場の数は25か所で西日本の市町村中最多。 スマートシティモデル地区に採択、少子高齢化や旧市街地の活力低下が課題。

■ R5年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5－15万	100－200	3－5千

担当部局	都市整備部都市政策課
------	------------

■ 補助事業実施項目

目標	子供から高齢者まで必要に応じた暮らしの支援、安全・安心に暮らせる環境の整備、まちの魅力の向上
課題	・ 大雨時の被災予測による災害リスクの認識と効果的対応の検討 ・ 市民の防災意識の向上 ・ 洪水・土砂災害ハザードマップの周知・啓発
創出価値	・ 3D都市モデルを活用し、災害リスクをわかりやすく示すことで市民の防災意識が向上する。 ・ 洪水・土砂災害ハザードマップの周知・啓発

事前調査等	－
3D都市モデル整備・更新	・ 3D都市モデル整備に向けた都市計画図修正業務 ・ 3D都市モデル整備（LOD1）・3D都市モデル整備（LOD2）
ユースケース開発	・ 防災マップの啓発資料の作成 ・ 3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
推進事業	－

総事業費	7,150（万円）
R5年度補助額	3,230（万円）
補助対象外の関連事業	・ 地図の縮小編纂 ・ 出力用データ作成

オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】 ・ 市ホームページへの掲載 【ユースケース】
-------------------	---

R5年度委託事業者	株式会社パスコ（データ整備） 株式会社パスコ（ユースケース開発）
-----------	-------------------------------------

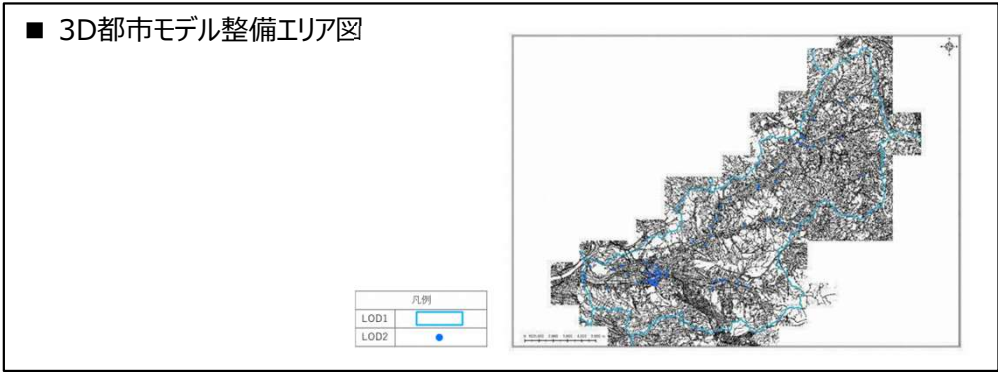


PLATEAU  
by MLIT

IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

# 12.兵庫県三木市

■ 3D都市モデル整備状況				
※赤字：R5補助対象地物				
LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	三木市全域	176.51km <sup>2</sup>	R5年度新規整備
LOD2	建築物	市内点在	浸水想定区域 内の避難施設 市内約75か所	R5年度新規整備

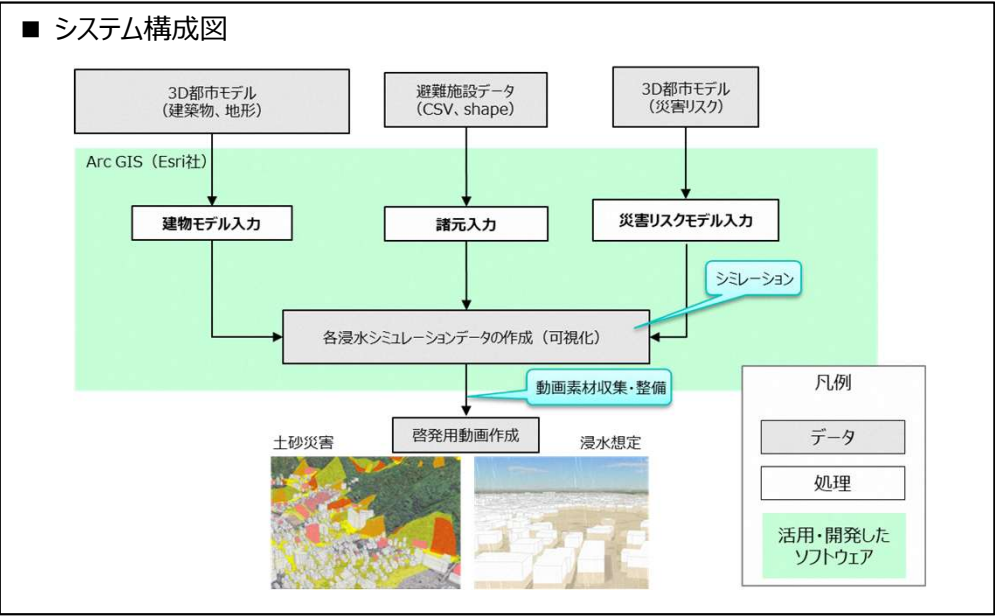


項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R5年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R4年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査	R2年度～R4年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5－15万	100－200	3－5千



■ ユースケース①概要	
テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した防災マップの啓発資料
目的	・ 大雨時の被災予測による災害リスクの認識、洪水・土砂災害ハザードマップの周知・啓発
取組内容	・ 3D都市モデル整備で作成するハザードデータ等を活用して、洪水・土砂災害ハザードマップの周知・啓発を図るための動画作成を行う。



IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

12.兵庫県三木市

■ ユースケース①開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1（計測高さ）</li><li>地形LOD1</li><li>災害リスクLOD1（洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域）</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>指定避難所情報（避難所名称、所在地、災害種類）</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>ハザードマップの内容をもとに、市で想定される被害やハザードマップの利用方法について紹介する動画のシナリオ及び台本を作成する。</li><li>視聴者が市の地形を直感的に理解しやすくするために、3次元地形モデルによる動画素材を整備する。</li><li>ハザードマップの周知・啓発を図るための動画を作成する。</li><li>ナレーション、BGMが挿入された3次元地形モデルによる動画をYoutubeにアップロード可能なファイルサイズ、形式等で作成する。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>作成した成果をホームページに公開すると共に、住民向けの説明会やワークショップで活用する。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>洪水・土砂災害ハザードマップの周知・啓発を図るための動画を三木市ホームページに掲載する。</li></ul>

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
地域の災害リスクについての理解促進（%）	90% (R6年度)	89.3% (R6年度)
洪水・土砂災害ハザードマップの周知・啓発（人）	15,000人（R5年） 17,500人（R6年）	17,472人 (R6年)
KPI未達を受けての 今後の対応	令和7年3月より公開される「三木市情報マップ」に動画のリンクをはり、周知・啓発を図る。	

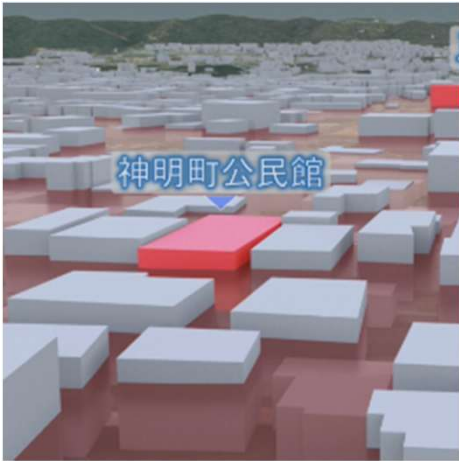
分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5－15万	100－200	3－5千



■ ユースケース開発成果イメージ図



建築物と洪水浸水想定区域(L2)の3D都市モデルを重ね合わせ、浸水が想定される範囲を三次元で可視化。浸水するエリアを俯瞰撮影した映像を動画内に掲載した。



洪水浸水想定区域(L2)を浸水ランクで色分け表示を行い、建築物が浸水する状況を撮影し、動画内で美嚢川沿い等における浸水リスクを説明する際に使用した。

■ 今後の展望

ホームページに掲載する動画を多くの方に見ていただくため、広報への掲載や記者発表を行うなど、積極的なPRを行う。  
防災に関する説明会やワークショップで活用し、住民の防災意識の向上に役立てる。



IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

# 12.兵庫県三木市

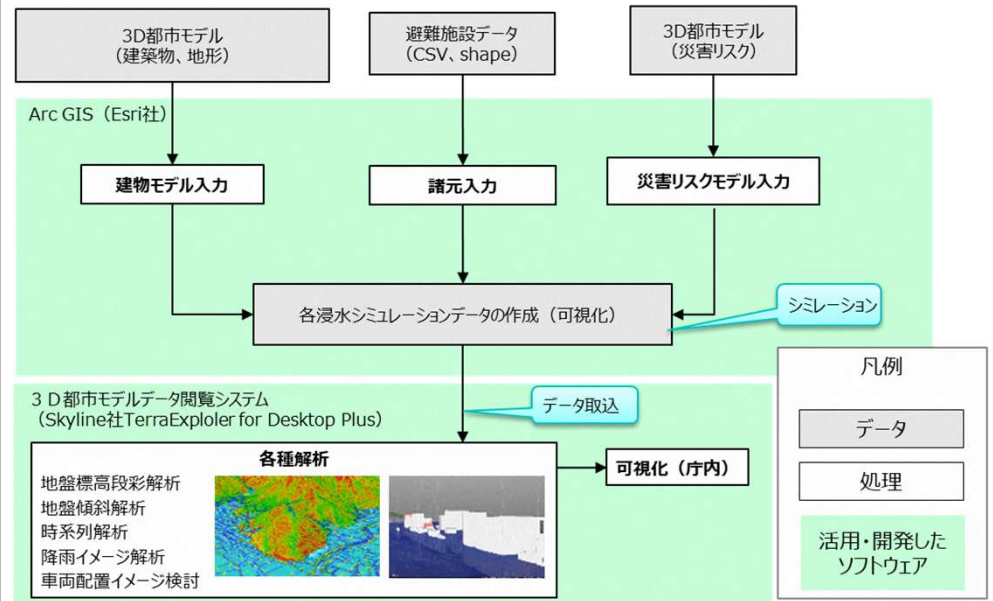
■ ユースケース②概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	・ 大雨時の被災予測による災害リスクの認識と効果的対応の検討
取組内容	・ 避難施設をLOD2で作成し、扉や窓等の可視化により、建物のどの辺りまで浸水するのかを分かり易く示す。 ・ 地域住民や施設管理者に対して、具体的に災害リスクを認識していただく。 ・ 視覚的に分かり易く表現した3D災害リスクデータを閲覧できるビューアを整備したスタンドアロン方式のパソコンを導入し、地域住民への説明や庁内で活用する。

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5－15万	100－200	3－5千



■ システム構成図



IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

# 12.兵庫県三木市

■ ユースケース②開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<div><ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1・2（計測高さ）</li><li>地形LOD1</li><li>災害リスクLOD1（洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域）</li></ul></div>
活用データ (上記以外)	<div><ul style="list-style-type: none"><li>指定避難所情報（避難所名称、所在地、災害種類）</li></ul></div>
ユースケース 開発方法	<div><ul style="list-style-type: none"><li>現地調査を行い、建物の側面や建物の壁面等の写真を撮影し、テクスチャモデルを作成した避難所のLOD2データを基に、土砂災害警戒区域や浸水被害想定区域と重畳させた3D災害リスクデータを作成する。</li><li>実装した3D都市モデルデータを閲覧・操作するための3D都市モデルデータ閲覧システムを導入し動作を確認する。</li></ul></div>
政策・事業での 活用	<div><ul style="list-style-type: none"><li>3D災害リスクデータを視覚的に分かり易く表現し、地域住民への説明や庁内で閲覧・活用する。</li></ul></div>
オープンデータ化 情報発信	<div><ul style="list-style-type: none"><li>洪水・土砂災害ハザードマップの周知・啓発を図るための動画を三木市ホームページに掲載する。</li></ul></div>

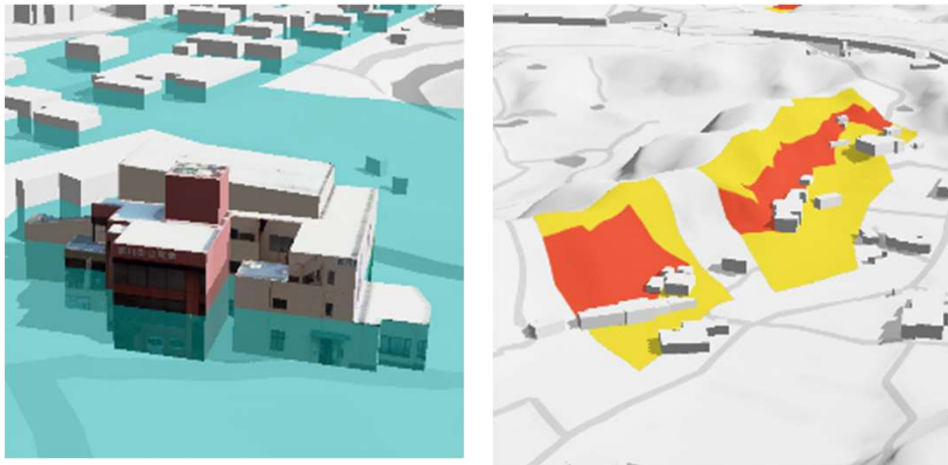
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
地域の災害リスクについての理解促進（%）	90% (R6年度)	89.3% (R6年度)
洪水・土砂災害ハザードマップの周知・啓発 (人)	15,000人（R5年） 17,500人（R6年）	17,472人 (R6年)
KPI未達を受けての 今後の対応	令和7年3月より公開される「三木市情報マップ」に動画のリンクをはり、周知・啓発を図る。	

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5－15万	100－200	3－5千



■ ユースケース開発成果イメージ図



建築物と災害リスクデータ（洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域）を重畳させることにより、視覚的に分かり易く表現した。

指定避難所については、壁面にテクスチャを貼ることで、建物のどの辺りまで浸水するのかを確認することができ、垂直避難の可否を検討することができる。

■ 今後の展望

今回は防災のユースケースにとどまっているが、3D都市モデルデータ閲覧システムを導入することから、都市計画変更時の検討や各種計画策定時の基礎資料作成に活用したい。

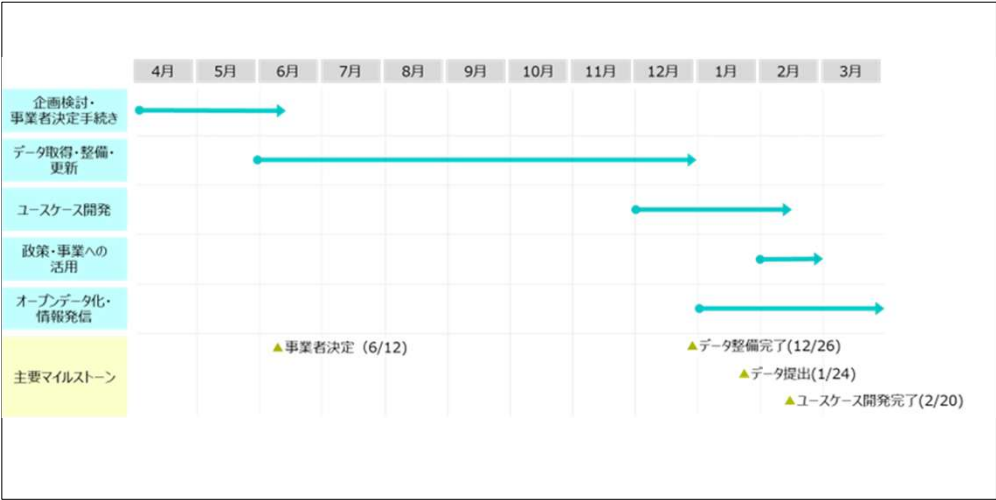
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

13.鳥取県米子市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	145,213人（令和5年10月時点）
市域全域面積	132.42km <sup>2</sup> （令和5年10月時点）
主な産業 地域課題等	豊かな自然環境であるが故に、洪水浸水などの水害のリスクを有しており、特に郊外における人口減少や高齢化による地域コミュニティの低下も課題となっている。国土強靱化による災害リスクの低減や地域コミュニティの維持、スマートシティによる独自のまちづくり政策を推進する必要がある。 3D都市モデルを活用し、都市計画立案の検討や窓口業務の効率化、民間開発における情報収集の効率化の課題を解決する。

■ 令和5年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5－15万	100－200	2－3千
担当部局	総合政策部都市創造課		

■ 補助事業実施項目

目標	DXの推進によるEBPMに基づく市民サービスの向上
課題	・ 市全体の約5割が洪水浸水想定区域（想定最大規模）にあたり、特に観音寺地区などにおいては3m以上の浸水が想定され防災対策を行う必要があるとともに、「歩いて楽しいまちづくり」の実現のため、本市の魅力を視覚的にアピールする必要がある。
創出価値	・ 3D都市モデルを活用し、災害リスクを3D都市モデルによる可視化することで地域の災害リスクの可視化や避難ルートの具体的検討を行っていくとともに、3D都市モデルに都市計画関連の情報を重ね合わせ、様々な視点から本市の魅力を検討しステークホルダーと共有。
事前調査等	－
3D都市モデル整備・更新	・ 都市計画基本図更新 ・ 航空測量 ・ 3D都市モデル整備（LOD1・LOD2）
ユースケース開発	・ 都市空間に関する情報の集約による行政事務の効率化
推進事業	・ 3D都市モデルビューワ整備
総事業費	16,169（万円） ※うちR5年度 5,762.4（万円）
R5年度補助額	2,881.2（万円）
補助対象外の関連事業	－
オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ】 ・ 米子市HPにPLATEAU VIEWのリンクを掲載予定
R5年度委託事業者	国際航業株式会社（データ整備） 国際航業株式会社（ユースケース開発）



PLATEAU  
by MLIT

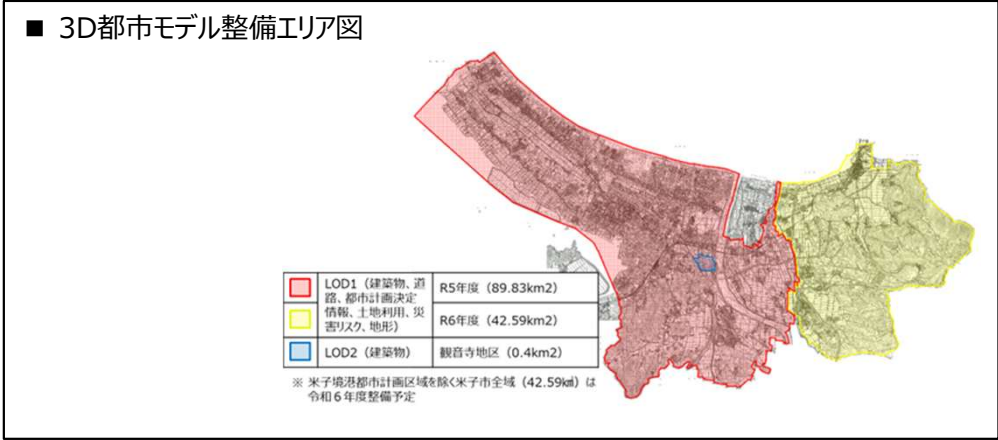
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

13.鳥取県米子市

■ 3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	米子境港都市計画区域	89.83km <sup>2</sup>	R5年度新規整備
LOD2	建築物	観音寺地区	0.4km <sup>2</sup>	R5年度新規整備



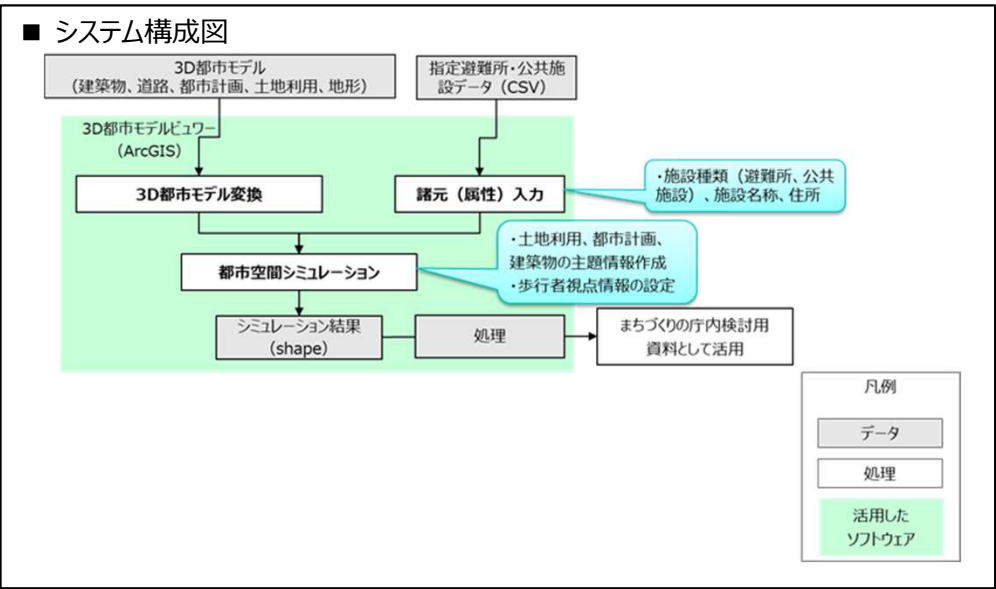
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	1.都市計画基本図（新規作成）	R5年度	2,500レベル
測量成果	1.航空写真（新規測量）	R5年度	2,500レベル
属性情報	1.都市計画基礎調査（既存）	R4年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5－15万	100－200	2－3千



■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	都市空間に関する情報の集約による行政事務の効率化
目的	都市空間に関する情報を3D可視化し一元化することで、都市計画立案の検討や窓口業務の効率化、民間開発における情報収集の効率化のために活用する。
取組内容	3D都市モデル上に都市空間に関連するデータを重ね合わせ、データ利活用の推進を図り、データの流通、活用することで自立的で個性豊かな地域社会の形成、新たな事業の創出を目指す。





IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

13.鳥取県米子市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1（名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年）</li><li>都市計画決定情報LOD1（区域名称）</li><li>災害リスクLOD1（浸水想定区域（洪水、津波）、土砂災害警戒区域）</li><li>交通（道路）LOD1（名称、機能、用途）</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>指定避難所情報（避難所名称、所在地、災害種類）</li><li>公共施設情報（公共施設名称、所在地）</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルと都市空間データを活用して、ArcGISの機能を利用し主題データの作成機能、歩行者視点ナビゲーション機能等を実行。</li><li>シミュレーション結果を活用し、建物高さの色分け、都市計画基礎調査情報の色分け（土地利用等）、災害リスクの色分け（浸水深）などの設定を行い、各種主題データを作成。作成された情報をもとに、地区ごとに歩行者視点による可視化を実施。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルビューワ（3D都市モデルに都市計画情報や施設情報を実装し都市空間を可視化）をアウトプットとし、まちづくりの庁内検討に活用。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>米子市HPにPLATEAU VIEWのリンクを掲載予定。</li></ul>

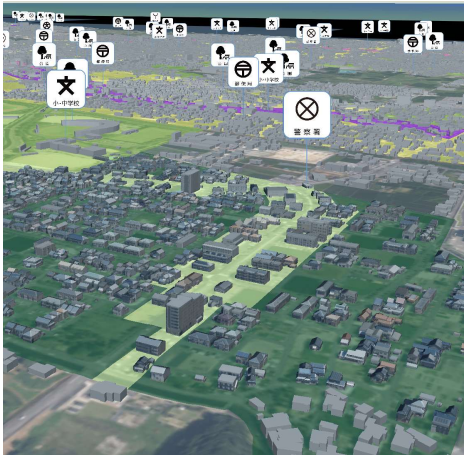
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
各種対応を行った職員が効率的と感じた割合（％）	70％ (R5年度)	100％ (R5年度)
職員の作業に対して効率化されたと感じた割合（％）	70％ (R5年度)	100％ (R5年度)
公開された3D都市モデルの閲覧件数（件/年）	6,000件/年 (R6年度)	608件/年 (R6年度)
KPI未達を受けて の今後の対応	庁内職員へ浸透させるほか、不動産・建設事業者、地域のまちづくり関係者、地元の学生等への積極的な周知により3D都市モデルのさらなる活用を促進する。	

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5－15万	100－200	2－3千



■ ユースケース開発成果イメージ図



・3D都市モデル上に浸水区域や都市計画決定情報、公共施設情報を集約し、都市空間を可視化



・3Dビューワ歩行者機能による街並みの可視化を実現

■ 今後の展望

米子市全域における3D都市モデルを整備し、都市空間に関する情報集約による行政事務のさらなる効率化、充実化を実現する。また、洪水浸水シミュレーションを実施し、避難ルートの検討への活用や地域住民の啓発及び災害リスクの理解度を深めていく。  
米子駅周辺ウォカブル推進事業への庁内検討資料の作成や完成イメージへの活用を行い、「歩いて楽しいまちづくり」の実現を目指す。

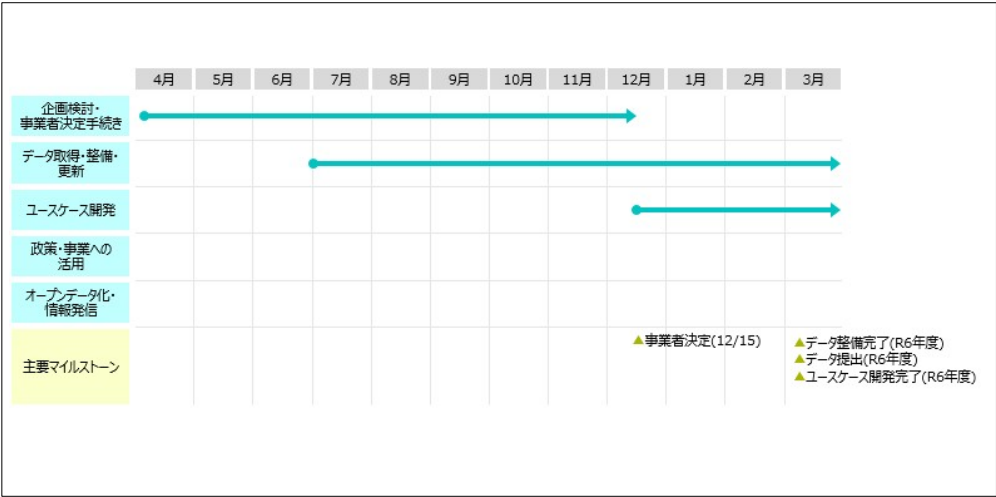
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

14.鳥取県境港市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	32,774人（令和5年3月時点）
市域全域面積	29.11km <sup>2</sup> （令和5年3月時点）
主な産業 地域課題等	三方が海に開けた地形的な特性を生かし、水産業を基幹産業として、古くから港を中心に発展してきた。地形的な特徴として、本市の位置する弓浜半島が砂州により形成された土地であることから、地盤の高低差が少なく、高潮や大雨による外水の影響を受けやすい。 外水の影響を受けやすい一方で、これまでの各種水害ハザードマップは二次元であり、浸水の時系列的な変化が把握できなかったが、3D都市モデルを活用し、三次元・時系列での水害可視化を行うことで住民の防災意識の向上を図る。

■ 令和5年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	3－5万	50未満	2－3千
担当部局	建設部下水道課		

■ 補助事業実施項目

目標	・ 3D都市モデルに想定最大降雨による浸水シミュレーション結果を重ねること で、内水による浸水の広がり可視化し、事前防災の意識向上を図る。
課題	・ これまでの公開されている水害ハザードマップは、浸水被害の結果が2次元 で表示されており、浸水範囲や浸水深の時系列な過程が把握できないとい う課題があった。
創出価値	・ 事前防災の観点から浸水の被害範囲を時系列に把握し、水平方向だけで なく、鉛直方向に避難することを把握しておくことで、効率的・効果的な避難 行動を促進するとともに、住民の防災意識の向上を図り、避難行動による 自助・共助を促進する。

事前調査等	－
3D都市モデル 整備・更新	－
ユースケース 開発	・ 3D都市モデルを活用した水害リスクの可視化事業
推進事業	－

総事業費	6,860（万円） ※うちR5年度 4,275（万円）
R5年度補助額	2,137（万円）
補助対象外の 関連事業	雨水管理総合計画策定事業

オープンデータ化・ 可視化・情報発信	・ 浸水シミュレーション動画を境港市ホームページに掲載 【ユースケー スデータ】
-----------------------	---

R5年度 委託事業者	日水コン（浸水シミュレーション・浸水リスク評価）
---------------	--------------------------



PLATEAU  
by MLIT

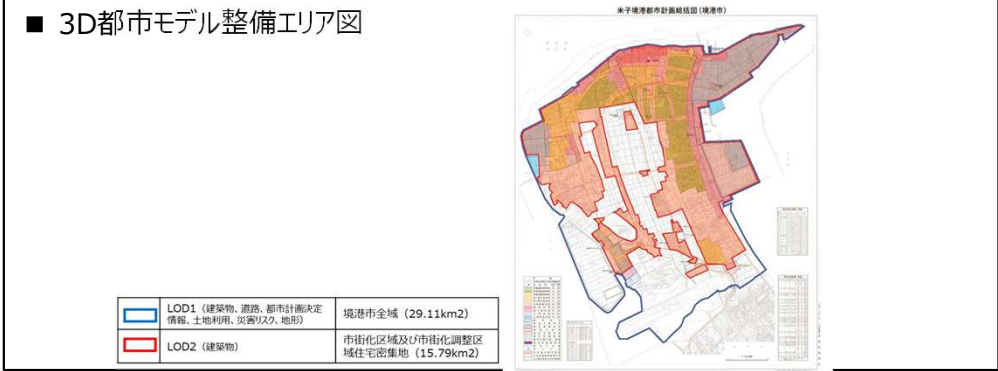
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

14.鳥取県境港市

■ 3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	境港市全域	29.11km <sup>2</sup>	R4年度整備済
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	境港市全域	29.11km <sup>2</sup>	R4年度整備済
LOD2	建築物	市街化区域及び市街化調整区域住宅密集地	15.79km <sup>2</sup>	R4年度整備済



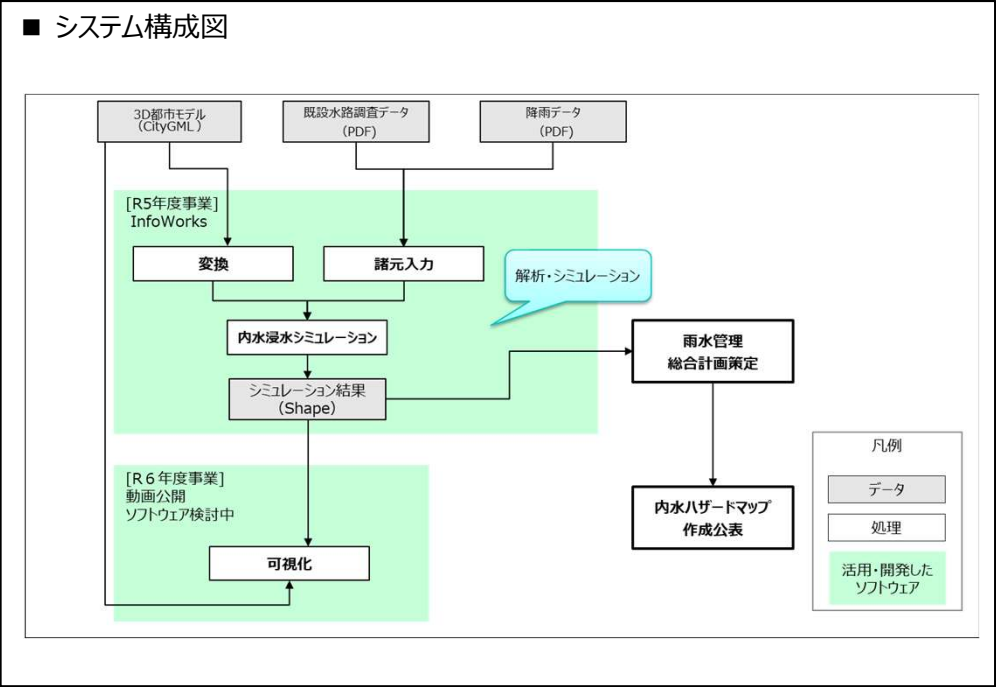
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	4.数値地形図（DMデータ）（既存）	R4年度	1,000レベル
測量成果	4.既存資料（航空レーザー）	R3年度	1,000レベル
属性情報	1.都市計画基礎調査（既存）	H30年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	3－5万	50未満	2－3千



■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3Dモデルを活用した水害リスクの可視化事業
目的	事前防災の意識向上
取組内容	住民の避難行動計画に役立てるために、3D都市モデルを活用し、豪雨による浸水被害(浸水エリア、浸水深さ)の広がりや時系列で可視化するものである。



IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

14.鳥取県境港市

ユースケース開発方法	
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD2（屋根、側面）</li><li>建築物LOD1（名称、用途、分類、計測高さ、地上階数）</li><li>地形LOD1（名称）</li><li>都市計画決定情報LOD1（区域名称）</li><li>災害リスクLOD1（浸水深、継続時間）</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>降雨データ（既往最大降雨データによる外水位）</li><li>既設水路調査データ（既設水路形状）</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>気候変動を踏まえた計画降雨、想定最大降雨等による浸水シミュレーションを実施し、内水浸水想定区域図を作成する。</li><li>作成した内水浸水想定区域図を3D都市モデルと重畳し、時系列により災害リスク情報を可視化する。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>浸水シミュレーション結果データ（R5年度のアウトプット）を雨水管理総合計画策定に活用。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>浸水シミュレーション動画を境港市ホームページに掲載。</li></ul>

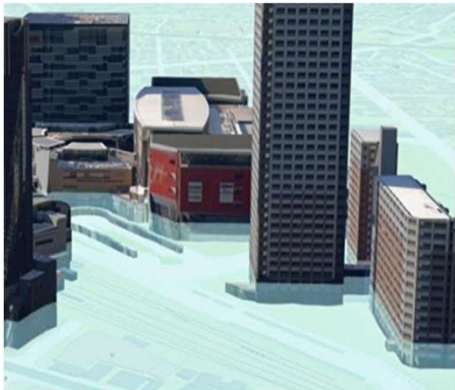
KPI		
KPI	目標設定	達成状況
地域の災害リスクについての理解促進（庁内：防災担当職員）（％）	90％ （R5年度）	100％ （R6年度）
地域の災害リスクについての理解促進（庁外：住民）（％）	70％ （R7年度）	R7年度 計測予定

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	3－5万	50未満	2－3千




■ ユースケース開発成果イメージ図

※画像はPLATEAUより引用



**浸水被害予測をより視覚的に表示**  
テキストチャにより建物をリアルに表現することで、避難規模の内水による浸水被害予測を、浸水深と建物の外壁から、より視覚的に表現する。



**浸水被害予測をリアルタイム表示**  
避難規模の浸水被害予測を時系列に表現することで、事前防災の観点から、市民が効率的・効果的な避難計画を立案できるよう公開する。

■ 今後の展望

津波、洪水等の浸水被害についても、3D都市モデルを活用して時系列に可視化するよう防災部局と調整しており、浸水シミュレーション動画公開、令和7年度に内水ハザードマップ作成公表を予定しており、住民の防災意識の向上を図る。



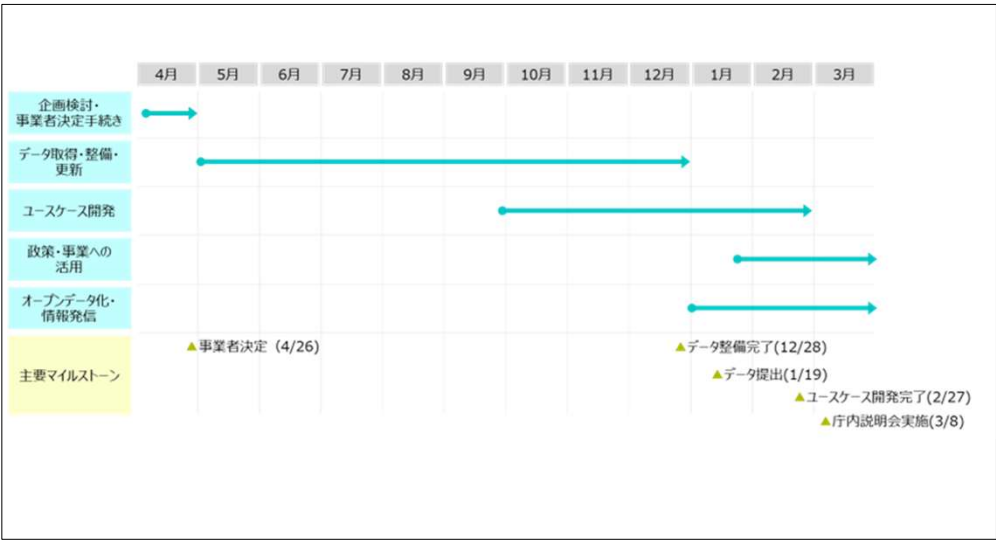
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

15.徳島県徳島市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	247,246人（令和5年11月時点）
市域全域面積	191.52km <sup>2</sup> （令和5年11月時点）
主な産業 地域課題等	徳島県の東部に位置する県庁所在地。産業、政治、経済、文化、教育、情報等の様々な機能が集積する拠点都市。 本市の課題として、激甚化・頻発化する自然災害のリスクへの対応がある。 3D都市モデルを活用し、災害リスクを可視化し、住民の防災意識の向上を図る。

■ 令和5年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	100－200	1－2千

担当部局	企画政策部都市計画課
------	------------

■ 補助事業実施項目

目標	激甚化・頻発化する大規模自然災害や南海トラフ地震に備え、一人ひとりが考え行動する「防災意識が高いまち、徳島」を実現。
課題	・ 居住する場所の災害リスクの認識。 ・ 避難先（避難所・避難場所）及びその収容人員数の認識。 ・ 複数の避難経路及び避難時の危険箇所の認識。
創出価値	災害に備えるため、「災害リスク」や「避難先」のほか、「浸水シミュレーション」の可視化による住民の防災意識の向上。
事前調査等	－
3D都市モデル整備・更新	・ 3D都市モデル整備（LOD1）・3D都市モデル整備（LOD2） ・ 3D都市モデル整備（LOD3）
ユースケース開発	災害リスク（浸水・危険箇所）3D可視化避難対策事業
推進事業	オープンデータ化
総事業費	8,998（万円）
R5年度補助額	1,483（万円）
補助対象外の関連事業	－
オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ】 ・ 浸水シミュレーション動画を徳島市ホームページに掲載 【3D都市モデル動画】
R5年度委託事業者	国際航業株式会社（データ整備） 国際航業株式会社（ユースケース開発）



PLATEAU  
by MLIT

IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

15.徳島県徳島市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	徳島市全域	191.52km <sup>2</sup>	R5年度新規整備
LOD2	建築物	徳島市中心市街地活性化基本計画の区域の一部	1.3km <sup>2</sup>	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R5補助対象地物

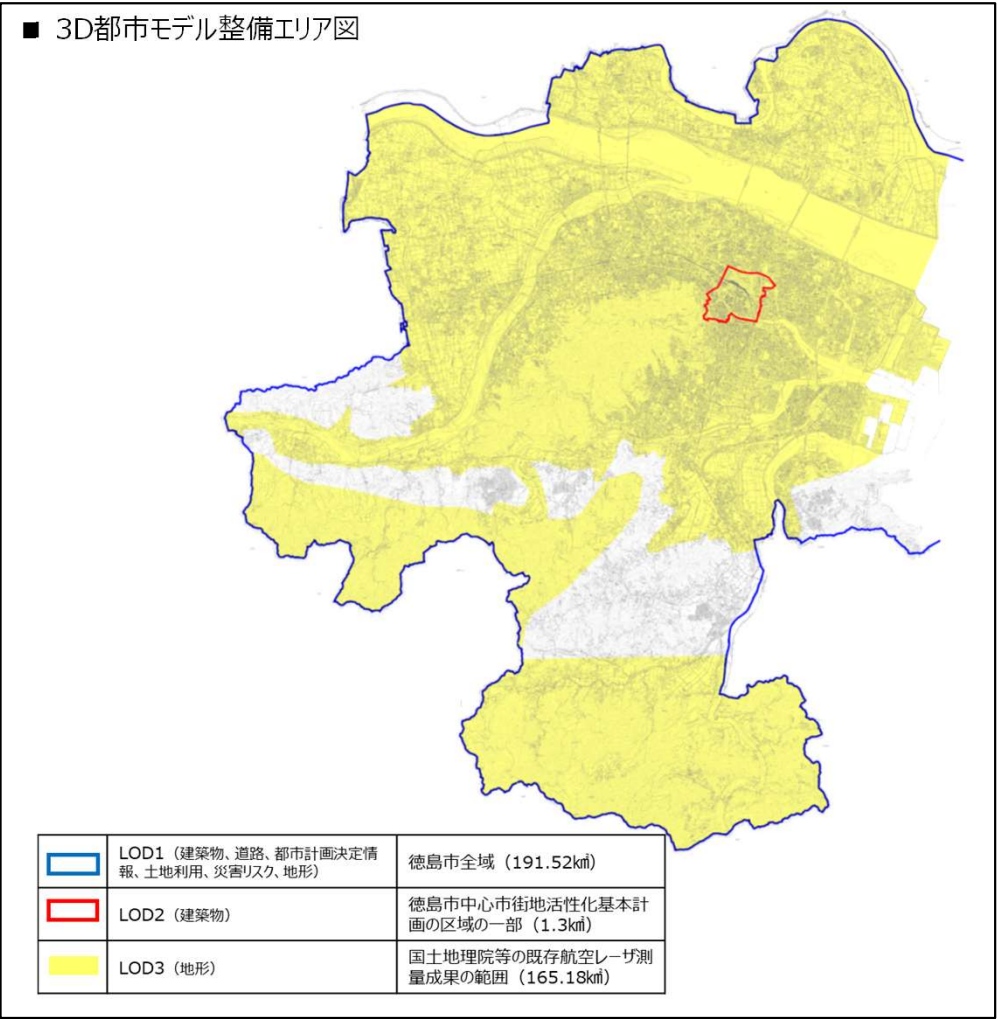
LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD3	地形	国土地理院等の既存航空レーザ測量成果の範囲	165.18km <sup>2</sup>	R5年度新規整備

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	新規作成	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	新規作成	1,000
	既存測量（航空レーザ）	R2年度	1,000
		R元年度	1,000
		H24年度	500
		H21年度	500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	H30年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	100－200	1－2千



■ 3D都市モデル整備エリア図



IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

15.徳島県徳島市

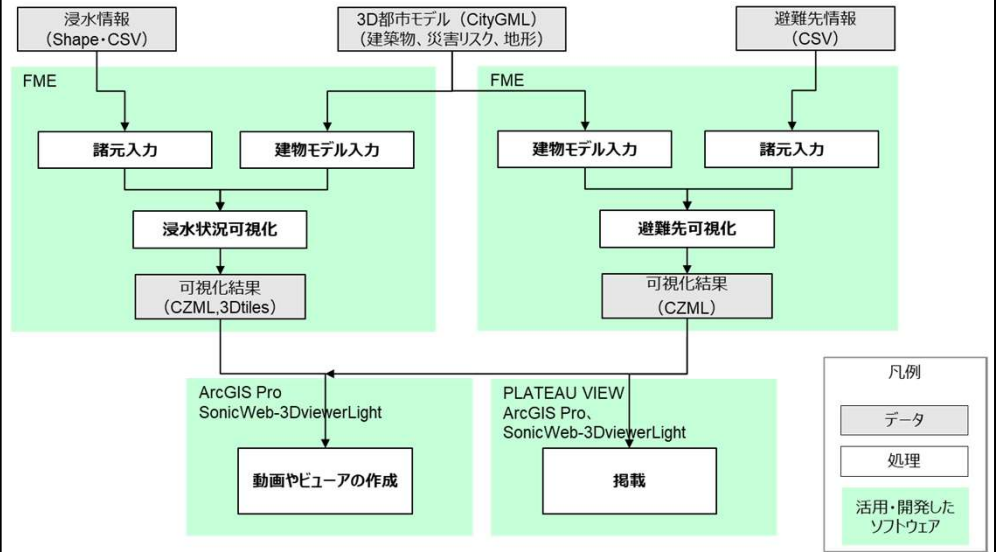
■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	災害リスク（浸水・危険箇所）3D可視化避難対策事業（時系列浸水シミュレーション・避難路危険箇所の可視化）
目的	災害に備えるため、「災害リスク」や「避難先」のほか、「浸水シミュレーション」の可視化により住民の防災意識の向上を図る。
取組内容	津波・洪水・土砂災害・高潮など各種災害リスク情報の三次元表示を行い、各エリアの可視化を行うとともに、①既存の時系列ごとの浸水シミュレーション、②避難先（避難所・避難場所）を可視化することで、避難行動時、「いつ」「どこに」「どんな経路で」避難をすべきかを認識してもらう。 本ユースケースを動画等で市民向けに公開するほか、市内の各学校・住民向けワークショップ等で活用し、防災意識向上を推進する。

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	100－200	1－2千



■ システム構成図



IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

# 15.徳島県徳島市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1 (計測高さ)</li><li>建築物LOD2 (テクスチャ)</li><li>災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域、高潮浸水想定区域、津波浸水想定区域、土砂災害警戒区域)</li><li>地形LOD1・3</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>浸水情報(洪水・津波の時系列ごとの浸水深)</li><li>避難先情報(避難所・避難場所名称、所在地、災害種別)</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>洪水・津波等の浸水深等の情報と3D都市モデルと組み合わせることで時系列ごとの浸水シミュレーションを可視化。</li><li>本市の避難先（避難所、避難場所）情報と、3D都市モデルを組み合わせることで、避難先を可視化。</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>既存の浸水シミュレーションデータを用いて時系列ごとの浸水状況を可視化し、市民にも分かりやすい動画やビューを作成する。</li><li>避難先（避難所、避難場所）を可視化し、市民が災害リスクを踏まえた避難先を認識できる資料を作成する。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	浸水シミュレーション動画を徳島市ホームページに掲載。

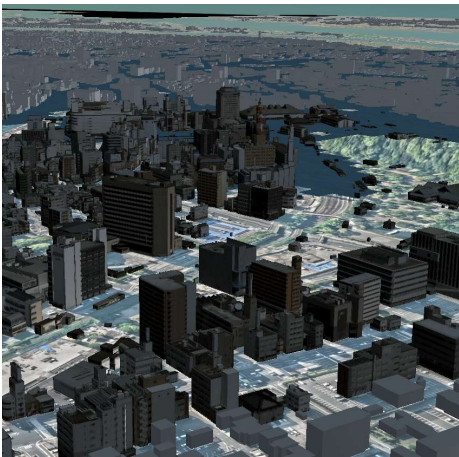
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
庁内説明会により防災意識が向上したと感じる市職員の割合（％）	80％ (R5年度)	96.4％
小・中学校等の防災学習で活用 (累計校数)	5校 (R6年度)	5校＋1件 (コミュニティセンターでの 防災説明会でも活用)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	100－200	1－2千



■ ユースケース開発成果イメージ図



作成した建築物LOD1、LOD2へ洪水浸水想定区域の時系列シミュレーション可視化データをレイヤードさせ表示。



作成した建築物LOD1、LOD2へ避難所をアイコンで種別分けしたデータをレイヤードさせ表示。

■ 今後の展望

今後は、民間での3D都市モデルの活用を促進し、多様な分野での地域課題解決型サービスの社会実装を図るため、アイデアソン・ハッカソン等の開催、実証フィールドの提供・協力・支援などの取組を行う。



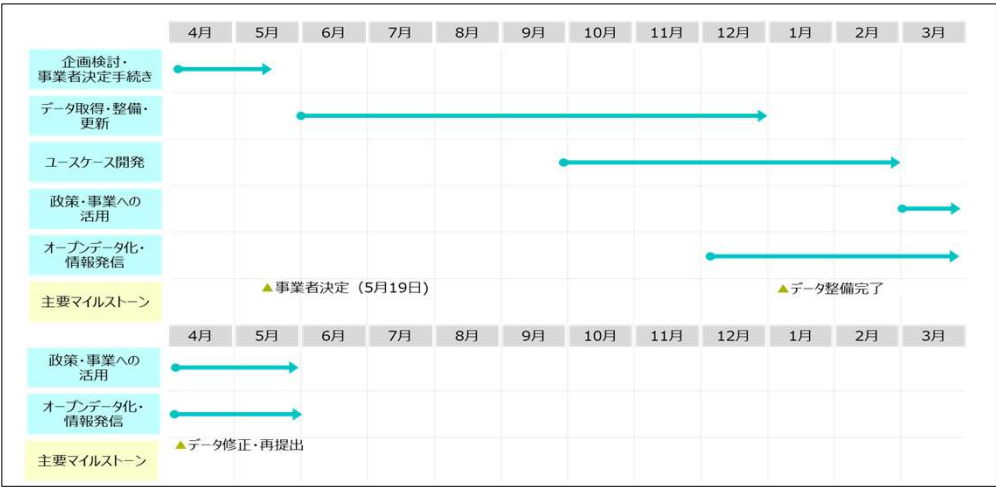
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

16.愛媛県東温市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	33,168人（令和5年11月時点）
市域全域面積	211.3km <sup>2</sup> （令和5年11月時点）
主な産業 地域課題等	愛媛県の中央部に位置する中山間地域。県都松山市の東に隣接する都市近郊型のまちで、古くから関西方面への交通の要所。本市の少子高齢化による人口減少の問題に対応するため、コンパクトで持続可能なまちづくりを目指す必要があり、令和5年度より、本格的に都市計画マスタープランの改定及び立地適正化計画の策定を進めることとしている。また、市内河川の氾濫や中山間地域特有の災害リスクも課題である。 3D都市モデルを活用し、災害リスク可視化するとともに、データに基づく都市計画を策定する。

■ 令和5年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	3－5万	200－500	1－2千

担当部局	産業建設部都市整備課
------	------------

■ 補助事業実施項目

目標	3D都市モデルを活用したまちづくり
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>人口減少が進んでおり、効率的なまちづくりとしてコンパクト化に向けたとりくみが必要。</li><li>市中央に1級河川があり、氾濫した場合の影響が大きい。また中山間地域の急斜面近くに集落が多く、理解しやすい災害リスクの周知方法が課題。</li><li>本市の特性（交通利便性・企業誘致）を最大限に活用するため、データの可視化が必要。</li></ul>
創出価値	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルを活用し、災害リスクをわかりやすく示すことで市民の防災意識を向上。</li><li>効率的なまちづくりについて、3D都市モデルへ人流などのデータを可視化することで、市民やステークホルダーとの認識共有がしやすくなる。</li></ul>
事前調査等	仕様検討・資料収集、調査
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデル整備（LOD1）・3D都市モデル整備（LOD2）</li><li>CMSエディター登録</li></ul>
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した都市計画立案への活用事業
推進事業	－
総事業費（予定）	6,070（万円） ※うちR5年度2,070（万円）
R5年度補助額	1,035（万円）
補助対象外の関連事業	<ul style="list-style-type: none"><li>都市計画マスタープラン改定</li><li>立地適正化計画策定</li></ul>
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル/UCデータ】</li><li>PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル/UCデータ】</li><li>市ホームページの紹介ページにプラトビューへのリンクを掲載</li></ul>
R5年度委託事業者	国際航業株式会社（データ整備/ユースケース開発）



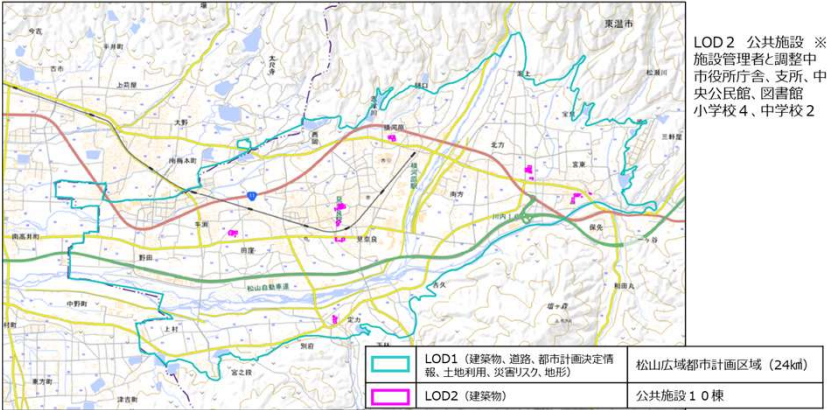
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

# 16.愛媛県東温市

■ 3D都市モデル整備状況 ※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物・交通（道路） 市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	松山広域都市計画区域 （東温市域）	24km <sup>2</sup>	R5年度新規整備
LOD2	建築物	公共施設	10施設	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	H30年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	H30年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（修正） 建築確認DB	R2年度 R5年度	—

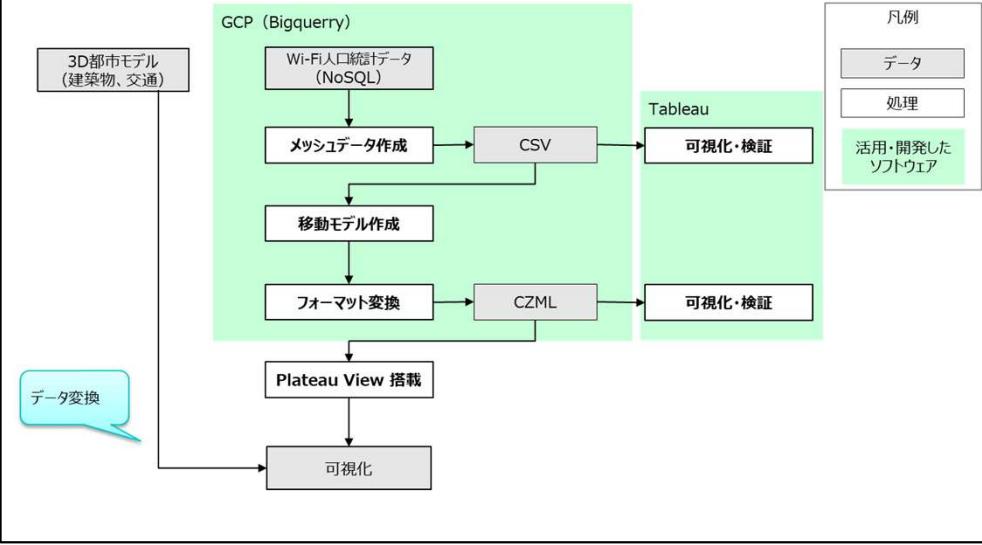
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	3－5万	200－500	1－2千



■ ユースケース①概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用したまちづくり事業（都市計画）
目的	都市データを活用した持続可能なまちづくりの立案及び市民への可視化を図る。
取組内容	3D都市モデルと人流データ重ね合わせ、都市計画立案への活用と市民への可視化を図る。

■ システム構成図



IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

16.愛媛県東温市

■ ユースケース①開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1・2(用途、構造種別、建築年、地上階層、延床面積、土地利用)</li><li>交通LOD1 (道路)</li><li>都市計画決定情報LOD1 (松山広域都市計画区域)</li><li>土地利用LOD1 (松山広域都市計画区域)</li><li>地形LOD1</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>Wi-Fi人口統計データ (ユーザーID、性別、年代 (10代～60代)、推定居住地)</li><li>GPSデータ (性別、年代、就業地)</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>人流データをクラウド上のBIツール (Tableau) により可視化。</li><li>3D都市モデルと人流データを重ね合わせて、Plateau Viewで可視化。</li></ul>
政策・事業での 活用	都市計画マスタープラン、立地適正化計画。エリア設定と人流データを重ね、計画過程を可視化。(市HPで公開)
オープンデータ化 情報発信	市ホームページの紹介ページにPLATEU VIEWへのリンクを掲載。

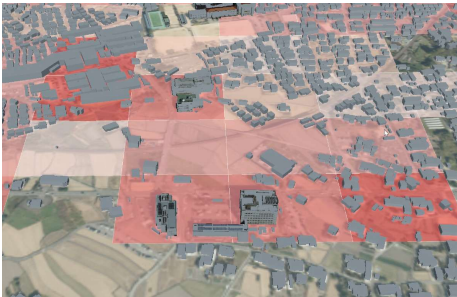
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
データに基づく都市計画の策定 (計画数)	2計画 (R5年度)	2計画

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	3－5万	200－500	1－2千



■ ユースケース開発成果イメージ図



・人流分析元データ  
(人口推移の可視化)



・人流分析  
(時間ごとの各エリアの人流推移  
主だった人流移動をアーク形状で表現)

■ 今後の展望

今回は、都市の現状把握を行うための人流データ及び防災情報を活用した分析を行った。  
今後、分析結果を反映した都市計画の効果について、都市構造に関するシミュレーション等を活用し、都市の効率的な発展につなげたい。

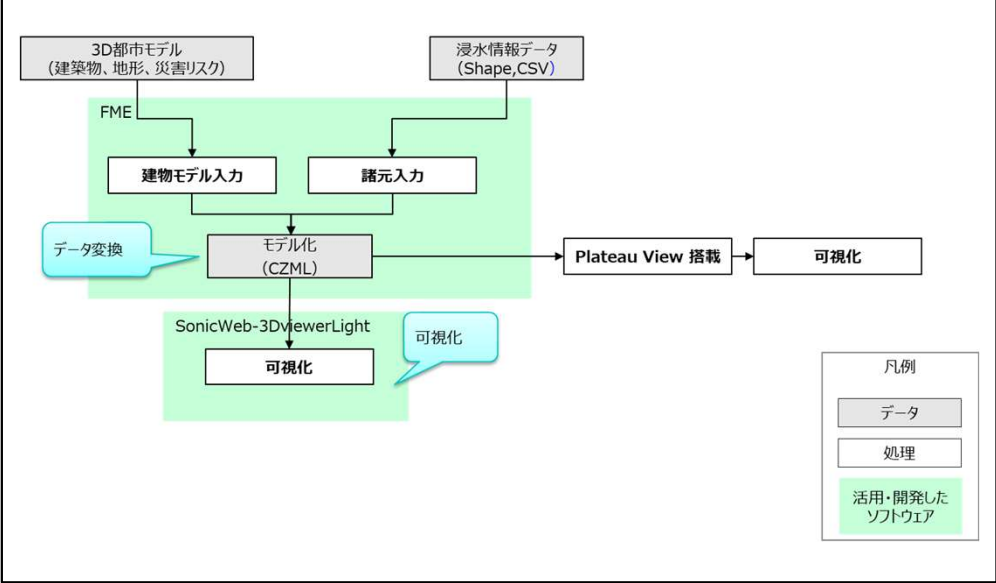
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

# 16.愛媛県東温市

■ ユースケース②概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用したまちづくり事業（防災）
目的	都市データを活用した持続可能なまちづくりの立案及び市民への可視化を図る。
取組内容	3D都市モデルへ三次元化した浸水想定区域図データを重ね合わせ、災害リスクを反映した都市計画立案への活用と市民への可視化を図る。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	3－5万	200－500	1－2千



■ ユースケース②開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1・2 (建築物)</li><li>交通 (道路) LOD1</li><li>都市計画決定情報LOD1 (松山広域都市計画区域)</li><li>土地利用LOD1 (松山広域都市計画区域)</li><li>災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域)</li><li>地形LOD1</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>浸水情報 (洪水の時系列ごとの浸水深)</li></ul>
ユースケース開発方法	対象区域の3D都市モデルと地点別浸水シミュレーションデータを重ね合わせて可視化。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>浸水状況シミュレーション等の可視化 (PLATEAU VIEWによる公開) し、庁内調整会議等で報告。</li><li>可視化された浸水状況を都市計画マスタープラン、立地適正化計画に反映。(市HPで公開)</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	市ホームページの紹介ページにPLATEAU VIEWへのリンクを掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
防災施策に有効に活用できると回答した職員の割合 (%)	50% (R5年度)	93%
防災に関する市民の理解度 (%)	30% (R7年度)	【R7年度計測予定】



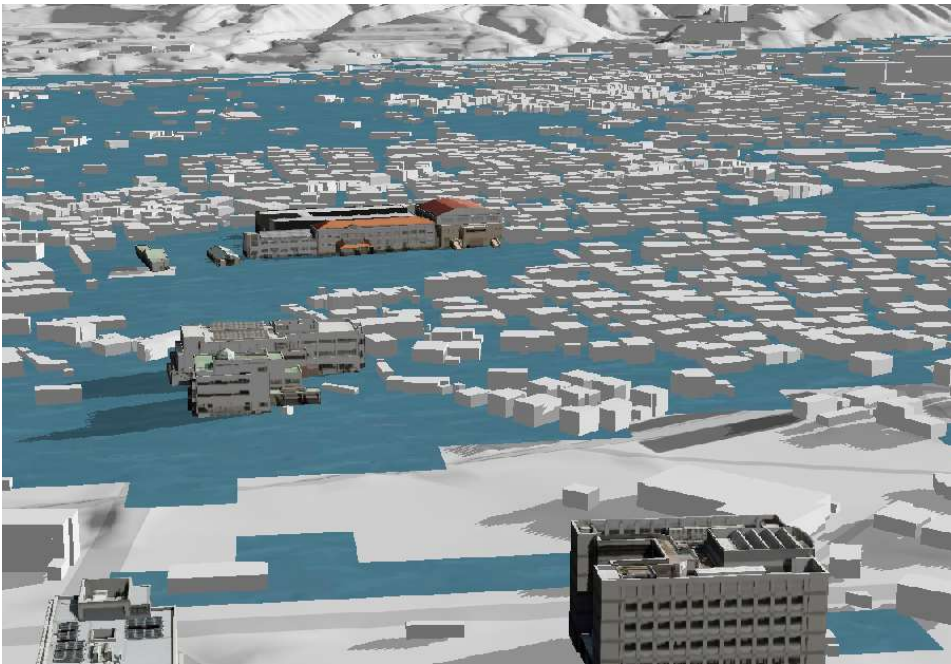
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

# 16.愛媛県東温市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	3－5万	200－500	1－2千



■ ユースケース開発成果イメージ図



重信川の破堤箇所（2箇所）のシミュレーションデータ

■ 今後の展望

令和6年度に予定している立地適正化計画の防災指針等の説明資料として、防災のユースケースを活用し（可視化）、浸水リスクへ認知度や区域設定の理解度向上に活用したい。

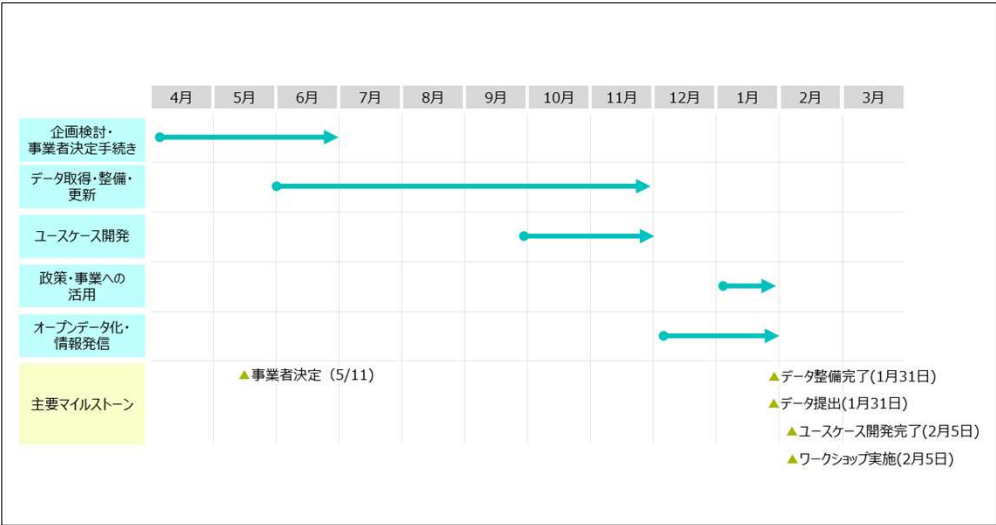
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

17.福岡県筑前町

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	30,433人（令和5年10月時点）
市域全域面積	67.1km <sup>2</sup> （令和5年10月時点）
主な産業 地域課題等	福岡県の筑紫平野の北部に位置し、米・麦・大豆の土地 利用型農業を中心とした田園地域。近年は、福岡都市圏や久留米 広域圏に隣接しているという恵まれた立地条件を背景に、人口増加を 続けている。 3D都市モデルを活用し、近年の大雨災害等に伴う災害リスクの可視 化、都市計画への活用を実施する。

■ 令和5年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	3－5万	50-100	1－2千

担当部局	都市計画課
------	-------

■ 補助事業実施項目

目標	防災・減災対策の充実 機能的な都市・ゆとりある住まいの現実
課題	近年の大雨災害等に伴う災害リスク情報可視化による、現況の把握及び防災意識 の向上 基礎調査データ可視化による、現況把握及び都市計画マスタープラン・用途地域の 変更検討
創出価値	・ 3D都市モデルを防災訓練等に利用することで、現況の災害リスクを理解し、避難 経路の検討資料として町民の防災意識を向上 ・ 用途地域見直しによる住民への説明や関係機関との協議資料として適切なコ ミュニケーションを実現 ・ 町の特性と根拠に基づく政策立案の実現

事前調査等	・ 航空写真測量・都市計画基本図修正
3D都市モデル 整備・更新	・ 3D都市モデル整備事業（LOD1） ・ 3D都市モデル整備事業（LOD2）
ユースケース 開発	・ 3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業 ・ 3D都市モデルを活用した都市計画マスタープラン・用途地域の変更検討への活 用事業
推進事業	

総事業費（予定）	3,100（万円）
R5年度補助額	1,550（万円）
補助対象外の 関連事業	－

オープンデータ化・可 視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／UCデータ】 ・ 3D都市モデルや開発したユースケースの概要を紹介する動画を筑前町ホーム ページに掲載【3D都市モデル】
-----------------------	---

R5年度委託事業者	国際航業株式会社（データ整備/ユースケース開発）
-----------	--------------------------



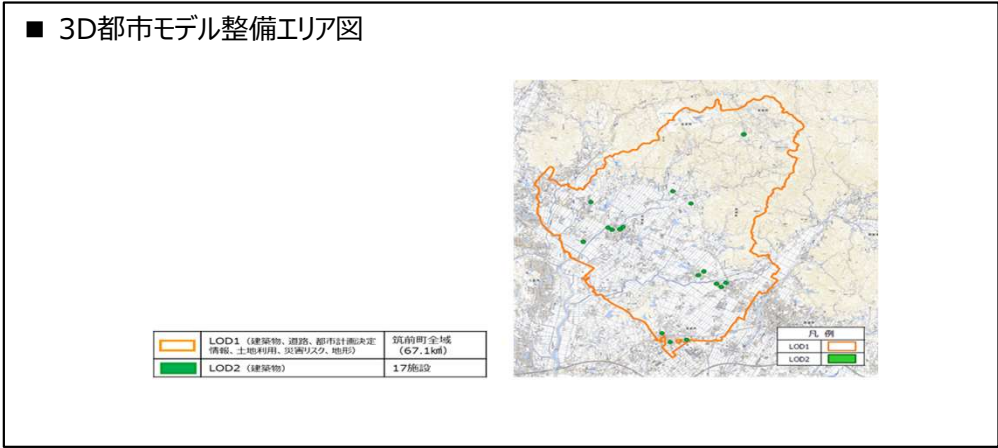
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

# 17.福岡県筑前町

■ 3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 災害リスク 地形 都市計画決定情報 土地利用	筑前町全域	67.1km <sup>2</sup>	R5年度新規整備
		筑前町都市計画区域	67.1km <sup>2</sup>	R5年度新規整備
LOD2	建築物		17施設	R5年度新規整備



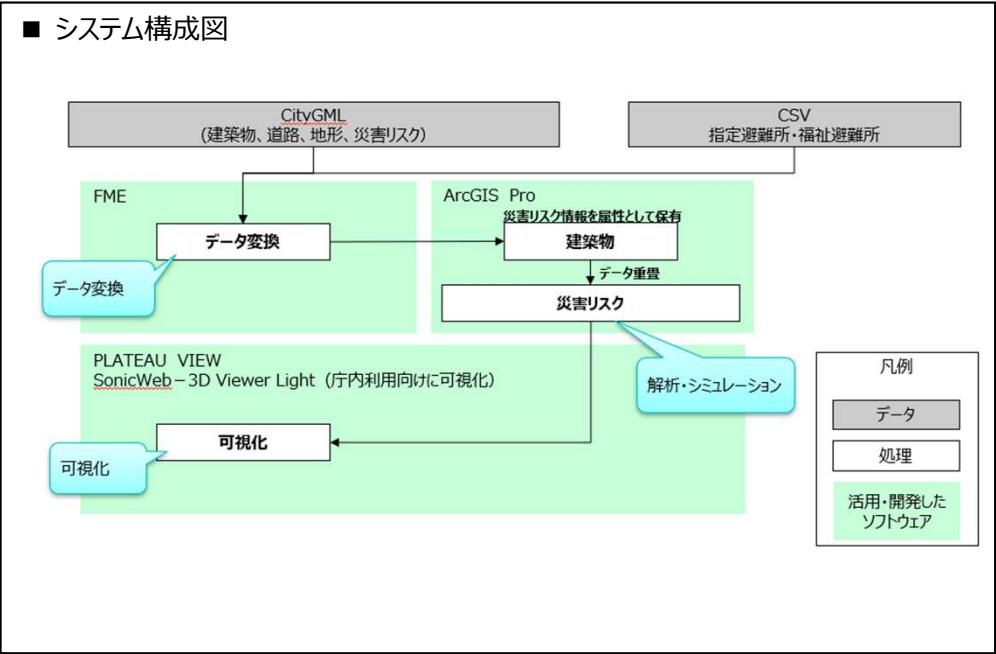
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R5年度	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	R5年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R3年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	3－5万	50-100	1－2千



■ ユースケース①概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	地域住民の防災意識の向上及び危機管理体制の強化
取組内容	近年の大雨災害等に伴う災害リスクに備えるため、災害リスク情報の三次元表示を行い、災害リスクの可視化を行い、職員等による防災訓練への活用やオープンデータとしてPLATEAU VIEWで公開し住民の防災意識向上へ役立てる。



IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

17.福岡県筑前町

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD0・1・2(名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年)</li><li>道路LOD1(路線名称)</li><li>災害リスクLOD1(洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域、ため池)</li><li>指定避難所・福祉避難所LOD1(名称、収容人数等)</li><li>地形LOD1</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>指定避難所・福祉避難所（施設名・住所・収容人数）</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルと3次元化した浸水想定区域、土砂災害警戒区域及び特別警戒区域、ため池氾濫区域を重ね合わせ、3Dビューで可視化</li><li>計画基本降雨（L1）及び想定最大降雨（L2）を用いて時系列浸水深の可視化を実施</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>災害リスク情報の三次元表示を行い、エリアのリスクを可視化し防災意識向上を図る。</li><li>町職員等の防災訓練に活用するとともに住民に公開し、自主防災組織の図上防災訓練に活用する。</li><li>3Dビューを用いて、災害リスク課題の抽出を実施。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>PLATEAU VIEWによる掲載。</li><li>3D都市モデルや開発したユースケースの概要を紹介する動画を筑前町ホームページに掲載。</li></ul>

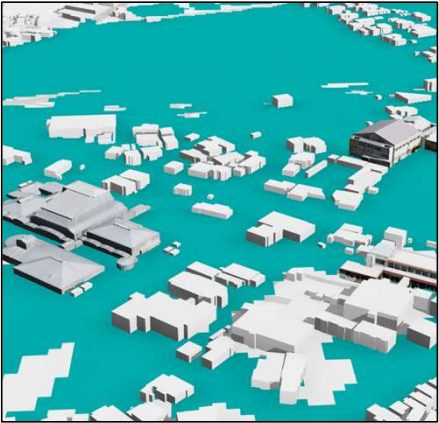
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
防災担当職員への説明（件）	1件 (R5年度)	1件 (R6.3.28実施)
住民団体への機能説明（団体）	5団体 (R6年度)	5団体 (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	3－5万	50-100	1－2千



■ ユースケース開発成果イメージ図



3D都市モデルと3次元化した浸水想定区域、時系列浸水シミュレーションデータの重ね合わせを実施。



指定避難所・福祉避難所の3Dデータを作成して可視化を実施。

■ 今後の展望

今年度作成・公開したデータを住民団体への説明資料として活用する。説明会では、住民自らが洪水時の避難ルートなどをイメージすることで、より一層の防災意識の向上につなげる。



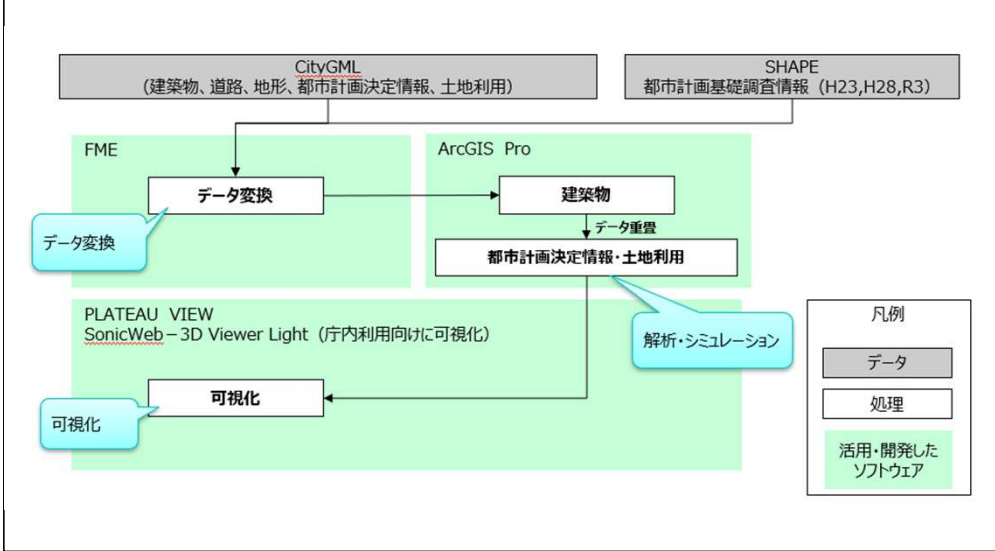
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

17.福岡県筑前町

■ ユースケース②概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用したまちづくり・用途地域見直しへの活用事業
目的	用途地域における土地利用の適正化
取組内容	都市計画マスタープラン及び用途地域の変更を検討するため、基礎調査データや公共交通データ、昼間人口の可視化を行い、用途地域の見直しの基礎資料とする。用途地域見直しによる住民への説明資料、県及び国等との協議資料として活用する。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	3-5万	50-100	1-2千



■ ユースケース②開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD0・1・2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年)</li><li>道路LOD1 (路線名称)</li><li>都市計画決定情報LOD1 (名称、分類、指定建蔽率、面積等)</li><li>地形LOD1</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>都市計画基礎調査 (建物利用現況)</li></ul>
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルと3次元化した都市計画情報を重ね合わせ、3Dビューワで可視化</li><li>3Dビューワを用いて都市計画マスタープラン及び用途地域見直し検討を実施</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>都市計画情報の三次元表示を行い、都市計画マスタープラン・用途地域の見直しの基礎資料とする。この基礎資料は住民への説明や関連機関との協議においても活用。</li><li>高精細 (レベル1000) な航空写真を活用し、建ぺい率・後退距離等の不適格物件調査に活用する。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>PLATEAU VIEWによる掲載。</li><li>3D都市モデルや開発したユースケースの概要を紹介する動画を筑前町ホームページに掲載。</li></ul>

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
公開型GIS (都市計画分野) の閲覧数 (pv)	30pv (R5年度)	83pv (R6.3.29確認)
都市計画マスタープランの変更回数 (1回)	1回 (R8年度)	R8-9年度 計測予定

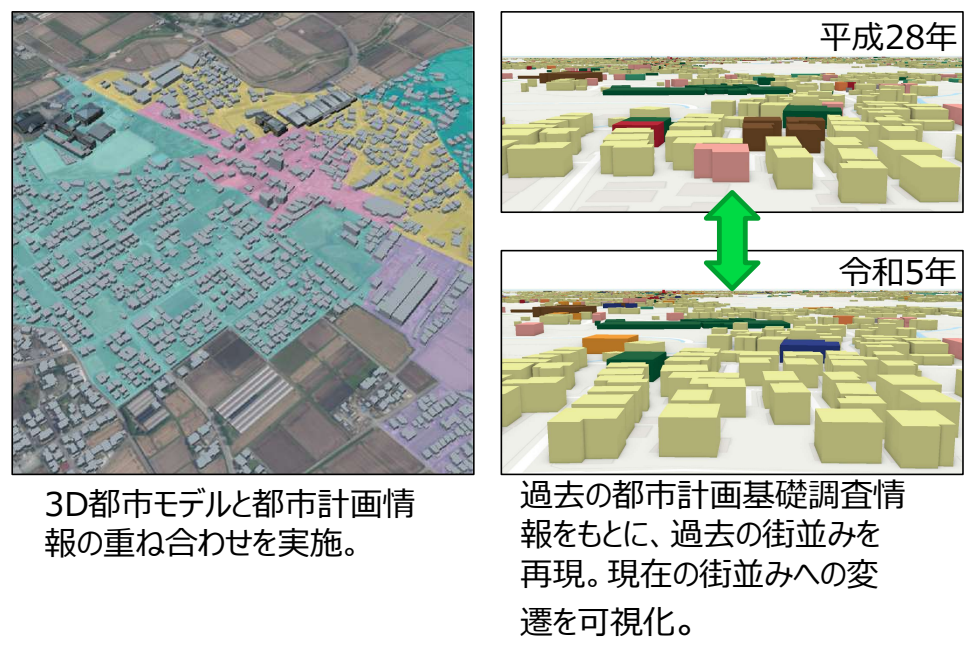
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

17.福岡県筑前町

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	3－5万	50-100	1－2千



■ ユースケース開発成果イメージ図



■ 今後の展望

今年度作成したデータは都市計画マスタープランや用途地域の見直しの基礎資料として活用する。  
今後は都市計画マスタープランや用途地域の見直し案を、今年度作成したデータと重ね合わせ3Dで表現することで、計画見直し後のイメージを具体化する。

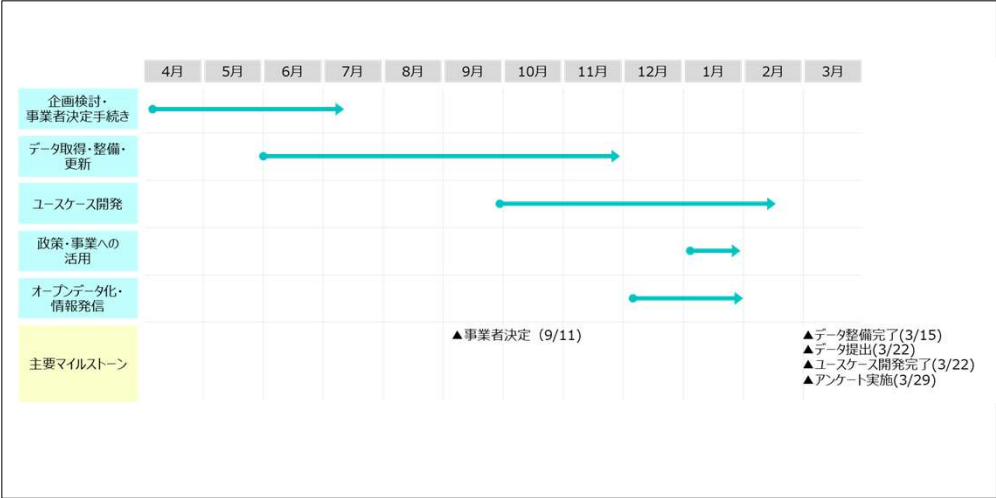
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

18.長崎県佐世保市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	243,223人（令和2年10月1日時点）
市域全域面積	426.01km <sup>2</sup> （令和4年10月1日時点）
主な産業 地域課題等	長崎県北西部に位置する中核市。海と山に囲まれた地形である。 海上・陸上自衛隊や在日米海軍佐世保基地が所在している。 主要産業は造船業のほか、観光産業、水産業である。 増大する社会負担への対応、不足する担い手・財源確保の対策、 都市の無秩序な拡大による弊害の抑制、多様な市民ニーズへの対応、 西九州佐世保広域都市圏の人口規模と経済の維持を、共通概念と 捉え取組を進めている。

■ 令和5年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200－500	1－2千

担当部局	都市整備部都市政策課
------	------------



PLATEAU  
by MLIT

■ 補助事業実施項目

目標	佐世保中央地域（都市核）における賑わいと活力にあふれ、住む人・訪れる人にとって安全で快適なまちづくり
課題	・都市核においては、人口減少が顕著であり、人口密度と都市機能の維持が必要である。 ・都市核に限らず、河川に近い市街地では、洪水による浸水が想定される区域が広く分布しており、防災・減災への取組が必要である。
創出価値	・3D都市モデルを活用し、多様なデータから都市核周辺の斜面住宅地や浸水想定市街地を分析することで、の再生について、3D都市モデルを活用することで、多様なデータから再生候補地の検討を行うことが可能となり、また、民間団体との情報共有も可能となる。 ・3D都市モデルを活用し、浸水リスクをわかりやすく示すことで、避難場所や避難経路の検討等ができ、市民の防災意識の啓発と向上が期待できる。 ・3D都市モデルを活用し、都市計画関連情報を一元化して公開することで、開発等を検討する事業者が容易に情報を取得でき、併せて、行政側の窓口業務の効率化が図られる。

事前調査等	－
3D都市モデル 整備・更新	－
ユースケース 開発	・都市再生の鍵を握る斜面住宅地の再生 ・浸水想定市街地の防災まちづくり
推進事業	－

総事業費（予定）	21,950（万円） ※うちR5年度 2,600（万円）
R5年度補助額	1,300（万円）
補助対象外の 関連事業	－

オープンデータ化・可 視化・情報発信	・G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 ・PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】 ・市のホームページにPLATEAU VIEWのリンク掲載
-----------------------	---

R5年度委託事業者	株式会社パスコ（ユースケース開発）
-----------	-------------------

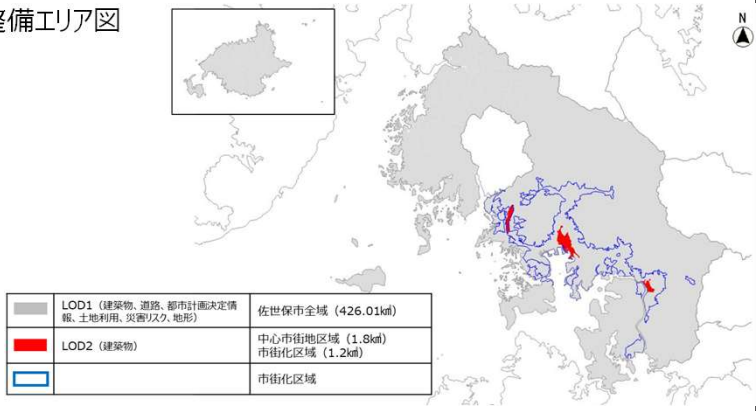
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

18.長崎県佐世保市

■ 3D都市モデル整備状況 ※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 土地利用 災害リスク 地形	佐世保市全域	426.01km <sup>2</sup>	R4年度整備済
	汎用都市オブジェクト	佐世保市全域	426.01km <sup>2</sup>	R4年度整備済
	都市計画決定情報	佐世保都市計画区域 江迎都市計画区域 宇久都市計画区域	239.76km <sup>2</sup> 46.68km <sup>2</sup> 6.13km <sup>2</sup>	R4年度整備済
LOD2	建築物	中心市街地区域 市街化区	1.8km <sup>2</sup> 1.2km <sup>2</sup>	R4年度整備済

■ 3D都市モデル整備エリア図



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R4年度	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	R4年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	H29年度	—

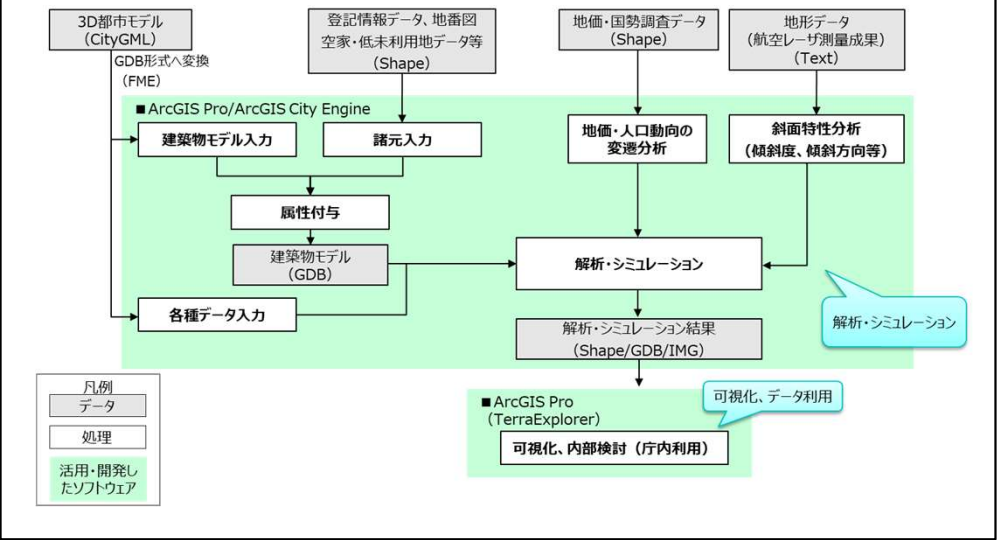
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200－500	1－2千



■ ユースケース①概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	都市再生のカギを握る斜面住宅地の再生
目的	都市核における人口密度の維持
取組内容	R4年に構築した3D都市モデルに、詳細な地形情報、地価情報、空き家情報等を重畳することで、斜面住宅地の再生に向けた施策検討に活用する。また、分析結果の一部を共有することにより、民間事業者の取組の誘発を図る。

■ システム構成図





IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

18.長崎県佐世保市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1 (用途、構造種別、建築年、災害リスク)</li><li>交通 (道路) LOD1 (機能 (道路種別))</li><li>土地利用LOD1 (土地利用分類、面積)</li><li>都市計画決定情報LOD1 (都市計画区域、区域区分、用途地域等)</li><li>災害リスクLOD1 (土砂災害警戒区域、洪水浸水想定区域)</li><li>汎用都市オブジェクトLOD1 (宅地造成工事規制区域、大規模盛土造成地マップ等)</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>登記情報データ (土地・家屋) (登記情報 (権利関係の確認))</li><li>地番図 (地番、画地コード (敷地の確認))</li><li>地価データ (路線価情報)</li><li>空家・低未利用地データ (ー)</li><li>国勢調査データ (小地域) (人口、世帯数 (小地域データを100mメッシュに配分後増減を把握))</li><li>地形データ (航空レーザ測量成果)</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>地価情報、空き家情報、詳細な地形データ、人口動向等の各種データを収集し、3D都市モデルに重畳する。</li><li>現状把握で整理・加工したデータを用いて、3次元的要素を加味した空間分析等を行うことにより、モデル地区の課題を整理する。</li><li>モデル地区の課題を踏まえて、敷地の共同化や道路拡幅をはじめとする再生シナリオを検討し、3D都市モデルを用いて、当該シナリオの効果や問題点をシミュレーションすることにより、再生イメージを作成、可視化する。</li></ul>
政策・事業での 活用	斜面市街地の3次元分析結果や斜面市街地再生シミュレーション結果を関係部局に共有し、行政にて講じる政策があるのかを検討していく。
オープンデータ化 情報発信	秘匿性が高いデータを除外し、庁内用GISに搭載する。

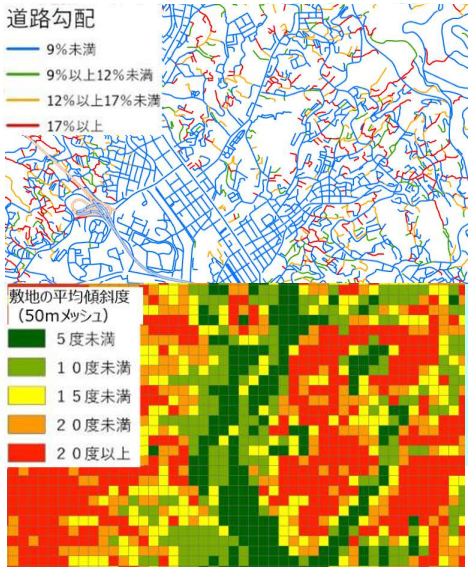
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
斜面住宅地再生の課題共有 (%)	100 (R5年度)	100%

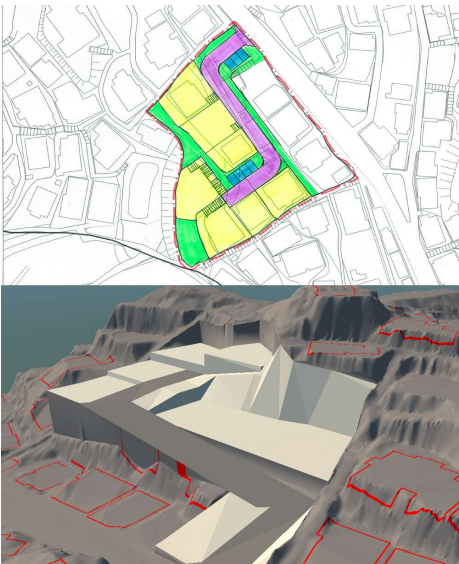
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200 – 500	1 – 2千



■ ユースケース開発成果イメージ図



● 斜面市街地の車両侵入可否状況図  
道路勾配や幅員、敷地の接道状況が確認できる。



● 斜面型共同住宅整備による  
低未利用地対策と利便性向上の両立  
● 低未利用地を活用した権利交換を伴う  
対象エリアの土地の集約及び整序

■ 今後の展望

本業務の分析データを庁内外へ展開し、民間事業者による斜面市街地再生の促進につなげていきたい。

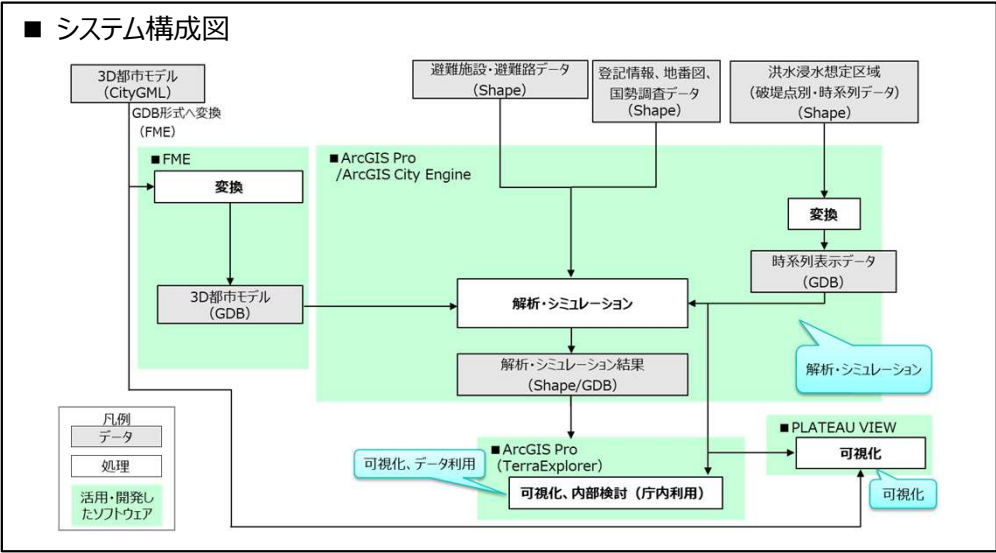
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

18.長崎県佐世保市

■ ユースケース②概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	浸水想定市街地の防災まちづくり
目的	住民属性を考慮した垂直避難施設整備の検討
取組内容	3D都市モデル（建物利用情報や築年数、用途、構造等を属性として付与した建築物、浸水リスク等）を利用することで浸水時に垂直避難が可能な建物を把握し、避難計画の検討に活用する。 また、浸水リスクを有する箇所での建築について、垂直避難が可能な建物整備に対するインセンティブ検討等に活用する。 さらに、周辺住民の属性情報を用いて住民属性に応じた避難場所の検討に活用する。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200 – 500	1 – 2千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1・2(用途、構造種別、建築年、災害リスク)</li><li>交通（道路）LOD1（機能（道路種別））</li><li>土地利用LOD1（土地利用分類）</li><li>都市計画決定情報LOD1（都市計画区域、区域区分、用途地域等）</li><li>災害リスクLOD1（土砂災害警戒区域、洪水浸水想定区域）</li><li>地形LOD1</li><li>汎用都市オブジェクトLOD1(立地適正化計画、宅地造成工事規制区域等)</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>登記情報データ（土地・家屋）（登記情報（権利関係の確認））</li><li>地番図(地番、画地コード（敷地の確認））</li><li>避難施設・避難路データ</li><li>国勢調査データ（小地域）（人口、世帯数（小地域データを100mメッシュに配分後増減を把握））</li><li>洪水浸水想定区域（破堤点別・時系列データ）（ArcGIS Proで表示可能な形式に変換）</li></ul>
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>避難施設及び避難路データ、人口動向等の各種データを収集し、3D都市モデルに重畳する。</li><li>その情報から浸水想定市街地の特性を複合的に分析し、詳細な分析評価やシミュレーションを行うモデル地区を選定する。まちづくりの方針、避難特性等の観点から、災害ハザード（水水害）に対するモデル地区の現状を把握する。</li><li>モデル地区の課題をふまえ、居住誘導の検討、容積率割り増しの検討等を行い、水災害対策強化と連携した市街地再生のイメージを作成、可視化し、作成した再生イメージを事業化に向けた内部検討で活用する。</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>浸水想定市街地の3次元分析・評価</li><li>浸水想定市街地再生シミュレーション</li></ul>
オープンデータ化情報発信	PLATEAU VIEWのリンク掲載。

IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

18.長崎県佐世保市

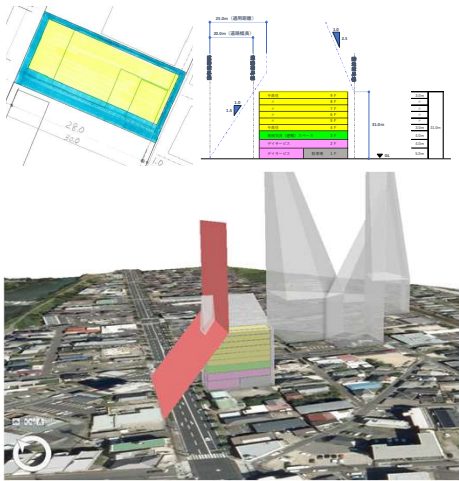
KPI

KPI	目標設定	達成状況
浸水想定市街地のまちづくりに対する課題共有(%)	100% (R5年度)	100%

ユースケース開発成果イメージ図



- 任意の地点の浸水深が最大となる際の浸水の広がり方をGIS上に重畳。
- 建築物ごとの水平避難可否を分析し、GIS上に表示。



- 避難スペースを確保する手法の1つである容積率の緩和による建築物の高上げを検証。

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200 – 500	1 – 2千

今後の展望

本業務のシミュレーション結果を、住民への周知啓発や庁内での施策検討に活用していきたい。  
浸水リスクに対する避難パターン検討や中長期的な居住の誘導策の検討につなげていきたい。



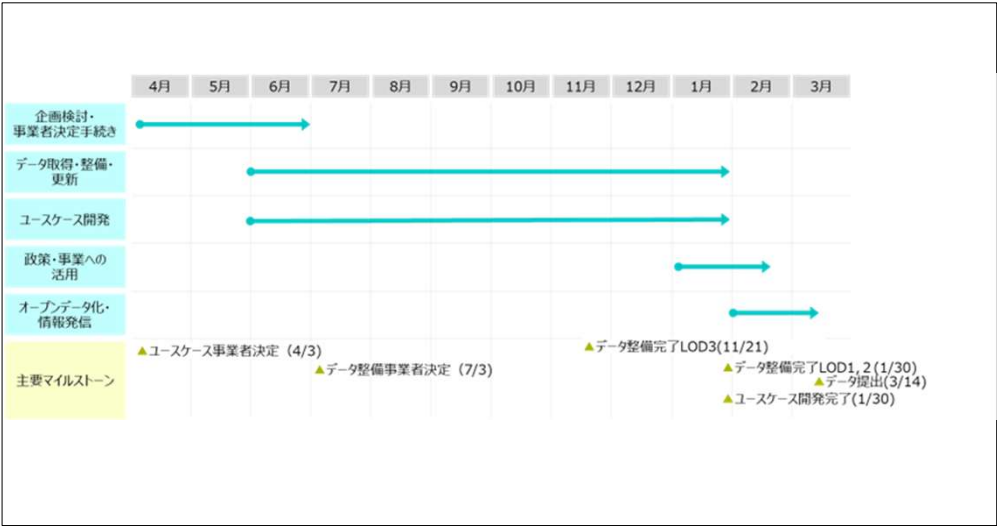
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

19.熊本県玉名市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	63,587人（令和5年10月時点）
市域全域面積	152.6km <sup>2</sup> （令和5年10月時点）
主な産業 地域課題等	熊本県の北西部に位置する県北地域の拠点都市。農業、漁業、観光（温泉）を中心とした田園都市。歴史と文教のまち、菊池川が流れる玉名平野では米作り、商業、温泉など古くから営まれ、また、大学、高校が集中する県北の文教都市を形成している。 3D都市モデルを活用して、地域に賑わいをもたらす空間設計のEBPMを実施する。

■ 令和5年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5－15万	100－200	2－3千

担当部局	建設部都市整備課
------	----------



PLATEAU  
by MLIT

■ 補助事業実施項目

目標	地域の賑わい創出の実現
課題	新型コロナ禍の影響も踏まえ、アフターコロナを見据えたまちの賑わい創出や、地域の観光資源の発掘、磨き上げが必要。
創出価値	3D都市モデルを活用して、住民や来街者の移動・滞在状況等の人流データを重ね合わせ、都市スケールでの空間の利用状況を可視化することができる。これを踏まえたシミュレーション等を行い、地域に賑わいをもたらす空間設計のEBPMが可能となるほか、地域の景観やビジョンをVR空間上に再現し、今後のまちづくりの検討資料として用いたり、地域の魅力を発信したりすることも期待される。
事前調査等	・ 都市計画基本図更新 ・ 航空測量
3D都市モデル整備・更新	・ 3D都市モデル更新（LOD1） ・ 3D都市モデル更新（LOD2） ・ 3D都市モデル整備（LOD3）
ユースケース開発	デジタルツイン環境構築事業
推進事業	—
総事業費（予定）	14,550（万円） ※うちR5年度 6,760（万円）
R5年度補助額	3,380（万円）
補助対象外の関連事業	・ 防災マップの作成・GIS化（防災・安全交付金） ・ 統合型GISの改修
オープンデータ化・可視化・情報発信	・ G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル／UCデータ】 ・ 人流シミュレーション動画を玉名市ホームページに掲載【UC-win/Road】
R5年度委託事業者	株式会社パスコ（データ整備・更新） 国際航業株式会社（データ整備／ユースケース開発）



IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

19.熊本県玉名市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	その他 その他	109km <sup>2</sup> 1.36km <sup>2</sup>	R2年度整備済 (R5年度一部更新)
LOD1	建築物 交通（道路） 地形	その他 その他	109km <sup>2</sup> 1.36km <sup>2</sup>	R2年度整備済 (R5年度一部更新)
LOD1	都市計画決定情報 土地利用 災害リスク	市全域	152.6km <sup>2</sup>	R2年度整備済
LOD2.0	建築物	都市機能誘導区域	1.36km <sup>2</sup>	R5年度更新

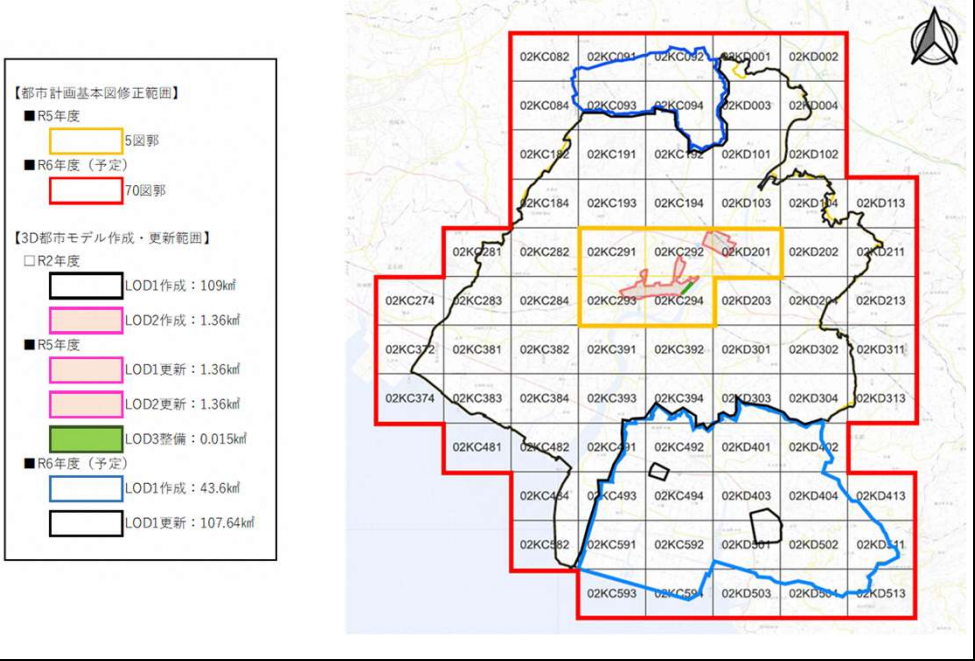
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	水部	玉名市高瀬裏川河川 緑地	0.015km <sup>2</sup>	R5年度新規整備
LOD3.0	建築物 都市整備 植生 地形 橋梁	玉名市高瀬裏川河川 緑地	0.015km <sup>2</sup>	R5年度新規整備
LOD3.2	道路 徒歩道	玉名市高瀬裏川河川 緑地	0.015km <sup>2</sup>	R5年度新規整備

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5－15万	100－200	2－3千



■ 3D都市モデル整備エリア図



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図(修正)	R5年度～R6年度	2,500
測量成果	新規測量(航空写真)	R5年度	2,500
測量成果	新規測量 (手持ち式レーザースキャナ)	R5年度	—
属性情報	都市計画基礎調査(既存)	R4年度	—

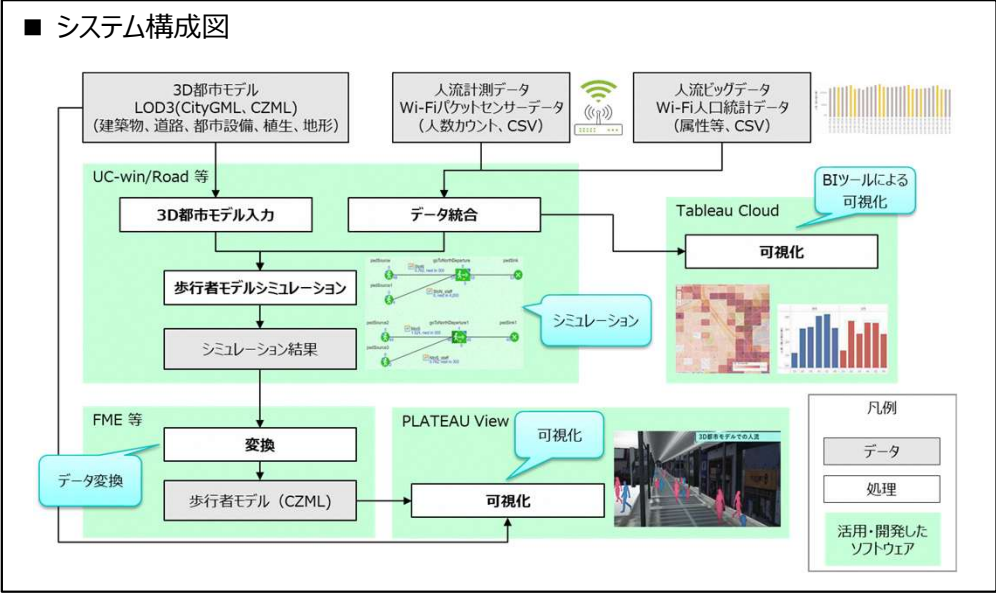
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

19.熊本県玉名市

■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	デジタルツイン環境構築事業
目的	公園内に設置した人流センサーから取得した計測データを加工し、3D都市モデル上に詳細に再現することでデジタルツイン環境を構築し、地物(都市設備、植生等)の配置最適化や施策反映のためのシミュレーション等への活用を目的とする。
取組内容	各種デジタルトランスフォーメーションを推進するため、LOD3で作成した公園の3D都市モデル上で人流計測のデータを可視化して、施設の配置最適化や施策のシミュレーション等に活用できる環境を構築する。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5 - 15万	100 - 200	2 - 3千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD3.0 (名称)</li><li>道路LOD3.2 (舗装種別 (アスファルト、コンクリート、土系舗装、木質系舗装 等)、用途 (道路橋、園路、木橋、渡り廊下、草地 等))</li><li>都市設備LOD3.0 (区分、種類)</li><li>植生LOD3(植生の主な樹種 (低木、地被植物、草花、不明)、植生の種類 (花菖蒲などの指定した種類のみ))</li><li>地形LOD3</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>人流計測データ(位置)</li><li>Wi-Fi人口統計データ(性別・年代別10歳刻み12区分 (10代~60代以上)、推定居住地、推定就業地)</li></ul>
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>Wi-Fiパケットセンサーによる人流計測データと、スマホアプリ等で取得される人流ビッグデータを組み合わせることで、公園来訪者の属性 (性別、年代、居住地等) を付与した分析データとする。</li><li>公園3Dモデル上に推計・補正処理を行った人流データを投入し、3D空間上の椅子や東屋などの障害物を避けたり、木道や橋の上を歩いたりするなどのルールに従って歩行者モデルを作成。</li></ul>
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"><li>BIツールによる人流ビッグデータ可視化。</li><li>公園LOD3モデルの「PLATEAU VIEW」での一般公開。</li><li>イベント期間中の歩行者モデルデータ (CZML形式) の「PLATEAU VIEW」での一般公開。</li><li>イベント期間中の歩行者モデルデータ (CZML形式) のUC-win/Roadでの可視化。</li></ul>
オープンデータ化情報発信	人流シミュレーション動画を玉名市ホームページに掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
施策立案の効率化 (%)	50%(R5年度)	88%(R5年度)
エリア滞留人数の増加 (人数)	対R5年度10%増 (R6年度)	対R5年度13%増 (R6年度)

IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

19. 熊本県玉名市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5－15万	100－200	2－3千



■ ユースケース開発成果イメージ図



しょうぶ祭りが開催される高瀬裏川水際緑地を精緻な3D都市モデル（建築物、道路、徒歩道、橋梁等）をLOD3で構築した。

Wi-Fiプローブ機器を用い、計測した人流データを3D都市モデルへの可視化を実施した。  
EBPMによる人流利活用を図る。

■ 今後の展望

今回整備したLOD3を活用したメタバース実証実験事業を行い、メタバース空間を利用した新たな関係人口の取り組みを考えていきたい。  
R4年度に実施した3D避難シミュレーションVR制作業務の拡張及びブラウザ対応を考えていきたい。

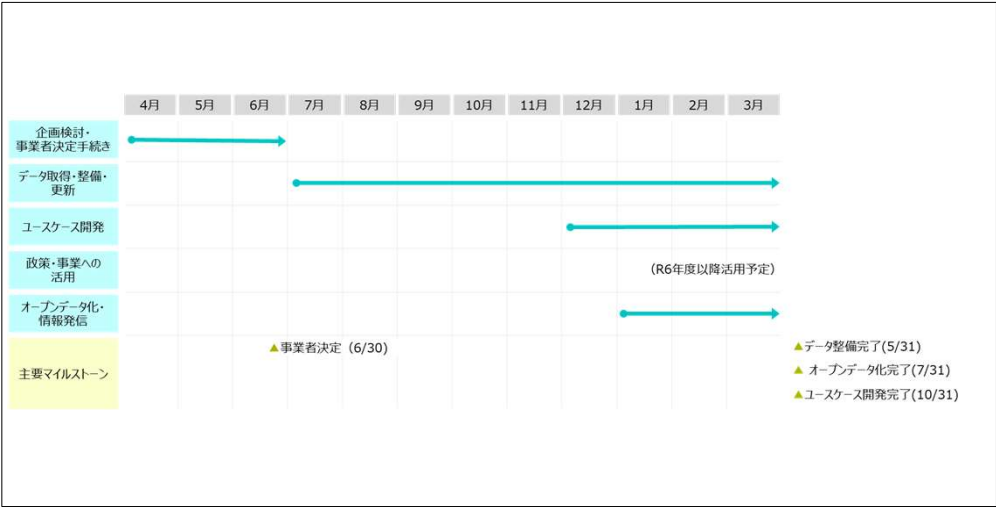
Ⅳ. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

20.大分県臼杵市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	34,296人（令和5年4月時点）
市域全域面積	291.20km <sup>2</sup> （令和5年4月時点）
主な産業 地域課題等	臼杵市は大分県南東部に位置する地方都市で、基幹産業である醸造業、造船業を中心とする地域資源を活かした伝統的産業によって地域経済が支えられてきた。また、温暖多雨な気候を生かした農業も盛んであるとともに、味噌・醤油・酒造りなどの醸造業や、質素倹約の中で知恵を絞って生まれた郷土料理などの多様な食文化が発展し、令和3年にはユネスコ創造都市ネットワーク（食文化分野）の加盟認定を受けている。3D都市モデルを活用し災害リスクを可視化することで、災害に強いまちづくりを促進する。

■ 令和5年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	3－5万	200－500	1－2千

担当部局	都市デザイン課
------	---------



■ 補助事業実施項目

目標	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>立地適正化計画の居住誘導区域及び防災指針策定作業における浸水想定区域等の可視化が急務。</li><li>都市計画の用途地域や道路の見直し、景観計画、国土強靱化地域計画、立地適正化計画等の改訂作業を連携して行う必要がある。</li></ul>
創出価値	<ul style="list-style-type: none"><li>立地適正化計画策定において、3D化された災害、土地、建築物等の情報を有意に活用し、災害リスクを可視化する。</li><li>立地適正化計画策定後の説明責任を効果的に果たせるようになるとともに、今後の各種防災施策の連携が向上する。</li></ul>
事前調査等	<ul style="list-style-type: none"><li>都市計画基本図の修正</li></ul>
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデル整備事業（LOD1）</li><li>3D都市モデル整備事業（LOD2）都市機能誘導区域（予定）の一部</li></ul>
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業</li></ul>
推進事業	—
総事業費（予定）	2,724.7（万円）
R5年度補助額	1,178.8（万円）
補助対象外の関連事業	<ul style="list-style-type: none"><li>都市計画GISシステムの更新</li></ul>
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】</li><li>PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】</li><li>PLATEAU VIEWのURLを臼杵市ホームページに掲載</li></ul>
R5年度委託事業者	株式会社パスコ（データ整備/ユースケース開発）



IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

20.大分県臼杵市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	臼杵市都市計画区域	48.22km <sup>2</sup>	R5年度新規整備
LOD2	建築物	都市機能誘導区域（予定）の一部	0.31km <sup>2</sup>	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R5補助対象地物

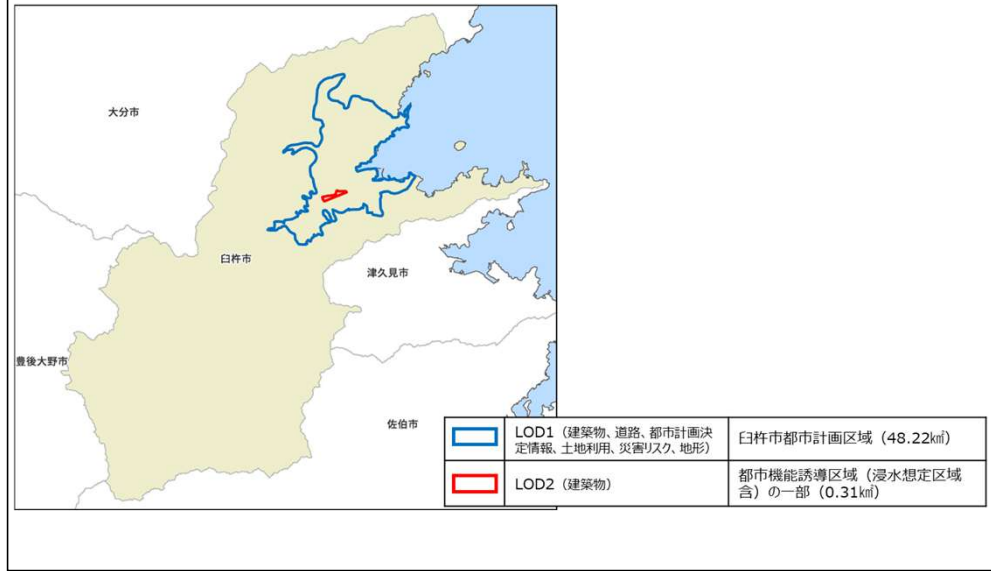
LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	立地適正化計画データ	都市機能誘導区域 居住誘導区域	1.573km <sup>2</sup> 4.368km <sup>2</sup>	R5年度新規整備

※R5補助対象地物については赤字にて記載

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	3－5万	200－500	1－2千



■ 3D都市モデル整備エリア図



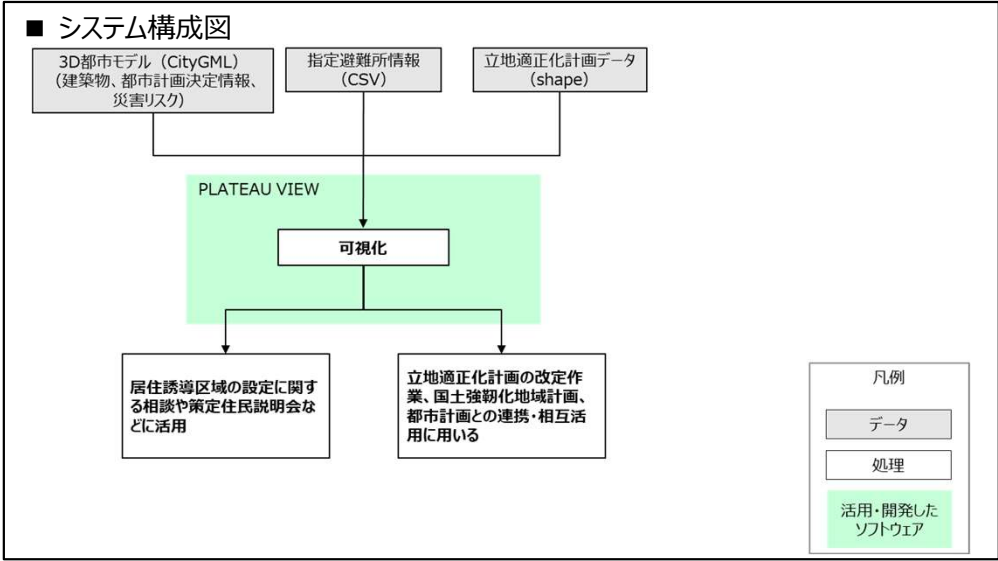
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R5年度	2,500レベル
測量成果	既存資料（航空写真）	R2年度	1,000レベル
属性情報	都市計画基礎調査（修正）	R5年度	—

IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

# 20.大分県臼杵市

■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	立地適正化計画の居住誘導区域及び防災指針策定中に課題となっている「浸水想定区域」等を可視化し、策定後の説明責任を効果的に果たすとともに、今後の各種防災施策の連携を向上させる。
取組内容	浸水想定区域を取り込んだ3D都市モデルによって、災害リスクを三次元で可視化し、居住誘導区域の設定に関する相談や策定住民説明会などに活用するとともに、立地適正化計画の改定作業、国土強靱化地域計画、都市計画との連携・相互活用に用いる。



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	3－5万	200－500	1－2千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>建築物LOD1・2(名称、計測高さ、用途、階数、構造)</li><li>都市計画決定情報LOD1(区域名称)</li><li>災害リスクLOD1(洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域、津波浸水想定、高潮浸水想定区域)</li></ul>
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"><li>指定避難所情報(避難所名称、所在地、災害種類)</li><li>立地適正化計画データ(居住誘導区域、都市機能誘導区域)</li></ul>
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"><li>3D都市モデル（建築物、都市計画決定情報、災害リスク）と指定避難所情報や立地適正化計画データを重畳することで災害リスクの高い建築物や区域等を可視化</li></ul>
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"><li>居住誘導区域の設定に関する相談や住民説明会などに活用する。</li><li>立地適正化計画の改定作業、国土強靱化地域計画、都市計画との連携・相互活用に用いる。</li></ul>
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>PLATEAU VIEWのURLを臼杵市ホームページに掲載。</li><li>ユースケースデータをPLATEAU VIEWに掲載。</li></ul>

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
市職員を対象とした3D都市モデル活用説明会における参加者の理解度（%）	80%(R6年度)	86%
3D都市モデルを活用した各種委員会や市民説明会などでの参加者の理解度（%）	50%(R6年度) 80%(R7年度)	令和7年度 計測予定

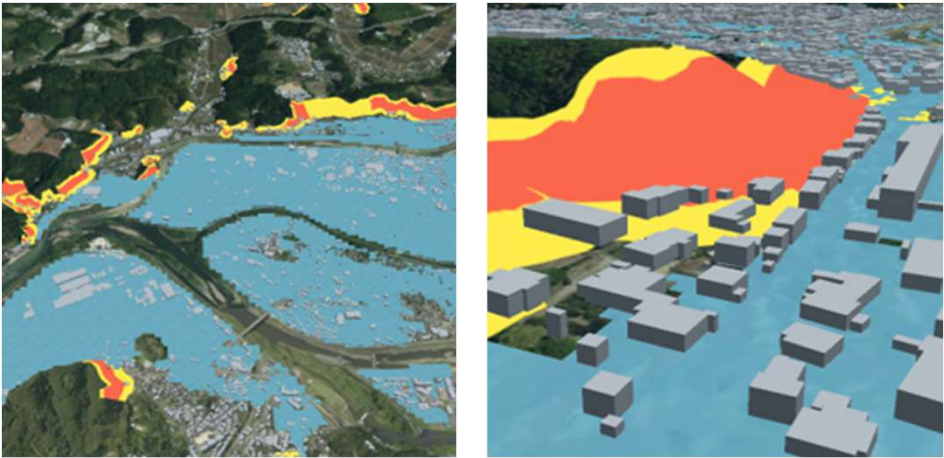
IV. 令和5年度採択団体 フォローアップ調査

20.大分県臼杵市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	3－5万	200－500	1－2千



■ ユースケース開発成果イメージ図



- PLATEAU VIEWを用いて各種災害リスクデータを三次元化し、浸水想定区域等に隣接する都市機能誘導区域や居住誘導区域をリアリストックに表現する。
- 各種データを重畳することで災害リスクの高い建築物や区域等が可視化される。

■ 今後の展望

居住誘導区域の設定に関する相談や策定住民説明会などに活用するとともに、立地適正化計画の改定作業、国土強靱化地域計画、都市計画との連携・相互活用に用いる。

また、今回は防災に関するユースケースにとどまっているが、今後は観光や地域活性化にも活用していきたい。